

志布志市埋蔵文化財発掘調査報告書（13）

東九州自動車道建設（志布志 I C～鹿屋串良 J C T間）に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

じ　　ご
次　五　遺　跡

2018年3月

鹿児島県志布志市教育委員会

序 文

本書は、東九州自動車道（志布志 IC～鹿屋串良 JCT）建設に伴い、平成 26 年度と平成 27 年度に実施した、志布志市有明町に所在する次五遺跡の発掘調査報告書です。

次五遺跡では旧石器時代細石刃文化期の遺物と縄文時代の遺物や遺構が見つかりました。

旧石器時代の成果として、宮崎平野部を中心に認められる特徴的な細石刃核が見つかりました。約 13,000 年よりも前から、この地域が日向地域と関係があったことがうかがえます。

縄文時代の成果として、主に早期前半の土器や石器、そして集石遺構や連穴土坑が見つかりました。石蒸し調理施設と考えられている集石や燻製調理施設と考えられている連穴土坑が見つかったことから、当時の人々がこの地を生活の場として利用していたことがうかがえます。

また、落とし穴が見つかったことから、狩猟の場としても利用していたことも分かりました。さらに前期以降と考えられる落とし穴も見つかったことから、その後もこの地が狩猟の場として利用されていました。

本書が市民の皆様をはじめとする多くの方々に活用され、地域の歴史や文化財に対する関心と御理解をいただくとともに、文化財の普及啓発の一助となれば幸いです。

最後に、調査にあたり御協力いただきました国土交通省九州地方整備局大隅河川国道事務所や鹿児島県教育委員会等の関係各機関ならびに発掘調査や整理・報告書作成に従事・協力していただいた方々に厚く御礼申し上げます。

平成 30 年 3 月

志布志市教育委員会
教育長 和田幸一郎

例 言

- 1 本書は、東九州自動車道（志布志IC～鹿屋串良JCT）建設に伴う次五遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本遺跡は、鹿児島県志布志市有明町野井倉字次五に所在する。
- 3 発掘調査は、国土交通省九州地方整備局大隅河川国道事務所から志布志市教育委員会が受託し、平成26年度と平成27年度に実施した。
- 4 整理作業・報告書作成事業は、主に平成28年度と平成29年度に志布志市埋蔵文化財センターにおいて実施した。
- 5 本書で用いた方位は全て磁北であり、レベル値は国土交通省九州地方整備局大隅河川国道事務所が提示した工事計画図面に基づく、海拔絶対高である。
- 6 掲載遺物番号は通し番号とし、本文・表・挿図・図版の番号は一致する。掲載遺構番号は、遺構の種類ごとに番号を付し、本文・表・挿図・図版の番号は一致する。
- 7 挿図の縮尺は各図面に示した。
- 8 遺跡位置図等の地図は国土地理院発行の1：25,000地形図『志布志』、1：50,000地形図『志布志』、大日本帝国陸地測量部発行の1：50,000地形図（明治35年測量）を利用した。
- 9 発掘調査における実測図作成及び写真撮影は坂元裕樹、相美伊久雄、上田義明が行った。また、空中写真撮影は株式会社ふじたに委託した。
- 10 遺物・遺構の実測・トレース作業は相美と臨時職員が行った。また、遺物分布図・遺構配置図作成にデジタル技術を用いた。
- 11 石器の実測・トレース作業の一部は、株式会社九州文化財研究所に委託し、相美が監修した。
- 12 遺物の写真撮影は鹿児島県立埋蔵文化財センターにおいて、吉岡康弘氏（公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター）が行った。
- 13 本報告に係る自然科学分析について、株式会社加速器分析研究所に遺構内出土炭化物の放射性炭素年代測定を委託した。
- 14 土器付着炭化物の放射性炭素年代測定については、愛媛県久万高原町教育委員会の遠部慎氏より玉稿を賜った。
- 15 本書の執筆・編集は、相美が行った。
- 16 出土遺物及び図面・写真の記録類は志布志市教育委員会で保管し、展示・活用する予定である。なお、遺物注記の略号は「JGO」である。

凡 例

- 1 本書で用いた遺構記号は、文化庁文化財部記念物課監修『発掘調査のてびき』（2010年刊行）に準拠し、以下のとおりである。なお、遺構番号は遺構の種類ごとに、それぞれ検出された順に通し番号を付し、報告書まで固定している。
SK：落とし穴・連穴土坑・土坑
SS：集石遺構
SU：磨石集積遺構・配石遺構
- 2 本書の遺構配置図と遺物分布図は、1グリッド（1マス）が10m四方であり、各図に縮尺を提示している。
- 3 土層と土器の色調は『新版標準土色帳』に準拠した。
- 4 土器の表面に炭化物が付着しているものについては、断面図に矢印でその範囲を示した。
- 5 土器の胎土観察には、実体顕微鏡を用いた。
- 6 土器観察表で用いる鉱物・岩石の種類は、以下のとおりである。
「石/長」：石英・長石類で、透明・白色不透明を呈するもの
「角/輝」：角閃石・輝石類で、黒色を呈し、柱状のもの
「雲母」：金色の雲母で、薄い層状のもの
「火ガ」：火山ガラスで、黒色や透明・半透明を呈し、泡がはじけたようなもの
「風礫」：風化礫で、白色を呈した小礫状のもの
「く礫」：くされ礫で、赤～赤褐色を呈する小礫状のもの

本文目次

序文		第4章 調査の成果	
例言・凡例		第1節 旧石器時代の調査	19
目次		第2節 縄文時代早期の調査	27
第1章 調査の経過		第3節 縄文時代前期以降の調査	154
第1節 調査に至るまでの経過	1	第4節 弥生時代以降の調査	157
第2節 試掘調査	1	第5章 自然科学分析	158
第3節 本調査	1	第6章 総括	
第4節 整理・報告書作成作業	4	第1節 旧石器時代の調査	163
第2章 遺跡の位置と環境		第2節 縄文時代早期の調査	163
第1節 地理的環境	5	第3節 縄文時代前期以降の調査	166
第2節 歴史的環境	5	第4節 弥生時代以降の調査	166
第3章 調査の方法		写真図版	167
第1節 発掘調査の方法	9	報告書抄録	
第2節 地形と層位	12		

挿図・表目次

第1図 遺跡位置及び周辺遺跡	8	第24図 縄文早期連穴土坑位置図	33
第2図 周辺環境の変遷	8	第25図 縄文早期土坑位置図(第1・2エリア)	35
第3図 グリッド図及び試掘トレンチ位置図	11	第26図 第1エリア土坑(1)	37
第4図 10層上面地形測量図	12	第27図 第1エリア土坑(2)	38
第5図 土層柱状図	13	第28図 第1エリア土坑(3)	39
第6図 土層断面図(1)	14	第29図 第1エリア土坑(4)・第2エリア土坑(1)	40
第7図 土層断面図(2)	15	第30図 第2エリア土坑(2)	42
第8図 土層断面図(3)	16	第31図 第2エリア土坑(3)	43
第9図 土層断面図(4)	17	第32図 第2エリア土坑(4)	44
第10図 土層断面図(5)	18	第33図 第2エリア土坑(5)・第3エリア土坑(1)	45
第11図 旧石器時代遺物石材別分布図	20	第34図 縄文早期土坑位置図(第3・4エリア)	47
第12図 旧石器時代遺物器種別分布図	21	第35図 第3エリア土坑(2)	48
第13図 1ブロック出土遺物	22	第36図 第3エリア土坑(3)・第4エリア土坑	49
第14図 2ブロック出土遺物	23	第37図 縄文早期集石遺構位置図(第1・2エリア)	53
第15図 ブロック外出土遺物	24	第38図 第1エリア集石(1)	55
第16図 縄文早期遺構配置図	27	第39図 第1エリア集石(2)	56
第17図 縄文早期落とし穴(1)	28	第40図 第1エリア集石(3)	57
第18図 縄文早期落とし穴位置図	29	第41図 第1エリア集石(4)	58
第19図 縄文早期落とし穴(2)	29	第42図 第1エリア集石(5)	60
第20図 縄文早期落とし穴(3)	30	第43図 第1エリア集石(6)	61
第21図 縄文早期落とし穴(4)	31	第44図 第1エリア集石(7)	62
第22図 縄文早期連穴土坑(1)	32	第45図 第1エリア集石(8)・第2エリア集石(1)	63
第23図 縄文早期連穴土坑(2)	33	第46図 第2エリア集石(2)	64

第47図	第2エリア集石(3)	65	第93図	18類土器	116
第48図	第2エリア集石(4)	67	第94図	17類・18類土器分布図	117
第49図	第2エリア集石(5)	68	第95図	19類・20類土器分布図	117
第50図	第2エリア集石(6)	69	第96図	19類・20類土器	118
第51図	第2エリア集石(7)	70	第97図	21類土器	119
第52図	第2エリア集石(8)	71	第98図	22類土器	120
第53図	第2エリア集石(9)	72	第99図	掲載土器分布図(1)	121
第54図	第2エリア集石(10)	74	第100図	掲載土器分布図(2)	122
第55図	第2エリア集石(11)・第3エリア集石(1)	75	第101図	掲載土器分布図(3)	123
第56図	縄文早期集石遺構位置図(第3・4エリア)	76	第102図	掲載土器分布図(4)	124
第57図	第3エリア集石(2)	77	第103図	掲載土器分布図(5)	125
第58図	第3エリア集石(3)	78	第104図	掲載土器分布図(6)	126
第59図	第3エリア集石(4)・第4エリア集石	80	第105図	縄文早期石器分布図	131
第60図	磨石集積遺構・配石遺構	85	第106図	縄文早期石器石材別分布図(1)	132
第61図	磨石集積遺構及び配石遺構出土石器	85	第107図	縄文早期石器石材別分布図(2)	133
第62図	縄文早期磨石集積遺構・配石遺構位置図	86	第108図	縄文早期石器器種別分布図(1)	134
第63図	縄文早期土器分布図	87	第109図	縄文早期石器器種別分布図(2)	135
第64図	1類・2類・3類・12類土器分布図	88	第110図	縄文早期石器(1)	138
第65図	4類・5類土器分布図	88	第111図	縄文早期石器(2)	139
第66図	1類・2類土器	89	第112図	縄文早期石器(3)	140
第67図	3類・4類土器	90	第113図	縄文早期石器(4)	141
第68図	4類・5類土器	91	第114図	縄文早期石器(5)	142
第69図	6類・7類・8類土器分布図	92	第115図	縄文早期石器(6)	143
第70図	6類土器	93	第116図	縄文早期石器(7)	144
第71図	6類・7類・8類土器	94	第117図	縄文早期石器(8)	145
第72図	9類土器	95	第118図	縄文早期石器(9)	146
第73図	9類・11類・13類土器分布図	97	第119図	縄文早期石器(10)	147
第74図	10類土器分布図	97	第120図	掲載石器分布図(1)	148
第75図	10類土器(1)	98	第121図	掲載石器分布図(2)	149
第76図	10類土器(2)	99	第122図	掲載石器分布図(3)	150
第77図	10類土器(3)	100	第123図	掲載石器分布図(4)	151
第78図	10類土器(4)	101	第124図	縄文前期以降落とし穴(1)	154
第79図	10類土器(5)	102	第125図	縄文前期以降落とし穴(2)	155
第80図	10類・11類・12類・13類土器	103	第126図	縄文前期以降落とし穴位置図	156
第81図	14類土器分布図	105	第127図	弥生時代以降遺物	157
第82図	15類・16類土器分布図	105			
第83図	14類土器(1)	106			
第84図	14類土器(2)	107			
第85図	14類土器(3)	108	第1表	周辺遺跡地名表	7
第86図	14類土器(4)	109	第2表	ブロック別石器組成表	25
第87図	14類土器(5)	110	第3表	旧石器時代石器観察表(1)	25
第88図	14類土器(6)	111	第4表	旧石器時代石器観察表(2)	26
第89図	15類土器(1)	112	第5表	落とし穴観察表	28
第90図	15類土器(2)	113	第6表	連穴土坑観察表	34
第91図	15類・16類・17類土器	114	第7表	土坑観察表(1)	50
第92図	17類・18類土器	115	第8表	土坑観察表(2)	51

第9表	集石観察表(1)	81	第17表	縄文土器観察表(4)	129
第10表	集石観察表(2)	82	第18表	縄文土器観察表(5)	130
第11表	集石観察表(3)	83	第19表	縄文石器観察表(1)	137
第12表	集石観察表(4)	84	第20表	縄文石器観察表(2)	152
第13表	磨石集積・配石遺構出土石器観察表	86	第21表	縄文石器観察表(3)	153
第14表	縄文土器観察表(1)	120	第22表	落とし穴観察表	156
第15表	縄文土器観察表(2)	127	第23表	弥生時代以降遺物観察表	157
第16表	縄文土器観察表(3)	128	第24表	縄文早期石器組成表	165

写真図版目次

図版1	遺跡遠景(北西から)	167	図版6		172
図版2		168	①連穴土坑1号完掘		
①B-12区北壁			②土坑11号完掘		
②C-16区西壁			③土坑22号半裁		
③D-3区作業風景			④土坑24号半裁		
④D-1・2区南壁			⑤土坑29号半裁		
⑤E-4~6区南壁			⑥土坑33号完掘		
⑥C・D-22区西壁			⑦土坑9号半裁		
⑦B・C-18・19区北壁			⑧土坑93号半裁		
図版3		169	図版7		173
①・②B-2区11a層遺物出土			①土坑45号検出		
③D-2区9層遺物・礫出土			②土坑45号完掘		
④D・E-7・8区9層礫出土			③土坑100号半裁		
⑤B・C-16・17区9層礫出土			④土坑50号半裁		
⑥C・D-14・15区9層礫出土			⑤土坑50号完掘		
⑦E・F-13・14区9層礫出土			⑥C~E-2・3区10層上面		
⑧D~F-9・10区9層礫出土			図版8		174
図版4		170	①E・F-13区石器集中部		
①落とし穴1号検出			②E-11区石器集中部		
②落とし穴1号埋土			③集石4号検出		
③落とし穴1号裁ち割り			④集石18号検出		
④落とし穴2号半裁			⑤集石13号検出		
⑤落とし穴2号裁ち割り			⑥集石7号検出		
⑥落とし穴3号半裁			⑦集石23・24号検出		
⑦落とし穴3号裁ち割り			図版9		175
図版5		171	①集石35号検出		
①落とし穴4号半裁			②集石29・30号検出		
②落とし穴4号完掘			③集石31号検出		
③落とし穴4号裁ち割り			④集石44号検出		
④連穴土坑2号検出			⑤集石45号検出		
⑤連穴土坑2号完掘			⑥集石43号掘り込み検出		
⑥連穴土坑3号半裁			⑦集石40号検出		
			⑧集石59号検出		

図版10	176	図版15	旧石器時代遺物(1)	181
①集石66号検出		図版16	旧石器時代遺物(2)	182
②集石65号検出		図版17	1類・2類・12類土器	183
③集石67号検出		図版18	4類・5類土器	184
④集石69・70号検出		図版19	6類・7類土器	185
⑤集石74号検出		図版20	9類土器	186
⑥集石75・76・77号検出		図版21	10類・13類土器	187
⑦集石70号掘り込み検出		図版22	10類土器	188
⑧集石80号検出		図版23	10類・14類土器	189
図版11	177	図版24	14類土器(2)	190
①集石78号検出		図版25	14類土器(3)	191
②集石81号検出		図版26	15類土器	192
③集石84号検出		図版27	16類・17類・18類土器	193
④集石87号検出		図版28	19類・20類・22類土器	194
⑤集石89・90号検出		図版29	縄文早期石器(1)	195
⑥集石97号検出		図版30	縄文早期石器(2)	196
⑦集石100・101号検出		図版31	縄文早期石器(3)	197
図版12	178	図版32	縄文早期石器(4)	198
①D・E-8・9区集石群検出				
②集石112号検出				
③集石116号検出				
④集石117号検出				
⑤集石129号掘り込み完掘				
⑥集石119号検出				
⑦集石33号半裁				
⑧集石27号半裁				
図版13	179			
①集石122号検出				
②集石122号半裁				
③磨石集積1号検出				
④磨石集積2号検出				
⑤配石1号検出				
⑥配石3号検出				
⑦落とし穴5号検出				
⑧落とし穴5号裁ち割り				
図版14	180			
①落とし穴6号半裁				
②落とし穴6号埋土				
③落とし穴6号裁ち割り				
④落とし穴6号逆茂木痕検出				
⑤落とし穴7号検出				
⑥落とし穴7号半裁				
⑦落とし穴7号裁ち割り				
⑧落とし穴7号逆茂木痕検出				

第1章 調査の経過

第1節 調査に至るまでの経過

志布志市教育委員会（以下、市教委）は、文化財の保護・活用を図るため、各開発関係機関との間で、事業区域内における文化財の有無及びその取り扱いについて事前に協議し、諸開発との調整を図っている。

日本道路公団九州支社鹿児島工事事務所は、東九州自動車道の建設を計画し、志布志IC～末吉財部IC区間の事業の実施について鹿児島県教育庁文化財課（以下、県文化財課）に照会した。

この照会に伴い県文化財課は、平成11年1月に鹿屋串良JCT～末吉財部IC間を、平成12年2月に志布志IC～鹿屋串良JCT間の埋蔵文化財の分布調査を実施し、50か所の遺跡が存在することが明らかとなった。その時点では、次五遺跡は周知されなかったものの、その後実施された平成11年度の農政分布調査において発見されている。

その後、日本道路公団民営化（現在の西日本高速道路株式会社）の閣議決定と新直轄方式に基づく道路建設の確定、平成15年11月に暫定2車線施工に伴う議事確認書締結、同年12月に大隅IC（平成21年4月28日、「曾於弥五郎IC」へ名称変更）から末吉財部IC間の発掘調査協定書締結、平成16年3月に国土交通省九州地方整備局長、日本道路公団九州支社長、鹿児島県知事の間で新直轄方式施工に伴う確認書締結が行われ、工事は日本道路公団が国土交通省から受託し、発掘調査は日本道路公団が鹿児島県に委託することとなり、これまでの確認書、協定書はそのまま継続することになった。ただし、日本道路公団からの委託は曾於弥五郎ICまでで終了し、曾於弥五郎ICからの先線部は国土交通省からの受託事業となった。

平成24年度、国土交通省は、平成25年度から東九州自動車道（志布志IC～鹿屋串良JCT間）の建設工事をさらに推進する意向を示し、発掘調査期間の短縮を県文化財課へ要請してきた。さらに、志布志市にも発掘調査の委託を要請してきた。

このような状況に対応するため、県文化財課、市教委、国土交通省九州地方整備局大隅河川国道事務所（以下、大隅河川国道事務所）の三者で協議を行った。その結果、次五遺跡については、市教委が大隅河川国道事務所の委託を受けて本調査を実施することになった。

次五遺跡の調査について、試掘調査は平成24年度に、県文化財課と県立埋蔵文化財センターが市教委の協力や大隅河川国道事務所の立会のもと実施した。本調査は、平成26・27年度に市教委が実施した。

第2節 試掘調査

詳細な遺跡範囲及び遺物包含層の状況などを把握するために、平成24年10月24日に試掘調査を行った。

調査方法は、計画路線内に2×3mを主とするトレンチを5か所設定し、重機にて掘り下げを行った。その結果、縄文時代早期の遺物包含層が確認された。

試掘調査の調査体制は以下のとおりである。

調査体制（平成24年度）

事業主体	国土交通省九州地方整備局大隅河川国道事務所
調査主体	鹿児島県教育委員会
企画・調整	鹿児島県教育庁文化財課
調査担当	鹿児島県教育庁文化財課 文化財主事 中村 和美 鹿児島県立埋蔵文化財センター 文化財主事 松下 建生 文化財研究員 今村 結記
立会者	国土交通省九州地方整備局 大隅河川国道事務所調査第三課 専門職 杵田 正文
協力者	志布志市教育委員会生涯学習課 主任主査 相美伊久雄

第3節 本調査

本調査は平成26・27年度の2か年にわたり実施した。各年度の調査体制及び調査の具体的経過は以下のとおりである。調査の具体的経過は、日誌抄を月毎に集約して記載する。

調査の体制（平成26年度）

事業主体	国土交通省九州地方整備局大隅河川国道事務所
調査主体	志布志市教育委員会
調査責任者	志布志市教育委員会 教育長 和田幸一郎
調査事務局	生涯学習課長 樺山 弘昭
	文化財管理室長 若松 利広
	埋蔵文化財係長 上田 義明
	主任主査 大窪 祥晃
調査担当	主任主査 相美伊久雄
	主事補 坂元 裕樹
調査指導	南九州縄文研究会会長 新東 晃一

調査の具体的経過

平成26年度の本調査は、平成26年5月7日から平成26年12月24日（実働120日）まで実施した。

調査対象面積は4,500㎡、延面積は6,500㎡である。当初、表面積（延面積）6,900㎡を対象に調査を行う予定であったが、遺物包含層が1枚増加し、さらに調査範囲が広がったために変更となった。

【5月】

営繕用地・駐車場整地作業、コンテナハウス設置、電気・水道引込工事などの環境整備。グリッド設定。

B～E-1～5区の重機による表土～7層（アカホヤ火山灰層）掘り下げ。調査範囲の東端から剥ぎ取り開始。当初遺物包含層としていなかった8層から被熱破砕礫や土器が出土したため、7層下部を残した状態で重機による掘り下げを行う。B・C-3区7層下位において落とし穴を検出。

B～E-1～4区8・9層の調査（掘り下げ、遺物取上、写真撮影）、集石検出。

落とし穴・集石の調査（掘り下げ、写真撮影、実測）。

【6月】

B～E-1～4区9層の調査、集石検出。10層（薩摩火山灰層）上面において遺構精査、土坑・集石検出。落とし穴・集石の調査。

当初調査範囲から外れていた谷地形のC・D-3～6区にも遺物出土が広がる可能性が出てきたため、大隅河川国道事務所と県文化財課を含めた三者で協議を行った結果、調査範囲が広がることになった。追加調査範囲の重機による表土～7層の掘り下げ開始。

【7月】

追加調査範囲の重機による表土～7層掘り下げ。D-3区7層下位において落とし穴を検出。

B～D-1～4区9層の調査、集石検出。10層上面遺構精査、土坑・集石検出。落とし穴・集石の調査。

追加調査区の斜面傾斜が大きくなってきたので、通路の確保など安全対策を入念に行った。

C～E-7～9区の重機による表土～7層掘り下げ。

【8月】

C・D-2・3区9層の調査、集石検出。10層上面遺構精査、土坑・集石検出。集石・土坑の調査。

D・E-7～9区9層の調査。

B～D-1～5区下層確認トレンチ調査、11a層から細石刃核など出土。旧石器時代細石刃文化期の遺物包含層が確認された。

【9月】

B-3・4区9層の調査、集石検出。10層上面遺構精査、土坑・集石検出。B～D-1～4区10層上面コンター図作成。E-2～6区南壁土層断面図作成。土坑・集石の調査。

D・E-7・8区9層の調査。10層上面遺構精査。C～E-5～7区10層上面コンター図作成。

C～E-5～7区の斜面部分は傾斜が大きいため、安全上の理由から人力掘削を断念し、重機による掘り下げを行うことにした。

B～D-14～17区重機による表土～7層掘り下げ。その際、7層上面において遺構精査を行う。B～D-15・17区8・9層の調査、集石検出。

空中写真撮影（26日）。主にB～E-1～7区の撮影を行う。

新東晃一氏による調査指導（30日）、谷部に隣接した遺跡の調査事例や集石の認定方法、出土遺物などについて指導を受けた。

7～9月は蒸し暑く、さらに9層土がかなり硬質なため掘り下げ作業が相当な重労働となった。そのため、寒冷紗の利用やこまめに休息をとる等、健康管理に注意を払った。

【10月】

B～E-13～17区9層の調査、集石・配石遺構検出。10層上面遺構精査、土坑・集石検出。土坑・集石の調査。

C-16区・E-8区下層確認トレンチ調査、遺物出土せず。

【11月】

B～D-13～15区9層の調査、集石検出。10層上面遺構精査、土坑・集石検出。B～D-14～17区10層上面コンター図作成。土坑・集石の調査。

E・F-13～15区の重機による表土～7層掘り下げ、8・9層の調査、集石検出。集石の調査。

B～D-6・7区8・9層の調査、集石検出。

B-15区下層確認トレンチ調査、11a層から遺物出土。そのため、B-15区周辺の11a層の調査を行ったが、遺物は出土せず。

D-14区下層確認トレンチ調査、遺物出土せず。

【12月】

E・F-12～15区9層の調査、集石の検出・調査。10層上面遺構精査、土坑・集石の検出・調査。10層上面コンター図作成。E・F-15区西壁地層断面図作成。

B・C-6・7区の10層上面遺構精査、コンター図作成。B・C-6・7区北壁土層断面図作成。

F-15区下層確認トレンチ調査、遺物出土せず。

調査範囲の埋め戻し、コンテナハウス撤収。

B～E-1～5区で検出した集石や土坑及び旧石器時代細石刃文化期の包含層は来年度調査を行うこととし、平成26年度の調査を終了した。その際、埋め戻しは行わず、遺構検出面全体をブルーシートで覆い、さらに立ち入り禁止看板やロープを使って安全対策を施した。

本調査終了後、文化財保護法第108条及び遺失物法第4条第1項に基づいて、「埋蔵物発見届」（平成27年1

月7日付)を志布志警察署長へ、「発掘調査実施報告書」・「埋蔵文化財保管証」(平成27年1月7日付)を県教育委員会に提出するなど、発掘調査に係る諸手続きを実施した。

調査の体制(平成27年度)

事業主体	国土交通省九州地方整備局大隅河川国道事務所		
調査主体	志布志市教育委員会		
調査責任者	志布志市教育委員会		
	教 育 長	和田幸一郎	
調査事務局	生涯学習課長	樺山 弘昭	
	文化財管理室長	若松 利広	
	埋蔵文化財係長	上田 義明	
	主任主査	大窪 祥晃	
調査担当	埋蔵文化財係長	上田 義明	
		(9月から)	
	主任主査	相美伊久雄	
		(8月まで)	
	主事	坂元 裕樹	
調査指導	愛媛県久万高原町教育委員会生涯学習班		
	学芸員	遠部 慎	

調査の具体的経過

平成27年度の本調査は、平成27年5月7日から平成28年2月10日(実働138日)まで実施した。調査表面積は5,900㎡、延面積は6,900㎡である。

【5月】

営繕用地・駐車場整地作業、コンテナハウス設置、電気・水道引込工事などの環境整備。グリッド設定。

B～D-8～13区の重機による表土～7層掘り下げ。

B～D-12・13区9層の調査、集石検出。10層上面遺構精査、土坑・集石検出・調査。

なお、昨年度の経験から大量の遺物や被熱破砕礫の取上を迅速に行うため、トータルステーションを導入し、また遺構実測を円滑に進めるために、集石の遺構実測の一部を外部委託し(7月から)、調査の効率化を図った。

【6月】

B～D-12・13区9層の調査、集石検出。10層上面遺構精査、土坑・集石検出・調査。

B～D-10・11区9層の調査。

梅雨入りした6月は雨天がとて多く、調査日数の確保に苦労した。

【7月】

A～D-8～11区9層の調査、集石検出。A～C-10～12区10層上面遺構精査、土坑・集石検出。A-11・12区北壁土層断面図作成。土坑・集石の調査。

【8月】

B～D-8・9区9層の調査、集石検出。10層上面遺構精査、土坑・集石検出・調査。コンター図作成。

E・F-10～12区9層の調査、集石検出・調査。

B-9区・D-10区下層確認トレンチ調査、遺物出土せず。

【9月】

E・F-9・10区の重機による表土～7層掘り下げ。

D～F-8～12区9層の調査、集石検出・調査。

B～D-2～4区10層上面遺構精査、土坑検出・調査、コンター図作成。

【10月】

D～F-8～10区9層の調査、集石検出。D～F-8～11区10層上面遺構精査、土坑・集石検出、コンター図作成。土坑・集石の調査。

B・C-1・2区11a層の調査。B～D-2区東壁土層断面図作成。

B・C-18～23区の重機による表土～7層掘り下げ、9層の調査。

【11月】

B・C-20～23区9層の調査、集石検出。B・C-18～21区10層上面遺構精査、落とし穴検出、コンター図作成。B-20～23区北壁土層断面図作成。集石・落とし穴の調査。

【12月】

C・D-17～22区9層の調査、集石検出・調査。

E・F-21・22区9層の調査、10層上面遺構精査、落とし穴検出・調査。

【1月】

D～F-16～21区9層の調査、10層上面遺構精査、コンター図作成。集石の調査。

D・E-22・23区西壁土層断面図作成。

C-8区9層の調査、10層上面遺構精査、コンター図作成。

空中写真撮影(8日)。遠部慎氏調査指導(21・22日)、主に縄文時代早期の押型文土器について指導を受けた。

人力による掘削終了(26日)。調査範囲の埋め戻し、コンテナハウス撤収。

【2月】

B～D-1～5区で検出した集石や土坑の調査が未了であったため、職員のみで対応した。

調査終了後、安全対策や排水対策を行い、国土交通省へ現場を引き渡した。

本調査終了後、文化財保護法第108条及び遺失物法第4条第1項に基づいて、「埋蔵物発見届」(平成28年2月16日付)を志布志警察署長へ、「発掘調査実施報告書」・「埋蔵文化財保管証」(平成28年2月16日付)を県教育委員会に提出するなど、発掘調査に係る諸手続きを実施した。

第4節 整理・報告書作成作業

整理・報告書作成作業は、一部の遺物洗浄と注記及び石器実測委託を発掘作業と並行して行った。

本格的な整理・報告書作成作業は、平成28・29年度に市埋蔵文化財センターにおいて実施した。

平成28・29年度の調査体制及び作業の内容・経過は以下のとおりである。作業の具体的経過は日誌抄を月毎に集約して記載する。

調査の体制（平成28年度）

事業主体	国土交通省九州地方整備局大隅河川国道事務所		
調査主体	志布志市教育委員会		
調査責任者	志布志市教育委員会		
	教育長	和田幸一郎	
調査事務局	〃	生涯学習課長	樺山 弘昭
	〃	文化財管理室長	若松 利広
	〃	埋蔵文化財係長	上田 義明
	〃	主任主査	大窪 祥晃
調査担当	〃	主任主査	相美伊久雄
	〃	主事	坂元 裕樹
調査指導	鹿児島大学埋蔵文化財調査センター		
	特任助教	寒川 朋枝	

作業の具体的経過

- 【4・5月】 遺物洗浄、注記、礫観察（人為的加工の有無）、写真整理。
- 【6月】 遺物洗浄、注記、礫観察、土器分類・台帳作成、石器実測委託準備。
- 【7月】 遺物洗浄、注記、礫観察、土器分類・台帳作成。
- 【8～10月】 遺物洗浄、注記、礫観察、土器接合。
- 【11月】 遺物洗浄、注記、礫観察、土器接合、自然科学分析準備。
- 【12月】 土器接合、遺構図面整理。
- 【1月】 土器接合、コンター図作成。
寒川朋枝氏調査指導（20日）、旧石器時代細石刃文化期の遺物について指導を受けた。
- 【2・3月】 土器分類・台帳作成、遺構図調整・修正。

調査の体制（平成29年度）

事業主体	国土交通省九州地方整備局大隅河川国道事務所		
調査主体	志布志市教育委員会		
調査責任者	志布志市教育委員会		
	教育長	和田幸一郎	
調査事務局	〃	生涯学習課長	若松 利広
	〃	文化財管理室長	岩下 祥二

	〃	埋蔵文化財係長	上田 義明
	〃	主任主査	大窪 祥晃
調査担当	〃	主任主査	相美伊久雄
調査指導	宮崎県都城市教育委員会文化財課		
	副課長	栗畑 光博	
	鹿児島県歴史資料センター黎明館学芸課		
	主査	黒川 忠広	

作業の具体的経過

- 【4月】 土器分類・台帳作成、土器再分類・選別。
- 【5月】 土器選別・実測、石器選別、遺構トレース。
- 【6月】 土器実測、石器実測、遺構トレース。
- 【7月】 土器拓本、石器実測、石器実測委託準備、遺構トレース
- 【8月】 土器拓本、石器実測、遺構トレース、遺構配置図作成。栗畑光博氏・黒川忠広氏調査指導（29日）、縄文時代早期の遺物全般について指導を受けた。
- 【9月】 土器拓本・トレース、遺構トレース。
- 【10月】 土器トレース・復元、石器実測・トレース、原稿執筆。
- 【11月】 土器復元、遺物分布図作成、観察表作成、原稿執筆。
- 【12月】 土器復元、原稿執筆、遺物分布図作成、報告書掲載遺物写真撮影。
- 【1月】 入稿、校正。
- 【2月】 校正、遺物収納。
- 【3月】 印刷・製本。

本遺跡の出土文化財は、文化財保護法第107条に基づいて、「出土文化財譲与申請書」（平成28年9月6日付）を県教育委員会に提出したことにより、県から譲与されている。

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

志布志市は鹿児島県の最東部に位置し、宮崎県都市及び串間市と県境をなす。北は曾於市、南西は大崎町と接し、南は太平洋に向け湾口を開く志布志湾に面する。平成18年1月1日に志布志町・有明町・松山町の三町が合併して誕生した市である。

本市の地形は東から志布志湾に向かって緩やかに傾斜し、海岸近くで急崖となり、わずかな沖積平野を経て海岸線となる。この海岸線は、西側に旧期砂丘・新期砂丘に二分される砂丘海岸が続くのに対し、東側は日南層群で構成される岩礁海岸となる。市の北東部には御在所岳(530.4m)・笠祇岳(444.2m)・陣岳(349.3m)など、日南層群が構成する急峻な山岳地帯がある。

その西側には入戸火砕流が広く分布し、いわゆるシラス台地を形成し、志布志市の主体をなす。「原(ばる)」と呼ばれる比較的平坦な台地であるシラス台地は、南流する前川・安楽川・菱田川など大小の河川の浸食作用による深い浸食谷(「迫(さこ)」)により細かく刻まれ、大小の狭長な台地となっている。

また、このシラス台地からは、北部の霧岳(408.3m)や中央部の岳野山(274.3m)、西部の宇都丘(179.1m)・草野丘(268.4m)など、市北東部同様の日南層群が構成する山岳・丘陵が突き出ている。

前述の三河川の流域には高位・中位・低位の三段の段丘が認められる。段丘崖下からの自然湧水によって低・中位段丘では集落が形成されてきた。一方、高位段丘では地下水位が深いため集落形成が困難であり、「蓬原開田」や「野井倉開田」などのように近～現代に開かれるまでは、畑地として利用されるにとどまっていた。

この地域の地質は古いほうから、日南層群—阿多鳥浜火砕流—夏井層—阿多(夏井)火砕流—旧期ローム層—入戸火砕流—新期火山灰層となる。日南層群は主に頁岩・砂岩の細互層から成り、年代は漸新世～前期中新世とされている。阿多鳥浜火砕流は夏井海岸の一部に認められるもので、23～25万年前とされる。夏井層は下部の貝や植物の化石を含むシルト層と上部の礫層からなる。阿多(夏井)火砕流は黒色を呈する溶結度の低い均質な凝灰岩で、年代は8.5～10.5万年前とされる。入戸火砕流は海岸に沿った地域では海拔40m程のシラス台地を形成する。下部には大隅降下軽石層が存在する。

次五遺跡は安楽川河口から約1.5km上流西岸の「野井倉原」と呼ばれるシラス台地縁部から舌状に突き出た箇所位置する。標高約45mを測り、西から東へ緩やかに傾斜している。眼下には安楽川に合流する小河川が流れている。

第2節 歴史的環境

次五遺跡は平成11年度に実施された農政分布調査で発見された遺跡で、古代の土師器が採集されている。

本遺跡が所在する志布志市には現在約500ヶ所の埋蔵文化財包蔵地が認められている。戦前には大正5(1916)年に六月坂横穴墓群について報告を行った瀬之口伝九郎氏や昭和19(1944)年に出口A遺跡採集の独鈷石を紹介した梅原末治氏の調査研究がある。戦後は、河口貞徳氏・諏訪昭千代氏・小田富士雄氏・上村俊雄氏・酒匂義明氏の学術調査・研究に加え、海老原行秀氏・瀬戸口望氏という志布志町在住の研究者による熱心な調査・研究が行われており、学史上重要な遺跡も多い。

1980年代になると、主に志布志町において圃場整備に伴う発掘調査が行われ、縄文時代の調査事例が増加した。

2000年代には、主に有明町において農道整備に伴う発掘調査が行われ、弥生・古墳時代の様相が明らかとなった。最近では、地域高規格道路(都城志布志道路)や東九州自動車道に伴う大規模な発掘調査が増え、質量ともに充実した資料が追加されている。

本市は現在の行政区分では鹿児島県に属するが、過去は日向国に属しており、明治4(1871)年の廃藩置県後も一時期、都城県や宮崎県に属した歴史もある。したがって、この地域の歴史・文化を考える上で薩摩・大隅だけでなく、日向地方の影響も考慮する必要がある。

旧石器時代

剥片尖頭器・角錐状石器等が出土した中須B遺跡・蕨野B遺跡、細石器が出土した道重遺跡・和田上遺跡などがあるものの、調査事例は少ない。

本遺跡を含め、中原遺跡や和田上遺跡では畦原型細石刃核が出土しており、これらは硬質砂岩や珪質頁岩を利用している。石材の原産地や畦原型細石刃核が濃密に分布する宮崎平野地域との関係を考える上で注目される。

縄文時代

志布志町では瀬戸口氏等の調査によって、「縄文銀座」と呼ばれるほど多数の遺跡が見つかっている。

草創期 学史上重要な東黒土田遺跡がある。隆帯文土器や舟形配石炉、貯蔵穴が見つかっている。特に貯蔵穴から出土した堅果類は日本最古である。鎌石橋遺跡でも隆帯文土器が出土している。

早期 前半期の竪穴建物や集石、連穴土坑が多数検出した倉園B遺跡、塞ノ神A式壺形土器等の良好な資料が出土した夏井土光B遺跡、連穴土坑のトンネル部分に石坂式系土器の完形土器が出土した高吉B遺跡、耳栓が出土した稻荷上遺跡・横堀遺跡など、遺跡数が多い。

本遺跡のように連穴土坑と多数の集石が検出された

遺跡としては、稲荷迫遺跡や高吉B遺跡、下堀遺跡、横堀遺跡がある。これらの遺跡はシラス台地縁辺部に位置し、被熱破砕礫が多数出土している。立地条件を含め、遺跡利用を考える上で注目される。

前期 曾畑式が出土した別府石踊遺跡、野久尾遺跡、本村遺跡などがあるが、調査事例は少ない。

中期 この時期も調査事例は少ないものの、春日式期の竪穴建物が見つかった前谷遺跡、野久尾式や深浦式・船元式が出土した野久尾遺跡のように重要な遺跡がある。このほか、宇都遺跡や山ノ口遺跡では大平式の良好な資料が出土している。

後期 代表する遺跡として中原遺跡と片野洞穴がある。中原遺跡では在地系の宮之迫式・指宿式と瀬戸内系の中津式・福田KⅡ式・宿毛式の良好な資料が多数出土している。片野洞穴では西平式～御領式期の動物骨や貝殻、釣針やかんざし等の骨角器が出土している。

このほか、中岳Ⅱ式の埋設土器が検出された稲荷迫遺跡、後期のほぼ全ての型式が出土した家野遺跡、独鈷石が見つかった出口A遺跡がある。

晩期 井手上A遺跡や上苑遺跡では入佐式深鉢の埋設土器が見ついている。特に、井手上A遺跡資料は横位状態のもので類例が少なく、注目できる。

小迫遺跡では黒川式期の良好な資料が認められており、クズの葉と推定される木葉痕をもつ組織痕土器が出土している。

弥生時代

縄文時代に比べると調査事例は少ないものの、学史上重要な遺跡が存在する。一つは京ノ峯遺跡で、中期後半の円形・方形周溝墓が多数検出されている。南九州では稀有な墓制であり、近畿・瀬戸内地方の影響が考えられている。

もう一つは土橋遺跡で、明治40(1907)年、中広形銅鉢が見ついている。県内唯一の、さらに本土最南端の発見例である。中期後半に位置づけられるもので、中広形銅矛は高知県中央～西部、豊前～豊後地域に分布が集中することから、豊後水道地域における地域間交流の過程でもたらされた可能性が指摘されている。

稲荷迫遺跡では中前期～中葉の incoming I・Ⅱ 式期の土坑墓が検出された。また、この遺跡では刻目突帯文土器の良好な資料が認められている。刻目突帯文土器が主体を占める遺跡は大隅半島では稀であり、注目される。小迫遺跡で出土した刻目突帯文土器期の可能性がある精製浅鉢からは、イネやエゴマの圧痕が見ついている。

井手上A遺跡では中期中葉の incoming Ⅱ 式期の竪穴建物がみついている。中期後半の山ノ口Ⅱ式期になると竪穴建物の検出例は増加し高吉B遺跡、柳遺跡、長田遺跡、本村遺跡、井手間遺跡、前谷B遺跡がある。

京ノ峯遺跡や高吉B遺跡、稲荷迫遺跡では瀬戸内地域

から搬入された土器が出土している。夏井土光遺跡では柱状片刃石斧が出土している。

古墳時代

集落遺跡は有明町において調査事例が多い。仕明遺跡では中津野～東原式期の、屋部当遺跡では辻堂原～笹貫式期の、長田遺跡では笹貫式期の竪穴建物が見ついている。志布志町でも稲荷迫遺跡で笹貫式期の竪穴建物が見ついている。

市内は笹貫式新段階期の調査事例が多く、宮脇遺跡、安良遺跡、仕明遺跡、上苑A遺跡、中牟田遺跡がある。県内では出土例が少ない6世紀末～8世紀前半頃の須恵器も多数認められており、「謎の7世紀」と呼ばれている南九州の様相を解明する上で、重要な地域である。

古墳は前方後円墳の飯盛山古墳と小牧1号墳、円墳の原田古墳がある。飯盛山古墳は出土した埴輪から中期初め(4世紀後半)、原田古墳は出土した須恵器から中期中頃(5世紀中頃)、そして小牧1号墳は採集された須恵器から後期後半(6世紀後半)に築造された可能性ある。

高塚古墳以外には原田地下式横穴墓や馬場地式横穴墓群がある。また、県内において2例しか認められていない横穴墓が市内には存在していた。それは六月坂横穴墓群であり、明治42(1909)年に旧制志布志中学校敷地整地の際発見されたもので、後期末～奈良時代初め(6世紀後半～8世紀前半)の須恵器などがみついている。

六月坂横穴墓群や志布志湾岸では希少な6世紀代の前方後円墳である小牧1号墳の存在は、後に日向国諸県郡に属することになるこの地域を考える上で注目される。

古代

水ヶ迫横穴墓で須恵器の蔵骨器が見ついている。墨書土器が小迫遺跡、安良遺跡、牧ノ原A遺跡、井手上A遺跡で出土している。製塩土器が野久尾遺跡、宮脇遺跡、稲荷迫遺跡、仕明遺跡など出土している。この時期は調査事例が乏しく、遺跡自体が少ない可能性がある。

中世

この地域は中世において日向国諸県郡救仁院・救仁郷とされた。また志布志の名が史料で確かめられるのは、正和5(1316)年のことで、「日向方島津御庄志布志津大沢水宝満寺敷地…」(『沙弥蓮正打渡状案』)とあり、万寿3(1026)年平季基が開いた島津庄・日向諸県郡一帯の港であったと考えられている。

室町時代以降も国内外航路の要衝として栄えていたようであり、永禄5(1562)年に著された明の海防・倭寇対策書である『籌海図編』巻二(倭国事略)には、薩摩・大隅の港の一つとして記された「審亭署」は志布志とされる。

このような交通の要衝であった志布志を巡って、中世の約400年間に武士興亡の歴史が繰り広げられた場所が国指定史跡の志布志城跡である。

志布志城とは、内城・松尾城・高城・新城の四城の総称である。志布志城は文治5(1189)年頃の救仁院氏の居城に始まって以来、楡井氏・畠山氏・肝付氏・島津氏など数々の領主に変遷した。

平成18(2006)年以降、保存整備目的で継続的に発掘調査が行われており、華南三彩のような中世後期の中国産陶磁器や東南アジア産陶器も出土している。

市内にはこの他、建久(1190~1198)年間に地頭弁済使安楽平九郎為成の居城とされる安楽城跡、文治4(1188)年に平重頼によって築かれたとされる松山城跡、南北朝期(1359年)に救仁郷氏の居城とされる蓬原城跡などが存在する。

中世山城以外の調査事例では、安良遺跡が注目できる。この遺跡では中世前期の備前焼・常滑焼等の国産陶器や白磁・龍泉窯系青磁等の輸入陶磁器が見つまっている。安良遺跡から約1km北に位置する安楽城跡や明治26(1893)年に境内から青白磁四耳壺の蔵骨器や鏡・太刀・青白磁合子などが見つまっている安楽山宮神社を含めて、その歴史的背景が注目されている。このほか、長田遺跡や仕明遺跡で中世墓が見つまっている。

近世

日向国諸県郡志布志郷とされ、東を秋月藩と接することから陸海ともにきわめて重要な郷であった。現在の志布志小学校に地頭仮屋がおかれ、その周辺には武家屋敷が建ち並ぶ「麓」を形成していた。藩米等の集積・積出港であった前川河口には津口番所が置かれていた。藩政末期には琉球を通しての密貿易が行われ、その商人であった中山宗五郎の屋敷は密貿易屋敷と呼ばれていた。

これら地頭仮屋跡・津口番所跡・密貿易屋敷跡は発掘調査が行われ、陶磁器類が出土している。

船迫遺跡では、県内遺跡からは初の出土例となった二分金が見つまっている。

近代

明治4(1871)年の廃藩置県によって、鹿児島県諸県郡志布志郷となり、同年11月には新設の都城県に属した。明治6年には宮崎県の所管に移されたが、明治9年に宮崎県が鹿児島県に編入されるに伴い再び鹿児島県に属することになった。そして、明治16年宮崎県再設置の際は鹿児島県に残り、鹿児島県南諸県郡に属した。

この時期の遺跡では戦争遺跡が注目できる。太平洋戦争末期、連合軍の南九州上陸作戦(オリンピック作戦)を予想した日本軍は志布志湾沿岸に洞窟式の地下陣地を造った。その現存している一つが、権現島水際陣地跡である。また、野井倉台地には昭和20(1945)年に海軍航空隊志布志基地(野井倉飛行場)が建設された。

(参考文献) ※発掘調査報告書は割愛した。

有明町誌編さん委員会 1980『有明町誌』

梅原末治 1944「大隅発見の異形石器」『人類学雑誌』59-7

大木公彦・内村大 2012『夏井海岸の地形・地質調査報告書』志布志市教育委員会

大西智和・鐘ヶ江賢二・松崎大嗣 2012「志布志市有明町原田古墳の測量調査」『鹿児島考古』42 鹿児島県考古学会

志布志町誌編集委員会 1972『志布志町誌』上巻

志布志町教育委員会 1982『志布志の郷土史読本』第2集

志布志町教育委員会 1985『志布志の埋蔵文化財』

山畑敏寛 2009「志布志港の「みなと文化」」『港別みなと文化アーカイブ』

第1表 周辺遺跡地名表

遺跡番号	遺跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	古代	中世	遺跡番号	遺跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	古代	中世	
1	221-111	別府	志布志町安楽字別府		○	○			24	221-389	横堀	有明町野井倉字横堀・下段		○	○	○		
2	221-191	宮脇	志布志町安楽字宮脇・岩下		○	○	○	○	25	221-390	下段C	有明町野井倉字下段・東		○	○			
3	221-192	安良	志布志町安楽字勢園		○		○	○	26	221-391	下段B	有明町野井倉字下段・東			○			
4	221-210	高牧	志布志町安楽字高牧			○			27	221-401	中次A	有明町野井倉字中次			○			
5	221-211	二重堀A	志布志町安楽字二重堀			○			28	221-402	中次B	有明町野井倉字中次			○			
6	221-212	権現原	志布志町安楽字権現原			○			29	221-405	上苑	有明町野井倉字上苑・高吉	○	○	○			
7	221-221	宮内	志布志町安楽字宮内			○	○		30	221-427	平A	有明町野井倉字平・下戸				○		
8	221-235	小牧古墳群	志布志町安楽字小牧				○		31	221-457	坂上	有明町野井倉字坂上・大代					○	
9	221-238	山宮古墳	志布志町安楽字宮下					○	32	221-458	木森	有明町野井倉字木森・田尾		○			○	
10	221-242	水神松	志布志町安楽字水神松				○		33	221-459	鎌迫	有明町野井倉字鎌迫・上苑上			○			
11	221-250	安楽城跡	志布志町安楽字前原					○	34	221-460	上苑上	有明町野井倉字上苑上					○	
12	221-254	金ヶ迫A	志布志町安楽字金ヶ迫			○			35	221-461	甚堀	有明町野井倉字甚堀・上苑上			○			
13	221-281	宮之上	志布志町安楽字宮之上				○		36	221-462	上苑B	有明町野井倉字上苑ほか					○	
14	221-284	安楽小牧	志布志町安楽字小牧		○				37	221-463	下段A	有明町野井倉字下段					○	
15	221-298	金ヶ迫B	志布志町安楽字金ヶ迫			○	○		38	221-466	上苑A	有明町野井倉字上苑ほか	○	○	○	○	○	
16	221-301	二重堀B	志布志町安楽字二重堀			○	○		39	221-483	榎	有明町野井倉字榎ほか	○	○	○			
17	221-313	高吉	有明町野井倉字高吉ほか		○	○			40	221-484	中原	有明町野井倉字中原・前原			○	○		
18	221-354	下水流	有明町蓬原字下水流・宮ノ前			○	○		41	221-485	東原	有明町野井倉字東原			○			
19	221-365	上原A	有明町野井倉字上原・西原			○	○		42	221-486	西原A	有明町野井倉字西原・東原			○			
20	221-383	大代	有明町野井倉字大代ほか		○		○		43	221-488	上原	有明町野井倉字上原ほか			○	○		
21	221-384	平B	有明町野井倉字平・古川					○	44	221-489	中尾	有明町野井倉字中尾・西原迫			○			
22	221-385	次五	有明町野井倉字次五・横堀	○	○			○	45	221-498	稲付	有明町野井倉字稲付・下段			○			
23	221-388	東	有明町野井倉字東・下段			○			46	221-510	尖堀	志布志町安楽字尖堀					○	○

第3章 調査の方法

第1節 発掘調査の方法

1 発掘作業の方法

調査範囲は東九州自動車道建設によって埋蔵文化財に影響が及ぶ範囲である。ただし、隣接する田畑との境は約2m控えている。調査対象面積は10,400㎡、調査対象延面積は13,400㎡である(第3図)。

調査区の基準軸は、建設予定地の工事用基準杭「STA27+60」と「STA28」を結ぶ線を基軸として、南北方向にA～F、東西方向に1～23とする10×10mのグリッドを設定した。グリッドの設定は光波トランシットを用いて、調査担当者が行った。

このグリッドを基にして遺構・遺物の測量作業を行った。また、トータルステーションで測量作業を行う場合、測量座標はF-24区の左下を原点(0,0)とし、縦軸をX、横軸をYとした。

レベルは大隅河川国道事務所から提示された基準点「S3-11」(海拔46.841m)から引用した。基準点から調査区までは、調査担当者がレベル移動を行った。

発掘作業は表土～7層(アカホヤ火山灰層)を重機により除去し、8層から人力(鋤簾・山鍬)により掘り下げを行った。なお、最初に重機による掘り下げを行ったB・C-3区において、縄文時代前期以降の落とし穴を検出したことから、その後は7層上面において遺構精査を行いながら、表土～7層の除去を行った。

人力掘り下げの際、出土遺物が少ない箇所では鋤簾を中心に用い、遺物が集中している箇所はねじり鎌を用いた。

その後、随時下層確認トレンチを設定し、旧石器時代包含層の有無を確認した。確認できた旧石器時代細石刃文化期包含層の調査は、2×2mのメッシュを張り、千鳥格子状に掘り下げ、遺物の出土が認められた箇所を中心に調査範囲を拡張するという方法を用いた。

包含層から出土した遺物や被熱破砕礫は、平成26年度では平板測量(1/50スケール)、平成27年度ではトータルステーションを用いて、番号を付して取上げた。番号を付したものは、包含層出土・遺構内出土合わせて約42,000点である。

小片の土器は先にグリッド毎に一括して取り上げた。被熱破砕礫は、調査の効率化のため、職員が人為的加工痕の有無を先に確認した後、5cm未満のものは現場で破棄した。

遺物出土状況の写真撮影は時期比定可能なものなど、特徴的なものを主な対象とした。なお、遺構調査状況を含め、撮影時に使用したフィルムは35mm判のカラー・白黒・カラーリバーサルの3種類である。

8・9層掘り下げ後、10層(薩摩火山灰層)上面において地形測量を、平板測量及びトータルステーションを用いて行った。

土層断面図は調査区の地形が表現できる箇所を選んで実測した(1/20スケール)。

2 遺構の調査方法

検出した遺構には、落とし穴、連穴土坑、土坑、集石遺構、磨石集積遺構、配石遺構がある。落とし穴、連穴土坑、土坑、そして集石遺構の掘り込みは主に7層上面と10層上面で検出した。当時の掘り込み面に限りなく近いレベルでの検出ができるように調査を行ったが、結果的に判別しやすい地層面での検出が主になった。なお、各遺構の認定方法は第4章において述べる。

落とし穴・連穴土坑・土坑は検出した順に「SK」の略記号を、集石遺構は検出した順に「SS」の略記号を、磨石集積遺構・配石遺構は検出した順に「SU」の略記号を用いた。

これらの遺構は検出状況の写真撮影後、各遺構の長軸にあわせて基準を設定し、掘り下げ、出土遺物の写真撮影・取上げ、土層断面実測・撮影、完掘、完掘状況実測・撮影を行った。

集石の掘り込みや土坑などの掘り下げは半裁法を用い、埋土の違いを比較しながら移植ゴテで行った。落とし穴は底面及び側面の逆茂木痕確認のために断面スライス調査も行っている。

実測は個別に行い(1/10スケール)、出土遺物も遺構毎に番号を付して図面に記録している。集石遺構の礫も番号を付して取り上げた。平成27年度調査では、集石遺構の一部実測を業務委託している。

調査中及び終了後、遺構の検出層や埋土状況、遺構内出土遺物、土層断面等の情報から、遺構の形成時期や性格等の検討を行った。

3 整理作業の方法

図面整理は遺物出土分布図、土層断面図、地形測量図、遺構実測図に区分し、さらに遺構実測図は種類別に仕分けを行い、台帳や遺物との照合及び再確認を行った。

洗浄について、土器・礫石器・礫はブラシを用い、剥片石器は超音波洗浄器を用いて土の除去を行った。

注記は遺跡名を表す「JGO」を頭に、包含層出土遺物は続けて「グリッド区」「層」「取上番号」の順で記入した。遺構出土遺物は「JGO」に続けて「グリッド区」「遺構記号」「取上番号」の順で記入した。なお、旧石器時代遺物や石鏃、剥片等の小型のものについては注記を行っていない。包含層及び遺構内出土の礫については注記を行わず、観察後破棄した。

土器の接合は、既存の土器型式に照らして大きく分類した後、胎土や文様でさらに細分して行った。包含層と遺構間の接合も試みた。接合後、報告書掲載遺物の選別を行い、実測・拓本・トレースを行った。

石器は剥片石器と礫石器に分類後、器種ごとに細分した。石器の接合と集石遺構内出土礫の接合は時間的制約等から断念した。分類後、報告書掲載遺物の選別を行い、実測・トレースを行った。剥片石器の実測・トレースについては、作業の効率化を図るために業務委託を行った。

実測遺物には実測番号を付して作業管理を行った。土器については実測作業と並行して実体顕微鏡を用いた胎土観察を行っている。土器や石器のトレースはロットリングペンを用いた。

遺物出土分布図について、平板測量で取り上げたものはデジタルタイザを用いてデータ化し、トータルステーションで取り上げてデータと統合し、図化ソフトを使用した作成した。遺構配置図と地形図は鉛筆トレースで下図面を作成後、デジタルトレースを行った。遺構図は報告書掲載スケール決定後に、ペントレースを行った。

集石遺構内から炭化物が採取されていたため、放射性年代測定を業務委託した。土器付着炭化物については、平成27年度の調査指導者である遠部慎氏に放射性年代測定を依頼した。

4 出土遺物の分類・選別の方法

(1) 土器

土器はアカホヤ火山灰層下位の8・9層から出土しているため、全て縄文時代早期に比定される。分類は主に既存の型式にあてはめて行った。特徴がない、または小片のために判断できないものは「無文土器」または「条痕文土器」として扱っている。分類の詳細は第4章において述べる。

実測及び報告書掲載遺物の選別について、各類の中で数量が多いものは口縁部や底部など特徴的なものを優先した。小片であっても各類の中で少数のものや時期比定可能なものは選別した。

(2) 石器

石器も土器と同じく8・9層から出土したものは縄文時代早期に比定される。また、B～D-1～4区では薩摩火山灰層下位の11a層から旧石器時代細石刃文化期の石器も認められている。なお、8・9層でも旧石器時代細石刃文化期の石器が出土しており、それらは旧石器時代のものとして報告している。

出土石器は器種ごとに分類し、さらにその器種内で石材分類を行った。詳細は第4章において述べる。

報告書掲載遺物の抽出は器種の中で数量が少ないものはそのほとんどを、数量が多いものは特徴的なものを優先した。

(3) 石材分類

石材分類について、肉眼観察によってある程度石材産地が推定できる黒曜石は細分を行った。チャートも主に色調により細分を行った。

このほか、ギョクズイ、鉄石英、珪質頁岩、水晶、頁岩、砂岩、凝灰岩、花崗岩などが認められる。主な石材の詳細は以下のとおりである。

黒曜石 1 類

透明感があり、不純物を多く含むもの。アメ色～青味がかった灰色を呈する。鹿児島県三船で採取される黒曜石に類似する。

黒曜石 2 類

不純物を多く含み、漆黒で光を通さないもの。鹿児島県上牛鼻などで採取される黒曜石に類似する。

黒曜石 3 類

不純物を含まないもので、アメ色～黒色を呈し、透明感があるもの。鹿児島県桑ノ木津留・上青木などで採取される黒曜石に類似する。

黒曜石 4 類

アメ色～黒色を呈し、不純物を含まない良質なもの。佐賀県腰岳で採取される黒曜石に類似する。

黒曜石 5 類

青灰色を呈し、不純物を少し含むもの。長崎県東浜で採取される黒曜石に類似する。

黒曜石 6 類

灰白色で少し光を通し、黒色の粒状不純物を含むもの。大分県姫島の黒曜石に類似する。

チャート 1 類

基調が白色系の色調を呈するもの。

チャート 2 類

基調が青灰色～緑色系の色調を呈するもの。

チャート 3 類

基調が黒色～黒褐色系の色調を呈するもの。

玻璃質安山岩

元来は黒色を呈するが、風化すると灰白色を呈するもの。不純物をほとんど含まない。

ギョクズイ

珪質分に富み、白色系の色調を呈するもの。

鉄石英

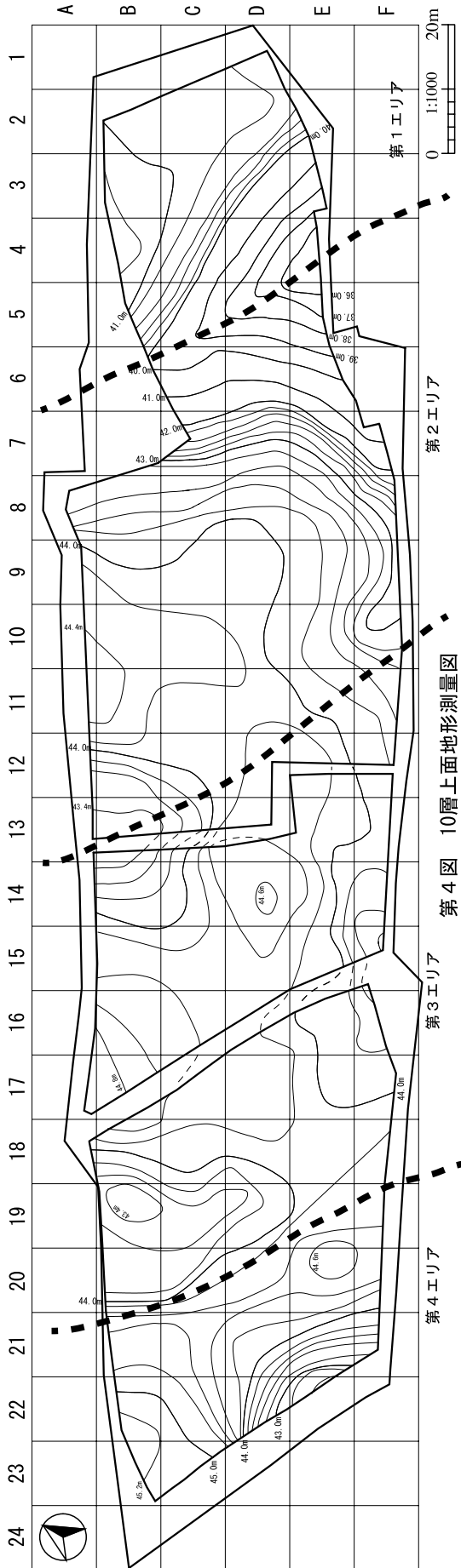
珪質分に富んで透明感がなく、赤色を呈するもの。

珪質頁岩

表面にぬめりをもち、油脂光沢があるもの。黒色及び白色を呈する。



第3図 グリッド図及び試掘トレンチ位置図



第4図 10層上面地形測量図

第2節 地形と層位

1 地形

本遺跡の発掘調査前の状況は、C～E-3～6区の谷地形に雑木林が認められる以外はほぼ平坦な田畑であった。しかし、10層（薩摩火山灰層）上面での地形測量図（第4図）に示したとおり、本来は起伏の大きい地形であったことがわかる。ここでは調査範囲の地形状況を東から順に説明する。

1～5区は4～6区の北西-南東地方に走る谷の東側に位置する地区で、少し傾斜はあるものの全体的には平坦な箇所である。

7～17区はB-13区の凹地を囲むように馬蹄形状の緩やかな平坦地が広がる。この平坦地にはB-11区とB-17区、そしてD-14区に小高い箇所がある。東～東南部は4～6区の谷に向かうきつい傾斜地があり、南部も緩やかに傾斜していく。

17～20区にはB-19区とF-16区、E-22区の3ヶ所の凹地または谷にはさまれた狭い平坦地があり、北西に向かって緩やかに高くなり、B-22・23区付近で最も高くなる。なお、B-22・23区が調査範囲の中で標高が最も高い。

本遺跡の調査範囲は地形から4つに区分が可能と考える。そこで、東から順に第1～4エリアと呼称する。

2 層位

基本層位は平成24年度に行われた試掘調査時のものを参考にした。ただし、地点によって堆積状況は異なっており、特に谷地形となる場所では他地点ではみられない地層も存在する。詳細は以下のとおりである（第5図参照）。

1層：現耕作土・旧耕作土・造成土などである。色調や含有物により、数枚に細分可能である。

2層：黒色（10YR2/1）のシルト質土で、締まりが弱い。場所によっては削平されている。層厚は約50cm以上。

3層：黒褐色（10YR2/2）のシルト質土で、やや締まっている。御池火山灰を含む。層厚は約20cm。

4層：黒色（10YR2/1）のシルト質土で、締まりがある。池田降下軽石をわずかに含む。層厚は約15cm。

5層：黒褐色（7.5YR2/2）のシルト質土で、締まりがある。池田降下軽石（径0.5～2cm）を含むが、場所によっては含有率が少ない。層厚は約15cm。

6層：にぶい黄褐色（10YR5/4）のシルト質土で、硬質である。層厚は約10cm。

7層：明黄褐色（7.5YR5/8）のシルト質土で、締まりがある。アカホヤ火山灰層である。下部には黄橙色軽石を多く含む。層厚は約40cm。

8層：暗褐色（10YR3/3）のシルト質土で、硬質である。縄文時代早期後葉包含層。層厚は約10cm。傾斜地では認められない箇所がある。

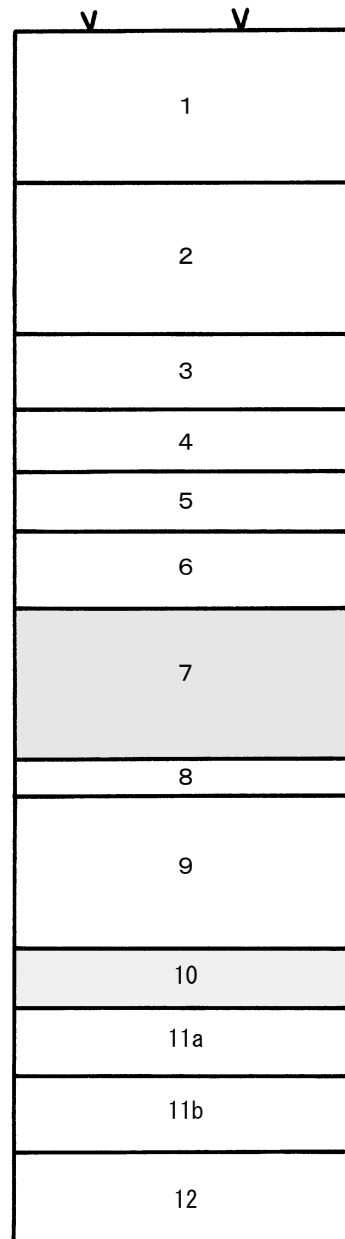
9層：黒褐色（10YR2/2）のシルト質土で、硬質である。白色粒を多く含む。下位ほど黄橙色パミス（径0.1～0.2mm）を多く含む。縄文時代早期前～中葉包含層。層厚は約40cm。谷部は色調や含有物により数枚に細分可能である。

10層：褐色（10YR4/4）のシルト質土で、かなり硬質である。層中に黄色を呈するブロック状の薩摩火山灰がみられる。層厚は約15cm。

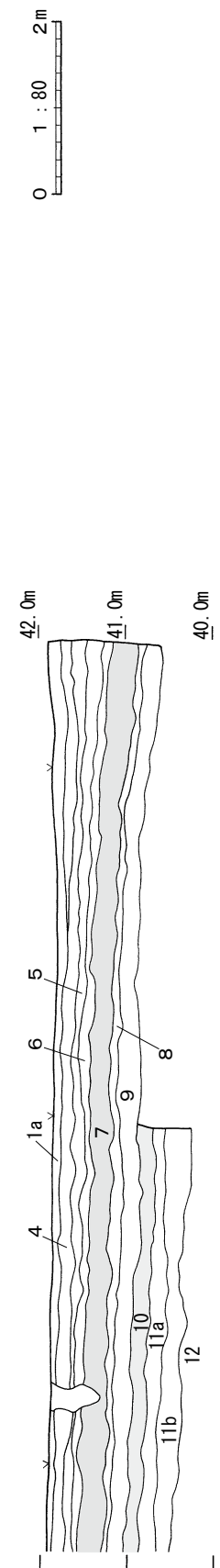
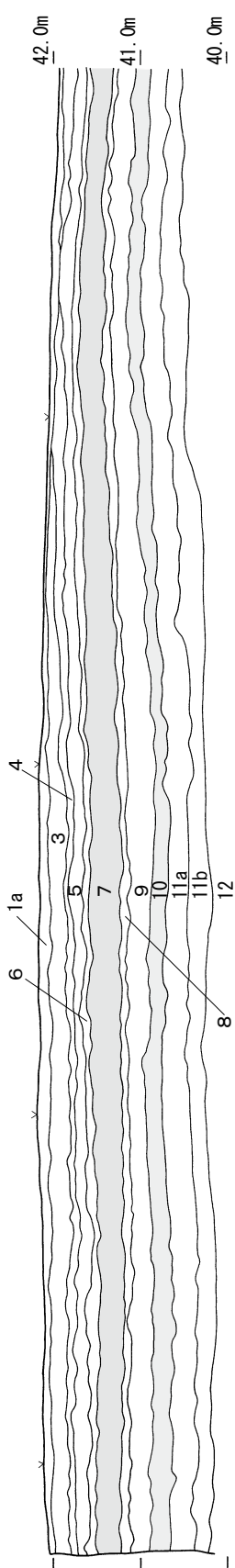
11a層：褐色（10YR4/6）の粘質土で、締まっている。旧石器時代細石刃文化期包含層。層厚は約15cm。

11b層：明黄褐色（10YR6/6）の強粘質土。下位ほど粘性が弱くなる。層厚は約20cm。

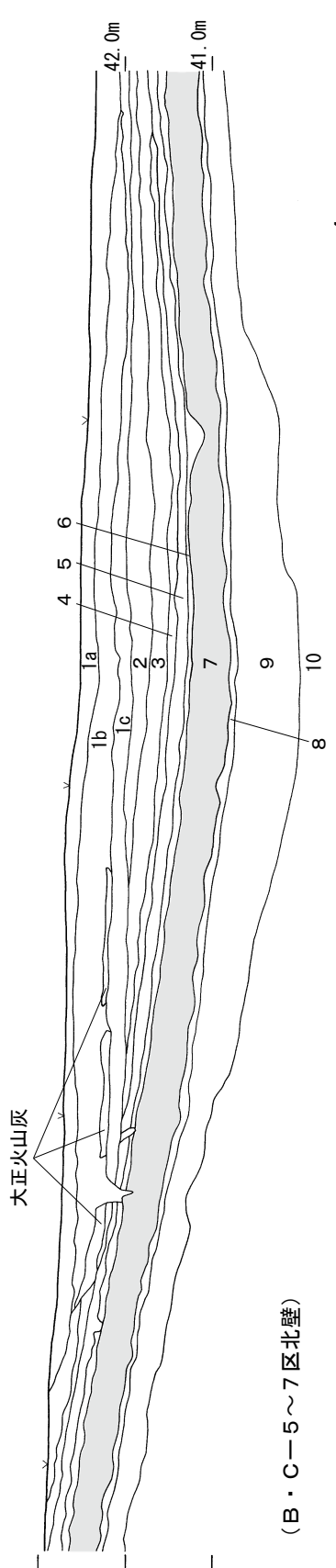
12層：いわゆるシラスである。E-3～6区の斜面部では、9層直下に12層が認められる箇所がある。



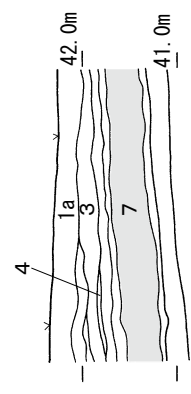
第5図 土層柱状図



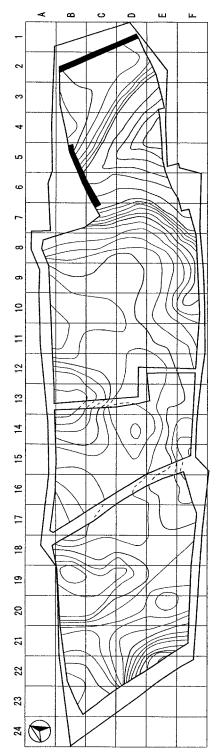
(B~D-1・2区東壁)



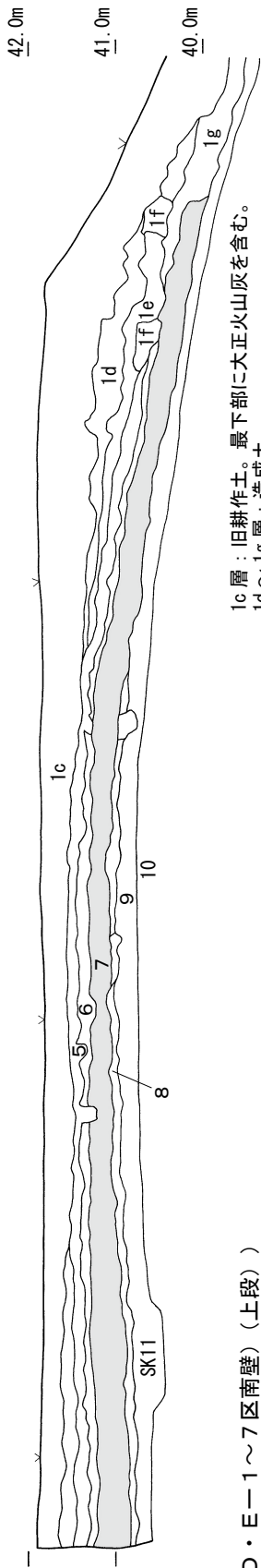
(B・C-5~7区北壁)



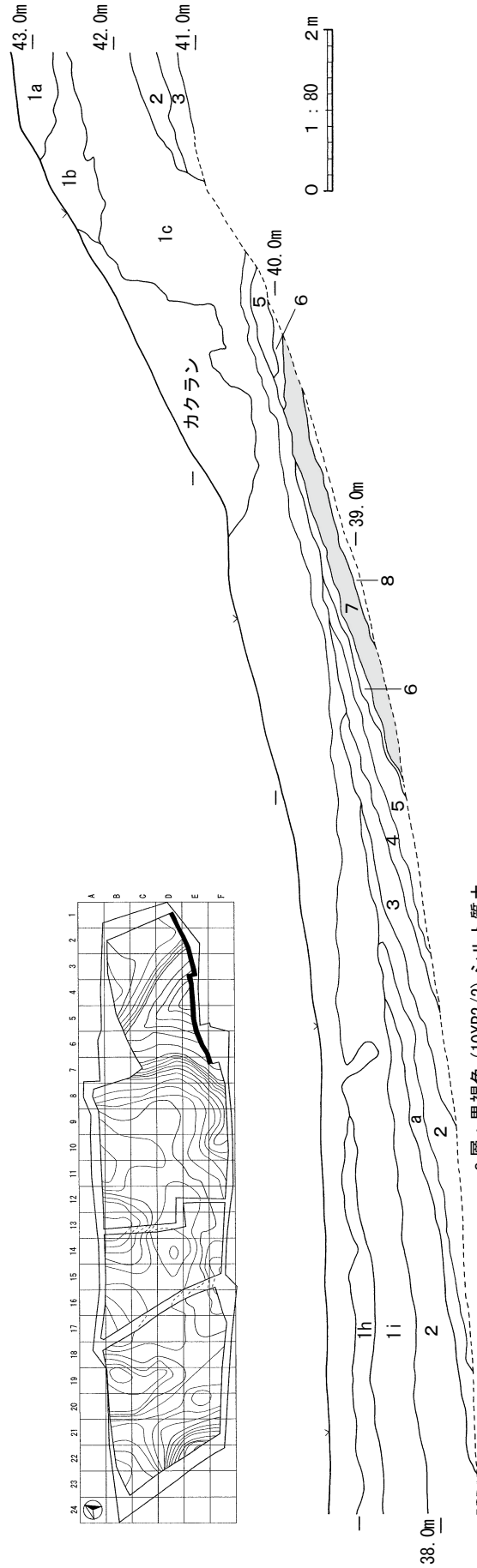
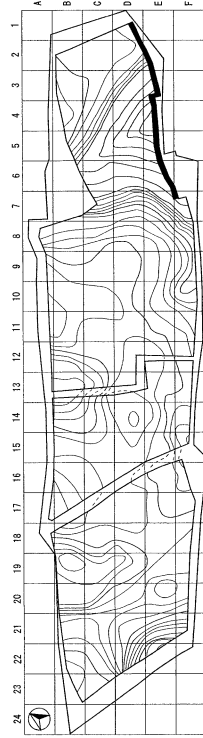
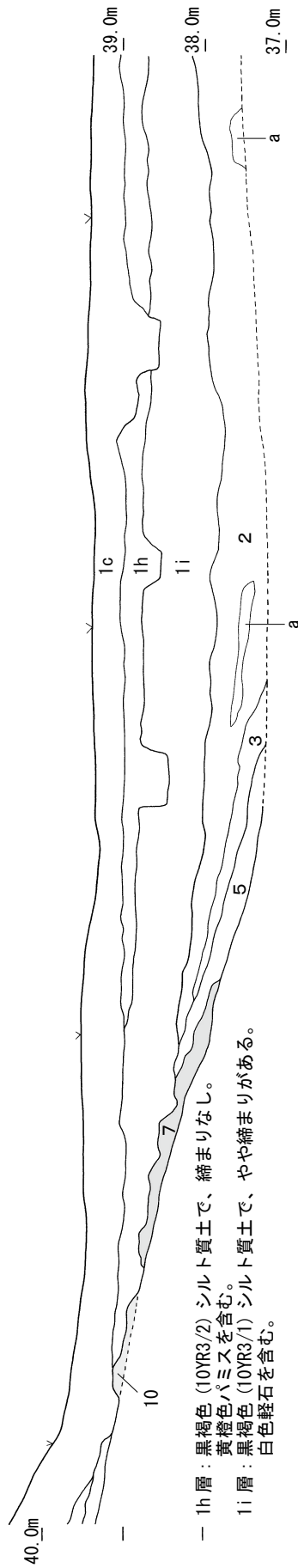
1a層：現耕作土
 1b層：造成土、部分的にアカホヤブロックを含む。
 1c層：黒色(10VR2/1)シルト質土で、締まっている。
 2層：黒色より締まっており、淡い色調である。



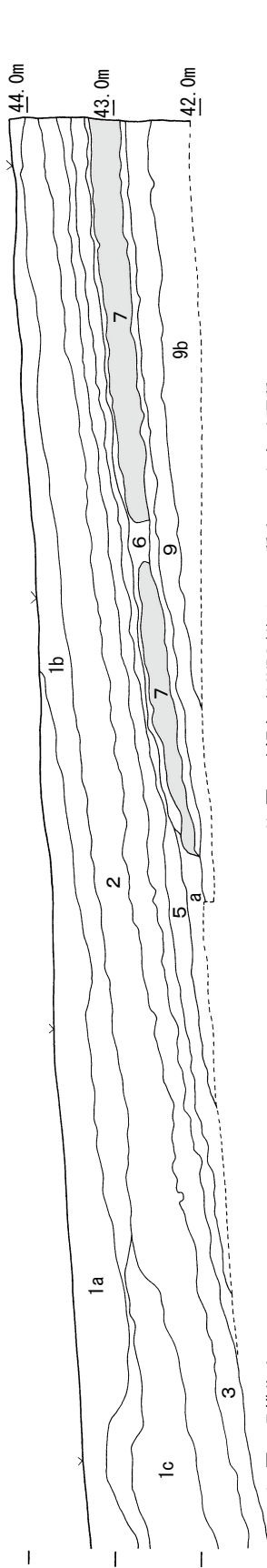
第6図 土層断面図(1)



(D・E-1～7区南壁) (上段)



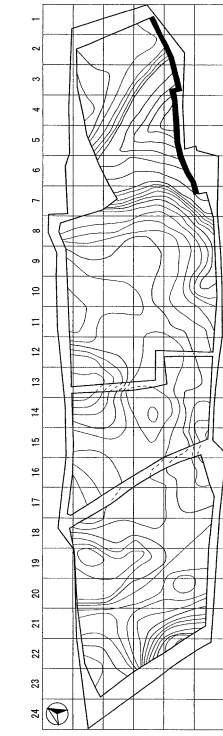
第7図 土層断面図(2)



1a層：現耕作土
 1b層：黒色(10YR2/1)シルト質土で、締まっている。
 1c層：黒色(10YR2/1)シルト質土で、締まっている。
 2層：黒石や小礫を含む。
 3層：暗褐色(7.5YR3/3)シルト質土で、締まっている。
 4層：暗褐色(7.5YR3/3)シルト質土で、締まっている。
 5層：暗褐色(7.5YR3/3)シルト質土で、締まっている。
 6層：暗褐色(7.5YR3/3)シルト質土で、締まっている。
 7層：暗褐色(7.5YR3/3)シルト質土で、締まっている。
 8層：暗褐色(7.5YR3/3)シルト質土で、締まっている。
 9a層：暗褐色(10YR3/4)シルト質土で、かなり硬質。
 9b層：暗褐色(10YR3/4)シルト質土で、かなり硬質。
 9c層：暗褐色(10YR3/2)シルト質土で、硬質。

(D・E-1～7区南壁(上段))

9c層：暗褐色(10YR3/2)シルト質土で、硬質。
 9b層よりも黒味が強い。



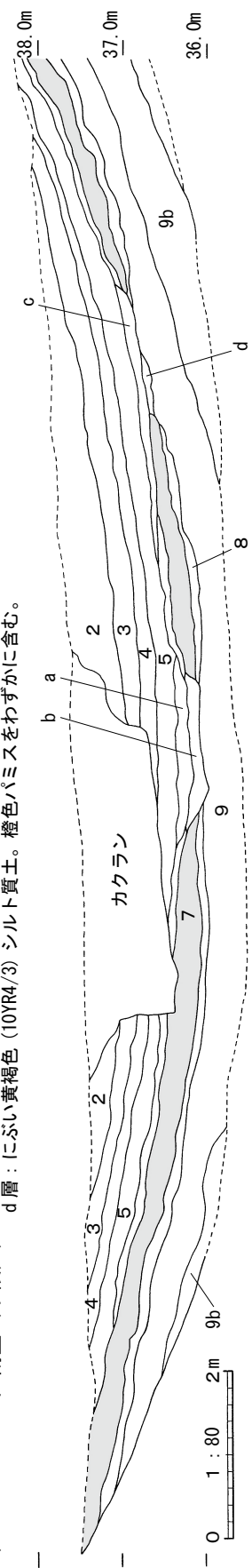
39.0m

38.0m

37.0m

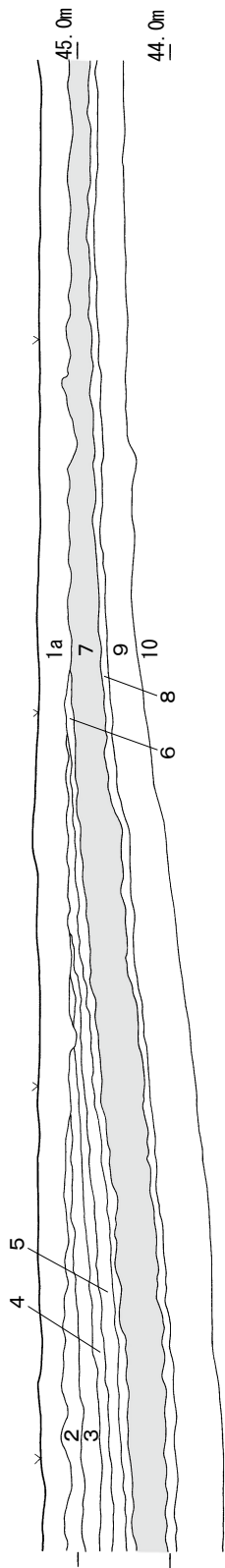
a層：黒褐色(7.5YR2/2)シルト質土で、硬質。
 b層：暗褐色(10YR3/3)シルト質土。
 c層：暗褐色(10YR2/3)シルト質土。橙色パミスをわずかに含む。
 d層：にがい黄褐色(10YR4/3)シルト質土。橙色パミスをわずかに含む。

(D・E-1～7区南壁(下段))

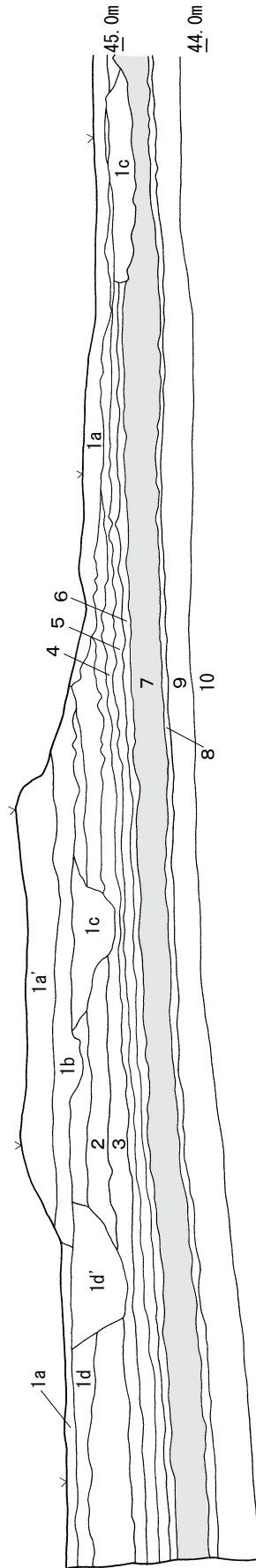
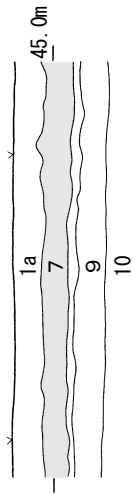
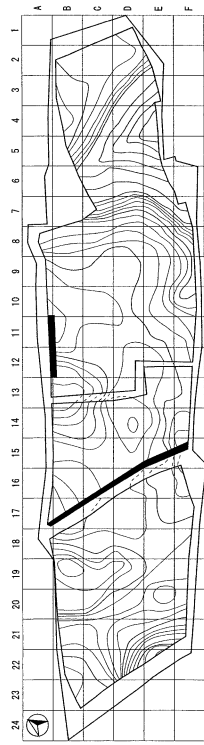


0 1 : 80 2m

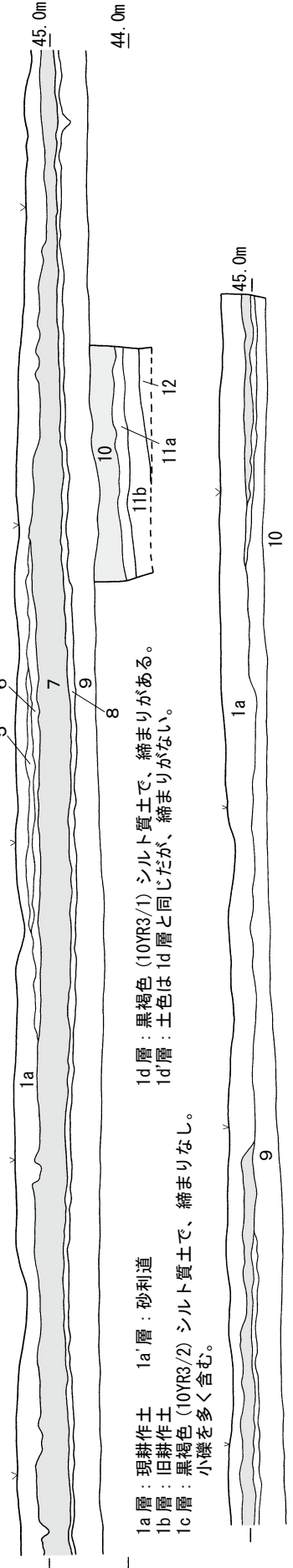
第8図 土層断面図(3)



(A-11・12区北壁)



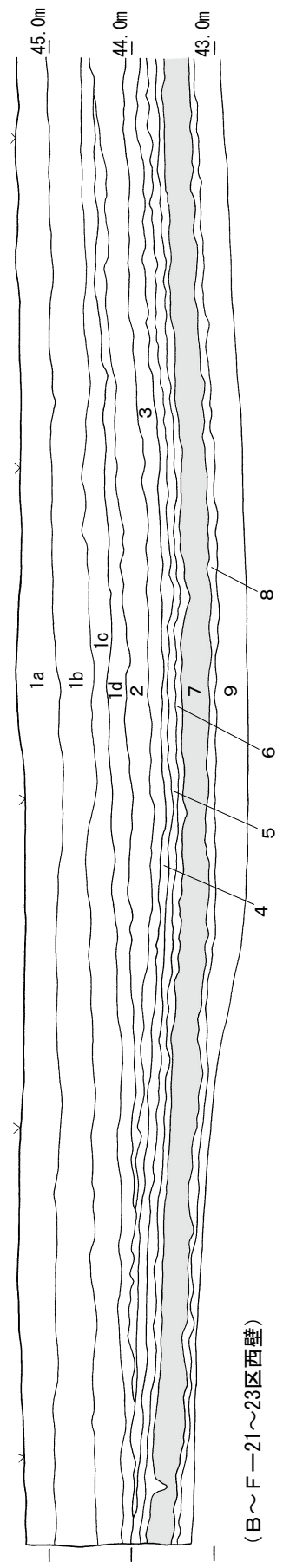
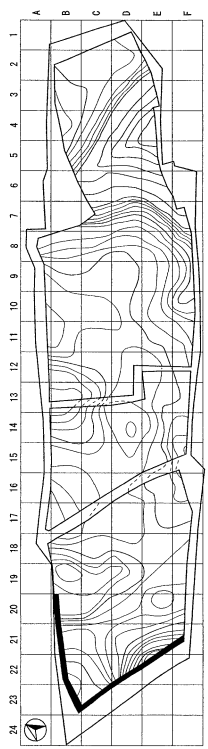
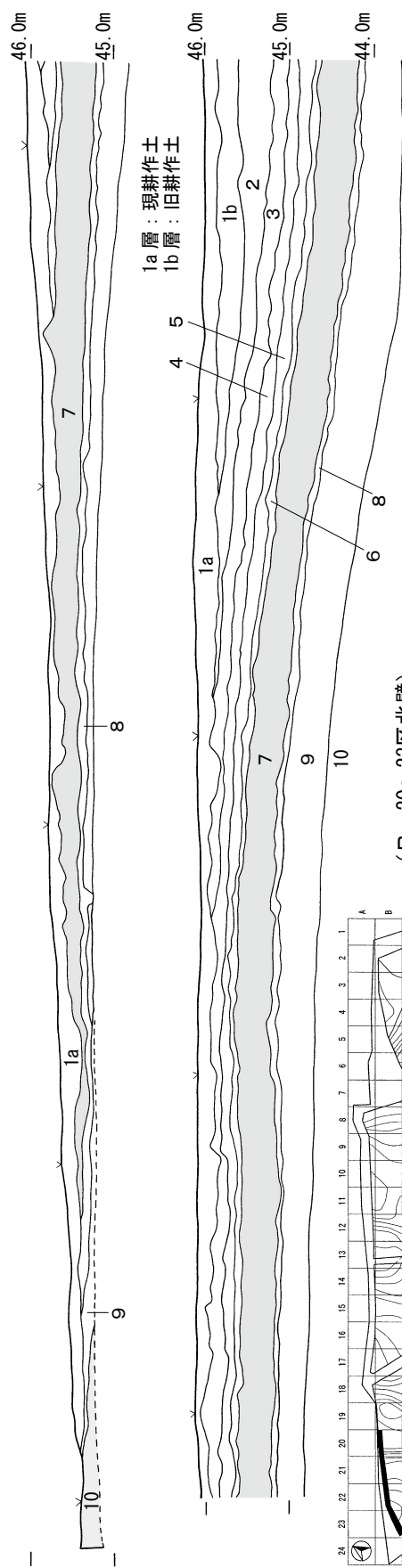
(A-F-16~18区西壁)



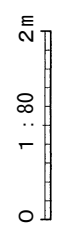
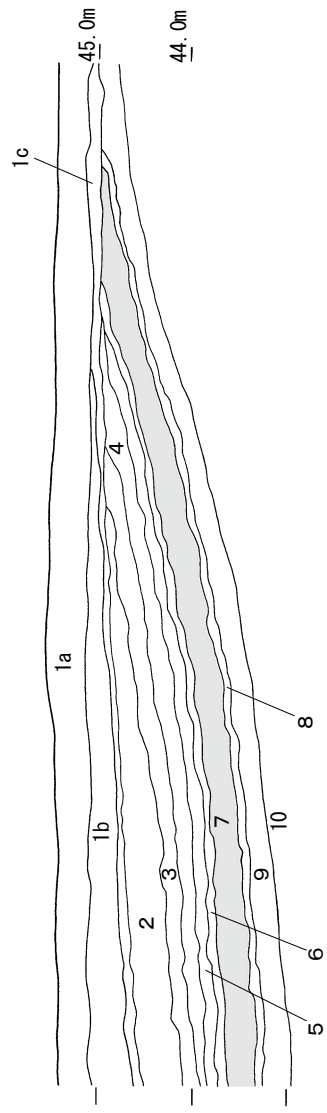
1d層：黒褐色 (10YR3/1) シルト質土で、締まりがある。
 1d'層：土色は 1d 層と同じだが、締まりがない。

1a層：現耕作土 1a'層：砂利道
 1b層：旧耕作土
 1c層：黒褐色 (10YR3/2) シルト質土で、締まりなし。
 小礫を多く含む。

第9図 土層断面図 (4)



1a層・1b層：造成土
1c層：現耕作土
1d層：旧耕作土。下部に大正火山灰を含む。



第10図 土層断面図 (5)

第4章 調査の成果

第1節 旧石器時代の調査

1 調査の概要

試掘調査では、旧石器時代に相当する遺構・遺物は確認されていなかった。しかし、B～D-1～3区において縄文時代早期の包含層である9層から細石刃核や細石刃が出土したため、下層確認調査を行った結果、11a層から細石刃核などが出土した。

そこで、下層確認調査の状況と地形を検討し、B～D-1・2区に旧石器時代の調査範囲を設定し、調査を行った。掘り下げはシラス層上面まで行っている。

調査の結果、細石刃文化期に属する遺物が出土した。遺物は細石刃や細石刃核、石核、スクレイパー、剥片などである。なお、11層の掘り下げ時には縄文時代早期土器や石錘も出土している。9層からも細石刃などが出土していることも含めて考えると、土壌の堆積は良好ではなく、遺物の垂直方向の移動——例えば、大きな遺物は下位へ、小さな遺物は上位へ移動——も推測できる。

遺物の出土状況をみると（第11・12図参照）、B-1区とC・D-1区に遺物が集中していることがわかる。B-1区を中心とする一群を1ブロック、C・D-1区を中心とする一群を2ブロックと認定した。また、B-4区にも遺物が認められるが、出土量が2点と少ないため、ブロックとして認定しなかった。ただし、調査区外に広がる可能性が高い。

2 遺物

出土遺物は基本的にブロック毎に提示した。その後、9層出土の細石刃核と細石刃を提示した。磨石・石皿については、各ブロックの範囲内で出土しているものもあるが、前述した土壌堆積の理由から縄文時代早期に属する可能性も考えられたため、後半にまとめて掲載した。

(1) 1ブロック（第13図1～14）

B-1区を中心として、約10mの範囲に広がる。遺物は55点認められた。出土遺物の特徴として、黒曜石1類（三船産）の遺物がそのほとんどを占め、細石刃核も全て黒曜石1類を素材としていることが挙げられる。

細石刃核（1～5）

5点確認し、全て図示した。石材は全て黒曜石1類である。1～4はほぼ極限まで細石刃剥離が進んでいる。

1は小型の礫を素材とする。打面調整は正面から行われている。左側面は背面方向からの小さな剥離がみられるが、自然面を残している。

2も小型の礫を素材とする。打面は正面と右側面方向から調整されるが、自然面が残る。

3は剥片を素材とする。打面調整は正面から行われる。

4も剥片を素材とする。打面調整は正面から行われる。

右側面に細かい調整が行われている。

5は小型の礫を素材とする。上面・下面・左側面に自然が残る。作業面転移を行っており、正面と上面に作業面をもつ。

スクレイパー（6）

1点確認した。赤色を呈する頁岩の縦長の剥片を素材とする。刃部は左側縁部に形成される。

楔形石器（7）

1点確認した。黒曜石1類で、両極に対向する剥離がみられる。また、上下端には階段状剥離もみられる。

剥片（8）

37点確認し、1点図示した。石材は黒曜石1類29点、チャート3点、黒曜石3類2点、珩質頁岩2点、玻璃質安山岩1点である。なお、土壌堆積の理由から縄文時代早期に属する剥片が含まれている可能性もある。

石核（9）

2点確認し、1点図示した。石材はシルト質頁岩と黒曜石1類である。9は灰色を呈するシルト質頁岩の大型円礫を二分割して、その分割面を打面とする。正面・背面・左側面に作業面をもつ。作業面方向から打面調整を行っている。

細石刃（10～14）

9点確認し、5点図示した。石材は全て黒曜石1類である。完形1点、頭部4点、中間部3点、尾部1点である。11～14は側縁部に微細剥離痕が認められる。

(2) 2ブロック（第14図15～23）

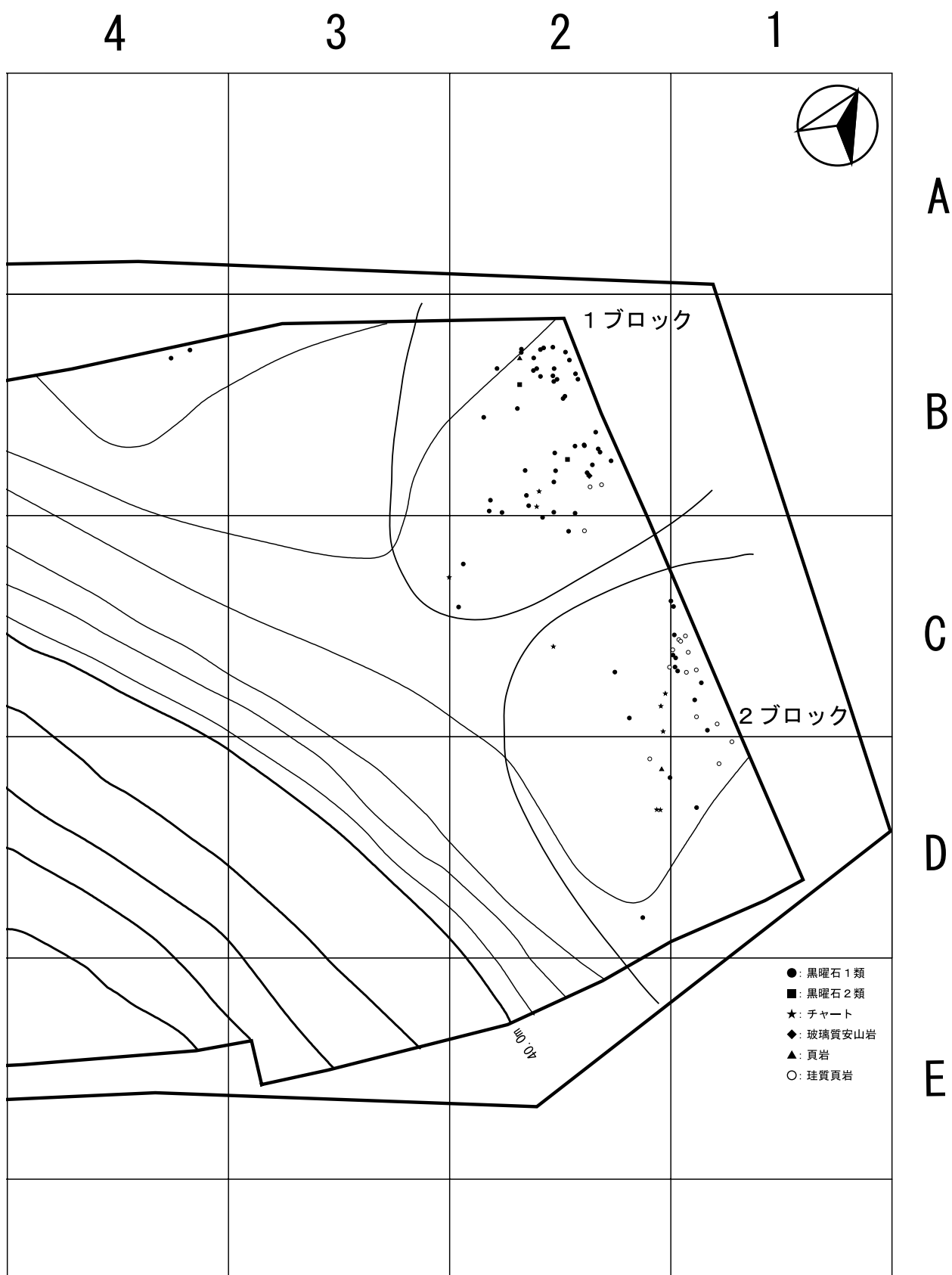
C-1区を中心として約10mの範囲に広がる。遺物は31点認められた。1ブロックとは異なり、黒曜石1類の比率が低く、また珩質頁岩を素材とする細石刃核のみが認められることが特徴である。

細石刃核（15～18）

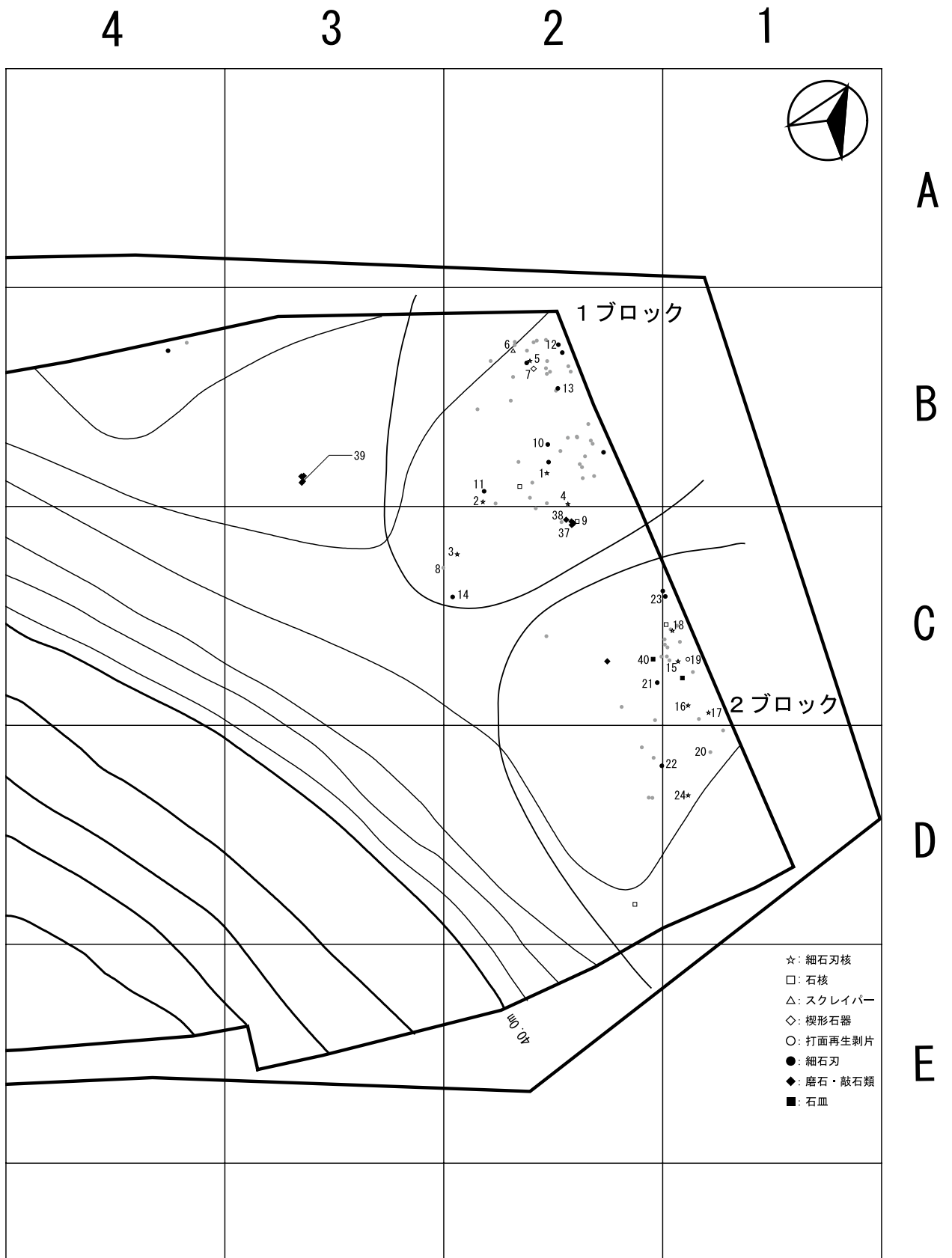
4点確認し、全て図示した。全て、円礫を二分割して、打面調整を施さず、分割面を打面とする畦原型細石刃核である。

15は黒色を呈し、白斑がみられる珩質頁岩の扁平円礫を素材とする。円礫の分割には両極打法を用いている。正面・背面・左側面に作業面をもつ。正面の作業面は少なくとも4回の有効な細石刃を剥離した剥離面が観察されるが、その後の5回の作業ではヒンジフラクチャーとなり、段がついている。背面の作業面は少なくとも2回の有効な細石刃を剥離した剥離面が観察されるが、最終の3回の剥離作業はヒンジフラクチャーとなる。剥離作業が進んだ細石刃核である。

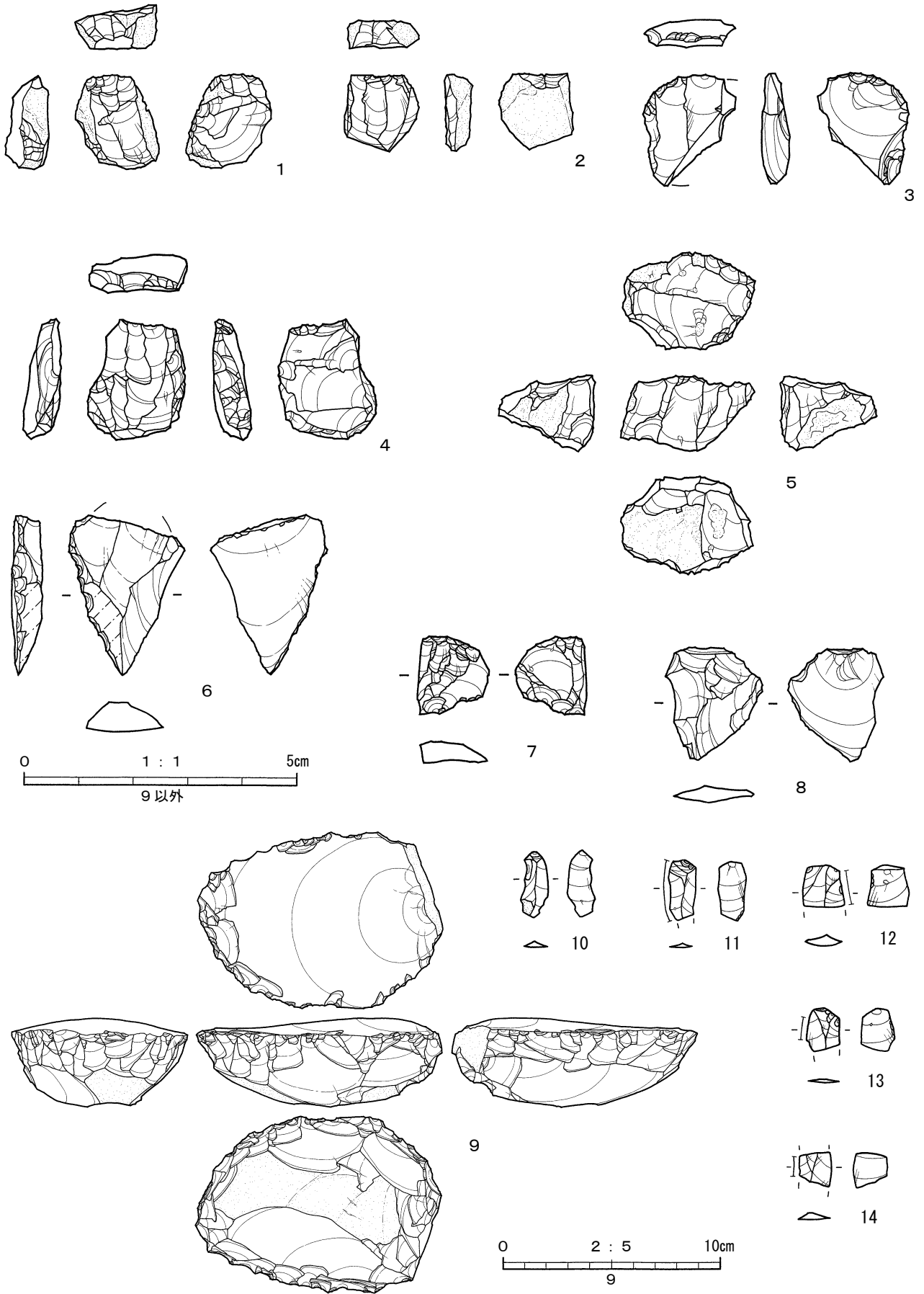
16は灰色を呈する珩質頁岩の細長い円礫を素材とする。正面と左側面に作業面をもつ。正面は細石刃核の下



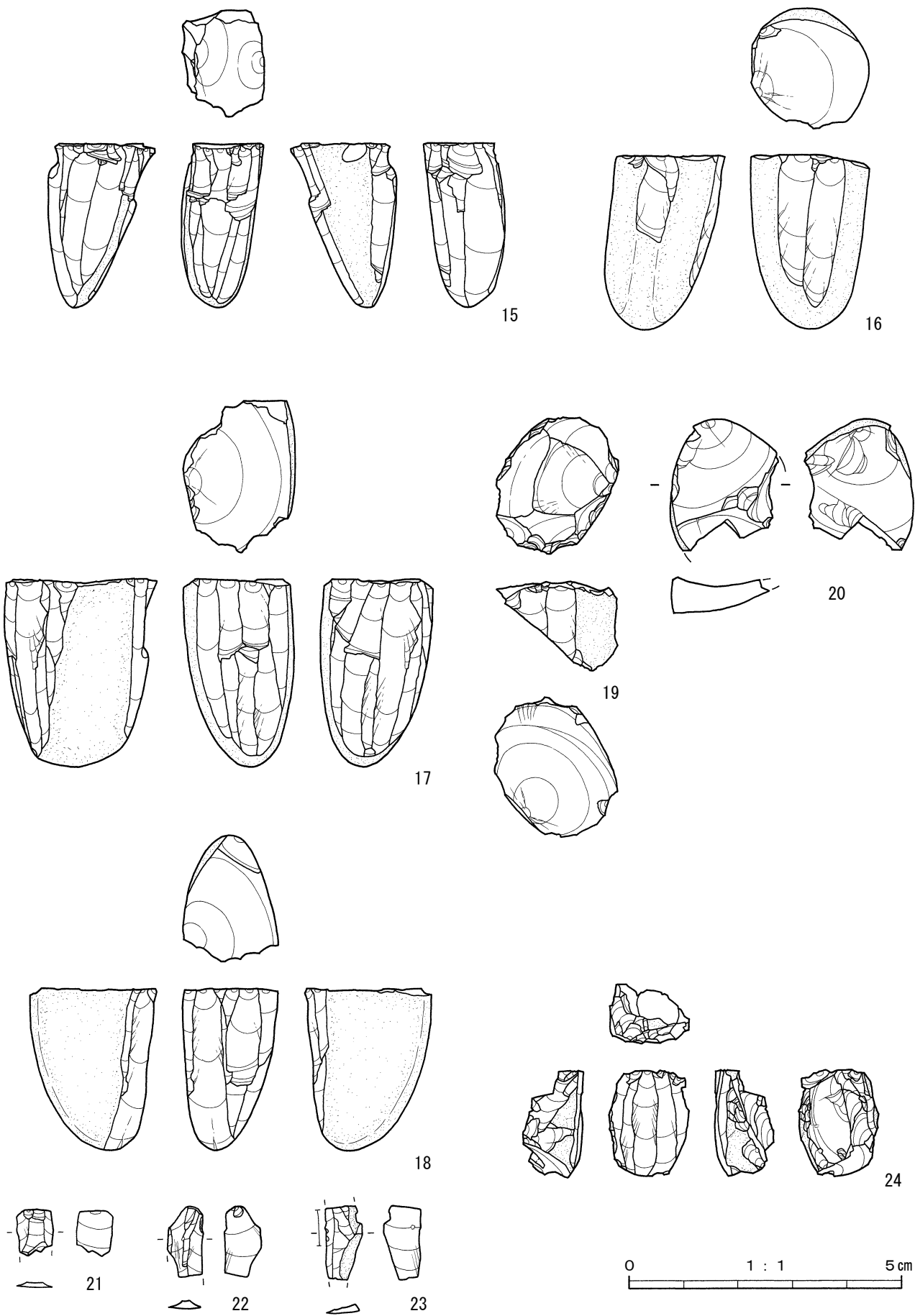
第11図 旧石器時代遺物石材別分布図



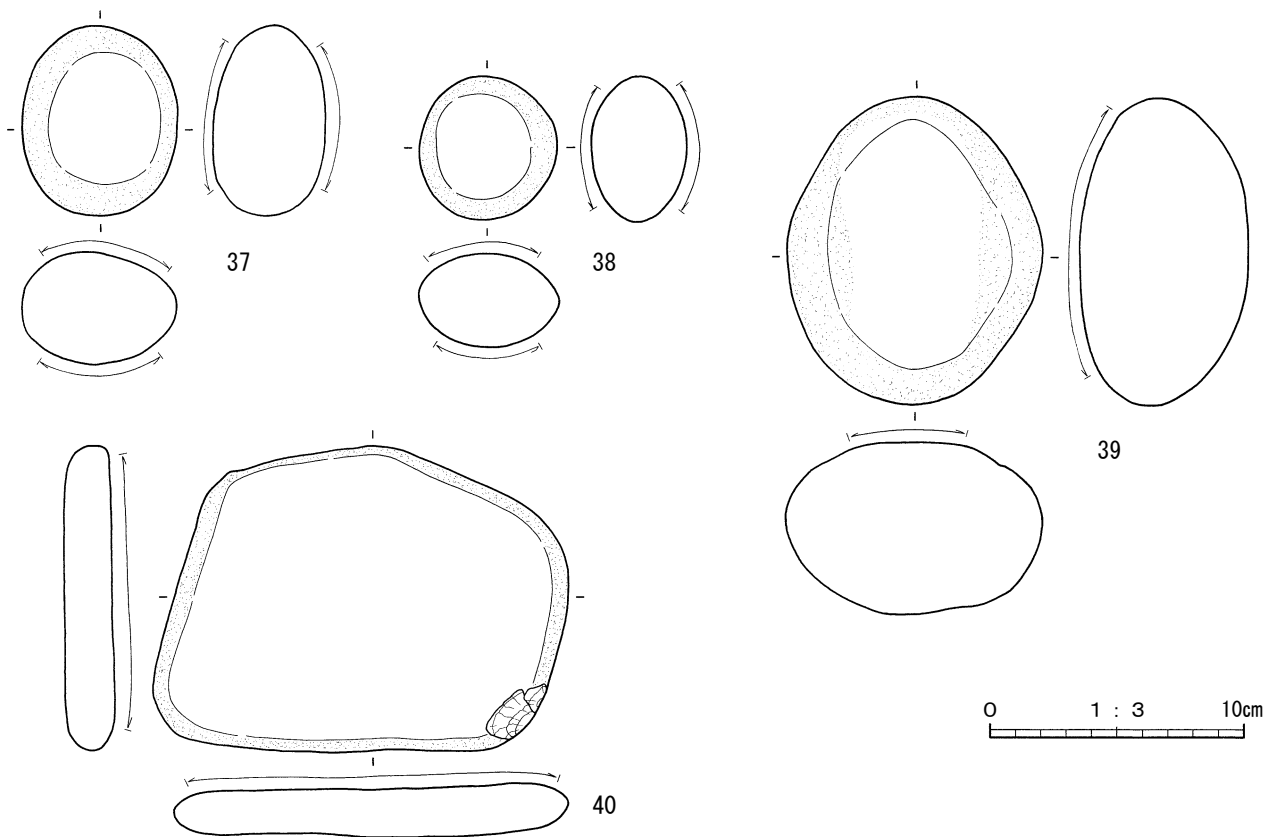
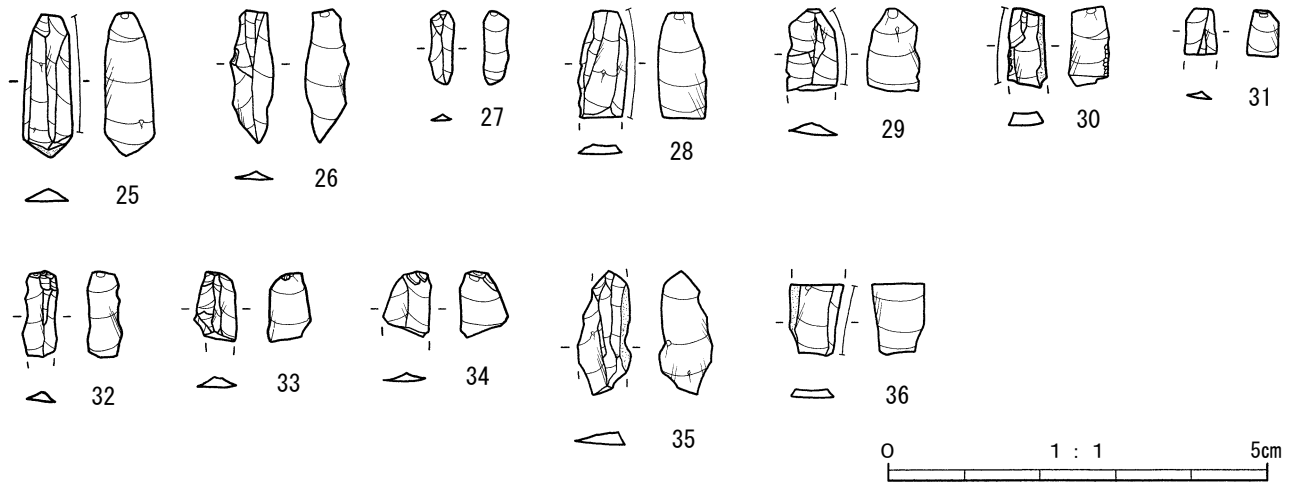
第12図 旧石器時代遺物器種別分布図



第13図 1ブロック出土遺物



第14図 2ブロック出土遺物



第15図 ブロック外出土遺物

端まで達する長い剥離面が認められるが、左側面は短く、途中でヒンジフラクチャーとなる。剥離作業が初期の段階の細石刃核である。

17は黒色を呈し、白斑がみられる珪質頁岩の扁平円礫を素材とする。正面・背面に作業面をもつ。正面は少なくとも5回の有効な細石刃を剥離した剥離面が観察されるが、その後の2回の作業ではヒンジフラクチャーとなる。背面は少なくとも5回の有効な細石刃を剥離した剥離面が観察されるが、最終の3回の剥離作業でヒンジフラクチャーとなる。

18はやや灰色と呈し、赤褐色の流理をもつ珪質頁岩の扁平円礫を素材とする。正面のみを作業面としており、背面・左側面・右側面は自然のままである。正面右側の剥離作業はヒンジフラクチャーとなる。

細石刃 (21~23)

4点確認し、3点図示した。石材は黒曜石1類3点、チャート1点である。細石刃核の素材となった珪質頁岩や硬質砂岩のものは認められなかった。頭部2点、中間部1点、尾部1点である。23は左側縁部に微細剥離痕が認められる。

打面再生剥片 (19)

1点確認した。正面と背面に細石刃の剥離面が残る。石材は黒色を呈し、白斑がみられる珪質頁岩である。

剥片 (20)

20点確認し、1点図示した。石材は黒曜石1類7点、珪質頁岩8点、チャート3点、頁岩1点、黒曜石2類1点である。縄文時代早期に属するものが含まれている可能性もある。

石核

2点確認した。ともに石材は黒曜石1類である。

(3) 9層出土遺物 (第14・15図24~36)

ここでは縄文時代早期包含層の9層から出土した細石刃文化期の遺物を掲載する。

細石刃核 (24)

1点確認した。黒曜石1類の小型礫を素材とする。側面調整が行われているものの、両側面には自然面が残る。打面調整は正面から行われている。

細石刃 (25~36)

28点確認し、12点図示した。石材は黒曜石1類23点、チャート5点である。完形3点、頭部14点、中間部8点、尾部3点である。側縁に微細剥離痕が認められるものもある(25・28・29・30・36)。

(4) 磨石・石皿類 (第15図37~40)

磨石 (37~39)

9点確認し、3点図示した。全て顕著な磨面をもたないものである。37と38、さらに2点の磨石が近接して出土している。この4点に加えて、石核(80)も近接して出土している(図版参照)。39もこのほか3点の磨石が近接して出土している。縄文時代早期の磨石集積遺構のようには密接せず、磨石同士が隙間を持った出土状況ではあるものの、細石刃文化期あるいは縄文早期のデポの可能性もあろう。

石皿 (40)

2点確認し、1点図示した。2点とも磨面は顕著ではない。なお、2点とも2ブロックの範囲内から出土している。

第2表 ブロック別石器組成表

ブロック	器種	黒曜石1類	黒曜石2類	チャート1類	チャート2類	チャート3類	安山岩	珪質頁岩	頁岩	砂岩	合計
1	細石刃核	5									5
	細石刃	9									9
	スクレイパー								1		1
	楔型石器	1									1
	石核	1						1			2
	剥片	29	2	2		1	1	2			37
	小計	45	2	2	0	1	1	3	1	0	55

ブロック	器種	黒曜石1類	黒曜石2類	チャート1類	チャート2類	チャート3類	安山岩	珪質頁岩	頁岩	砂岩	合計
2	細石刃核								4		4
	細石刃	3			1						4
	石核	2									2
	打面再生剥片							1			1
	剥片	7	1	1		2		8	1		20
	小計	12	1	1	1	2	0	13	1	0	31

第3表 旧石器時代石器観察表(1)

挿図	No.	取上No.	区	層	ブロック	器種	分類	部位	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	X座標	Y座標	Z座標
13	1	39454	B-2	11a	1	細石刃核	-	-	黒曜石1類	1.7	1.55	0.8	2.03	41.515	224.711	40.670
	2	39468	B-2	11a	1	細石刃核	-	-	黒曜石1類	1.4	1.35	0.53	1.05	40.203	221.788	40.656
	3	21608	C-2	11a	1	細石刃核	-	-	黒曜石1類	2.01	1.69	0.52	1.28	37.808	220.616	40.619
	4	39335	B-2	11a	1	細石刃核	-	-	黒曜石1類	2.18	1.8	0.7	2.6	40.104	225.671	40.555
	5	21628	B-2	11a	1	細石刃核	-	-	黒曜石1類	1.38	2.45	1.76	4.61	46.642	223.935	40.629
	6	39377	B-2	11a	1	スクレイパー	-	-	頁岩	2.9	2.15	0.5	3.05	47.094	223.168	40.826
	7	21617	B-2	11a	1	楔型石器	-	-	黒曜石1類	1.4	1.3	0.4	0.79	46.288	224.106	40.581
	8	21607	C-3	11a	1	剥片	-	-	チャート1類	2.04	1.8	0.3	0.99	37.201	219.978	40.673
	9	39338	C-2	11a	1	石核	-	-	珪質頁岩	4	11.22	8	346.8	39.308	226.094	40.615
	10	39320	B-2	11a	1	細石刃	-	完形	黒曜石1類	1.2	0.5	0.1	0.06	42.828	224.752	40.621
	11	39467	B-2	11a	1	細石刃	-	頭部	黒曜石1類	1.1	0.5	0.1	0.06	40.691	221.843	40.712
	12	21621	B-2	11a	1	細石刃	-	頭部	黒曜石1類	0.8	0.8	0.2	0.14	47.387	225.236	40.403
	13	21609	B-2	11a	1	細石刃	-	頭部	黒曜石1類	0.8	0.7	0.1	0.05	45.391	225.211	40.575
	14	21606	C-2	11a	1	細石刃	-	中間部	黒曜石1類	0.7	0.7	0.2	0.04	35.864	220.405	40.732

第4表 旧石器時代石器観察表(2)

挿図	No.	取上No.	区	層	ブロック	器種	分類	部位	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標
14	15	39360	C-1	11a	2	細石刃核	-	-	珪質頁岩	3	1.5	1.95	10.13	32.912	230.704	40.762
	16	39371	C-1	11a	2	細石刃核	-	-	珪質頁岩	3.2	2.18	2.2	19.62	30.900	231.161	40.398
	17	39373	C-1	11a	2	細石刃核	-	-	珪質頁岩	3.42	2.05	2.8	26.72	30.576	232.094	40.580
	18	21515	C-1	11a	2	細石刃核	-	-	珪質頁岩	2.98	1.78	2.3	14.25	34.316	230.445	40.880
	19	39361	C-1	11a	2	打面再生剥片	-	-	珪質頁岩	1.65	2.25	2.55	7.12	33.019	231.151	40.763
	20	39375	D-1	11a	2	剥片	-	-	珪質頁岩	2.4	2	0.65	3.51	28.779	232.180	40.520
	21	39365	C-2	11a	2	細石刃	-	頭部	チャート2類	0.8	0.7	0.1	0.05	31.950	229.752	40.620
	22	39465	D-2	11a	2	細石刃	-	頭部	黒曜石1類	1.3	0.6	0.15	0.13	28.149	229.962	40.292
	23	21521	C-1	11a	2	細石刃	-	中間部	黒曜石1類	1.4	0.7	0.2	0.15	35.886	230.121	40.827
24	12265	D-1	9	-	細石刃核	-	-	黒曜石1類	1.92	1.42	1.11	2.63	26.796	231.165	40.896	
15	25	19400	C-3	9	-	細石刃	-	完形	黒曜石1類	1.9	0.7	0.2	0.23	32.202	214.839	40.757
	26	15641	D-2	9	-	細石刃	-	完形	黒曜石1類	1.7	0.55	0.14	0.1	25.507	229.275	40.886
	27	20378	B-2	9	-	細石刃	-	完形	黒曜石1類	1	0.3	0.1	0.01	43.844	225.224	40.954
	28	18436	D-3	9	-	細石刃	-	頭部	黒曜石1類	1.4	0.7	0.2	0.17	25.159	215.187	40.055
	29	19830	C-3	9	-	細石刃	-	頭部	黒曜石1類	1.1	0.7	0.2	0.13	39.384	218.754	41.092
	30	17614	C-2	9	-	細石刃	-	頭部	黒曜石1類	1.1	0.5	0.2	0.1	36.385	221.913	41.094
	31	8458	C-2	9	-	細石刃	-	頭部	黒曜石1類	0.6	0.45	0.1	0.04	33.245	224.241	41.090
	32	8486	D-1	9	-	細石刃	-	頭部	黒曜石1類	1.2	0.5	0.2	0.05	24.536	231.360	40.919
	33	14797	D-2	9	-	細石刃	-	頭部	黒曜石1類	0.9	0.6	0.2	0.08	25.951	226.310	40.829
	34	12285	D-2	9	-	細石刃	-	頭部	チャート3類	0.9	0.6	0.2	0.05	26.607	229.706	40.899
	35	16296	C-2	9	-	細石刃	-	中間部	黒曜石1類	1.6	0.7	0.2	0.19	30.671	224.496	40.938
	36	15909	D-2	9	-	細石刃	-	尾部	黒曜石1類	0.9	0.7	0.1	0.07	27.043	227.683	40.851
	37	39644	C-2	11a	デボ?	磨石・敲石類	I	-	砂岩	7.5	6.1	4.4	271.5	39.226	225.931	40.622
	38	39337	C-2	11a	デボ?	磨石・敲石類	I	-	砂岩	5.6	5.6	3.7	151.7	39.391	225.593	40.613
	39	20951	B-3	11a	デボ?	磨石・敲石類	I	-	砂岩	12	10.1	6.8	1074.6	41.085	213.513	40.767
	40	21550	C-2	11a	2?	石皿	-	-	砂岩	16.3	12.1	2.1	675.4	33.022	229.562	40.668
-	-	39641	B-2	11a	1	石核	-	-	黒曜石1類	1.2	1.8	1.1	2.2	40.908	223.471	40.502
	-	39328	B-2	11a	1	細石刃	-	頭部	黒曜石1類	0.6	0.4	0.1	0.01	42.471	227.299	40.493
	-	21619	B-2	11a	1	細石刃	-	中間部	黒曜石1類	0.5	0.8	0.1	0.04	47.026	225.414	40.416
	-	21629	B-2	11a	1	細石刃	-	中間部	黒曜石1類	0.8	0.6	0.2	0.04	46.555	223.787	40.506
	-	39453	B-2	11a	1	細石刃	-	尾部	黒曜石1類	0.9	0.5	0.2	0.04	42.023	224.789	40.585
	-	21518	C-1	11a	2	石核	-	-	黒曜石1類	1.6	2.2	1.1	3.9	34.602	230.157	40.871
	-	22558	D-2	11a	2	石核	-	-	黒曜石1類	2.3	2	1.6	4.9	21.822	228.732	40.712
	-	21522	C-1	11a	2	細石刃	-	尾部	黒曜石1類	0.8	0.6	0.2	0.06	36.136	230.005	40.793
	-	39643	C-2	11a	2?	磨石・敲石類	I	-	砂岩	7.8	5.3	4.5	248.1	32.922	227.470	40.621
	-	39364	C-1	11a	2?	石皿	-	-	砂岩	14.5	17.7	4.5	1793	32.160	230.900	40.645
	-	21648	B-4	11a	外	細石刃	-	頭部	黒曜石1類	0.7	0.5	0.1	0.03	47.113	207.405	41.001
	-	20949	B-3	11a	デボ?	磨石・敲石類	I	-	砂岩	12.6	10.3	8.1	1376.5	41.369	213.495	40.816
	-	20950	B-3	11a	デボ?	磨石・敲石類	I	-	砂岩	6	5.6	4.1	176.1	41.146	213.564	40.765
	-	21070	B-3	11a	デボ?	磨石・敲石類	I	-	砂岩	10.6	10	7.7	1057.2	41.393	213.601	40.797
	-	39642	C-2	11a	デボ?	磨石・敲石類	I	-	安山岩	7.3	6.1	4.4	268.8	39.312	225.834	40.617
	-	39645	C-2	11a	デボ?	磨石・敲石類	I	-	砂岩	7.4	6.3	4.1	244.2	39.153	225.846	40.620
	-	12100	D-1	8	-	細石刃	-	頭部	黒曜石1類	0.6	0.5	0.1	0.01	23.953	233.693	40.839
	-	12215	D-1	9	-	細石刃	-	頭部	黒曜石1類	0.6	0.4	0.2	0.03	25.380	230.903	40.892
	-	14761	D-1	9	-	細石刃	-	頭部	黒曜石1類	0.7	0.5	0.1	0.02	23.508	232.943	40.840
	-	20445	D-2	9	-	細石刃	-	頭部	黒曜石1類	0.6	0.5	0.1	0.01	26.676	227.781	40.718
	-	39457	B-2	10	-	細石刃	-	頭部	黒曜石1類	0.7	0.6	0.1	0.04	40.443	223.574	40.900
	-	15554	C-2	9	-	細石刃	-	頭部	チャート1類	1.2	0.6	0.2	0.1	31.380	229.551	40.904
	-	4913	D-2	9	-	細石刃	-	中間部	黒曜石1類	0.7	0.6	0.1	0.03	26.217	228.081	40.952
	-	4920	D-2	9	-	細石刃	-	中間部	黒曜石1類	0.7	0.9	0.2	0.12	29.036	223.469	40.978
	-	12107	D-1	8	-	細石刃	-	中間部	黒曜石1類	0.5	0.6	0.1	0.01	25.014	234.557	40.861
	-	12128	D-1	8	-	細石刃	-	中間部	黒曜石1類	0.4	0.3	0.1	0.01	24.639	233.151	40.864
	-	11952	D-2	9	-	細石刃	-	中間部	チャート1類	0.5	0.5	0.1	0.02	29.531	224.069	40.928
	-	14794	D-2	9	-	細石刃	-	中間部	チャート1類	0.8	0.6	0.1	0.03	23.949	227.703	40.903
	-	12304	D-2	9	-	細石刃	-	中間部	チャート2類	0.9	0.5	0.1	0.06	27.102	228.424	40.884
	-	15558	C-1	9	-	細石刃	-	尾部	黒曜石1類	0.3	0.7	0.1	0.01	31.663	231.079	40.934
	-	16841	C-4	9	-	細石刃	-	尾部	黒曜石1類	0.7	0.3	0.1	0.01	38.868	204.571	41.034

第2節 縄文時代早期の調査

1 調査の概要

縄文時代早期の調査は、アカホヤ火山灰層（7層）と薩摩火山灰層（10層）に挟まれた8・9層の調査で、全調査範囲に及ぶ。

遺構は落とし穴、連穴土坑、土坑、集石遺構、磨石集積遺構、配石遺構が認められた。落とし穴・連穴土坑・土坑は、当時の掘り込み面に近いレベルでの検出に努めたものの、困難であった。そのため、基本的に10層上面での検出となった。集石遺構・磨石集積遺構・配石遺構は主に9層中位から10層上面において検出した。

遺物は土器と石器が出土した。また、集石遺構に伴う膨大な数の被熱破砕片が出土した。石器製作跡と考えられる石器集中部も見ついている。

これら遺構・遺物は15区以東に多く分布する。

2 遺構

(1) 落とし穴（第17～21図）

B～D-19～21区の10層上面において4基検出した。分布が第4エリアに偏っている（第18図参照）。

最初に検出した1号は当初、落とし穴の可能性を想定していなかったが、他の土坑に比べて平面形態が細長く、埋土が異なっていたため、落とし穴の可能性を考慮して調査を行った。その結果、逆茂木痕を確認したことから落とし穴と認定した。その後検出した2～4号は当初から落とし穴の可能性を想定して調査を行った。

調査は長軸方向を基準として半裁した。その後埋土観察を行い、完掘後に断面スライス調査を行ったものと、半裁後に断面スライス調査を行ったものがある。

長軸方向がおおむね南北方向のもの（1・2号）と東西方向のもの（3・4号）がある。平面形態は楕円形または隅丸長方形を呈する。1号と2号はともに約1.9×1.4mの規模で規格性が認められる。1～3号は11層、4号は12層（シラス層）まで掘り込んでいる。全て底面で逆茂木痕が確認できたことから、落とし穴と認定した。

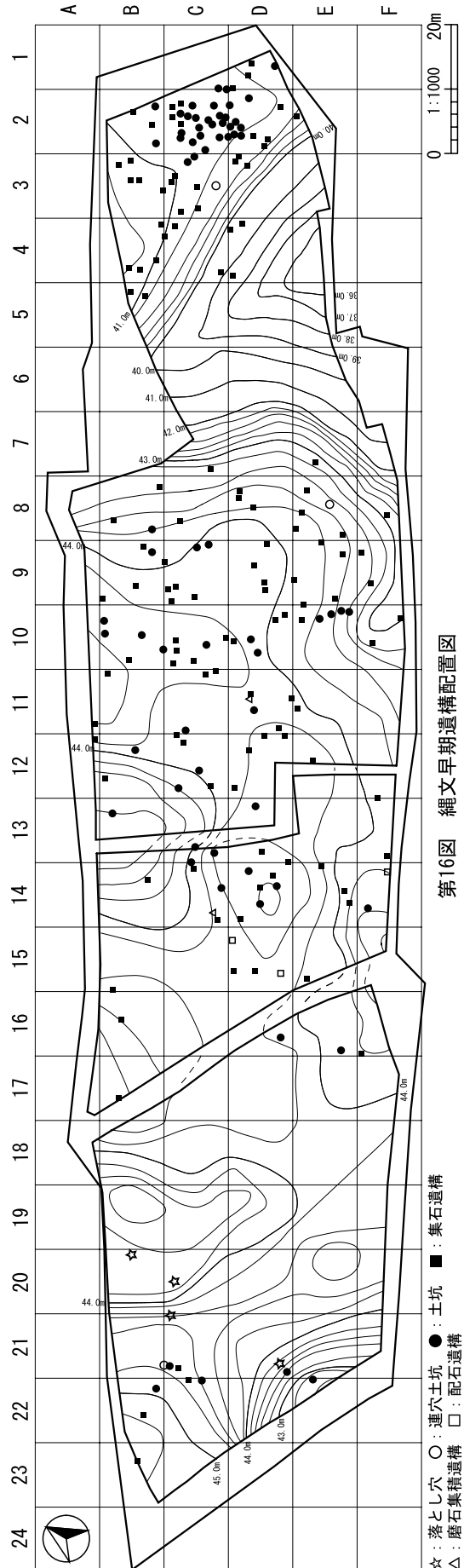
以下、個別の報告を行う。なお、各遺構の規模等の詳細は観察表を参照されたい。

落とし穴1号（SK57）

B-20号で検出した。半裁後に断面スライス調査を行い、底面で逆茂木痕を3本確認した。広い開口部から緩やかに底面に至る。底面は狭く、逆茂木痕は西側に寄っている。埋土は黒褐色（10YR2/2）砂質土で、締まっている。黄橙色パミスを含み、下部ほど多く含むようになる。そして下部ほど粘性が強くなる。逆茂木埋土は褐色（10YR4/6）シルト質土で、締まりがなく、粘性をもつ。

落とし穴2号（SK59）

C-21区で検出した。完掘後に断面スライス調査を行い、底面で逆茂木痕を3本確認した。開口部から11層上面付近に広いテラスをもち、底面に至る。埋土は黒褐色

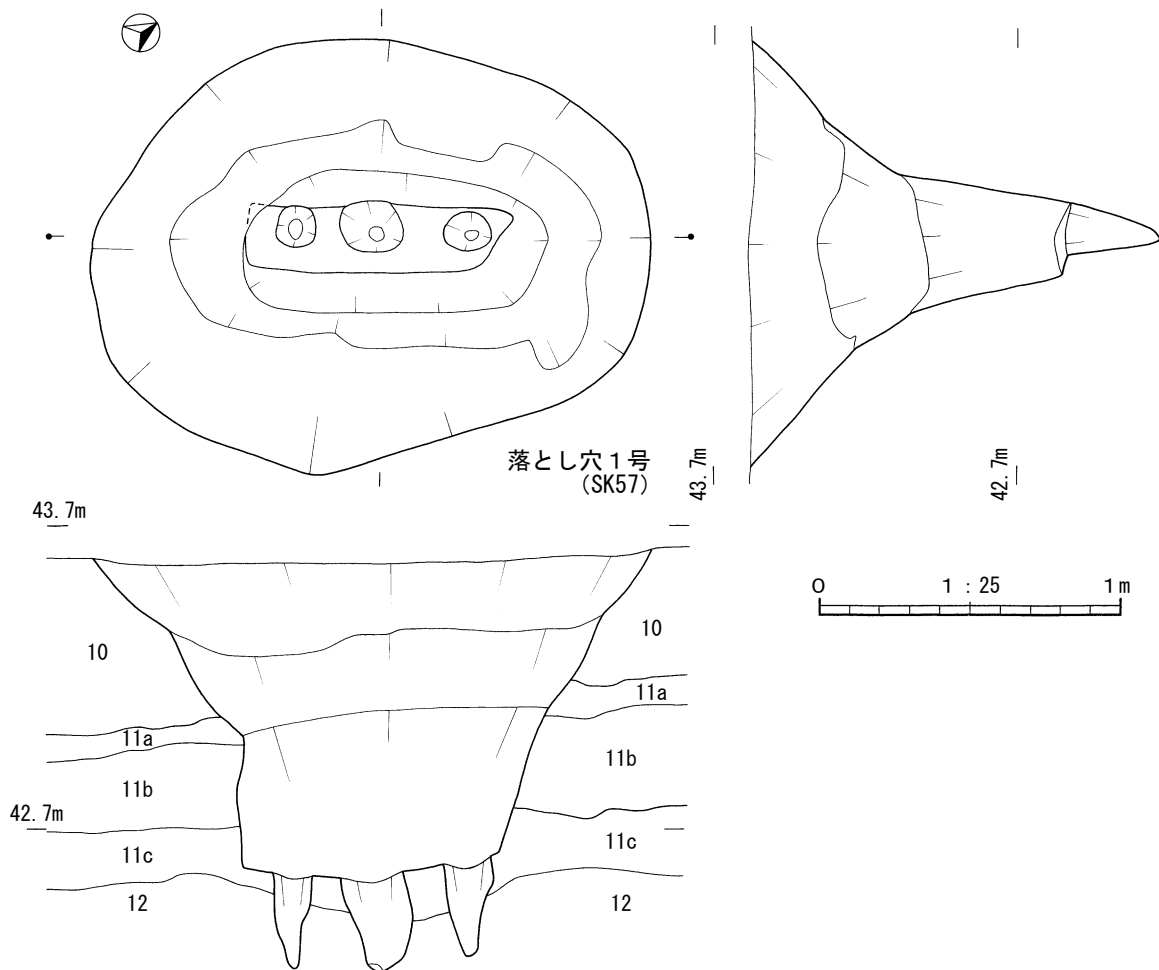


第16図 縄文時代早期遺構配置図

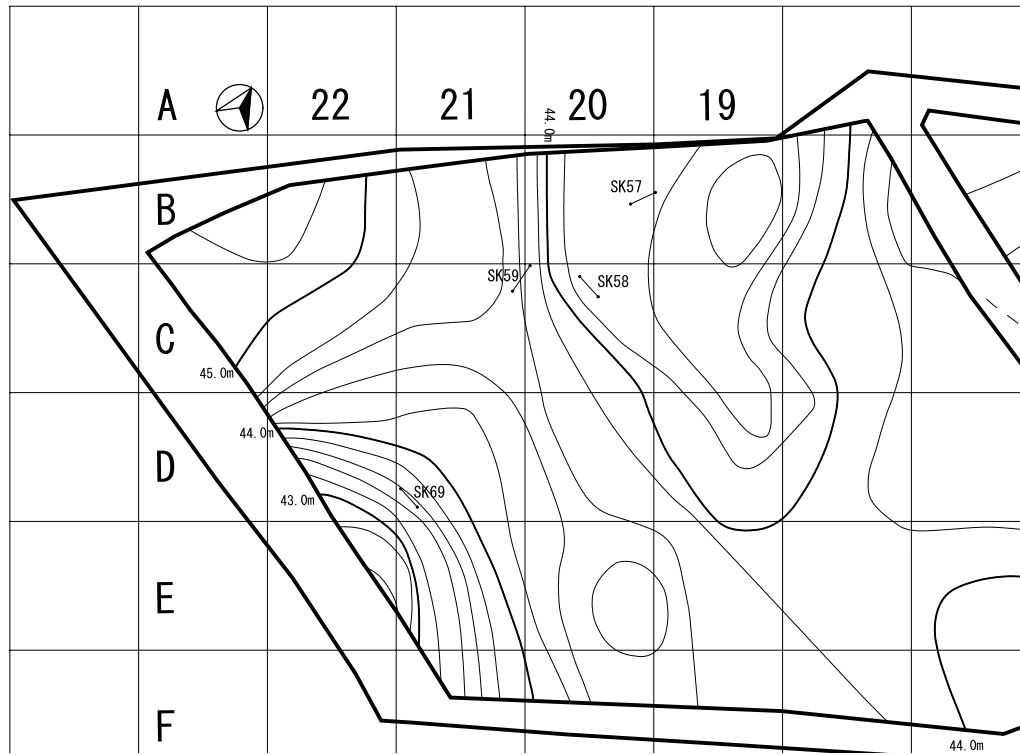
☆：落とし穴 ○：連穴土坑 ●：土坑 ■：集石遺構
□：磨石集積遺構 ▲：配石遺構

第5表 落とし穴観察表

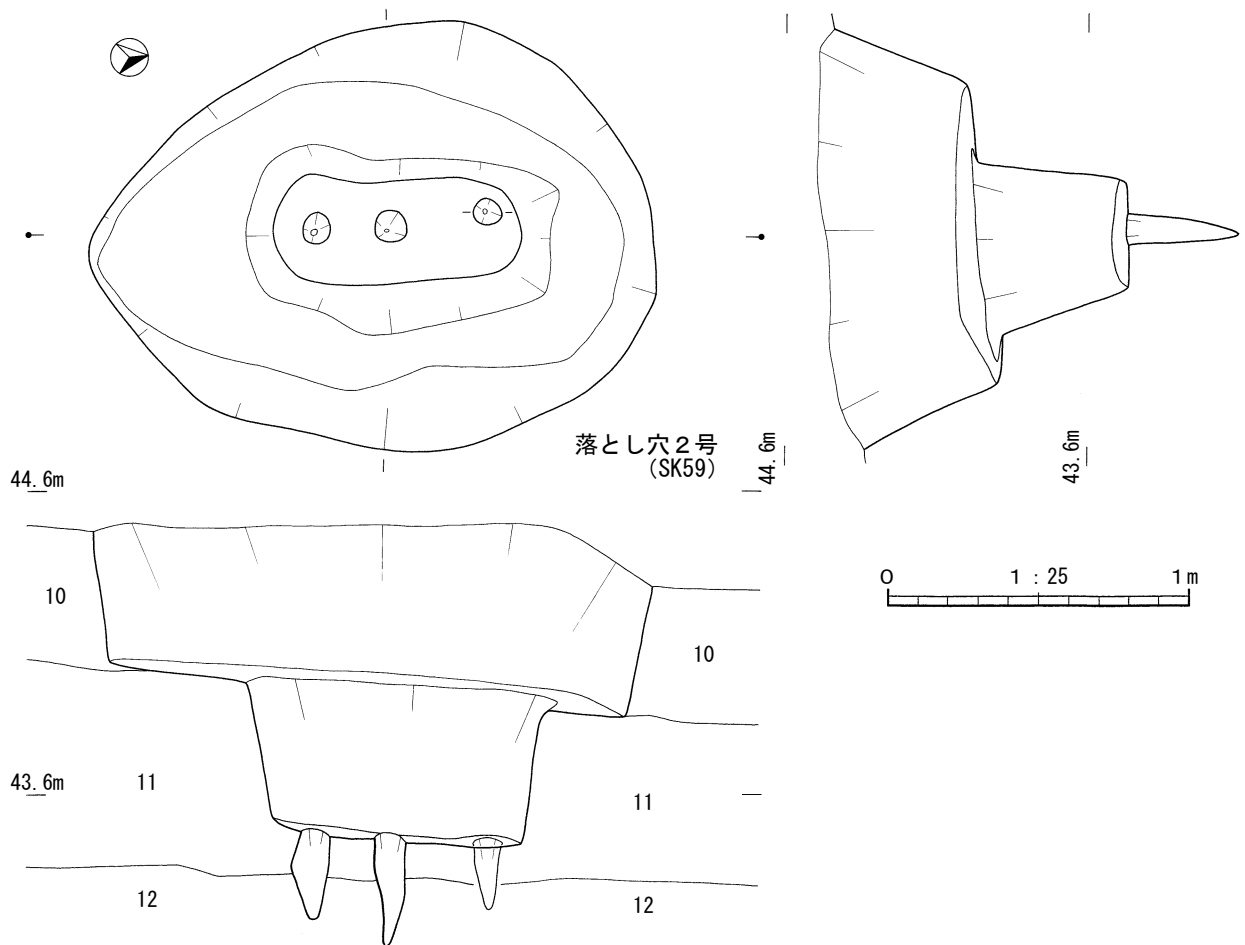
遺構名	検出区	検出面	規模(m)			底面規模(m)		ピット数	ピット規模(m)		
			長軸	短軸	深さ	長軸	短軸		長軸	短軸	深さ
落とし穴1 (SK57)	B-20	10層上面	1.84	1.43	1.02	0.83	0.24	3	0.14	0.13	0.31
									0.21	0.18	0.32
									0.16	0.12	0.31
落とし穴2 (SK59)	C-21	10層上面	1.87	1.42	0.95	0.82	0.34	3	0.11	0.09	0.29
									0.11	0.10	0.34
									0.10	0.08	0.23
落とし穴3 (SK58)	C-20	10層上面	1.82	1.15	1.10	0.91	0.33	4	0.09	0.08	0.24
									0.09	0.07	0.42
									0.05	0.03	0.22
									0.11	0.11	0.33
落とし穴4 (SK69)	D-21	10層上面	1.50	0.87	1.63	0.89	0.40	2	0.14	0.11	0.20
									0.15	0.12	0.33



第17図 縄文早期落とし穴(1)



第18図 縄文早期落とし穴位置図



第19図 縄文早期落とし穴（2）

(10YR2/2)シルト質土で、黄橙色パミスをわずかに含む。下部ほど粘性が強くなる。逆茂木痕埋土は褐色(10YR4/6)シルト質土で、締まりがない。

落とし穴3号 (SK58)

C-20区で検出した。完掘後に断面スライス調査を行い、底面で逆茂木痕を4本確認した。開口部から11a層上面付近にテラスをもち、底面に至る。逆茂木痕は底面の北側に寄っている。埋土は黒褐色(10YR2/2)砂質土で、かなり締まっている。黄橙色パミスをわずかに含む。逆茂木痕埋土は褐色(10YR4/6)シルト質土で、締まりがない。

落とし穴4号 (SK69)

D-21区で検出した。完掘後に断面スライス調査を行い、底面で逆茂木痕を2本確認した。1~3号に比べると深く、12層まで掘り込んでいる。途中でややくびれる断面形状を呈する。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、黄橙色パミスを多量に含む。下部ほど粘性が強くなる。逆茂木痕埋土は褐色(10YR4/6)シルト質土で、締まりがなく、弱い粘性がある。

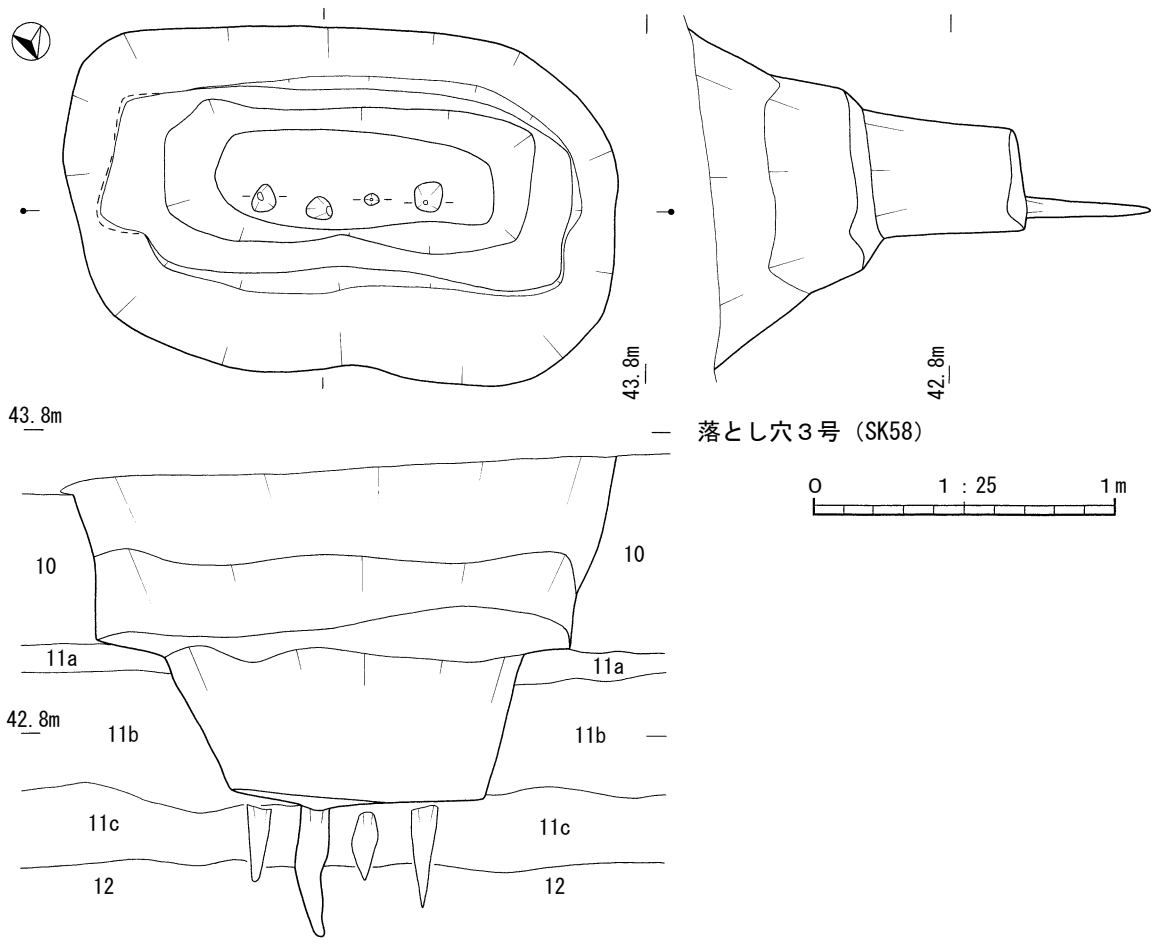
(2) 連穴土坑 (第22~24図)

2つの土坑が地中のトンネルでつながった土坑を連穴土坑とした。また、トンネルは認められないものの、ブリッジが崩落した可能性が高いと推測されるものも連穴土坑として扱った。本遺跡では3基確認した。全て10層上面において検出した。

なお、検出時から連穴土坑と判断できたものではなく、当初集石遺構として調査を行ったものや単なる土坑として調査を行ったものがある。

調査は基本的に長軸方向を基準に半裁し、埋土観察後に完掘した。埋土から土器や被熱破砕礫が出土しているものもある。

以下、個別の報告を行う。報告にあたっては連穴土坑の小さい土坑を「煙出部」、大きい土坑を「開口部」と称している。なお、各遺構の規模等の詳細は観察表を参照されたい。



— 落とし穴3号 (SK58)

第20図 縄文早期落とし穴 (3)

連穴土坑 1号 (SK106)

C-3区で検出した。当初、開口部上面に礫がまとまっていたことから、掘り込みをもつ集石遺構 (SS16) として調査を行っていたが、掘り込み (本来は開口部) の完掘作業途中でブリッジとトンネル部が確認できたため、連穴土坑と判断した。そのため、実測図の長軸方向がずれている。煙出部がかなり広がっているが、本来の立ち上がりは断面図の破線部と推測した。11b層まで掘り込んでいる。

埋土は黒褐色 (10YR2/2) シルト質土で、締まっているが、下部ほど締まりが弱くなる。黄橙色パミスをわずかに含む。検出面上位より、10-2類土器の口縁部片 (第77図 136) と10類土器の胴部片 (第78図 146) が出土した。

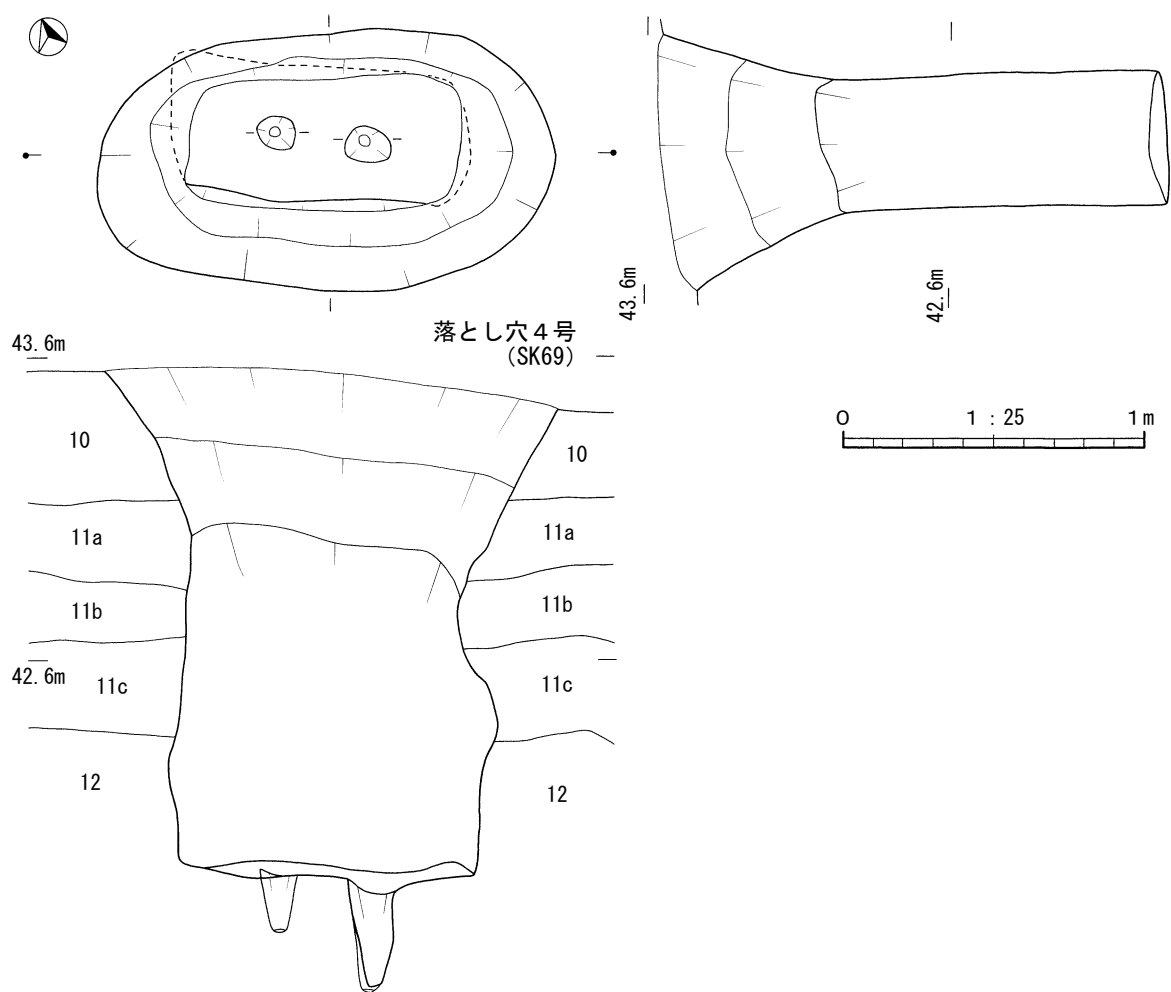
連穴土坑 2号 (SK55)

E-8区で検出した。当初、礫が認められたため、集石の掘り込みが2つ並んでいると想定して調査を行っていたが、半裁作業時にブリッジとトンネル部、そして焼土 (網掛け部) が認められたため、連穴土坑と判断した。12層まで掘り込んでいる。

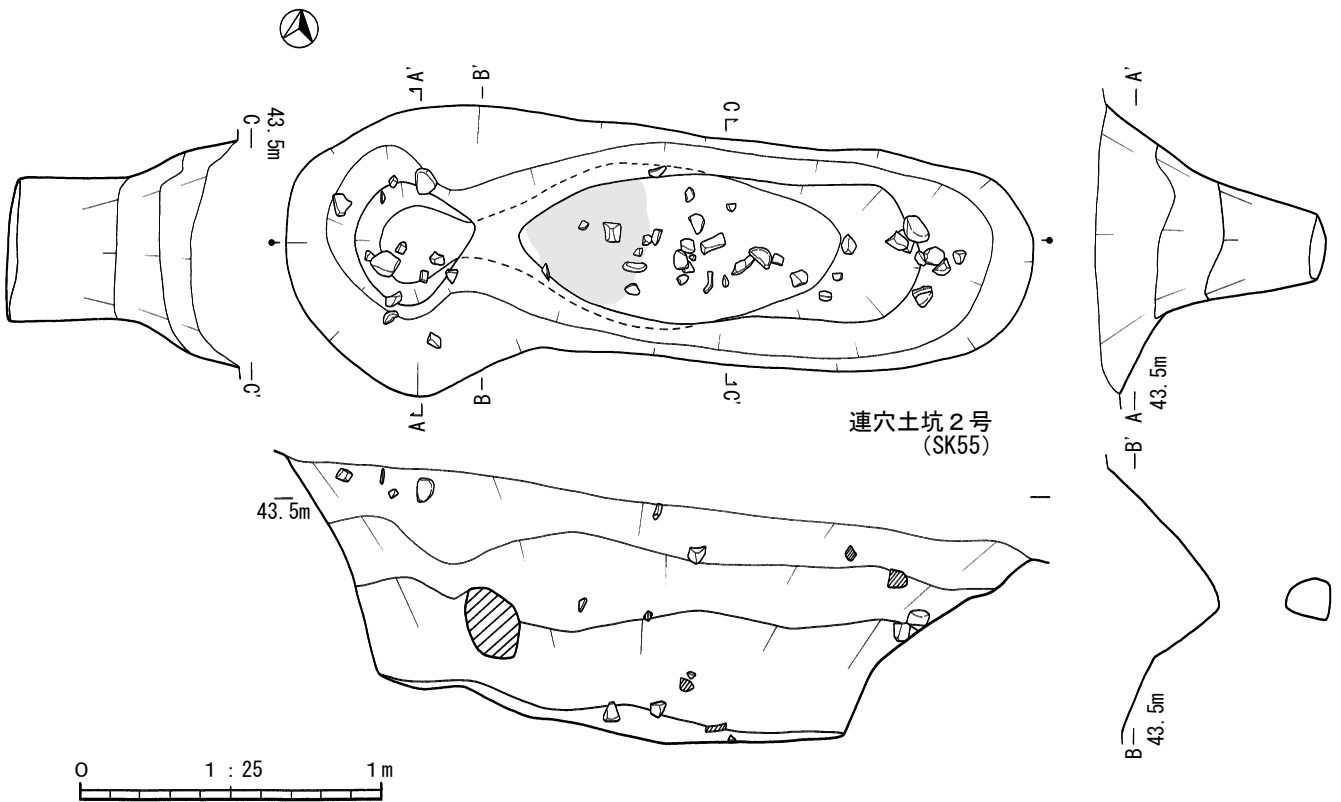
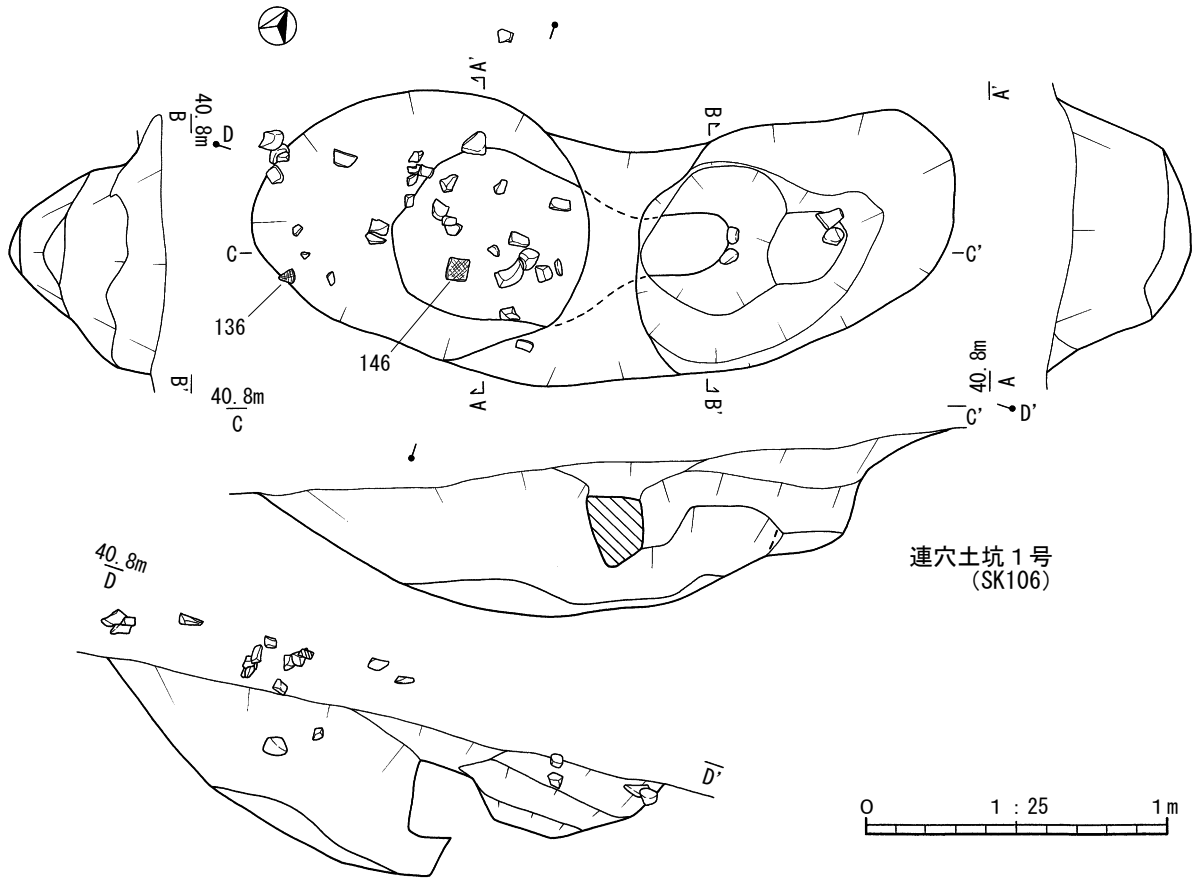
開口部の埋土は黒褐色 (10YR2/2) シルト質土で、黄橙色パミスを多く含む。煙出部の埋土は黒褐色 (10YR2/2) シルト質土で、黄橙色パミスが開口部より少ない。

連穴土坑 3号 (SK62)

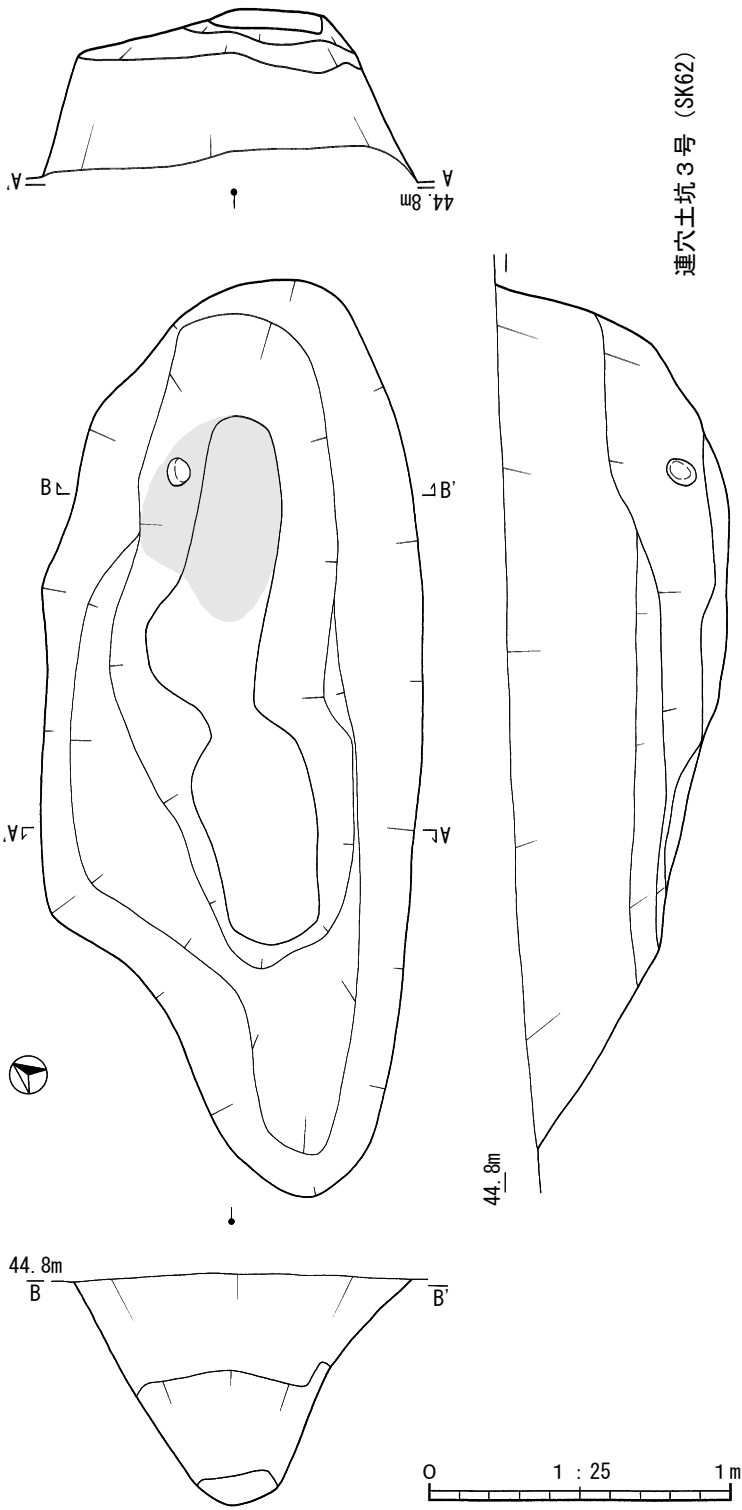
B-21区で検出した。底面で焼土 (網掛け部) が確認できたことと平面形態から、ブリッジが崩落した連穴土坑の可能性が高いと判断した。埋土は黒褐色 (10YR2/3) シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスを多量に含む。



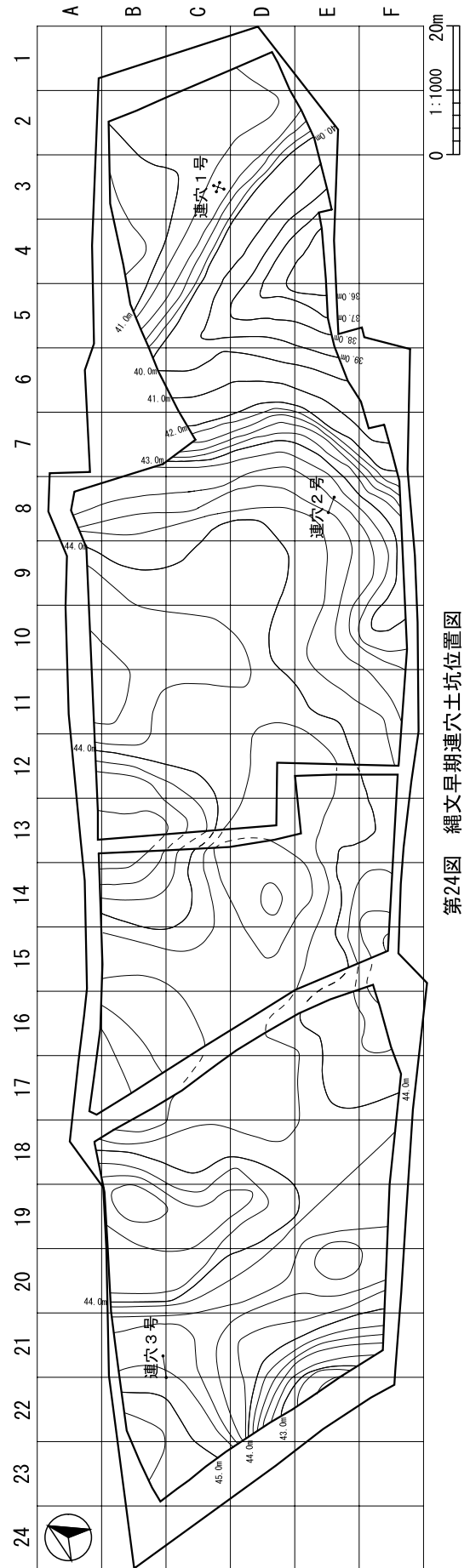
第21図 縄文早期落とし穴 (4)



第22図 縄文早期連穴土坑 (1)



第23図 縄文早期連穴土坑 (2)



第24図 縄文早期連穴土坑位置図

第6表 連穴土坑観察表

遺構名	検出区	検出面	全長(m)		開口部(m)			煙出部(m)			トンネル部(m)			ブリッジ	焼土
			長軸	短軸	長軸	短軸	深さ	長軸	短軸	深さ	長軸	短軸	深さ		
連穴土坑1 (SK106)	C-3	10層上面	2.32	0.87	1.10	0.87	0.50	1.06	0.73	0.46	0.17	0.74	0.13	○	×
連穴土坑2 (SK107)	E-8	10層上面	2.46	0.95	1.69	0.74	0.78	0.62	0.95	0.72	0.15	0.84	0.15	○	○
連穴土坑3 (SK62)	B-21	10層上面	3.00	1.25	-			-			-			×	○

(3) 土坑 (第25~36図)

人為的に掘り込まれた竪穴状の遺構を土坑とした。本遺跡では74基認定した。当初土坑として調査を行ったものの、埋土内から被熱破砕礫が多数出土したものは整理作業・報告書作成作業時に、集石遺構として認定を改めたものもある。具体的には、SK10→SS124、SK41→SS127、SK49→SS128、SK60→SS129、SK83→SS125、SK105→SS126である。したがって、これらは欠番となる。また調査の都合により、SK4・5・12~20・56・65~68も欠番となっている。

ほとんどの土坑は10層上面で検出している。掘り下げは半裁法を用いて、埋土の違いを確認しながら移植ゴテで行った。

平面形態は円形、楕円形、不定形など様々である。ほとんどが単独で検出されているが、複数の土坑が切り合っているもの、または切り合っている可能性があるものも認められる。検出面からの深さは浅いものが多い。埋土は9層土と酷似しており、判別が困難である。

埋土内から土器や石器、被熱破砕礫が出土するものもある。なお、出土遺物の一部は凶化し、遺物の項目に掲載している。

報告にあたっては、規模(全長1.5m以上)と礫の有無から、以下の4つに分類した。

- I類：全長1.5m以上で、礫が認められるもの。
- II類：全長1.5m以上で、礫が認められないもの。
- III類：全長1.5m未満で、礫が認められるもの。
- IV類：全長1.5m未満で、礫が認められないもの。

以下、個別の報告は地形から4つに分けたエリアごとに、I類からIV類の順で行う。なお、各土坑の規模等の詳細は観察表を参照されたい。

第1エリア (第26~29図)

このエリアでは35基検出した。内訳はIII類が20基、IV類が15基である。

III類 (第26~28図)

土坑9号 (SK9)

D-2区で検出した。複数の土坑が切り合っている可能性が高いが、平面や埋土からは判断できなかった。埋土は黒褐色(10YR3/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスと炭化物粒を含む。埋土上~中位からチャート1類剥片が7点、礫が18点出土した。

土坑7号 (SK7)

C-3区で検出した。埋土は黒褐色(10YR3/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスや炭化物粒をわずかに含む。床面から礫が1点出土した。

土坑8号 (SK8)

C-2・3区で検出した。埋土は暗褐色(10YR3/3)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスを多く含み、炭化物粒をわずかに含む。埋土上位から礫が1点出土した。

土坑11号 (SK11)

D-11区で検出したもので、調査区外に広がる。調査区壁面で土坑の立ち上がりを精査したが、判断できなかった。掘り込み検出面上位において出土した礫は土坑に伴うものと推測できる。埋土は黒褐色(10YR3/1)シルト質土で、締まっている。炭化物粒をわずかに含む。埋土と9層土との区別は困難であった。

土坑76号 (SK76)

C-2区で検出した。検出面から礫が1点出土した。

土坑77号 (SK77)

C-2区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスをわずかに含む。埋土から礫が1点出土した。

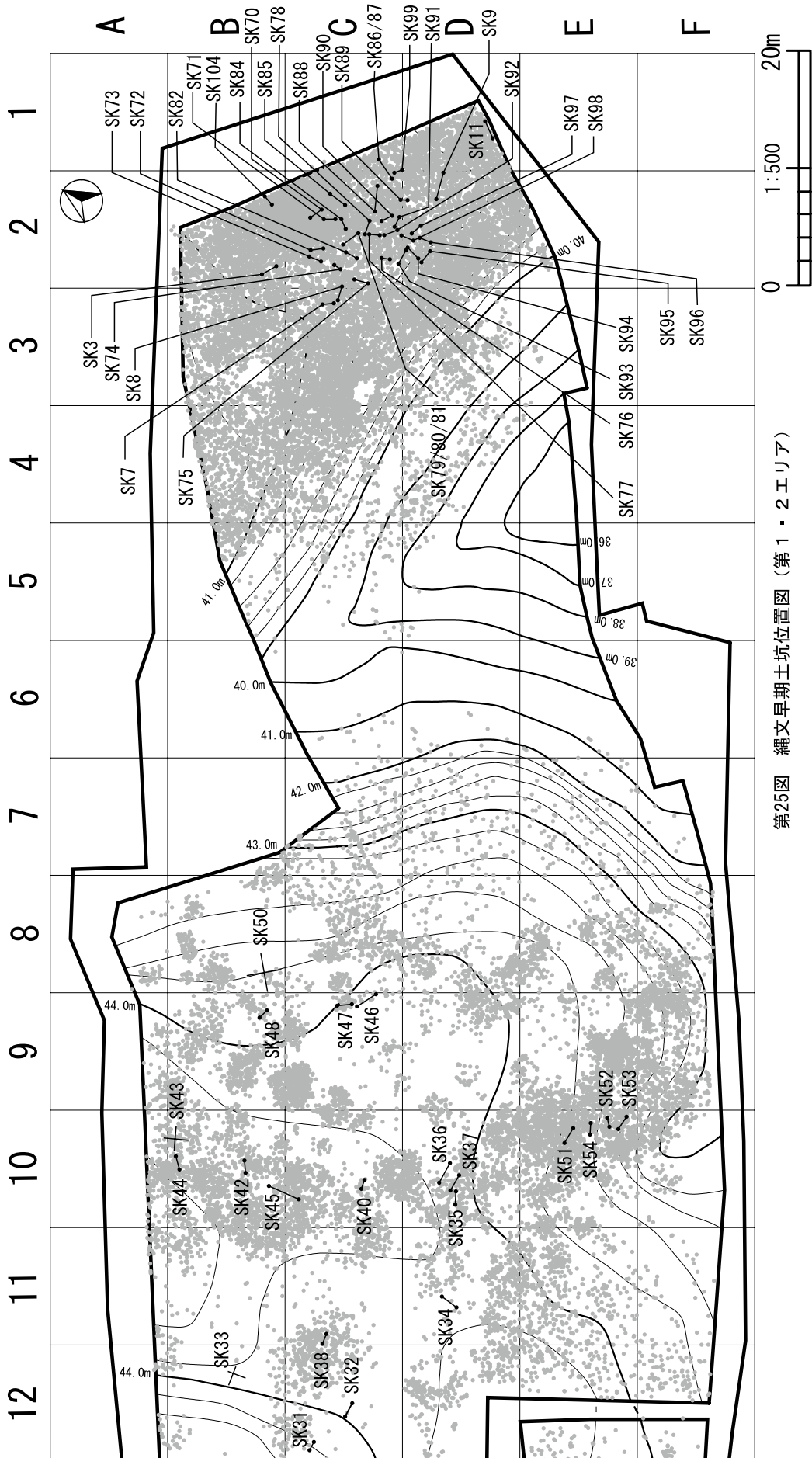
土坑78号 (SK78)

C-2区で検出した。他と比べて深めのもので、テラスをもつ。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスをわずかに含む。埋土上位で黒曜石1類剥片が1点、礫が1点出土した。

土坑84号 (SK84)

C-2区で検出した。埋土上位から礫が2点出土した。

土坑85号 (SK85)



第25図 縄文早期土坑位置図 (第1・2エリア)

C-2区で検出した。埋土から礫が7点、床面から10類土器の胴部片(第78図151)が出土した。

土坑 86・87号 (SK86・87)

C-2区で検出した。切り合いの先後関係は平面や埋土から判断できなかった。埋土はともに黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まりが弱く、炭化物粒をわずかに含む。土坑86号の埋土中位から条痕文土器の胴部小片が1点、黒曜石1類剥片が1点出土した。

土坑 88号 (SK88)

C-2区で検出した。2つの土坑が切り合っている可能性が高いが、平面や埋土からは判断できなかった。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスをわずかに含む。

土坑 92号 (SK92)

C-2区で検出した。テラスをもつ。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスをわずかに含む。埋土から14類土器の胴部小片が出土した。

土坑 93号 (SK93)

C・D-2区で検出した。埋土は黒褐色(10YR3/3)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスと炭化物粒をわずかに含む。埋土上位から礫1点と、14-2類土器の胴部片(第85図203の一部)が出土した。

土坑 94号 (SK94)

D-2区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスと炭化物粒をわずかに含む。埋土下位から礫が3点出土した。

土坑 95号 (SK95)

D-2区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まっている。炭化物粒をわずかに含む。床面から礫が3点出土した。

土坑 96号 (SK96)

D-2区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まりが弱い。埋土から礫が5点出土した。

土坑 97号 (SK97)

D-2区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まっている。検出面から礫が1点出土した。

土坑 99号 (SK99)

C-1・2区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスをわずかに含む。

土坑 104号 (SK104)

B-2区で検出した。土坑の北側は調査区外に広がる。また、土坑の南側は崩落により形状不明である。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まっている。

IV類 (第28・29図)

土坑 70号 (SK70)

C-2区で検出した。

土坑 71号 (SK71)

C-2区で検出した。

土坑 72号 (SK72)

C-2区で検出した。中央が深く、両側にテラスをもつ。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスをわずかに含む。

土坑 73号 (SK73)

C-2区で検出した。

土坑 74号 (SK74)

C-2区で検出した。埋土は黒褐色(10YR3/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスをわずかに含む。

土坑 75号 (SK75)

C-2区で検出した。埋土は黒褐色(10YR3/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスをわずかに含む。

土坑 79・80・81号 (SK79・80・81)

C-2区で検出した。3つの土坑が切り合っており、平面で切り合いの先後関係が判断できた。81号が新しく、順に79号、80号となる。79号の埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスと白色粒をわずかに含む。80号の埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスをわずかに含む。81号の埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。炭化物粒をわずかに含む。

土坑 82号 (SK82)

C-2区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスをわずかに含む。

土坑 89号 (SK89)

C・D-2区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスをわずかに含む。

土坑 90号 (SK90)

C-2区で検出した。

土坑 91号 (SK91)

C-2区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まっている。白色粒を多く含む。

土坑 98号 (SK98)

D-2区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスをわずかに含む。

土坑 3号 (SK3)

B-2区の9層上位で検出した。埋土は暗褐色(7.5YR3/3)シルト質土で、締まっている。黄色・黄橙色パミスを多量に含む。他の土坑とは検出面や埋土が異なる。

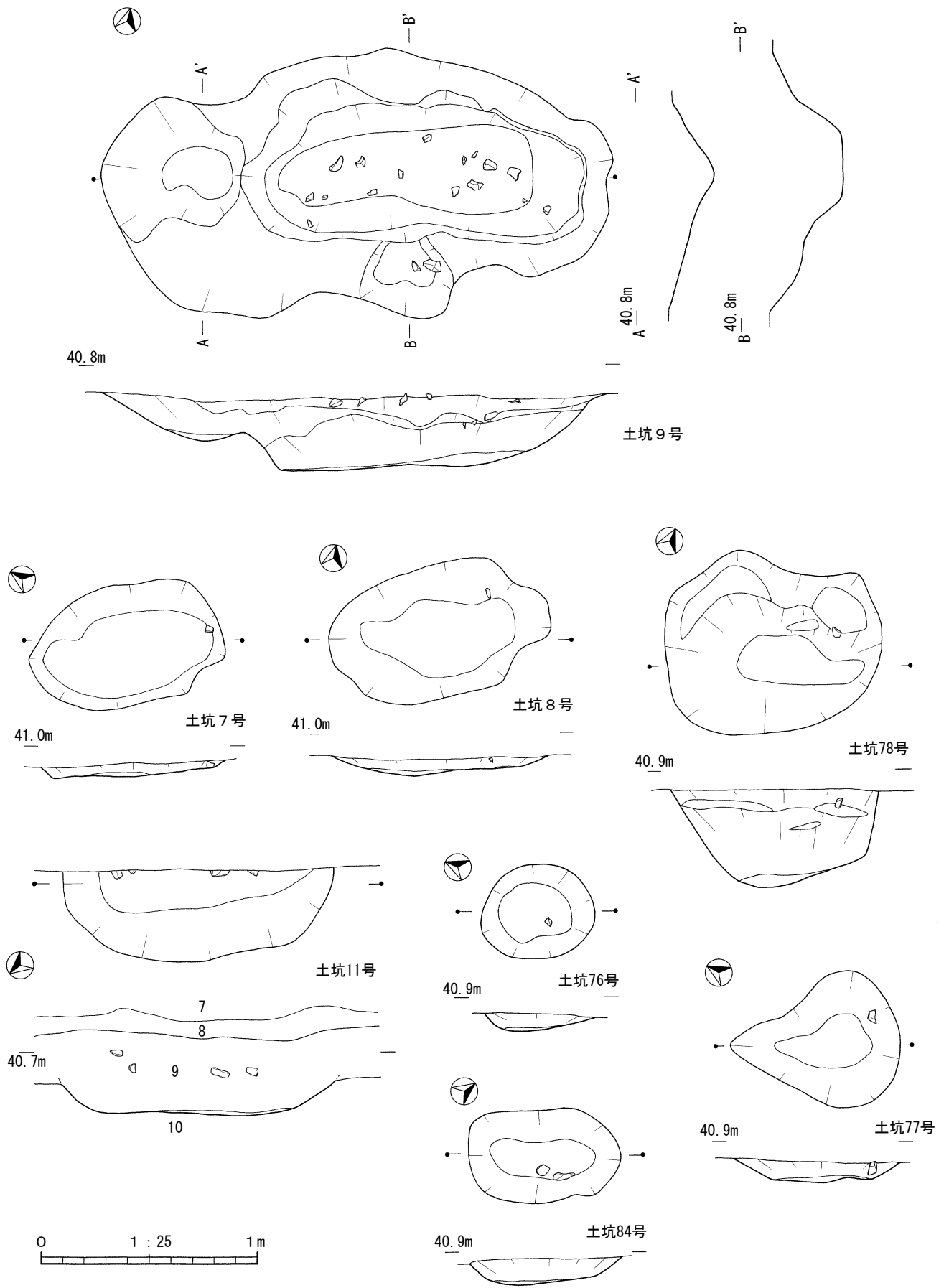
第2エリア (第29~33図)

このエリアでは23基検出した。内訳はI類が3基、II類が1基、III類が13基、IV類が6基である。I・II類土坑が、標高の高いA・B-8~10区に偏っている。

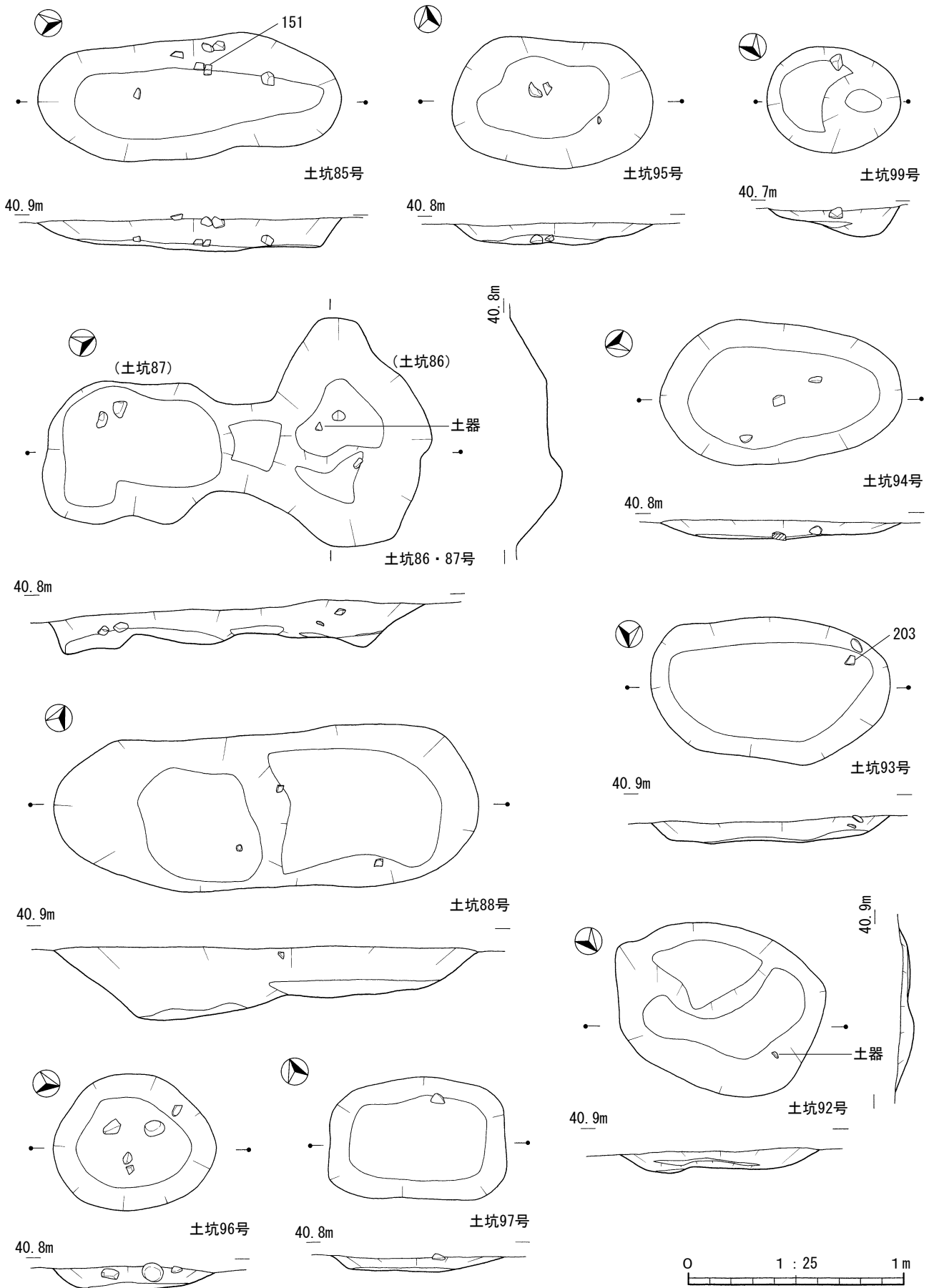
I類 (第29・30図)

土坑 50号 (SK50)

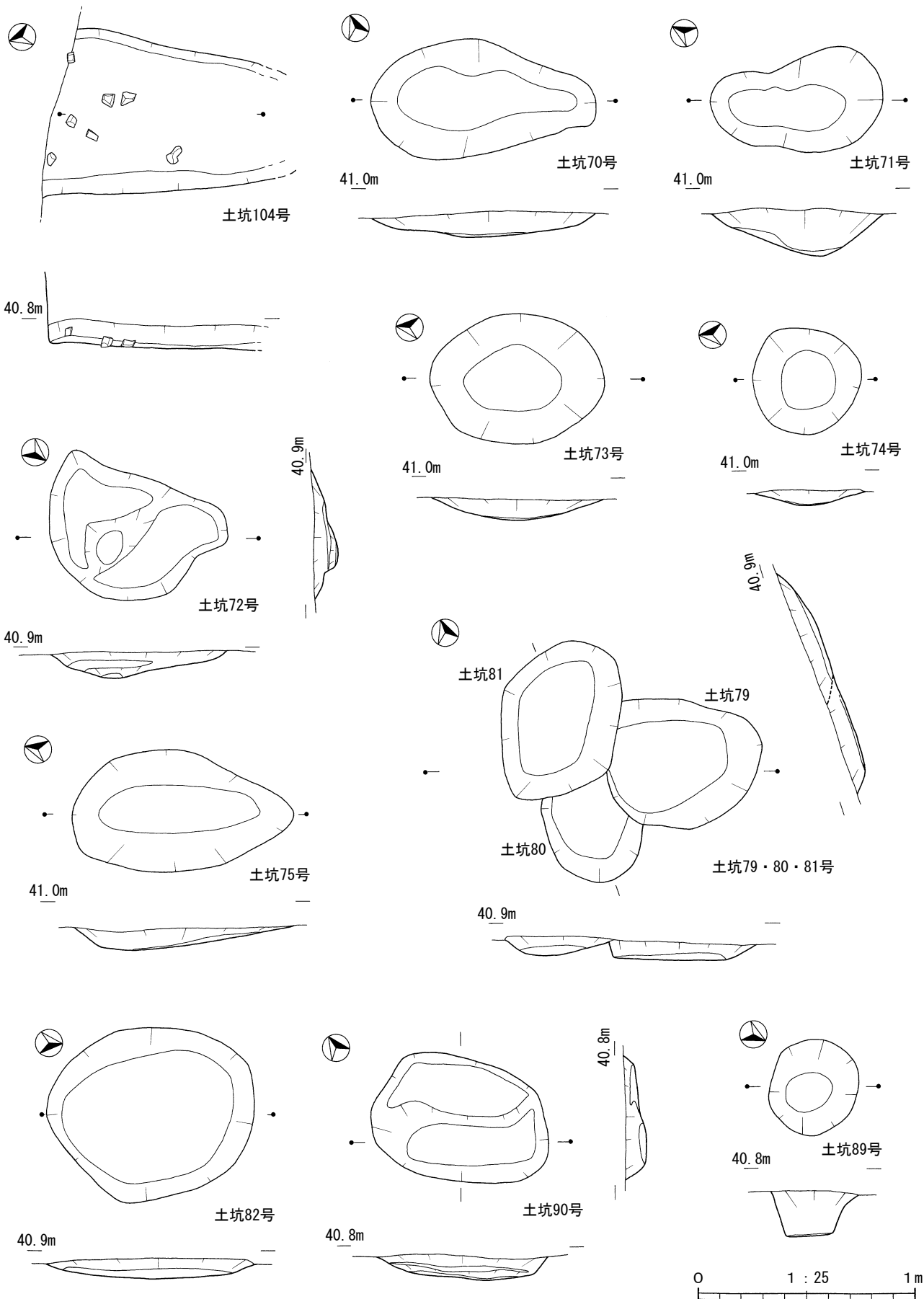
B-8区で検出した。全長が約2.5mを測り、本遺跡



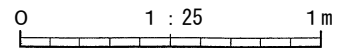
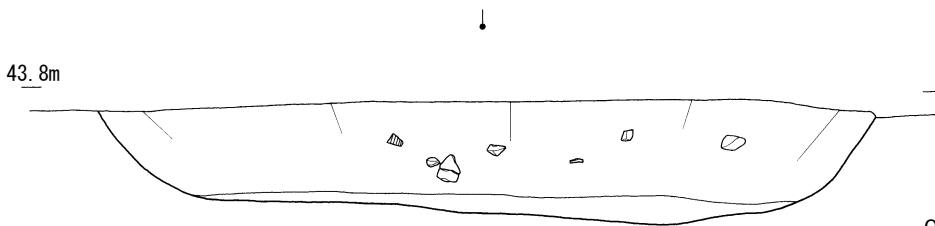
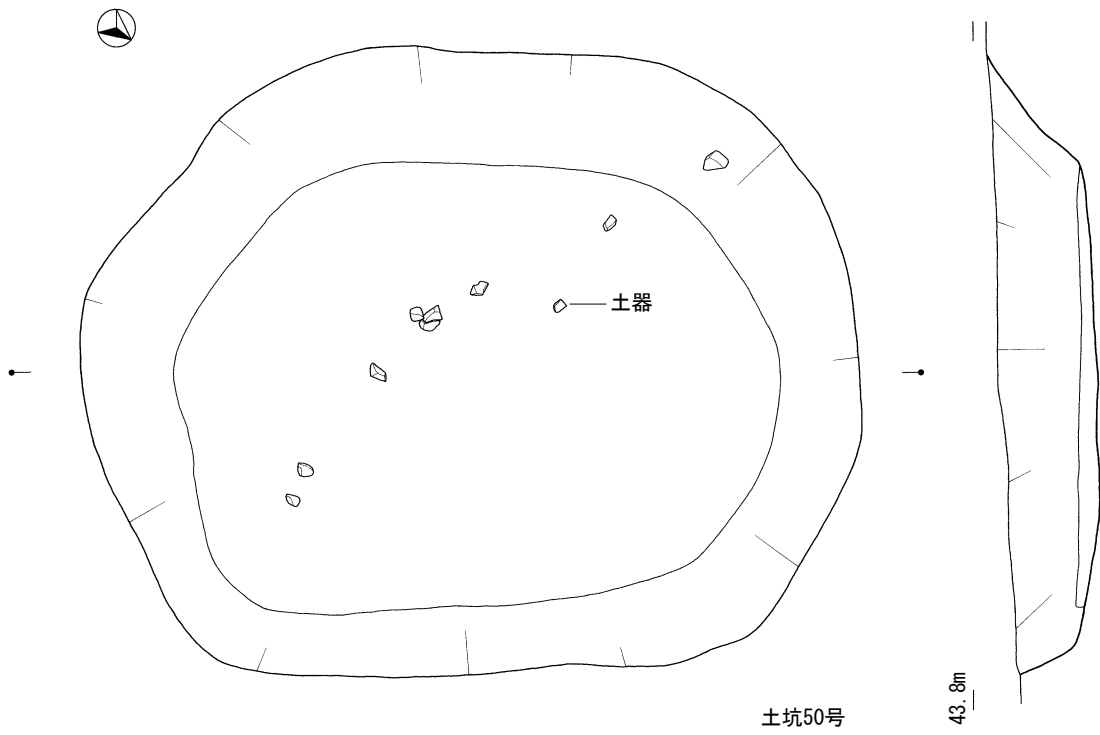
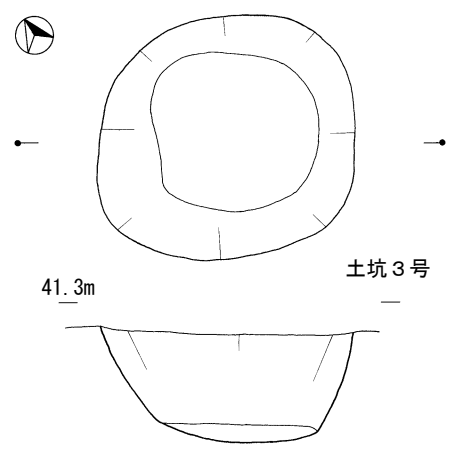
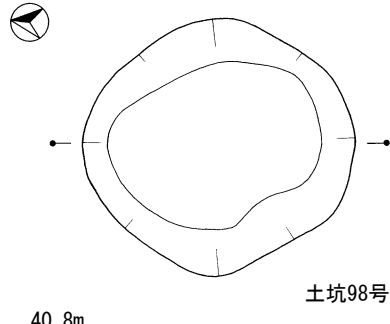
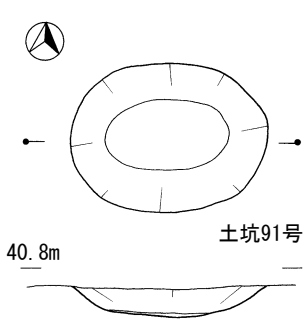
第26図 第1エリア土坑(1)



第27図 第1エリア土坑(2)



第28図 第1エリア土坑(3)



第29図 第1エリア土坑(4)・第2エリア土坑(1)

において最大の土坑である。堅穴建物の可能性も考慮して調査を行ったものの、焼土や柱穴は確認できず、堅穴建物とは確定できなかった。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスを多量に含む。埋土中位から礫が8点と、早期土器の底部片が1点出土した。

土坑 45 号 (SK45)

B・C-10区で検出した。全長が2m以上で、堅穴建物の可能性も考慮して調査を行ったものの、焼土や柱穴は確認できず、堅穴建物とは確定できなかった。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスを多量に含む。埋土から礫が2点と、6類土器の胴部片(第71図90の一部)が出土した。

土坑 43 号 (SK43)

A・B-10区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスを多量に含む。埋土上位から礫が2点、下位から6類土器の胴部片(第71図90の一部)が出土した。

Ⅱ類 (第31図)

土坑 46 号 (SK46)

C-9区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスをわずかに含む。

Ⅲ類 (第31・32図)

土坑 31 号 (SK31)

C-12区で検出した。埋土は黒褐色(10YR3/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスを含む。検出面上位で礫が4点出土した。

土坑 32 号 (SK32)

C-12区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスをわずかに含む。検出面上位で礫が1点出土した。

土坑 33 号 (SK33)

B-12区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/1)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスを多く含む。検出面及び埋土から礫が3点、埋土中位から6類土器の胴部片(第70図87)が出土した。

土坑 36 号 (SK36)

D-10区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスをわずかに含む。検出面から礫が4点出土した。

土坑 37 号 (SK37)

D-10区の9層下位で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスをわずかに含む。検出面及び埋土から礫が7点と14-1類土器の口縁部片(第84図195の一部)が出土した。

土坑 40 号 (SK40)

C-10区で検出した。埋土は黒色(10YR2/1)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスをわずかに含む。炭

化物粒を多量に含む。埋土から礫が6点出土した。

土坑 42 号 (SK42)

B-10区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスをわずかに含む。検出面及び埋土から礫が3点出土した。

土坑 44 号 (SK44)

B-10区で検出した。両側にテラスをもつ。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスをわずかに含む。埋土から礫が1点出土した。

土坑 48 号 (SK48)

B-9区の9層下位で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/1)シルト質土で、締まっている。炭化物粒をわずかに含む。9層土よりかなり黒味が強。検出面から礫が3点出土した。

土坑 51 号 (SK51)

E-10区で検出した。東南側に小さなテラスをもつ。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスをわずかに含む。検出面及び埋土から礫が6点出土した。

土坑 52 号 (SK52)

E-10区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスと白色粒を含み、炭化物粒をわずかに含む。埋土から礫が9点出土した。

土坑 53 号 (SK53)

E-10区で検出した。南側が一段深くなっており、2つの土坑が切り合っている可能性もあるが、平面と埋土からは判断できなかった。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスをわずかに含む。埋土から礫が4点出土した。

土坑 54 号 (SK54)

E-10区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスを含み、炭化物粒をわずかに含む。埋土から礫が1点出土した。

Ⅳ類 (第33図)

土坑 29 号 (SK29)

B-13区で検出した。他の土坑と比べて深めである。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。

土坑 34 号 (SK34)

D-11区で検出した。埋土は暗褐色(10YR3/3)シルト質土で、締まりは弱い。

土坑 35 号 (SK35)

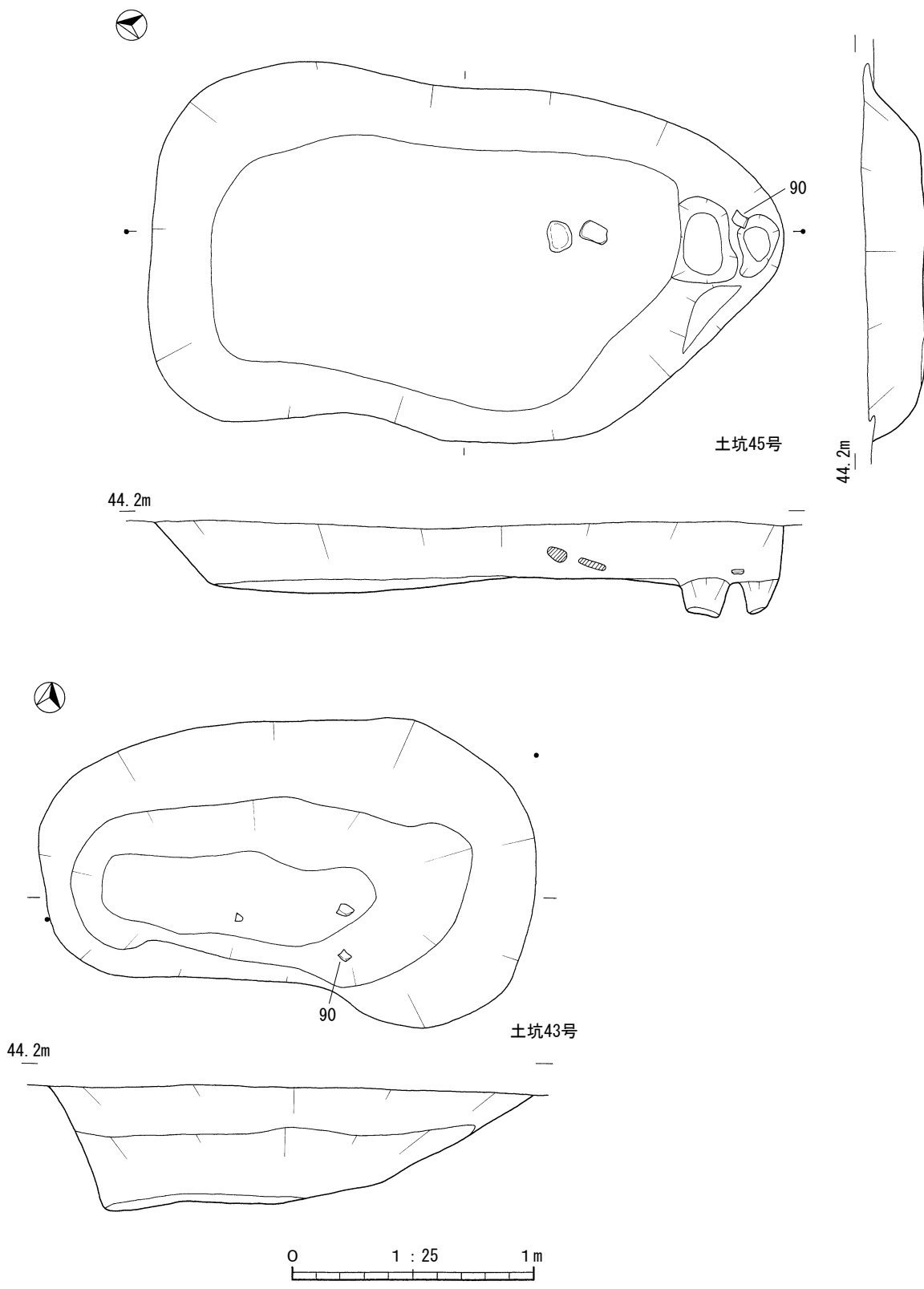
D-10区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスをわずかに含む。

土坑 38 号 (SK38)

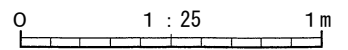
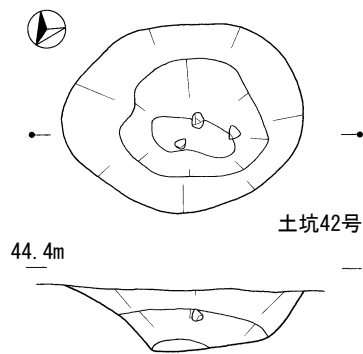
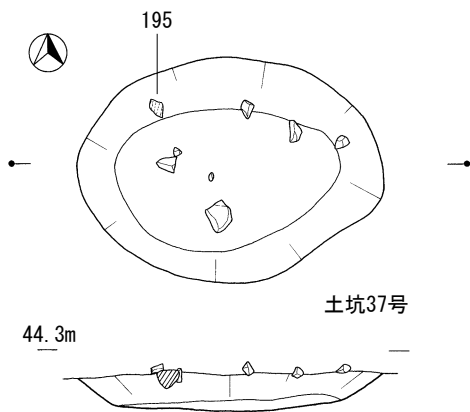
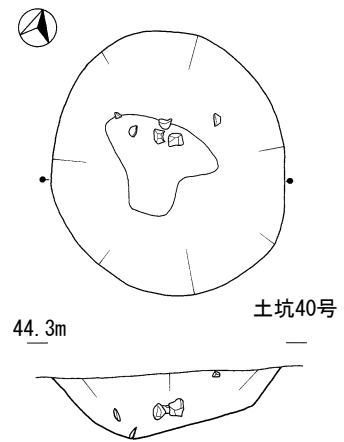
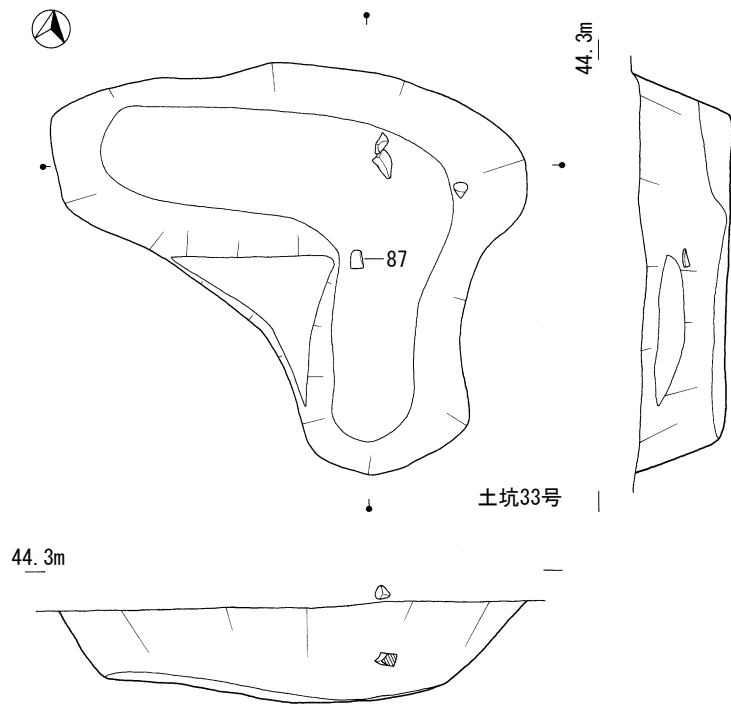
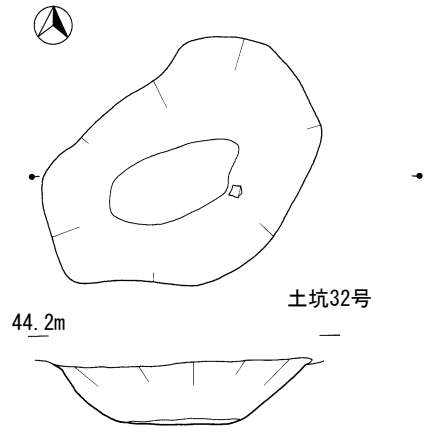
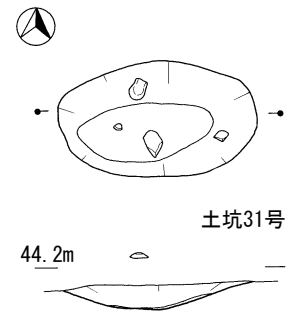
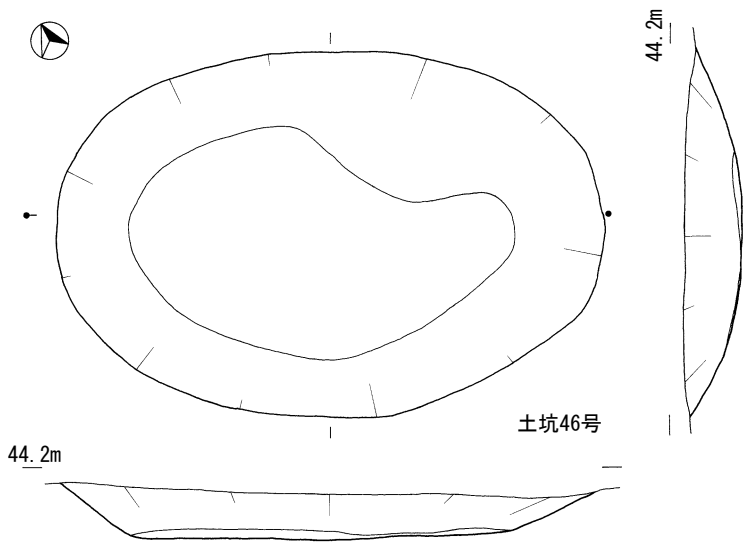
C-11区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスをわずかに含む。

土坑 39 号 (SK39)

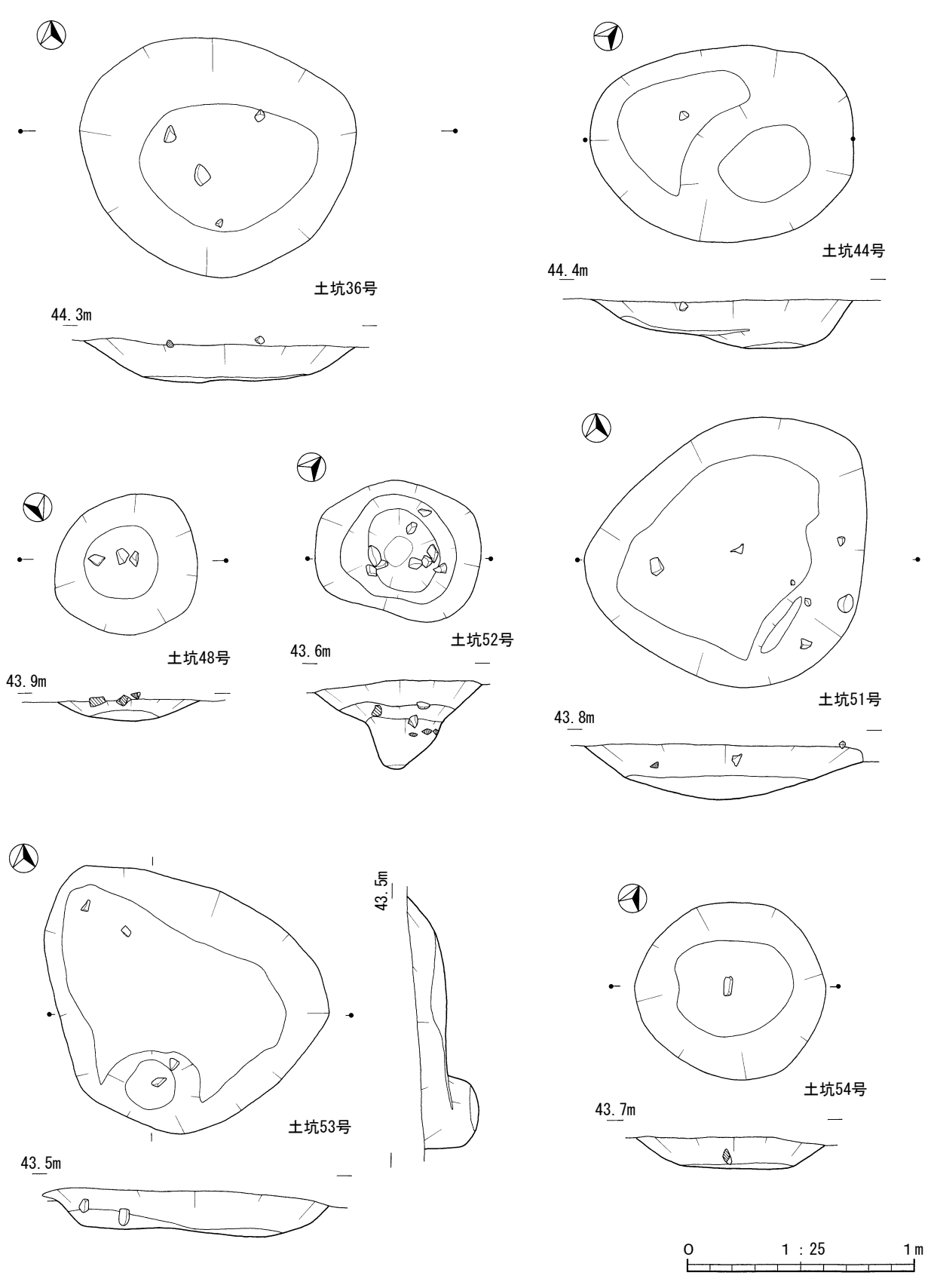
D-11区で検出した。10層上面で検出したが、9層掘



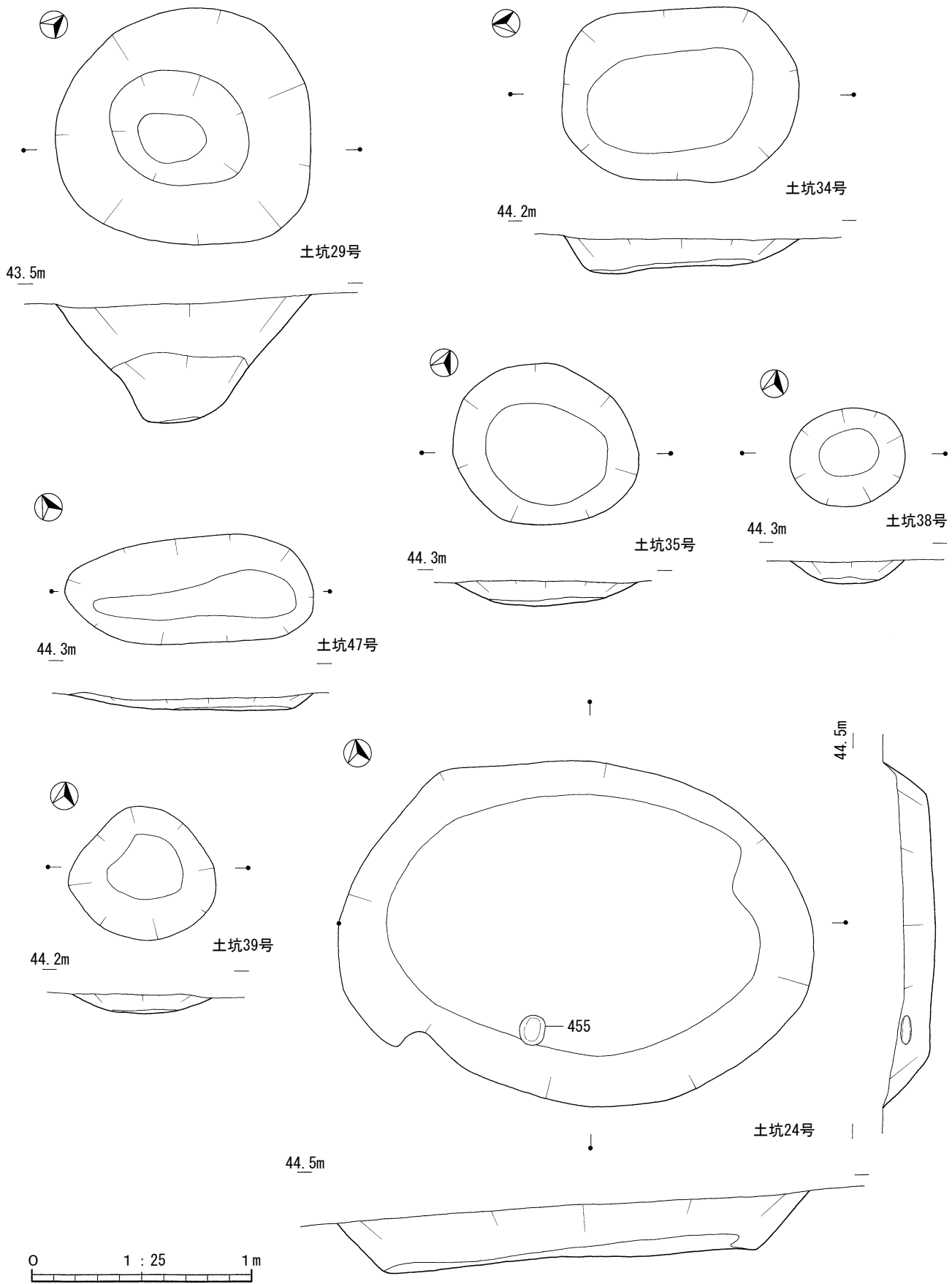
第30図 第2エリア土坑(2)



第31図 第2エリア土坑(3)



第32図 第2エリア土坑(4)



第33図 第2エリア土坑(5)・第3エリア土坑(1)

り下げ中から周囲に比べて土色の黒味が強かった。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスや炭化物粒をわずかに含む。

土坑 47 号 (SK47)

C-9 区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスをわずかに含む。

第 3 エリア (第 33・35・36 図)

このエリアでは 11 基検出した。内訳は I 類が 1 基、II 類が 1 基、IV 類が 9 基である。標高の高い D-14 区に分布が偏る。また、礫を伴うものがほとんど認められない。

I 類 (第 33 図)

土坑 24 号 (SK24)

C-14 区で検出した。全長が 2 m 以上で、堅穴建物の可能性を考慮して調査を行ったものの、焼土や柱穴は確認できず、堅穴建物とは確定できなかった。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスを含む。下部は 11a 層土を含む。検出面上位から 14 類土器の胴部小片が、埋土から磨石・敲石 1 類(第 118 図 455)が出土した。

II 類 (第 35 図)

土坑 102 号 (SK102)

D-16 区で検出した。他の土坑より深めで、テラスをもつ。落とし穴の可能性も考慮して調査を行ったものの、逆茂木痕は認められなかった。埋土は黒褐色(10YR2/2)やや砂質土で、締まっている。黄橙色パミスをわずかに含む。

IV 類 (第 35・36 図)

土坑 21 号 (SK21)

D-14 区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まりは弱い。黄橙色パミスをわずかに含む。

土坑 22 号 (SK22)

D-14 区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスを含む。

土坑 23 号 (SK23)

D-14 区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスを含み、炭化物粒をわずかに含む。

土坑 25 号 (SK25)

C-13 区で検出した。検出面は 10 層上面であるが、9 層掘り下げ中から土色が周囲に比べて黒味が強かった。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスを含む。

土坑 26 号 (SK26)

C-13 区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まっている。白色粒を多く含み、炭化物粒をわずかに含む。

土坑 27 号 (SK27)

C-13 区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスを多量に含む。

土坑 28 号 (SK28)

F-14 区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスをわずかに含む。

土坑 30 号 (SK30)

D-13 区で検出した。9 層掘り下げ中から周囲に比べて土色の黒味が強かった。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスをわずかに含む。

土坑 103 号 (SK103)

E-16 区で検出した。中央部が突出しており、2 つの土坑が重複している可能性もある。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスが多量に含む。

第 4 エリア (第 36 図)

このエリアでは 5 基検出した。内訳は II 類が 1 基、IV 類が 4 基である。他のエリアと比べると深めのものが多い。

II 類 (第 36 図)

土坑 100 号 (SK100)

E-21・22 区で検出した。西側の一部は掘り過ぎている。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスが多量に含む。

IV 類 (第 36 図)

土坑 61 号 (SK61)

B-22 区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まりが弱い。黄橙色パミスをわずかに含む。

土坑 63 号 (SK63)

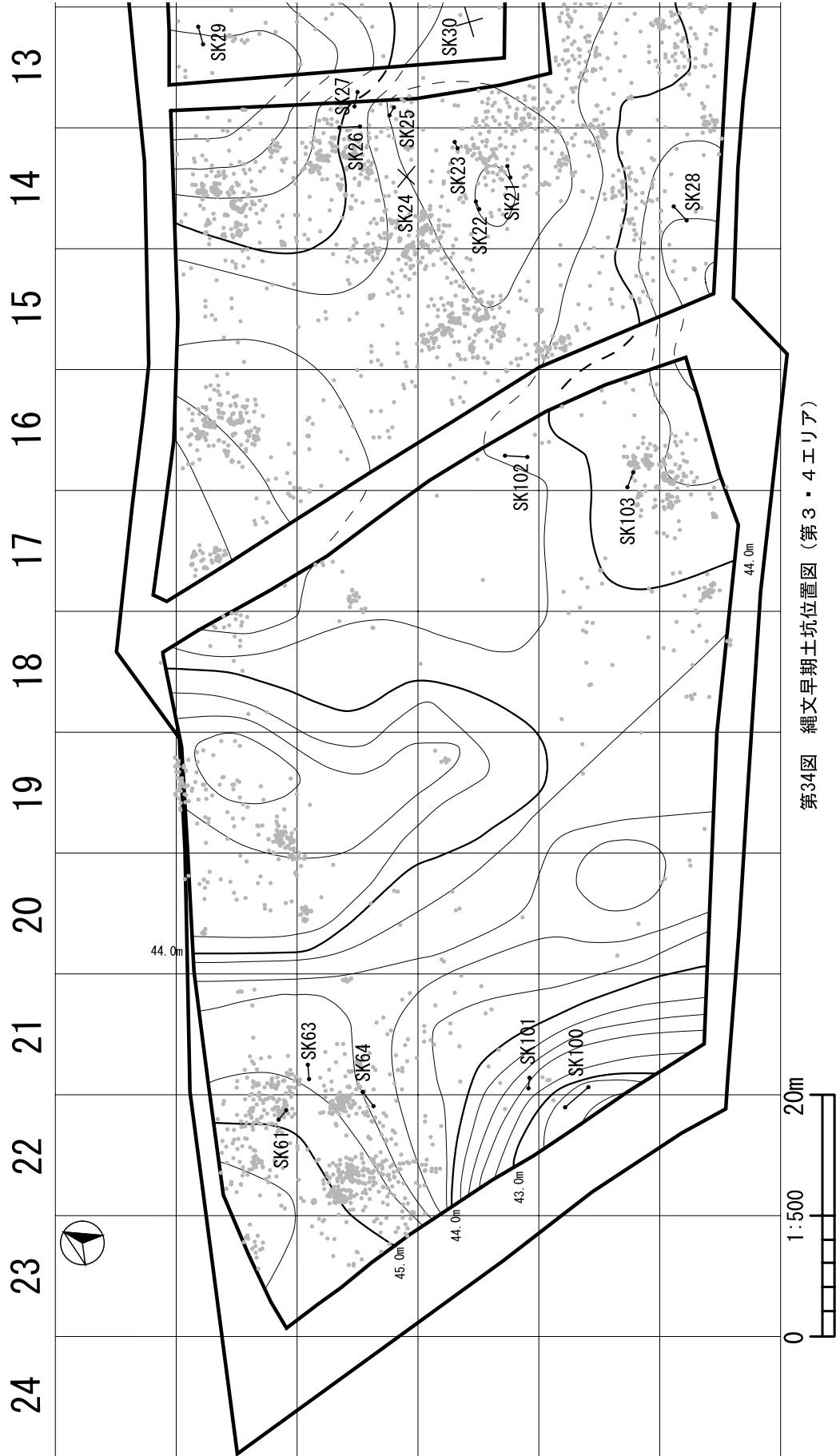
C-21 区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスをわずかに含む。

土坑 64 号 (SK64)

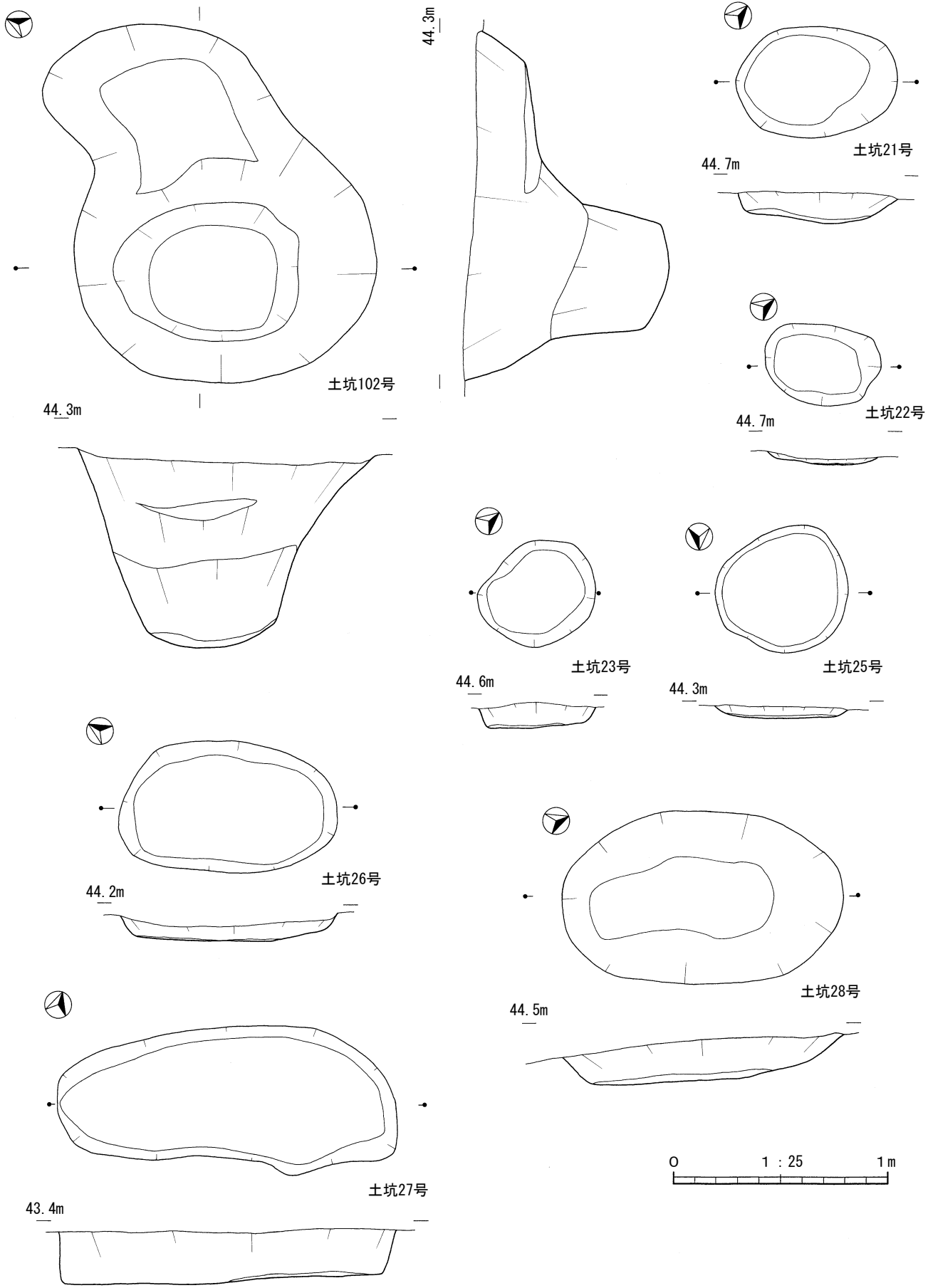
C-21・22 区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスをわずかに含む。

土坑 101 号 (SK101)

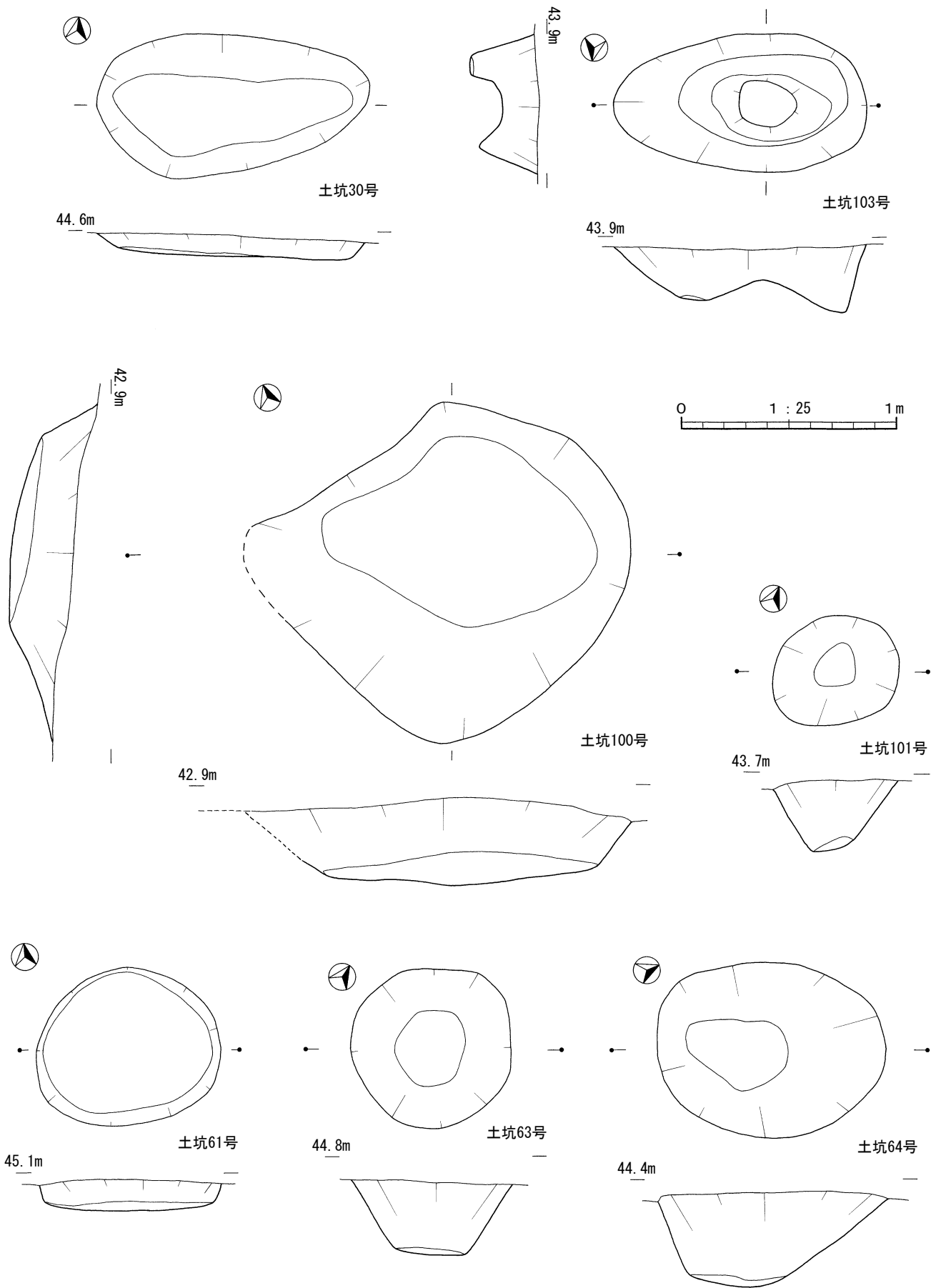
D-21 区で検出した。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスが多量に含む。



第34図 縄文早期土坑位置図 (第3・4エリア)



第35図 第3エリア土坑(2)



第36図 第3エリア土坑(3)・第4エリア土坑

第7表 土坑観察表(1)

遺構名	エリア	検出区	検出面	分類	規模(m)			出土礫												
								数	総重量(g)	石材別個数						重量別個数		最大長(cm)別個数		
					長軸	短軸	深さ			砂岩	頁岩	安山	凝灰	花崗	他	~100	100~	~5	~10	10~
SK3	1	B-2	9層上位	IV	0.93	0.85	0.31	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK7		C-3	10層上面	III	0.89	0.56	0.06	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK8		C-2・3		III	1.02	0.62	0.08	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK9	D-2	III		2.33	1.23	0.33	19	932.7	13	5	0	1	0	0	16	3	8	11	0	
SK11	2	D-11		III	1.24	(0.42)	0.12	4	415	2	1	1	0	0	2	2	2	2	0	
SK21	3	D-14	IV	0.75	0.52	0.14	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SK22		D-14	IV	0.54	0.38	0.04	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SK23		D-14	IV	0.55	0.46	0.09	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SK24		C-14	I	2.15	1.56	0.24	1	1035.3	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	
SK25		C-13	IV	0.62	0.6	0.05	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SK26		C-13	IV	1.1	0.62	0.12	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SK27		C-13	IV	1.57	0.69	0.25	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SK28		F-14	IV	1.3	0.8	0.17	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SK29	2	B-13	IV	1.14	1.09	0.53	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
SK30	3	D-13	IV	1.26	0.65	0.1	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
SK31	2	C-12	III	0.65	0.39	0.07	4	339	3	0	1	0	0	0	2	2	2	2	0	
SK32		C-12	III	1.01	0.68	0.2	1	11.6	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	
SK33		B-12	III	1.7	1.05	0.3	3	170.9	1	0	0	2	0	0	3	0	0	3	0	
SK34		D-11	IV	1.06	0.78	0.17	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SK35		D-10	IV	0.86	0.74	0.11	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SK36		D-10	III	1.2	1.02	0.17	4	548.5	3	1	0	0	0	0	2	2	2	2	0	
SK37		D-10	9層下位	III	1.01	0.75	0.12	7	845.1	3	4	0	0	0	0	5	2	2	5	0
SK38		C-11	IV	0.53	0.45	0.1	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SK39		D-11	IV	0.66	0.61	0.08	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SK40		C-10	III	0.88	0.78	0.21	6	293.9	5	1	0	0	0	0	4	2	4	2	0	
SK42	B-10	III	0.8	0.62	0.2	3	120.4	3	0	0	0	0	0	3	0	2	1	0		
SK43	A・B-10	10層上面	I	2.05	1.25	0.5	2	222.3	0	2	0	0	0	0	1	1	1	1	0	
SK44	B-10	III	1.16	0.89	0.21	1	33.1	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0		
SK45	B・C-10	I	2.6	1.45	0.28	2	1209.6	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2		
SK46	C-9	II	1.82	1.21	0.16	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
SK47	C-9	IV	1.12	0.49	0.05	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
SK48	B-9	9層下位	III	0.62	0.59	0.1	3	274.3	2	1	0	0	0	0	2	1	0	3	0	
SK50	B-8	I	2.58	2.06	0.42	8	972.2	4	4	0	0	0	0	5	3	1	6	1		
SK51	E-10	III	1.22	1.13	0.2	6	468	5	2	0	0	0	0	5	2	3	4	0		
SK52	E-10	III	0.73	0.6	0.4	9	889.5	6	2	1	0	0	0	6	3	0	9	0		
SK53	E-10	III	1.3	1.08	0.13	4	300	2	2	0	0	0	0	4	0	0	4	0		
SK54	E-10	III	0.84	0.77	0.12	1	112	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0		
SK61	4	B-22	IV	0.85	0.73	0.12	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
SK63		C-21	IV	0.74	0.74	0.33	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
SK64		C-21・22	IV	1.07	0.82	0.4	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
SK70	1	C-2	IV	1.03	0.54	0.1	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
SK71		C-2	IV	0.79	0.45	0.2	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
SK72		C-2	IV	0.82	0.75	0.11	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
SK73		C-2	IV	0.8	0.6	0.1	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
SK74		C-2	IV	0.5	0.49	0.06	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
SK75		C-2	IV	1	0.55	0.1	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

第8表 土坑観察表(2)

遺構名	エリア	検出区	検出面	分類	規模(m)			出土礫													
					長軸	短軸	深さ	数	総重量(g)	石材別個数						重量別個数		最大長(cm)別個数			
										砂岩	頁岩	安山	凝灰	花崗	他	~100	100~	~5	~10	10~	
SK76	1	C-2	10層上面	III	0.52	0.44	0.08	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK77		C-2		III	0.77	0.63	0.09	1	64.5	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	
SK78		C-2		III	1	0.84	0.45	1	58.8	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	
SK79		C-2		IV	0.71	0.63	0.08	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK80		C-2		IV	(0.46)	0.48	0.08	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK81		C-2		IV	0.78	0.57	0.1	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK82		C-2		IV	0.95	0.8	0.07	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK84		C-2		III	0.7	0.42	0.11	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK85		C-2		III	1.4	0.55	0.15	5	419	5	0	0	0	0	0	4	1	0	5	0	
SK86		C-2		III	1.5	0.87	0.2	2	113.4	1	1	0	0	0	0	2	0	0	2	0	
SK87		C-2		III	0.9	0.67	0.15	2	339.2	2	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	
SK88		C-2		III	1.96	0.75	0.32	3	68.6	0	2	0	0	0	1	3	0	3	0	0	
SK89		C・D-2		IV	0.43	0.42	0.2	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK90		C-2		IV	0.82	0.57	0.1	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK91		C-2		IV	0.65	0.5	0.08	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK92		C-2		III	1	0.75	0.08	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK93		C・D-2		III	1.1	0.66	0.1	1	23.5	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	
SK94		D-2		III	1.12	0.68	0.07	3	183.2	2	0	1	0	0	0	3	0	0	2	0	
SK95		D-2		III	0.92	0.6	0.1	3	181.1	2	1	0	0	0	0	2	1	2	1	0	
SK96		D-2		III	0.75	0.63	0.1	5	966.5	3	2	0	0	0	0	4	2	1	4	0	
SK97	D-2	III	0.8	0.57	0.07	1	76.2	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0			
SK98	D-2	IV	0.9	0.85	0.08	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
SK99	C-1・2	III	0.62	0.49	0.13	1	198	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0			
SK100	4	E-21・22	II	(1.78)	1.57	0.32	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
SK101		D-21	IV	0.61	0.5	0.3	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
SK102	3	D-16	II	1.76	1.36	0.92	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
SK103		E-16	IV	1.16	0.64	0.3	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
SK104	1	B-2	III	0.98	0.75	0.1	7	1793	4	3	0	0	0	4	3	2	5	0			

(4) 集石遺構 (第 37~59 図)

本遺跡では 128 基検出した。9 層からは膨大な数の被熱破砕礫が出土しており、それらを平板測量やトータルステーションで随時取り上げて、礫がある程度まとまっている箇所を集石遺構として認定した。また、9 層下位~10 層上面において、集石遺構の掘り込みと推定できる土坑に伴って礫が散在しているものも集石遺構と判断した。

土坑の項目でも述べたが、検出時に礫がほとんど認められないために土坑として調査を行ったものの、埋土から礫が多数出土したために、整理作業・報告書作成作業の際に集石遺構として改めたものもある。なお、集石 16 号は調査中に連穴土坑と判断できたため、欠番となっている。

分布状況を見ると、B-6 区から E-4 区に入る谷を取り巻くように多くの集石遺構が認められる一方で、16 区以西は少ない。

集石遺構の検出面は 9 層中位~10 層上面が多い。特に膨大な数の被熱破砕礫が出土した調査区 (5 区以東の第 1 エリアなど) では、礫の出土量が少なくなる 9 層下位まで常に取り上げを行っていたため、9 層下位から 10 層上面での検出が多くなっている。

集石遺構の認定後、礫の集中している箇所を集石の中心部として想定し、そこを基準に軸を設定し、平面図と見通し断面図 1 面を作成しながら、礫を取り上げた。礫は遺構毎に番号を付して取り上げた。礫の取り上げ後、実測ポイントを残しながら、掘り込みの有無の精査を 10 層上面まで行った。検出時における礫の平面分布状況から実測基準軸を設定しているため、掘り込みの中心軸と一致しないものもある。なお、検出時に掘り込みを確認しているものは、掘り込みの長軸方向を基準に調査を行っている。

掘り込みは基本的に 10 層上面で検出した。検出した掘り込みは半掘し、埋土観察後に完掘した。埋土は 9 層土と酷似しているものが多く、9 層土より黒味が強いものもある。掘り込みの平面形状は円形や楕円形のものが多く、検出面からの深さは、浅いものが多い。

集石遺構の範囲内や掘り込み検出面の直上、または掘り込み内から土器や剥片石器、剥片、そして集石遺構に利用された磨石・敲石類が出土するものもある。出土遺物の一部は図化し、遺物の項目に掲載している。

構成礫のほとんどは被熱により破砕しており、図化が困難なほど小さくなっているものもある。また、長径 15 cm 程の大型の礫で構成されたものもある。石材は、砂岩と頁岩がそのほとんどを占める。

報告にあたっては、掘り込みの有無や掘り込み内の礫の有無、構成礫の集中部の有無から以下の 4 つに分類した。

I 類：掘り込みが確認できたもので、掘り込み内にも礫が認められるもの。

II 類：掘り込みが確認できたもので、掘り込みの検出面と集石の礫にレベル差があり、掘り込み内に礫が認められないもの。

III 類：掘り込みが確認できず、構成礫が集中するもの。

IV 類：掘り込みが確認できず、構成礫が集中せず、まんべんなく広がるもの。

なお、構成礫の集中部の有無は感覚的なもので、礫間の空間の有無や上下の重なりなどを目安にしている。

以下、個別の報告はエリアごとに I 類から IV 類の順で行う。なお、各遺構の規模や構成礫の石材・重量等の詳細は観察表を参照されたい。

第 1 エリア (第 38~45 図)

このエリアでは 40 基検出した。内訳は I 類が 22 基、II 類が 11 基、III 類が 4 基、IV 類が 3 基である。

I 類 (第 38~42 図)

集石 4 号 (SS4)

D-1 区の 9 層上位で検出した。調査範囲外にも 10 cm 程の礫が密集して広がっている。掘り込みは 9 層下位で検出した。掘り込み埋土は黒褐色 (10YR3/2) シルト質土で、締まりがなく、11a 層土を含む。9 層土とは締まり具合が異なることから、掘り込みを 9 層下位で検出できた。掘り込み内から 10 類土器の底部片 (第 80 図 163) と磨石・敲石 3 類の破損品 (第 119 図 465) が出土した。

集石 11 号 (SS11)

B・C-4 区の 9 層中位で検出した。掘り込み内出土の礫が多い。掘り込み埋土は黒褐色 (10YR2/2) シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスを含み、下部には炭化物粒を多く含む。掘り込み検出面上位から 10 類土器の底部片 (第 80 図 164) と 14 類土器の胴部片 (第 86 図 229)、黒曜石 1 類の剥片が出土した。

集石 12 号 (SS12)

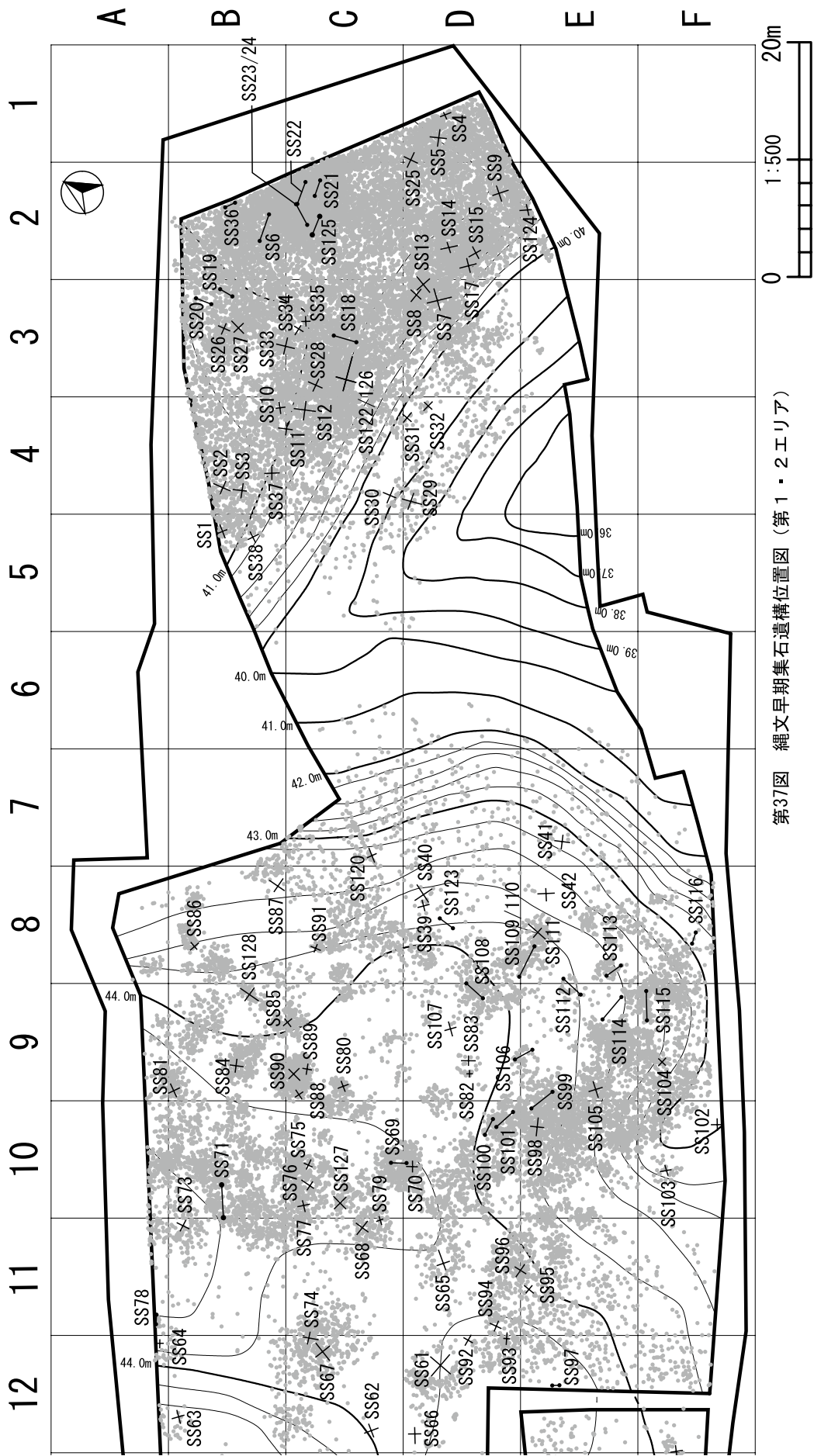
C-4 区の 9 層下位で検出した。検出時、礫は少なく散在していたが、掘り込みが確認できたために集石と認定した。掘り込み埋土は黒褐色 (10YR3/2) シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスと白色粒を含み、炭化物粒を多く含む。掘り込み内から黒曜石 1 類の剥片 3 点が出土した。

集石 13 号 (SS13)

D-2・3 区の 10 層上面で検出した。掘り込み底面で磨石・敲石 1 類の破損品 (第 118 図 457) が出土した。掘り込み埋土は褐色 (10YR3/3) シルト質土で、締まっている。炭化物粒をわずかに含む。

集石 15 号 (SS15)

D-2 区の 10 層上面で検出した。検出時、礫は少なく



第37図 縄文早期集石遺構位置図（第1・2エリア）

散在していたが、掘り込みが確認できたために集石と認定した。掘り込み内出土の礫が多い。掘り込み埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、かなり締まっている。炭化物粒を含む。

集石 17 号 (SS17)

D-2 区の 10 層上面で検出した。検出時、礫が少なく散在していたが、掘り込みが確認できたために集石と認定した。掘り込み埋土は灰黄褐色(10YR4/2)シルト質土で、締まりが弱い。11a 層土を多く含む。

集石 18 号 (SS18)

C-3 区の 9 層中位で検出した。周縁部で 4 類土器の口縁部小片と早期土器の底部片が出土した。

集石 21 号 (SS21)

C-2 区の 9 層中位で検出した。掘り込みは 10 層上面で検出したため、礫の集中部と掘り込みの位置がずれている。集石の範囲内から 2 類土器の胴部片(第 66 図 60)と 10-2 類土器の口縁部小片が出土した。

集石 23 号 (SS23)・集石 24 号 (SS24)

C-2 区の 10 層上面で検出した。ともに検出時に掘り込みを確認しており、掘り込み内出土の礫が多い。集石 24 号の掘り込み埋土中位出土の炭化物は ^{14}C 年代測定の結果、 $8490 \pm 30\text{BP}$ を示した(第 5 章参照)。

集石 25 号 (SS25)

D-1・2 区の 9 層下位で検出した。掘り込み検出面上位から 2 類土器の口縁部片 2 点(第 66 図 49)と胴部片が出土した。

集石 27 号 (SS27)

B-3 区の 9 層下位で検出した。礫がある程度まとまり、中心部の土色が黒味を帯びていたことから集石と認定した。掘り込み内出土の礫が多い。掘り込み検出面上位から 2 類土器の口縁部片(第 66 図 52)と胴部片が出土した。掘り込み埋土は黒褐色(10YR3/2)シルト質土で、かなり締まっている。黄橙色パミスと白色粒を含む。

集石 29 号 (SS29)

D-4 区の傾斜地の 9 層下位で検出した。礫がある程度まとまり、土色が周囲より黒味を帯びていたことから、掘り込みをもつ集石と認定した。掘り込み埋土は黒褐色(10YR3/2)シルト質土で、かなり締まっている。炭化物粒を多く含む。

集石 30 号 (SS30)

C-4 区の傾斜地の 10 層上面で検出した。礫がある程度まとまり、土色が周囲より黒味を帯びていたことから、掘り込みをもつ集石と認定した。掘り込み埋土は黒褐色(10YR3/2)シルト質土で、かなり締まっている。炭化物粒を多く含む。埋土上位から磨石・敲石 1 類(第 118 図 456)が出土した。

集石 31 号 (SS31)

D-4 区の傾斜地の 10 層上面で検出した。礫がある程

度まとまり、土色が周囲より黒味を帯びていたことから、掘り込みをもつ集石と認定した。掘り込み埋土は灰黄褐色(10YR4/2)シルト質土で、締まっている。炭化物粒をわずかに含む、11a 層土を多く含む。

集石 32 号 (SS32)

D-4 区の傾斜地の 9 層下位で検出した。礫がある程度まとまり、土色が周囲より黒味を帯びていたことから、掘り込みをもつ集石と認定した。掘り込み埋土は黒褐色(10YR3/2)シルト質土で、締まっている。埋土上位から 10-2 類土器の口縁部片(第 75 図 120)と胴部片が出土した。

集石 33 号 (SS33)

B・C-3 区の 10 層上面で検出した。検出時、礫は数点のみだったが、掘り込みが確認できたため、集石と認定した。掘り込み内出土の礫が多い。掘り込み埋土は黒褐色(10YR3/2)シルト質土で、かなり締まっている。炭化物粒を多く含む。

集石 36 号 (SS36)

B-2 区の 9 層下位で検出した。調査範囲外にも礫が広がる。調査区壁面で掘り込みの立ち上がりを経査したが、確認できなかった。大型の扁平な礫を含む。掘り込み埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。白色粒を含む。

集石 122 号 (SS122)

C-3 区の 10 層上面で検出した。集石 126 号を切っており、先後関係は平面で確認できる。掘り込み内から多数の礫が出土し、図化が困難な 2 cm 以下の破碎礫も多数出土した。掘り込み埋土は黒色(10YR2/1)シルト質土で、締まっているが、下部ほど締まりが弱い。炭化物粒を含む、下部には赤色粒(焼土か?)を多く含む。掘り込み底面は 11a 層で、炭化物のために黒味を帯びる。

集石 124 号 (SS124)

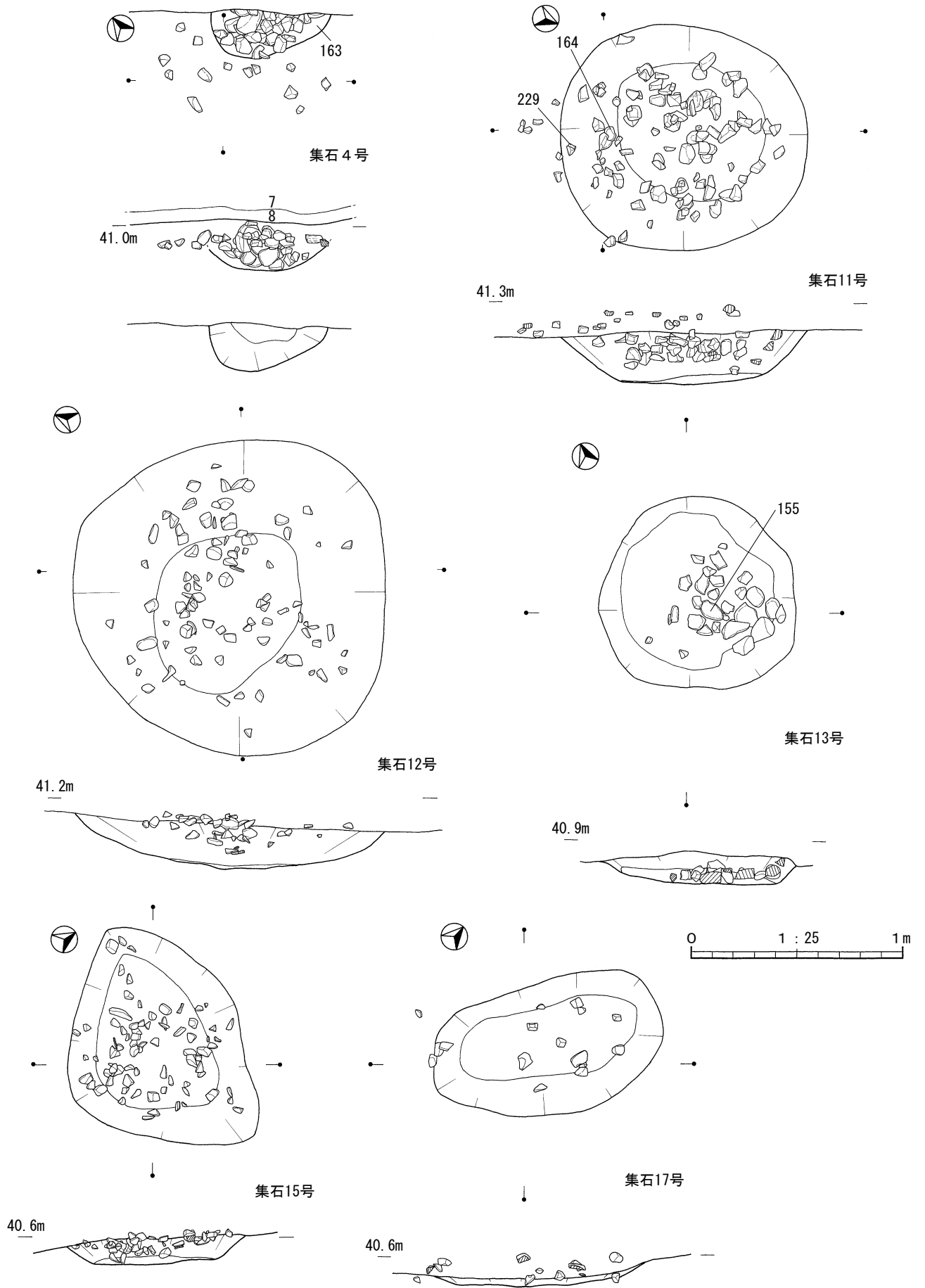
D-2 区の 10 層上面で検出した。当初、土坑 10 号として調査したものである。掘り込み埋土は黒褐色(10YR3/1)シルト質土で、締まっている。炭化物粒をわずかに含む。埋土下位から条痕文土器の胴部小片が出土した。

集石 125 号 (SS125)

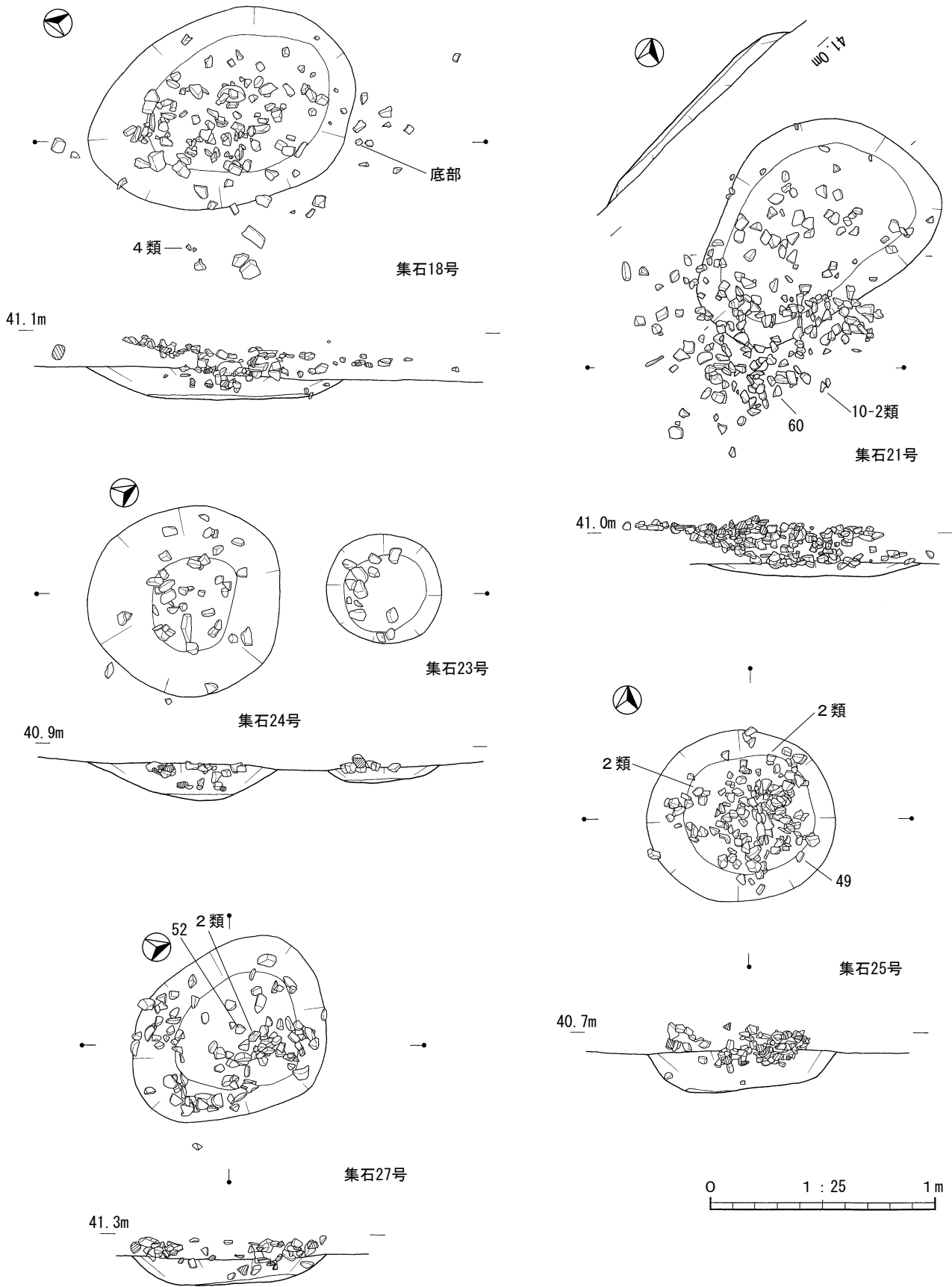
C-2 区の 10 層上面で検出した。当初、土坑 83 号として調査したものである。掘り込み内から条痕文土器の胴部片が出土している。

集石 126 号 (SS126)

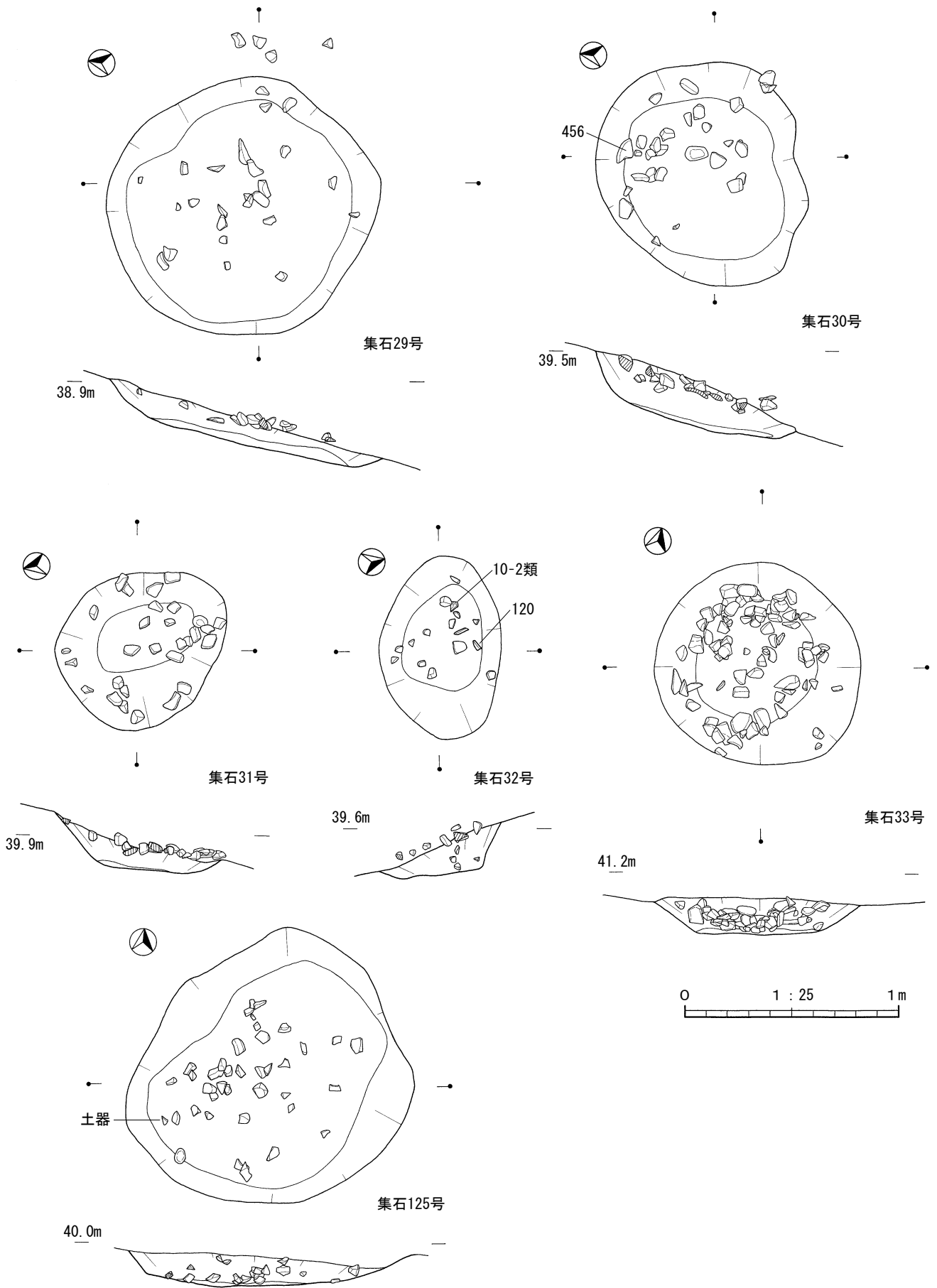
C-3 区の 10 層上面で検出した。当初、土坑 105 号として調査したものである。礫の広がり以上に掘り込み範囲が広いが、複数の土坑が切り合っていると推測できる。土坑同士の切り合い関係は平面や埋土断面からは判断できなかった。南側は落とし穴 6 号の断面スライス調査用トレンチのために削平されている。礫の集中部から外れ



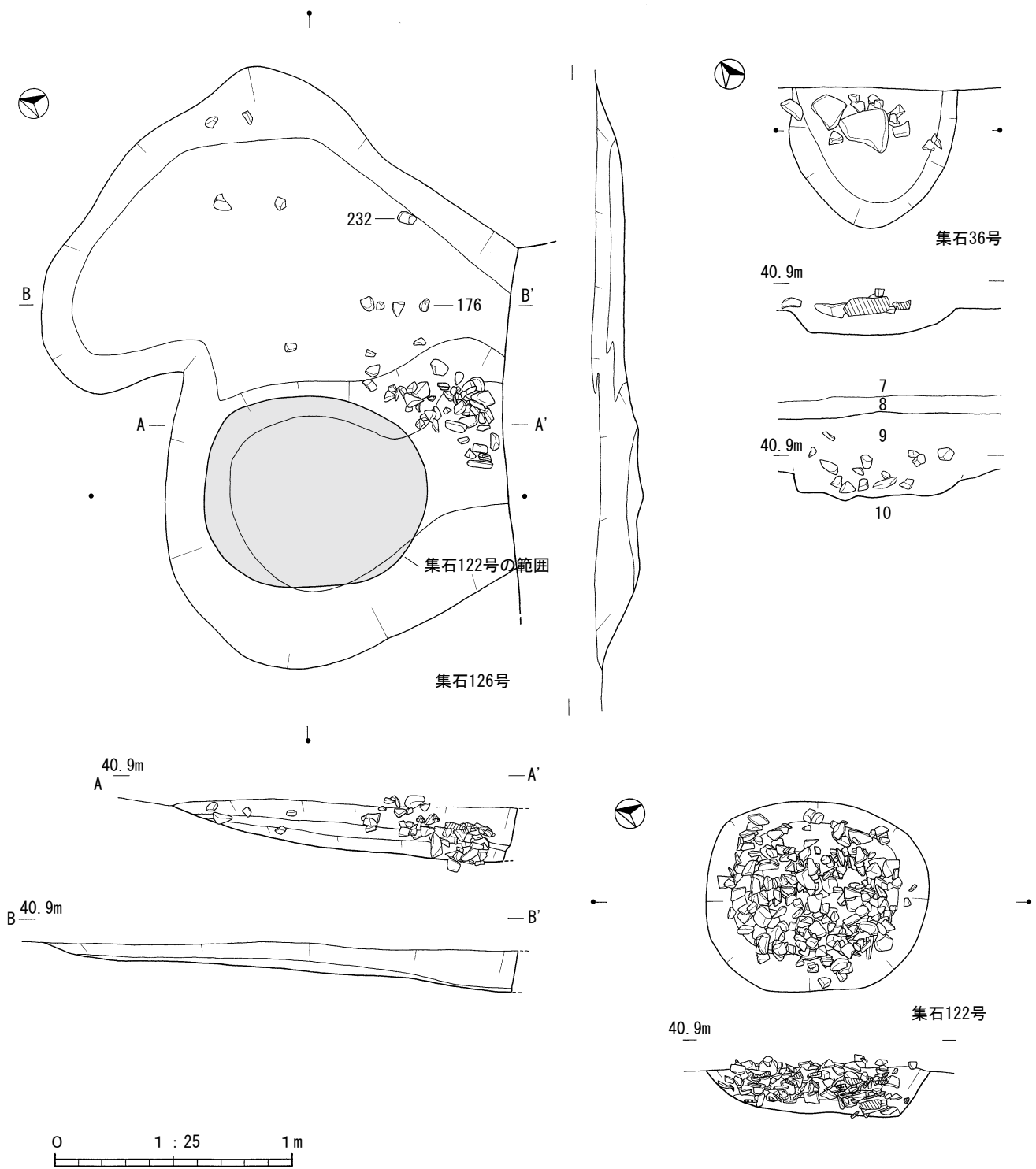
第38図 第1エリア集石(1)



第39図 第1エリア集石(2)



第40図 第1エリア集石(3)



第41図 第1エリア集石(4)

た箇所、14-1類土器の口縁部片(第83図176)と14類土器の胴部片(第86図232)が出土した。埋土は黒褐色(10YR3/1)シルト質土で、かなり締まっている。炭化物粒をわずかに含む。

Ⅱ類(第42・43図)

集石2号(SS2)

B-4区の9層中位で検出した。礫の集中部と掘り込みの位置がずれている。

集石5号(SS5)

D-1区の9層中位で検出した。集石の範囲内から15類土器の胴部片2点(第91図288)が出土した。掘り込みは9層下位で検出した。埋土は黒褐色(10YR3/1)シルト質土で、締まっている。炭化物粒をわずかに含む。

集石7号(SS7)

D-3区の9層中位で検出した。検出面の下位から礫が多数出土した。集石の範囲内から14-2類土器の胴部

片(第85図203の一部)と条痕文土器の胴部片が出土した。掘り込み埋土は黒褐色(10YR2/1)シルト質土で、締まっている。炭化物粒をわずかに含む。礫集中部の土色は周囲より黒味が強い。

集石 10号 (SS10)

B-4区の9層中位で検出した。集石の範囲内から黒曜石1類の剥片が出土した。掘り込み埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質土で、締まっている。

集石 14号 (SS14)

D-2区の9層下位で検出した。掘り込み埋土は黒褐色(10YR3/1)シルト質土で、締まっている。炭化物粒をわずかに含む。

集石 20号 (SS20)

B-3区の9層中位で検出した。

集石 26号 (SS26)

B-3区の9層中位で検出した。掘り込みは9層下位で検出した。埋土は黒褐色(10YR3/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスを含み、炭化物粒をわずかに含む。

集石 28号 (SS28)

C-3区の9層中位で検出した。集石の範囲内から4類土器の胴部小片が出土した。

集石 34号 (SS34)

C-3区の9層上位で検出した。礫の垂直分布にはレベル差がある。掘り込み検出面上位から、15類土器の胴部片(第91図289)が出土した。

集石 35号 (SS35)

C-3区の9層中位で検出した。掘り込みにテラスをもつ。長径10cm以上の非破砕の円礫を含む。集石の周縁でチャート2類剥片が1点出土した。

集石 37号 (SS37)

B-4区の9層下位で検出した。検出時、礫が少なく散在していたが、掘り込みが確認できたために集石と認定した。掘り込み埋土は黒褐色(10YR3/1)シルト質土で、締まっている。炭化物粒をわずかに含む。

Ⅲ類 (第44図)

集石 1号 (SS1)

B-5区の9層中位で検出した。非破砕礫が目立つ。

集石 3号 (SS3)

B-4区の9層中位で検出した。

集石 6号 (SS6)

B-2区の9層上位で検出した。礫の垂直分布にはレベル差がある。集石の範囲内から10類土器の胴部片2点、10-2類土器の口縁部片(第76図121)、14-2類土器の胴部片(第86図219)、20類土器の胴部片、条痕文土器胴部片、無文土器胴部片2点、チャート製石鏃(第110図357)、黒曜石2類剥片、チャート2類剥片が出土した。

集石 9号 (SS9)

E-2区の9層下位で検出した。集石の範囲内から、14-1類土器の口縁部片(第83図178と同一個体)が出土した。

集石 38号 (SS38)

B-5区の9層中位で検出した。集石の範囲内から、2類土器の口縁部片(第66図50)が出土した。

Ⅳ類 (第45図)

集石 8号 (SS8)

D-3区の9層下位で検出した。礫周囲の土には炭化物粒をわずかに含む。範囲内から10類土器の胴部片が出土した。

集石 19号 (SS19)

B-3区の9層中位で検出した。

集石 22号 (SS22)

C-2区の9層中位で検出した。長径10cm以上の礫も目立つ。範囲内から3類土器の口縁部片(第67図64の一部)4類土器の胴部片、10-2類土器の口縁部片(第76図125)、15類土器の胴部片(第91図287)が出土した。

第2エリア (第45~55図)

このエリアでは64基検出した。内訳はⅠ類が16基、Ⅱ類が22基、Ⅲ類が17基、Ⅳ類が9基である。

Ⅰ類 (第45~48図)

集石 41号 (SS41)

E-7区の9層下位で検出した。礫がある程度まとまり、土色が周囲より黒味を帯びていたことから集石と認定した。掘り込み埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、かなり締まっている。11a層土をわずかに含む。掘り込み検出面上位から14類土器の胴部片が出土した。

集石 67号 (SS67)

C-12区の9層下位で検出した。検出時、礫は少なかったが、掘り込みが確認できたために集石と認定した。掘り込み内出土の礫が多い。掘り込み埋土は黒褐色(10YR2/1)シルト質土で、締まっている。炭化物粒をわずかに含む。

集石 68号 (SS68)

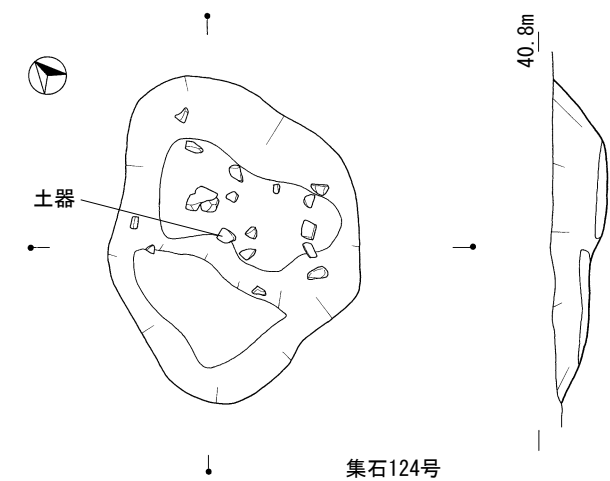
C-11区の10層上面で検出した。検出時、礫は少なかったが、掘り込みが確認できたために集石と認定した。

集石 70号 (SS70)

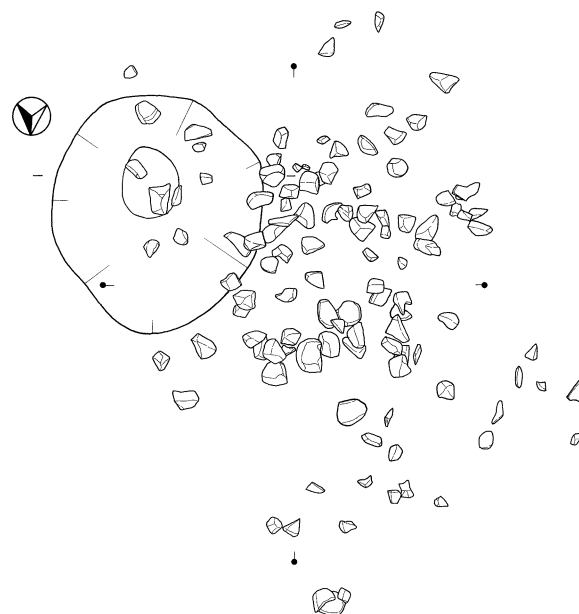
D-10区の9層下位で検出した。掘り込み内出土の礫が多い。掘り込みは深めで、埋土下位からは大きめの炭化物が出土した。この炭化物は¹⁴C年代測定の結果、8270±30BPを示した(第5章参照)。掘り込み検出面より上位で、10-2類土器の口縁部片(第77図134)が出土した。

集石 74号 (SS74)

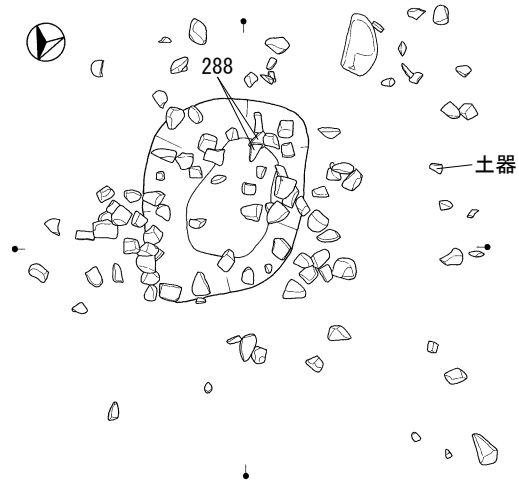
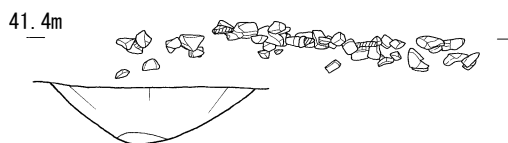
C-11・12区の9層下位で検出した。検出時に掘り込



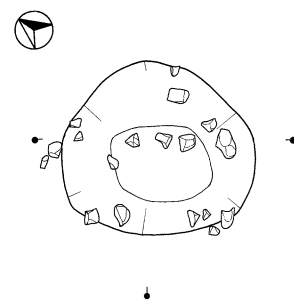
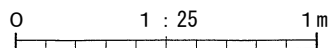
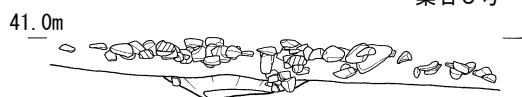
集石124号



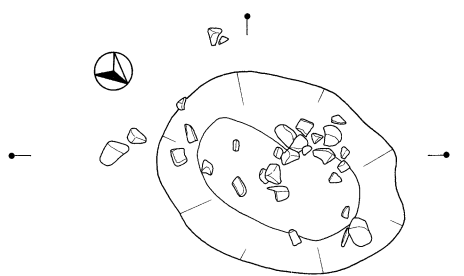
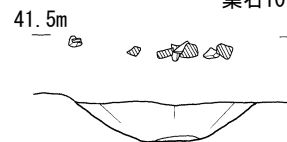
集石2号



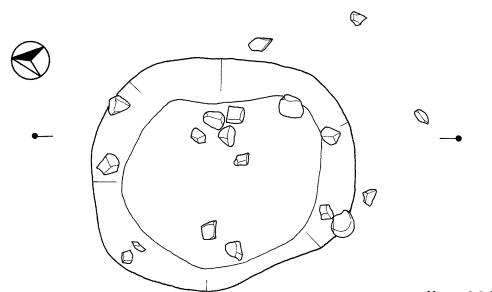
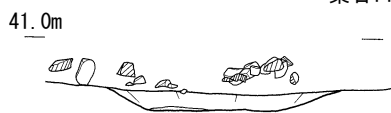
集石5号



集石10号



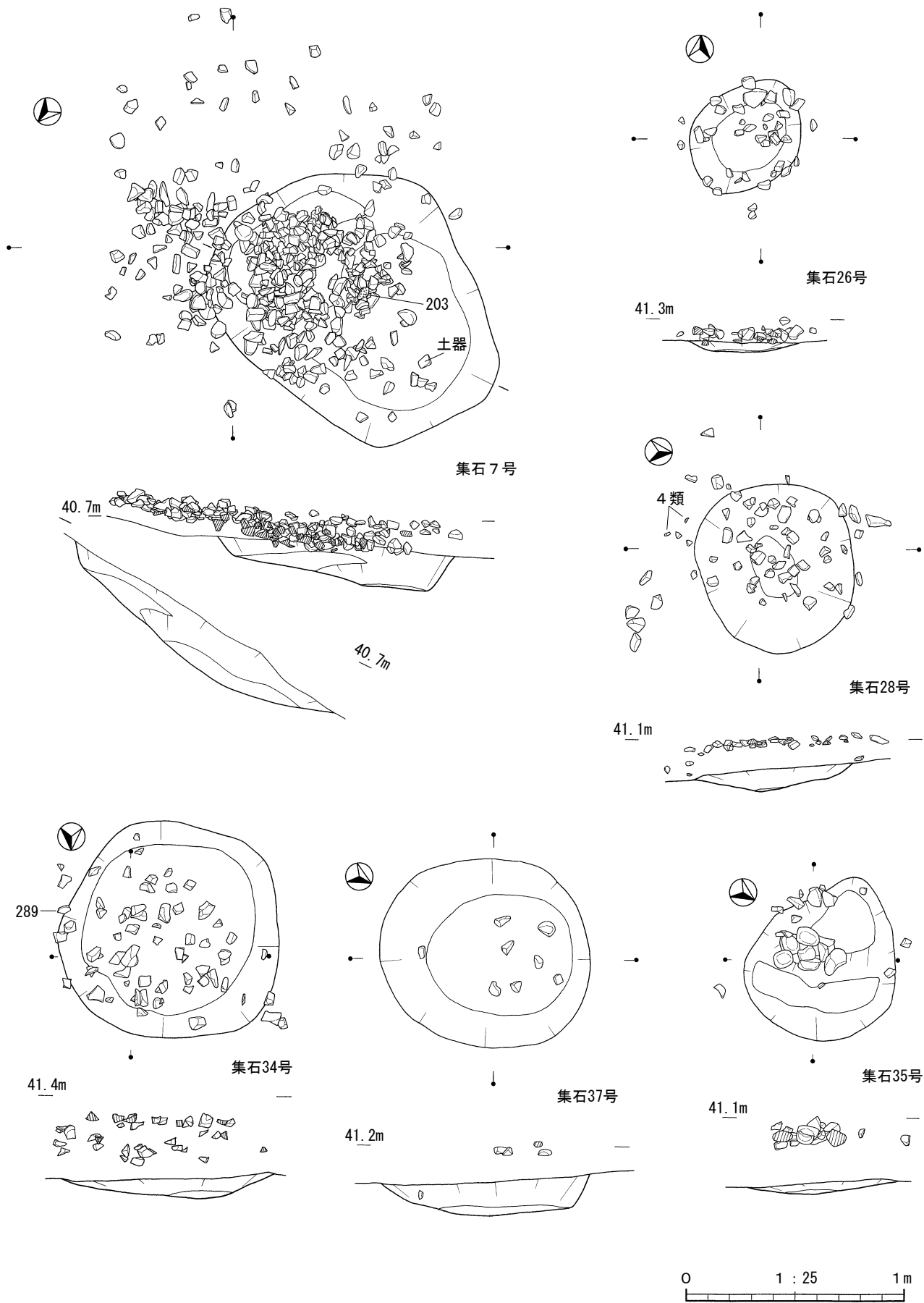
集石14号



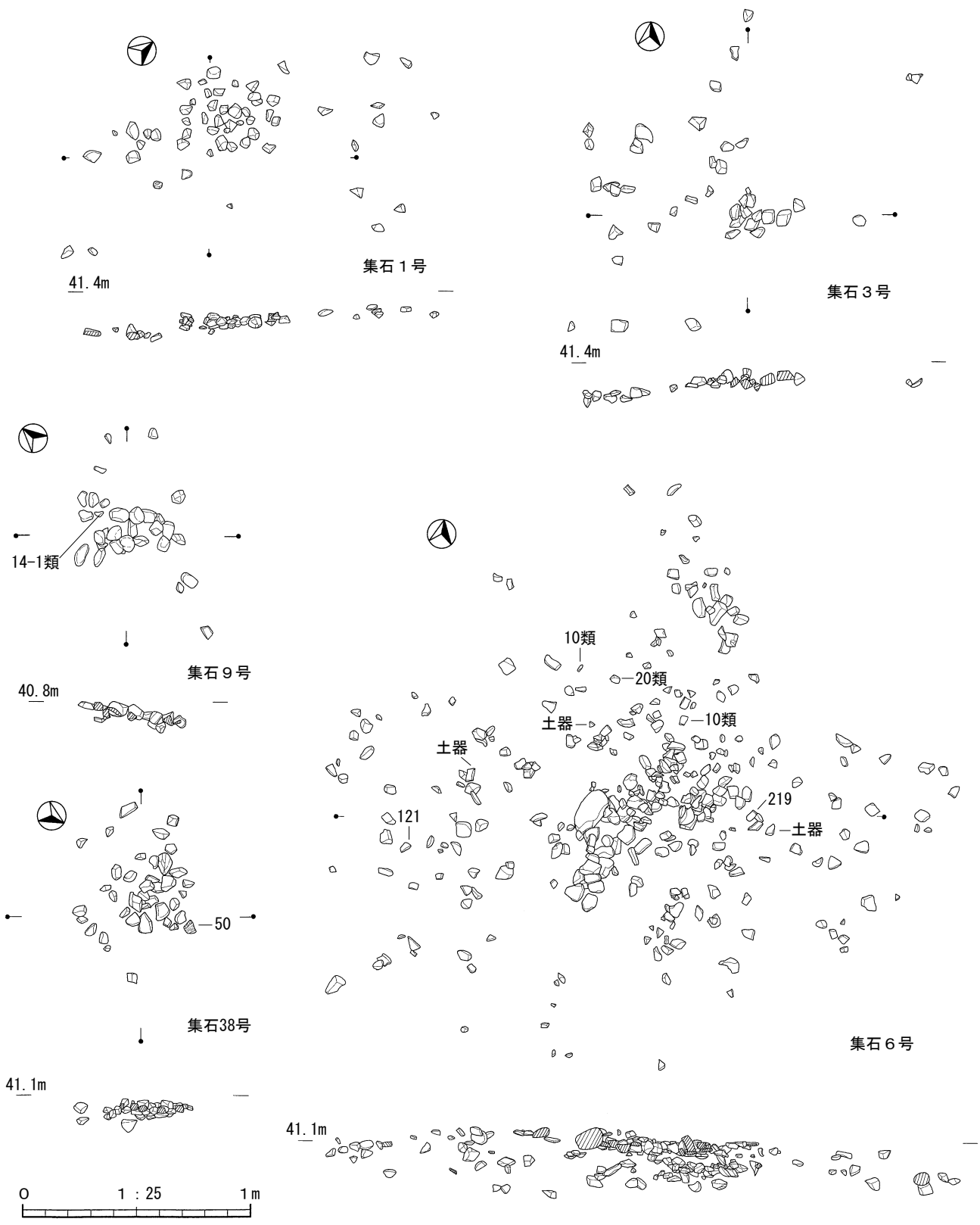
集石20号



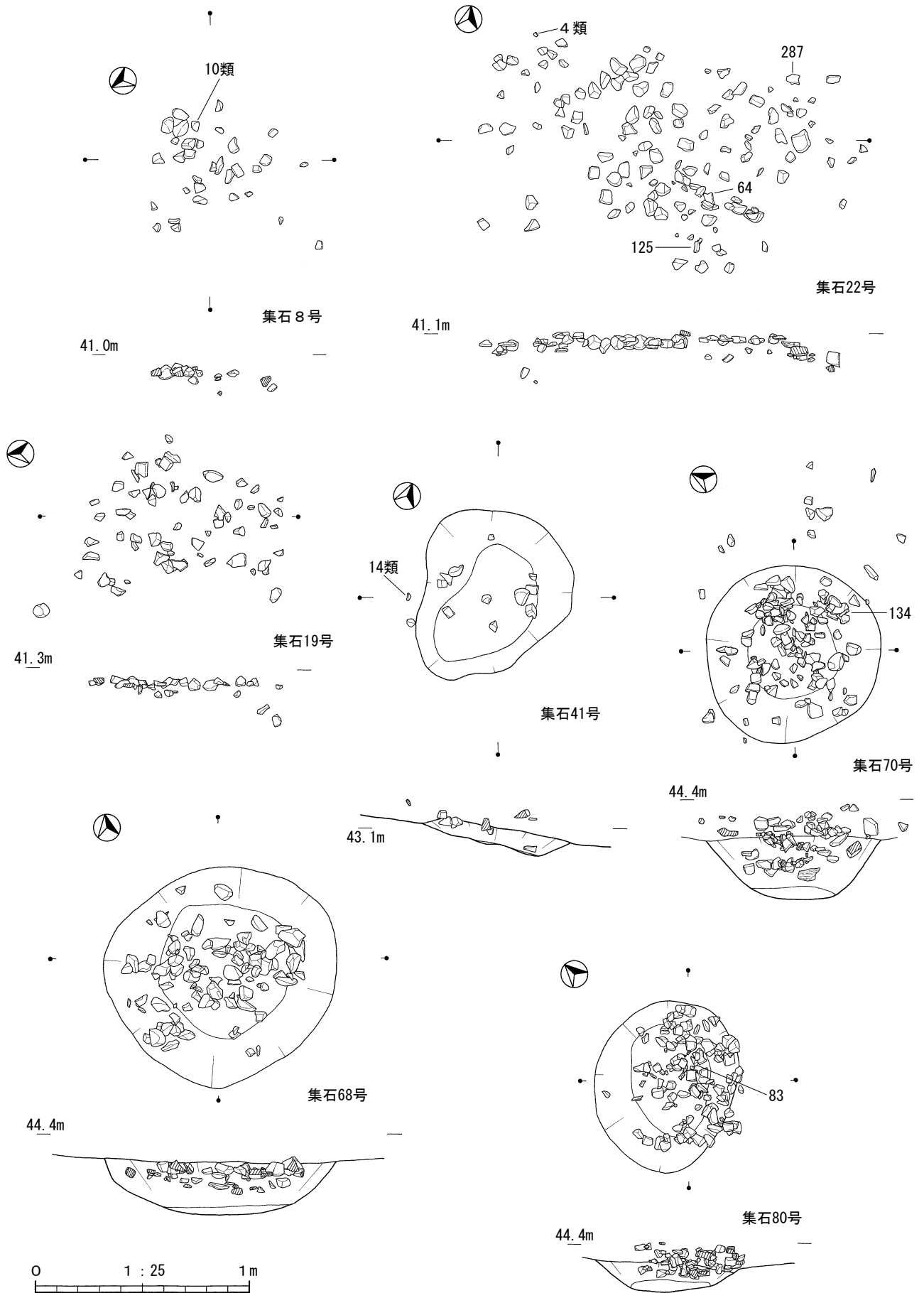
第42図 第1エリア集石(5)



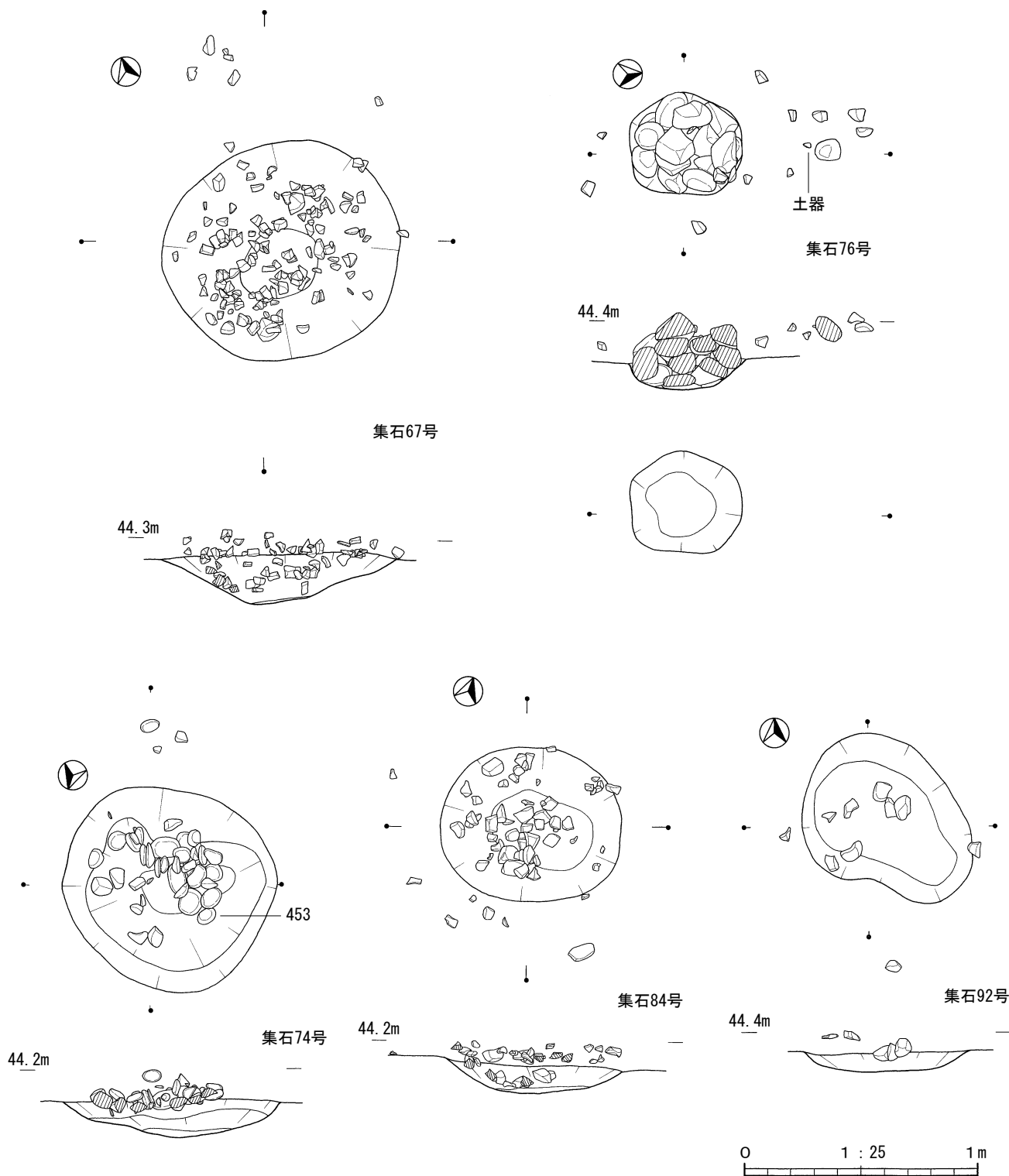
第43図 第1エリア集石(6)



第44図 第1エリア集石(7)



第45図 第1エリア集石(8)・第2エリア集石(1)



第46図 第2エリア集石(2)

みも確認した。大きめの円礫や角礫が大半を占める。掘り込み埋土は暗褐色(10YR3/3)シルト質土で、締まっている。掘り込み検出面直上から磨石・敲石1類の完形品(第117図453)が出土した。

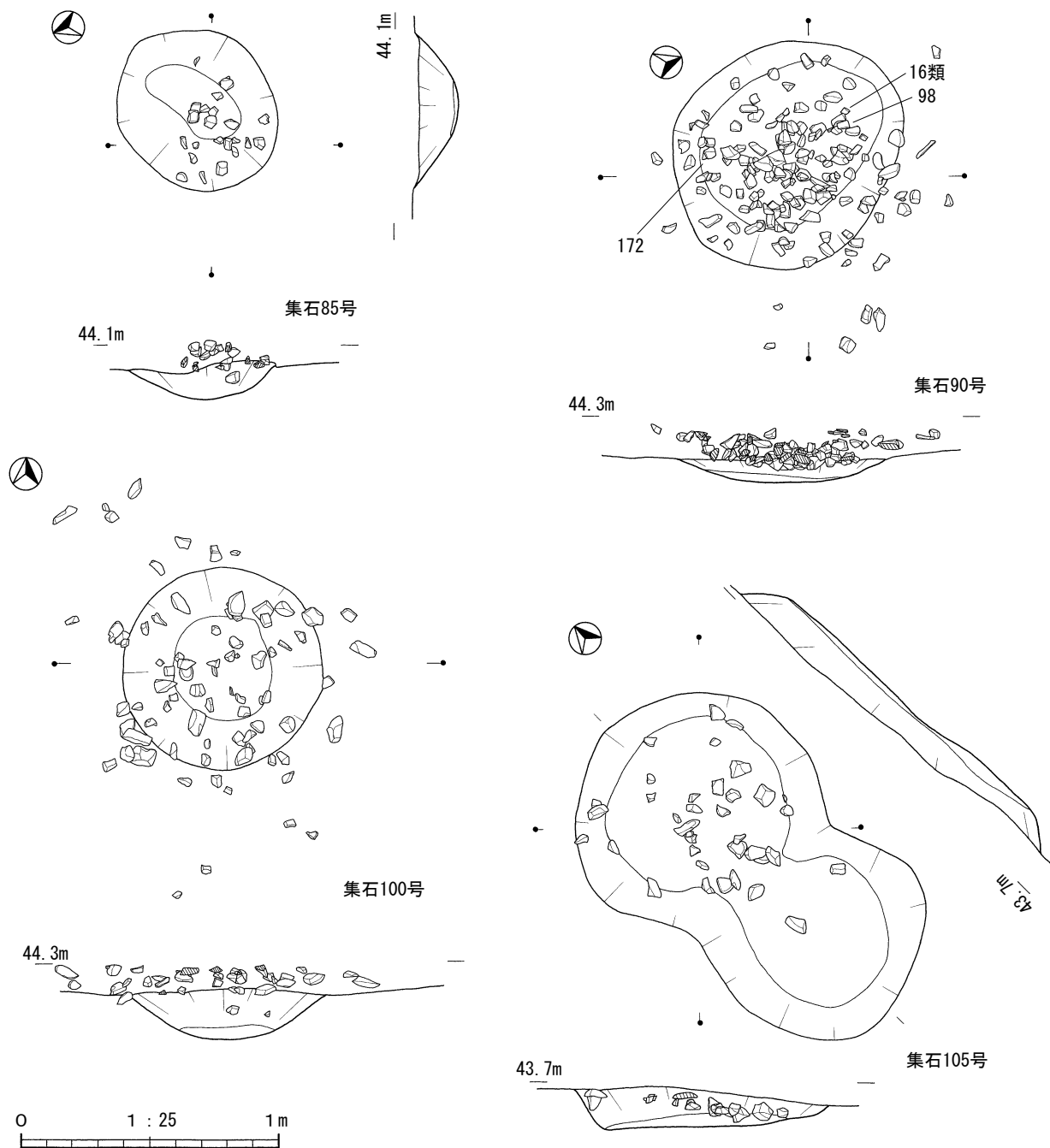
集石76号(SS76)

C-10区の9層下位で検出した。20cm程の非破碎の円

礫や角礫が密集している。凝灰岩の円礫が目立つ。掘り込み範囲外から無文土器の胴部小片が出土した。

集石80号(SS80)

C-9区の9層下位で検出した。検出時に掘り込みも確認した。掘り込み埋土上位から、6類土器の口縁部片(第70図83の一部)が出土した。



第47図 第2エリア集石（3）

集石 84 号 (SS84)

B-9区の9層下位で検出した。検出時に掘り込みも確認した。非破碎礫が目立つ。

集石 85 号 (SS85)

B・C-9区の9層下位で検出した。掘り込みは10層上面で検出した。

集石 90 号 (SS90)

C-9区の9層下位で検出した。掘り込み検出面より上位から、9類土器の胴部片（第72図98の一部）、13類土器の胴部片（第80図172の一部）、16類土器の胴部片（第91図291と同一個体）が出土した。

集石 92 号 (SS92)

D-12区の9層下位で検出した。礫がある程度まとまり、土色が周囲より黒味を帯びていたために集石と認定した。掘り込み埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、縮まっている。黄橙色パミスをわずかに含む。

集石 100 号 (SS100)

D-10区の9層中位で検出した。掘り込みは9層下位で検出した。

集石 105 号 (SS105)

E-9区の9層中位で検出した。掘り込みの平面形状がひょうたん形をしていることから、2つの集石掘り込

みが切り合っている、または集石掘り込みと土坑が切り合っていると推測できる。掘り込み埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、黄橙色パミスをわずかに含む。

集石 116号 (SS116)

F-8区の9層下位で検出した。10 cm程の非破砕の角礫が密集している。

集石 127号 (SS127)

C-10区の10層上面で検出した。当初、土坑41号として調査したものである。検出面は10層上面であるが、9層掘り下げ時から土色が黒味を帯びていた。掘り込み埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、縮まっている。黄橙色パミスと炭化物粒を含む。埋土上位から7類土器胴部片(第71図93の一部)と石錘(第116図435)が出土した。

集石 128号 (SS128)

B-9区の9層下位で検出した。当初、土坑49号として調査したものである。周囲に比べて土色が黒味を帯びていた。掘り込み内出土礫が多い。床面の一部は樹根のため不明である。掘り込み埋土は黒褐色(10YR3/2)シルト質土で、縮まっている。黄橙色パミスを含む。

Ⅱ類(第48~52図)

集石 39号 (SS39)

D-8区の9層中位で検出した。10 cm程の礫がほとんどである。掘り込み埋土は黒褐色(10YR3/1)シルト質土で、縮まっている。黄橙色パミスを含み、炭化物粒をわずかに含む。

集石 61号 (SS61)

D-12区の9層中位で検出した。掘り込みは10層上面で検出しており、礫集中部と掘り込みがずれている。掘り込み埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、縮まっている。黄橙色パミスをわずかに含む。集石の範囲内で14類土器の胴部片5点(第85図209・第86図227・第87図235)と無文土器の胴部片が出土した。

集石 65号 (SS65)

D-11区の9層中位で検出した。10 cm以上の大きめの礫が目立つ。礫集中部の土色は黒味が強い。掘り込みは9層下位で検出した。掘り込み範囲外から石錘(第116図436)が出土した。

集石 66号 (SS66)

D-12区の9層中位で検出した。礫がある程度まとまり、土色が周囲より黒味を帯びていたために集石と認定した。掘り込みは9層下位で検出しており、礫集中部と掘り込みがずれている。掘り込み埋土は黒褐色(10YR4/2)シルト質土で、縮まっている。炭化物粒をわずかに含む。

集石 71号 (SS71)

B-10区の9層中位で検出した。掘り込みは10層上面で検出しており、礫の広がりを中心からはずれている。集石の範囲内からは、10-2類土器の口縁部片2点(第

76図130)、10類土器胴部片、条痕文土器胴部片4点(第98図336)、チャート3類剥片が出土した。

集石 75号 (SS75)

C-10区の9層中位で検出した。礫周辺の土色は黒味が強い。掘り込みは10層上面で検出しており、礫の集中部と掘り込みがずれている。掘り込み埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、縮まっている。

集石 77号 (SS77)

C-10区の9層中位で検出した。集石中心部の土色は黒味が強かったものの、検出時には掘り込みが確認できず、10層上面で検出した。集石の範囲内で6類土器と無文土器の胴部小片が2点出土した。掘り込み埋土は黒褐色(10YR3/2)シルト質土で、縮まりが弱い。炭化物粒をわずかに含む。

集石 78号 (SS78)

A-11区の9層下位で検出した。調査範囲外にも広がる。礫集中部の土色は黒味が強い。調査区壁面で掘り込みの立ち上がりを精査したが、確認できなかった。集石の礫として、磨石・敲石1類の破損品2点(第117図451)が利用されている。

集石 87号 (SS87)

B-8区の9層下位で検出した。礫周辺の土色は周囲より黒味を帯びていたが、検出時には掘り込みは確認できず、10層上面で検出した。

集石 93号 (SS93)

D-12区の9層下位で検出した。掘り込みは10層上面で検出しており、礫集中部と掘り込みがずれている。掘り込み埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、縮まっている。黄橙色パミスをわずかに含む。

集石 94号 (SS94)

D-11区の9層下位で検出した。礫周辺の土色は周囲より黒味を帯びていたが、検出時に掘り込みは確認できず、10層上面で検出した。

集石 101号 (SS101)

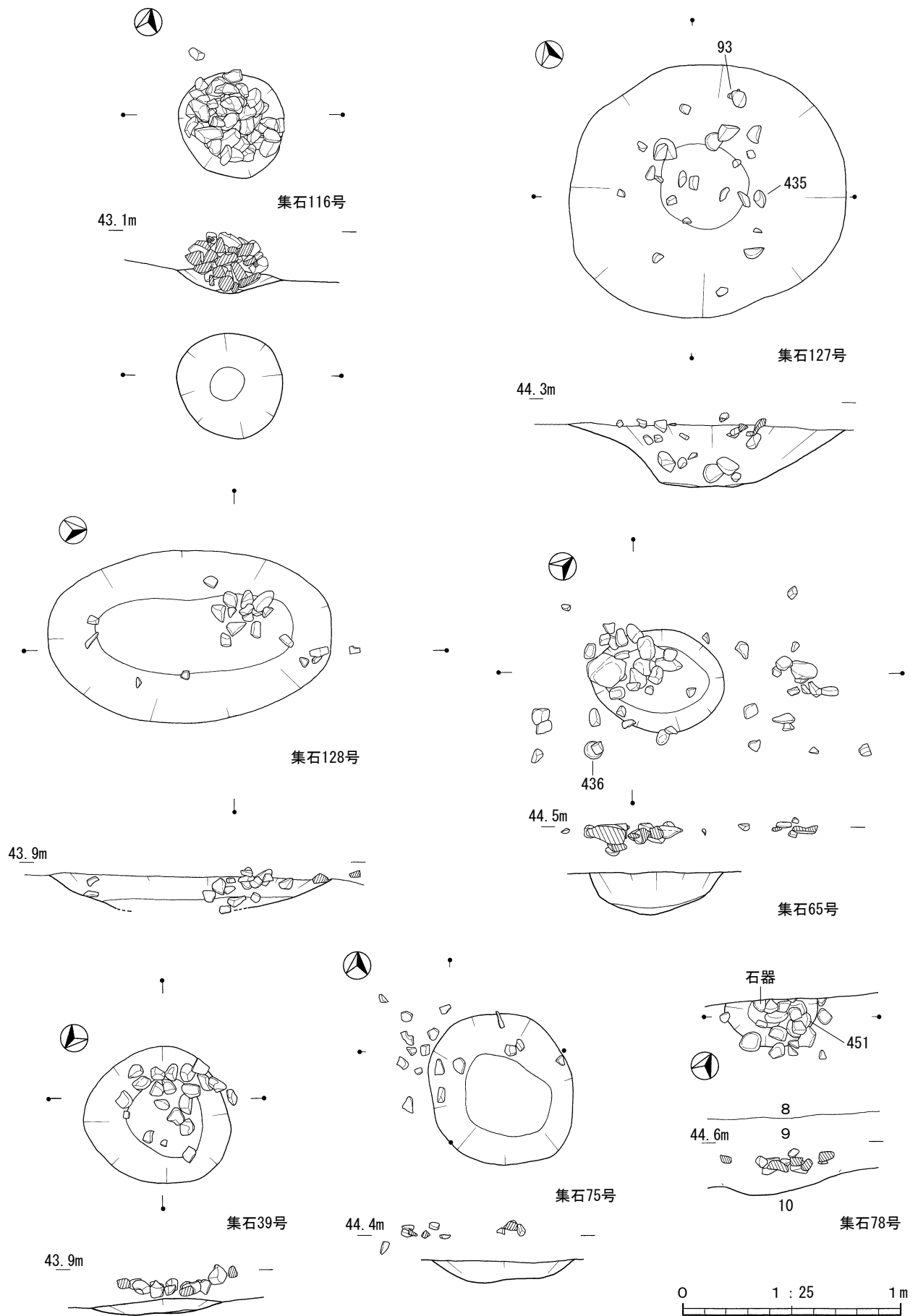
D-10区の9層下位で検出した。礫周辺の土色は周囲より黒味を帯びていたが、検出時には掘り込みは確認できず、10層上面で検出した。

集石 103号 (SS103)

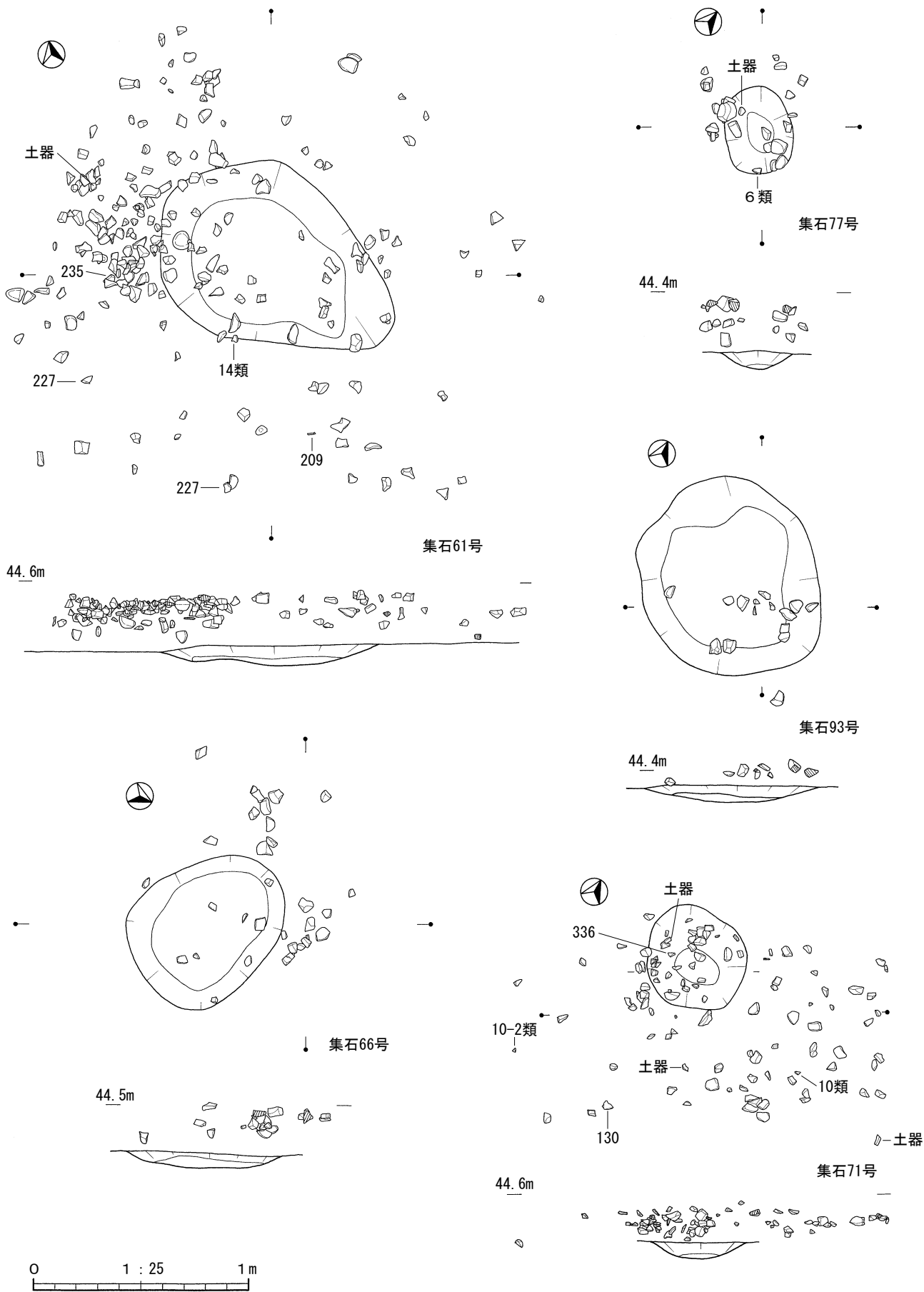
F-10区の9層下位で検出した。掘り込み埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、縮まっている。黄橙色パミスをわずかに含む。

集石 107号 (SS107)

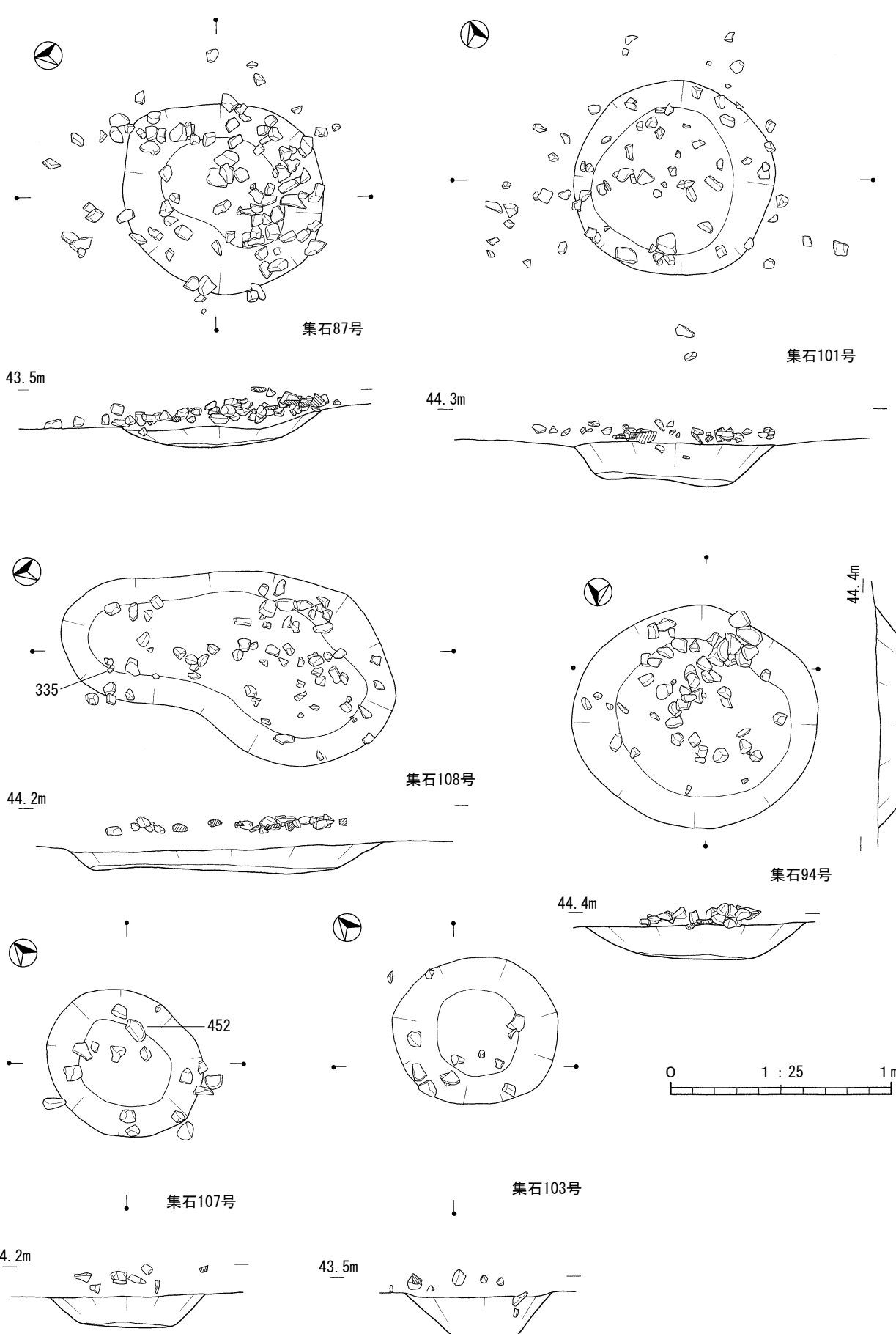
D-9区の9層下位で検出した。大型の円礫と角礫が大半を占める。掘り込み検出面上位から、磨石・敲石1類の破損品(第117図452)が出土した。掘り込み埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、縮まっている。黄橙色パミスをわずかに含む。



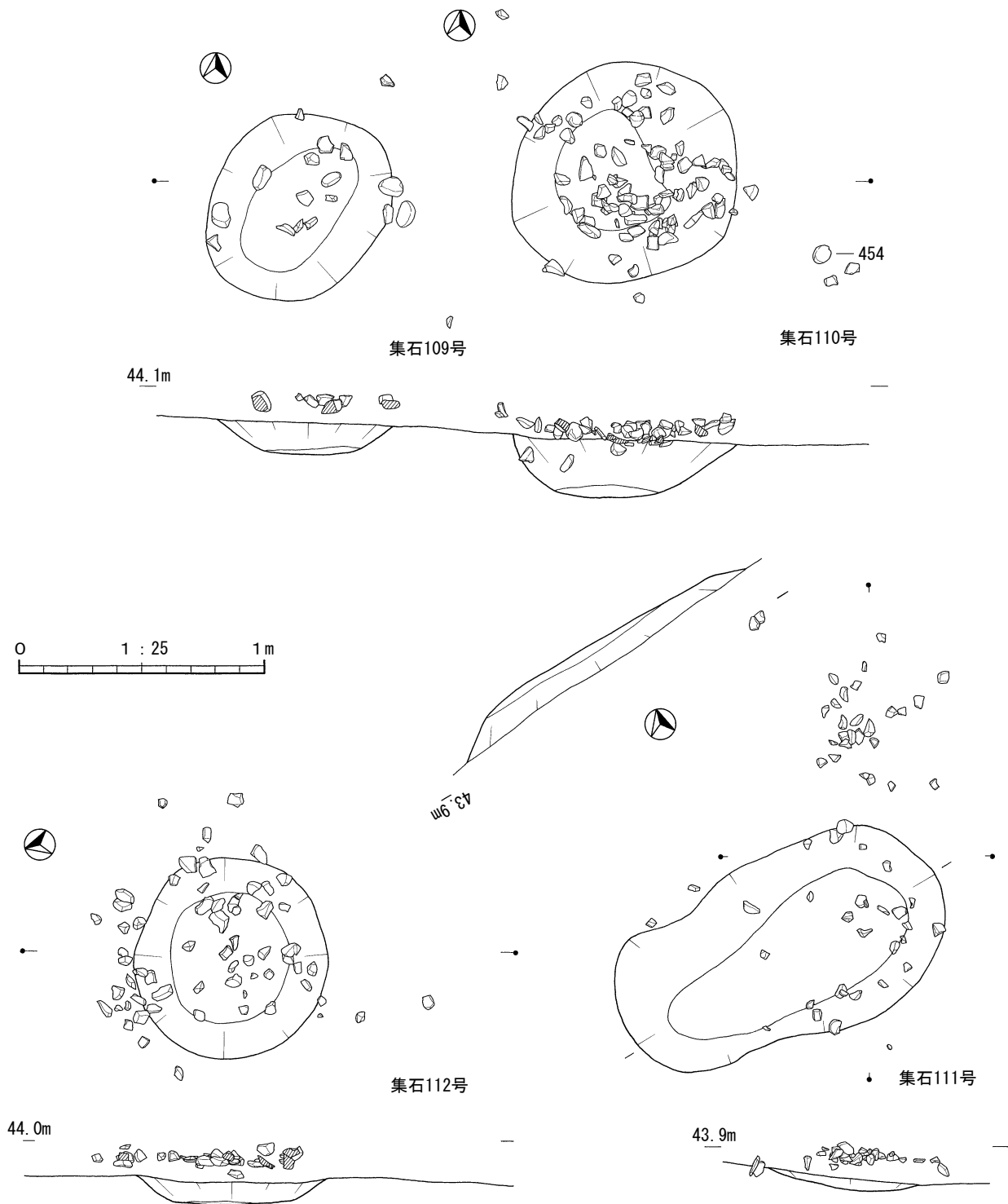
第48図 第2エリア集石(4)



第49図 第2エリア集石(5)



第50図 第2エリア集石(6)



第51図 第2エリア集石（7）

集石 108 号 (SS108)

D-9区の9層下位で検出した。掘り込みは10層上面で検出した。掘り込み検出面上位から、22類土器の口縁部片（第98図335）が出土した。

集石 109 号 (SS109)

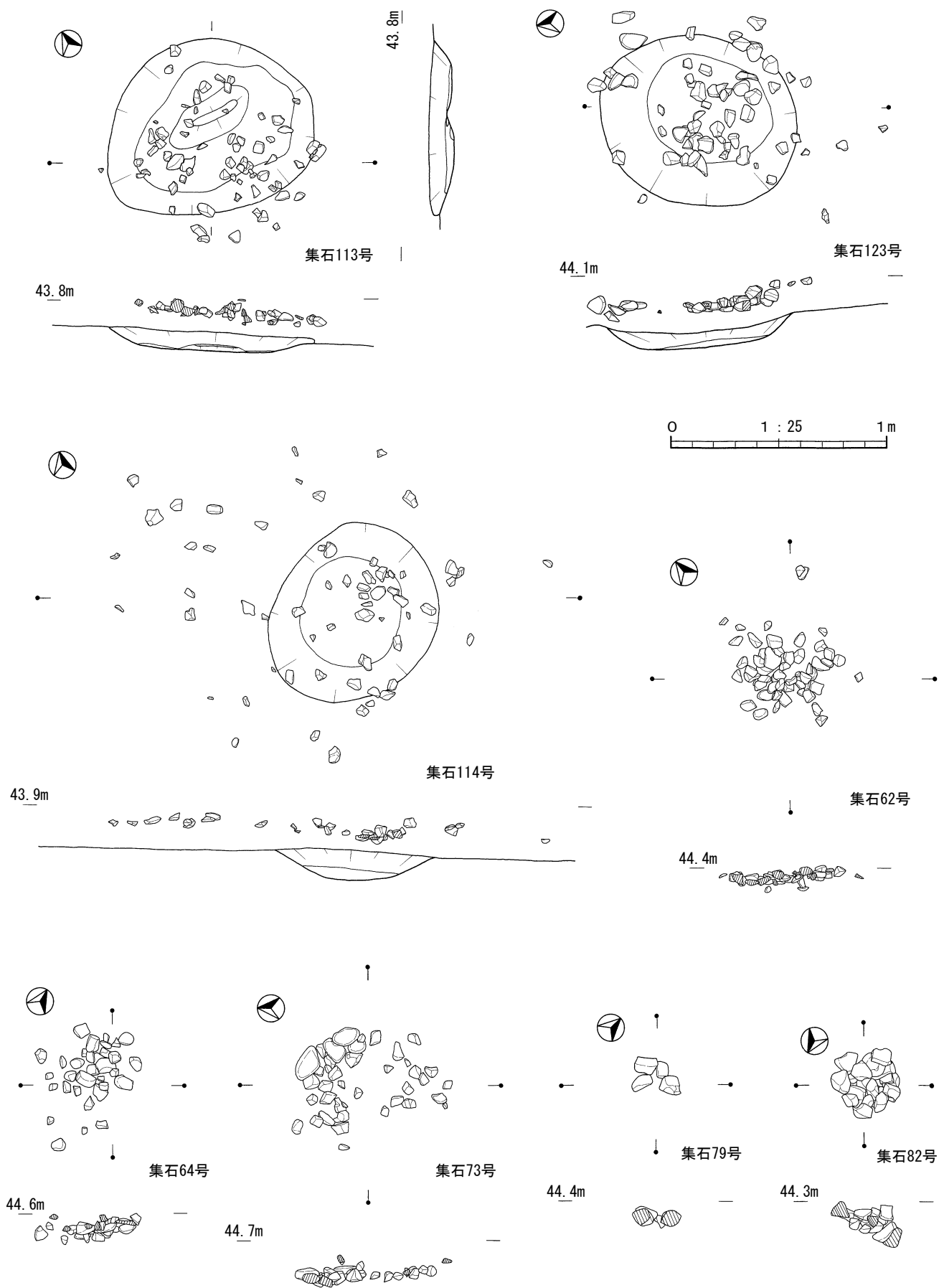
E-8区の9層下位で検出した。大型の破碎礫が多い。

集石 110 号 (SS110)

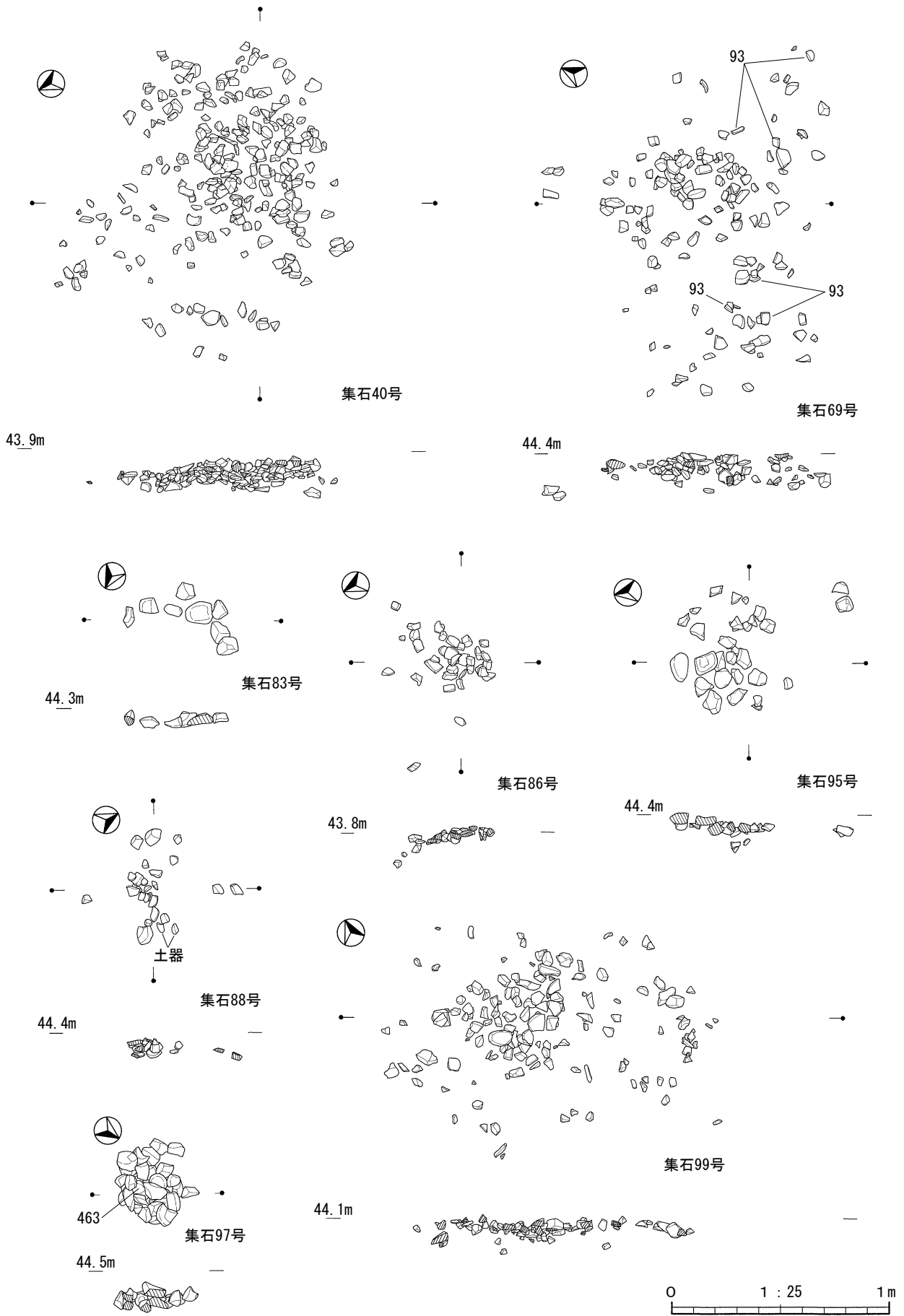
E-8区の9層下位で検出した。集石の周縁で磨石・敲石1類の完形品（第117図454）が出土した。

集石 111 号 (SS111)

E-8区の9層下位で検出した。掘り込みは10層上面で検出しており、礫の広がり掘り込みがずれている。



第52図 第2エリア集石 (8)



第53図 第2エリア集石(9)

集石 112 号 (SS112)

E-8・9 区の 9 層下位で検出した。

集石 113 号 (SS113)

E-8 区の 9 層中位で検出した。掘り込みは床面の中央部が盛り上がっている。

集石 114 号 (SS114)

E-9 区の 9 層中位で検出した。

集石 123 号 (SS123)

D-8 区の 9 層下位で検出した。10 cm 程の礫が大半を占める。

Ⅲ類 (第 52~54 図)

集石 40 号 (SS40)

D-8 区の 9 層中位で検出した。

集石 62 号 (SS62)

C-12 区の 9 層中位で検出した。集石中心部の土色が周囲より黒味を帯び、炭化物粒をわずかに含むが、掘り込みは確認できなかった。

集石 64 号 (SS64)

A-12 区の 9 層中位で検出した。集石中心部の土色は周囲より黒味を帯びていたが、掘り込みは確認できなかった。

集石 69 号 (SS69)

D-10 区の 9 層下位で検出した。集石の範囲内から 7 類土器の胴部片 6 点 (第 71 図 93 の一部) が出土した。

集石 73 号 (SS73)

B-11 区の 9 層中位で検出した。集石中心部の土色は周囲より黒味が強く、炭化物粒をわずかに含むが、掘り込みは確認できなかった。大型の破砕礫が大半を占める。

集石 79 号 (SS79)

C-11 区の 9 層中位で検出した。礫周辺の土色は周囲より黒味を帯びる。

集石 82 号 (SS82)

D-9 区の 9 層下位で検出した。10 cm 程の角礫が密集している。

集石 83 号 (SS83)

D-9 区の 10 層上面で検出した。10 cm 程の角礫で構成される。

集石 86 号 (SS86)

B-8 区の 9 層下位で検出した。

集石 88 号 (SS88)

C-9 区の 9 層中位で検出した。集石の範囲内から、20 類土器に類似する胴部片 2 点が出土した。

集石 95 号 (SS95)

E-11 区の 9 層中位で検出した。10 cm 程の角礫が大半を占める。

集石 97 号 (SS97)

E-12 区の 9 層中位で検出した。10 cm 程の円礫と角礫が密集している。磨石・敲石 2 類の完形品 (第 119 図 463)

が利用されている。

集石 99 号 (SS99)

E-9・10 区の 9 層中位で検出した。

集石 102 号 (SS102)

F-10 区の 9 層中位で検出した。

集石 104 号 (SS104)

F-9 区の 9 層中位で検出した。

集石 106 号 (SS106)

D・E-9 区の 9 層中位で検出した。集石の範囲内から 9 類土器の口縁部片 (第 72 図 99) と 14-1 類土器の胴部片 3 点 (第 83 図 173 の一部)、条痕文土器の胴部片が出土した。

集石 115 号 (SS115)

F-9 区の 9 層中位で検出した。20 cm 弱の礫を含む。

Ⅳ類 (第 54・55 図)

集石 42 号 (SS42)

E-8 区の 9 層上位で検出した。被熱破砕の著しい礫が多い。

集石 63 号 (SS63)

B-12 区の 9 層中位で検出した。集石の中心部は炭化物粒がわずかに認められる。

集石 72 号 (SS72)

B-10 区の 9 層下位で検出した。集石の範囲内からチャート 1 類剥片が出土した。

集石 81 号 (SS81)

B-9 区の 9 層中位で検出した。集石の範囲内から、磨石・敲石 1 類の破損品が出土した。

集石 89 号 (SS89)

C-9 区の 9 層下位で検出した。礫の周辺において炭化物粒がわずかに認められる。

集石 91 号 (SS91)

C-8 区の 9 層中位で検出した。

集石 96 号 (SS96)

D・E-11 区の 9 層中位で検出した。

集石 98 号 (SS98)

E-10 区の 9 層中位で検出した。

集石 120 号 (SS120)

C-7 区の 9 層下位で検出した。集石中心部の土色は周囲より黒味をやや帯びる。

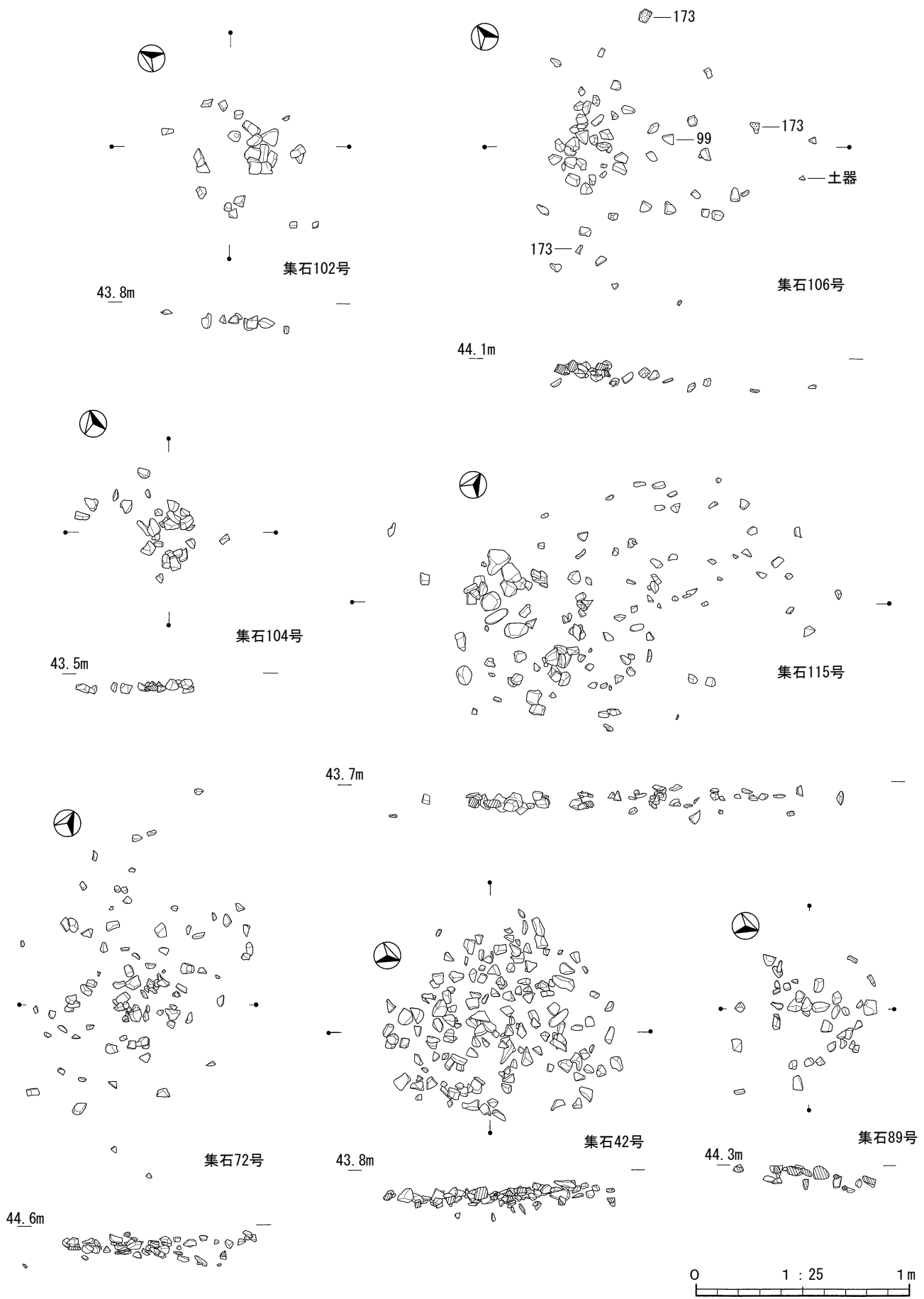
第 3 エリア (第 55・57~59 図)

このエリアでは 19 基検出した。内訳は I 類が 4 基、II 類が 8 基、III 類が 3 基、IV 類が 4 基である。

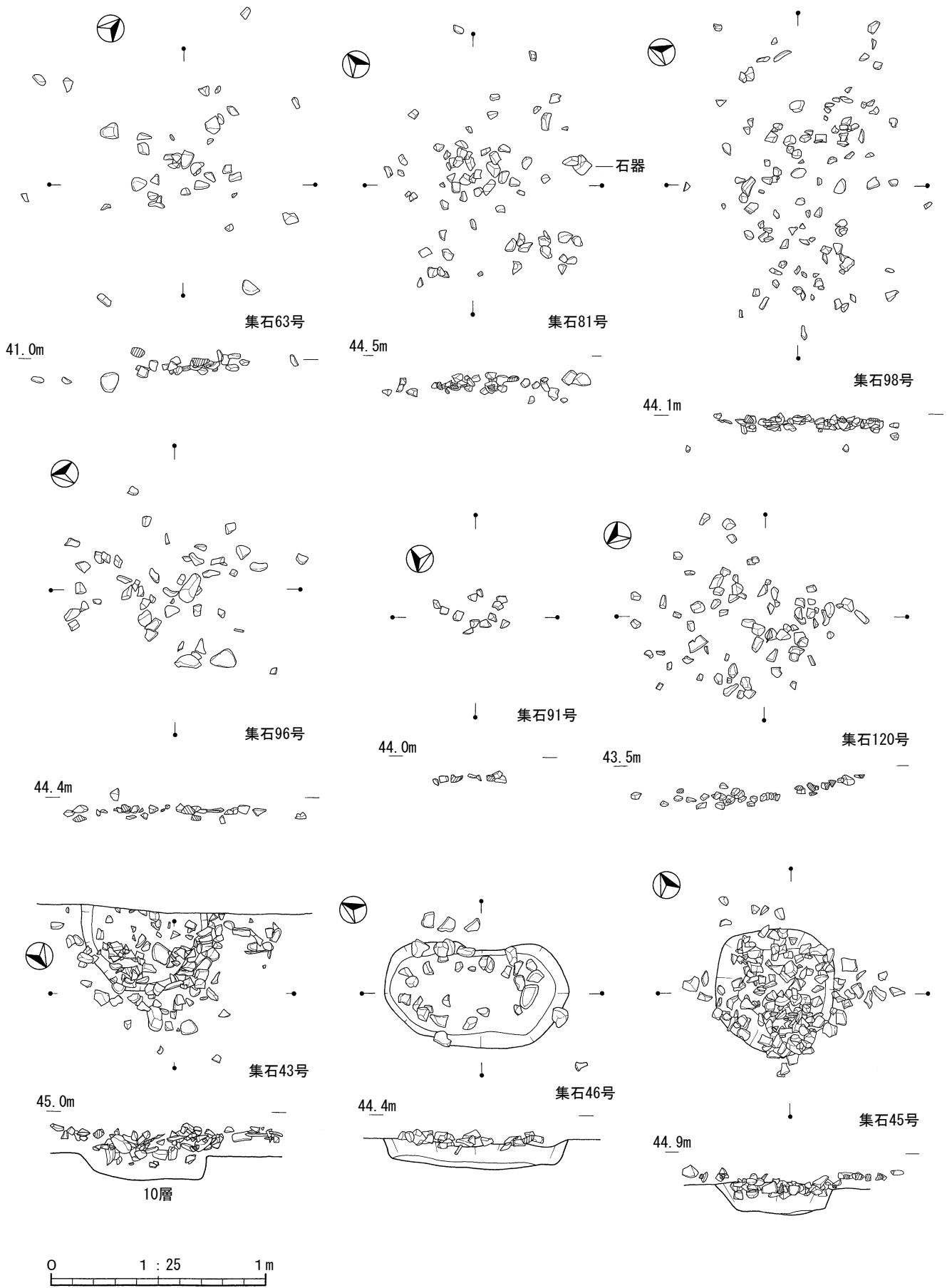
I 類 (第 55・57 図)

集石 43 号 (SS43)

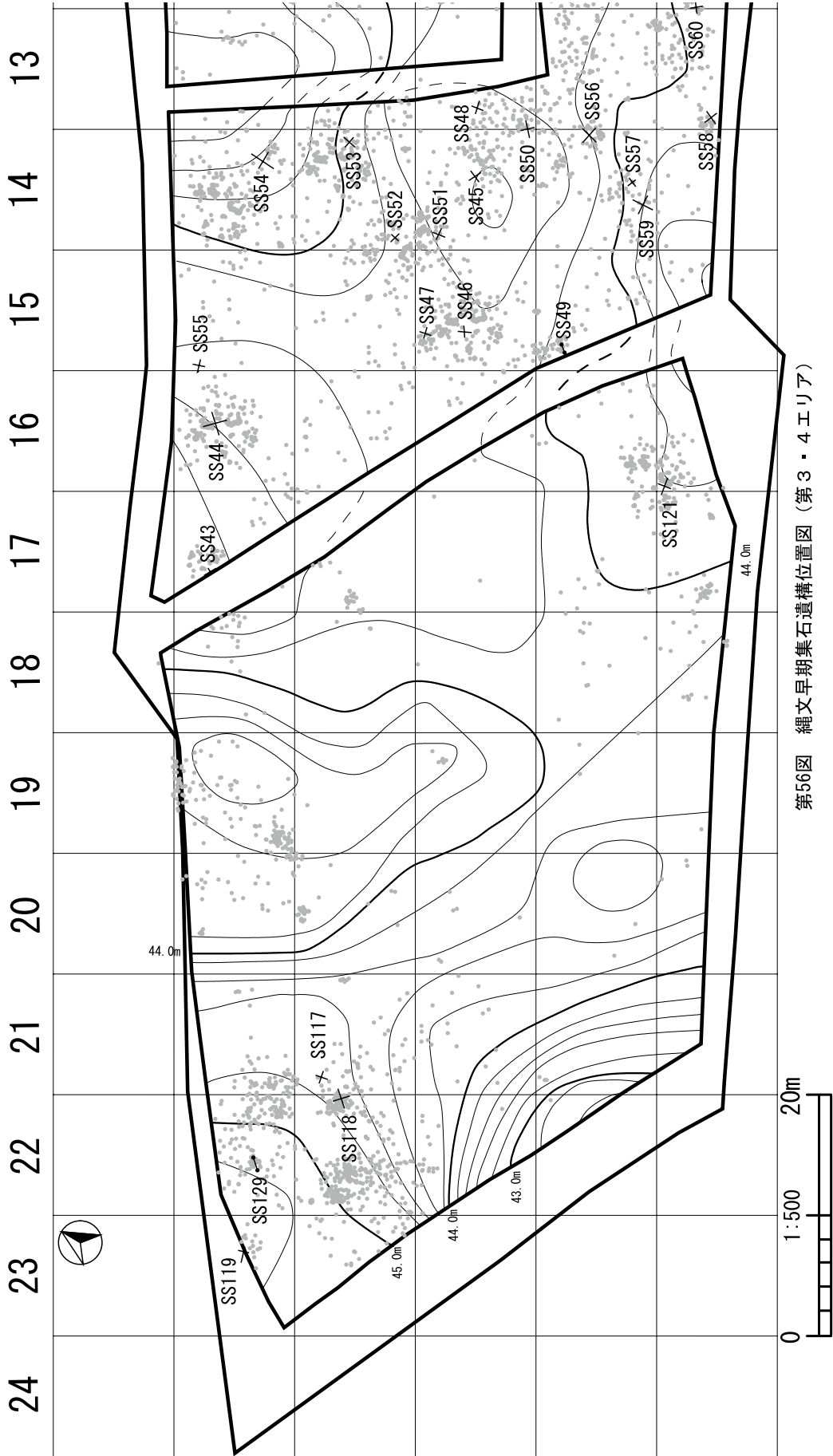
B-17 区の 9 層下位で検出した。調査範囲外にも広がると推測できる。掘り込みは 10 層上面で検出しており、集石中心部と掘り込みがずれている。掘り込み埋土は黒



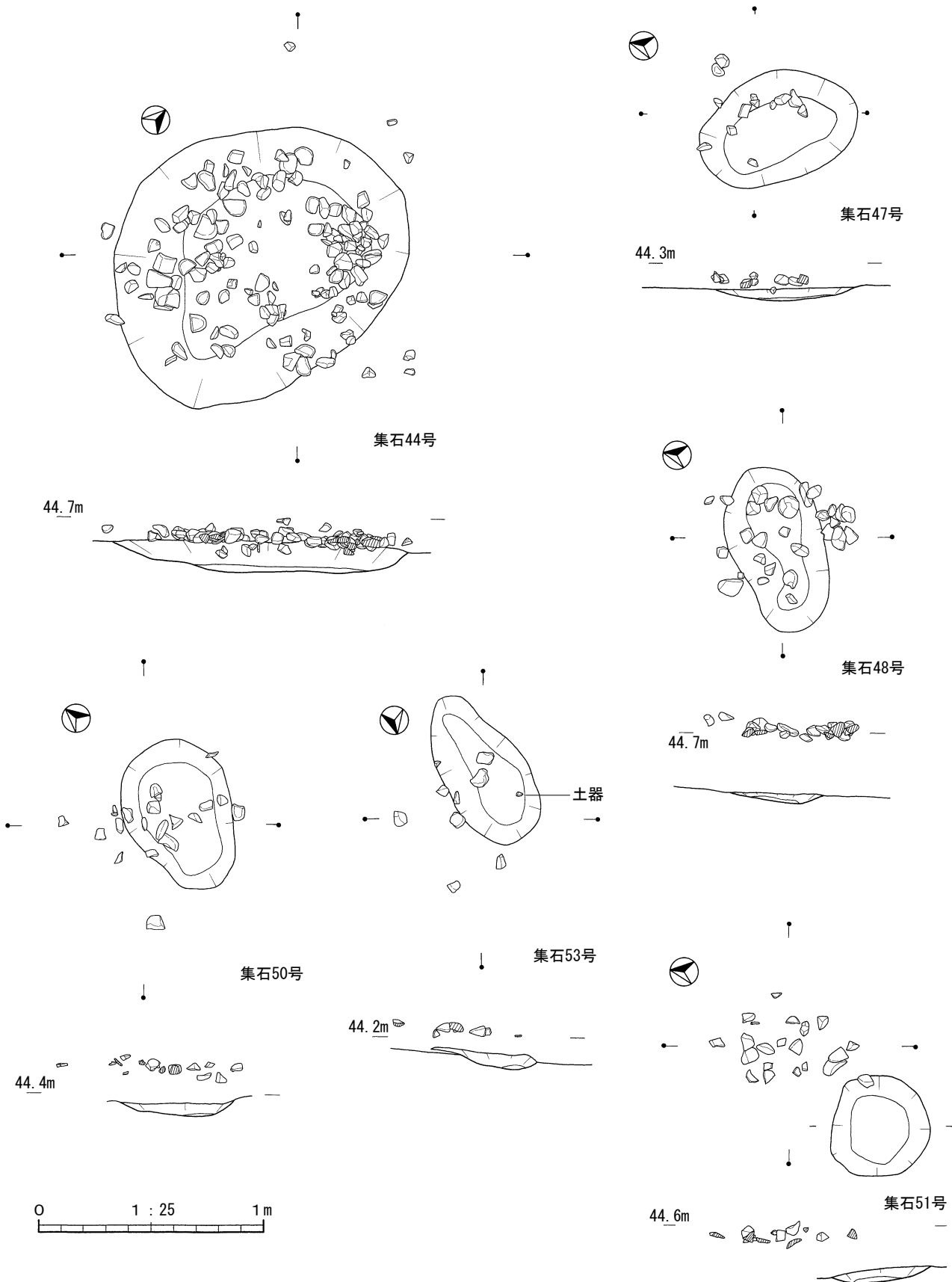
第54図 第2エリア集石 (10)



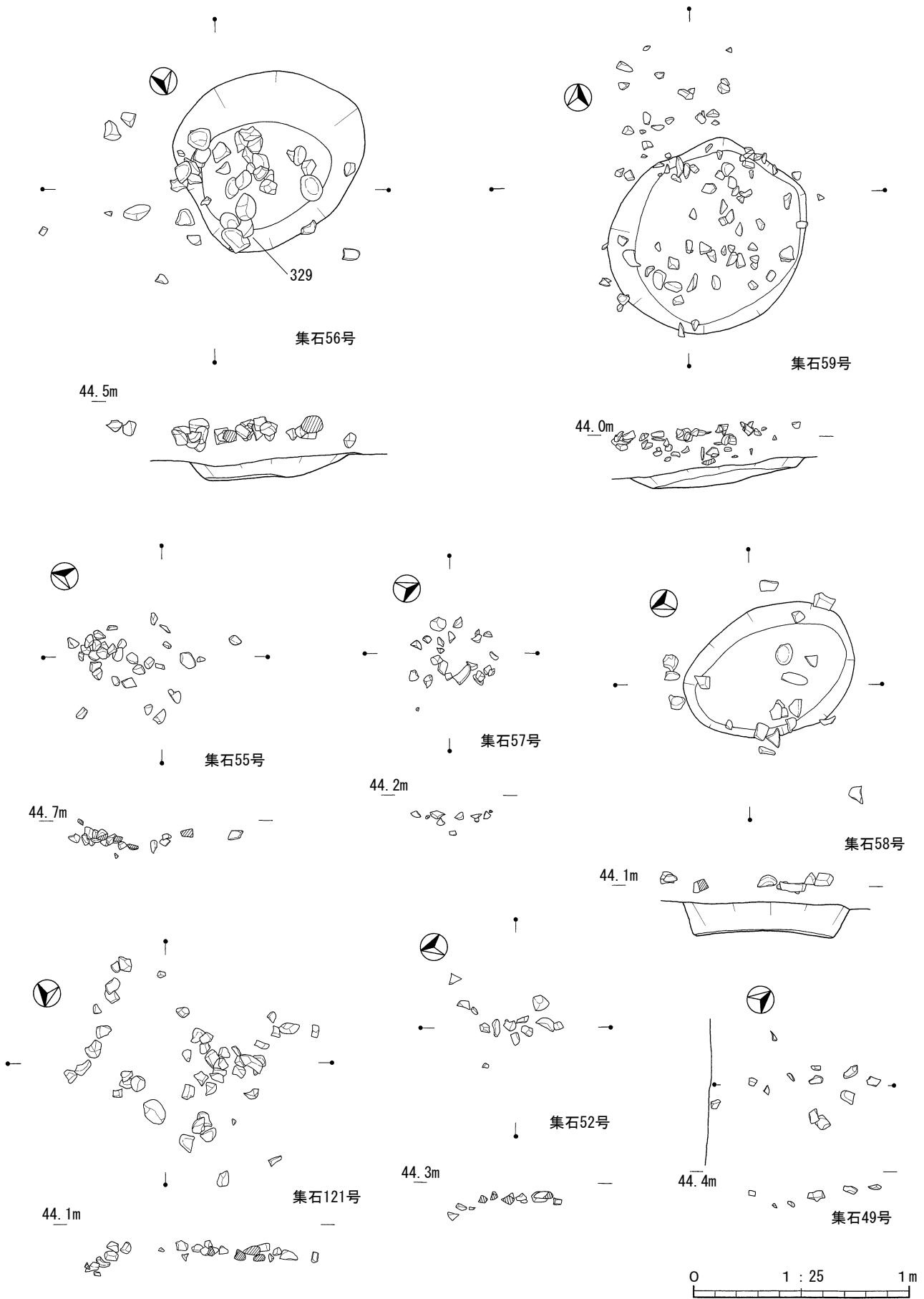
第55図 第2エリア集石 (11) ・第3エリア集石 (1)



第56図 縄文早期集石遺構位置図 (第3・4エリア)



第57図 第3エリア集石(2)



第58図 第3エリア集石(3)

褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。9層土との区別が困難で、調査区壁面で掘り込みの立ち上がりを精査したが、確認できなかった。

集石 44号 (SS44)

B-16区の9層下位で検出した。掘り込み埋土は黒褐色(10YR3/1)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスをわずかに含む。

集石 45号 (SS45)

D-14区の9層下位で検出した。掘り込み埋土は暗褐色(10YR3/3)シルト質土で、締まっている。

集石 46号 (SS46)

D-15区の10層上面で検出した。検出時に掘り込みも確認している。掘り込み埋土は暗褐色(10YR3/3)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスと炭化物粒をわずかに含む。掘り込み埋土は9層下部の土色と類似しており、区別が困難であった。

Ⅱ類 (第57・58図)

集石 47号 (SS47)

D-15区の9層下位で検出した。掘り込み埋土は黒褐色(10YR3/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスを含み、白色粒を多く含む。

集石 48号 (SS48)

D-13区の9層中位で検出した。掘り込み埋土は黒褐色(10YR3/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスを含む。

集石 50号 (SS50)

D-13・14区の9層中位で検出した。

集石 51号 (SS51)

D-14区の9層中位で検出した。礫と掘り込みがずれしており、掘り込みが集石に伴うものではない可能性もありうる。掘り込み埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスと炭化物粒を含む。

集石 53号 (SS53)

C-14区の9層中位で検出した。掘り込み検出面上位から、無文土器の胴部小片が出土した。掘り込み埋土は黒褐色(10YR3/1)シルト質土で、締まっている。炭化物粒をわずかに含む。

集石 56号 (SS56)

E-13・14区の9層下位で検出した。10cm程の礫が大半を占める。掘り込み埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスと白色粒をわずかに含む。掘り込み検出面上位から、早期土器の底部片(第97図329)が出土した。

集石 58号 (SS58)

F-13区の9層中位で検出した。掘り込み埋土は黒色(10YR2/1)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスをわずかに含む。

集石 59号 (SS59)

E-14区の9層下位で検出した。礫が平面的にも、レベル的にも散在している。

Ⅲ類 (第58図)

集石 55号 (SS55)

B-15区の9層上位で検出した。

集石 57号 (SS57)

E-14区の9層下位で検出した。

集石 121号 (SS121)

F-16区の9層中位で検出した。

Ⅳ類 (第58・59図)

集石 49号 (SS49)

E-15区の9層中位で検出した。礫周辺の土色が周囲より黒味を帯びていたが、掘り込みは確認できなかった。

集石 52号 (SS52)

C-14区の9層中位で検出した。

集石 54号 (SS54)

B-14区の9層中位で検出した。集石の範囲内から無文土器の胴部小片が出土した。

集石 60号 (SS60)

F-12区の9層中位で検出した。集石の範囲内から、被熱した磨石・敲石1類の破損品が出土した。

第4エリア (第59図)

このエリアでは4基検出した。Ⅰ類が2基、Ⅲ類が1基、Ⅳ類が1基である。

Ⅰ類

集石 117号 (SS117)

C-21区の9層下位で検出した。掘り込み内出土礫が多い。

集石 129号 (SS129)

B-22区の10層上面で検出した。当初、土坑60号として調査したものである。掘り込み埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質土で、締まっている。黄橙色パミスをわずかに含む。

Ⅲ類

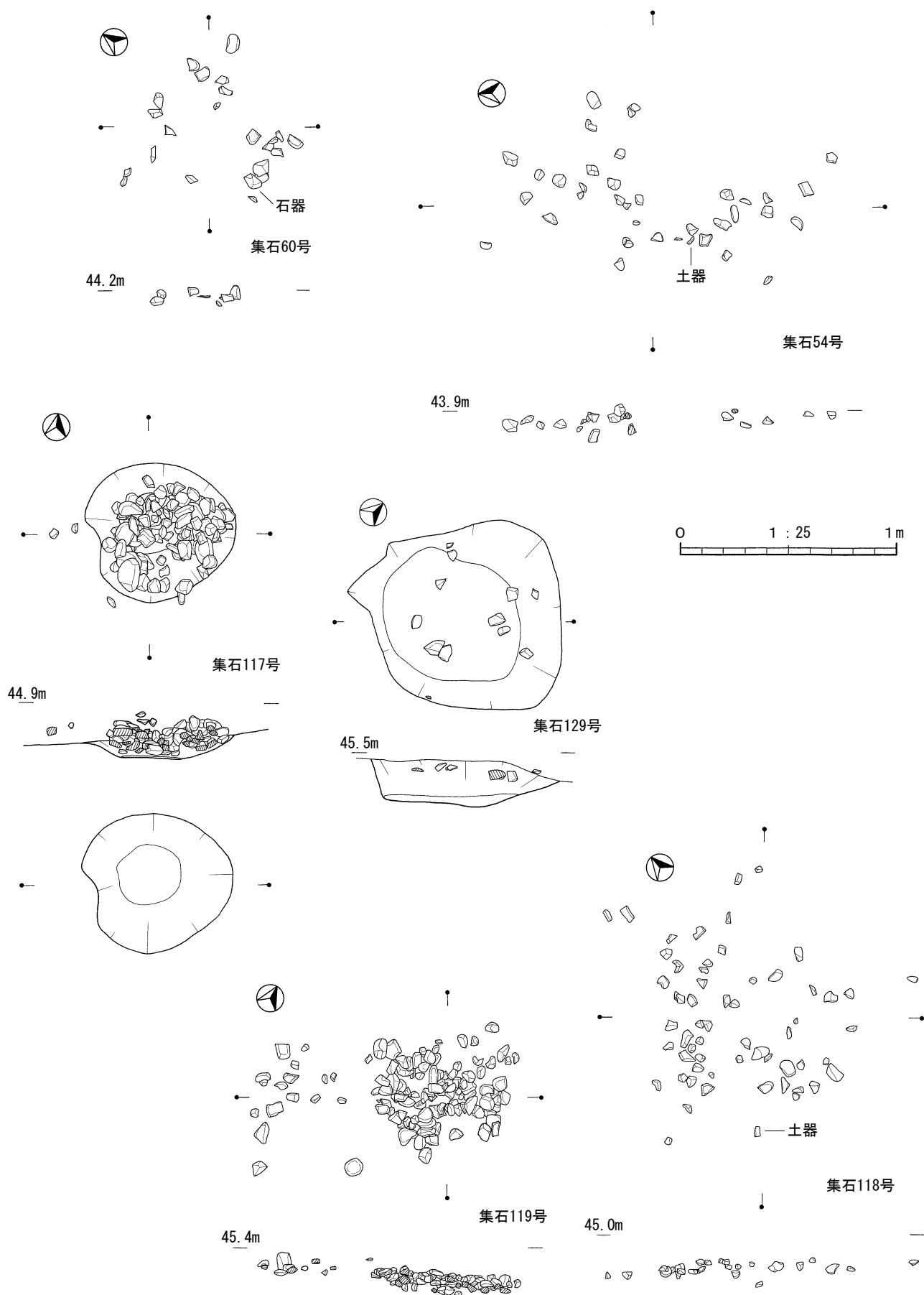
集石 119号 (SS119)

B-23区の9層下位で検出した。長径10cm程の礫で構成される。

Ⅳ類

集石 118号 (SS118)

C-22区の9層下位で検出した。集石の範囲内で条痕文土器の胴部小片が出土した。



第59図 第3エリア集石(4)・第4エリア集石

第9表 集石観察表(1)

遺構名	エリ	了	抽出面	分類	規模(m)		掘り込み(m)			総繰数	石材別個数					礫重量(g)					礫最大長(cm)				礫最大長別個数						
					長軸	短軸	長軸	短軸	深さ		砂岩	頁岩	安山	凝灰	花崗	他	平均値	中央値	最大値	最小値	～100	～200	～300	300～	平均値	中央値	最大値	最小値	～5	～10	10～
SS1			9層中位	III	1.75	1.0	-	-	-	58	13	7	36	2	0	0	57.7	49.65	209.9	9.8	52	5	1	0	5.2	5.2	8.3	3.3	25	33	0
SS2			9層中位	II	2.0	1.8	0.8	0.7	0.2	115	104	0	0	11	0	0	135.4	102.1	764	10.1	55	35	14	11	7.2	7.2	11.8	3.7	17	91	7
SS3			9層中位	III	1.35	1.6	-	-	-	41	27	13	1	0	0	0	79.3	78	235.1	11.7	29	11	1	0	6.3	6.1	9.6	3.4	4	37	0
SS4			9層上位	I	0.80	(0.50)	(0.56)	(0.22)	0.12	79	65	4	3	5	0	2	259.8	170.5	1159.1	24.9	19	26	10	24	8.1	7.4	15.3	4.3	4	61	14
SS5			9層中位	II	1.9	1.8	0.74	0.58	0.07	106	92	8	2	4	0	0	116.3	92.75	2186.2	12.4	57	43	5	1	6.4	6.35	18.6	3.6	21	83	2
SS6			9層上位	III	2.8	2.6	-	-	-	323	186	125	7	5	0	0	75.6	45.3	2564.5	3.8	259	44	12	8	5.8	5.5	4.9	2.4	125	192	6
SS7			9層中位	II	2.1	1.9	1.4	1.1	0.2	435	422	12	0	1	0	0	71.5	61.1	331	8	343	81	9	2	6.1	5.9	12	3.2	93	339	3
SS8			9層下位	IV	0.95	0.75	-	-	-	32	32	0	0	0	0	0	76.8	58.95	302.2	3.9	23	7	1	1	5.9	5.45	9.4	3.9	13	19	0
SS9			9層下位	III	0.9	0.7	-	-	-	30	23	2	0	5	0	0	111.9	95.3	345.4	18.6	16	9	4	1	6.7	6.65	9.6	4.4	5	25	0
SS10			9層中位	II	0.7	0.6	0.63	0.56	0.13	18	15	2	1	0	0	0	59.4	45.6	145.8	14.4	14	4	0	0	5.4	5.2	8.6	3.8	7	11	0
SS11			9層中位	I	1.4	1.05	1.17	1.1	0.24	99	93	0	1	5	0	0	96.7	73.6	477.2	10.7	60	29	8	2	6.5	6.6	11.3	3.4	25	73	1
SS12			9層下位	I	1.55	1.5	1.55	1.5	0.2	92	90	0	0	2	0	0	48.6	32.65	229.8	5.3	80	10	2	0	5.6	5.5	9.9	2.9	32	60	0
SS13			10層上面	I	0.93	0.9	0.93	0.9	0.1	27	22	0	1	4	0	0	274	195.3	899.8	15.7	6	9	3	9	8.2	7.8	13.3	3.9	4	16	7
SS14			9層下位	II	1.0	0.65	0.84	0.62	0.07	30	30	0	0	0	0	0	78.5	54	312.3	11.2	23	5	1	1	5.9	5.8	10	3.6	10	20	0
SS15			10層上面	I	1.17	0.88	1.17	0.88	0.1	78	76	2	0	0	0	0	36.5	23.85	187.8	3.2	74	4	0	0	5.2	5.1	13.8	1.9	38	39	1
SS17			10層上面	I	1.1	0.68	1.1	0.62	0.08	16	15	1	0	0	0	0	62.4	49.5	144.7	14	12	4	0	0	5.8	5.7	9.1	4	5	11	0
SS18			9層中位	I	1.9	1.1	1.2	0.85	0.12	134	53	79	2	0	0	0	68.1	38.35	687.8	2.6	112	16	0	6	5.7	5.5	11.7	2	55	74	5
SS19			9層中位	IV	1.3	1.0	-	-	-	68	29	38	1	0	0	0	60	37.75	209.4	4.2	52	15	1	0	5.7	5.75	9.2	2.5	27	41	0
SS20			9層中位	II	1.2	0.9	0.9	0.75	0.15	19	16	1	1	1	0	0	136.2	146.6	346.7	12.1	7	9	2	1	6.8	6.8	9.2	4.7	2	17	0
SS21			9層中位	I	1.5	1.1	1.15	0.85	0.08	230	122	102	4	2	0	0	61	52.85	269.1	1.9	201	25	4	0	5.4	5.4	10	1.9	95	135	0
SS22			9層中位	IV	1.8	1.2	-	-	-	127	81	34	7	5	0	0	98.2	63.1	574.7	5.79	87	24	9	7	6.2	6.2	10.7	2.5	33	93	1
SS23			10層上面	I	0.5	0.5	0.5	0.5	0.07	13	6	4	1	2	0	0	94.9	100.7	260.1	11	6	6	1	0	6.3	6.4	8.5	3.5	3	10	0
SS24			10層上面	I	0.85	0.85	0.85	0.85	0.15	43	36	4	0	3	0	0	60.3	49.6	210.7	10.2	37	5	1	0	5.7	5.4	13.1	3.4	17	25	1
SS25			9層下位	I	0.85	0.75	0.85	0.75	0.15	147	141	1	0	5	0	0	45.3	36.7	231.4	1.7	138	8	1	0	5	5	10.3	2.4	75	71	1
SS26			9層中位	II	0.65	0.65	0.58	0.48	0.05	43	32	11	0	0	0	0	54.8	36	327.4	9.9	38	4	0	1	5.5	5.4	11.4	2.8	19	23	1
SS27			9層下位	I	1.0	0.85	0.93	0.76	0.12	104	103	0	0	1	0	0	50.7	36.8	206.1	8	89	14	1	0	5.4	5.2	10.2	2.5	47	56	1
SS28			9層中位	II	1.3	1.1	0.78	0.77	0.1	63	59	4	0	0	0	0	47.5	38.9	144.6	3.7	57	6	0	0	5.4	5.2	10.2	2.6	28	34	1
SS29			9層下位	I	1.5	1.25	1.28	1.2	0.13	29	28	1	0	0	0	0	69.4	62.8	211.9	4.8	24	3	2	0	6.4	6.4	11	3.3	7	21	1
SS30			10層上面	I	1.15	1.1	1.1	0.95	0.15	29	23	0	0	6	0	0	124.5	102.5	538.9	17.5	14	11	2	2	7	7	12.3	3.7	7	20	2
SS31			10層上面	I	0.8	0.7	0.8	0.7	0.15	29	29	0	0	0	0	0	128.9	109.7	309	24.9	12	15	1	1	7	7	10.1	4.6	2	26	1
SS32			9層下位	I	0.85	0.57	0.85	0.57	0.18	14	11	1	1	0	0	1	40.7	29.25	134.2	3.4	13	1	0	0	4.7	4.2	7.2	2.9	9	5	0
SS33			10層上面	I	0.98	0.9	0.98	0.9	0.15	80	17	63	0	0	0	0	113.4	83.6	665.5	10.2	49	21	5	5	7.2	7.1	12.6	3.1	11	61	8
SS34			9層上位	II	1.3	1.1	1.1	0.99	0.1	65	64	0	0	1	0	0	67	50.5	217.7	11.8	52	12	1	0	6.1	5.9	10.6	3.5	19	45	1

第10表 集石観察表(2)

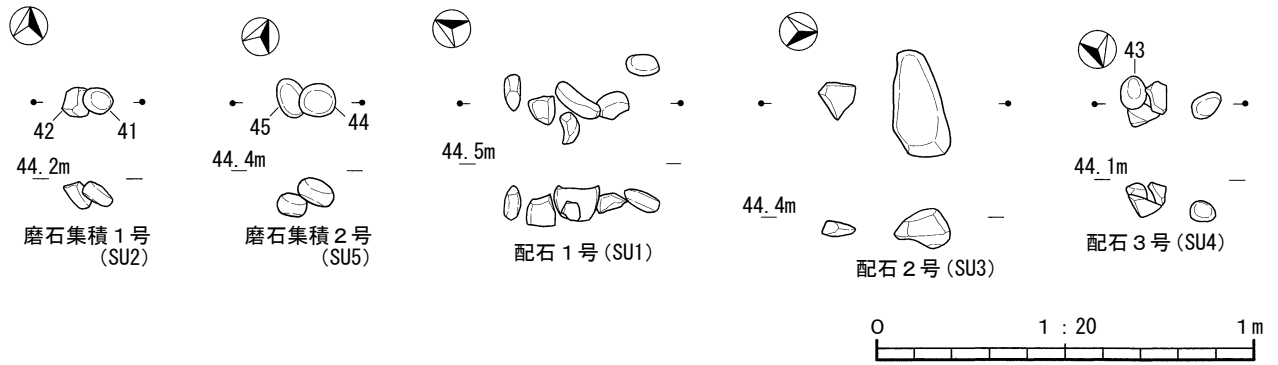
遺構名	エリア	検出面	分類	規模(m)		掘り込み(m)			総数				石材別個数				機重量(g)				機重量(g)別個数				機最大長(cm)				機最大長別個数			
				長軸	短軸	長軸	短軸	深さ	砂岩	頁岩	安山	凝灰	花崗	他	平均値	中央値	最大値	最小値	～100	～200	～300	300～	平均値	中央値	最大値	最小値	～5	～10	10～			
SS35		9層中位	II	0.95	0.75	0.77	0.68	0.1	23	16	3	2	2	0	0	0	186.9	85.7	846.7	7.6	13	3	2	5	7.3	6.8	12.2	3.5	5	13	5	
SS36	1	9層下位	I	0.75	(0.6)	0.7	0.6	0.1	29	22	4	0	3	0	0	182.6	102.6	2473.7	12.1	14	12	1	2	7.5	6.5	23.1	4.4	3	23	3		
SS37		9層下位	II	0.96	0.86	0.96	0.86	0.15	8	8	0	0	0	0	0	79.2	83.95	141.1	26.5	6	2	0	0	6.2	6.65	7.6	4.6	3	5	0		
SS38		9層中位	III	0.8	0.6	-	-	-	38	24	8	6	0	0	0	98	91.8	237.3	13.4	20	15	3	0	6.6	6.7	9.8	3.5	6	32	0		
SS39		9層中位	II	0.65	0.65	0.67	0.62	0.04	22	22	0	0	0	0	0	179.5	169.65	372	6	5	7	6	4	7.4	7.8	9.5	2.7	3	19	0		
SS40	2	9層中位	III	1.5	1.3	-	-	-	227	225	0	0	2	0	0	49	41.5	273.5	3.2	208	17	2	0	5.4	5.3	10.2	2.5	99	127	1		
SS41		9層下位	I	0.85	0.75	0.85	0.73	0.08	12	9	1	2	0	0	0	71.7	66.8	156.2	13.5	9	3	0	0	6	6.15	8.5	3.2	5	7	0		
SS42		9層上位	IV	1.15	0.95	-	-	-	157	72	85	0	0	0	0	49.4	37.1	226	5.8	138	18	1	0	5.8	5.7	11.6	2.7	55	99	3		
SS43		9層下位	I	1.1	0.7	0.6	(0.35)	0.10	127	127	0	0	0	0	0	71.5	48.4	603.3	2.8	110	9	3	5	5.9	5.5	13.6	2.6	49	73	5		
SS44		9層下位	I	1.85	1.5	1.35	1.2	0.13	135	130	1	0	2	0	2	115.4	84.8	611.8	6.3	75	41	12	7	6.7	6.5	12	2.5	26	101	8		
SS45		9層下位	I	1.05	0.9	0.6	0.6	0.12	148	140	2	0	6	0	0	63.9	50.2	285.3	7.3	125	21	2	0	5.9	5.75	9.5	3.1	40	108	0		
SS46		10層上面	I	1.05	0.7	0.85	0.5	0.15	34	34	0	0	0	0	0	130.5	121.05	368.7	23.7	12	19	1	2	7.3	7.3	11.1	4.2	2	31	1		
SS47		9層下位	II	0.7	0.7	0.7	0.5	0.05	13	13	0	0	0	0	0	74.8	85.6	175.1	15.7	10	3	0	0	5.7	5.9	8.1	3.7	5	8	0		
SS48		9層中位	II	0.75	0.7	0.75	0.4	0.04	28	21	1	0	5	0	1	143.1	121.05	385.2	22.9	11	11	2	4	7.2	7.2	11.3	3.7	3	21	4		
SS49		9層中位	IV	(0.85)	0.5	-	-	-	12	12	0	0	0	0	0	60.1	48.1	114	7.2	8	4	0	0	5.8	5.7	7.5	3.9	4	8	0		
SS50		9層中位	II	0.85	0.85	0.7	0.5	0.07	22	21	0	0	1	0	0	75.4	45.5	362.3	6.9	17	3	1	1	6.3	6.1	10.3	3.1	5	16	1		
SS51	3	9層中位	II	1.0	0.5	0.45	0.45	0.05	21	20	1	0	0	0	0	92.8	72.4	511	3.5	17	2	1	1	6.3	6.4	10.3	2.8	5	15	1		
SS52		9層中位	IV	0.55	0.45	-	-	-	13	10	2	0	1	0	0	72.4	49.9	204.9	13.8	10	2	1	0	6	5.9	8.8	3.9	4	9	0		
SS53		9層中位	II	0.8	0.65	0.7	0.35	0.03	9	9	0	0	0	0	0	97.6	89.7	224.9	15.3	7	1	1	0	6.7	6.8	8.5	3.9	1	8	0		
SS54		9層中位	IV	1.7	1.1	-	-	-	37	34	1	0	2	0	0	66.6	56.3	202.7	3.3	28	8	1	0	5.7	5.7	8.2	2.5	16	21	0		
SS55		9層上位	III	0.8	0.55	-	-	-	33	32	1	0	0	0	0	62.2	66.2	145	8.5	29	4	0	0	5.5	5.8	7.8	2.8	8	25	0		
SS56		9層下位	II	1.35	1.25	0.9	0.85	0.08	43	35	0	0	6	0	2	301.2	271.5	1023.5	8.2	7	9	9	18	8.3	8.3	12.7	3	3	32	8		
SS57		9層下位	III	0.45	0.3	-	-	-	23	23	0	0	0	0	0	57.8	49.8	255.4	5.5	21	1	1	0	5.4	5.3	9.6	3.6	9	14	0		
SS58		9層中位	II	0.9	0.8	0.8	0.6	0.15	20	16	0	1	0	1	2	162.2	124.85	421.1	18.1	8	4	6	2	7.5	7.85	11.5	3.4	2	17	1		
SS59		9層下位	II	1.35	1.05	0.9	0.85	0.09	90	88	2	0	0	0	0	41.6	34.2	128.5	3	84	6	0	0	5.4	5.1	10.7	2.4	40	49	1		
SS60		9層中位	IV	0.8	0.85	-	-	-	22	19	3	0	0	0	0	81.7	44.2	313.3	20.5	15	6	0	1	6.6	6.8	9.1	4.3	3	19	0		
SS61		9層中位	II	2.5	2.6	1.2	0.85	0.1	194	168	5	0	21	0	0	61.1	47.9	362.7	0.7	167	22	3	2	5.7	5.5	5	1.5	69	125	0		
SS62		9層中位	III	0.75	0.7	-	-	-	54	37	12	1	3	0	1	87.8	84.4	259.2	4.9	34	19	1	0	6.4	6.3	10.6	3	7	46	1		
SS63		9層中位	IV	1.4	1.4	-	-	-	38	30	4	3	0	0	1	76.5	48.15	454.6	4.5	29	7	1	1	5.8	5.7	10.1	2.8	11	26	1		
SS64	2	9層中位	III	0.65	0.5	-	-	-	33	19	7	5	2	0	0	91	73.9	274.1	16.2	22	9	2	0	6.2	5.9	8.9	3.7	9	24	0		
SS65		9層中位	II	1.4	0.8	0.6	0.48	0.18	49	40	0	0	9	0	0	194.9	98.1	2079.9	20.4	25	6	8	10	7.5	7.6	17.3	3.9	7	37	5		
SS66		9層中位	II	1.25	1.0	0.75	0.6	0.07	32	26	3	1	1	0	1	62	67.35	187	8.2	27	5	0	0	5.7	5.85	9.2	3.3	13	19	0		
SS67		9層下位	I	1.35	1.15	1.0	1.0	0.2	138	85	51	1	1	0	0	49.7	34.3	443.1	2.2	122	13	1	2	5.4	5.1	13.8	2.2	66	70	2		

第11表 集石観察表(3)

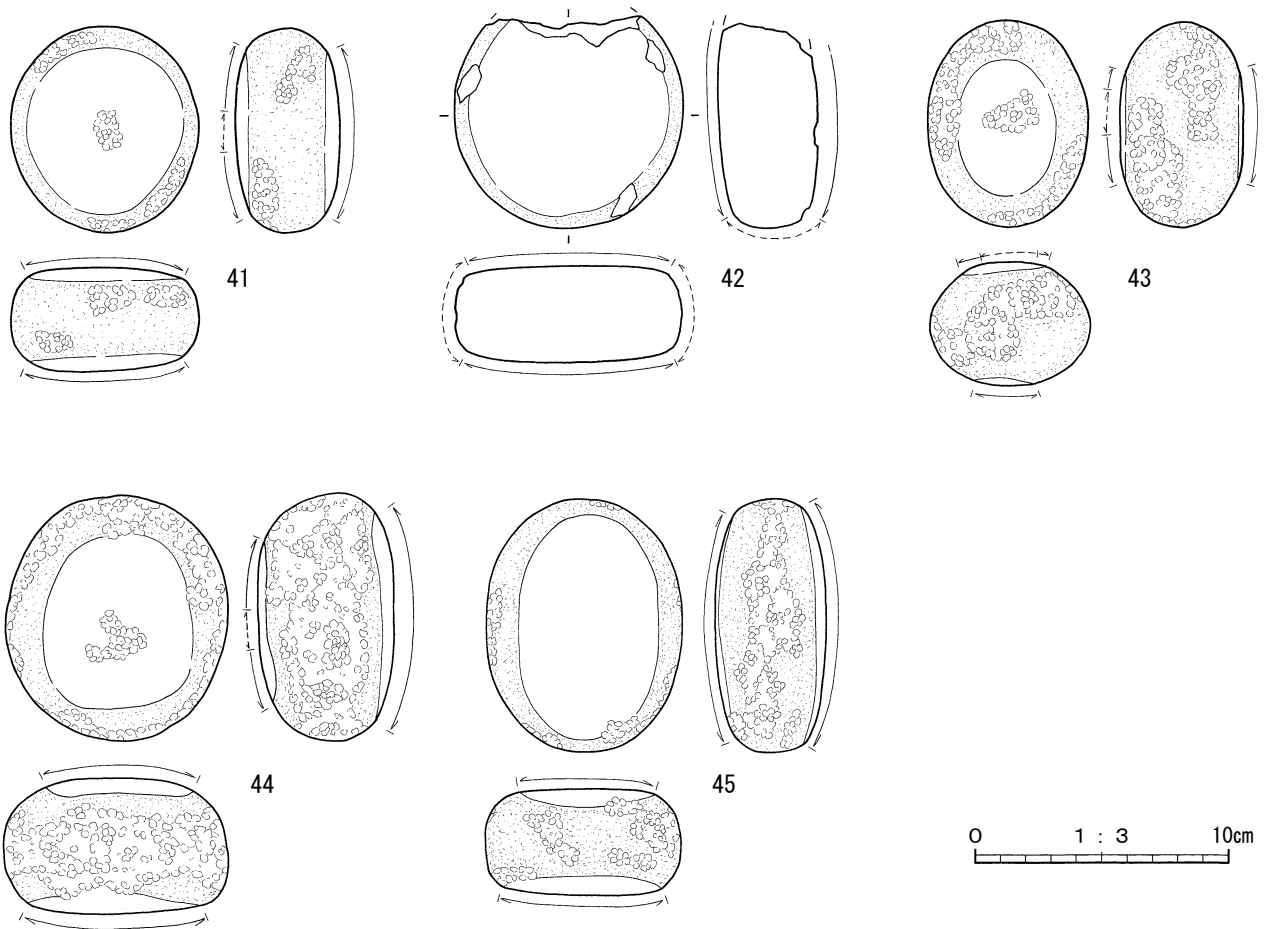
遺構名	エリ	了	輸出面	分類	規模(m)		掘り込み(m)			石材別個数					礫重量(g)					礫最大長(cm)					礫最大長別個数							
					長軸	短軸	長軸	短軸	深さ	総数	砂岩	頁岩	安山	凝灰	花崗	他	平均値	中央値	最大値	最小値	~100	~200	~300	300~	平均値	中央値	最大値	最小値	~5	~10	10~	
SS68			10層上面	I	1.05	1.05	1.05	1.05	0.25	103	100	0	1	2	0	0	0	92.9	41.6	514.6	2.6	70	19	8	6	6.4	5.9	12	2.5	29	67	7
SS69			9層下位	III	1.7	1.5	-	-	-	134	111	15	5	3	0	0	62.6	50.45	225.8	4	110	21	3	0	5.7	5.7	9.3	2.4	47	87	0	
SS70			9層下位	I	1.4	1.0	0.85	0.8	0.25	126	81	43	0	1	0	1	67.5	51.75	347.9	1.8	97	25	3	1	5.8	5.7	10.8	2.7	41	84	1	
SS71			9層中位	II	1.7	1.1	0.5	0.45	0.7	99	96	1	0	2	0	0	40.3	27.6	143.5	3.1	91	8	0	0	5.1	5.1	8.6	2	49	50	0	
SS72			9層下位	IV	1.8	1.1	-	-	-	93	92	0	0	0	0	1	37.6	26.3	160.9	2.7	87	6	0	0	4.8	4.7	7.9	2	54	39	0	
SS73			9層中位	III	0.8	0.6	-	-	-	40	25	14	1	0	0	0	159.2	112.55	1014.8	6.1	17	14	3	6	7.3	7.3	15.9	2.5	9	28	3	
SS74			9層下位	I	1.0	0.6	0.9	0.85	0.15	40	31	9	0	0	0	0	216.7	154.65	844.4	8.6	10	14	8	8	8.3	8.3	14.5	3.6	3	31	6	
SS75			9層中位	II	1.1	0.7	0.75	0.7	0.1	17	11	5	0	0	0	1	74	67.9	152	33	14	3	0	0	6.3	6.2	7.8	4.4	1	16	0	
SS76			9層下位	I	1.3	0.7	0.5	0.45	0.1	35	10	3	9	13	0	0	1244	1316.5	3727	20.9	10	3	0	22	12.6	14.1	21	3.9	2	11	22	
SS77			9層中位	II	0.6	0.55	0.4	0.3	0.07	22	16	4	2	0	0	0	112.1	62.95	591.6	20.7	16	3	1	2	6.3	6.05	10.3	3.6	6	15	1	
SS78			9層下位	II	0.5	(0.3)	0.42	(0.22)	0.05	21	18	3	0	0	0	0	179.9	175	381.7	9.3	6	9	2	4	7.6	7.5	10.5	3.5	3	16	2	
SS79			9層中位	III	0.25	0.2	-	-	-	4	3	0	0	1	0	0	428.4	450.5	556.9	255.7	0	0	1	3	10.2	10.7	11	8.4	0	1	3	
SS80			9層下位	I	0.8	0.65	0.8	0.65	0.15	118	29	81	5	2	0	1	57.7	50.9	180.3	2.8	105	13	0	0	5.6	5.5	8.4	2.6	37	81	0	
SS81			9層中位	IV	1.2	1.0	-	-	-	68	43	25	0	0	0	0	64.5	47.95	404.4	14	58	8	0	2	5.5	5.3	8.6	3.5	24	44	0	
SS82			9層下位	III	0.35	0.35	-	-	-	20	15	1	3	1	0	0	472.3	405.05	1204.4	257.9	0	0	6	14	10.3	10	13.9	8.1	0	10	10	
SS83			10層上面	III	0.55	0.25	-	-	-	8	7	0	1	0	0	0	345	297.85	726.3	120.8	0	1	3	4	9.9	9.4	12.6	8.2	0	5	3	
SS84			9層下位	I	1.0	1.0	0.8	0.65	0.1	63	62	0	0	1	0	0	92.5	62.6	357.1	5.9	43	11	6	3	6.1	6	11.5	2.7	22	40	1	
SS85			9層下位	I	0.7	0.5	0.68	0.5	0.15	23	13	10	0	0	0	0	47.7	44	118.7	2.7	22	1	0	0	5.2	5.2	6.9	3.9	10	13	0	
SS86			9層下位	III	0.65	0.7	-	-	-	36	5	31	0	0	0	0	54.5	54.45	101.6	13.2	35	1	0	0	5.8	5.7	9.5	3.3	7	29	0	
SS87			9層下位	II	1.35	1.3	0.98	0.85	0.12	97	85	12	0	0	0	0	137.1	120.3	353.4	14.6	36	41	14	6	7.3	7.1	12.3	3.4	7	86	4	
SS88			9層中位	III	0.75	0.55	-	-	-	26	20	4	0	2	0	0	57.2	46.85	203.6	8.9	22	3	1	0	5.4	5.25	8.7	3.3	12	14	0	
SS89			9層下位	IV	0.9	0.6	-	-	-	38	24	13	0	1	0	0	62.7	47.3	222.3	8.3	31	6	1	0	5.6	5.45	8.9	3.5	14	24	0	
SS90			9層下位	I	1.15	1.15	0.95	0.82	0.1	147	103	34	4	6	0	0	60.2	52.65	227.9	5.9	122	23	1	0	5.6	5.6	8.7	2.5	52	95	0	
SS91			9層中位	IV	0.4	0.25	-	-	-	12	11	1	0	0	0	0	35.9	35.05	62.6	13.5	12	0	0	0	5	5.05	5.7	3.8	6	6	0	
SS92			9層下位	I	0.8	0.7	0.8	0.65	0.08	10	10	0	0	0	0	0	197.8	132.05	449	39.3	2	4	2	2	8.1	7.9	11	6.5	0	9	1	
SS93			9層下位	II	0.95	0.85	0.95	0.85	0.05	15	11	3	0	1	0	0	70.8	70.1	171.6	12.4	11	4	0	0	6.2	6.1	9.2	4.5	4	11	0	
SS94			9層下位	II	1.1	1.0	1.1	1.0	0.18	55	47	0	0	8	0	0	138.9	127.1	386.5	6.8	23	21	6	5	7	7.2	13.7	3	9	42	4	
SS95			9層中位	III	0.9	0.6	-	-	-	31	20	11	0	0	0	0	168.6	100	606.5	14.3	16	6	3	6	7.4	7.6	12.6	3.4	8	19	4	
SS96			9層中位	IV	1.2	1.1	-	-	-	50	48	2	0	0	0	0	64.1	40.4	453.7	7.6	44	3	1	2	6.2	5.9	13.3	3.3	14	33	3	
SS97			9層中位	III	0.4	0.4	-	-	-	32	27	0	0	5	0	0	271	260.5	395.6	151.5	0	4	18	10	9.4	9.2	13.3	6.7	0	26	6	
SS98			9層中位	IV	1.5	1.4	-	-	-	110	47	61	2	0	0	0	42.6	32.2	125.9	4.8	103	7	0	0	5.4	5.2	10.1	2.9	48	61	1	
SS99			9層中位	III	1.55	1.1	-	-	-	146	120	25	1	0	0	0	71.3	44.4	707.2	2.7	118	19	7	2	6	5.9	11.8	2.4	47	94	5	
SS100			9層中位	I	1.6	1.2	0.78	0.76	0.18	82	81	0	0	1	0	0	91.4	51.3	639.7	4.9	57	17	5	3	6.5	6	11.7	2.6	22	52	8	

第12表 集石観察表(4)

遺構名	エリア	検出面	分類	規模(m)		掘り込み(m)			総礫数				石材別個数				礫重量(g)				礫重量(g)別個数				礫最大長(cm)			礫最大長別個数		
				長軸	短軸	長軸	短軸	深さ	砂岩	頁岩	安山	凝灰	花崗	他	平均値	中央値	最大値	最小値	~100	~200	~300	300~	平均値	中央値	最大値	最小値	~5	~10	10~	
SS101		9層下位	II	1.65	1.5	-	-	-	78	68	9	0	1	0	0	72.5	47.5	438.2	4.5	57	18	1	2	6	5.7	11	2.7	26	50	2
SS102		9層中位	III	0.85	0.6	-	-	-	23	20	2	0	1	0	0	106.5	92.9	230.4	13.8	12	8	3	0	6.8	7.4	9.3	4.5	4	19	0
SS103		9層下位	II	0.85	0.7	0.75	0.7	0.22	13	11	1	1	0	0	128.6	125	309.5	23.1	6	5	1	1	7.1	7.3	9.4	3.7	3	10	0	
SS104		9層中位	III	0.75	0.55	-	-	-	27	27	0	0	0	0	71.8	65.5	167.1	18.1	21	6	0	0	6.3	6.4	8.7	4	5	22	0	
SS105		9層中位	I	1.55	0.95	1.55	0.95	0.13	37	24	13	0	0	0	86.5	68.4	273.7	7.2	22	12	3	0	6.4	6.5	9.3	3.4	8	29	0	
SS106		9層中位	III	1.4	1.3	-	-	-	57	32	25	0	0	0	62.6	63.6	152.2	3.7	51	6	0	0	5.7	5.8	8.4	2.5	15	42	0	
SS107		9層下位	II	0.8	0.7	0.75	0.63	0.13	17	11	2	3	1	0	175.7	188.6	307.1	13.3	5	4	7	1	7.9	7.8	11	4.7	1	14	2	
SS108		9層下位	II	1.4	0.85	1.53	0.83	0.13	66	65	0	0	1	0	82.1	63.1	308.9	4.9	41	21	3	1	6.3	6.25	10.5	3.3	15	50	1	
SS109	2	9層下位	II	0.85	0.95	0.85	0.67	0.13	18	13	3	0	2	0	169.6	141.7	480	21.4	8	3	3	4	7.8	7.4	12	4.4	2	13	3	
SS110		9層下位	II	1.85	0.95	0.97	0.9	0.23	86	84	0	0	2	0	97.3	94.7	280.3	5.7	47	36	3	0	6.8	7.1	10.2	2.4	11	74	1	
SS111		9層下位	II	1.85	1.25	1.4	0.78	0.13	59	38	19	1	1	0	56	44.1	228.3	7.3	50	8	1	0	5.4	5.2	9	2.8	28	31	0	
SS112		9層下位	II	1.2	1.4	0.8	0.78	0.1	64	40	24	0	0	0	74.1	54.65	245.4	4.2	48	12	4	0	6.2	5.95	10.5	3	16	47	1	
SS113		9層中位	II	1.05	0.95	1.0	0.8	0.6	67	38	27	0	0	0	52.2	31.3	366.7	1.4	59	6	1	1	5.1	4.9	9.7	2.2	35	32	0	
SS114		9層中位	II	2.05	1.45	0.85	0.73	0.12	62	61	1	0	0	0	68.2	41.7	306.4	4.5	48	11	2	1	6	5.75	9.3	2.5	20	42	0	
SS115		9層中位	III	1.8	1.4	-	-	-	121	52	61	8	0	0	74.2	36.5	657.5	1.5	99	7	9	6	5.7	5.4	12.8	2.3	51	67	3	
SS116		9層下位	I	0.6	0.4	0.5	0.45	0.08	63	46	1	6	10	0	354.9	305.8	852.7	43.7	3	10	18	82	9.7	9.4	14	5.4	0	39	24	
SS117		9層下位	I	0.85	0.6	0.7	0.65	0.08	102	65	29	6	2	0	151.6	116.6	504.9	11.7	42	35	12	13	7.2	6.85	13.9	3.7	11	82	9	
SS118	4	9層下位	IV	1.35	1.35	-	-	-	59	37	18	3	1	0	52.2	45.3	192.4	8.3	53	6	0	0	5.4	5.3	8.7	3.1	23	36	0	
SS119		9層下位	III	1.25	0.7	-	-	-	118	61	47	7	3	0	106.9	84.25	532.5	9.2	75	28	12	3	6.6	6.4	11.1	3.1	22	92	4	
SS120	2	9層下位	IV	1.15	0.9	-	-	-	74	71	3	0	0	0	59.9	48.05	213.1	8.8	60	13	1	0	5.7	5.4	9.3	3.7	27	47	0	
SS121	3	9層中位	III	1.2	1.1	-	-	-	46	44	0	0	2	0	122.1	101.7	683.5	13.1	22	19	4	1	6.9	6.5	11.9	3.9	4	39	3	
SS122	1	10層上面	I	0.95	0.8	0.95	0.8	0.2	266	198	67	0	1	0	58.4	40.65	561	5.2	235	21	8	2	6.3	6	11.2	3.5	68	191	7	
SS123	2	9層下位	II	1.4	1.1	0.93	0.08	0.13	60	55	4	1	0	0	138	101.95	440.8	8	29	15	12	4	7.1	6.8	11.8	2.9	11	43	6	
SS124		10層上面	I	1.05	0.85	1.05	0.85	0.15	17	6	11	0	0	0	36.8	32.9	108.1	7.7	16	1	0	0	5.4	5.8	10.5	3.3	7	9	1	
SS125	1	10層上面	I	1.3	1.2	1.3	1.2	0.15	37	11	25	0	1	0	52.8	40.8	143.9	9.6	32	5	0	0	5.9	5.9	9.5	4.1	10	27	0	
SS126		10層上面	I	2.5	(1.95)	2.5	(1.95)	0.2	66	64	0	0	2	0	67.7	45	312.3	12.2	52	9	4	1	6.2	5.85	12.1	3.6	18	45	3	
SS127		10層上面	I	1.25	1.15	1.25	1.15	0.25	24	13	9	1	1	0	135.4	68.35	697.8	14.1	15	4	2	3	7.1	6.55	16.8	4.2	4	17	3	
SS128	2	9層下位	I	1.45	0.8	1.3	0.8	(0.12)	21	12	7	1	1	0	125.8	80.35	517.3	2.3	12	7	0	3	7	6.6	12.7	2.6	4	16	2	
SS129	4	10層上面	I	1.0	0.95	1.0	0.95	0.15	12	11	0	1	0	0	102.3	74.75	374.1	12	8	3	0	1	6.6	6.3	9.7	4	2	10	0	



第60図 磨石集積遺構・配石遺構



第61図 磨石集積遺構及び配石遺構出土石器

(5) 磨石集積遺構 (第 60・61 図)

磨石・敲石類が複数集積したものである。2基確認した。いわゆるデポの可能性も想定し、平面の精査や断面裁ち割り調査を行ったものの、掘り込みは確認できなかった。

磨石集積 1号 (SU 2)

C-14 区の 9 層中位で検出した。磨石・敲石類が 2 点重なった状態で見つかった。

41 は正・背面に磨面を、周縁に敲打痕を、正面に敲打

による凹みをもつ磨石・敲石 3 類である。42 は正・背面に磨面を、周縁に敲打痕をもつ磨石・敲石 2 類である。ただし、器面の風化が著しく剥離も認められるため、敲打痕の範囲は不明である。

磨石集積 2号 (SU 5)

D-11 区の 9 層中位で検出した。磨石・敲石類が 2 点重なった状態で見つかった。

44 は正・背面に磨面を、周縁に敲打痕を、正面に凹みをもつ磨石・敲石 3 類である。背面の磨りは著しく、稜

線が認められる。45は正・背面に磨面を、周縁に敲打痕をもつ磨石・敲石2類である。正・背面の磨りは著しく、稜線が認められる。いわゆる「石鱗型」を呈する。

(6) 配石遺構 (第60・61図)

磨石・敲石類や石皿を集積した、あるいは磨石・敲石様の礫や石皿様の礫を集積した遺構で、集石遺構とは異なる性格を想定したため、配石遺構として調査を行った。3基確認した。

配石1号 (SU1)

D-15区の9層中位で検出した。6点の礫で構成されている。礫は著しく被熱しており、赤化している。一部、黒化しているものもある。

配石2号 (SU3)

D-15区の10層上面で検出した。当初、磨石・敲石類と石皿で構成されていると考えていたが、調査後の礫の観察により、全て自然礫と判明した。ともに、赤化は認められない。

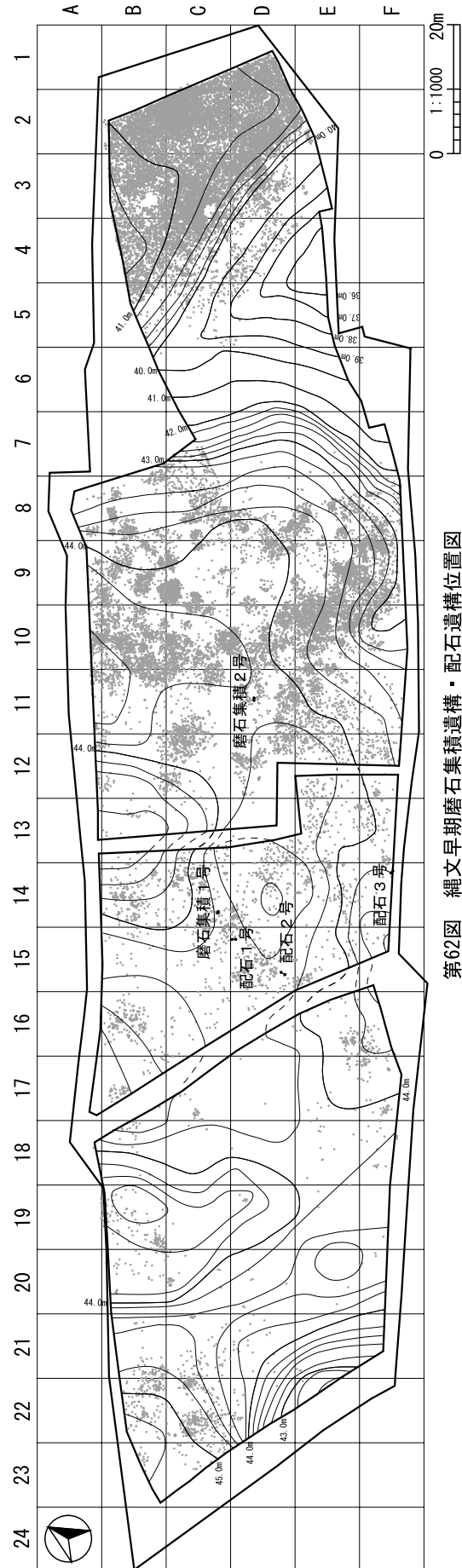
配石3号 (SU4)

F-14区の9層中位で検出した。3点の礫と1点の磨石・敲石類で構成されている。3点の礫のうち、2点は被熱破碎礫である。

43は正・背面に磨面を、周縁に敲打痕を、正面に凹みをもつ磨石・敲石3類である。

第13表 磨石集積・配石遺構出土石器観察表

挿図	No.	出土遺構	区	器種	分類	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)
61	41	磨石集積1 (SU2)	C-14	磨石・敲石類	3	砂岩	8.1	7.4	4.2	376
	42	磨石集積1 (SU2)	C-14	磨石・敲石類	2	砂岩	(8.4)	9	3.9	354.9
	43	配石3 (SU4)	F-14	磨石・敲石類	3	砂岩	8.2	6.3	4.9	347.9
	44	磨石集積2 (SU5)	D-11	磨石・敲石類	3	砂岩	9.8	8.8	5.4	638.65
	45	磨石集積2 (SU5)	D-11	磨石・敲石類	2	砂岩	10	7.7	4.4	536.09



第62図 縄文早期磨石集積遺構・配石遺構位置図

3 土器

縄文時代早期土器は主に9層から、約4,000点出土している。平面分布状況を見ると、16区以西からの出土は少なく、15区以東に偏っている。16区以西では、B・C-21~23区付近の標高が高いところに分布が認められ、集石など遺構の分布とも重なる(第63図参照)。

文様などから、1~22類に大別した。以下、各類について報告する。

1 類土器 (第66図46・47)

口縁端部外面に貝殻腹縁による刺突文(貝殻刺突文)を施し、また口唇部に深めの刻みを施し、口縁端部内面に段を有することを特徴とする。2点確認し(接合作業前時点、以下同じ)、全て図示した。B・C-14区付近にのみ分布する(第64図参照)。

口縁部が直行し、口唇部の刻みにより正面観が鋸歯状となる口縁を呈する。外面はヨコ貝殻条痕後ナデ調整を、内面はヨコナデ調整を行う。

2 類土器 (第66図48~63)

口縁端部外面に縦位の刺突文を、胴部に横・斜位の貝殻条痕文を施すことを特徴とする。88点確認し、16点図示した。B・C-2・3区、A~F-9~11区、B・C-21・22区の3ヶ所に分布する(第64図参照)。

器形は直行する口縁部から平底となる底部へ直線的に至る。波状口縁もみられる(55・56)。口縁部の刺突文は貝殻腹縁によるもの(48・49)、ヘラ状工具によるもの(50~56)がある。53は幅広の刺突文を2段に施す。55・56は貝殻刺突文にヘラ状工具による刺突文を重ねている。口唇部に刻みを施すものもある。内面は縦・斜位のケズリ調整(↑方向)を行う。

3 類土器 (第67図64)

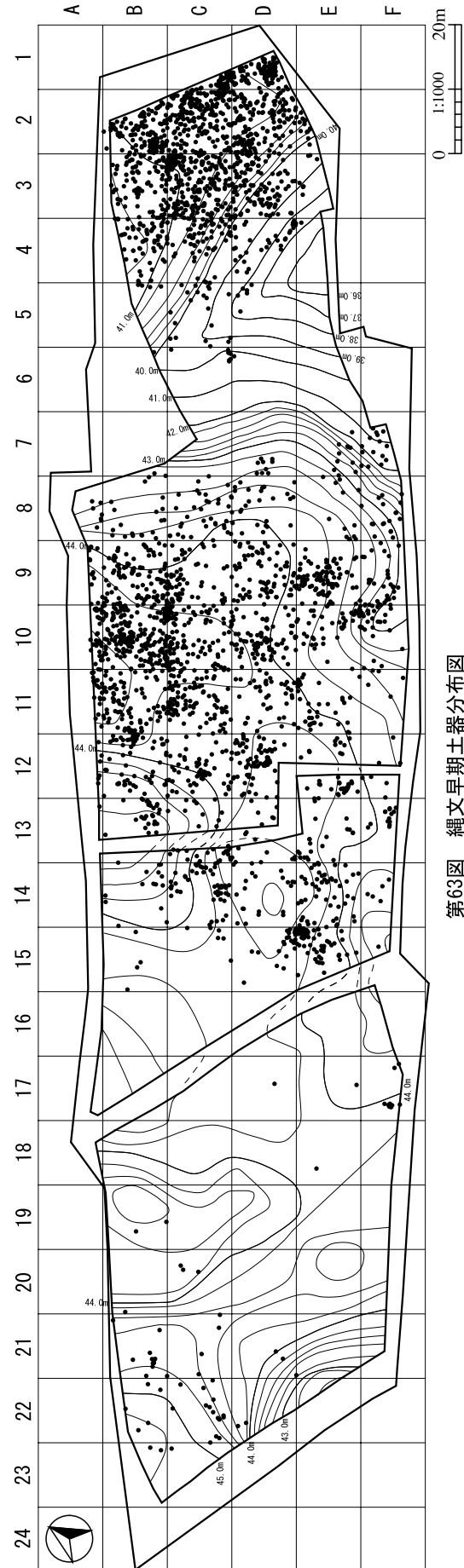
胴部に横位の貝殻条痕文を施し、さらにその貝殻条痕文に貝殻腹縁による短沈線文を重ねることを特徴とする。4点確認し(1個体分)、1点図示した。C-2区に分布する(第64図参照)。

口縁部は角部を形成するが、胴部は角部を形成しておらず、「上角下円」形となる。角部が一对となるレモン形を呈する可能性もある。緩やかな波状口縁を呈する。口縁端部外面にヘラ状工具による縦位の刺突文を施す。縦長の補修孔をもつ。内面はタテケズリ調整(↑)を行う。

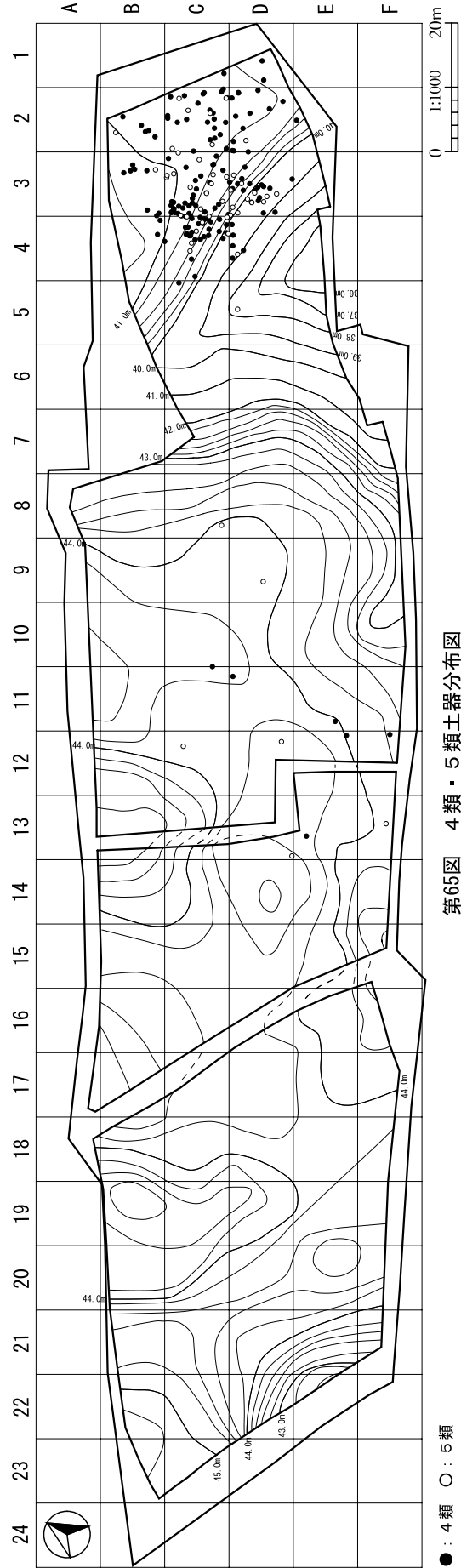
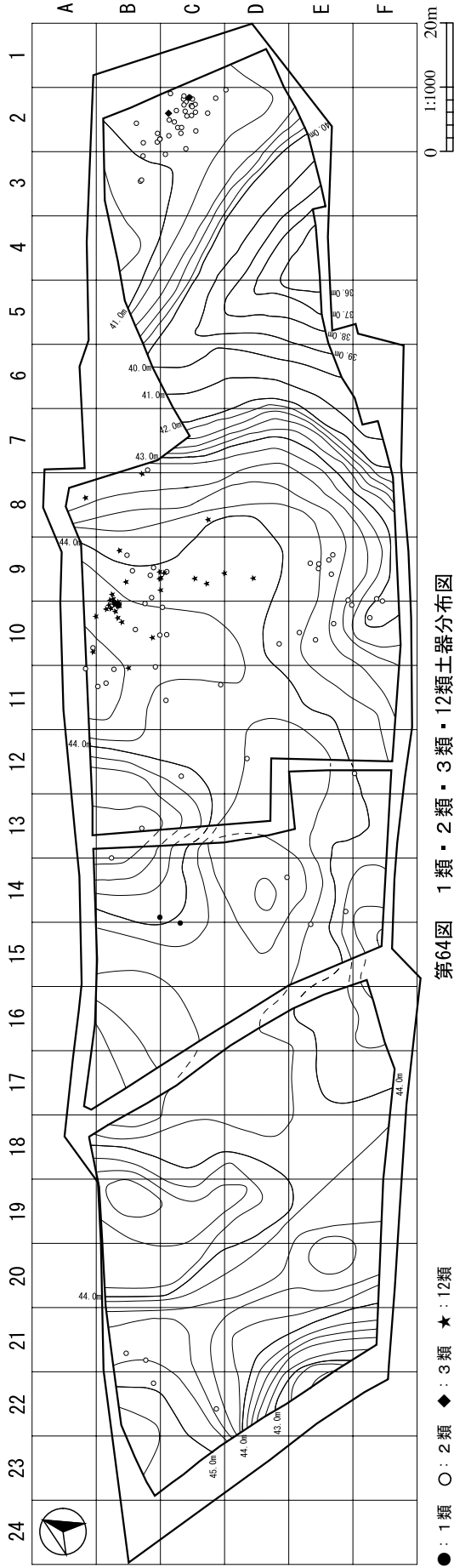
4 類土器 (第67・68図65~75)

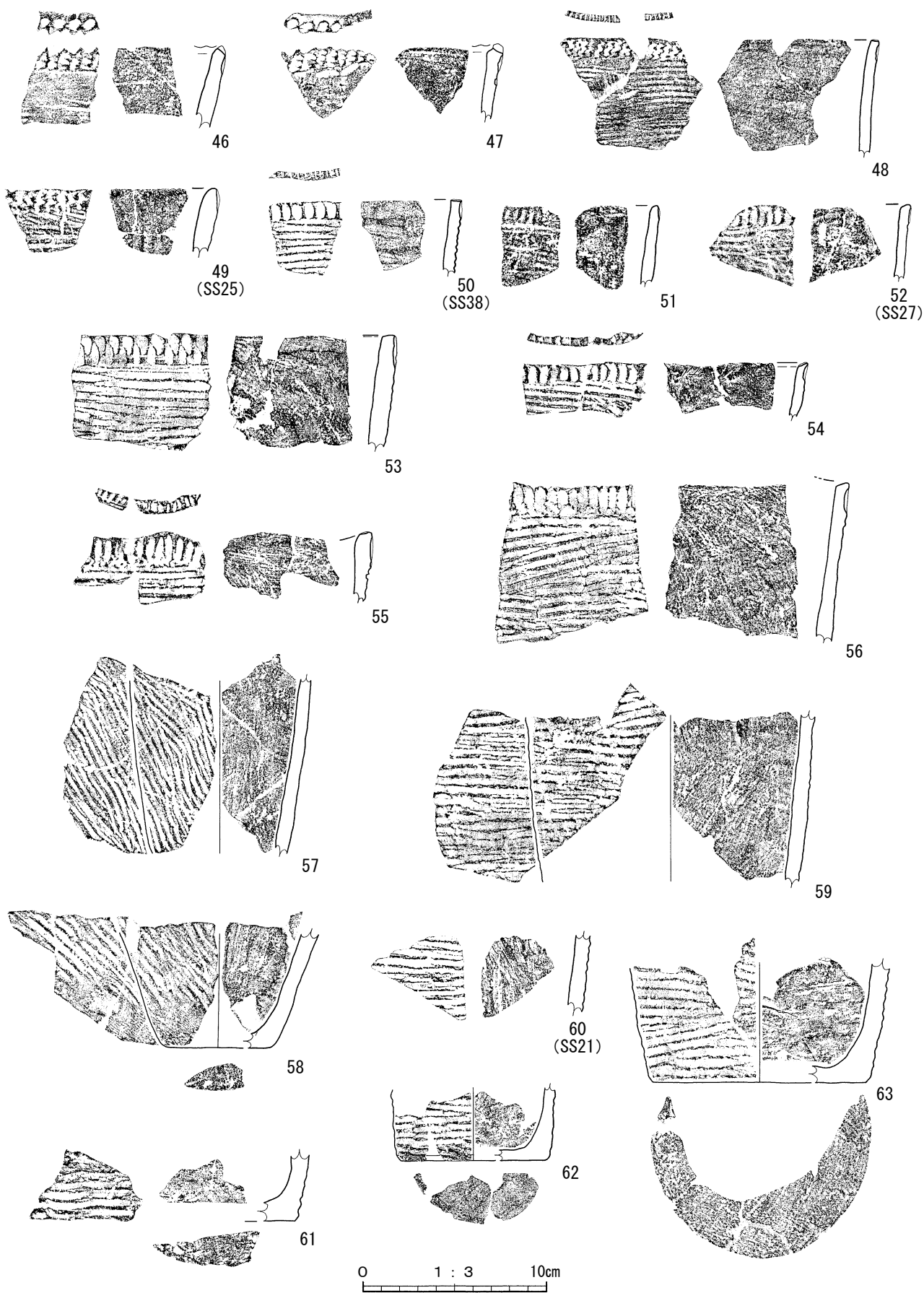
胴部に斜位の貝殻条痕文を施し、さらにその貝殻条痕文に縦・斜位の貝殻刺突文を重ねることを特徴とする。148点確認し、12点図示した。B~D-1~4区に分布が偏る(第65図参照)。

直行する口縁部から平底となる底部へ直線的に至る。円筒形のほか、角部をもつ角筒形またはレモン形を呈するものもある。口縁端部外面に横位の貝殻刺突文を2~

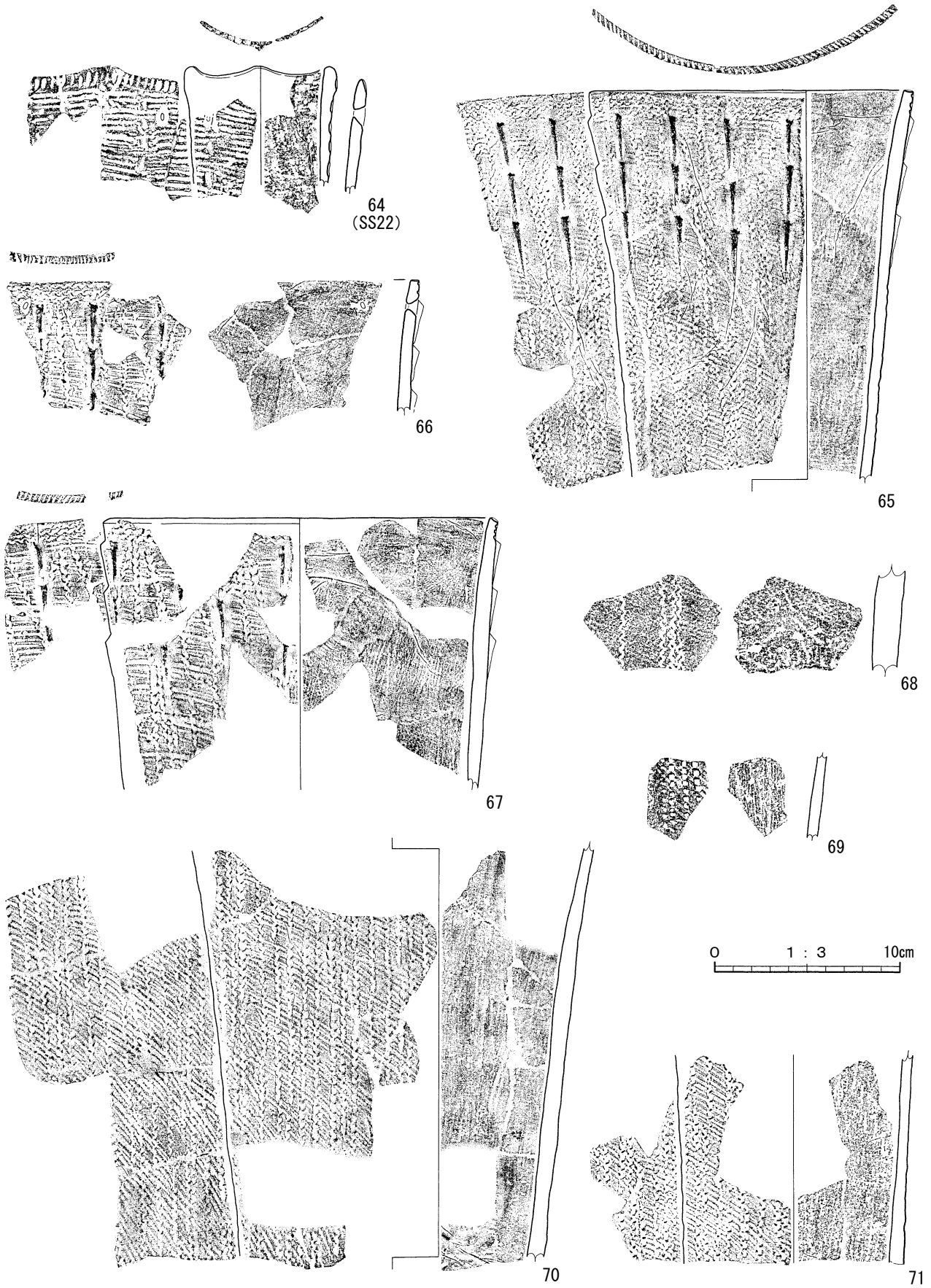


第63図 縄文早期土器分布図

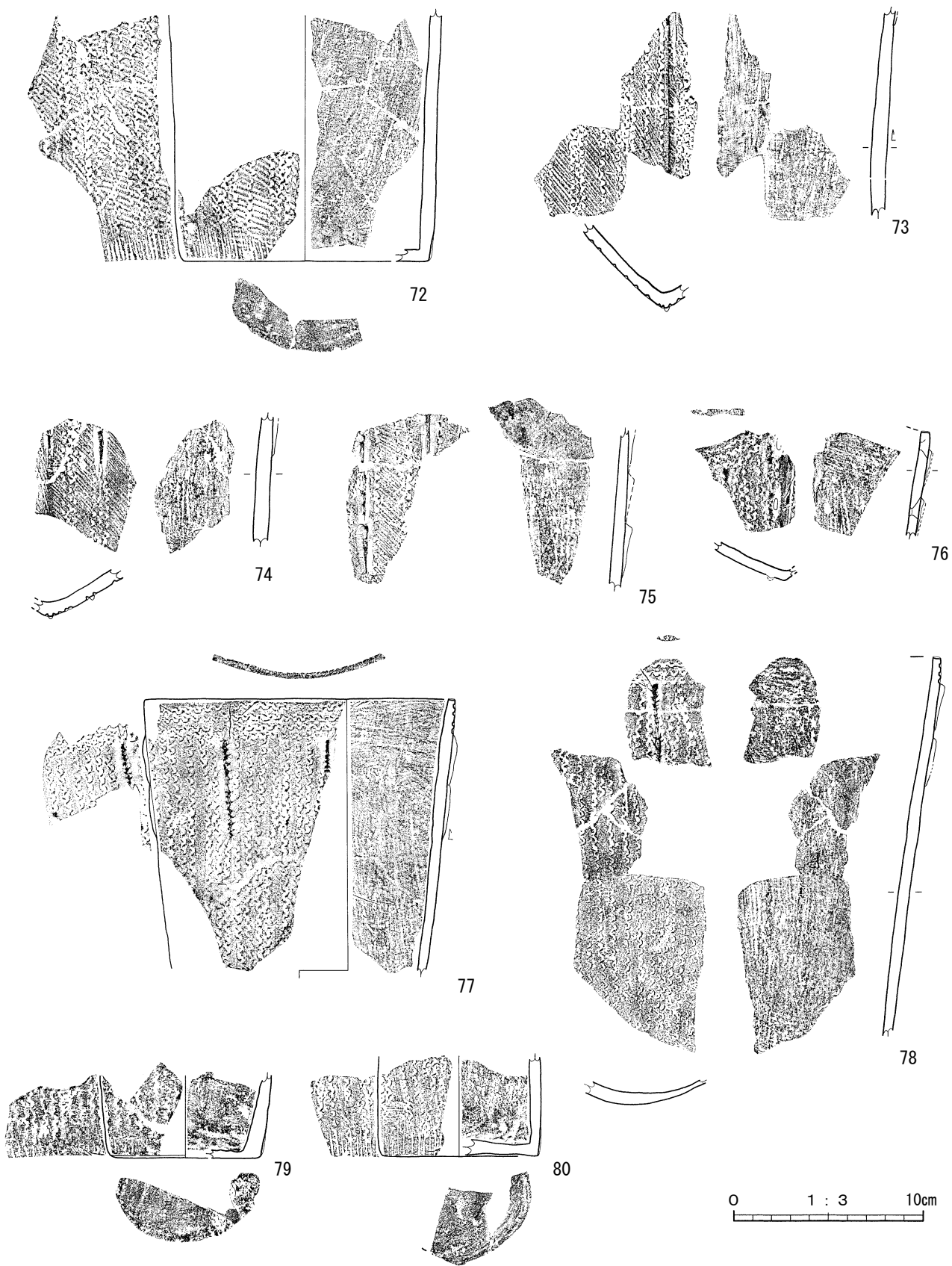




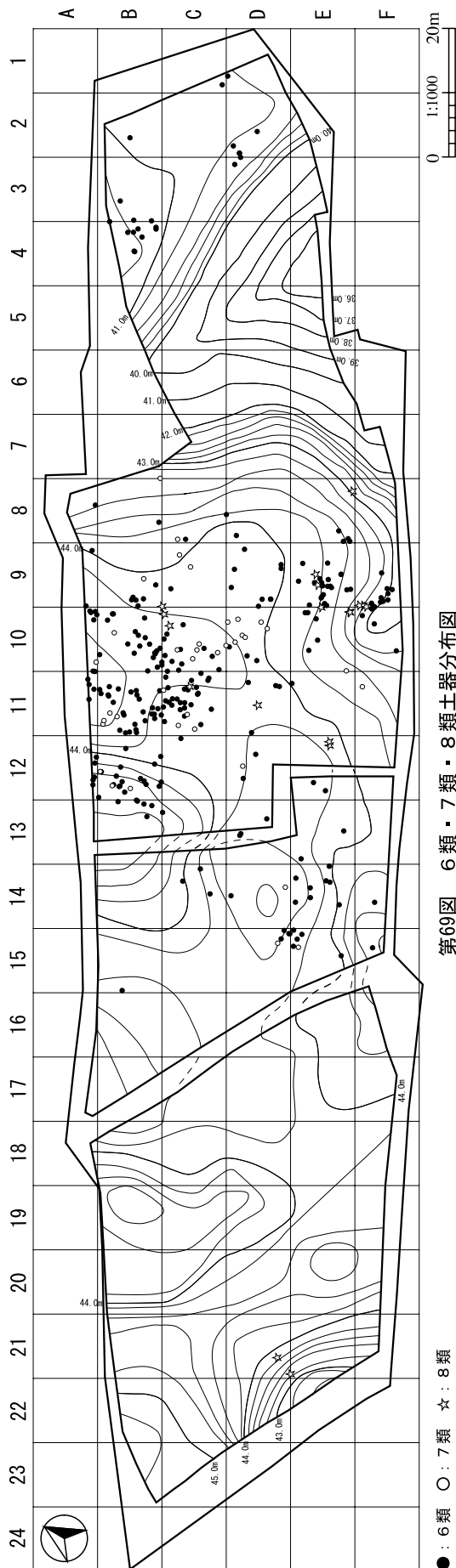
第66図 1類・2類土器



第67図 3類・4類土器



第68図 4類・5類土器



第69図 6類・7類・8類土器分布図

3段巡らせる。その下位には楔形突起を貼付し、その両側に楕状工具による刺突文を施す。その後、縦・斜位の貝殻刺突文を施す。口唇部にはヘラ状工具による刻みを施す。底部外面にヘラ状工具による刻みを巡らせる。内面は口縁部にヨコケズリ調整を、胴部にタテケズリ調整（↑）を行う。

66は縦長の補修孔をもつ。73～75は同一個体で、角部をもち、角部にも楔形突起を貼付する。

5類土器（第68図76～80）

胴部に貝殻条痕文が認められず、密接した貝殻刺突文を施すことを特徴とする。53点確認し、5点図示した。B～D-1～4区に分布は限られる（第65図参照）。

直行する口縁部から平底となる底部へ直線的に至る。円筒形のほかレモン形を呈するものもある。口縁端部外面に横位の貝殻刺突文を3～4段巡らせる。その下位には楔形突起を貼付し、その両側に楕状工具による刺突文を施す。その後、縦・斜位の貝殻刺突文を施す。口唇部にはヘラ状工具による刻みを施す。底部外面にヘラ状工具による刻みを施す。内面は口縁部にヨコケズリ調整を、胴部に縦・斜位のケズリ調整（↑）を行う。

77・78・80は同一個体で、レモン形を呈する。77は波状口縁を呈し、角部付近に縦長の補修孔を上下二ヶ所にもつ。

6類土器（第70・71図81～91）

口縁部に楔状または楔形突起を意識した貝殻刺突文を施し、胴部に縦位の貝殻腹縁による横方向の押引文（貝殻押引文）を施すことを特徴とする。272点確認し、11点図示した。分布は8～15区に広がる（第69図参照）。

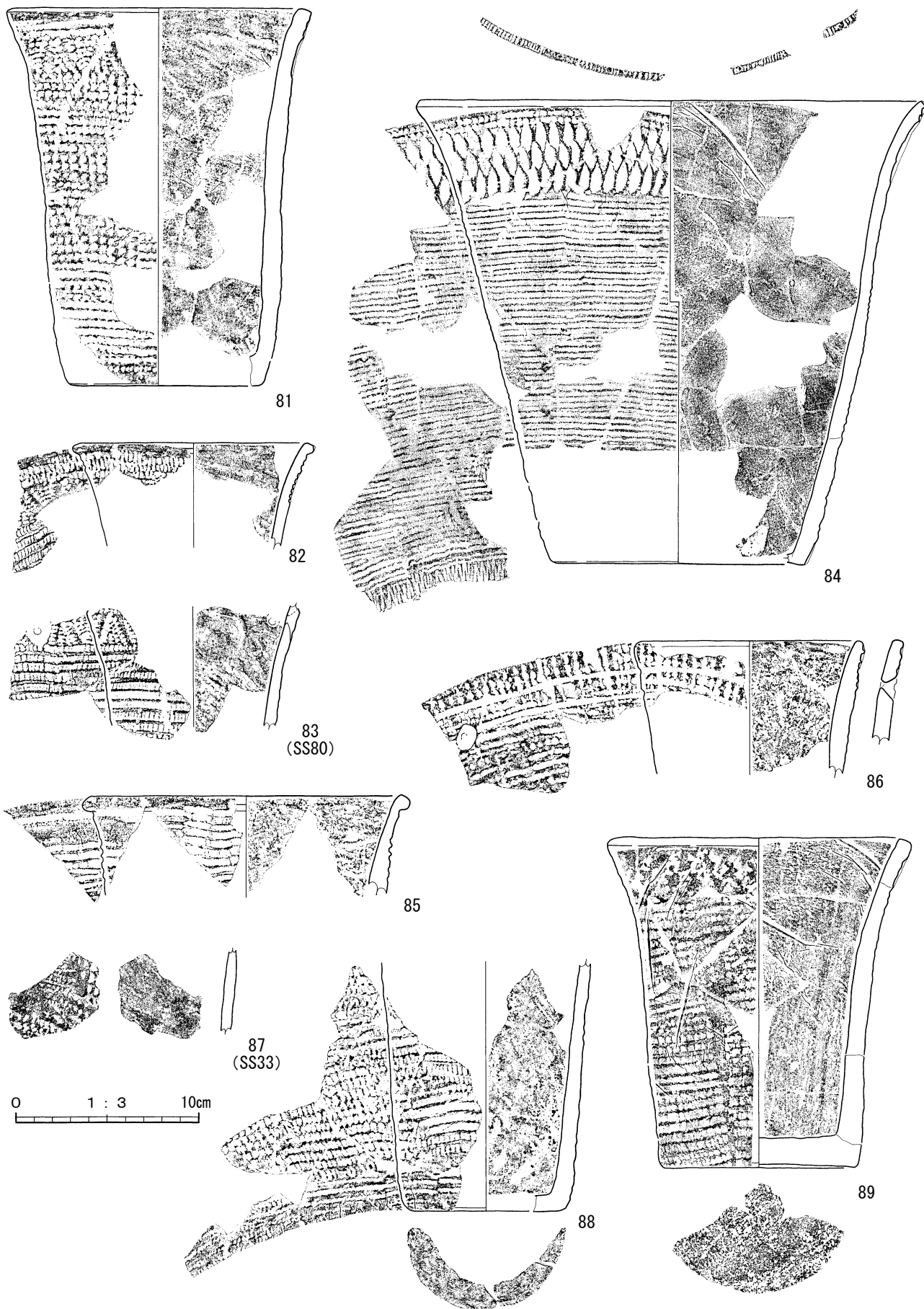
やや外反する口縁部からそのまま平底となる底部へ至る。内面は縦・斜位のケズリ調整（↑）やナゲ調整を行う。

口縁端部外面に横位の貝殻刺突文を巡らせるもの（81～84）や巡らせないもの（85・86・89）がある。84は口縁部に貝殻腹縁による幅広の刺突文を3段施す。そして胴～底部には横位の貝殻条痕文を施す。86は縦位の貝殻刺突文を巡らせた後、沈線文を2条巡らせる。83・86は円形の補修孔をもつ。

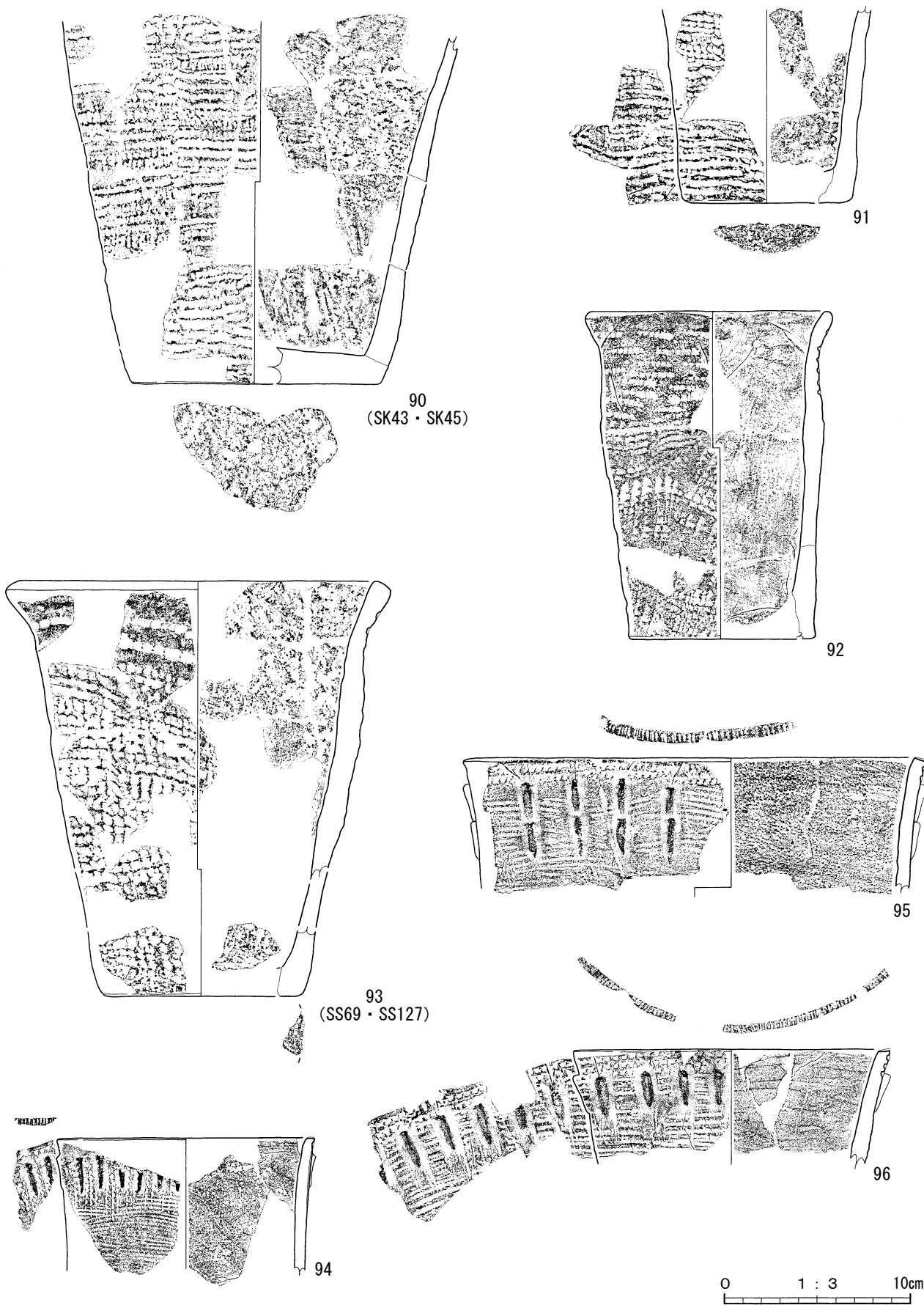
7類土器（第71図92・93）

口縁部に横位に貝殻刺突文を数段施し、胴部に貝殻押引文を施すことを特徴とする。楔状または楔形突起を意識した貝殻刺突文が認められないものである。44点確認し（2個体分）、2点図示した。なお、胴部片では6類または7類に分類できないものがあり、それらは6類に含めている。個体数は少ないが、9～11区に分布する（第69図参照）。

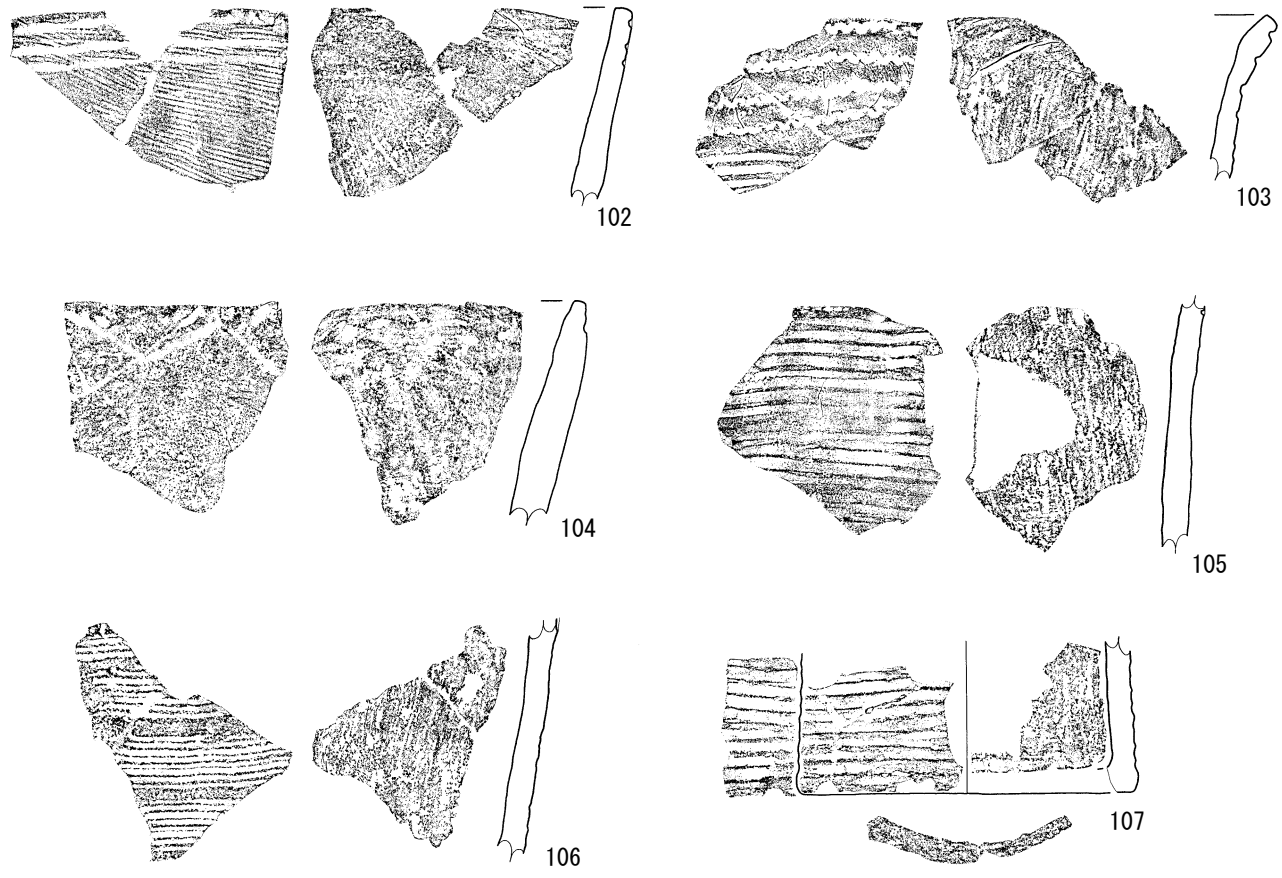
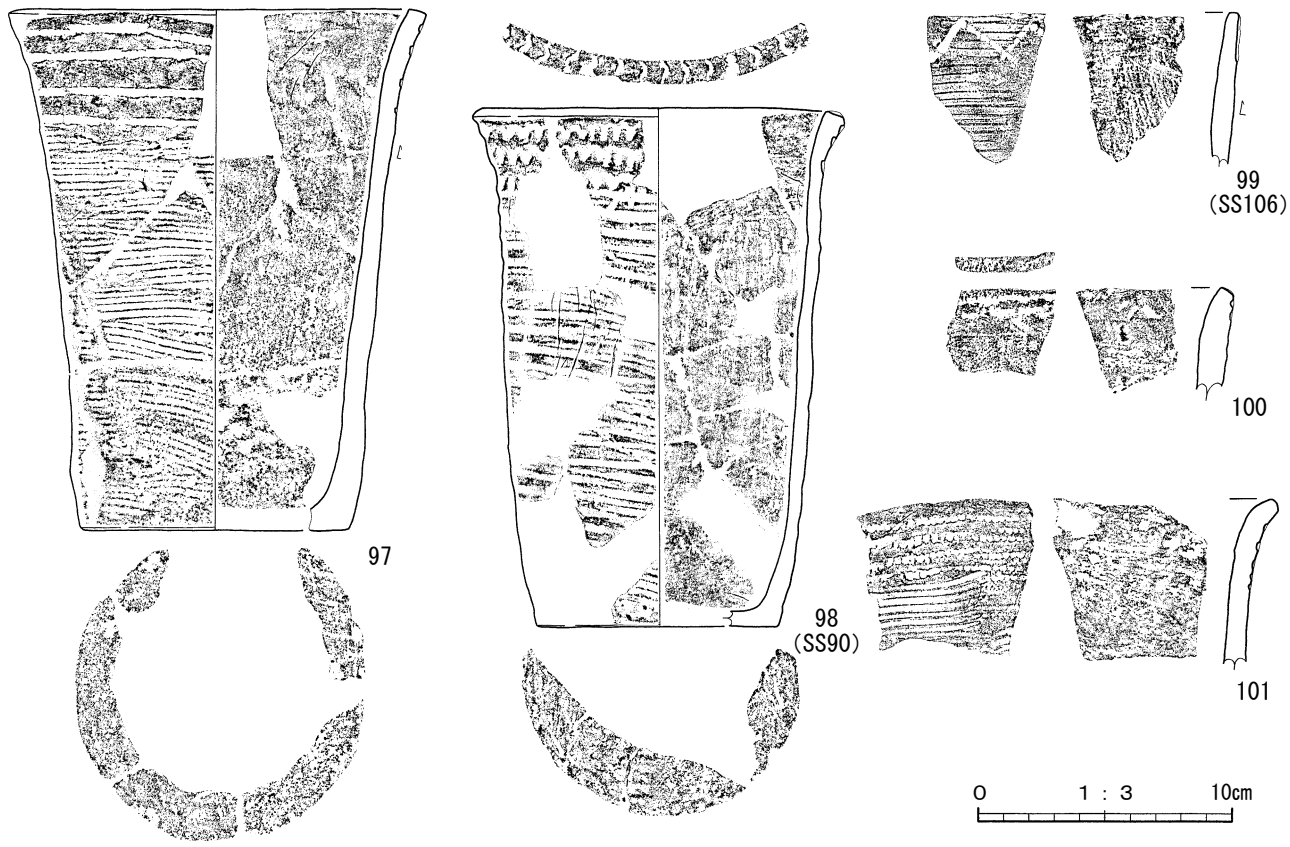
やや外反する口縁部からそのまま平底となる底部へ至る。内面は、口縁部にヨコケズリ調整を、胴部にタテケズリ調整（↑）を行う。93は胎土に石英・長石類が目立



第70図 6類土器



第71図 6類・7類・8類土器



第72図 9類土器

つ。

8 類土器 (第 71 図 94~96)

口縁部に楔形突起を貼付し、胴部に横位の貝殻条痕文を施すことを特徴とする。また、楔形貼付文にシャープさが欠けることも特徴の一つである。18 点確認し (3 個体分)、3 点図示した。9~11 区のみ分布する (第 69 図参照)。

口縁部はやや外反する。口縁端部外面に横位の貝殻刺突文を 2~3 段巡らせ、その下位に楔形突起を貼付する。口唇部にヘラ状工具による刻みを施す。内面はヨコナデ調整やヨコミガキ調整を行う。

楔形突起の両側に 94 は縦位の貝殻刺突文を、96 は縦位の沈線文を施す。色調について、94・95 は赤褐色系を、96 は黄橙色系を呈する。

9 類土器 (第 72 図 97~107)

口縁部に貝殻刺突文を施し、胴部に貝殻条痕文を施すことを特徴とする。104 点確認し、11 点図示した。9~12 区に多く分布する (第 73 図参照)。

口縁部は外反し、そのまま平底となる底部へ至る。内面は口縁部にヨコケズリ調整を、胴部にタテケズリ調整 (↑) を行うものがほとんどである。口縁部に横位の貝殻刺突文を 2~4 段施すものや鋸歯状に施すものがある。底部は、円形の粘土板の側面から胴部を積み上げていることがわかる (97・107 参照)。

10 類土器 (第 75~80 図 108~164)

胴部に綾杉状の貝殻条痕文を施すことを基本的な特徴とする。595 点確認した。口縁部形態から、2 類及びこれらに分類できない胴~底部に大別した。

10-1 類 (第 75 図 108~110)

口縁部が外反するもの。口縁端部がやや肥厚する。19 点確認し、3 点図示した。主に 9~11 区に分布する (第 74 図参照)。

口縁端部外面に横位の貝殻刺突文を 2 段巡らせ、その下位に斜位の貝殻刺突文を施す。内面はナデ調整を行う。108 は口唇部に浅い刻みを施す。円形の補修孔をもつ。

10-2 類 (第 75~78 図 111~145)

口縁部が直行するもの。200 点確認し、35 点図示した。1~5 区と 8~13 区に分布する (第 74 図参照)。

文様により a~e の 5 つに細分した。口縁部にコブ状突起を貼付するものもある。内面は口縁部にヨコナデ調整またはヨコケズリ調整を、胴部にタテナデ調整 (↑) またはタテケズリ調整 (↑) を行うが、ケズリ調整が多い。円形の補修孔をもつ。

a 類 (111~126)

貝殻刺突文を横位に 2~4 段施すもの。122~126 はコブ状突起をもつ。

b 類 (127~136)

貝殻刺突文を鋸歯状に施すもの。横位の貝殻刺突文を

組み合わせるものもある。

c 類 (137~140)

貝殻刺突文を縦位または斜位に施すもの。縦位の貝殻刺突文の下位に横位の貝殻刺突文を施すものもある (137・138)。

d 類 (141・142)

横位の貝殻刺突文を器面全体に施すもの。外面には綾杉状の貝殻条痕文が認められない。

e 類 (143~145)

綾杉状の貝殻条痕文のみのもの。144・145 は同一個体で、小波状口縁を呈し、波頂部がやや肥厚する。

胴~底部 (第 78~80 図 146~164)

1 または 2 類に分類できないもの。376 点確認し、19 点図示した。肋の幅が広いものや狭いものなど様々な貝殻条痕文が認められる。

11 類土器 (第 80 図 165~167)

口縁部に横位の貝殻刺突文を施すもので、胴部の貝殻条痕文が確認できないため、9 類または 10 類に分類できないものである。51 点確認し、3 点図示した。

直行する口縁部で、内面はヨコ・ナナメナデ調整を行う。165 は円形の補修孔をもつ。

12 類土器 (第 80 図 168・169)

内外面ともにナデ調整を行い、文様が施されないことを特徴とする。器壁厚が 4~5 mm と薄く、硬質な作りであることも特徴の一つである。41 点確認し (1 個体分)、2 点図示した。B・C-9・10 区に分布する (第 64 図参照)。

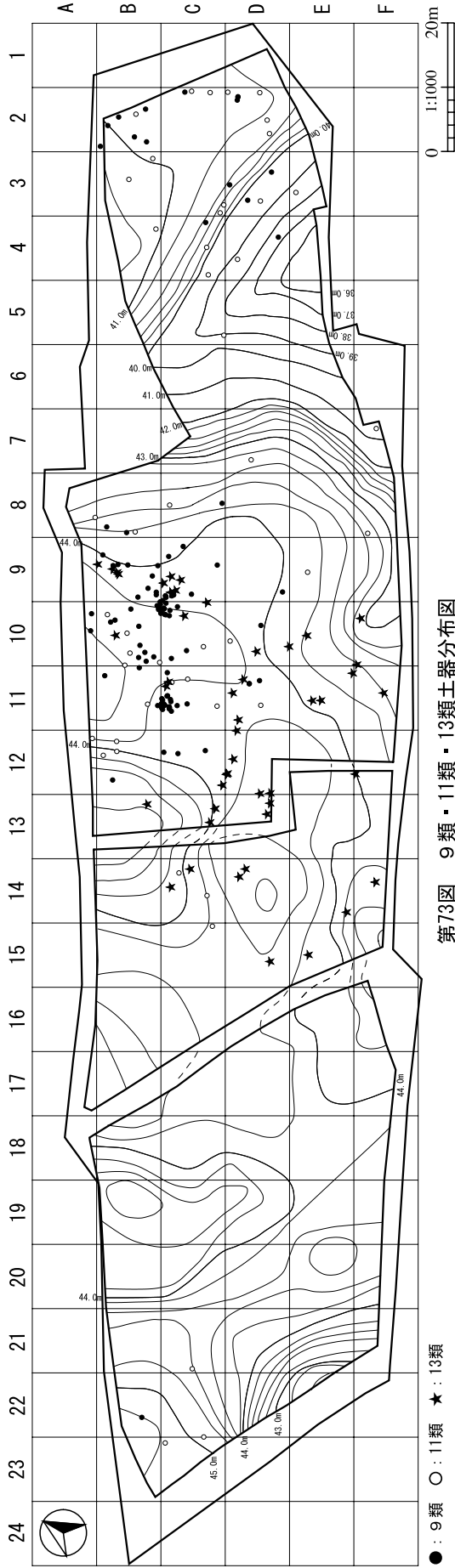
外傾する口縁部から、そのまま底部に至るもので、底部は尖底になると思われる。口縁部に円形の補修孔をもつ。胎土に石英・長石類と繊維状のものを含む。

13 類土器 (第 80 図 170~172)

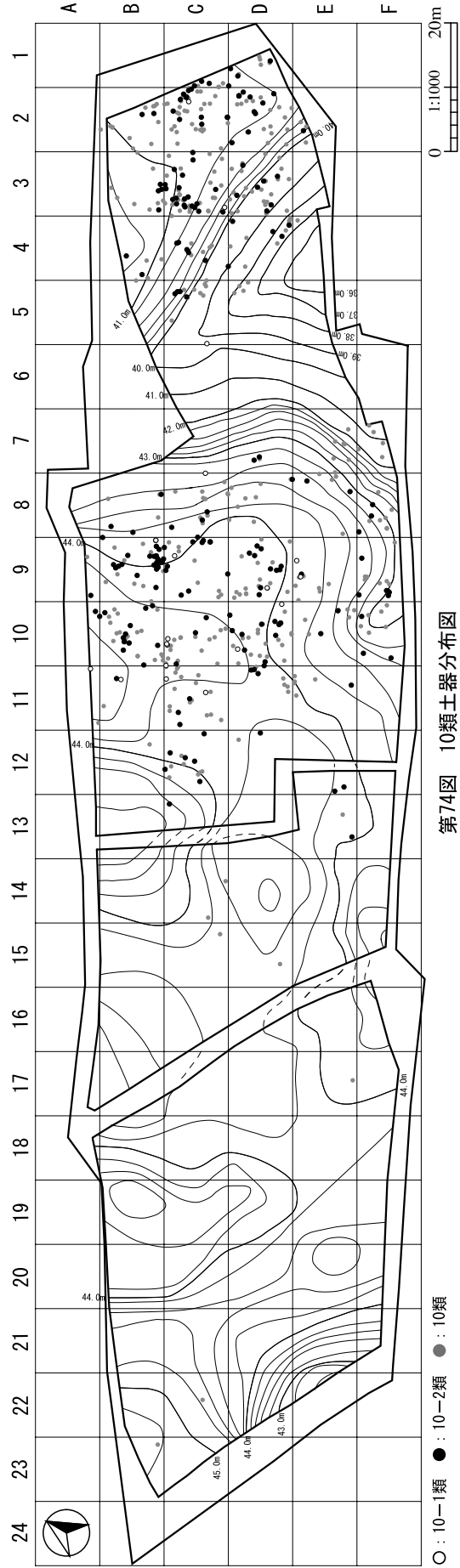
貝殻腹縁による条線文 (貝殻条線文) を施すことを特徴とする。この貝殻条線文は口縁部から胴部上半まで施される。また、貝殻条線文を縦位に施した後、横位に施しており、縦位のものはずか確認できる。48 点確認し (2 個体分)、3 点図示した。9~13 区に分布する (第 73 図参照)。

直行する口縁部からそのまま平底となる底部へ至る。内面は丁寧なナナメナデ調整またはナナメミガキ調整 (↑) を行う。

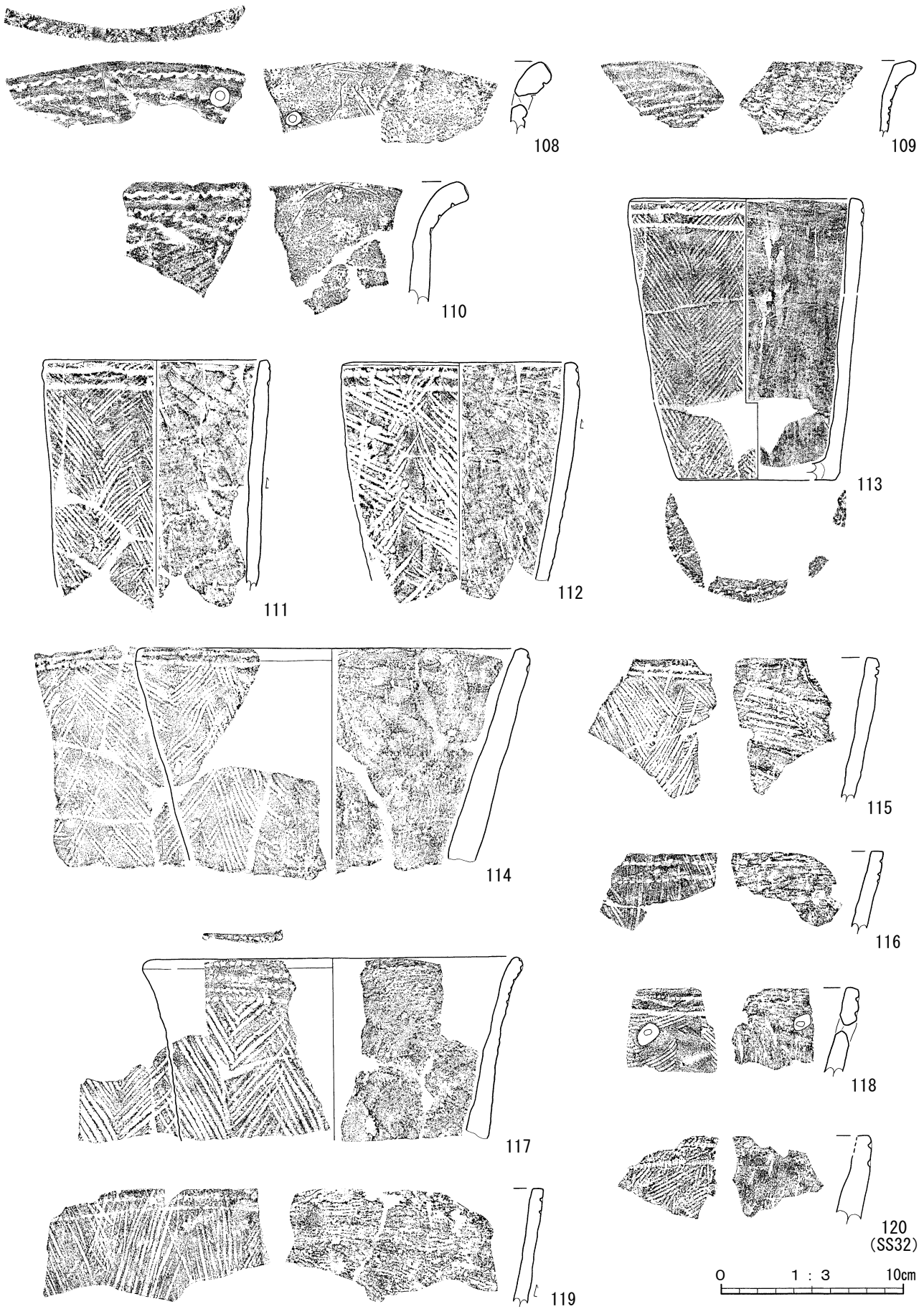
170・171 は同一個体で、橙色を呈し、胎土に石英・長石類の小礫を多く含む。170 は円形の補修孔をもち、その上位には穿孔途中の孔もある。器壁厚が 12~14 mm で厚手の作りである。外面に炭化物が付着しており、¹⁴C 年代測定の結果、8730±25BP を示した (第 5 章参照)。172 は浅黄色を呈し、胎土に輝石・角閃石類を含む。また、上面観がやや楕円状を呈しており (15×13.5 cm)、歪みが大きい。170 に比べて、器壁厚は薄い。



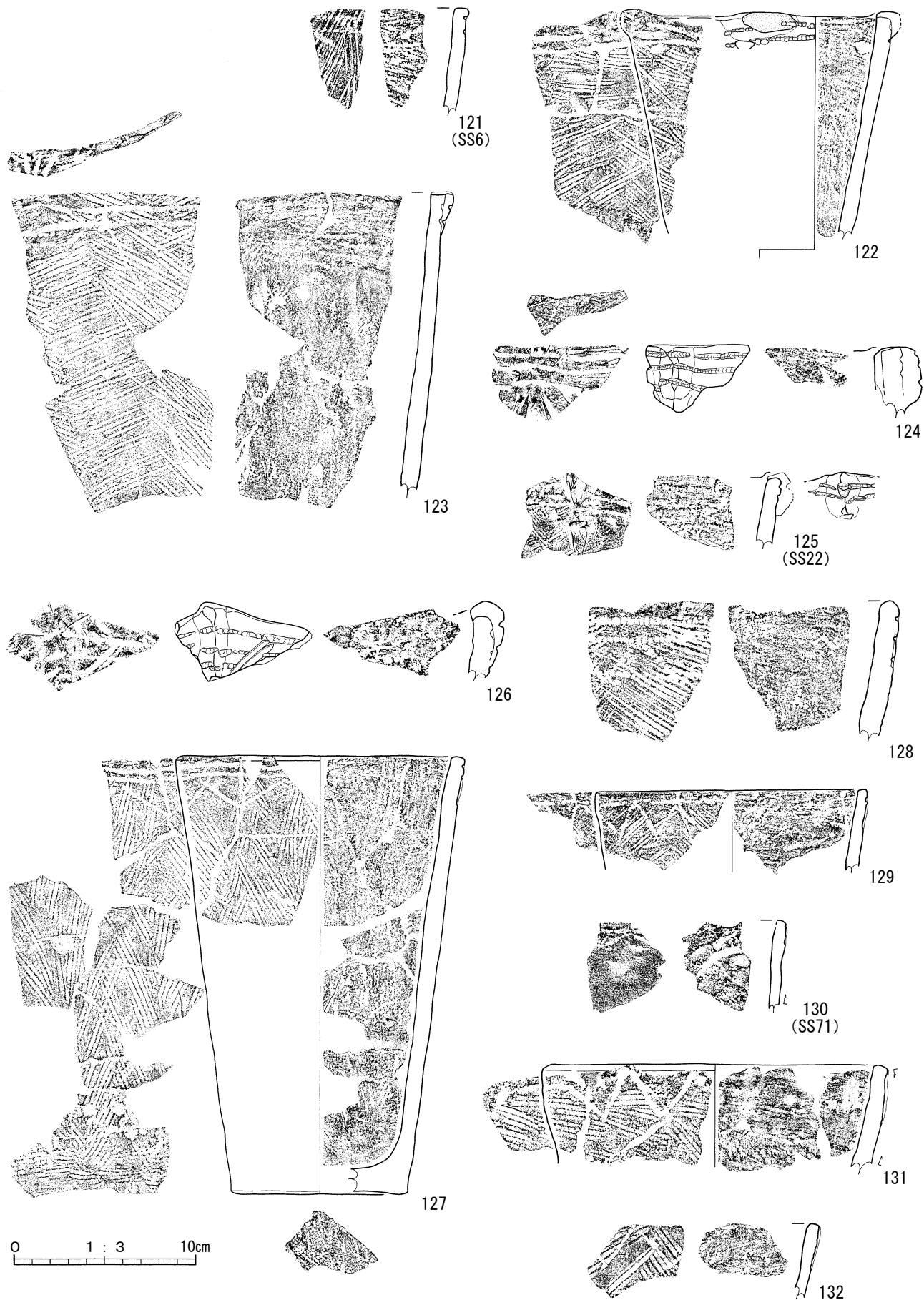
第73図 9類・11類・13類土器分布図



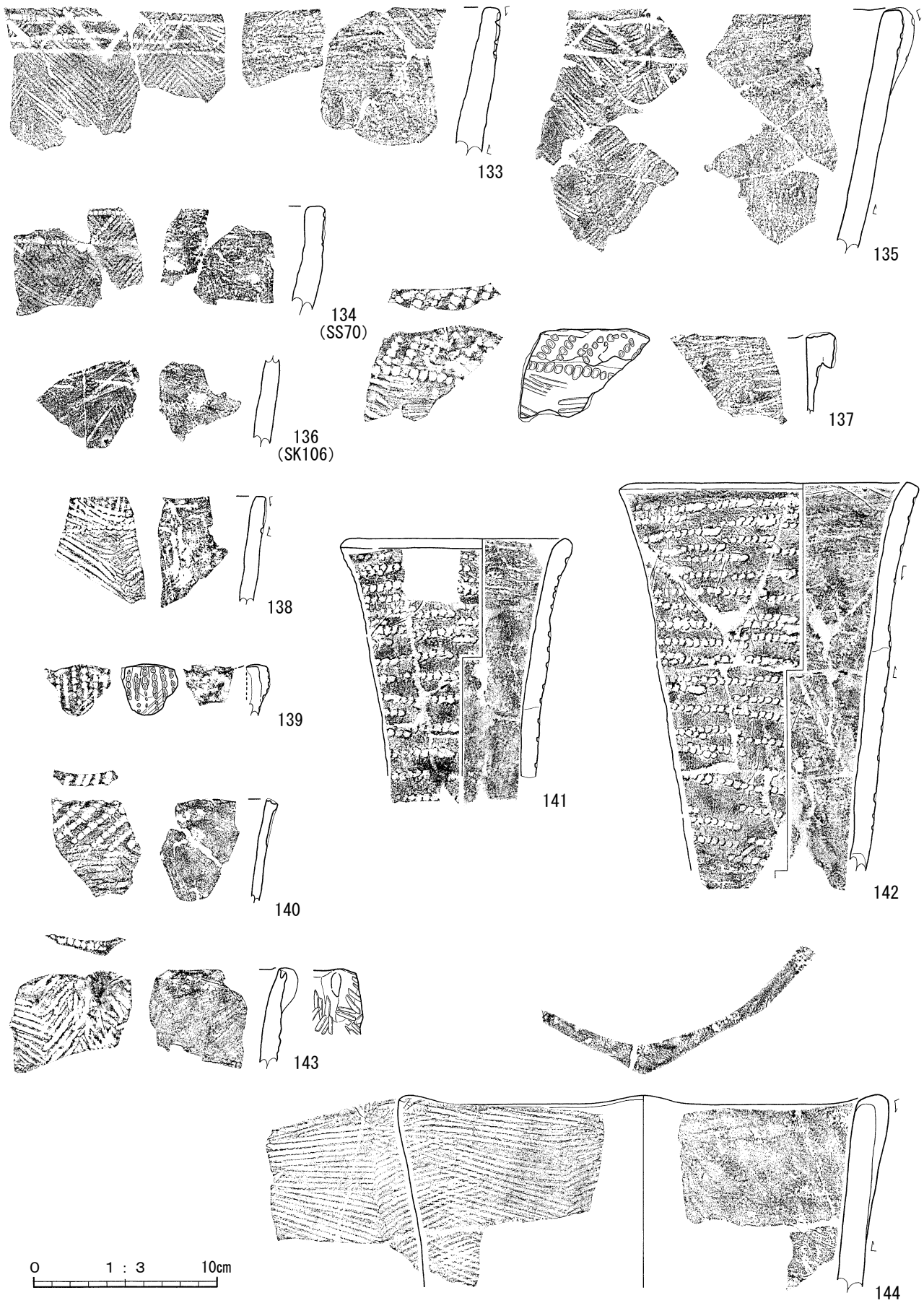
第74図 10類土器分布図



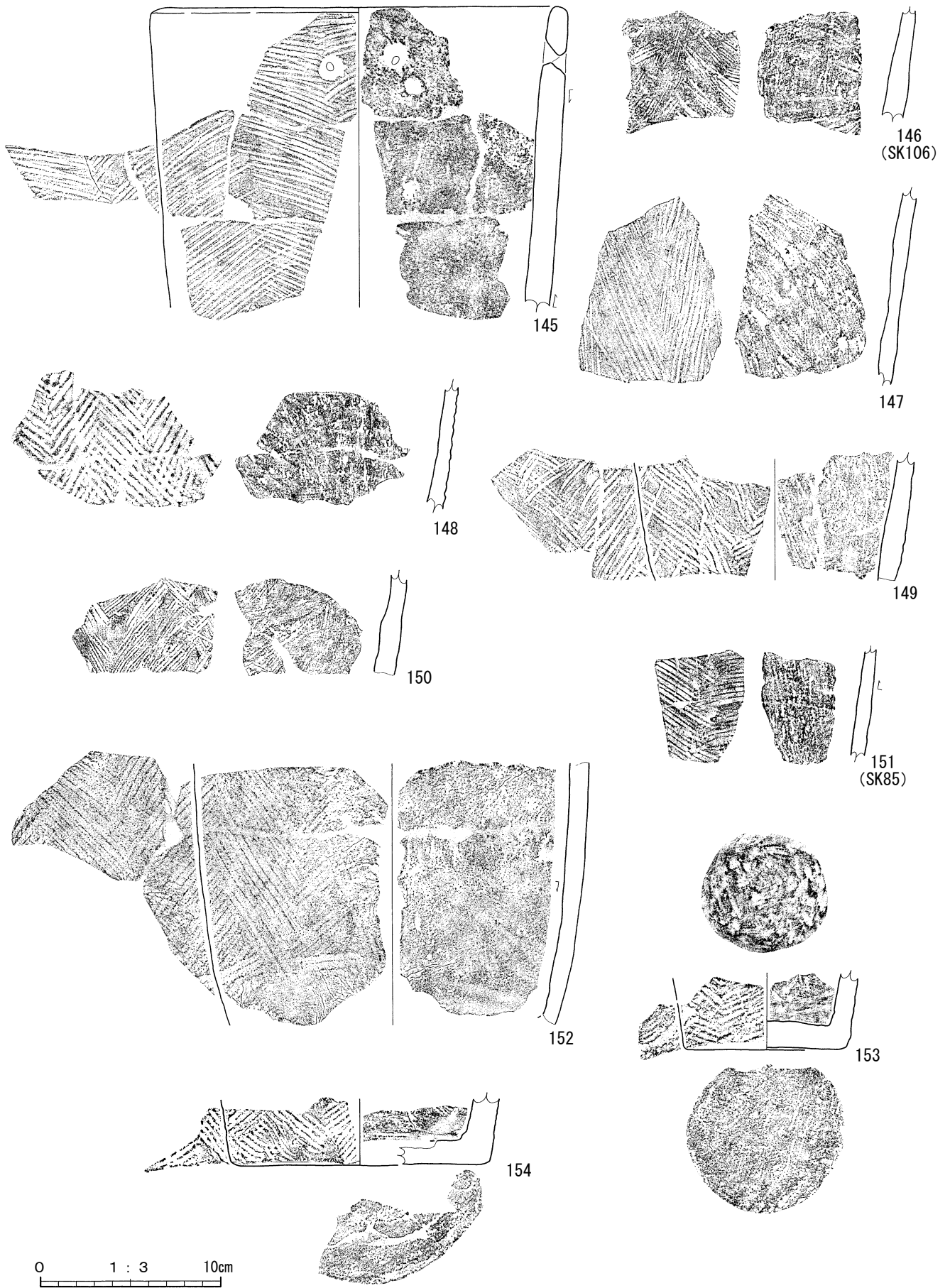
第75図 10類土器 (1)



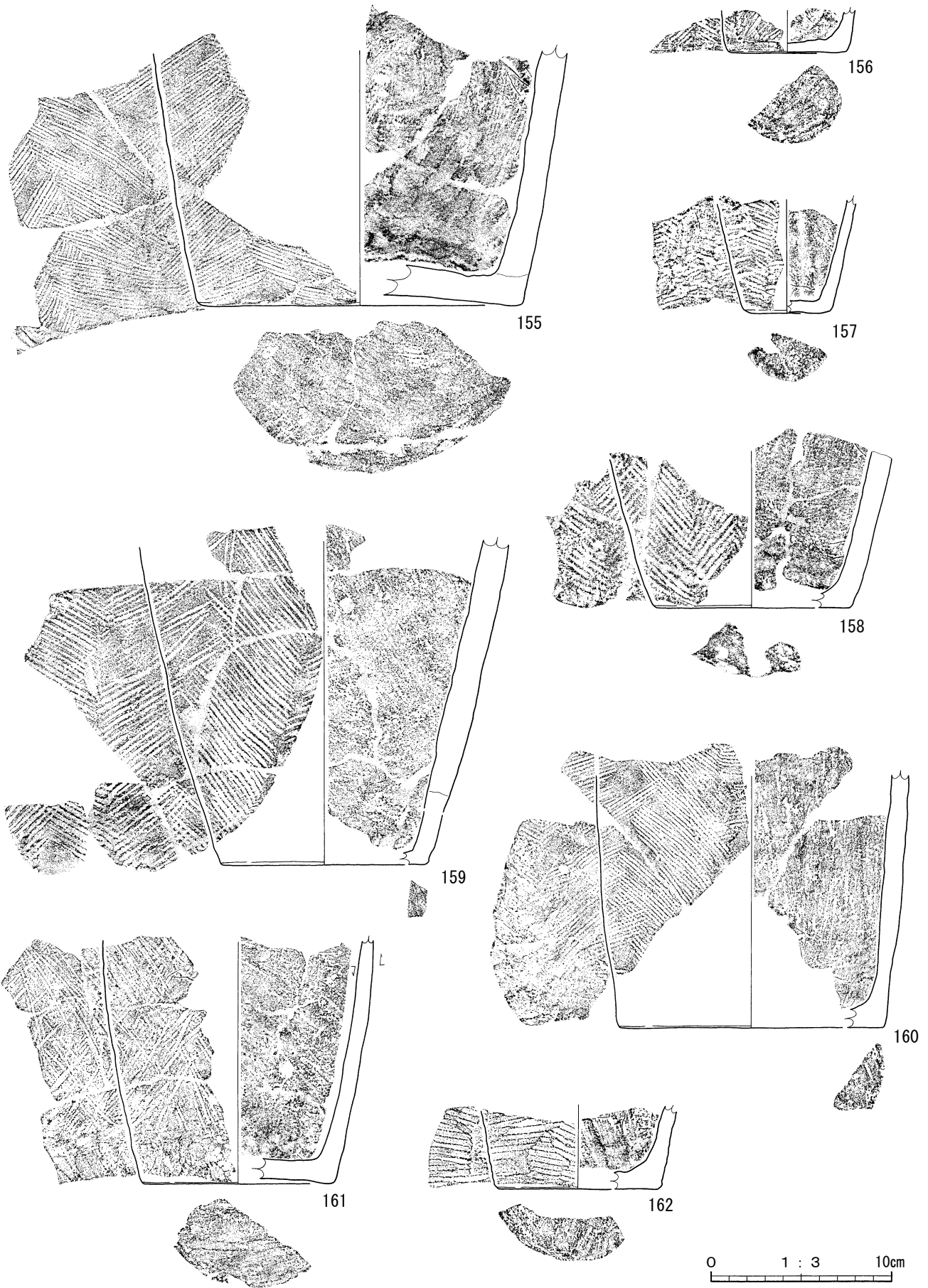
第76図 10類土器 (2)



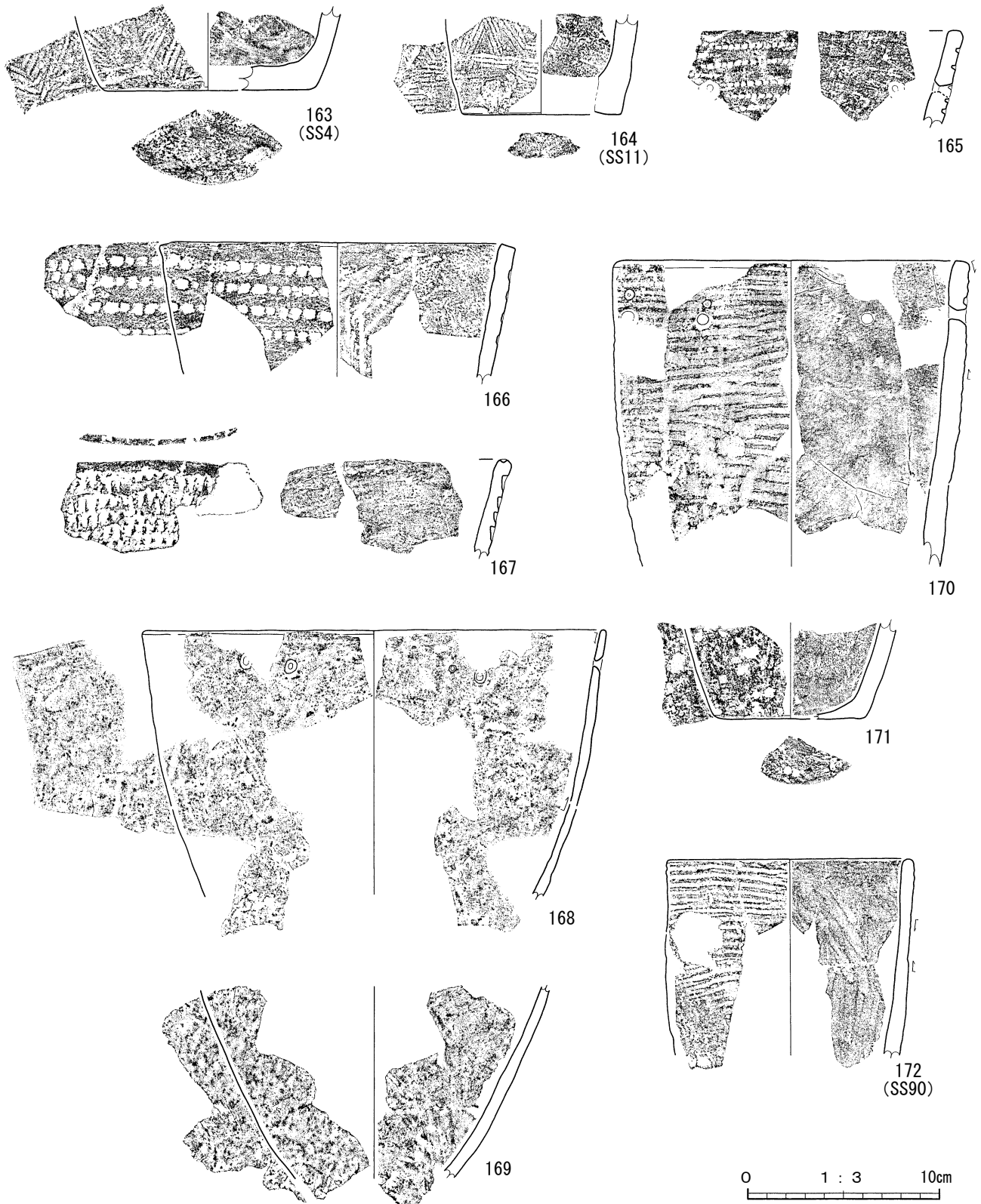
第77図 10類土器 (3)



第78図 10類土器 (4)



第79図 10類土器（5）



第80図 10類・11類・12類・13類土器

14 類土器 (第 83~88 図 173~266)

器面全体に貝殻刺突文で文様を施すことを特徴とする。貝殻刺突文は横位や縦位の単純なモチーフや鋸歯状や羽状を呈する複雑なモチーフに施される。890 点確認した。

器形は直行または内湾する口縁部から、そのまま平底となる底部へ至るものが基本である。口唇部に平坦面をもつものもある。波状口縁を呈するものや口縁部に山形突起をもつものもある。口縁部に縦長のコブ状突起をもつものがある。内面はナデ調整またはミガキ調整を行う(ケズリ状のもの有り)。調整痕が明瞭に残るものもある。胎土に石英・長石類や細かい金色雲母を含むものが多い。円形の補修孔をもつ。

口縁部文様帯の有無から、2 類及びこれらに分類できない胴~底部に大別した。

14-1 類 (第 83・84 図 173~195)

口縁部に文様帯をもつもの。151 点確認し、23 点図示した。分布は B~E-1~5 区と B~D-9~15 区周辺の 2ヶ所にみられる(第 81 図参照)。

口縁部文様帯には、横位の貝殻刺突文を数段施すもの(173~191)、縦位の貝殻刺突文を巡らせるもの(192・193)、貝殻刺突文と短沈線文を組み合わせるもの(194・195)がある。口縁部文様帯の下位には、鋸歯状モチーフを縦方向に展開するもの(180~184、189~192 など)、羽状モチーフを横方向に展開するもの(174~177 など)、横位の貝殻刺突文を施すもの(192~195)がある。

173 は口縁部文様帯の下位に 4 条単位の縦位の貝殻刺突文を、間隔をおいて施す。一対のコブ状突起をもつ。177 は波状口縁を呈し、波頂部に縦長のコブ状突起をもつ。180 は穿孔途中の補修孔をもつ。185・186 は口縁部内面が突出している。193 は口縁部が強く内湾する。屈曲部下位に炭化物が付着しており、¹⁴C 年代測定を行ったものの、結果が得られなかった。

14-2 類 (第 84~86 図 196~222)

口縁部文様帯が確認できないもの、または口縁部文様帯をもたず器面全体に単一文様を施すもの。326 点確認し、17 点図示した。9~15 区に分布し、1~5 区にはあまり認められない(第 81 図参照)。

横位の貝殻刺突文を施すもの(196~201)、縦位の貝殻刺突文を施すもの(202~209)、羽状モチーフをもつもの(210・211)、縦位と斜位の貝殻刺突文を組み合わせるもの(212・213)、斜位の貝殻刺突文を施すもの(214~217)、部分的に貝殻刺突文を施すもの(218~220)、貝殻押圧文を施すもの(221・222)がある。縦位の貝殻刺突文には、202・203 のようにロッキングしながら施文するものもある。

胴~底部 (第 86~88 図 223~266)

1 類または 2 類に分類できない胴~底部を一括した。413 点確認し、45 点図示した。

横位の貝殻刺突文を縦方向に展開するもの(223~229 など)、羽状モチーフを横方向に展開するもの(230~239 など)、縦位の貝殻刺突文を横方向に展開するもの(240~247)、鋸歯状モチーフを縦方向に展開するもの(248~250 など)がある。

底部成形には、円盤状の粘土板の側面から胴部を立ち上げるもの(252・264 など)と、円盤状の粘土板の上面縁から胴部を立ち上げるもの(254)が認められる。

15 類土器 (第 89~91 図 267~289)

器面全体に貝殻腹縁またはへら状工具により、鋸歯状、羽状、流水状などのモチーフを描くことを特徴とする。230 点確認した。

器形は直行または内湾する口縁部からそのまま平底となる底部へ至る。口唇部に平坦面をもつ。口縁部に縦長または横長のコブ状突起をもつものがある。内面はミガキ調整を行う。胎土に石英・長石類や細かい金色雲母を含むものも目立つ。

口縁部文様帯の有無から、2 類及びこれらに分類できない胴~底部に大別した。

15-1 類 (267~272)

口縁部文様帯をもつもの。52 点確認し、6 点図示した。分布は B~D-1~4 区周辺に偏る(第 82 図参照)。

文様帯には横位の貝殻刺突文を数段巡らせるもの(267・271)や貝殻条線文を巡らせるもの(268)がある。口縁部文様帯下位には、貝殻条線文による鋸歯状モチーフを描く。271 は山形突起をもち、波頂部外面を肥厚させる。

15-2 類 (273~282)

口縁部文様帯をもたず、器面全体に単一文様を施すもの。139 点確認し、10 点図示した。分布は B~D-1~4 区周辺に偏る(第 82 図参照)。

縦位の貝殻条線文(273~275)や羽状モチーフを横方向に展開するもの(276・280~282)、縦位の流水状モチーフのもの(277~279)がある。

胴~底部 (283~289)

1 類または 2 類に分類できない胴~底部を一括した。39 点確認し、7 点図示した。283 はへら状工具による縦位の沈線文を横方向に展開する。285 はへら状工具による沈線文を不規則に施す。

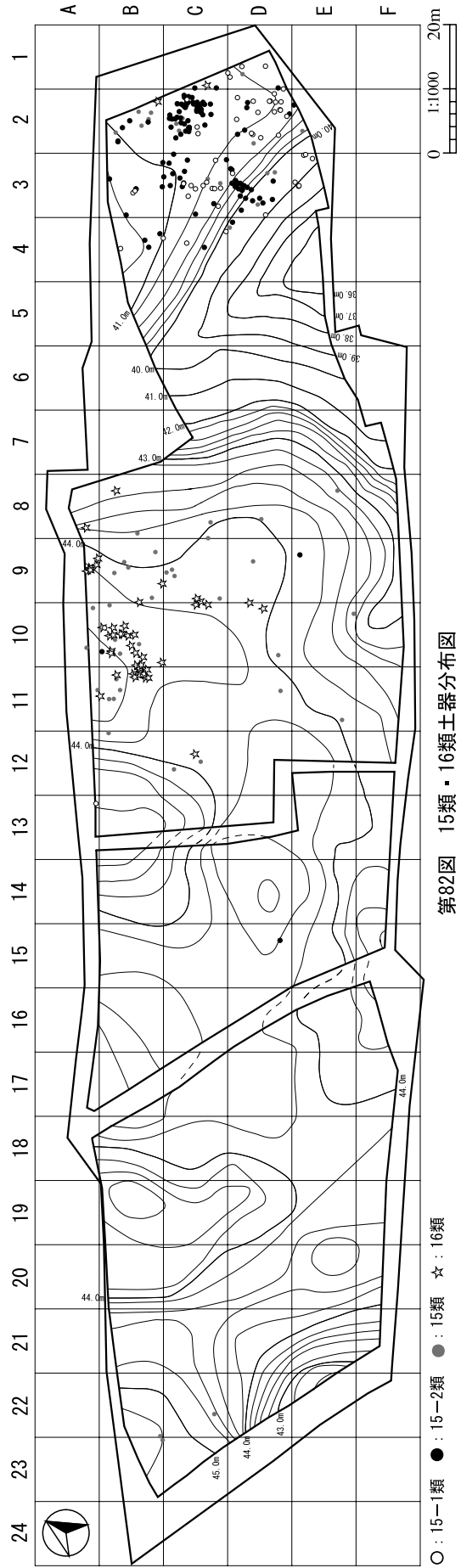
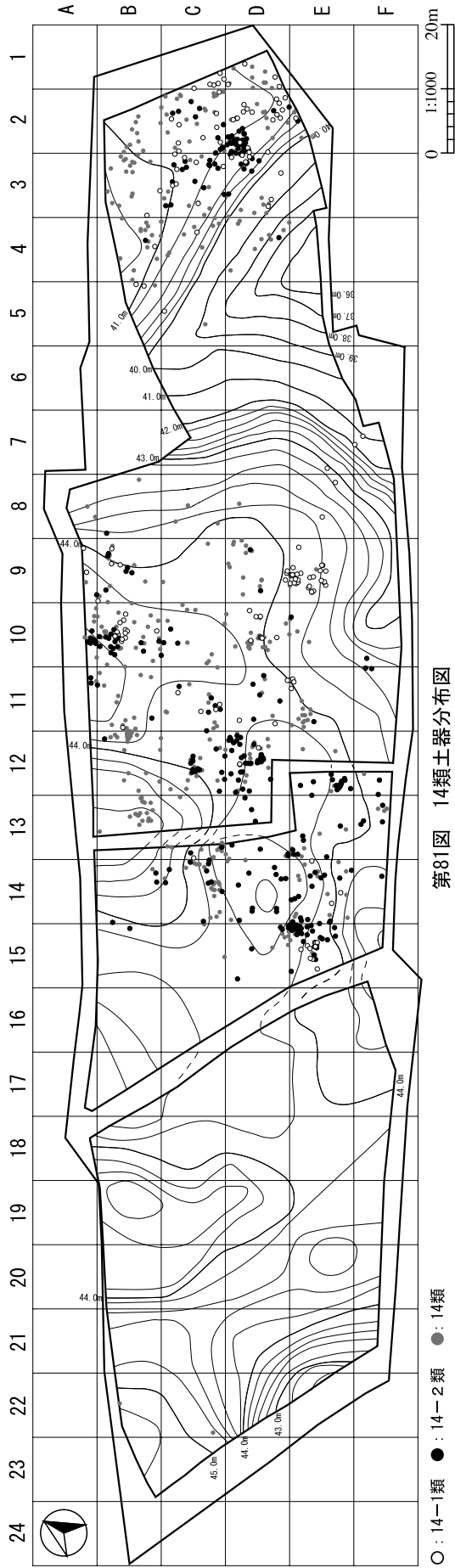
16 類土器 (第 91 図 290~293)

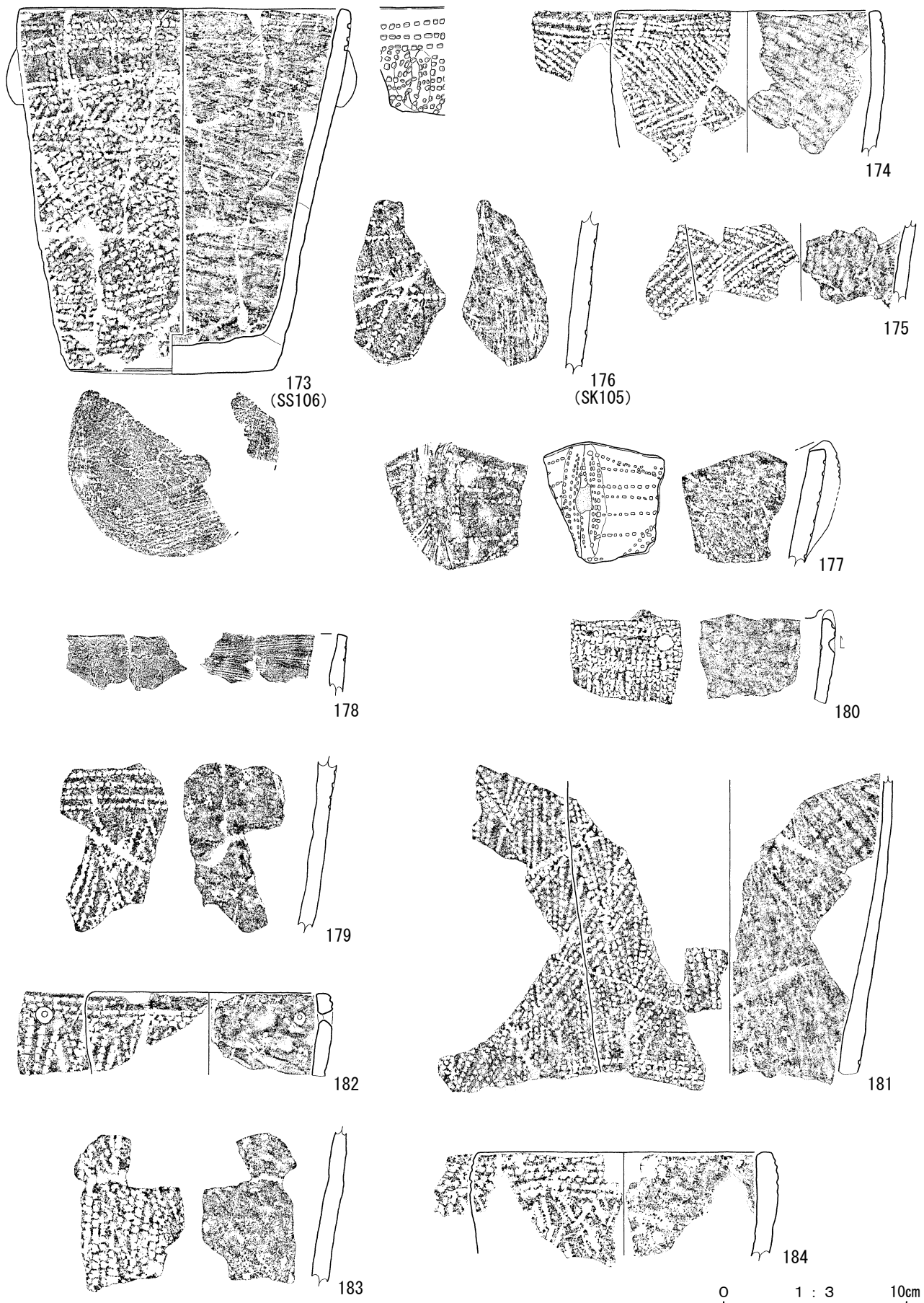
器面全体に短沈線文で文様を施すことを特徴とする。48 点確認し(2 個体分)、3 点図示した。口縁部が内湾し、そのまま底部へ至る。内面はミガキ調整を行う。

290 は浅い短沈線文を用いて、丁寧に施文されている。一方、291~293 は短沈線文を粗雑に施している。

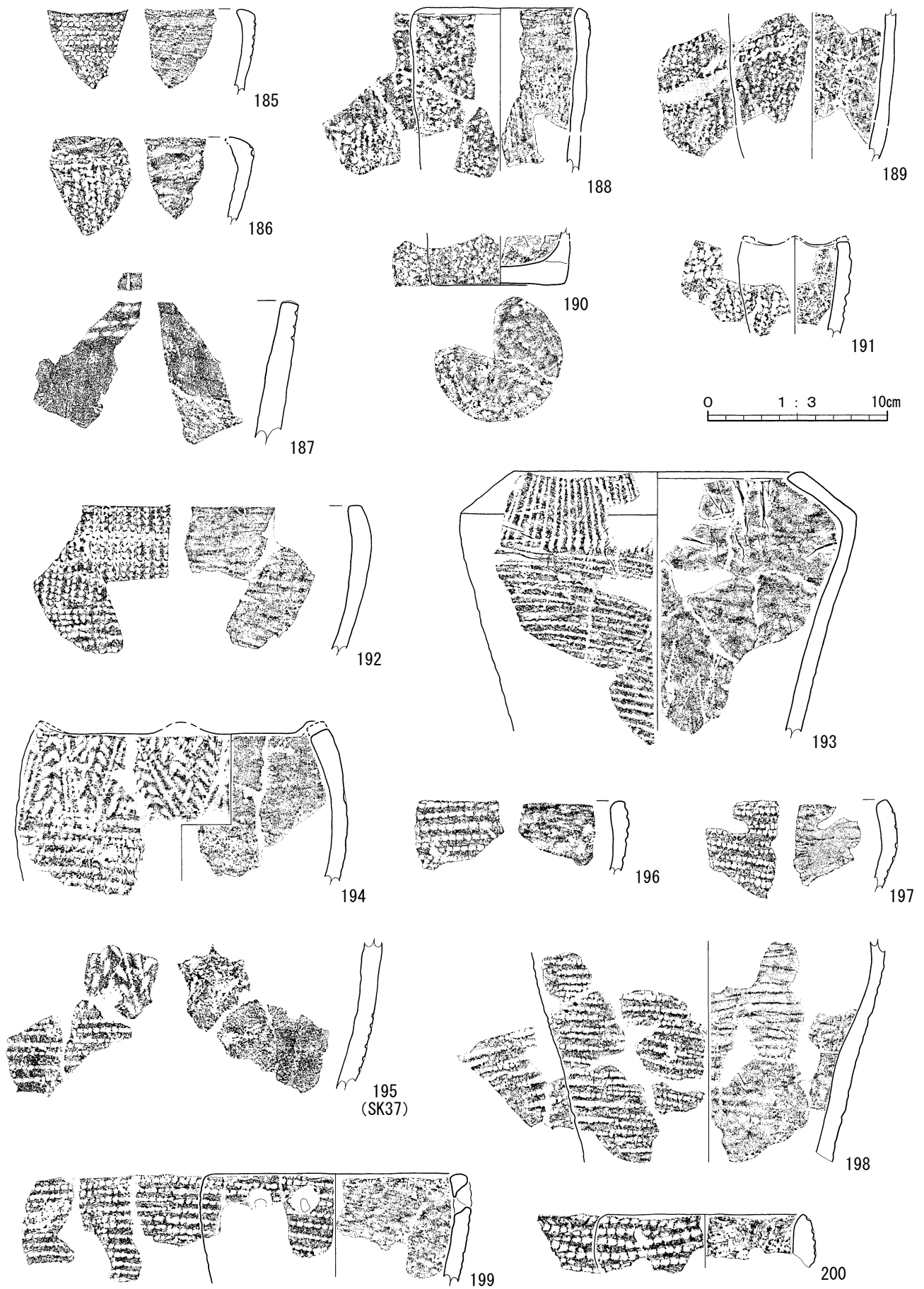
17 類土器 (第 91・92 図 294~301)

施文原体を回転押捺した文様をもつことを特徴とする。

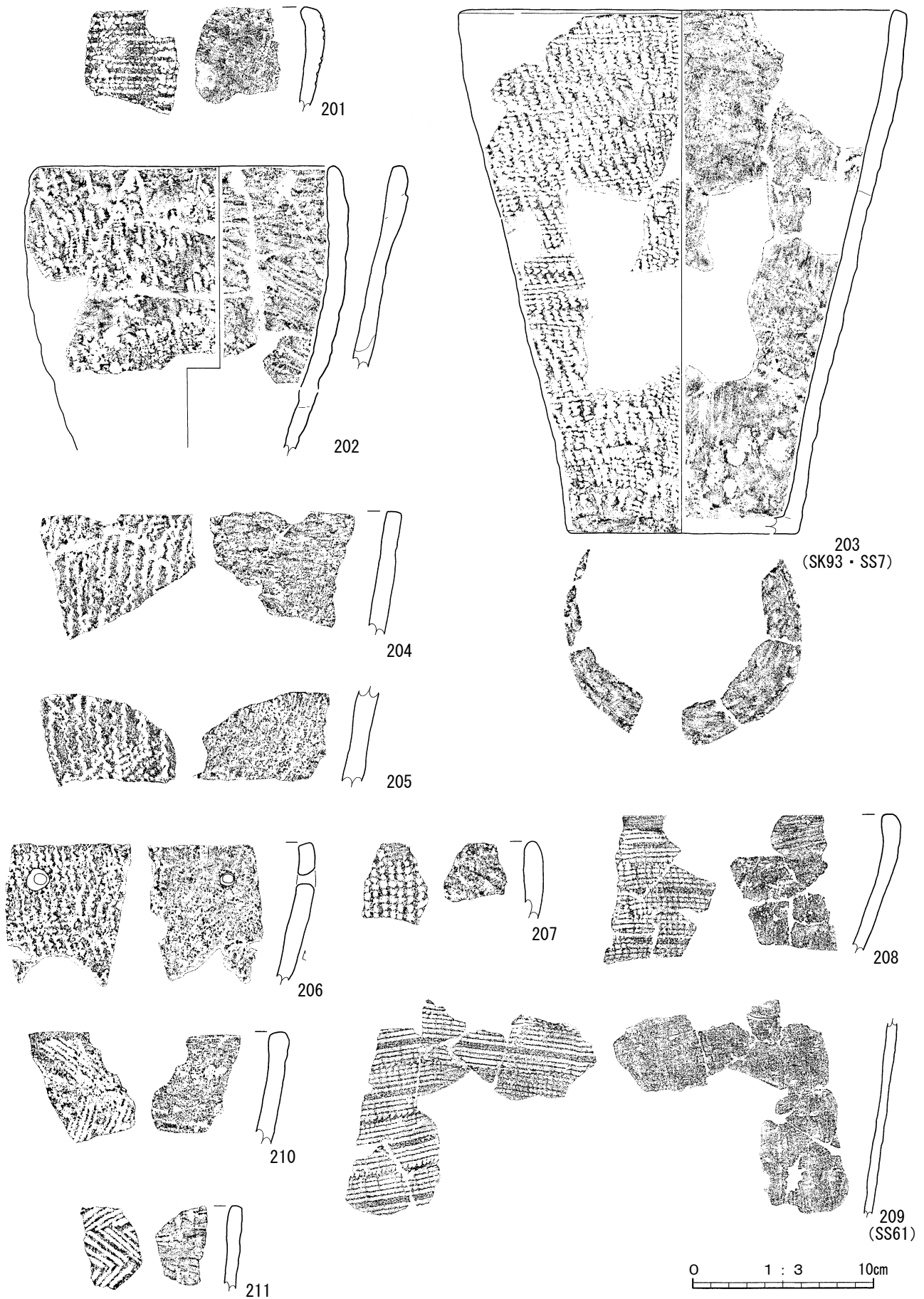




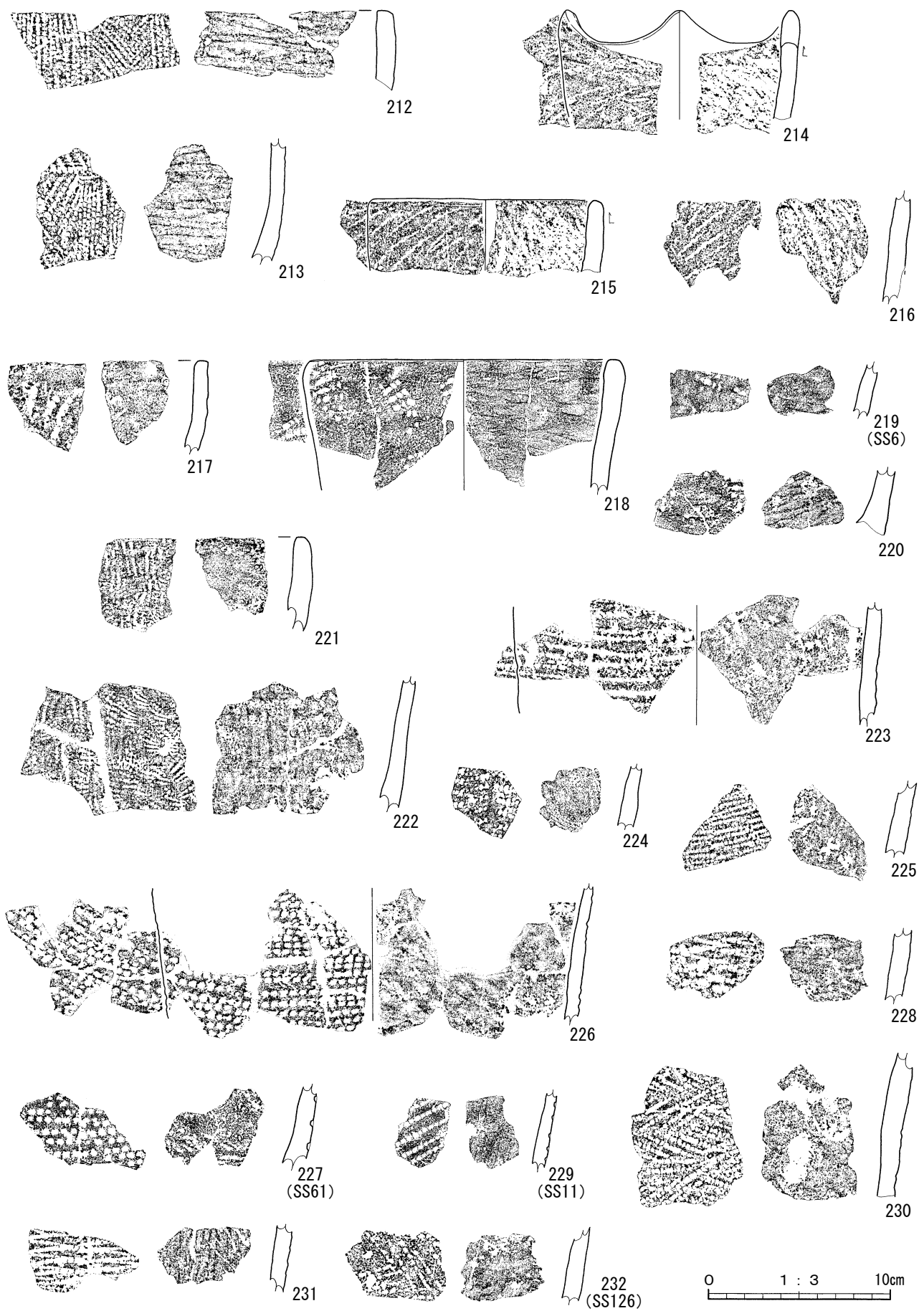
第83図 14類土器 (1)



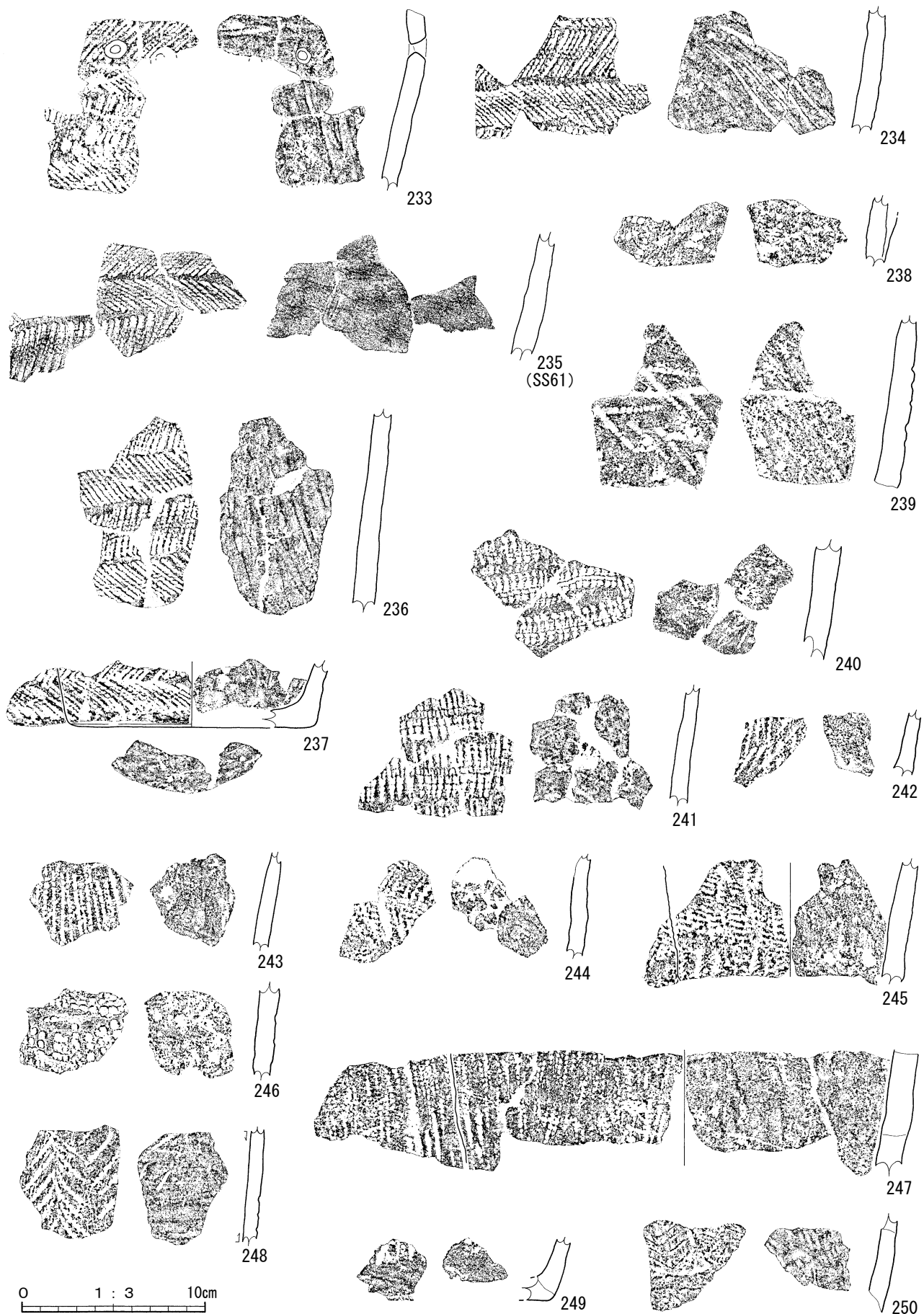
第84図 14類土器 (2)



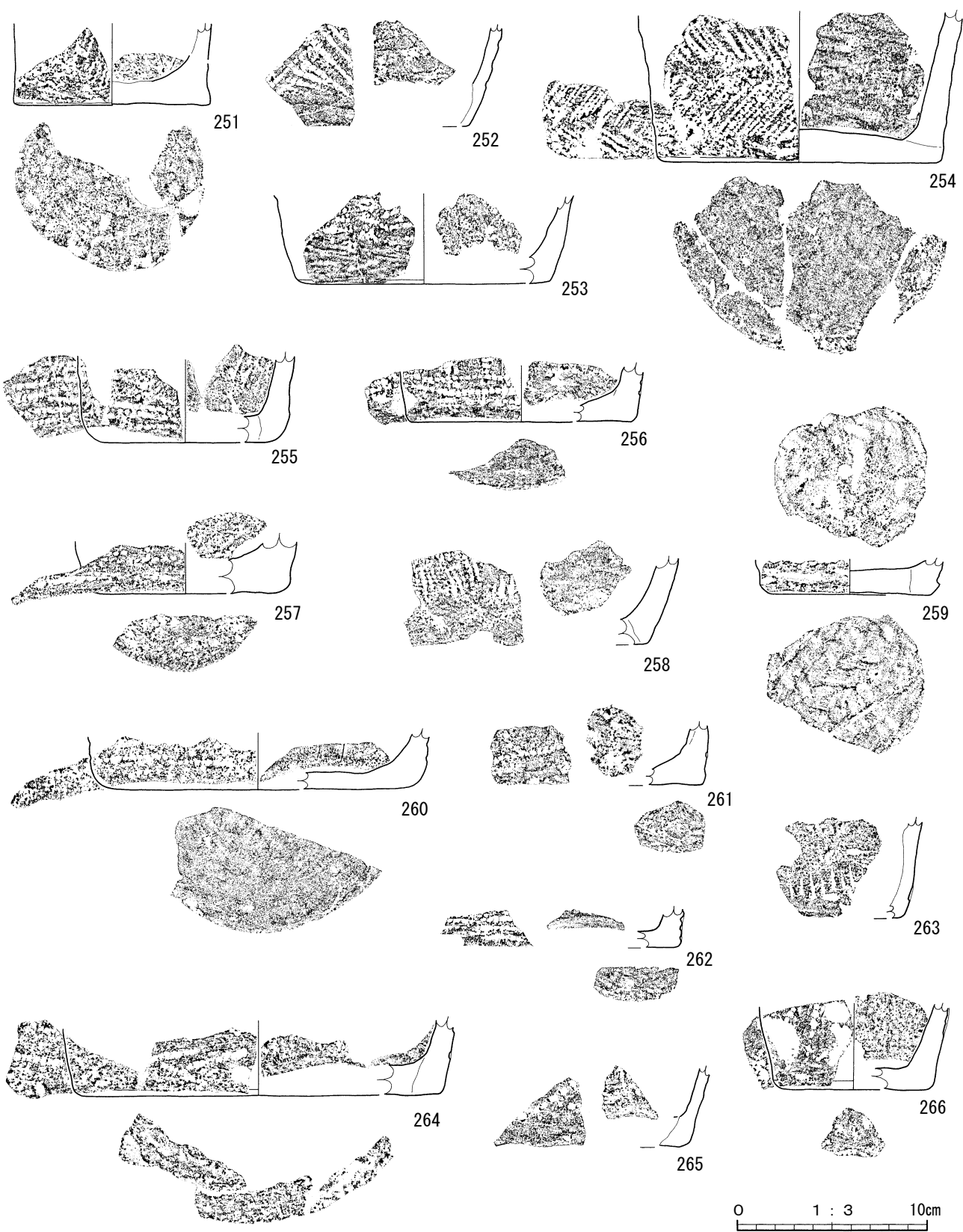
第85図 14類土器 (3)



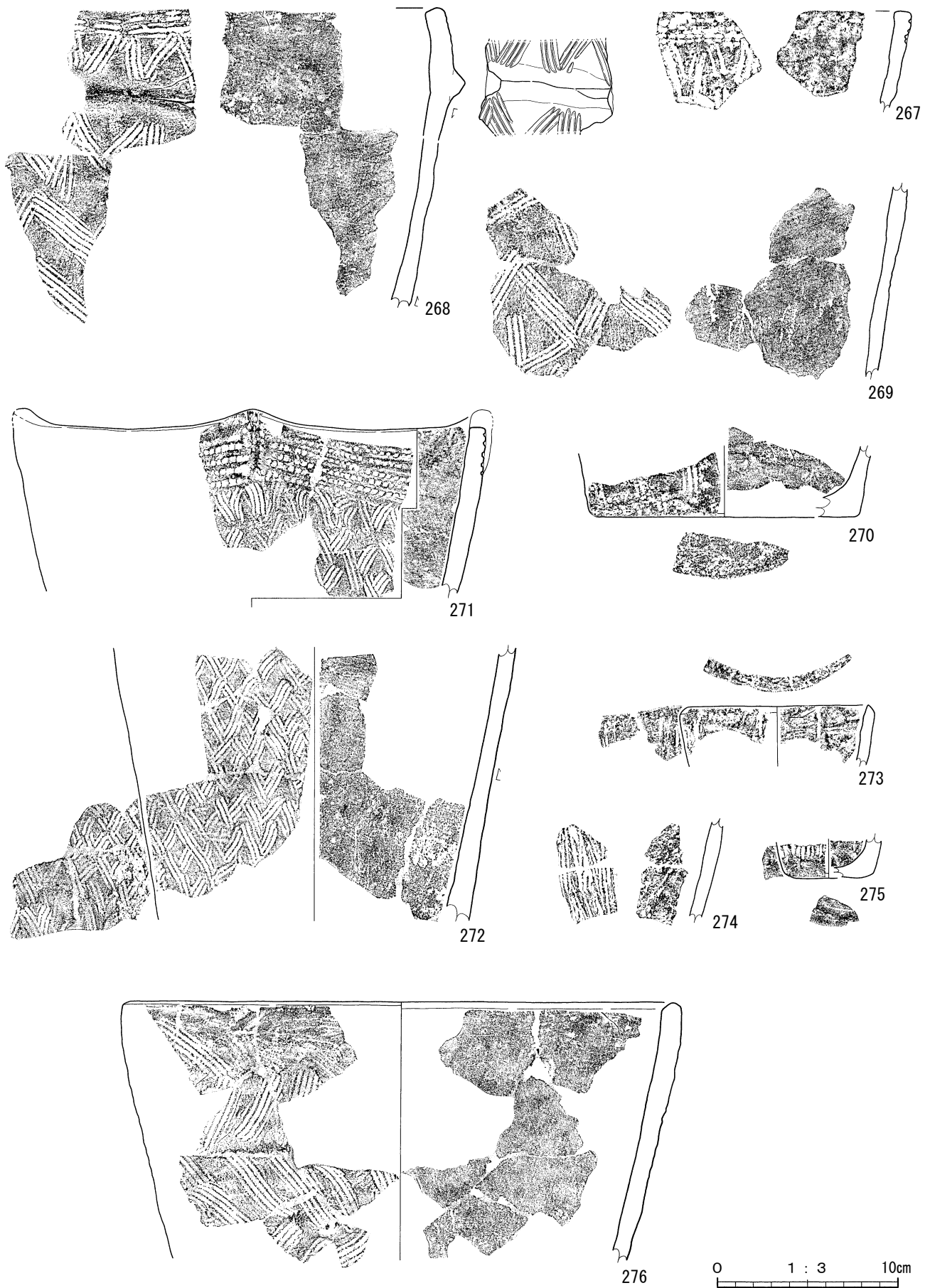
第86図 14類土器 (4)



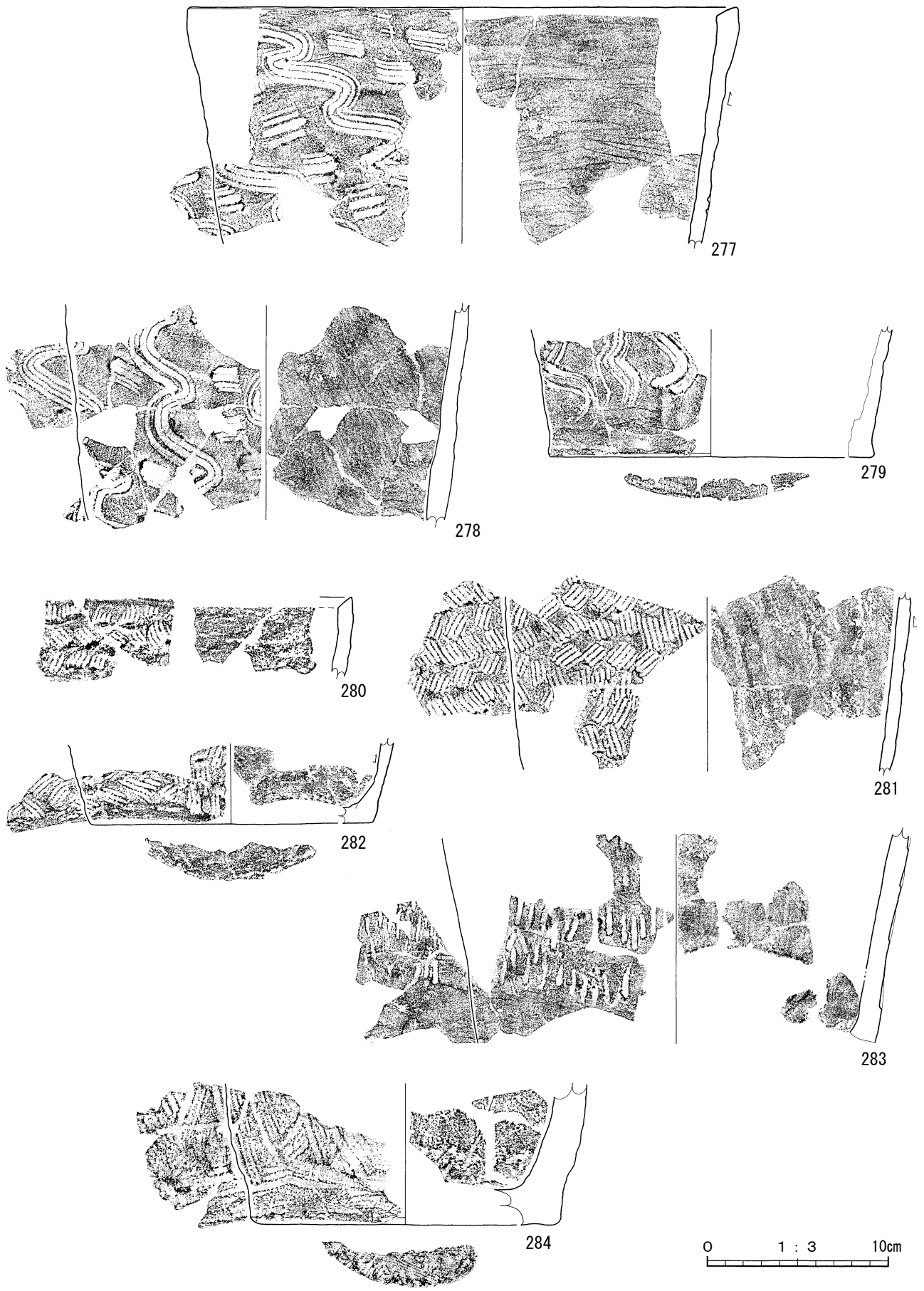
第87圖 14類土器 (5)



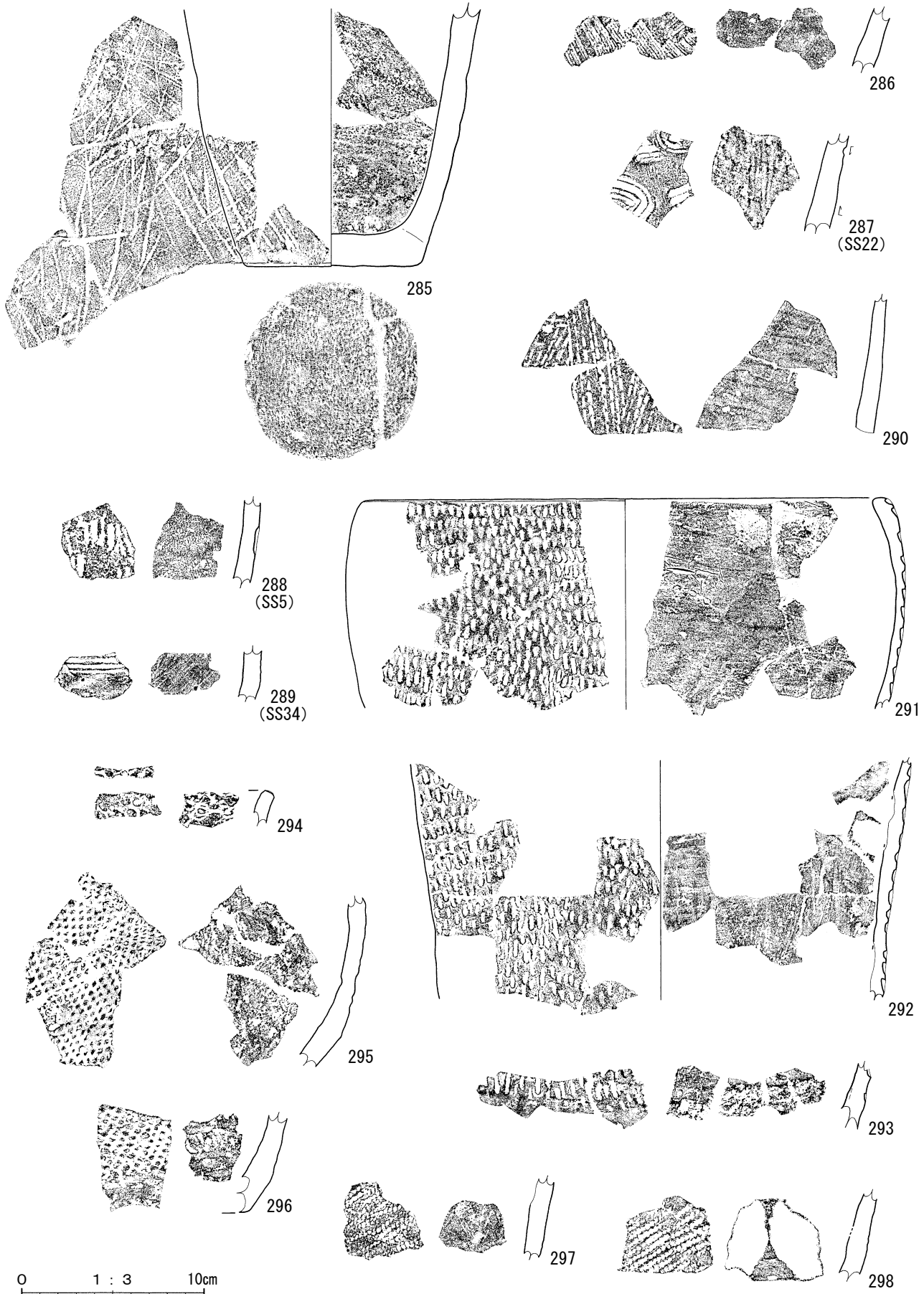
第88図 14類土器（6）



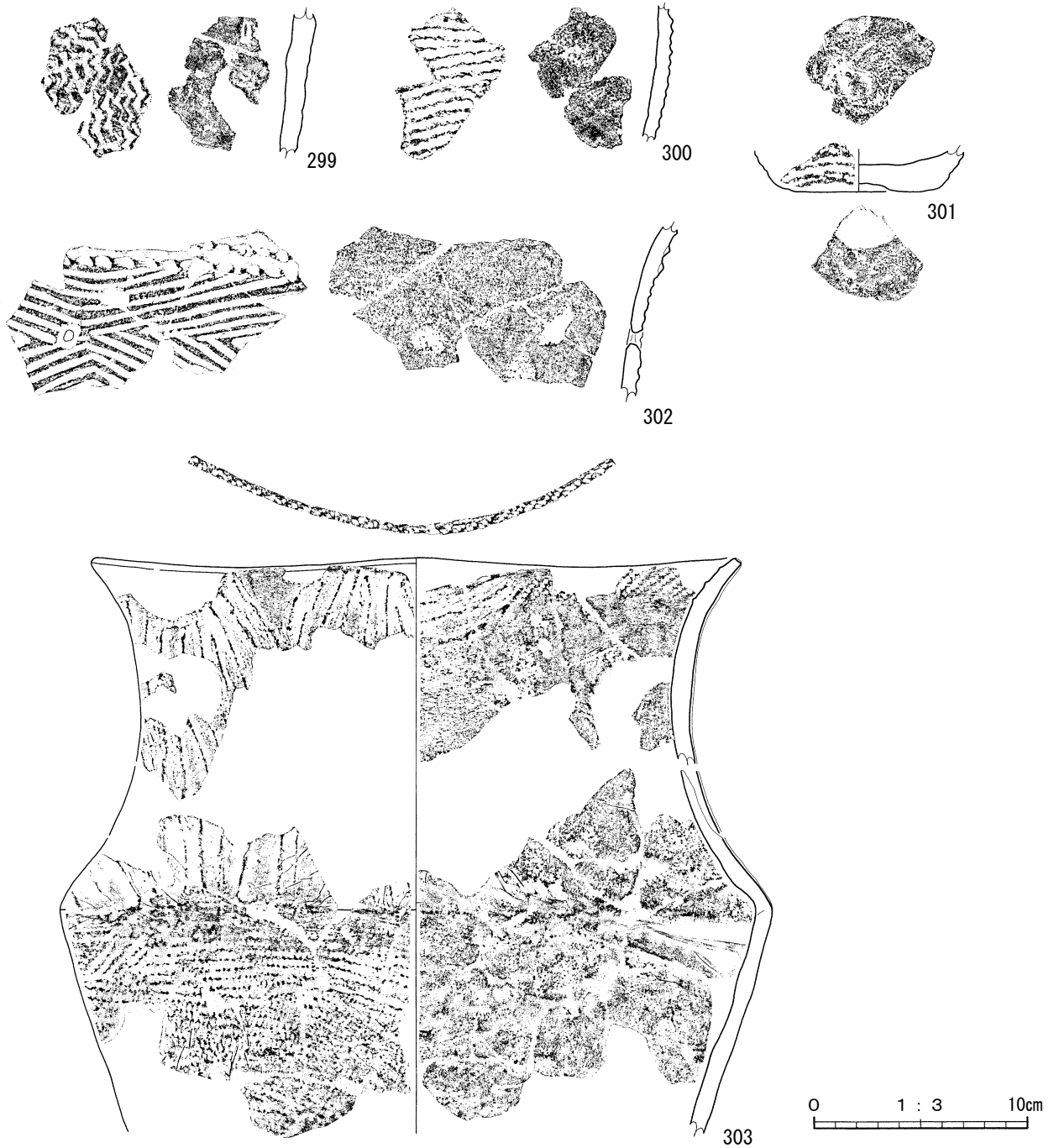
第89圖 15類土器 (1)



第90図 15類土器 (2)



第91図 15類・16類・17類土器



第92図 17類・18類土器

53点確認し、8点図示した。文様ごとに分布が異なる（第94図参照）。

楕円押型文（294～296）、縄文（297・298）、山形押型文（299～301）が認められる。294は口縁部内面にも施文される。297・298は単節縄文（LR）を施す。299は縦位の大きめな山形文で、300・301は横位の小さめの山形文である。

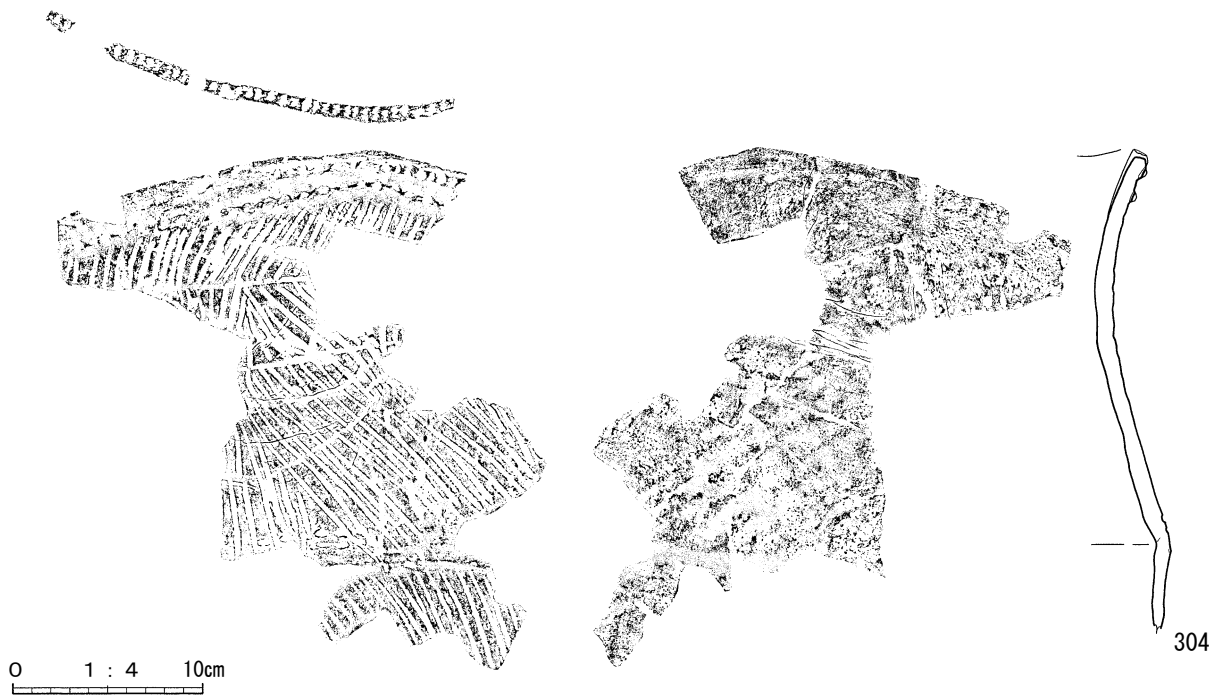
色調・胎土について、294～296は石英・長石類や金色雲母が目立ち、橙色を呈する一方、300・301は輝石・角

閃石類が目立ち、黄橙色を呈する。

18類土器（第92・93図302～304）

口縁部が大きく外反し、屈曲する胴部をもち、外面に突帯文や沈線文、ミミズばれ文、縄文を施すことを特徴とする。内面はナデ調整を行う。128点確認し（3個体分）、3点図示した。分布はB～D-1～3区に偏る（第94図参照）。

302は円形の補修孔をもつ。303は胴部屈曲部上位にミミズばれ文を、屈曲部下位に単節縄文（LR）を施す。



第93図 18類土器

口縁部内面は同じ単節縄文を施し、波頂部のみミミズばれ文を波状に施す。口唇部にも同じ単節縄文を施す。304は口縁部上位に刻みのある突帯を施し、その下位には沈線文を施す。なお、屈曲部上位には沈線施文前に2条単位の刺突文を巡らせる。口唇部には貝殻腹縁による刺突文を施す。胎土について、302・304は石英・長石類や金色雲母を含み、303は輝石・角閃石類が目立つ。

19類土器（第96図305～310）

口縁部が「く」字状に屈曲し、口縁～底部外面に網目捺糸文を施すことを特徴とする。110点確認し、6点図示した。器形は「く」字状に屈曲する口縁部から平底となる底部へそのまま至る。網目捺糸文は無文帯を挟みながら3～4条一単位で縦位に施される。その後、3条一単位の横位の沈線文を施す。沈線文は一部円弧状となる(306)。内外面ともにナデ調整を行う。分布はB～D-1～3区に多い(第95図参照)。

20類土器（第96・97図311～316）

壺形の器形を呈することを特徴とする。88点確認し、6点図示した。内外面ともにナデ調整を行う。分布はB～D-1～3区に多い(第95図参照)。

311は刻みのある微突帯文を6+ α 条巡らせる。312は313または314と同一個体と考えられ、内傾する口縁部から胴部が若干膨らみ、平底となる底部へ至る。文様は認められない。315・316は平底の底部で、内外面ともにミガキ調整が行われていることから、この類に含めた。

21類土器（第97図317～329）

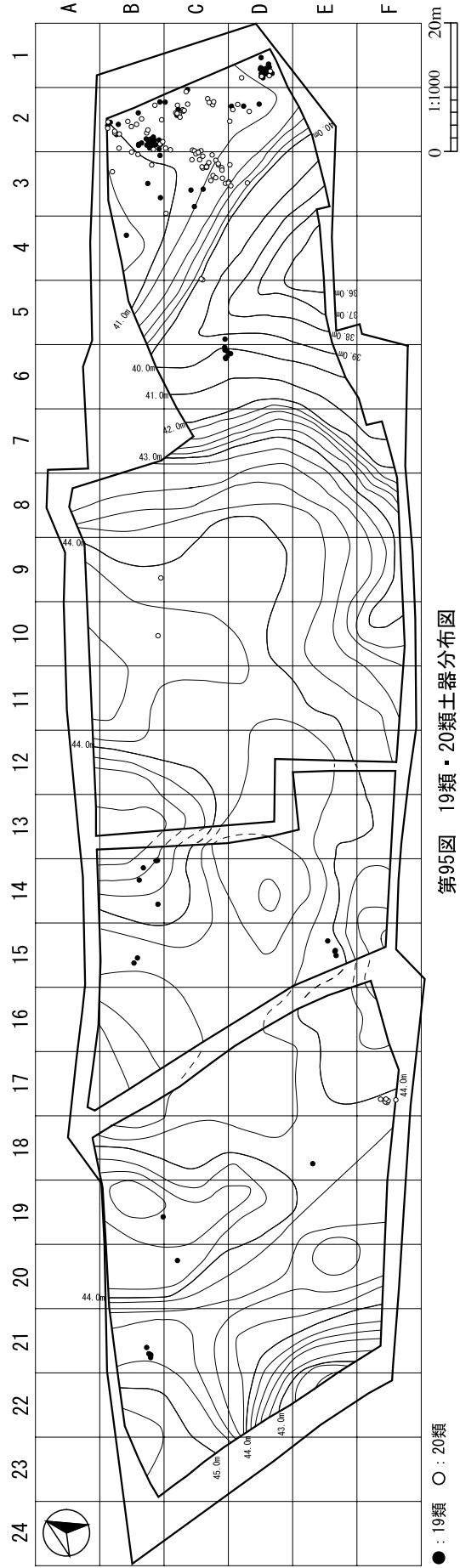
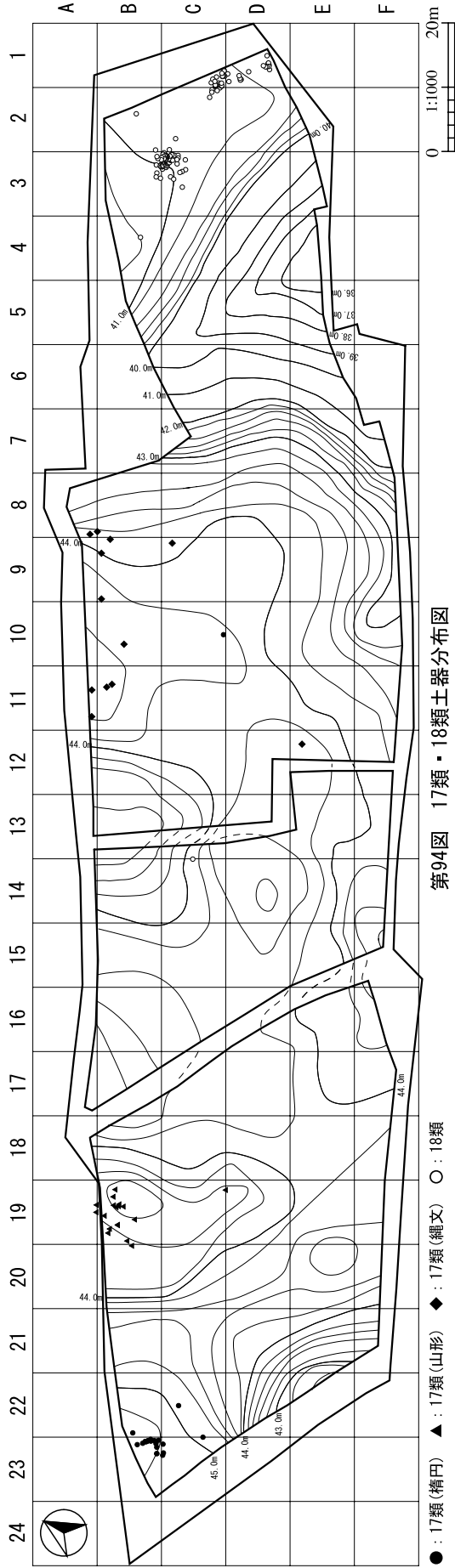
1～20類に分類できなかった縄文時代早期土器の底部を一括したものである。139点確認し、13点図示した。

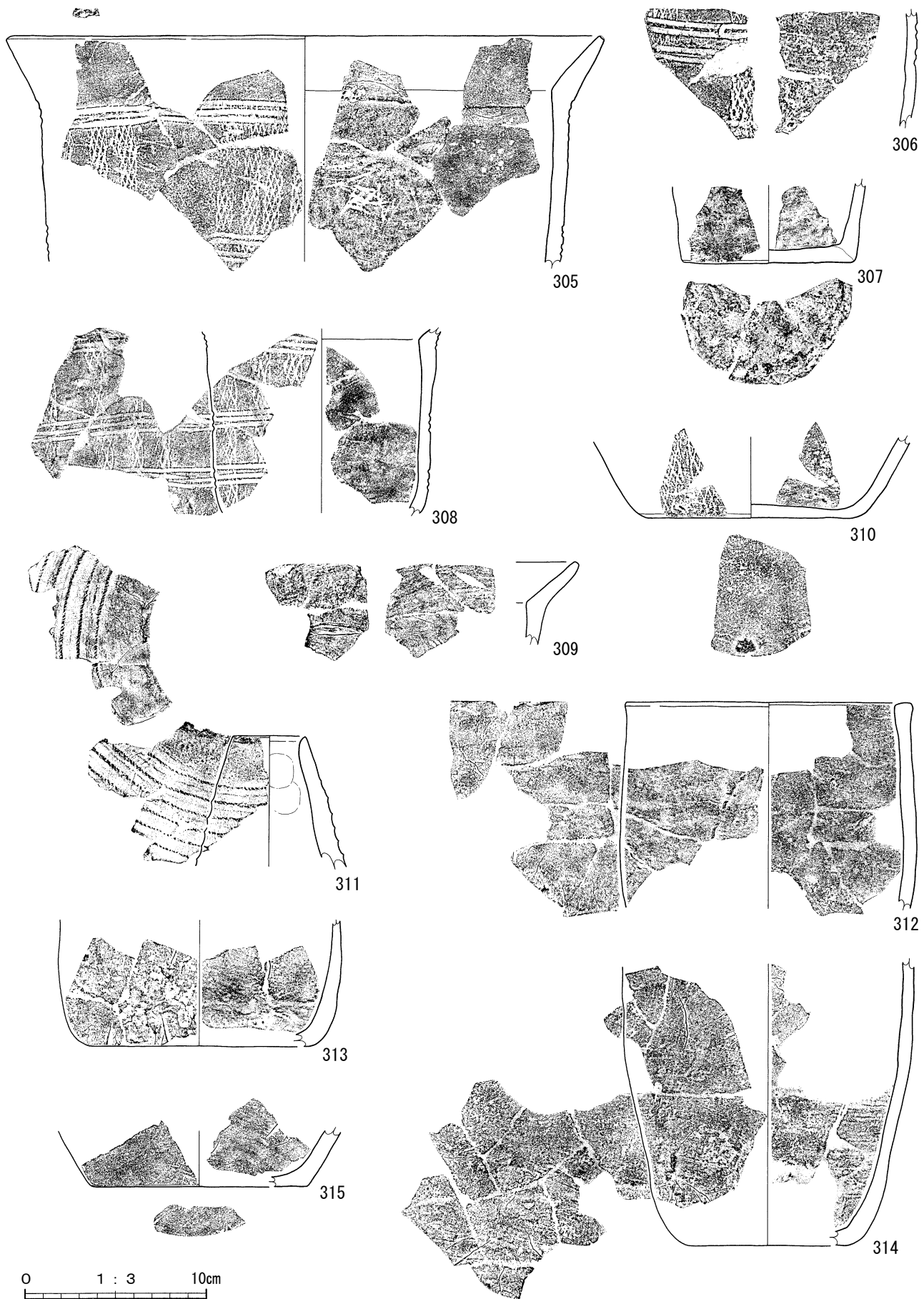
317・318は底部外面に縦位の刻みを施す特徴から、4～6類土器に含まれる可能性がある。321・322は横位の貝殻条痕が確認できる。326～329は胎土に石英・長石類を多く含む特徴から、14類土器に含まれる可能性がある。

22類土器（第98図330～336）

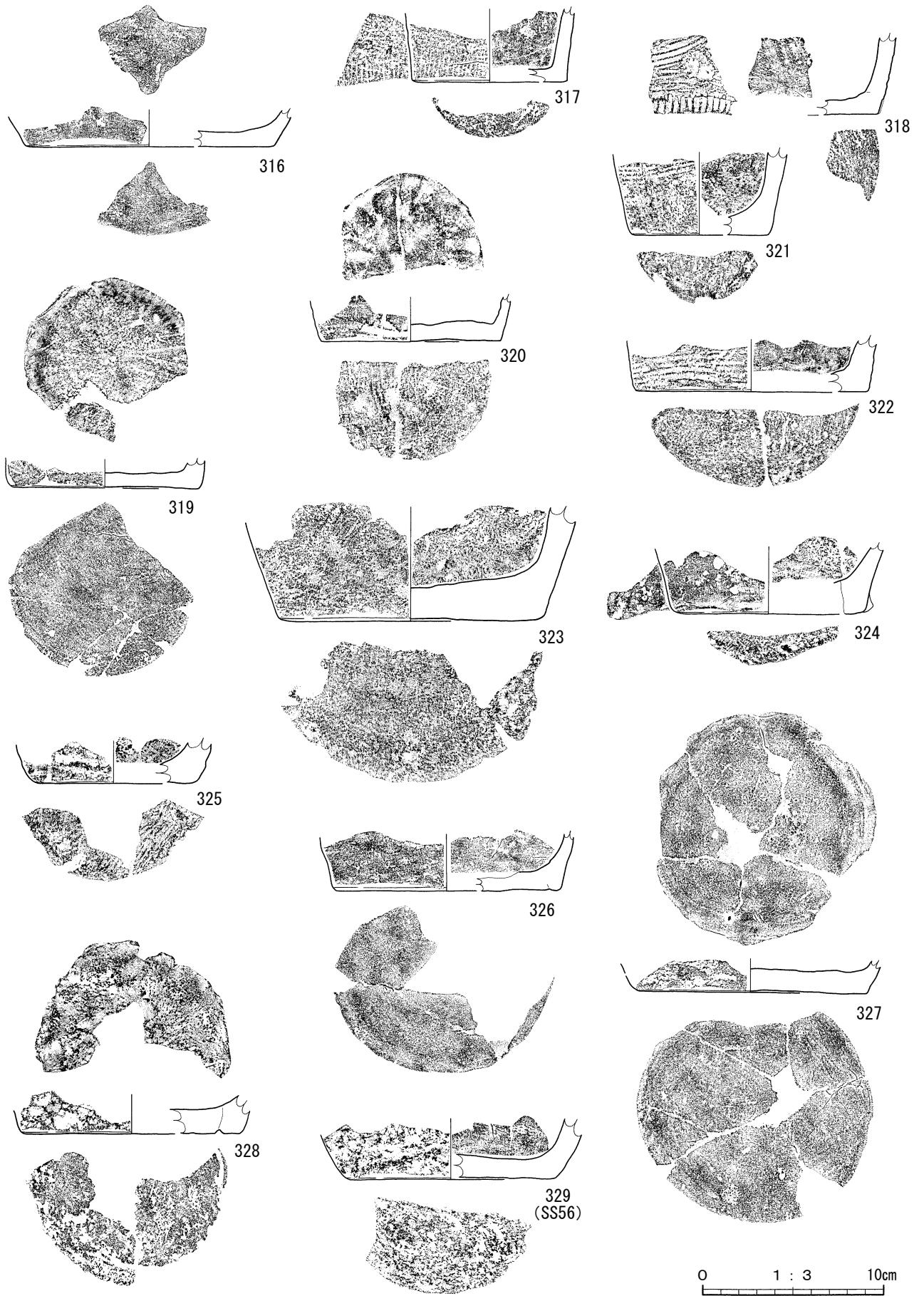
1～20類に分類できなかった縄文時代早期土器を一括したものである。無文土器や条痕文土器の胴部片などを含め、約830点確認した。その中で特徴的なものを6点図示した。

330は外面に横位の貝殻条痕を施す。331は横位の貝殻条痕を施文後、ヘラ状工具による縦位の沈線文を施す。332は端部が肥厚する口縁部で、横位の貝殻刺突文を施す。333は無文の小型土器で、底面に木葉痕が残る。334は口縁端部外面に横位の貝殻条痕文を施し、その下位に縦・斜位の貝殻条痕文を施す。335は無文で、胎土に石英・長石類の小礫を多く含む。336は縦位の貝殻条線文を施す。

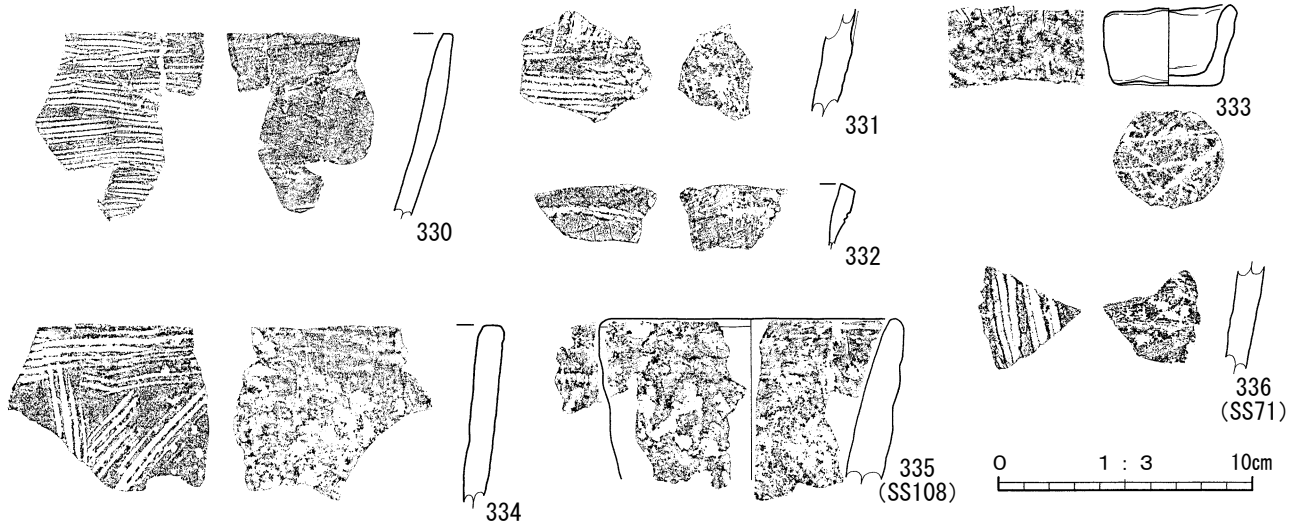




第96図 19類・20類土器



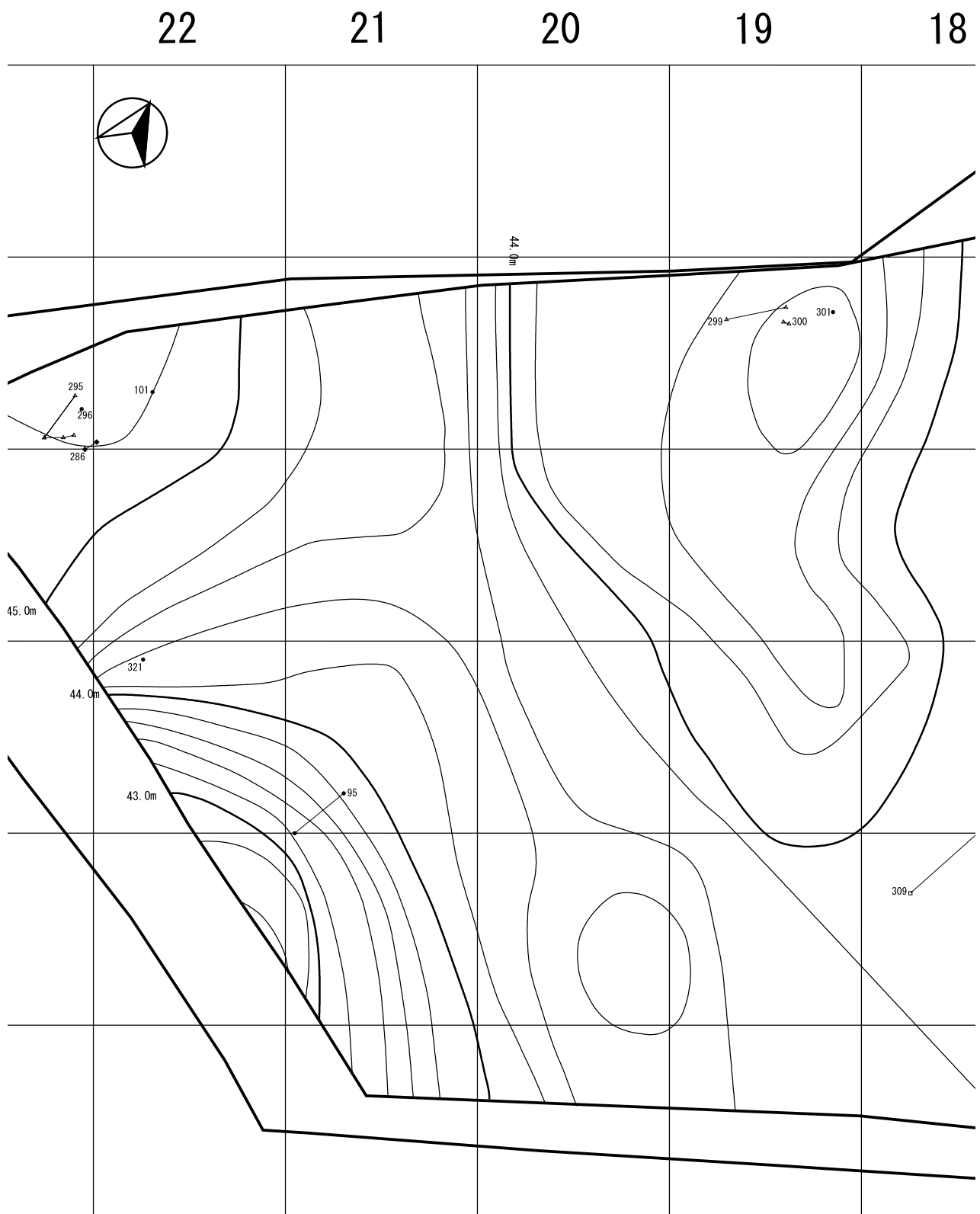
第97图 21類土器



第98図 22類土器

第14表 縄文土器観察表(1)

挿図	No.	取上番号	区	層	分類	型式	調整		色調		胎土					備考		
							外面	内面	外面	内面	石ノ長	角ノ脚	雲母	火ガ	風塵		く窿	
66	46	22091	B-14	9	1	岩本	ヨコ貝殻条痕後ナデ	ナデ	にぶい黄褐色(10YR5/3)	にぶい黄褐色(10YR5/3)	△	△	-	○	-	-		
	47	22148	C-15	9		ヨコナデ	ヨコナデ(←)	にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい橙(7.5YR6/4)	△	△	-	○	-	-	-	-	
	48	23991他1点	B-11	9		ヨコ貝殻条痕	丁寧なヨコナデ	橙(5YR6/6)	明赤褐色(5Yr5/6)	△	△	-	○	-	-	-	-	
	49	-	D-2	SS25		ヨコ・ナナメ貝殻条痕	ナデ	浅黄褐色(10YR8/4)	黄褐色(10YR8/6)	△	△	-	○	-	-	-	-	
	50	-	B-5	SS38		ヨコ貝殻条痕	ヨコナデ	にぶい黄褐色(10YR7/3)	にぶい黄褐色(10YR7/4)	△	△	-	○	-	-	-	-	
	51	39350	C-2	11b		ヨコ貝殻条痕	ナデ	橙(5YR6/6)	にぶい橙(7.5YR6/4)	△	△	-	○	-	-	-	-	
	52	-	B-3	SS27		ヨコ貝殻条痕	磨滅のため不明	黄褐色(10YR8/6)	黄褐色(10YR8/6)	△	△	-	△	-	-	-	-	
	53	19662	C-2	9		ヨコ貝殻条痕(←)	ナナメケズリ(×)	にぶい黄褐色(10YR5/3)	にぶい橙(7.5YR6/4)	△	△	-	○	△	-	-	-	
	54	9916他1点	B-3	9		ヨコ貝殻条痕	ナナメナデ(×)	橙(7.5YR7/6)	にぶい黄褐色(10YR7/4)	△	△	-	○	-	-	-	-	
	55	5016他1点	C-2	9		ヨコ貝殻条痕	ナナメケズリ(×)	にぶい黄褐色(10YR7/4)	橙(GYR6/6)	△	△	-	○	-	-	△	-	
	56	17644他1点	B-2	9		ヨコ貝殻条痕	ナナメケズリ(×)	にぶい黄褐色(10YR5/3)	橙(GYR6/6)	△	△	-	○	-	-	△	-	
	57	1130	B-3	8		ナナメ貝殻条痕	ナナメケズリ(×)	にぶい黄褐色(10YR7/4)	にぶい黄褐色(10YR7/4)	△	△	-	○	-	-	-	-	
	58	2367他1点	B-3	9		ナナメ貝殻条痕	ナナメケズリ(×)	にぶい黄褐色(10YR7/4)	にぶい黄褐色(10YR7/4)	△	△	-	○	-	-	-	-	
	58	8841他2点	C-1・2	9		胴: ナナメ貝殻条痕 底: ナデ	ナナメケズリ(×)	橙(7.5YR6/6)	橙(GYR6/6)	△	△	-	○	-	-	-	-	復元底径6.0cm
	59	16243他3点	C-2・3	9		ヨコ貝殻条痕	ナナメケズリ(×)	橙(5YR6/6)	橙(GYR6/6)	△	△	-	○	△	-	-	-	
	60	-	C-2	SS21		ヨコ貝殻条痕	タテケズリ(1)	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	△	△	-	○	-	-	-	-	
	61	37998	C-2	10		ヨコ貝殻条痕	ヨコナデ	にぶい黄褐色(10YR6/3)	橙(GYR6/6)	△	△	-	○	-	-	-	-	
	62	25176他2点	B-10・11	9		胴: ヨコ貝殻条痕 底: 丁寧なナデ	ナナメケズリ(×)	にぶい黄褐色(10YR7/4)	橙(7.5YR7/6)	△	△	-	○	-	-	-	-	復元底径8.4cm
63	1760他7点	B・C-2 D-14 E-15	8	胴: ヨコ貝殻条痕 底: ケズリ	ナナメケズリ(×)	橙(5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	△	-	-	○	-	-	△	-	復元底径12.0cm		
67	64	10920他3点	C-2	9 SS22	3	志風頭	ヨコ貝殻条痕	口: ヨコケズリ(←) 胴: タテケズリ(1)	橙(7.5YR7/6)	にぶい橙(7.5YR6/4)	△	△	-	○	-	-	復元口径8.2cm 補修孔	
	65	6762他4点	C-3・4 D-4	9		口: ヨコ貝殻条痕 胴: ヨコ・ナナメ貝殻条痕	口: ナナメケズリ(×)後ヨコミガキ 胴: タテ・ナナメケズリ(×)	にぶい黄褐色(10YR7/4)	明赤褐色(5Yr5/6)	△	△	-	○	-	-	-	復元口径17.6cm	
	66	3327他3点	C-3	9		ヨコ貝殻条痕	ナナメケズリ(×)	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	△	○	-	○	△	-	-		
	67	8696他9点	C-2~4 D-3	9		ヨコ貝殻条痕	口: ヨコケズリ(←)後ヨコミガキ 胴: タテケズリ(1)後一部ミガキ	浅黄褐色(10YR8/4)	浅黄褐色(10YR8/4)	△	○	-	○	△	-	-		
	68	31799	F-12	9		ナナメ貝殻条痕	ナナメケズリ(×)	橙(GYR6/6)	明赤褐色(5Yr5/6)	△	△	-	○	-	-	-		
	69	17267	C-4	9		ナナメ貝殻条痕	タテケズリ(1)	にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい橙(7.5YR6/4)	△	△	-	○	-	-	-		
	70	5621他10点	B-2・3 C-4 D-3・4 E-2	8		ナナメ貝殻条痕	タテケズリ(1)後ミガキ	にぶい黄褐色(10YR7/4)	橙(7.5YR7/6)	△	△	-	○	-	-	-		
	71	3749他4点	C-4	8		ナナメ貝殻条痕	タテケズリ(1)	橙(5YR6/6)	橙(GYR6/6)	△	○	-	○	-	-	-	№72と同一個体	
	72	808他6点	C-2~4 D-3	8		胴: ナナメ貝殻条痕 底: ナデ	タテケズリ(1)	橙(5YR6/6)	橙(GYR6/6)	△	○	-	○	-	-	-	復元底径13.2cm №71と同一個体	
68	73	17304他2点	C-3・4	9	ナナメ貝殻条痕	タテケズリ(1)	橙(5YR6/6)	橙(GYR6/6)	○	△	-	○	-	-	-	スス付着		
	74	680他1点	D-2・3	8・9	ナナメ貝殻条痕	タテケズリ(1)	橙(5YR6/6)	明赤褐色(2.5YR5/6)	○	△	-	○	-	-	-			
	75	10839他2点	B・C-3	9	ナナメ貝殻条痕	タテケズリ(1)後ヨコミガキ	橙(5YR6/6)	橙(GYR6/6)	○	△	-	○	-	-	-			
	76	18531	D-3	9	ナデ	口: ヨコケズリ(←) 胴: タテケズリ(1)	浅黄褐色(10YR8/4)	明黄褐色(10YR7/6)	△	△	-	○	-	-	-	補修孔		
	77	15881	B・C-3	9	口: ヨコナデ胴: ナデ	口: ヨコケズリ(←) 胴: タテ・ナナメケズリ(×)	にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい橙(7.5YR6/4)	△	△	-	○	-	-	-	復元口径16.4cm スス付着		
	78	3361他4点	C・D-3	8・9	口: ヨコナデ	口: ヨコケズリ(←) 胴: タテケズリ(1)	浅黄褐色(2.5Yr7/4)	浅黄褐色(10YR8/4)	○	△	-	△	-	-	-			
	79	6423他1点	C-3	9	胴: ナデ 底: ナデ	タテ・ナナメケズリ(×)	浅黄褐色(10YR8/4)	にぶい黄褐色(10YR7/4)	△	△	-	○	-	-	-	復元底径8.0cm		
	80	18651	C-4	9	胴: タテナデ 底: ケズリ後ミガキ	胴: タテケズリ(1) 底: ケズリ	にぶい黄褐色(10YR7/4)	にぶい黄褐色(10YR7/3)	△	△	-	○	-	-	-	復元底径8.4cm		
70	81	22932他19点	A-12 B-9~12 C-11・12 D-9・11	9	6	吉田	貝殻押引文	ヨコケズリ(←)・ナナメケズリ(×)	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	△	△	-	○	-	-	復元口径16.6cm 復元底径10.6cm	
	82	22905他2点	A-11・12 B-13	9			ヨコ貝殻押引文	丁寧なナナメナデ(ミガキ状)	にぶい黄褐色(10YR5/3)	にぶい橙(7.5YR6/4)	△	△	-	○	-	-	△	復元口径13.4cm 復元底径10.6cm
	83	22881他2点	A-10 C-9	9 SS80			ヨコ貝殻押引文	ナナメケズリ(×) 後一部ナナメミガキ	にぶい黄褐色(10YR7/4)	にぶい黄褐色(10YR6/3)	△	△	-	○	-	-	△	補修孔 №82と同一個体
	84	25536他48点	B-8 D-8~11 E-8~10 F-8~10	9			ヨコ貝殻条痕	ヨコ・ナナメナデ	にぶい黄褐色(10YR7/4)	にぶい黄褐色(10YR6/4)	△	△	-	○	-	-	-	復元口径28.0cm 復元底径14.0cm



第99图 揭載土器分布图 (1)

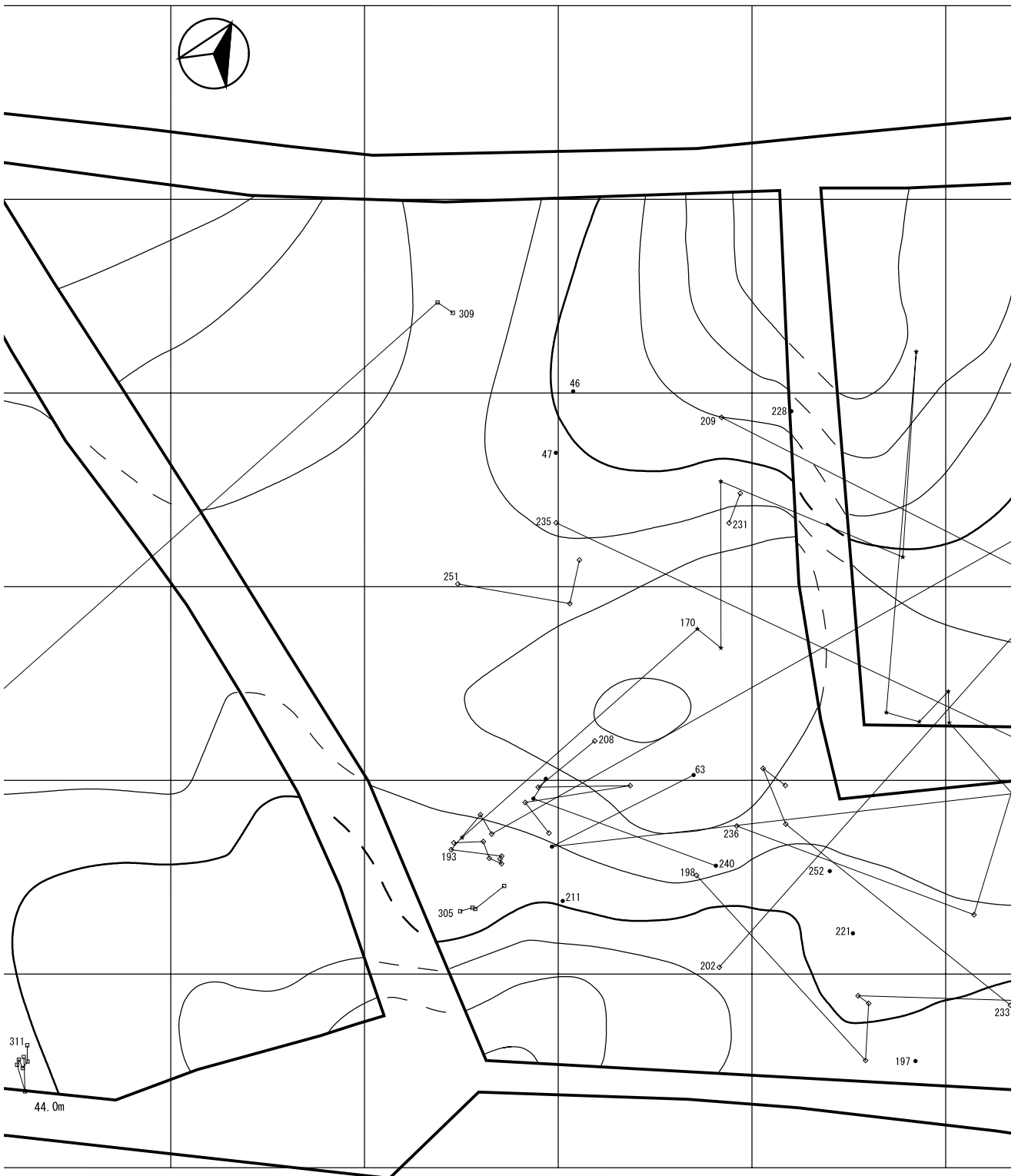
17

16

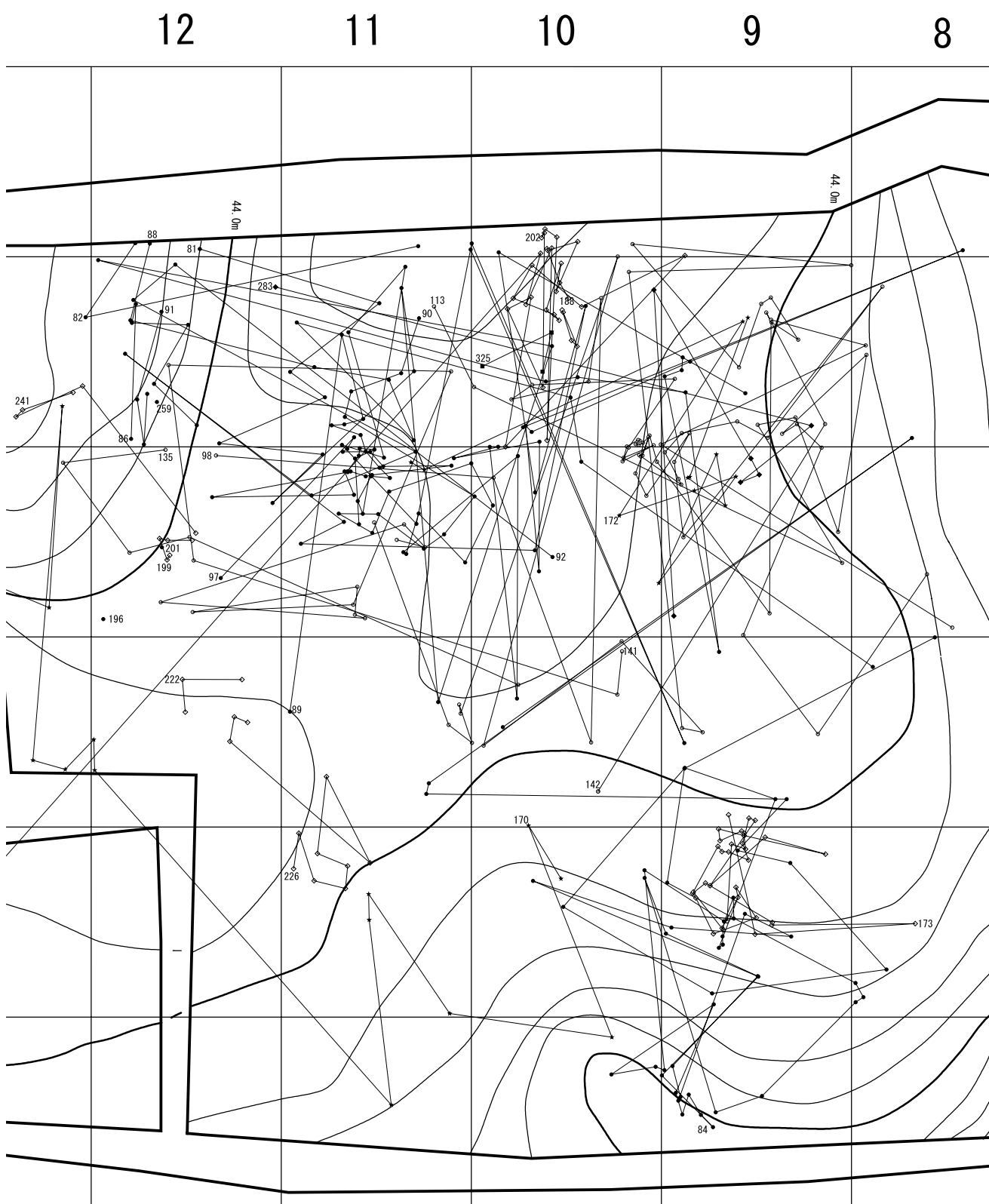
15

14

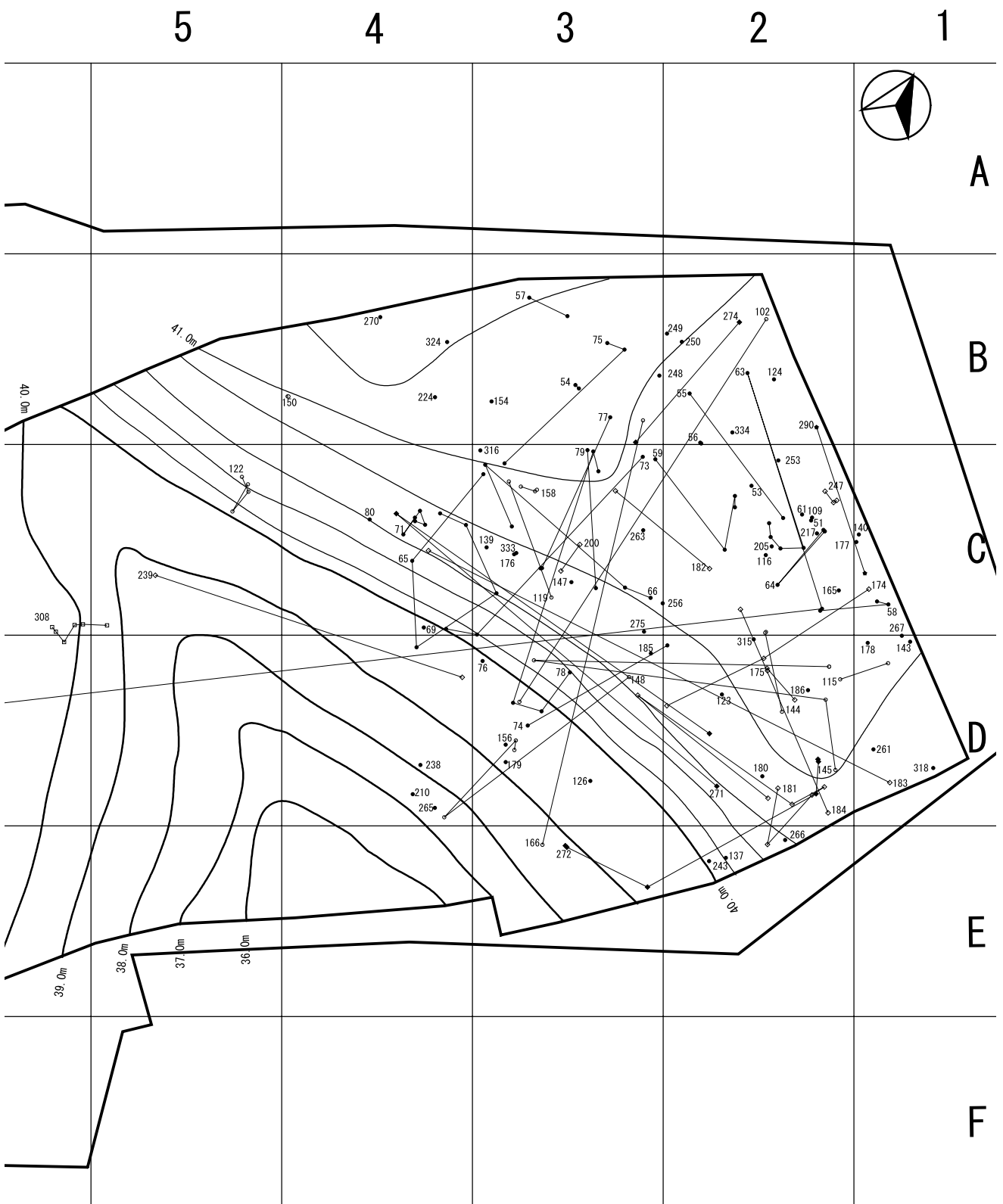
13



第100図 掲載土器分布図(2)



第101図 掲載土器分布図（3）



第103図 掲載土器分布図 (5)

第15表 縄文土器観察表(2)

挿図	No.	取上 番号	区	層	分類	型式	調整		色調		胎土						備考	
							外面	内面	外面	内面	石 ノ 長	角 ノ 輝	炭 母	火 ガ	風 稜	く 稜		
70	85	23976他1点	B-10・11	9	6	吉田	ヨコ貝殻条痕	ナデ	浅黄橙(10YR8/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	△	-	-	○	-	-	復元口径18.0cm	
	86	22855他5点	B-12	9			ヨコ貝殻押引文	ナデ	橙(5YR6/6)	灰黄褐(10YR5/2)	△	○	-	○	-	-	復元口径12.6cm 補修孔	
	87	-	B-12	SK33			貝殻押引文	ナナメナデ(△)	灰黄褐(10YR5/2)	にぶい褐(7.5YR5/3)	△	△	-	○	-	-	-	
	88	22908他8点	A-12 B-10~12 C-10 D-8	9			貝殻押引文	胴:ナナメズリ(△) 底:ナデ	橙(7.5YR7/6)	にぶい橙(7.5YR6/4)	△	△	-	○	-	-	復元底径9.0cm	
	89	22714他19点	A-10・11 B・C-11 D-9・11	9			胴:貝殻押引文 底:ナデ	口:ヨコズリ(←) 胴:タテズリ(↑)	橙(5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	△	△	-	○	-	-	復元口径17.9cm 復元底径11.8cm	
71	90	23012他30点	B-9~11 C-10・11 D-10	9	7	岩之上 段階	貝殻押引文	ヨコズリ(←)・タテズリ(↑)	橙(5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	△	△	-	○	○	-	復元底径13.4cm	
	91	22931他3点	B-12	9			胴:ヨコ貝殻押引文 底:ナデ	ナデ	橙(7.5YR6/6)	にぶい黄褐(10YR5/3)	△	△	-	○	-	-	復元底径9.0cm	
	92	22879他12点	B-9・10 B-12 C-10・11	9			ヨコ貝殻押引文	口:ヨコズリ(←) 胴:タテズリ(↑)	橙(7.5YR7/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	△	○	-	○	-	-	復元口径14.3cm 復元底径10.8cm	
	93	23955他22点	B-7・11 C-8~10 D-10・12 E-10 F-11	9			口:ナデ 胴:貝殻押引文 底:ナデ	タテズリ(↑)	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄褐(10YR5/3)	△	△	-	○	-	-	復元口径20.7cm 復元底径10.7cm	
	94	31666他1点	E-12	9			ヨコ貝殻条痕	ナナメミガキ	にぶい赤褐(5YR5/4)	褐(7.5YR4/3)	△	△	-	○	-	-	復元口径13.9cm	
72	95	40686他1点	D・E-21	9	8	札ノ元 Ⅷ期	ヨコ貝殻条痕	ヨコナデ	橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	△	△	-	○	△	-	復元口径25.0cm	
	96	21673他8点	D-11 E-8~10 F-9・10	9			ヨコ貝殻条痕	ヨコミガキ	明黄褐(10YR7/6)	明黄褐(10YR7/6)	△	○	-	○	-	-	復元口径17.0cm	
	97	22728他19点	B-11 C-11・12	9			口:ヨコ貝殻条痕後ナデ 胴:ヨコ貝殻条痕・ヨコズリ(←)	口:ヨコズリ(←)※一部ミガキ状 胴:タテズリ(↑)	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	△	○	-	○	-	-	復元口径17.2cm 復元底径11.4cm スス付着	
	98	23124他42点	B-8~10 C-8~10 C-12 D-10	9			胴:ヨコ貝殻条痕 底:ズリ	口:ヨコズリ(←) 胴:タテズリ(↑)	黄橙(10YR8/6)	明黄褐(10YR7/6)	○	-	○	△	-	-	復元口径15.7cm 復元底径10.3cm	
	99	-	D-9	SS106			ヨコ貝殻条痕	ヨコズリ(←)・タテズリ(↑)	暗灰黄(2.5Y5/2)	にぶい黄(2.5Y6/3)	△	△	-	○	-	-	スス付着	
75	100	32865	D-9	9	9	倉園B	ヨコ貝殻条痕後ナデ	ヨコナデ(←)	橙(5YR7/6)	橙(5YR6/6)	△	△	-	○	-	-	-	
	101	40140	B-22	9			ヨコ貝殻条痕	ヨコ・ナナメズリ(△)	浅黄(2.5Y7/3)	にぶい黄(2.5Y6/3)	○	△	-	○	-	-	-	
	102	18492他1点	B-2 D-3	9			ナナメ貝殻条痕	ナナメズリ(△)	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	△	△	-	○	△	-	-	
	103	28929他1点	B-9	9			ヨコ貝殻条痕	タテズリ(↑)	浅黄(2.5Y7/3)	にぶい黄橙(10YR7/4)	△	△	-	○	-	-	-	
	104	27682他1点	C-9	9			ヨコ貝殻条痕後ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	△	△	-	○	-	-	-	
	105	23185	C-11	9			ヨコ貝殻条痕	タテズリ(↑)	にぶい黄橙(10YR6/3)	灰黄(2.5Y6/2)	○	△	△	-	○	-	-	№107と同一体
	106	26132他1点	A-10	9			ヨコ貝殻条痕	タテズリ(↑)	橙(7.5YR6/6)	にぶい橙(7.5YR6/4)	△	△	-	○	-	-	-	
	107	26257他2点	D-11	9			胴:ヨコ貝殻条痕底:ナデ	タテズリ(↑)	浅黄(2.5Y7/3)	灰黄(2.5Y7/2)	○	△	△	-	○	-	-	復元底径13.6cm №105と同一体
	108	26296他1点	D-10	9			ヨコナデ	ヨコナデ	明黄褐(10YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	△	△	-	○	-	-	補修孔	
	109	37999	C-2	10			10-1	10	石坂Ⅰ	ヨコナデ	ヨコ・ナナメナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	○	-	○	△	-
110	30506	D-9	9	縹彩状貝殻条痕	ナデ	浅黄橙(10YR8/4)	橙(7.5YR7/6)			△	△	-	○	-	-	-		
111	28153他8点	B・C-9	9	縹彩状貝殻条痕	タテ・ナナメズリ(△) ※ミガキ状	橙(5YR6/6)	黒褐(2.5Y3/1)			△	△	-	○	-	-	復元口径13.4cm スス付着		
112	19549他1点	C-2	9	縹彩状貝殻条痕	口:ヨコズリ(←) 胴:ナナメズリ(△)	橙(7.5YR7/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)			△	△	-	○	-	-	復元口径14.0cm スス付着		
113	23008他12点	B-8~11 C-8・9 D-9	9	縹彩状貝殻条痕	胴:タテズリ 底:ズリ	橙(7.5YR7/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)			△	△	-	○	-	△	復元口径13.8cm 復元底径9.4cm		
114	17404他3点	D-3・4	9	縹彩状貝殻条痕	ナデ後タテズリ(↑)	橙(5YR6/6)	橙(7.5YR7/6)			○	△	-	○	△	-	復元口径21.6cm		
115	14621他1点	D-1・2	9	縹彩状貝殻条痕	ヨコ・ナナメズリ(△)	浅黄橙(10YR8/4)	にぶい黄(2.5Y6/3)			△	△	-	○	-	-	-		
116	17631	C-2	9	縹彩状貝殻条痕	口:ヨコズリ(←) 胴:タテズリ(↑)	にぶい黄橙(10YR6/4)	黒褐(10YR3/1)			△	-	-	○	△	-	-		
117	261他3点	C-1・2	8	縹彩状貝殻条痕	ナナメズリ(△)	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)			○	-	○	△	-	△	復元口径20.8cm		
118	22173	D-7	9	ナナメ貝殻条痕	口:ヨコズリ(←) 胴:タテズリ(↑)	灰黄(2.5Y6/2)	にぶい黄橙(10YR7/4)			○	△	-	○	-	-	補修孔		
76	119	6620他1点	C-3	9	10-2	石坂Ⅱ	縹彩状貝殻条痕	ヨコズリ(←)	浅黄橙(10YR8/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	△	-	○	△	-	-	スス付着	
	120	-	D-4	SS32			縹彩状貝殻条痕	タテズリ(↑)	浅黄橙(10YR8/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	△	△	-	○	△	-	-	
	121	-	B-2	SS6			縹彩状貝殻条痕	ヨコズリ(←)	明黄褐(10YR7/6)	黄灰(2.5Y4/1)	△	-	-	○	△	-	-	
	122	18202他3点	C-5	9			縹彩状貝殻条痕	口:ヨコズリ(←) 胴:タテズリ(↑)	橙(7.5YR6/6)	橙(5YR6/6)	△	△	-	○	△	-	復元口径14.4cm	
	123	14939	D-2	9			縹彩状貝殻条痕	口:ヨコズリ(←)胴:タテズリ(↑)	にぶい黄橙(10YR6/3)	橙(7.5YR6/6)	△	△	-	○	△	-	-	
	124	21286	B-2	9			ヨコ貝殻条痕	ヨコナデ(←)	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	△	-	-	○	-	-	-	
	125	-	C-2	SS22			縹彩状貝殻条痕	ヨコズリ(←)	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	△	△	-	○	-	-	-	
	126	17170	D-3	9			ナデ	ナデ	浅黄橙(10YR8/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	△	-	-	○	-	-	-	
	127	6609他12点	B・C-3・4 D-4	9			胴:縹彩状貝殻条痕・ヨコ貝殻条痕 底:ズリ	口:ヨコズリ後タテズリ(↑) 胴:タテズリ(↑)	橙(5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	△	△	-	○	△	-	復元口径17.2cm 復元底径10.6cm	
	128	一括	D-3	8			縹彩状貝殻条痕	ヨコズリ	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	△	-	-	○	-	-	-	
77	129	33052他2点	F-8~10	9	10-2	石坂Ⅱ	縹彩状貝殻条痕	ヨコズリ(←)	橙(7.5YR7/6)	にぶい黄褐(10YR5/3)	△	-	○	-	-	復元口径15.0cm		
	130	-	B-10	SS71			ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR6/3)	△	-	-	○	-	-	スス付着	
	131	27443他3点	B-10	9			ヨコ・ナナメ貝殻条痕	ヨコズリ(←)	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	△	-	-	○	-	-	復元口径19.0cm スス付着	
	132	29542	C-9	9			縹彩状貝殻条痕	ヨコズリ(←)	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	△	△	-	○	-	-	-	
	133	23913他3点	C-12 D・E-10	9			縹彩状貝殻条痕	ヨコナデ	橙(5YR7/6)	にぶい橙(7.5YR7/4)	△	△	-	○	○	-	スス付着	
	134	31353他1点	D-10	9			縹彩状貝殻条痕	ヨコナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	△	△	-	○	○	-	-	
	135	26994他4点	C-12・13 D-10	9			縹彩状貝殻条痕	口:ヨコズリ 胴:タテズリ(↑)	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい黄褐(10YR5/4)	△	△	-	○	○	-	スス付着	
	136	-	C-3	SK106			縹彩状貝殻条痕	丁寧なヨコナデ	にぶい黄(7.5YR6/4)	灰黄褐(10YR5/2)	△	-	△	-	-	-	-	
	137	19849	E-2	9			ナナメ貝殻条痕	ヨコナデ(←)	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄(2.5Y6/3)	○	-	-	○	-	-	-	
	138	23923	C-11	9			縹彩状貝殻条痕(口縁部施文後)	ナデ	明黄褐(10YR7/6)	浅黄(2.5Y7/3)	△	△	-	○	-	-	スス付着	
79	139	21424	C-3	9	10-2	石坂Ⅱ	ナナメ貝殻条痕	器面割離のため不明	にぶい橙(7.5YR7/4)	-	△	△	-	○	-	-	-	
	140	13486	C-1	8			ナナメ貝殻条痕文	タテナデ	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	△	△	-	○	-	-	-	
	141	21653他13点	C-8・10 D-8~10 E-8	9			ナデ	ヨコズリ(←)・ ナナメズリ(△)	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄(2.5Y6/3)	△	○	-	○	○	-	復元口径13.7cm	
	142	23339他21点	A-10 B-9・10 C-11 D-9~11	9			ヨコナデ	ヨコ・ナナメズリ(←)	浅黄(2.5Y7/4)	にぶい黄橙(10YR7/3)	○	△	-	○	-	△	復元口径17.6cm スス付着	
	143	16037	D-1	9			縹彩状貝殻条痕	ヨコ・ナナメナデ(←)	橙(7.5YR7/6)	にぶい黄橙(10YR6/3)	△	△	-	○	-	-	-	

第16表 縄文土器観察表(3)

挿図	No	取上 番号	区	層	分類	型式	調整		色調		胎土					備考						
							外面	内面	外面	内面	石 ノ 長	角 ノ 輝	雲 母	火 ガ	風 塵		く ろ く					
77	144	11701他2点	C・D-2	9	10	石坂Ⅱ	綾杉状貝殻条痕	ナナメナデ(ノ) ※一部ミガキ状	浅黄(2.5y7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	△	△	-	○	-	△	復元口径26.4cm スス付着					
	145	5586他4点	D-2・3	9			綾杉状貝殻条痕	タテナデ(1)	橙(7.5YR7/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	△	△	-	○	-	△	復元口径25.0cm 補修孔、スス付着					
	146	-	C-3	SK106	78	石坂Ⅱ	綾杉状貝殻条痕	タテナデ(1)	にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR7/4)	△	-	△	○	-	-	-	-				
	147	41336	C-3	9			綾杉状貝殻条痕	ナナメナズリ(ノ)	橙(7.5YR7/6)	褐灰(10YR4/1)	△	△	-	○	-	△	-	-				
	148	18475他3点	D-3・4	9			綾杉状貝殻条痕	タテナデ(1)	浅黄(2.5Y7/3)	にぶい黄(2.5Y6/3)	○	△	-	○	-	-	-	Na154と同一個体				
	149	25687他2点	B・D-10	9			綾杉状貝殻条痕	タテナデ(1)	橙(7.5YR7/6)	灰黄褐(10YR5/2)	○	△	-	○	-	-	-	-				
	150	18765他1点	B-4	9			綾杉状貝殻条痕	ナナメナズリ(ノ)	にぶい黄橙(10YR7/4)	浅黄(2.5Y7/3)	△	△	-	○	-	-	-	-				
	151	-	C-2	SK85			綾杉状貝殻条痕	タテナデ(1)	橙(7.5YR7/6)	にぶい黄(2.5Y6/3)	△	-	-	○	-	-	-	-	スス付着			
	152	27625他2点	C・D-9	9			綾杉状貝殻条痕	ヨコナデ	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	△	-	-	○	-	△	-	-				
	153	38560	F-9	9			調:綾杉状貝殻条痕 底:ケズリ	調:タテナズリ(1) 底:ナデ	明黄褐(10YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	△	-	-	○	-	-	-	-	復元底径9.1cm			
	154	15722	B-3	9			調:綾杉状貝殻条痕 底:ミガキ	調:ナナメナズリ(ノ) 底:ナデ	黄橙(10YR8/6)	灰黄(2.5Y6/2)	△	-	-	○	-	-	-	-	復元口径14.4cm Na148と同一個体			
	79	155	22178他4点	C-8・10 D-8			9	10	石坂	調:綾杉状貝殻条痕 底:ケズリ	調:ナナメナズリ(ノ) 底:ナデ	浅黄(2.5y7/4)	にぶい黄橙(10YR6/3)	△	-	-	○	-	-	-	復元底径18.0cm	
		156	19090	D-3			9			調:綾杉状貝殻条痕 底:ナデ	ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	橙(7.5YR7/6)	△	-	-	○	-	-	-	-	復元底径6.6cm
		157	38838	F-8			9			調:綾杉状貝殻条痕 底:ナデ	タテナデ	にぶい黄橙(10YR6/3)	黒褐(10YR3/1)	△	△	-	○	-	-	-	-	復元底径4.8cm
		158	3421他2点	C-3			9			調:綾杉状貝殻条痕 底:ナデ	ナデ	浅黄橙(10YR8/4)	灰黄褐(10YR5/2)	○	-	-	○	-	-	-	-	復元口径11.0cm
159		26199他6点	C・D-9	9			調:綾杉状貝殻条痕 底:丁寧なナデ			ナナメナズリ(ノ)	橙(5YR7/6)	橙(7.5YR6/6)	○	△	-	○	-	-	-	-	復元口径12.4cm	
160		22169他1点	D-7・8	9			調:綾杉状貝殻条痕 底:ナデ			タテナズリ(1)	橙(7.5YR7/6)	にぶい黄橙(10YR6/3)	△	△	-	○	-	-	-	-	復元底径15.8cm スス付着	
161		37074他4点	E-10 F-8・9	9	調:綾杉状貝殻条痕 底:ナデ	ナナメナズリ(ノ)	橙(5YR7/6)			黒褐(7.5YR3/1)	△	△	-	○	-	-	-	-	復元底径10.8cm スス付着			
162		29524	C-8	9	調:綾杉状貝殻条痕 底:ナデ	調:タテナズリ(1) 底:ナデ	橙(7.5YR7/6)			にぶい橙(7.5YR6/4)	△	-	-	○	-	-	-	-	復元口径9.4cm			
163		-	D-1	SS4	調:綾杉状貝殻条痕 底:ナデ	ケズリ	にぶい黄橙(10YR7/4)			橙(7.5YR7/6)	△	-	△	○	-	-	-	-	復元底径11.2cm			
164		-	B-4	SS11	綾杉状貝殻条痕・ヨコ貝殻条痕	ヨコナデ	橙(7.5YR7/6)			明黄褐(10YR7/6)	△	△	-	○	-	-	-	-	復元口径8.4cm			
165		13276	C-2	9	ヨコナデ	ヨコナズリ(←)	にぶい黄橙(10YR7/3)			灰黄(2.5Y6/2)	○	△	△	○	-	-	-	-	補修孔あり			
166		17551他1点	B-3 E-3	9	ヨコナデ	ナナメナズリ(ノ)	浅黄橙(10YR8/3)			浅黄橙(10YR8/3)	△	△	-	○	-	-	-	-	復元口径18.6cm			
167		24660他1点	B-10 C-11	9	ヨコナデ	ヨコナズリ(←)	橙(5YR6/6)			橙(5YR6/6)	△	△	-	○	-	△	-	-	-			
80		168	26174他9点	A-10 B-8~10	9	12	東九州系 無文			ヨコ・ナナメナデ	ヨコ・ナナメナズリ	にぶい黄橙(10YR6/4)	黒褐(10YR3/1)	○	○	-	△	-	-	-	復元口径24.2cm 補修孔、炭化物付着	
		169	26806	B-10 C-9	9					タテナデ	タテナズリ	橙(7.5YR7/6)	黒褐(10YR3/1)	○	○	-	△	-	-	-	-	
	170	21897他16点	B-13 C-13・14 D-12~14 E-11・15 D・E-10 F-10・11	9	ナデ			丁寧なナナメナデ	橙(7.5YR7/6)	橙(5YR7/6)	○	△	-	△	-	-	-	-	復元口径20.0cm 補修孔あり スス付着			
	171	28177	B-9	9	調:ナデ 底:ナデ			ナデ	浅黄橙(10YR8/4)	黄灰(2.5Y5/1)	○	△	-	△	-	-	-	-	復元底径8.0cm 外底面に白色物質付着			
81	172	23176他12点	B-9 C-9~11	9	13	中原Ⅳ	ナデ	ヨコ・ナナメミガキ	浅黄(2.5Y7/3)	浅黄(2.5Y7/3)	△	○	-	○	-	-	-	復元口径13.5~15.0cm スス付着				
	173	33059他34点	D-9 E-8・9	9			口~調:ナデ 底:ケズリ	ヨコ(←)・タテナ(1)ケズリ	浅黄橙(10YR8/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	△	△	-	○	-	-	-	-	口径18.2cm 底径11.0cm			
	174	8835他2点	C-1 D-2	9			ナデ	丁寧なナナメナデ ※平滑でミガキ状	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	○	-	○	△	-	-	-	-	復元口径14.5cm Na175と同一個体			
	175	2960他2点	D-2	9			ナデ	丁寧なナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	○	-	○	△	-	-	-	-	Na174と同一個体			
	176	21138他1点	C-3 E-9	9			ナデ	タテナズリ(1)	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄(2.5y7/4)	○	-	○	△	-	-	-	-	Na177と同一個体			
	177	5244	C-1	8			ナデ	ナナメナズリ(ノ)	浅黄(2.5Y8/4)	浅黄(2.5Y8/4)	○	-	○	△	-	-	-	-	Na176と同一個体			
	178	16906	D-1	9			ナデ	ヨコ貝殻条痕後ナナメミガキ	橙(5YR6/6)	黒褐(10YR3/1)	△	-	△	-	-	-	-	-	-			
	179	18177	D-3	9			ナデ	丁寧なナナメナデ	にぶい黄橙(7.5YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/3)	○	-	○	△	-	-	-	-	-			
	180	2846	D-2	8			ナデ	丁寧なヨコナデ	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	○	-	△	-	-	-	-	-	スス付着 補修孔(穿孔途中)あり Na181と同一個体			
	181	2813他6点	D-2・3 E-2	8・9			ナデ	ナナメナズリ(ノ) ※ミガキ状	橙(7.5YR7/6)	にぶい黄橙(10YR6/3)	○	-	△	-	-	-	-	-	スス付着 Na180と同一個体			
	182	6463他1点	C-2・3	9			ナデ	丁寧なヨコ・ナナメナデ	浅黄(2.5y7/4)	にぶい黄(2.5Y6/3)	○	△	-	○	-	-	-	-	復元口径13.6cm 補修孔 Na183と同一個体			
	183	7203他1点	C-4 D-1	8			ナデ	ナデ	浅黄橙(7.5YR8/6)	灰黄(2.5Y6/2)	○	△	-	○	-	-	-	-	Na182と同一個体			
	184	14792他1点	C・D-2	9			ナデ	丁寧なナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	橙(7.5YR6/6)	○	-	○	-	-	-	-	-	復元口径16.0cm			
	82	185	6206	D-3			8	14	下判峯 Ⅰ期	ナデ	ヨコナズリ(←) ※一部ミガキ状	灰黄(2.5Y7/2)	灰黄(2.5Y6/2)	○	△	-	△	-	-	-		
		186	20471	D-2			9			ナデ	ヨコナデ	浅黄(2.5Y8/4)	灰黄(2.5Y6/2)	△	-	-	○	-	-	-	-	-
187		21666	E-8	9	丁寧なナデ	丁寧なヨコナデ	にぶい黄橙(10YR5/3)			にぶい黄橙(7.5YR6/4)	○	-	○	△	-	-	-	-	-			
188		27386他3点	B-10	9	ナデ	タテナデ(1)	にぶい黄橙(10YR7/4)			灰黄褐(10YR5/2)	○	△	-	○	-	-	-	-	復元口径10.0cm Na189・190と同一個体			
189		25361他3点	B-10	9	ナデ	タテナデ(1)	にぶい黄橙(10YR7/4)			灰黄褐(10YR5/2)	○	△	-	○	-	-	-	-	Na188・190と同一個体			
190		27425他1点	B-10	9	調:ナデ 底:ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)			にぶい黄橙(10YR7/4)	○	△	-	○	-	-	-	-	復元底径7.4cm Na188・189と同一個体			
191		23326他2点	C-11	9	ナデ	ナデ	浅黄橙(10YR8/4)			にぶい黄橙(10YR7/4)	△	-	-	○	-	-	-	-	復元口径6.0cm			
192		29680他1点	B-9	9	ナデ	丁寧なヨコナデ(ミガキ状)	浅黄(2.5y7/4)			灰黄(2.5Y6/2)	○	-	△	△	-	-	-	-	-			
193		21851他16点	A-9 C・D-11 E-11・15	9	ナデ	ヨコナデ(←)	灰黄(2.5Y6/2)			灰黄(2.5Y6/2)	○	-	○	△	-	-	-	-	復元口径17.2cm			
194		21662他8点	D-10 E・F-7	9	ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)			暗黄(2.5Y5/2)	○	-	△	○	-	-	-	-	復元口径17.6cm			
195		29046他1点	D-10	9	ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)			灰黄褐(10YR5/2)	○	-	△	○	-	-	-	-	-			
196		22749	C-12	9	ナデ	丁寧なヨコナデ	にぶい黄(2.5Y6/4)			黄褐(2.5Y5/3)	○	-	○	△	-	-	-	-	-			
197		22505	F-13	9	ナデ	丁寧なヨコナデ(ミガキ状)	橙(5YR6/6)			にぶい黄(7.5YR5/3)	○	-	○	△	-	-	-	-	-			
198		22273他6点	E-14 F-10・11 F-13	9	ナデ	ヨコナデ	橙(5YR6/6)			褐灰(7.5YR4/1)	○	-	○	△	-	-	-	-	-			
199		22732他4点	C-12	9	ナデ	ナナメナズリ(ノ)	にぶい黄橙(10YR7/3)			暗黄(2.5Y5/2)	○	-	○	△	-	-	-	-	復元口径14.2cm 補修孔			
200	12622他1点	C-3	9	ナデ	ヨコナズリ(←)	にぶい黄(2.5Y6/4)	黄灰(2.5Y4/1)	○	-	○	△	-	-	-	-	復元口径11.0cm						
85	201	23565	C-12	9	14	下判峯 Ⅰ期	ナデ	ヨコナデ(←)	浅黄橙(10YR8/4)	灰黄褐(10YR5/2)	○	△	-	○	-	-	-					
	202	22380他26点	A-9・10 B・C-10 E-14	9			ナデ	口:ヨコナデ(←)調:ナナメナデ(ノ)	浅黄(2.5y7/4)	浅黄(2.5y7/4)	△	△	-	○	△	-	-	-	復元口径17.6cm			
	203	602他50点	C-2・3 D-2・3	8・9 SK93 SS7			調:ナデ 底:ミガキ状のナデ	丁寧なヨコ・タテナデ	橙(7.5YR7/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	△	△	-	○	△	-	-	-	復元口径24.8cm 底径12.8cm			
	204	一括	E-4	9			ナデ	ヨコナデ(←)	明黄褐(10YR7/6)	明黄褐(10YR7/6)	△	△	-	○	-	-	-	-	Na205と同一個体			
	205	5116	C-2	9			ナデ	ナナメナズリ(ノ)	浅黄(2.5y7/4)	浅黄橙(10YR8/4)	△	△	-	○	-	-	-	-	Na204と同一個体			

第17表 縄文土器観察表(4)

挿図	No.	取上 番号	区	層	分類	型式	調整		色調		胎土						備考		
							外面	内面	外面	内面	石 ノ 長	角 ノ 輝	炭 母	火 ガ	風 稜	く 窿			
85	206	36402	D-9	9	14-2	下割家 I期	ナデ	タテナデ(↑)	にぶい黄橙(10YR7/4)	灰黄(2.5Y6/2)	△	△	△	○	-	-	スス付着 補修孔		
	207	28989	C-10	9			ナデ	丁単なナデ(ミガキ状)	にぶい黄(2.5Y6/3)	灰黄(2.5Y6/2)	○	△	○	△	-	-	-	-	-
	208	21769他4点	D-14 E-14・15	9			ナデ	にぶい黄(2.5Y6/3)	にぶい黄(2.5Y6/3)	○	-	○	△	-	-	-	-	№209と同一個体	
	209	22131他9点	C-12・14 D-11・12	9			ナデ	ヨコ後タテミガキ	にぶい黄(2.5Y6/3)	にぶい黄(2.5Y6/3)	○	-	○	△	-	-	-	№208と同一個体	
	210	18591	D-4	9			ナデ	ヨコナデ(←)	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	○	△	-	○	-	-	-	-	
	211	22247	E-14	9			ナデ	丁単なヨコナデ(←)	橙(7.5YR6/6)	褐灰(10YR5/1)	○	-	△	○	-	-	-	-	
	212	24013	A-11	9			ナデ	丁単なヨコナデ	にぶい橙(7.5YR5/4)	橙(5YR6/6)	○	△	-	○	-	-	-	-	
	213	25390	A-11	9			ナデ	丁単なヨコナデ	明赤褐(5YR5/6)	明褐(7.5YR5/6)	○	△	-	○	-	-	-	-	
	214	29541	B-9	9			ナデ	ナナメケズリ(ノ)	にぶい黄橙(10YR6/3)	褐灰(10YR4/1)	○	-	○	△	-	-	-	復元口径12.9cm スス付着 №215・216と同一個体	
	215	30318	B-9	9			ナデ	ナナメケズリ(ハ)	にぶい黄橙(10YR6/3)	褐灰(10YR4/1)	○	-	○	△	-	-	-	復元口径12.9cm スス付着 №214・216と同一個体	
216	30385	B-9	9	ナデ	ナナメケズリ(ハ)	にぶい黄橙(10YR6/3)	褐灰(10YR4/1)	○	-	○	△	-	-	-	№214・215と同一個体				
217	8665	C-2	9	ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	灰黄(2.5Y6/2)	○	-	△	○	-	-	-	-				
218	6439他1点	C-3	8・9	ナデ	ヨコミガキ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい黄橙(10YR6/3)	○	-	○	△	-	-	-	復元口径17.0cm №220と同一個体				
219	-	B-2	SS6	ナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙(10YR6/3)	灰黄(2.5Y6/2)	○	-	○	△	-	-	-	-				
220	4141他1点	C-3	8・9	ナデ	ヨコミガキ	橙(7.5YR6/6)	にぶい黄橙(10YR6/4)	○	-	○	△	-	-	-	№218と同一個体				
221	22363	E-13	9	ナデ	丁単なナデ	浅黄(2.5Y8/3)	黄灰(2.5Y6/1)	△	-	-	○	-	-	-	-				
222	23625他2点	D-12	9	ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	褐灰(10YR4/1)	-	△	-	○	-	-	-	-				
223	25465他2点	D-10	9	ナデ	ナデ	橙(7.5YR7/6)	灰黄褐(10YR5/2)	○	-	△	△	-	-	-	-				
224	20927	B-4	9	ナデ	ナナメナデ	にぶい橙(7.5YR6/4)	黄灰(2.5Y6/1)	△	-	-	△	-	-	-	-				
225	24950	B-11	9	ナデ	丁単なナデ	にぶい黄(2.5Y6/3)	暗灰黄(2.5Y5/2)	○	-	○	△	-	-	-	-				
226	23707他11点	D-11・12 E-11	9	ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	褐灰(10YR4/1)	○	-	-	△	△	-	-	-				
227	-	D-12	SS61	ナデ	ナデ	浅黄(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	○	-	-	△	△	-	-	-				
228	22121	C-13	9	ナデ	ナナメナデ(ハ)	にぶい橙(7.5YR6/4)	灰黄褐(10YR5/2)	○	-	○	-	-	-	-	-				
229	-	B-4	SS11	ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	灰黄褐(10YR4/2)	△	-	-	○	-	-	-	-				
230	25354他1点	B-10	9	ナデ	丁単なナデ	にぶい橙(7.5YR6/4)	灰黄褐(10YR4/2)	○	-	-	△	-	-	-	-				
231	22070他1点	C-14	9	ナデ	タテナデ ※ミガキ状	にぶい橙(7.5YR5/3)	にぶい橙(7.5YR5/4)	○	-	○	-	△	-	-	-				
232	-	C-3	SK105	ナデ	丁単なナデ	橙(5YR6/6)	にぶい橙(7.5YR6/4)	○	-	○	-	-	-	-	-				
233	21971他3点	D・E-13 F-12	9	ナデ	丁単なタテナデ(↑) ※ミガキ状	橙(7.5YR6/6)	灰黄褐(10YR5/2)	○	-	○	△	△	-	-	補修孔 №234～237と同一個体				
234	23420他1点	C-11	9	ナデ	丁単なナナメナデ(ハ) ※ミガキ状	灰黄褐(10YR6/2)	灰黄褐(10YR5/2)	○	-	○	△	△	-	-	№233・234～237と 同一個体				
235	21740他2点	C-15 D-12 E-11	9	ナデ	ヨコミガキ	黒褐(7.5YR3/1)	黒褐(10YR3/1)	○	-	○	△	△	-	-	№233・234・236・237と 同一個体				
236	22286他3点	C-10 D-12 E-12・14	9	ナデ	丁単なタテナデ(↑)	橙(7.5YR6/6)	灰黄褐(10YR5/2)	○	-	○	△	△	-	-	№233～235・237と 同一個体				
237	23732	D・E-12	9	胴：ナデ 底：ミガキ	胴：丁単なタテナデ(↑) 底：ナデ	橙(7.5YR6/6)	灰黄褐(10YR5/2)	○	-	○	△	△	-	-	復元口径13.4cm №233～236と同一個体				
238	19131	D-4	9	ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	○	-	△	○	-	-	-	-				
239	18519他1点	C-5 D-4	9	ナデ	ナナメナデ(ハ)	浅黄橙(10YR8/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	○	-	△	○	-	-	-	-				
240	21881他2点	D-15 E-14・15	9	ナデ	ナナメケズリ(ノ)	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	△	-	-	○	-	-	-	-				
241	22734他4点	B-13 C-12	9	ナデ	丁単なヨコナデ(ミガキ状)	橙(7.5YR6/6)	にぶい橙(7.5YR5/4)	○	-	△	○	-	-	-	-				
242	23160	C-11	9	ナデ	ナデ	橙(5YR6/6)	にぶい黄橙(10YR6/4)	△	-	-	○	-	-	-	-				
243	19863	E-2	9	ナデ	丁単なナデ	橙(7.5YR7/6)	黄褐(2.5Y5/3)	△	-	△	○	-	-	-	-				
244	26895他1点	B-10	9	ナデ	丁単なヨコナデ	橙(5YR6/6)	灰褐(7.5YR4/2)	-	△	-	○	△	-	-	-				
245	26062	B-10	9	ナデ	タテケズリ(↑)	にぶい黄橙(10YR5/3)	橙(7.5YR6/6)	-	△	-	○	△	-	-	-				
246	23038	B-12	9	ナデ	ナデ	橙(5YR6/6)	灰黄褐(10YR4/2)	△	△	-	○	-	-	-	-				
247	10983他2点	C-2	9・10	ナデ	タテナデ(↑)	橙(7.5YR6/6)	橙(5YR6/6)	○	△	○	-	-	-	-	-				
248	15207	B-3	9	ナデ	ナデ	にぶい橙(7.5YR6/4)	灰黄褐(10YR4/2)	○	-	○	△	-	-	-	スス付着				
249	7673	B-2	9	胴：ナデ 底：ナデ	ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい黄(2.5Y6/3)	○	-	○	△	-	-	-	-				
250	15186	B-2	9	ナデ	丁単なタテ・ナナメナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	暗灰黄(2.5Y5/2)	○	-	○	△	-	-	-	-				
251	21721他2点	C-14・15 D-14	9	胴：ナデ 底：ナデ	胴：ナデ 底：ナデ	橙(7.5YR7/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	○	△	-	○	-	-	-	復元口径11.4cm				
252	22362	E-13	9	胴：ナデ 底：ナデ	胴：ナデ 底：ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	暗灰黄(2.5Y5/2)	△	△	-	○	-	-	-	-				
253	20639	C-2	9	胴：丁単なヨコナデ 底：ナデ	胴：ナデ 底：ナデ	にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	△	△	-	○	-	-	-	復元口径13.2cm				
254	8261他3点	C・D-2	9	胴：ナデ 底：丁単なナデ	胴：ヨコナデ 底：ナデ	橙(5YR6/6)	黄褐(2.5Y5/3)	○	-	○	-	-	-	-	復元口径15.0cm				
255	22046他1点	C-13	9	胴：ナデ 底：ナデ	胴：ナデ 底：ナデ	黄橙(10YR8/6)	浅黄(2.5Y8/4)	-	△	-	○	-	-	-	復元口径12.0cm				
256	6256	C-3	9	胴：ナデ 底：丁単なナデ	胴：ナデ 底：ナデ	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	○	△	-	○	-	-	-	復元口径12.2cm				
257	23422	C-11	9	胴：ナデ 底：ナデ	胴：ナデ 底：ナデ	にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	○	-	-	○	-	-	-	復元口径11.0cm				
258	28089	D-9	9	胴：ナデ 底：ナデ	胴：ナデ 底：ナデ	橙(7.5YR7/6)	褐灰(10YR4/1)	-	○	-	○	-	△	-	-				
259	22967	B-12	9	胴：ナデ 底：ケズリ	胴：ナデ 底：ナデ	橙(7.5YR7/6)	にぶい黄橙(10YR6/3)	△	-	-	○	-	-	-	復元口径9.4cm				
260	25001	C-10	9	胴：ナデ 底：丁単なナデ(ミガキ状)	胴：ナデ 底：ナデ	橙(7.5YR7/6)	灰黄褐(10YR6/2)	○	-	○	-	-	-	-	復元口径17.6cm				
261	9100	D-1	9	胴：ナデ 底：ナデ	胴：ナデ 底：ナデ	橙(7.5YR6/6)	にぶい橙(7.5YR6/4)	○	-	△	-	△	-	-	-				
262	22976	B-12	9	胴：ナデ 底：丁単なナデ	胴：ナデ 底：ナデ	にぶい黄(2.5Y6/3)	黄灰(2.5Y5/1)	○	△	○	-	-	-	-	-				
263	12578	C-3	9	ナデ	器面剥離のため不明	にぶい黄橙(10YR6/4)	-	○	△	△	-	-	-	-	-				
264	13167	C・D-3・4	8・9	胴：ナデ 底：ナデ	胴：ナデ 底：ナデ	橙(7.5YR7/6)	明黄橙(10YR7/6)	-	○	-	○	-	-	-	復元口径19.6cm				
265	19115	D-4	9	胴：ナデ 底：ナデ	胴：ナデ 底：ナデ	橙(5YR6/6)	にぶい橙(7.5YR6/4)	○	-	△	○	-	-	-	-				
266	17161	E-2	9	ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	浅黄(2.5Y7/3)	○	△	△	-	△	-	-	口径8.5cm				
267	14665	D-1	8	ナデ	丁単なヨコナデ	橙(7.5YR7/6)	灰黄褐(10YR6/2)	○	-	○	-	△	-	-	-				
268	10209	D-1・3	8	ナデ	丁単なヨコナデ(ミガキ状)	にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい橙(7.5YR6/4)	○	-	○	-	-	-	-	スス付着 №269・270と同一個体				
269	12563他2点	C-3	9	ナデ	丁単なナナメナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	浅黄(2.5Y7/3)	○	-	○	-	-	-	-	復元口径15.0cm №268・269と同一個体				
270	3905	B-4	9	ナデ	胴：ナデ 底：ナデ	にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR6/3)	○	-	○	-	-	-	-	復元口径15.0cm №268・269と同一個体				
271	11651他2点	C-4 D-2	8	ナデ	ヨコケズリ(←)後ヨコミガキ	橙(5YR6/6)	にぶい橙(7.5YR6/4)	△	△	-	○	-	△	-	復元口径26.6cm №272と同一個体				
272	2276他5点	D-2 E-3	8・9	ナデ	ヨコナデ(一部ミガキ状)	橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	△	△	-	○	-	△	-	スス付着 №271と同一個体				
273	12583他1点	C-3	9	ナデ	ヨコケズリ	橙(7.5YR7/6)	にぶい黄橙(10YR6/4)	△	△	-	○	-	-	-	復元口径10.8cm №274・275と同一個体				
274	1587他1点	B-2・3	8	ナデ	タテケズリ(↑)	橙(7.5YR7/6)	にぶい黄橙(10YR6/4)	△	△	-	○	-	-	-	№273・275と同一個体				
275	19375	C-3	9	胴：タテ貝殻条痕・ヨコナデ 底：ナデ	ナデ	橙(7.5YR7/6)	灰黄褐(10YR5/2)	△	△	-	○	-	-	-	復元口径5.0cm 外底面に白色物質付着 №273・274と同一個体				

第18表 縄文土器観察表(5)

挿図	№	取上 番号	区	層	分類	型式	調整		色調		胎土					備考		
							外面	内面	外面	内面	石 /長	角 /厚	雲 母	火 灰	風 稜		く 窿	
89	276	560他5点	B-4 C-3 D-2・3	8・9	15	桑ノ丸 Ⅱ期	ナデ	ヨコミガキ	橙(7.5YR6/6)	にぶい橙(7.5YR6/4)	△	△	-	○	-	-	復元口径31.0cm	
	277	5175他4点	C-2	8・9			ナデ	ヨコミガキ	にぶい橙(7.5YR6/4)	橙(7.5YR6/6)	○	-	○	△	-	-	-	復元口径30.6cm スス付着
	278	5064他6点	C-2	8・9			ナデ	口:ヨコミガキ後ナメミガキ 胴:ナメミガキ(ハ)	橙(7.5YR7/6)	にぶい橙(7.5YR6/4)	○	-	○	△	-	-	-	№279と同一個体
	279	135他3点	C-2	8・9			ナデ	器面剥離のため不明	橙(7.5YR7/6)	-	○	-	○	△	-	-	-	復元底径18.0cm №278と同一個体
	280	1797他1点	B・C-2	9			ナデ	ヨコミガキ(←) ※ケズリ状	にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい橙(7.5YR6/4)	△	△	-	○	-	-	-	№281・282と同一個体 スス付着
	281	3363他3点	D-3	8・9			ナデ	タテミガキ(1)	橙(7.5YR6/6)	暗灰黄(2.5Y4/2)	△	△	-	○	-	-	-	№280・282と同一個体
	282	3367他2点	D-3	8・9			胴:ナデ 底:丁寧なナデ	ナナメケズリ(ハ)	橙(7.5YR6/6)	にぶい橙(7.5YR6/3)	△	△	-	○	-	-	-	復元底径16.0cm 炭化物付着 №280・281と同一個体
	283	22978他6点	B-9・10 B-12 C-9	9			ナデ・ヨコミガキ	ヨコナデ(一部ミガキ状)	橙(7.5YR7/6)	灰黄褐(10YR5/2)	△	△	-	○	-	-	-	
	284	8282他2点	C-2	9			胴:ナデ・ヨコ貝殻条痕 底:条痕	ナデ	橙(5YR6/6)	にぶい赤褐(5YR5/4)	○	-	○	△	-	-	-	復元底径17.2cm
	285	23009他3点	B-11	9			胴:ナデ 底:ナデ	ヨコ・ナナメケズリ(ハ)	にぶい黄橙(10YR6/4)	洗黄橙(10YR8/4)	△	○	-	○	△	-	-	復元底径10.0cm
	286	22591他1点	B-22 C-23	9			ナデ	ヨコミガキ	橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	○	-	○	△	-	-	-	
	287	-	C-2	SS22			ナデ	タテミガキ	洗黄(2.5Y7/3)	洗黄(2.5Y7/3)	○	-	○	△	-	-	-	外面にタール付着
	288	-	D-1	SS5			ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR6/3)	灰黄褐(10YR4/2)	○	△	○	△	-	-	-	
	289	-	C-3	SS34			ナデ	ナナメナデ	橙(7.5YR6/6)	にぶい橙(7.5YR7/4)	△	△	-	○	-	-	-	
	290	8784他1点	B-2 C-1	8・9			ナデ	丁寧なヨコナデ	にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR7/4)	△	○	-	○	-	-	-	
	291	23959他6点	B-8 B-10・11	9	ナデ	ヨコミガキ(←)	橙(7.5YR7/6)	にぶい橙(7.5YR7/4)	△	△	-	○	-	△	-	復元口径28.8cm №292・293と同一個体		
	292	23996他6点	B-9~11 D-10	9	ナデ	タテミガキ(1)	にぶい黄橙(10YR6/4)	灰黄褐(10YR5/2)	△	△	-	○	-	△	-	№291・293と同一個体		
	293	25376他1点	B-10 C-9	9	ヨコナデ(←)	ナデ	橙(7.5YR7/6)	にぶい橙(7.5YR5/3)	△	△	-	○	-	△	-	№291・292と同一個体		
	294	24746	C-10	9	ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	○	-	○	△	-	-	-			
	295	22595他4点	B-23	9	ナデ	ナナメケズリ(ハ)	橙(7.5YR6/6)	橙(5YR6/6)	○	-	○	△	-	-	-			
	296	22586	B-23	9	ミガキ	ヨコミガキ	橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	○	-	○	△	-	-	-			
	297	28174	B-9	9	単節斜縄文	丁寧なナデ	にぶい橙(5YR6/4)	にぶい赤褐(5YR5/4)	△	△	-	○	-	-	-			
	298	26855	B-10	9	単節斜縄文	丁寧なヨコナデ	灰黄褐(10YR4/2)	にぶい黄褐(10YR5/3)	△	△	-	○	-	-	-			
	299	39599他1点	B-19	9	ナデ	ナデ	にぶい橙(7.5YR6/4)	黒褐(10YR3/1)	○	-	○	△	-	-	-			
	300	39605他1点	B-19	9	ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	洗黄(2.5Y7/4)	-	○	-	○	-	-	-			
	301	39596	B-19	9	胴:ナデ 底:ナデ	ナデ	橙(7.5YR7/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	△	○	-	○	-	-	-	復元底径8.4cm		
	302	2202他4点	D-1	8	ナデ	ナデ	にぶい黄(2.5Y6/3)	にぶい黄橙(10YR6/4)	○	-	○	△	-	-	-	補修孔		
	303	1589他57点	B-2・3 C-2・3 D-1	8・9	ナデ	ナデ	黄橙(10YR8/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	△	○	-	○	△	-	-	復元口径30.6cm		
	304	270他20点	C-1・2 D-1	8・9	ナデ	ナデ	にぶい橙(7.5YR6/4)	橙(7.5YR6/6)	○	-	○	△	-	-	-			
	305	22233他3点	E-15	9	ナデ	丁寧なヨコナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	橙(7.5YR7/6)	△	-	-	○	-	△	-	復元口径33.0cm		
	306	7970他1点	B-2	9	ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR6/3)	△	-	-	○	-	-	-			
	307	4405他3点	B-2	8	胴:ヨコナデ 底:ナデ	胴:ヨコナデ 底:ニビオサエ後ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	灰黄褐(10YR6/2)	△	△	-	○	-	-	-	復元底径9.6cm		
	308	18960他5点	C-5・6 D-6	9	ナデ	ヨコ・ナナメナデ(←)	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	△	△	-	○	-	-	-			
	309	21734他2点	B-15 E-18	9	口:ヨコナデ 胴:タテナデ	ヨコナデ	洗黄(2.5Y8/3)	洗黄(2.5Y7/3)	-	△	-	○	-	-	-			
	310	14099他2点	B-2	8	胴:ナデ 底:ナデ	胴:ヨコナデ 底:ナデ	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	△	△	-	○	-	-	-	復元底径12.6cm		
	311	41037他6点	F-17	9	ナデ	ニビオサエ後ナデ	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	△	△	-	○	-	-	-	復元口径4.0cm		
	312	727他14点	B-2・3 C-2・3 D-3	8・9	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	△	△	-	○	-	-	-	復元口径16.0cm		
	313	804他8点	B-2 C-3 D-2・3	8・9	ナナメ貝殻条痕後ヨコ・ナナメナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	△	△	-	○	-	-	-	復元底径12.2cm		
	314	750他9点	B-2 C-2・3	8・9	ヨコ・ナナメナデ	ヨコ工具ナデ(←)	にぶい黄橙(10YR7/4)	灰黄褐(10YR5/2)	△	△	-	○	-	-	-	復元底径9.0cm		
	315	9696	D-2	9	胴:ヨコ・ナナメミガキ 底:ミガキ	ヨコミガキ	にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	○	△	-	○	-	-	-	復元底径12.0cm		
	316	6681	C-3	9	胴:タテ・ナナメミガキ 底:ナデ	ヨコミガキ	橙(7.5YR6/6)	灰黄褐(10YR6/2)	○	○	-	△	-	-	-	復元底径13.8cm		
	317	26998	D-10	9	胴:ヨコ貝殻条痕	ナデ	橙(7.5YR7/6)	にぶい橙(7.5YR6/4)	△	△	-	○	-	-	-	復元底径8.6cm		
	318	20654	D-1	9	胴:ナナメ貝殻条痕・ヨコ貝殻条痕 底:ケズリ	胴:タテナデ底:ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄(2.5Y6/3)	△	△	-	○	-	-	-	外底面に白色物質付着		
	319	22156	D-8	9	胴:ナナメ貝殻条痕 底:丁寧なナデ	ナデ	橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	△	△	-	○	-	-	-	復元底径10.6cm		
	320	21674他1点	E-7	9	胴:ヨコナデ 底:ナデ	ニビオサエ後ナデ	洗黄橙(10YR8/4)	洗黄橙(10YR8/4)	△	○	-	○	-	-	-	復元底径10.0cm		
	321	40396	D-22	9	胴:ヨコ貝殻条痕・ナデ 底:ケズリ	ナデ	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	△	△	-	○	-	-	-	復元底径7.8cm		
	322	2854他1点	B・D-2	8	胴:縞杉状貝殻条痕・ヨコ貝殻条痕 底:ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	洗黄(2.5Y8/4)	△	△	-	○	-	-	-	復元底径12.9cm 外底面に白色物質付着		
	323	21702他1点	C-11 F-7	9	胴:ナデ 底:ナデ	ナデ	橙(7.5YR7/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	○	△	-	○	△	-	-	復元底径14.6cm		
	324	3972	B-4	9	胴:ヨコナデ 底:ナデ	ナデ	洗黄(2.5Y7/3)	洗黄(2.5Y8/3)	△	-	-	○	-	-	-	復元底径11.6cm		
	325	26661他2点	B-10	9	胴:ヨコナデ 底:ケズリ	ナデ	橙(7.5YR7/6)	灰褐(7.5YR5/2)	○	△	-	○	-	-	-	復元底径9.2cm		
	326	2446他2点	B-3	9	胴:ヨコミガキ 底:丁寧なナデ	ヨコミガキ	にぶい黄橙(10YR6/3)	黒褐(2.5Y3/1)	○	-	○	○	-	-	-	復元底径12.6cm		
	327	28152他5点	B・C・8・9	9	胴:ヨコナデ 底:ナデ	ナデ	洗黄(2.5Y7/3)	洗黄(2.5Y7/3)	○	-	○	-	-	-	-	底径13.0cm		
	328	31930他2点	E-11	9	胴:ナデ 底:ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	橙(7.5YR6/6)	○	-	○	-	-	-	-	復元底径12.4cm		
	329	-	E-14	SS56	胴:ナデ 底:ナデ	ナデ	橙(7.5YR7/6)	橙(5YR6/6)	○	-	○	-	-	-	-	復元底径11.6cm		
	330	32982他2点	E・F-10	9	ヨコ貝殻条痕	ナナメケズリ(ハ)	橙(5YR6/6)	にぶい橙(5YR6/4)	△	△	-	○	-	-	-			
	331	27887	B-10	9	ヨコ貝殻条痕	タテケズリ	橙(7.5YR7/6)	灰褐(7.5YR5/2)	△	○	-	○	-	-	-			
	332	38930	E-10	9	タテナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	黒褐(10YR3/1)	△	-	-	○	-	-	-			
	333	21587	C-3	9	胴:ニビオサエ後ナデ 底:木炭痕	ヨコナデ	黄橙(10YR8/6)	にぶい黄橙(10YR7/3)	△	△	-	○	-	-	-	口径5.3cm 底径4.3cm		
	334	27119	B-2	9	口:ヨコ貝殻条痕 胴:ナナメ貝殻条痕	タテ貝殻条痕後ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR6/4)	△	△	-	○	△	-	-	復元口径12.0cm		
	335	27648	C-10 D-9	9	ナデ	ナナメケズリ(ハ)	橙(7.5YR7/6)	にぶい橙(7.5YR6/4)	○	-	△	-	-	-	-			
	336	-	B-10	SS71	貝殻条痕	ヨコケズリ	黒褐(10YR3/1)	にぶい黄橙(10YR7/4)	△	△	-	○	-	-	-			

4 石器

縄文時代早期に属する石器は9層を中心に約1600点出土した。剥片石器は138点確認し、その中で石鏃がほとんどを占める。礫石器は154点確認し、磨石・敲石類がそのほとんどを占める。使用される石材は、剥片石器の場合はチャートがその半数以上を占め、次いで黒曜石1類である。礫石器の場合は砂岩と頁岩が多い。

分布状況について、16区以西にはほとんど認められない一方で、13区以東に多く、特に1～3区の第1エリアと呼称した緩やかな平坦地に偏り、4ヶ所の石器集中部も確認できる。また、調査区中央付近のE・F-11区、E・F-13区、D-13区、D-14区にも石器集中部が確認される。

1～3区の石器集中部について、D-1区の石器集中部はチャートと黒曜石4類で構成されており、これ以外の3ヶ所の石器集中部はほぼチャートのみで構成される。D-13区とD-14区の石器集中部もチャートのみで構成される。E・F-11区はチャートと玻璃質安山岩、黒曜石2類で、E・F-12区はチャートと頁岩、黒曜石5類で構成される。

石器はこれらの集中部に密集するというのではなく、比較的緩慢に分布しており、有意義な分布状況を示していない。ただし、トトロ石器が第1エリアに偏る傾向はある。以下、器種毎に報告を行う。

石鏃 (第110～113図 337～392)

平面形態などから、6類及び欠損品と未製品に大別した。107点確認した。

I類

全体形状が正三角形(長幅比=1.3:1未満)を呈するものである。基部の抉りの有無により2類に細分した。

I a類 (337～341)

基部に抉りがないもの。9点確認し、5点図示した。

I b類 (342～345)

基部に抉りがあるもの。8点確認し、5点図示した。

II類

全体形状が二等辺三角形(長幅比=1.3:1以上)を呈するものである。基部の抉りの有無や刃部形状により3つに細分した。

II a類 (346～348)

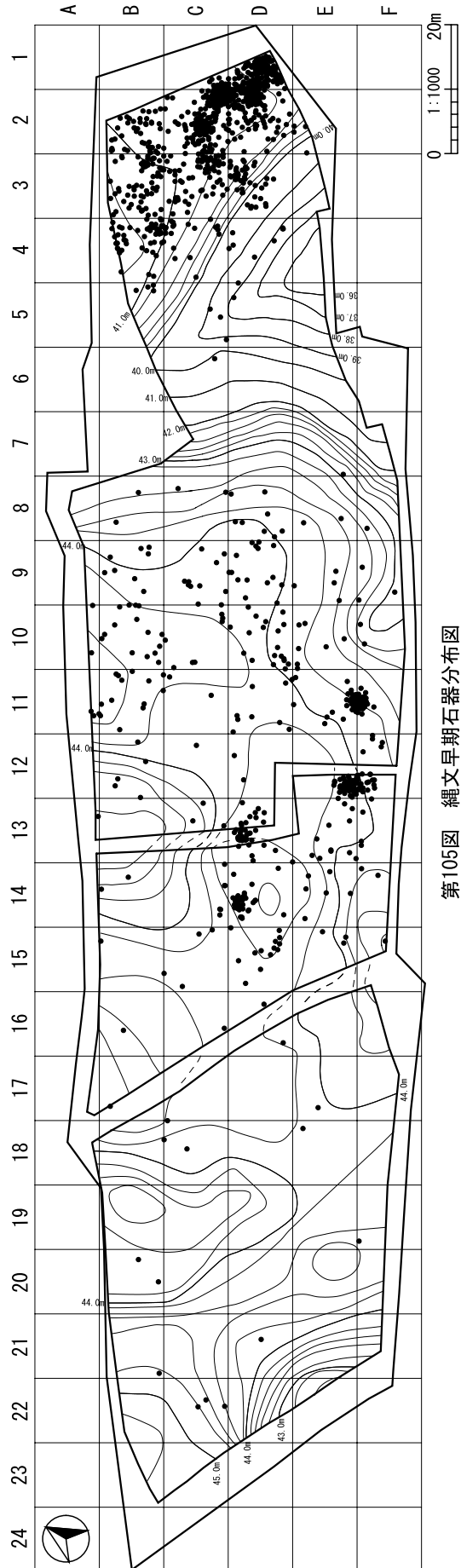
基部に抉りがあるもの。6点確認し、2点図示した。

II b類 (349～351)

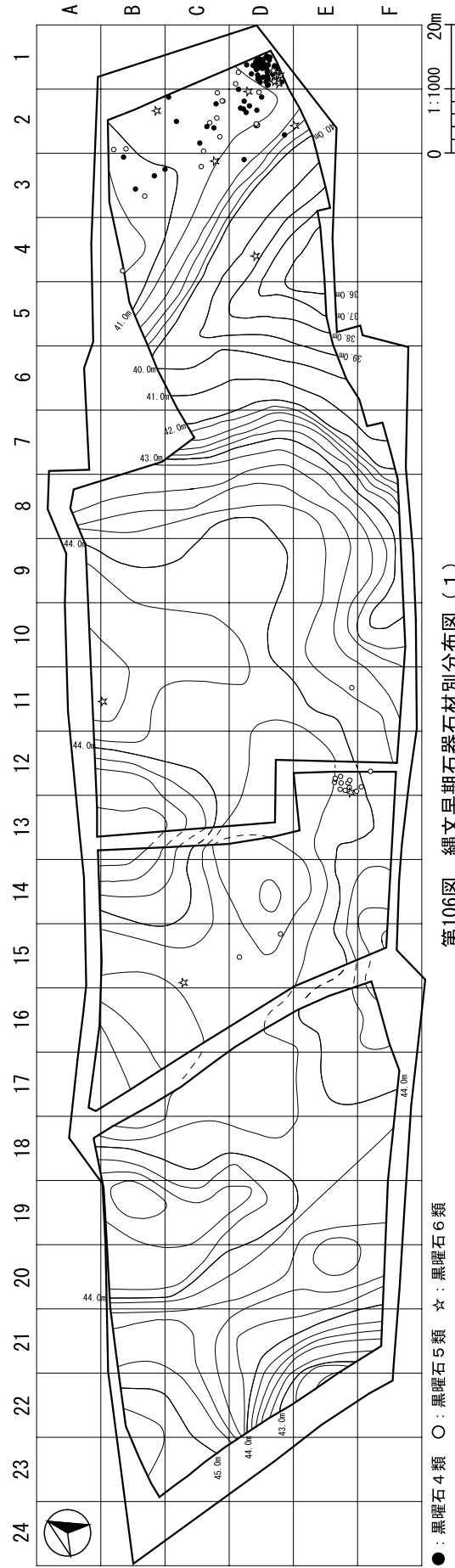
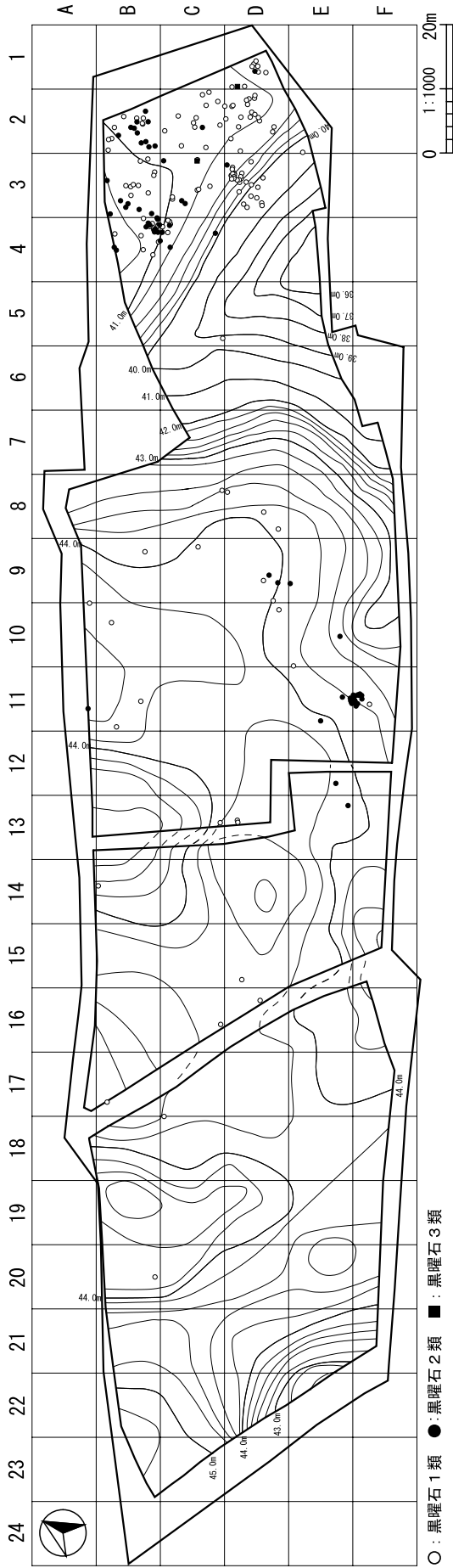
基部に抉りがあり、刃部が鋸歯状のもの。5点確認し、3点図示した。確認した全てがチャートを素材とする。351は背面に主要剥離面を残す。

II c類 (352・353)

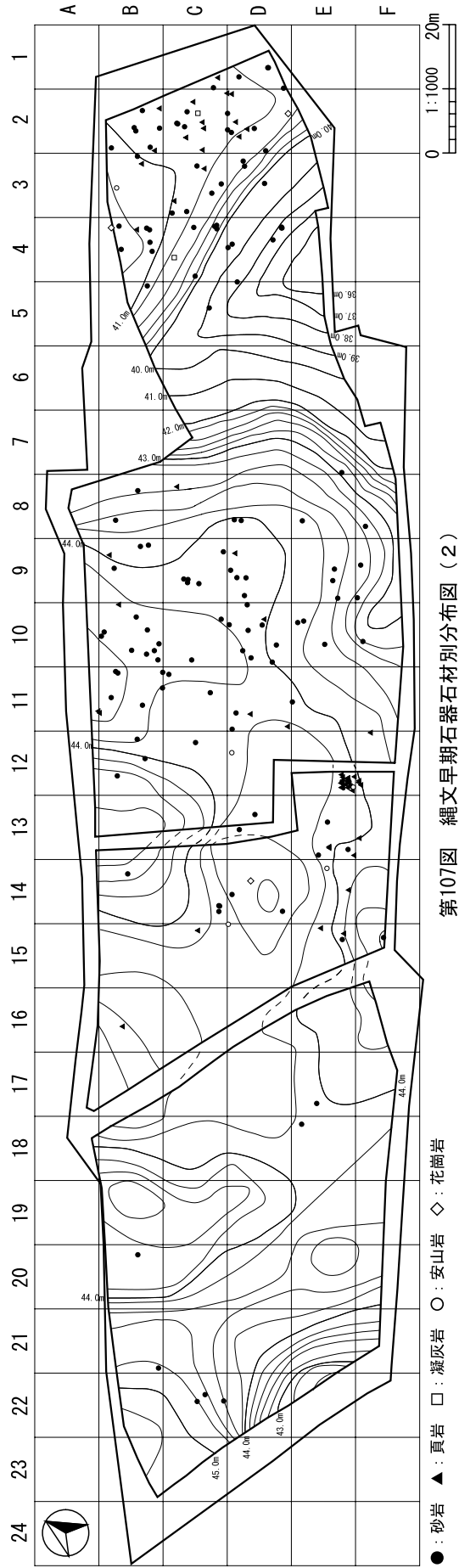
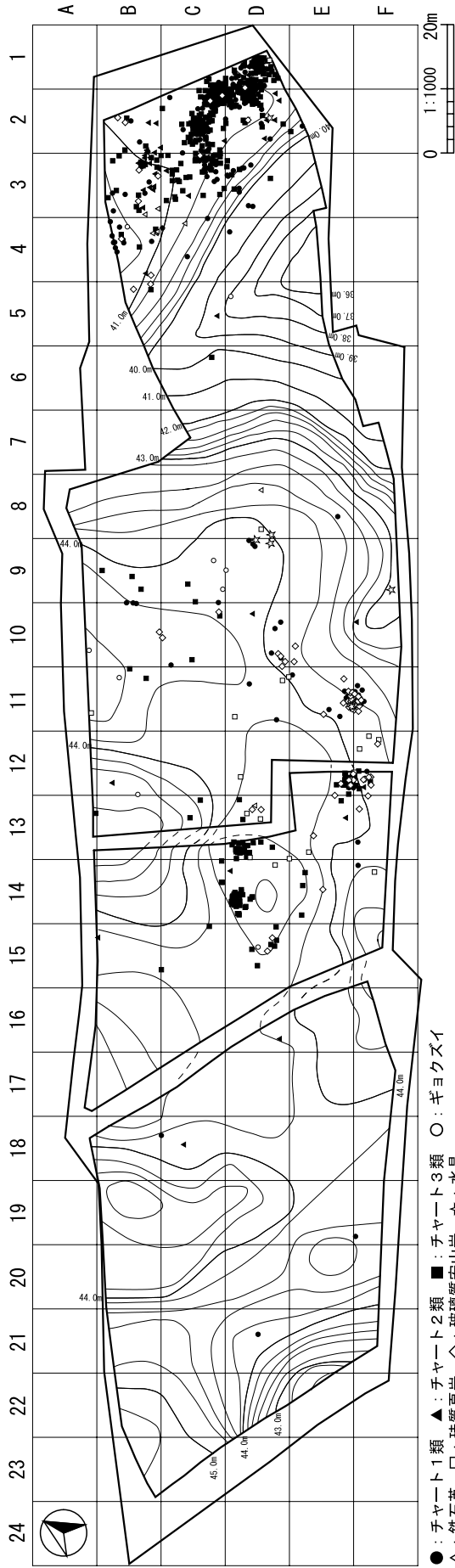
基部に抉りがないもの。2点確認し、全て図示した。



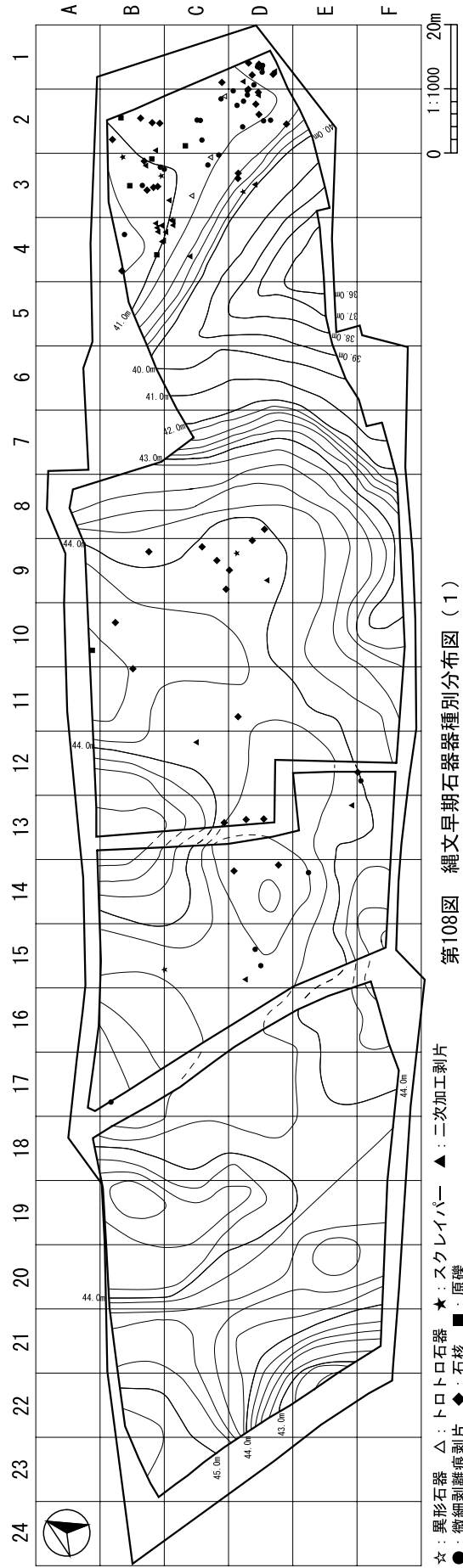
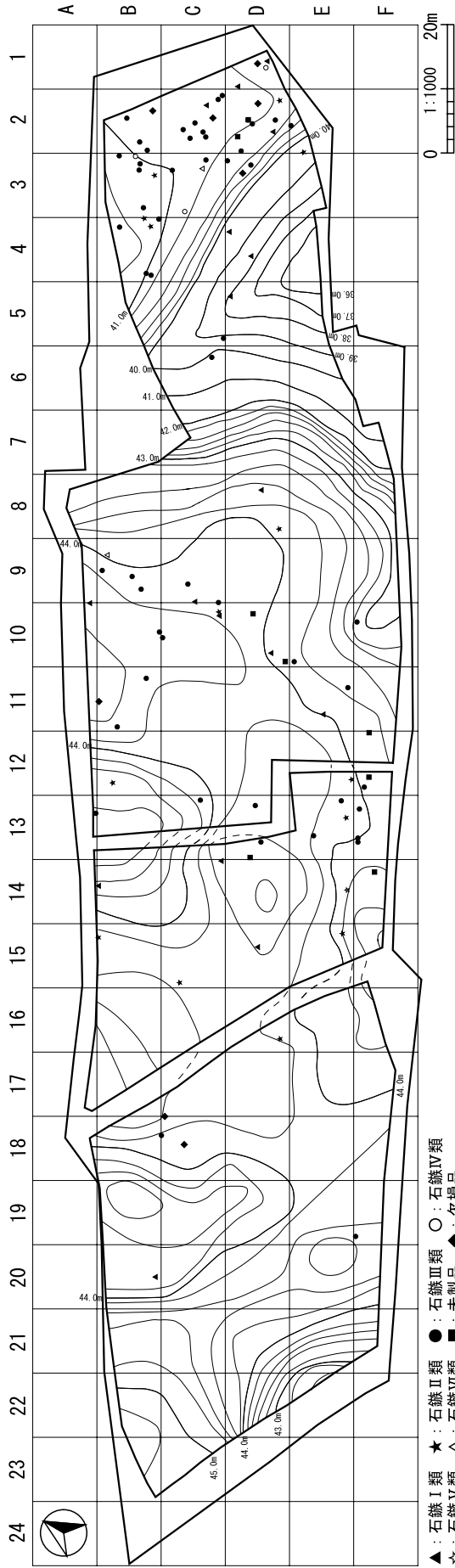
第105図 縄文早期石器分布図



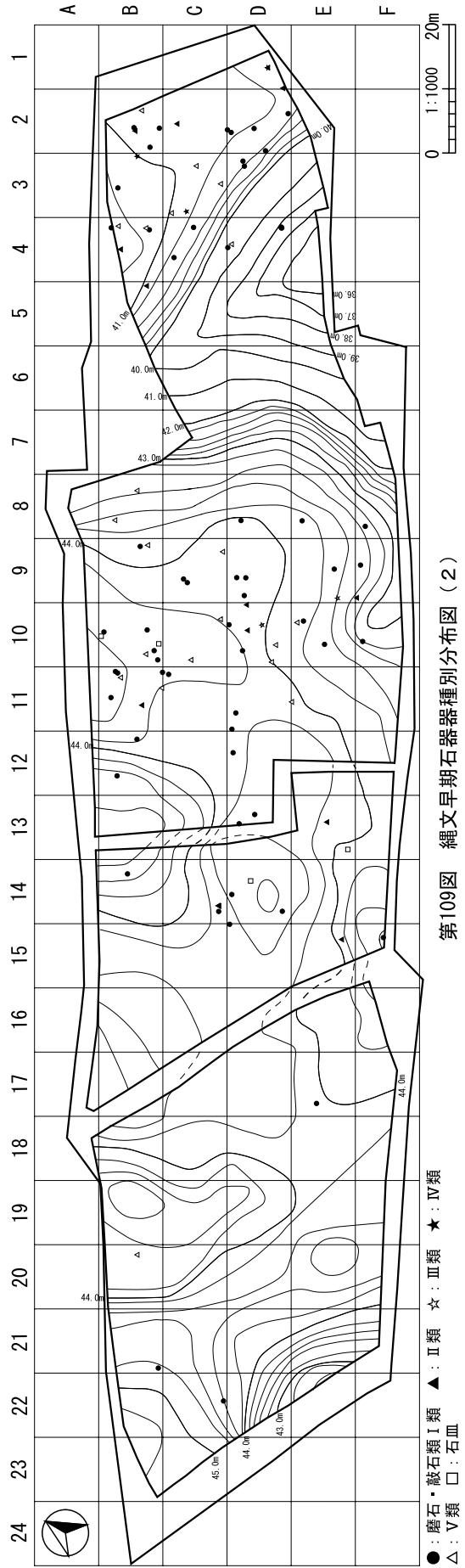
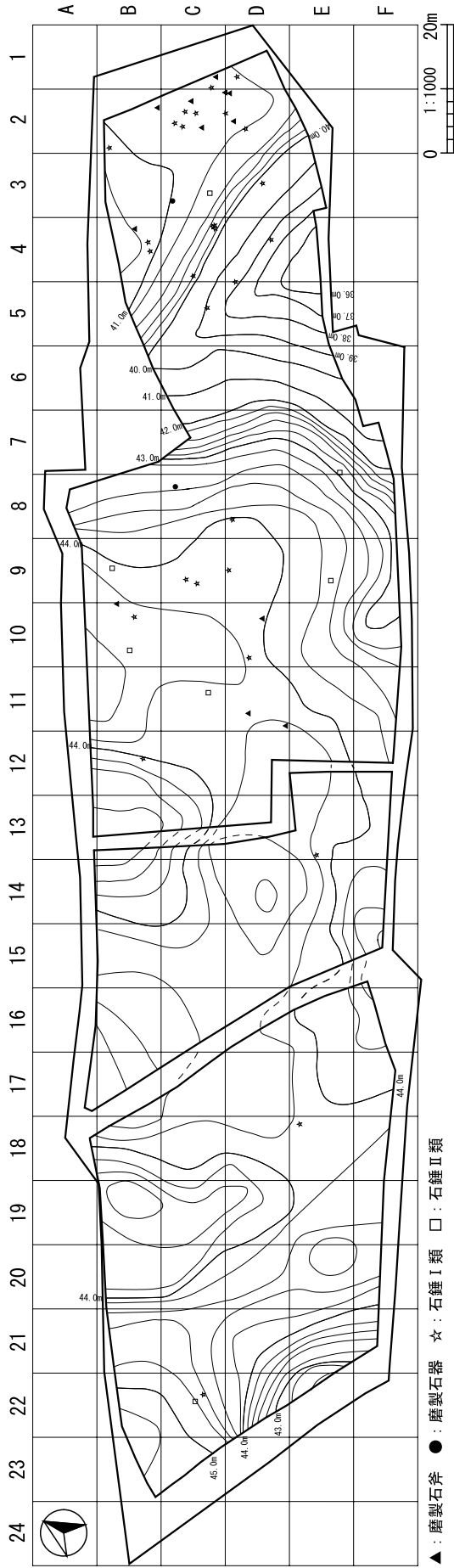
第106図 縄文早期石器石材別分布図（1）



第107図 縄文早期石器石材別分布図(2)



第108図 縄文早期石器器種別分布図(1)



第109図 縄文早期石器器種別分布図(2)

Ⅲ類

基部に深い抉りがあり、明確に脚部が作出されるものである。脚部形態や刃部形態から4つに細分した。

Ⅲa類 (354~368)

脚端部が尖るもの。33点確認し(うち、遺構内出土1点)、14点図示した。チャートを素材とするものが大半を占める。355・356は二次加工が周縁の一部にとどまった、いわゆる剥片鏃である。

Ⅲb類 (369~374)

脚端部が平らなもの。9点確認し、6点図示した。チャートを素材とするものがほとんどである。比較的大型である。369は欠損していた脚部が接合している。

Ⅲc類 (375~378)

刃部が鋸歯状のもの。5点確認し、4点図示した。

Ⅲd類 (379~383)

脚部が全長の約1/2を占めるほど抉りが深いもの。8点確認し、4点図示した。チャートを素材とするものがほとんどである。

Ⅳ類 (384・385)

最大幅が胴部中央よりやや下位にみられるもの。2点確認し、全て図示した。ギョクズイを素材とする。最大幅部が緩やかな弧状を呈するもの(384)と最大幅部が強く張り出すもの(385)である。

Ⅴ類 (386・387)

側縁部の剥離を残す局部磨製石鏃である。2点確認し、全て図示した。頁岩を素材とする。全体形状が二等辺三角形形状を呈し、抉りがあるものとなないものがある。

Ⅵ類 (388)

磨製石鏃である。2点確認し、1点図示した。全体形状が二等辺三角形形状を呈し、抉りはない。

欠損品

破損のため、上記の分類に含めることができないものである。8点確認した。先端部だけのものや脚部が破損したものがある。

未製品 (389~392)

打製石鏃の未製品と考えられるものである。8点確認し、4点図示した。389は先端部がノッチ状の加工にも見えることから、石錐の可能性もある。

トロトロ石器 (第113図 393~395)

3点確認し、全て図示した。青灰色を呈するチャート2類を素材とする。393・395は剥離の磨滅が認められる。394は剥離の磨滅が明確に確認できないものの、石材や形態からトロトロ石器と判断した。

異形石器 (第113図 396)

1点確認した。黒色半透明のチャート3類を素材とする。

スクレイパー (第113図 397・398)

4点確認し、2点図示した。397は厚手の縦長剥片を

素材としており、側縁に剥離を行って刃部としている。398は両側縁に鋭角な剥離を行って刃部としている。

二次加工剥片 (第113図 399~401)

剥片の一部に二次加工が認められるが、器種認定が困難なものである。25点確認し、3点図示した。

399は抉りが作出されている。400は周縁に細かい加工が認められる。401は厚みのある大型の縦長剥片の周縁に加工が認められる。

石核 (第114図 402~408)

37点確認し、7点図示した。402は剥片素材で、極限まで剥離が行われている。403は平坦な先行剥離面を打面として、剥離が行われている。404~407は打面転移を繰り返し、ほぼ極限まで剥離が行われている。408は背面に自然面を残しており、平坦な先行剥離面を打面として、剥離が行われている。

微細剥離痕剥片 (第115図 409~410)

剥片の縁辺に微細な剥離痕が認められるものである。27点確認し、2点図示した。

剥片 (第115図 411~413)

約1,300点の剥片が認められた。この中から代表的なものを3点図示した。

磨製石斧 (第115図 414~419)

12点確認し、6点図示した。

414は刃部と基部を破損後に加工を行っている。415は刃部の幅が狭いもので、両側縁には装着痕と考えられる潰れが認められる。416は右側面に潰れが認められる。418は両側面に潰れが認められる。419は小型の礫を素材とし、成形剥離を施さず、研磨により刃部を形成している。しかし、刃部は鋭利ではないため、未製品の可能性もある。

磨製石器 (第115図 420)

全体に研磨を施すが、器種の特定が困難なものである。1点確認した。

石錘 (第116図 421~442)

製作技法により、2つに分類した。ほとんどが砂岩を素材とする。

I類 (421~439)

礫の短軸上の両端に打ち欠きによる抉りを作成するもの。いわゆる「短軸打欠石錘」である。33点確認し(うち、遺構内出土2点)、19点図示した。

断面肉厚の円礫を素材とするものは少なく(428・429・430・436)、平面形態が不定形の礫を素材とするものがほとんどである。被熱礫を利用したもの(432・437)や被熱破砕礫を利用したもの(425・435・438)もある。

正面または背面いずれかに打ち欠きを行うもの(421・423・431・437・439)や4ヶ所に打ち欠きを行うもの(438)もある。また、424・429・430・434・439は上下端に敲打による潰しが認められる。

Ⅱ類 (440~442)

礫の長軸上の両端に打ち欠きによる抉りを作成するもの。敲石と類似しており、上下端が凹むものを石錘として扱った。

440・441は上下端に打ち欠きと潰しが認められる。442は上下端に打ち欠きが確認できず、正面と背面にあばた状の剥離が筋状に残る。

磨石・敲石類 (第117~119図 443~472)

磨面や敲打痕が認められるものを一括して扱い、使用痕から5類に大別した。なお、図面のドットの白抜きが磨面を表している。

I類 (443~457)

正・背面に磨面が認められるもの。いわゆる「磨石」である。70点確認し(うち、遺構内出土10点)、15点図示した。硬質な砂岩の円礫を素材とするものがほとんどで、447のみ花崗岩である。446・447は一部赤化している。

Ⅱ類 (458~463)

正・背面に磨面が、周縁に敲打痕が認められるもの。いわゆる「磨石・敲石」である。15点確認し(うち、遺構内出土1点)、6点図示した。I類に比べると、磨りが顕著である。460・462・463は稜線が認められるほど、顕著な磨面をもつ。462は磨面が左斜上方から右斜下方に広がり、上下端の敲打が著しい。

Ⅲ類 (464)

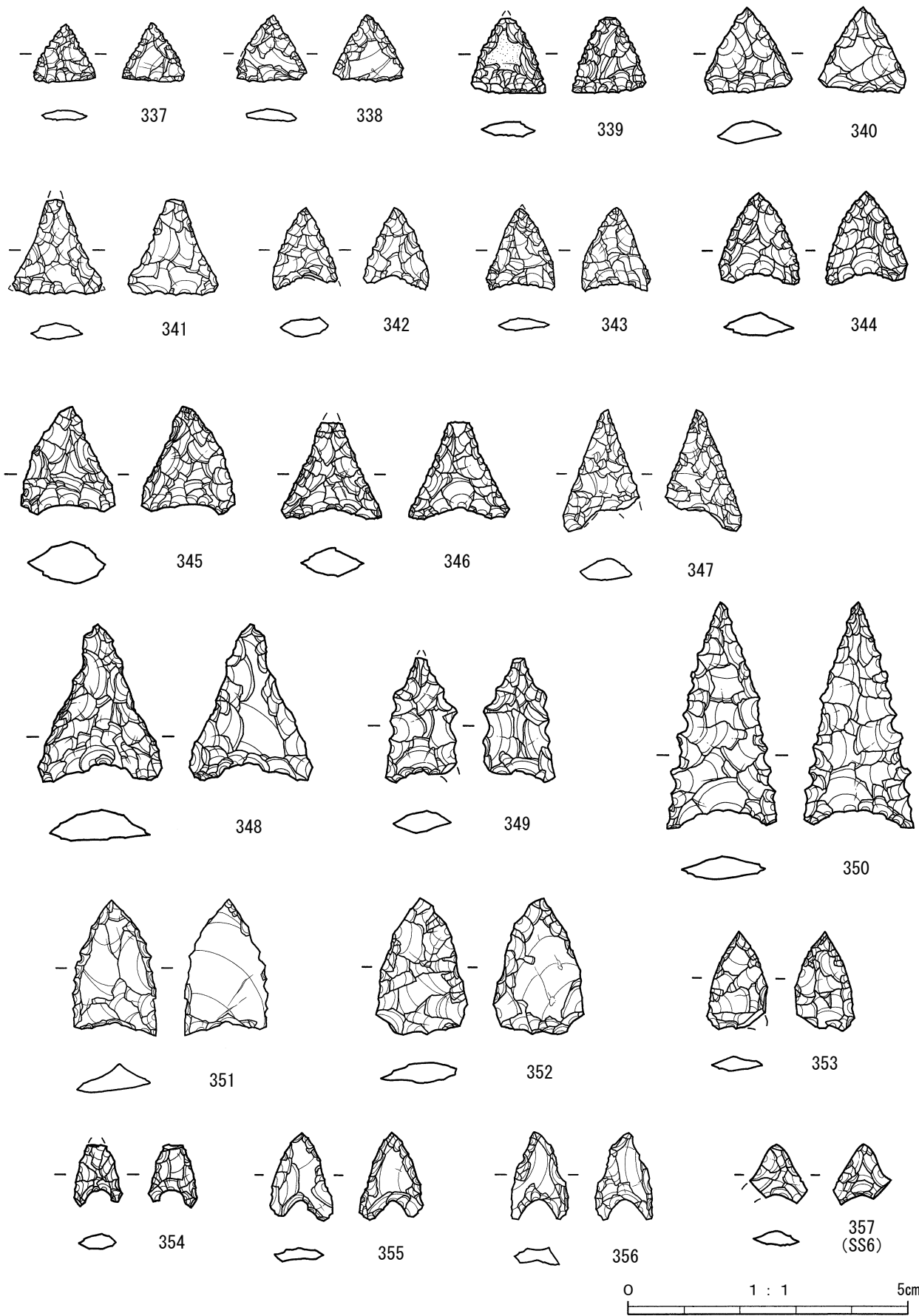
正・背面に磨面と凹みが、周縁に敲打痕が認められるもの。2点確認し、1点図示した。464は稜線が認められるほど、顕著な磨面をもつ。磨面は左斜上方から右斜下方に広がる。

Ⅳ類 (465・466)

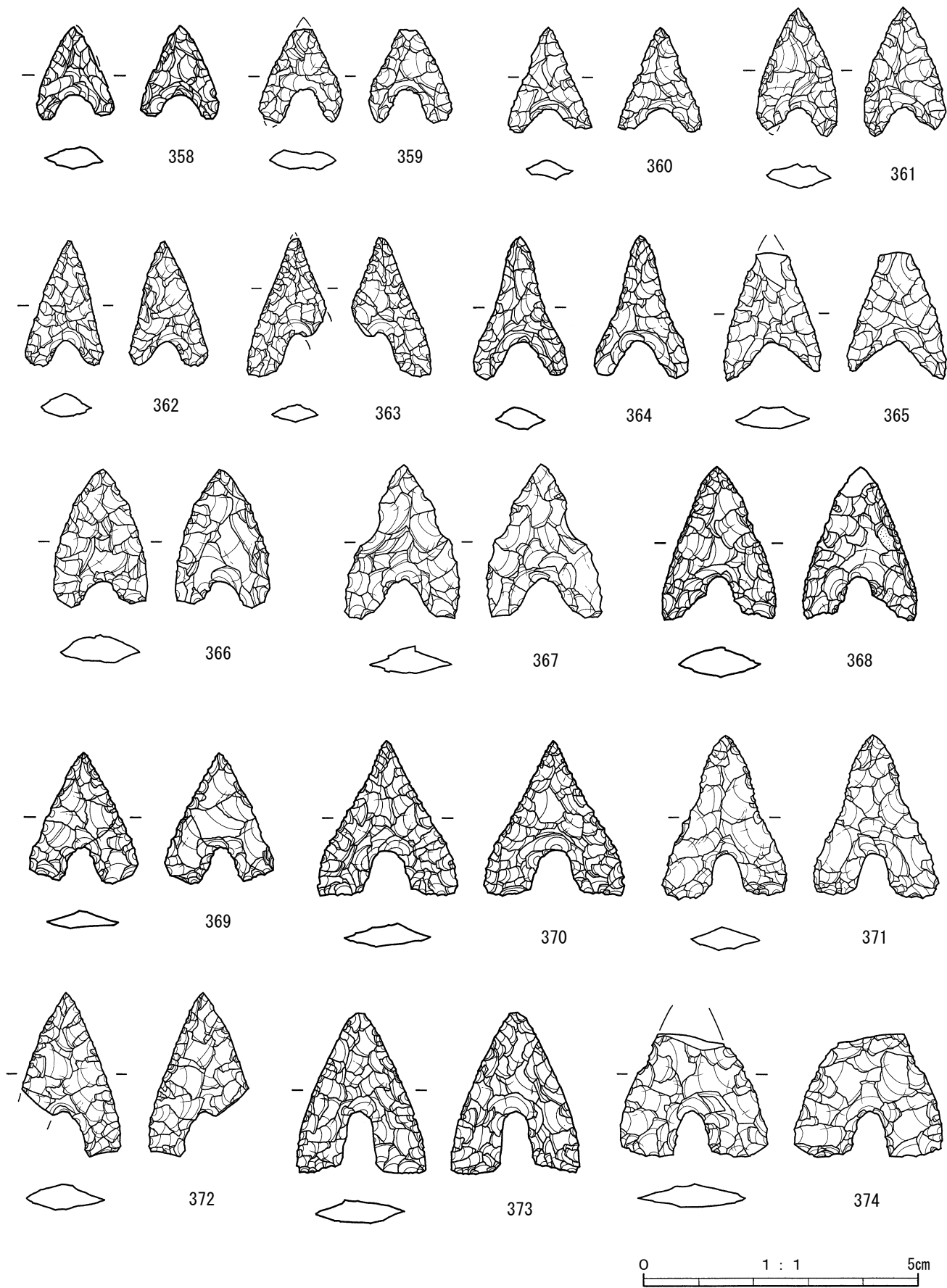
正・背面に凹みをもつもの。磨面をもつものもある。5点確認し(うち、遺構内出土1点)、2点図示した。466は上・下・左側面に敲打痕がわずかに認められる。

第19表 縄文石器観察表(1)

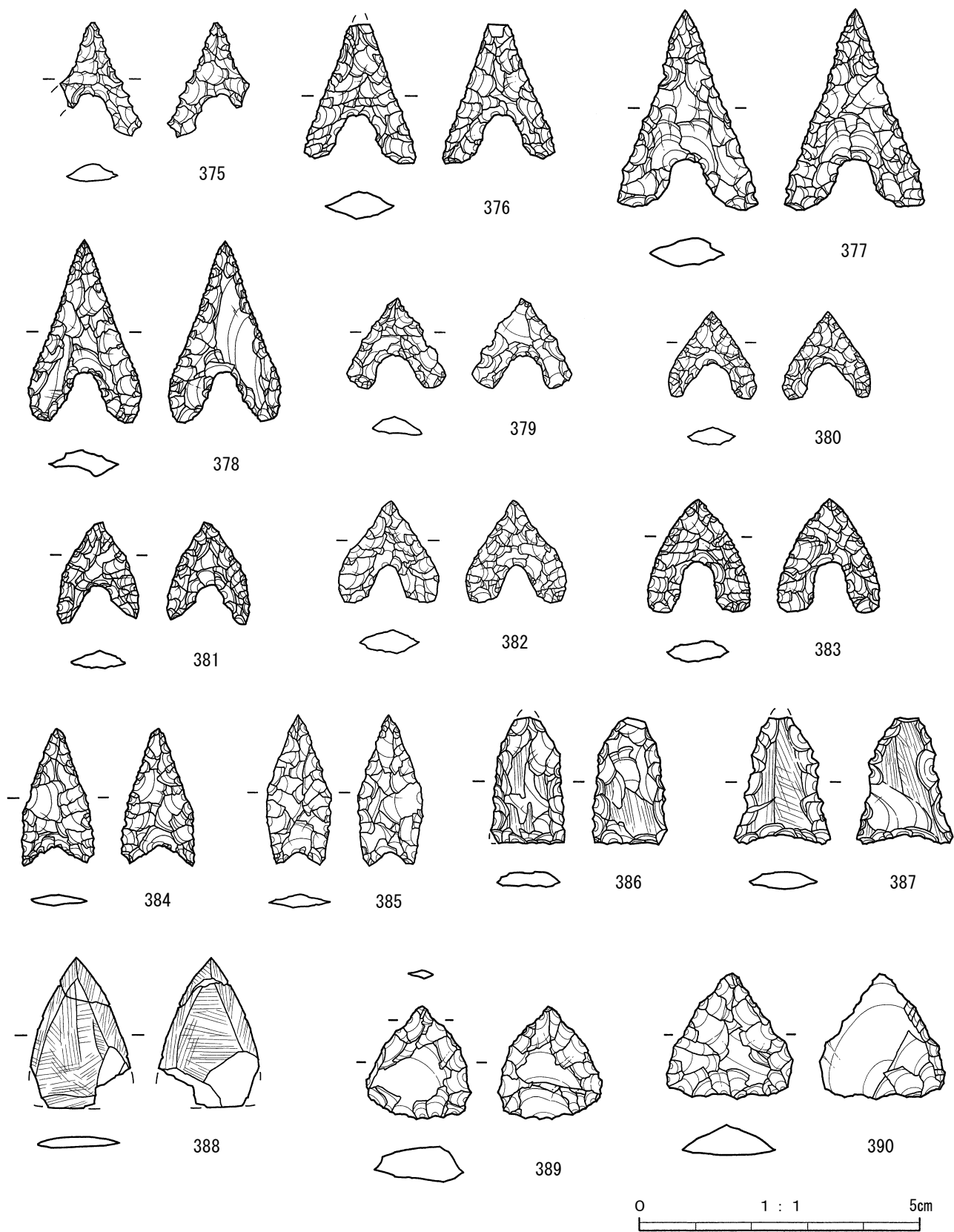
挿図	報告No.	取上No.	区	層	器種	分類	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)
110	337	14795	D-2	9	打製石鏃	I a	黒曜石1類	1	1.1	0.18	0.17
	338	20449	D-1	9	打製石鏃	I a	黒曜石3類	1.15	1.25	0.22	0.26
	339	31431	A-10	9	打製石鏃	I a	黒曜石1類	1.33	1.3	0.32	0.45
	340	31960	E-11	9	打製石鏃	I a	玻璃質安山岩	1.52	1.55	0.5	0.89
	341	19237	D-5	9	打製石鏃	I a	ギョクズイ	1.68	1.6	0.3	0.71
	342	19173	D-4	9	打製石鏃	I b	黒曜石6類	1.5	1.15	0.35	0.44
	343	21783	D-4	9	打製石鏃	I b	チャート1類	1.4	1.2	0.22	0.31
	344	21718	D-15	9	打製石鏃	I b	ギョクズイ	1.63	1.42	0.45	0.72
	345	35655	D-10	9	打製石鏃	I b	チャート1類	1.9	1.65	0.75	1.62
	346	22159	D-8	9	打製石鏃	I b	鉄石英	1.72	1.78	0.52	0.97
	347	16985	E-2	9	打製石鏃	Ⅱa	黒曜石1類	2.15	1.35	0.4	0.76
	348	22556	E-12	9	打製石鏃	Ⅱa	珪質頁岩	2.8	2.2	0.55	2.25
	349	22497	E-13	9	打製石鏃	Ⅱb	チャート2類	2.22	1.27	0.45	1.08
	350	22098	B-15	9	打製石鏃	Ⅱb	チャート2類	4.03	1.95	0.5	2.68
	351	9303	D-2	9	打製石鏃	Ⅱb	チャート2類	2.4	1.5	0.53	1.73
	352	7945	B-3	9	打製石鏃	Ⅱc	黒曜石1類	2.42	1.6	0.35	1.25
	353	37021	D-8	9	打製石鏃	Ⅱc	黒曜石1類	1.73	1.06	0.23	0.41
	354	32466	E-11	9	打製石鏃	Ⅲa	黒曜石5類	1.1	0.85	0.28	0.2
	355	21925	D-13	9	打製石鏃	Ⅲa	チャート3類	1.54	1.12	0.25	0.33
	356	3486	C-3	9	打製石鏃	Ⅲa	チャート3類	1.55	1	0.3	0.46
357	-	B-2	SS6	打製石鏃	Ⅲa	チャート2類	1.03	1.01	0.26	0.21	
111	358	27540	C-10	9	打製石鏃	Ⅲa	玻璃質安山岩	1.7	1.4	0.4	0.63
	359	7522	B-4	9	打製石鏃	Ⅲa	玻璃質安山岩	1.7	1.5	0.35	0.71
	360	1402	B-2	8	打製石鏃	Ⅲa	チャート1類	1.9	1.5	0.35	0.66
	361	15811	D-2	9	打製石鏃	Ⅲa	玻璃質安山岩	2.3	1.45	0.45	1.19
	362	17101	D-3	9	打製石鏃	Ⅲa	チャート1類	2.25	1.4	0.42	0.94
	363	19216	C-6	9	打製石鏃	Ⅲa	チャート3類	2.5	1.4	0.32	0.93
	364	22308	F-13	9	打製石鏃	Ⅲa	頁岩	2.58	1.7	0.47	1.07
	365	584	E-2	8	打製石鏃	Ⅲa	黒曜石6類	2.3	1.75	0.4	1.04
	366	4915	C-2	8	打製石鏃	Ⅲa	玻璃質安山岩	2.5	1.75	0.5	1.73
	367	3496	D-2	8	打製石鏃	Ⅲa	チャート2類	2.8	2.1	0.5	1.91
	368	30520	B-10	9	打製石鏃	Ⅲa	玻璃質安山岩	2.75	2.07	0.55	1.99
	369	17621他1点	C-2	9	打製石鏃	Ⅲb	チャート1類	2.37	1.97	0.35	1.07
	370	40700	F-19	9	打製石鏃	Ⅲb	チャート1類	2.8	2.55	0.45	2.14



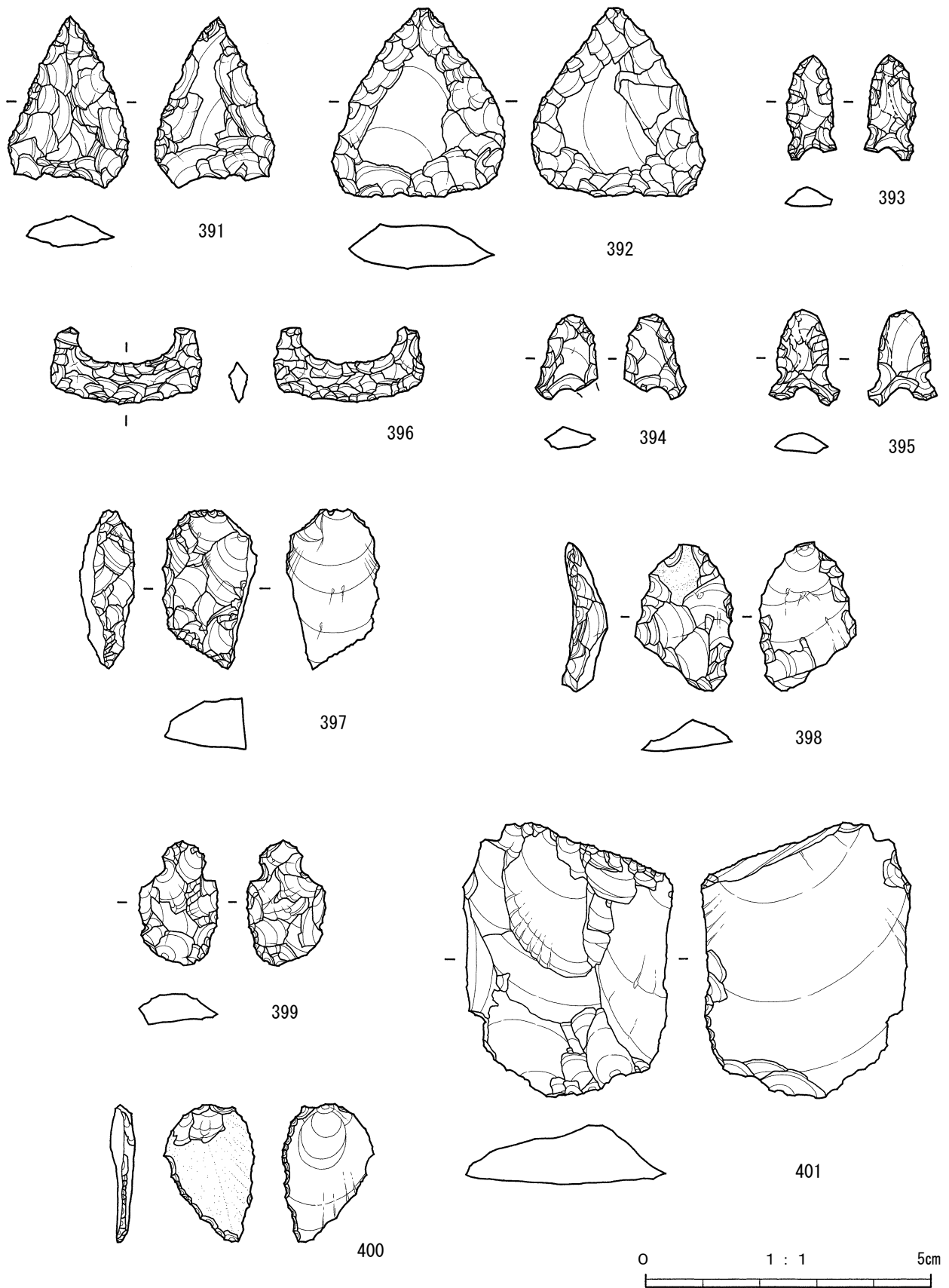
第110図 縄文早期石器 (1)



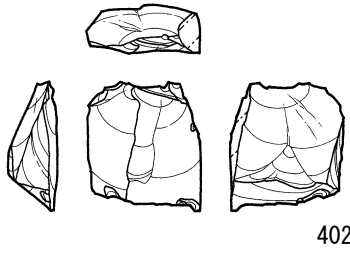
第111図 縄文早期石器 (2)



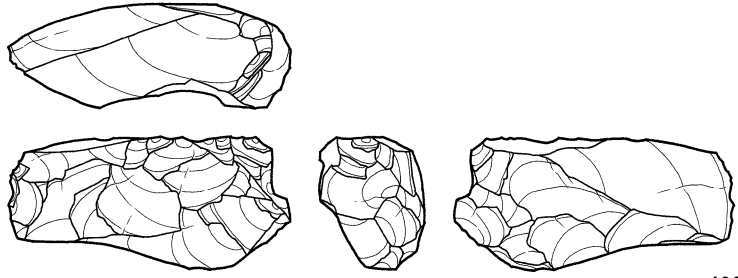
第112図 縄文早期石器 (3)



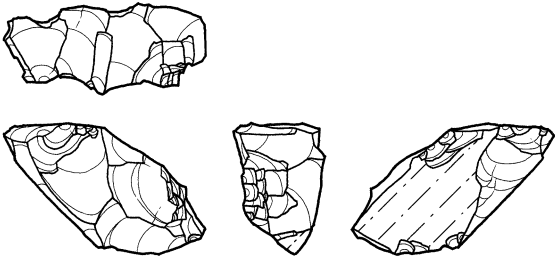
第113図 縄文早期石器（4）



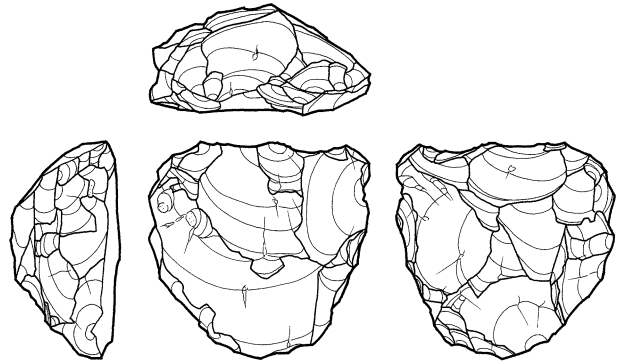
402



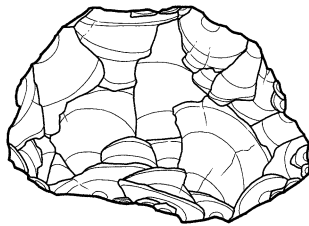
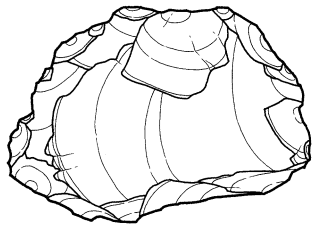
403



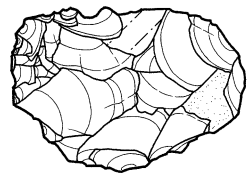
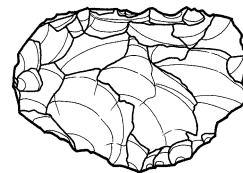
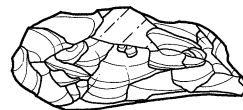
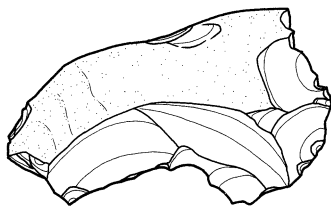
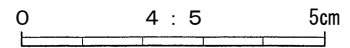
404



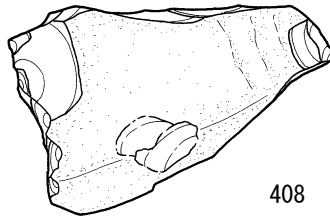
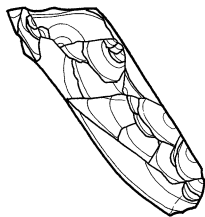
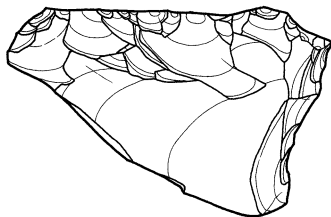
405



406

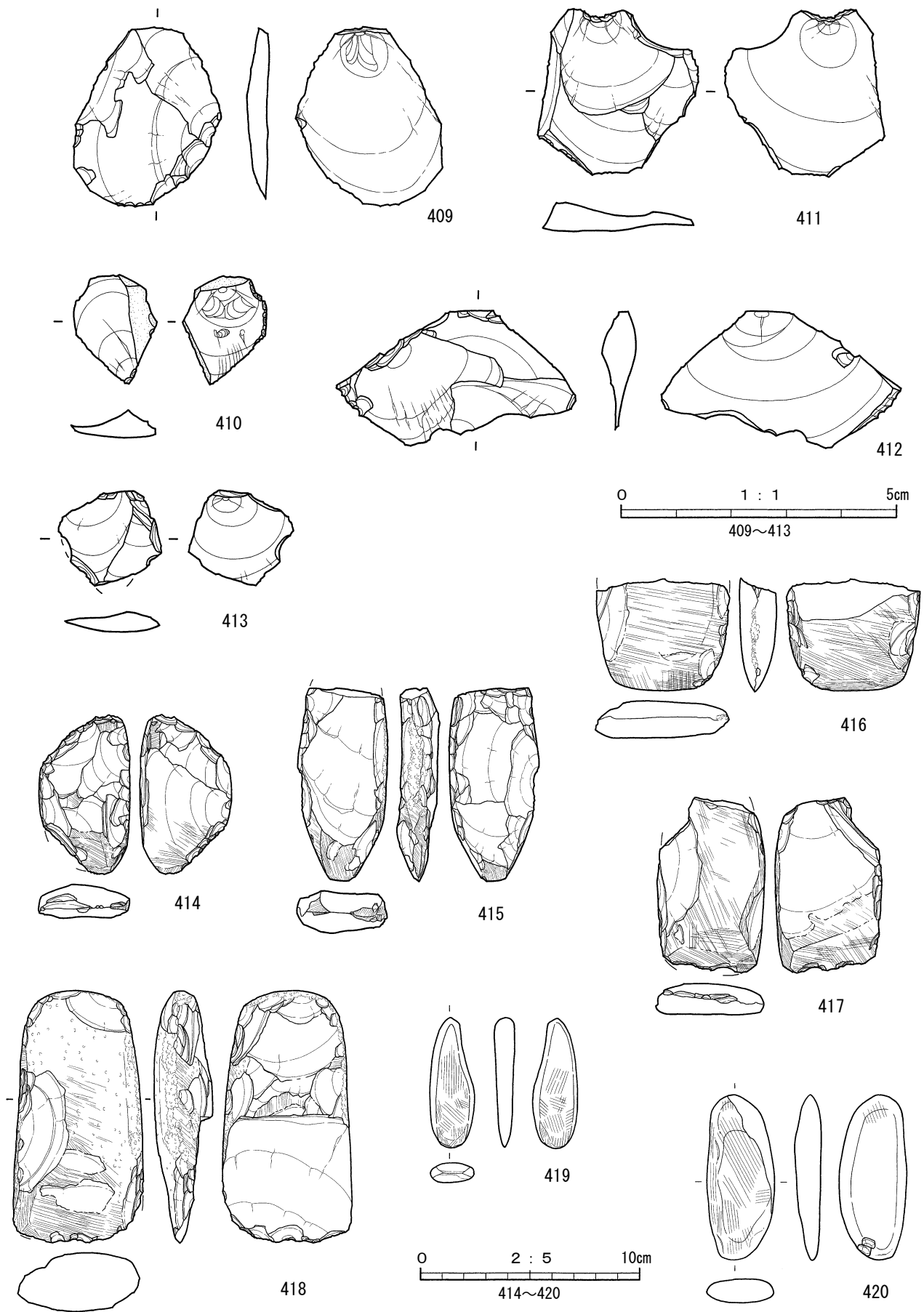


407

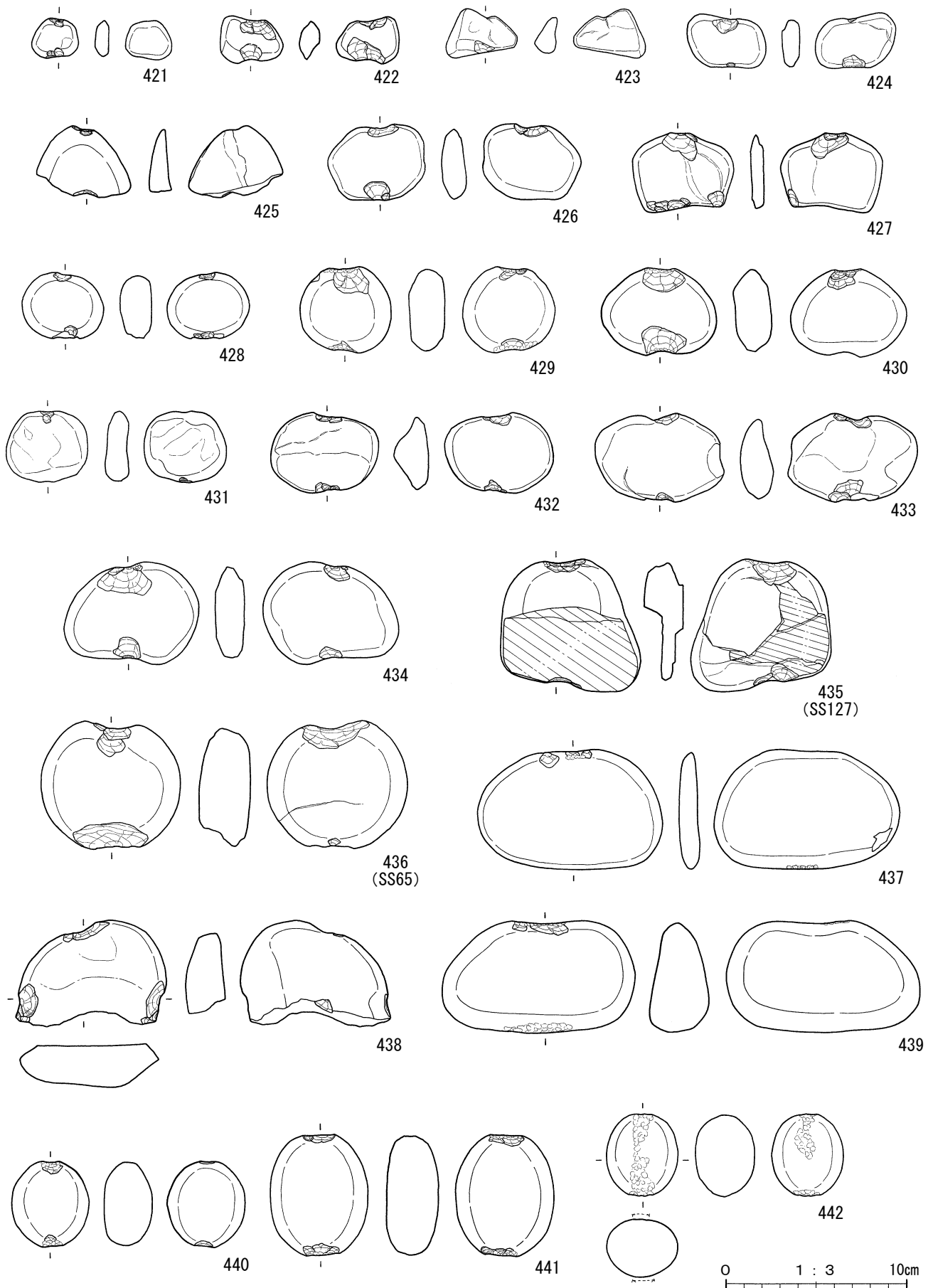


408

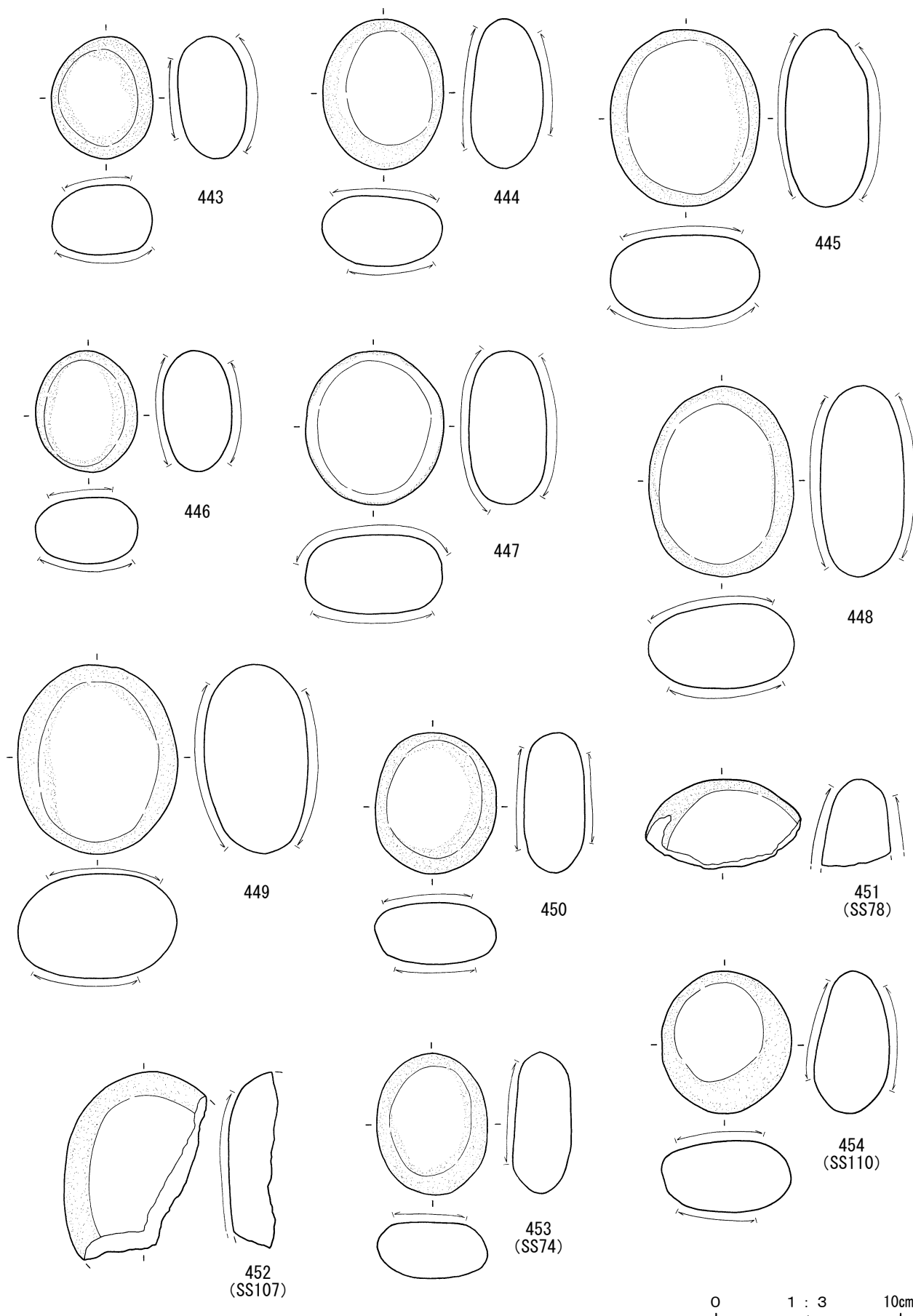
第114図 縄文早期石器 (5)



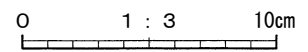
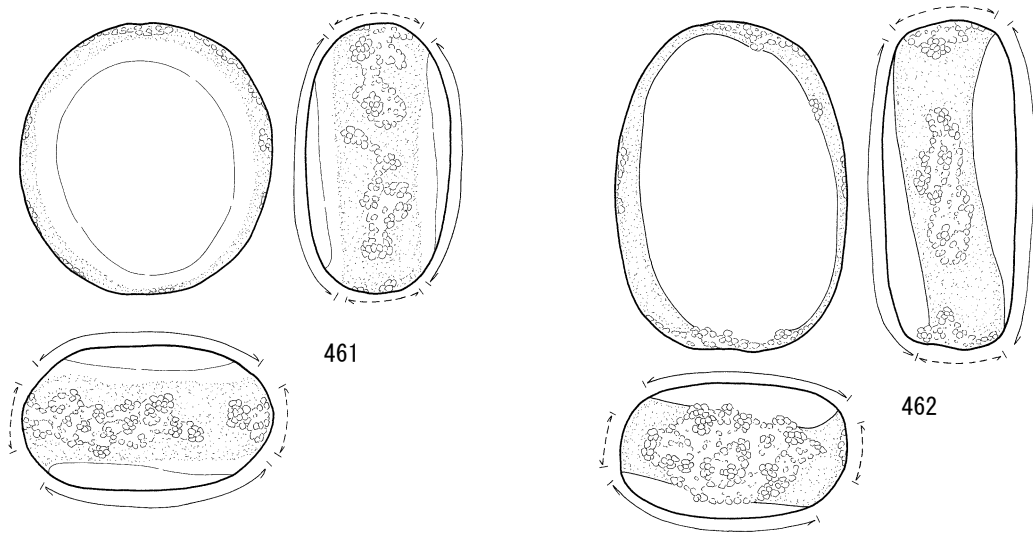
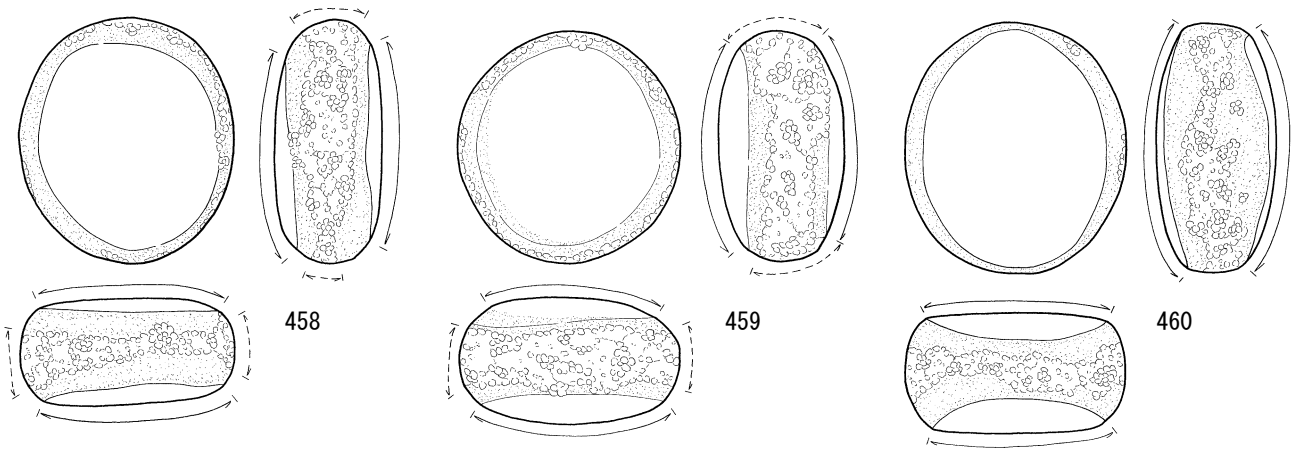
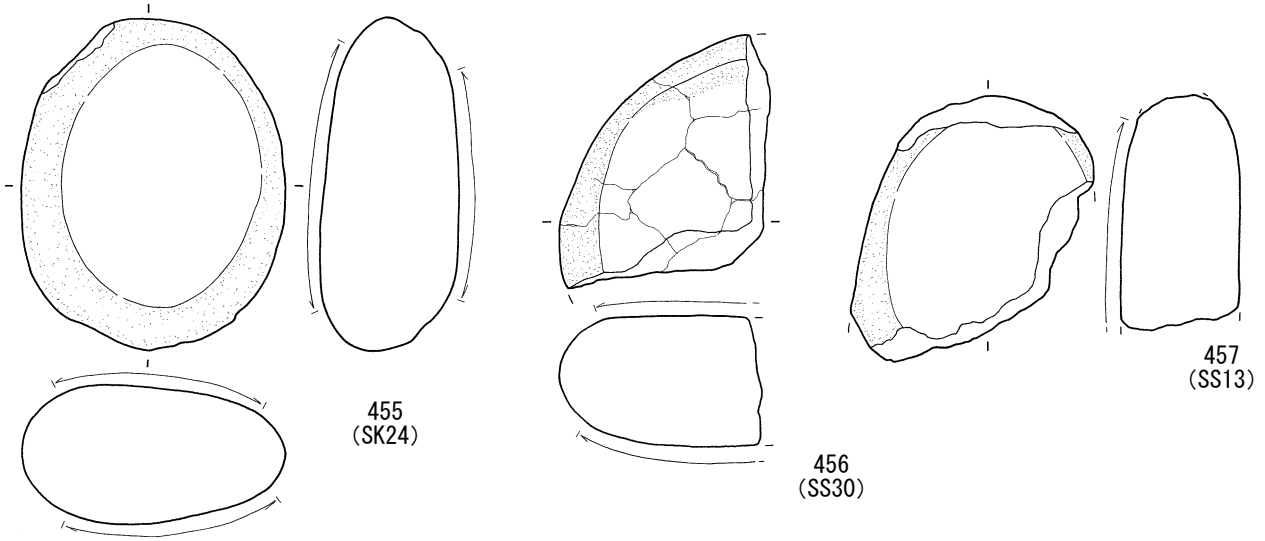
第115図 縄文早期石器 (6)



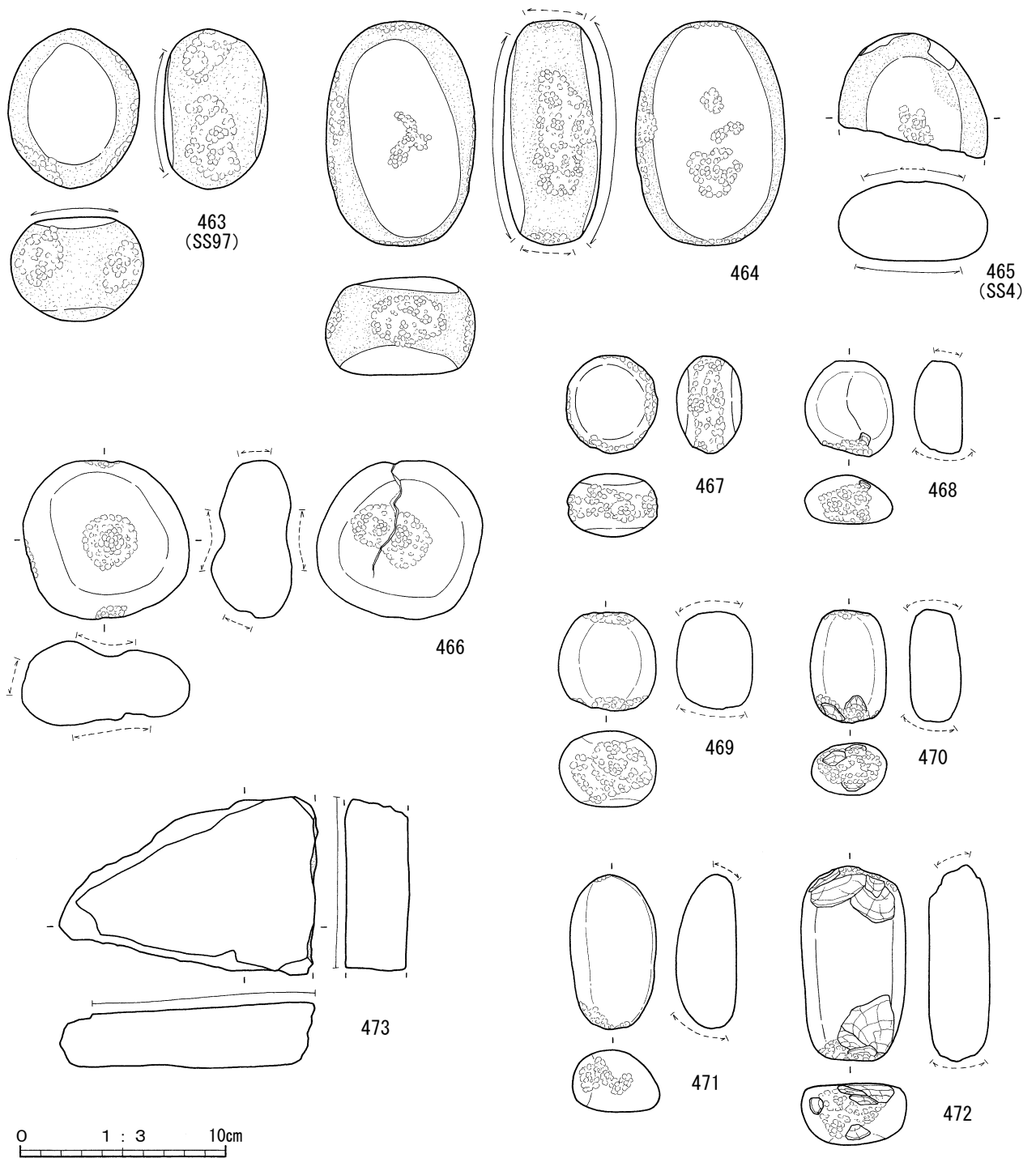
第116図 縄文早期石器 (7)



第117図 縄文早期石器 (8)



第118図 縄文早期石器 (9)



第119図 縄文早期石器 (10)

V類 (467~472)

礫の上下端や周縁に敲打痕が認められるもの。いわゆる「敲石」または「ハンマーストーン」である。敲打痕の部位により、2つに細分した。

Va類 (467)

周縁に敲打痕があるもの。1点確認した。

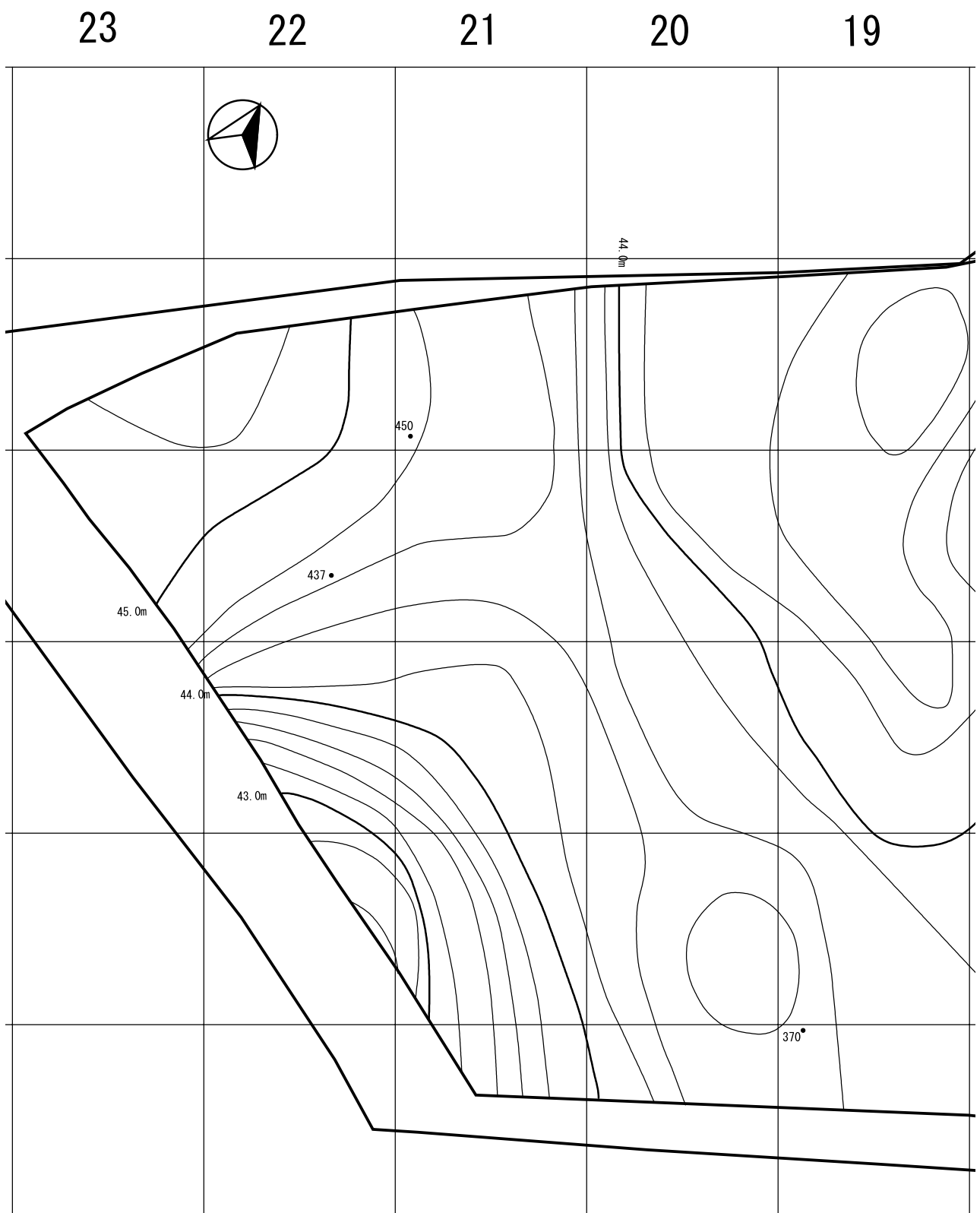
Vb類 (468~472)

上下端部に敲打痕があるもの。20点確認し、4点図示

した。平面形態が円形のもの (468・469) や棒状のもの (470~472) がある。470・472 は敲打時の剥離も認められる。

石皿 (第119図 473)

4点確認し、1点図示した。確認したもの全て破損しており、使用痕は顕著ではない。473は花崗岩を素材とする。



第120図 掲載石器分布図（1）

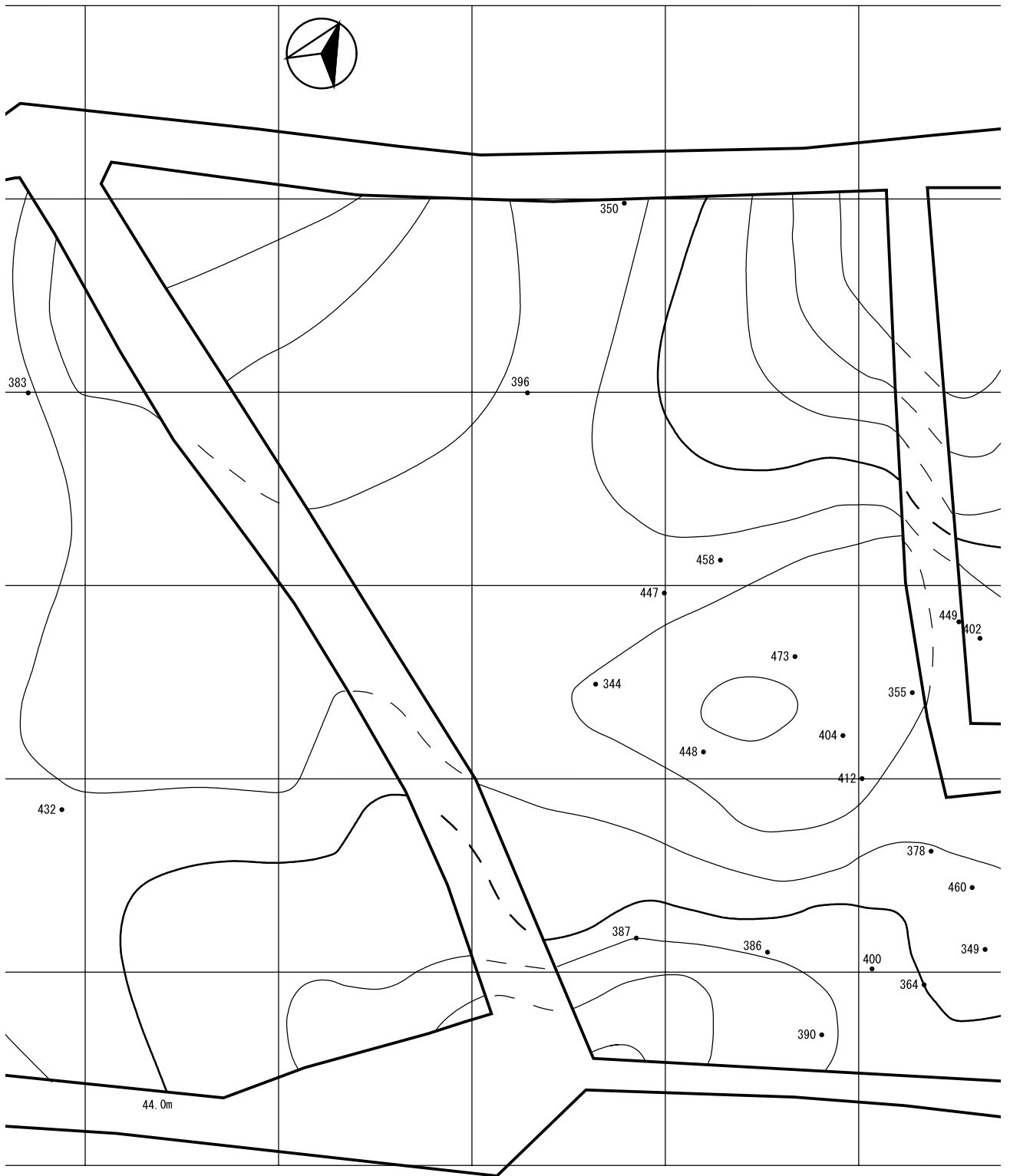
17

16

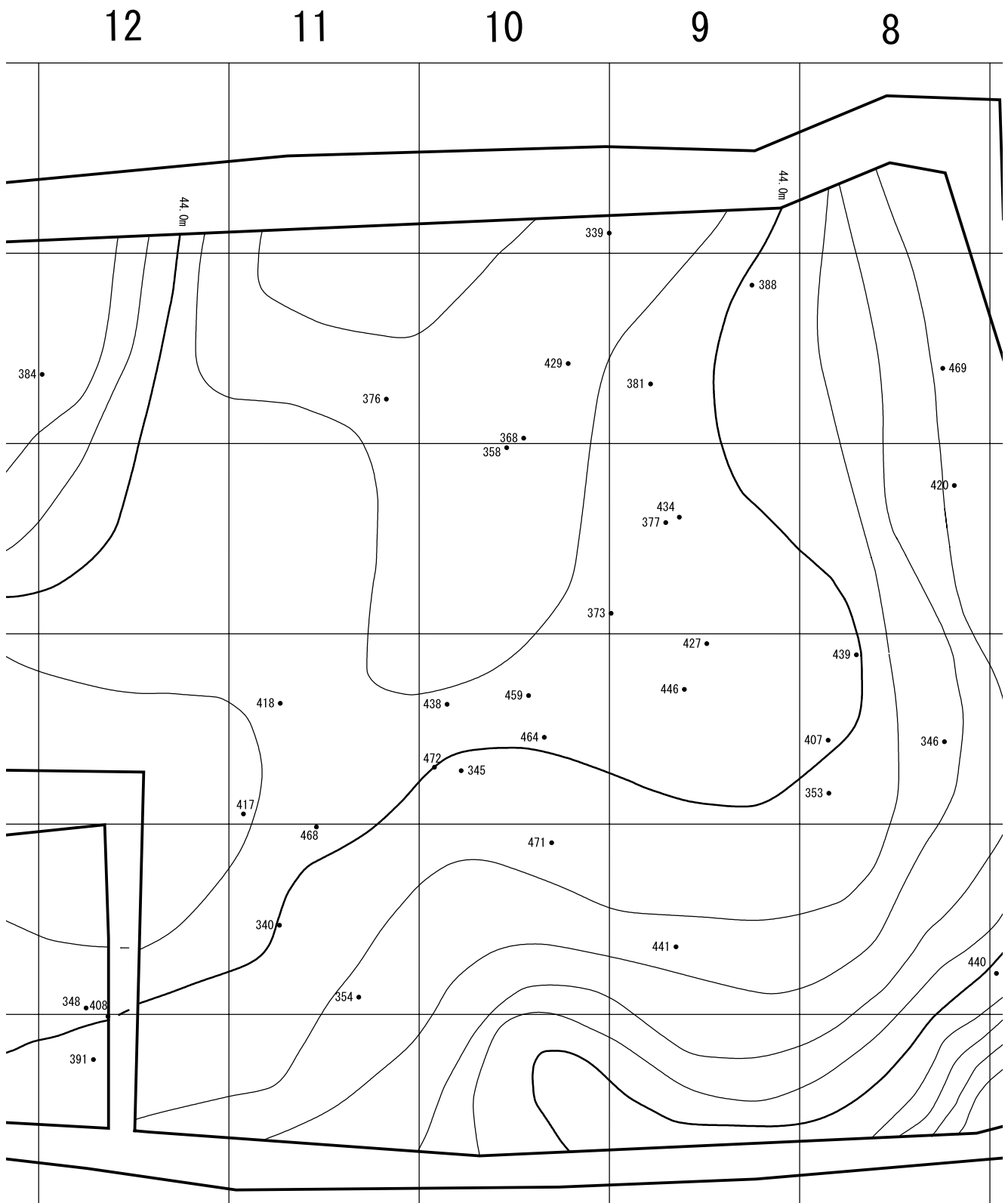
15

14

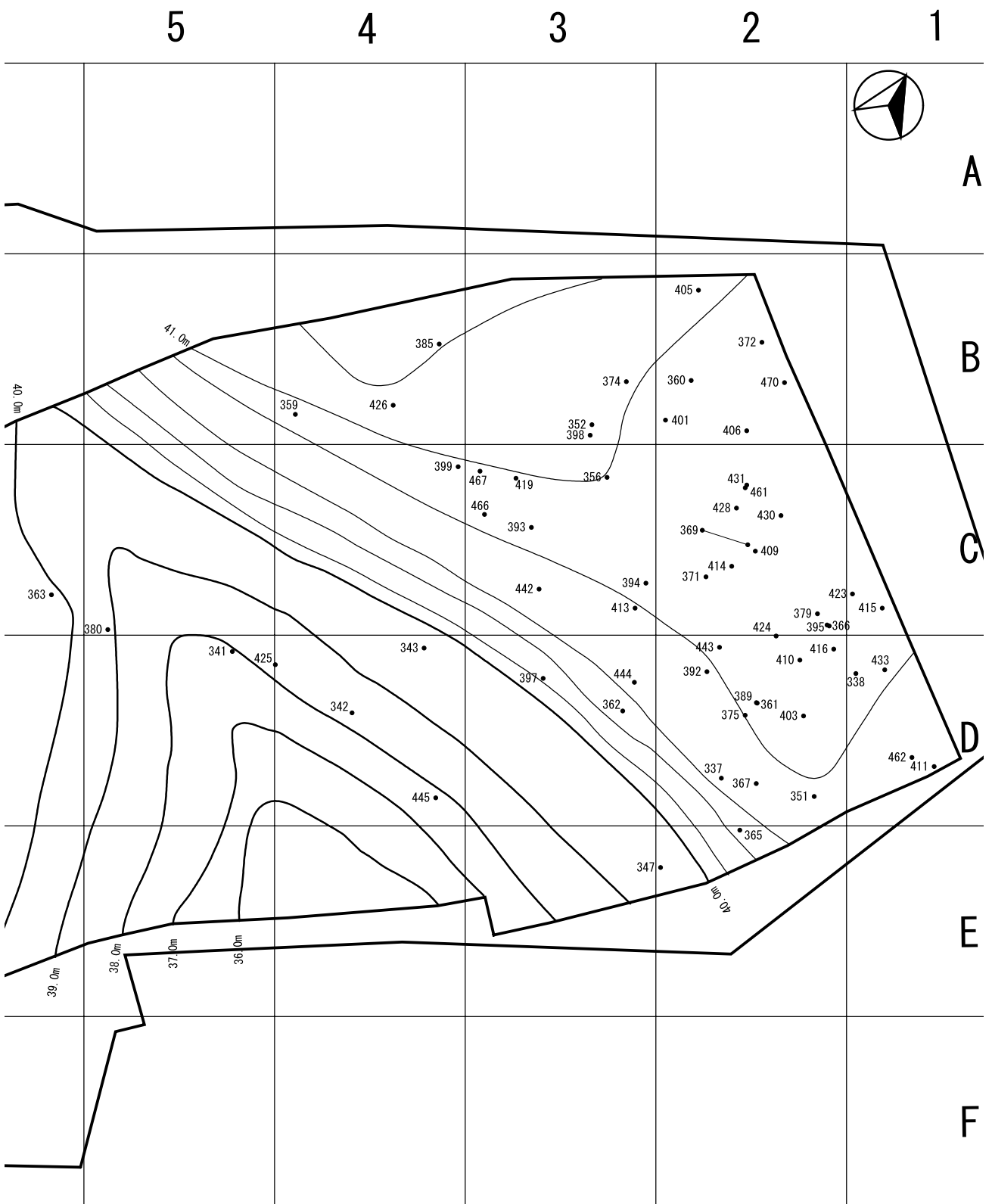
13



第121図 掲載石器分布図(2)



第122图 掲載石器分布图 (3)



第123図 掲載石器分布図（4）

第20表 縄文石器観察表(2)

挿図	報告No.	取上No.	区	層	器種	分類	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)
111	371	16200	C-2	9	打製石鎌	Ⅲb	チャート2類	3	2.25	0.4	1.88
	372	18825	B-2	9	打製石鎌	Ⅲb	チャート3類	2.95	1.78	0.48	1.92
	373	27098	C-9	9	打製石鎌	Ⅲb	チャート1類	2.9	2.32	0.47	2.14
	374	1718	B-3	8	打製石鎌	Ⅲb	頁岩	2.2	2.7	0.42	2.56
112	375	4918	D-2	9	打製石鎌	Ⅲc	黒曜石5類	2	1.4	0.32	0.42
	376	23926	B-11	9	打製石鎌	Ⅲc	チャート3類	2.48	1.98	0.5	1.35
	377	28094	C-9	9	打製石鎌	Ⅲc	チャート3類	3.53	2.5	0.58	2.66
	378	22292	E-13	9	打製石鎌	Ⅲc	玻璃質安山岩	3.22	2	0.5	1.68
	379	13291	C-2	9	打製石鎌	Ⅲd	チャート2類	1.6	1.75	0.35	0.64
	380	19227	C-5	9	打製石鎌	Ⅲd	黒曜石1類	1.55	1.55	0.32	0.44
	381	26197	B-9	9	打製石鎌	Ⅲd	チャート3類	1.8	1.45	0.35	0.62
	382	一括	B-3	9	打製石鎌	Ⅲd	チャート2類	1.8	1.8	0.4	0.91
	383	39627	C-18	9	打製石鎌	Ⅲd	チャート1類	2.02	1.82	0.4	0.98
	384	23513	B-12	9	打製石鎌	Ⅳ	ギョクズイ	2.42	1.28	0.23	0.6
	385	2696	B-4	9	打製石鎌	Ⅳ	ギョクズイ	2.65	1.15	0.25	0.7
	386	22298	E-14	9	局部磨製石鎌	Ⅴ	頁岩	2.23	1.33	0.28	1.14
	387	22393	E-15	9	局部磨製石鎌	Ⅴ	頁岩	2.23	1.7	0.33	1.25
	388	30936	B-9	9	磨製石鎌	Ⅵ	頁岩	2.65	1.8	0.22	1
	389	8499	D-2	9	打製石鎌	未製品	チャート2類	2	1.85	0.6	2.56
	390	22412	F-14	9	打製石鎌	未製品	珩質頁岩	2.2	2.5	0.5	2.56
113	391	22508	F-12	9	打製石鎌	未製品	玻璃質安山岩	3	2.1	0.55	3.56
	392	19649	D-2	9	打製石鎌	未製品	頁岩	3.3	3.05	0.75	9.22
	393	19835	C-3	9	トロトロ石器	-	チャート2類	1.82	0.88	0.32	0.49
	394	6199	C-3	8	トロトロ石器	-	チャート2類	1.47	1.06	0.37	0.56
	395	18672	C-2	9	トロトロ石器	-	チャート2類	1.65	1.23	0.35	0.62
	396	21733	C-15	9	異形石器	-	チャート3類	1.32	2.62	0.33	0.97
	397	16615	D-3	8	スクレイパー	-	黒曜石1類	2.8	1.7	0.95	3.84
	398	15303	B-3	9	スクレイパー	-	玻璃質安山岩	2.59	1.7	0.77	2.11
	399	6723	C-4	9	二次加工剥片	-	黒曜石1類	2.14	1.4	0.54	1.36
	400	22415	E-13	9	二次加工剥片	-	頁岩	2.39	1.6	0.43	1.35
114	401	13713	B-2	9	二次加工剥片	-	頁岩	4.8	3.7	1.05	18.31
	402	22866	D-13	9	石核	-	チャート3類	2.08	1.86	0.8	3.62
	403	15959	D-2	9	石核	-	チャート3類	2.16	4.61	1.72	18.4
	404	21923	D-14	9	石核	-	珩質頁岩	2.13	3.3	1.5	7.43
	405	15110	B-2	9	石核	-	黒曜石1類	3.55	3.6	1.87	23.05
	406	21544	B-2	9	石核	-	チャート2類	3.54	4.96	1.3	21.62
	407	39231	D-8	9	石核	-	珩質頁岩	2.67	3.82	1.69	17.3
	408	22472	F-12	9	石核	-	珩質頁岩	3.43	5.31	3.24	35.54
115	409	3491	C-2	9	微細剥離痕剥片	-	チャート3類	3.25	2.65	0.4	3.44
	410	14646	D-2	9	微細剥離痕剥片	-	黒曜石1類	1.95	1.51	0.5	1.19
	411	15660	D-1	9	剥片	-	珩質頁岩	3	2.91	0.5	3.82
	412	21972	D-13	9	剥片	-	珩質頁岩	2.45	4.35	0.6	4.71
	413	746	C-3	8	剥片	-	チャート2類	1.7	1.9	0.35	1.09
	414	11048	C-2	9	磨製石斧	-	頁岩	7.2	4.12	1.5	50.58
	415	4971	C-1	8	磨製石斧	-	頁岩	8.72	4.03	1.84	86.71
	416	13210	D-2	9	磨製石斧	-	頁岩	5.05	6.02	1.67	70.4
	417	32420	D-11	9	磨製石斧	-	頁岩	7.93	4.86	1.4	81.46
	418	23438	D-11	9	磨製石斧	-	頁岩	11.93	5.88	2.68	209.85
	419	6614	C-3	9	磨製石器	-	頁岩	6	2	1	16.72
	420	41121	C-8	9	磨製石器	-	頁岩	7.6	3.1	1.3	38.39
116	421	一括	C-3	9	石錘	短軸打欠	砂岩	2.2	2.6	0.9	7.08
	422	一括	D-1	8	石錘	短軸打欠	砂岩	2.7	3.5	1.2	14.42
	423	16276	C-1	9	石錘	短軸打欠	砂岩	2.8	3.9	1.2	17.08
	424	4930	D-2	9	石錘	短軸打欠	砂岩	3	4.4	1	21.76
	425	21562	D-5	9	石錘	短軸打欠	砂岩	4	5.2	1.4	24.9
	426	7394	B-4	9	石錘	短軸打欠	砂岩	4.2	5.5	1.4	48.21
	427	28085	D-9	9	石錘	短軸打欠	砂岩	4.4	5.6	1	36.33

第21表 縄文石器観察表(3)

挿図	報告No.	取上No.	区	層	器種	分類	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)
116	428	13589	C-2	9	石鏟	短軸打欠	砂岩	3.7	4.5	1.8	39.29
	429	30354	B-10	9	石鏟	短軸打欠	砂岩	4.8	5.1	2	68.05
	430	39355	C-2	11b	石鏟	短軸打欠	砂岩	4.9	6.4	2.2	94.69
	431	13630	C-2	9	石鏟	短軸打欠	砂岩	3.9	4.5	1.5	34.83
	432	41316	E-18	9	石鏟	短軸打欠	砂岩	4.5	6	2	61.89
	433	20068	D-1	9	石鏟	短軸打欠	砂岩	4.9	7.2	1.9	77.36
	434	28100	C-9	9	石鏟	短軸打欠	砂岩	5.7	7.5	1.7	111.22
	435	-	C-10	SS127	石鏟	短軸打欠	砂岩	7.4	7.3	2.2	118.86
	436	-	D-11	SS65	石鏟	短軸打欠	砂岩	7.2	7.7	2.9	213.4
	437	40371	C-22	9	石鏟	短軸打欠	砂岩	6.7	10.2	1.3	131.16
	438	25553	D-10	9	石鏟	短軸打欠	砂岩	5.9	8.4	2.7	139.39
	439	38454	D-8	9	石鏟	短軸打欠	砂岩	6.3	10.7	3.4	323.85
	440	21675	E-7	9	石鏟	長軸打欠	砂岩	4.7	4.3	2.7	71.66
441	34448	E-9	9	石鏟	長軸打欠	砂岩	6.7	5.4	3	154.28	
442	12617	C-3	9	石鏟	長軸打欠	砂岩	4.6	3.9	3.4	72.89	
117	443	11943	D-2	9	磨石・敲石類	I	砂岩	6.6	5.5	3.7	186.31
	444	6221	D-3	8	磨石・敲石類	I	砂岩	8.1	6.5	3.9	282.91
	445	18588	D-4	9	磨石・敲石類	I	砂岩	9.6	8.2	4.5	543.82
	446	28079	D-9	9	磨石・敲石類	I	砂岩	6.6	5.6	3.6	175.78
	447	21931	D-15	9	磨石・敲石類	I	安山岩	8.3	7.5	4.3	417.91
	448	21816	D-14	9	磨石・敲石類	I	砂岩	10.3	7.8	4.6	548.47
	449	21837	D-13	9	磨石・敲石類	I	砂岩	10.4	8.6	5.7	695.57
	450	39914	B-21	9	磨石・敲石類	I	砂岩	7.7	6.6	3.4	234.86
	451	-	A-11	SS78	磨石・敲石類	I	砂岩	(4.9)	(8.5)	(3.8)	188.95
	452	-	D-9	SS107	磨石・敲石類	I	砂岩	(10.2)	(7.7)	(28.7)	233.9
	453	-	C-11	SS74	磨石・敲石類	I	砂岩	7.7	6	3.2	201.32
	454	-	E-8	SS110	磨石・敲石類	I	砂岩	7.7	7	4	280.29
	118	455	-	C-14	SK24	磨石・敲石類	I	砂岩	13	10.4	5.6
456		-	C-4	SS30	磨石・敲石類	I	砂岩	10	8.3	5.3	538.95
457		-	D-2	SS13	磨石・敲石類	I	砂岩	(10.6)	(9.6)	(4.7)	536.4
458		21820	C-14	9	磨石・敲石類	II	砂岩	9.6	8.5	4.3	525.41
459		31347	D-10	9	磨石・敲石類	II	砂岩	9.1	8.8	5	560.41
460		22491	E-13	9	磨石・敲石類	II	砂岩	9.9	8.7	4.8	647.41
461		19661	C-2	9	磨石・敲石類	II	砂岩	10.7	10	5.7	888
462		20669	D-1	9	磨石・敲石類	II	砂岩	13	9.1	5.4	996.87
119	463	-	E-12	SS97	磨石・敲石類	II	砂岩	7.8	6.4	5.1	334.2
	464	27269	D-10	9	磨石・敲石類	III	砂岩	10.9	7.3	4.8	604.25
	465	-	D-1	SS4	磨石・敲石類	IV	砂岩	6	7.2	4	205.59
	466	19953	C-3	9	磨石・敲石類	IV	砂岩	7.7	8.1	4.1	343.1
	467	10874	C-3	9	磨石・敲石類	Va	砂岩	4.8	4.4	3.1	83.56
	468	38660	E-11	9	磨石・敲石類	Vb	砂岩	4.7	4.3	2.4	64.04
	469	30178	B-8	9	磨石・敲石類	Vb	砂岩	4.8	4.7	3.7	109.09
	470	18878	B-2	9	磨石・敲石類	Vb	砂岩	5.5	3.7	2.5	78.99
	471	38056	E-10	9	磨石・敲石類	Vb	砂岩	7.6	4.2	3	126.88
	472	35666	D-10	9	磨石・敲石類	Vb	砂岩	9.6	5.1	3	225.67
	473	21980	D-14	9	石皿	-	花崗岩	(8.8)	(12.5)	3.2	481.19

第3節 縄文時代前期以降の調査

1 調査の概要

試掘調査では縄文前期以降、つまり7層（アカホヤ火山灰層）上位において遺構・遺物は確認されていなかった。しかし、調査開始時の1～5区の重機による表土～7層掘り下げ作業の際、B-3区とC-3区の7層最下部において土坑を2基検出した。さらに、D-3区7層下位でも土坑を1基検出した。これらは7層を掘り込んで構築され、底面に逆茂木痕を検出したことから、縄文前期以降の落とし穴と認定できた。

これ以後、重機による表土～7層掘り下げ作業の際には、7層上面において遺構精査を行った。しかし、第1エリアの3・4区検出の落とし穴以外は確認できなかった。

2 遺構（第124・125図）

3基の落とし穴がほぼ等間隔で一列に検出された（第126図参照）。検出時、6層上位で遺物が出土しないことやその平面形状から、落とし穴の可能性が高いと想定し調査を行った。

調査は長軸方向を基準にして南半を半裁した。その後、埋土観察を行い、完掘後に断面スライス調査を行ったも

のと、半裁後に断面スライス調査を行ったものがある。

平面形態は全て隅丸長方形を呈しており、概ね110×60cmの規模で、規格性がある。11b層まで掘り込んでおり、底面に逆茂木痕を確認できたものもある。逆茂木痕が確認できなかったものも、平面・断面形状が逆茂木痕をもつものと酷似していることから、落とし穴と認定した。

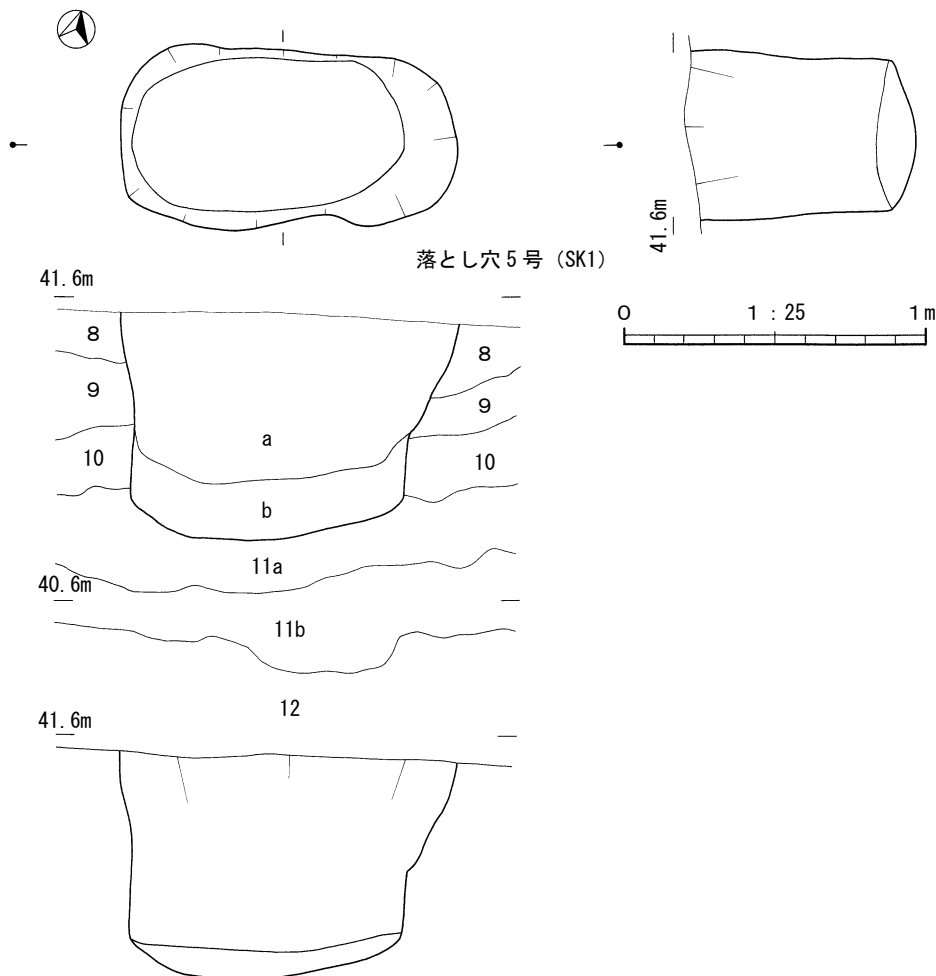
以下、個別の報告を行う。なお、規模などの詳細は観察表を参照されたい。

落とし穴5号（SK1）

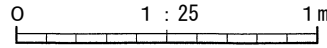
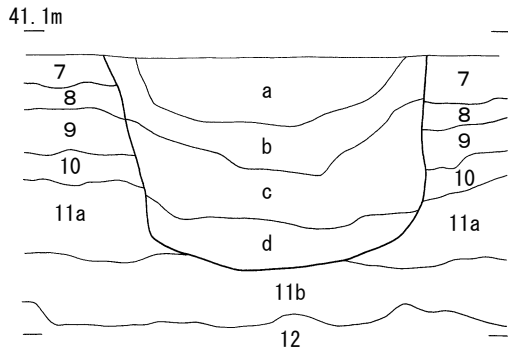
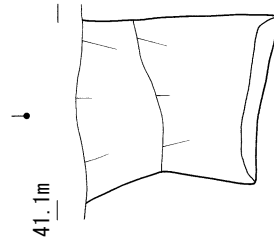
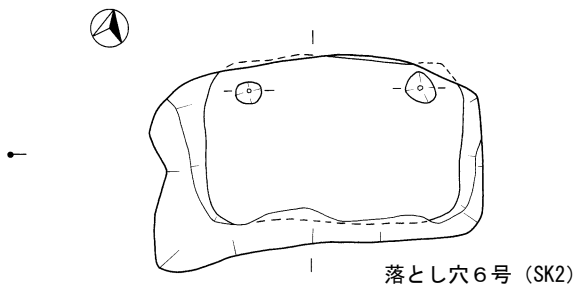
B-3区の7層最下部で検出した。完掘後に断面スライス調査を行った。逆茂木痕は確認できなかった。埋土は2つに分層できた。

埋土 a：黒色(10YR1.7/1)シルト質土で、締まっている。0.5～2cm程度の黄色パミス（池田降下軽石か?）を含む。

埋土 b：褐色(7.5YR3/3)シルト質土で、粘性がある。部分的に炭化物粒を含む。



第124図 縄文前期以降落とし穴（1）



落とし穴6号 (SK2)

C-3区の7層下部で検出した。完掘後に断面スライス調査を行い、底面で逆茂木痕を2本確認した。逆茂木痕は底面北側に寄っている。埋土は4つに分層できた。

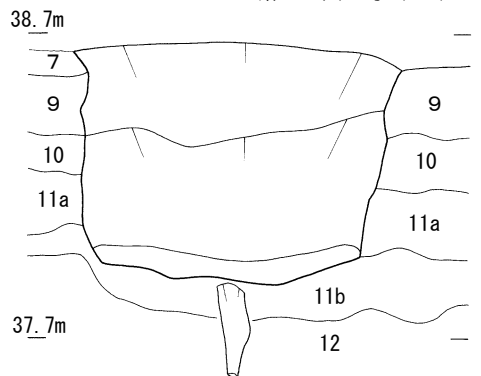
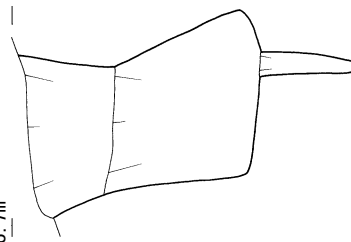
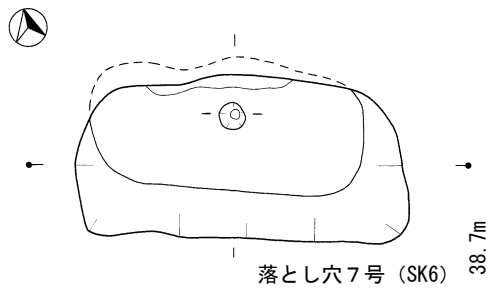
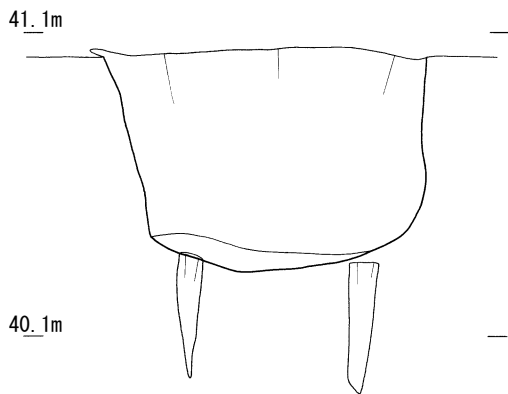
埋土a：黒色(10YR1.7/1)シルト質土で、締まっている。0.5～2cm程度の黄色パミスを含む。

埋土b：黒褐色(10YR3/2)シルト質土で、締まっている。0.5～2cm程度の黄色パミス(池田降下軽石か?)を含む。

埋土c：黒色(10YR2/1)シルト質土で、埋土bに比べて締まりが弱い。0.5～2cm程度の黄色パミスをわずかに含む。

埋土d：暗褐色(10YR3/3)シルト質土で、締まりが弱い。粘質である。

逆茂木痕埋土は、褐色(10YR4/6)シルト質土で、締まりがなく、弱い粘質である。

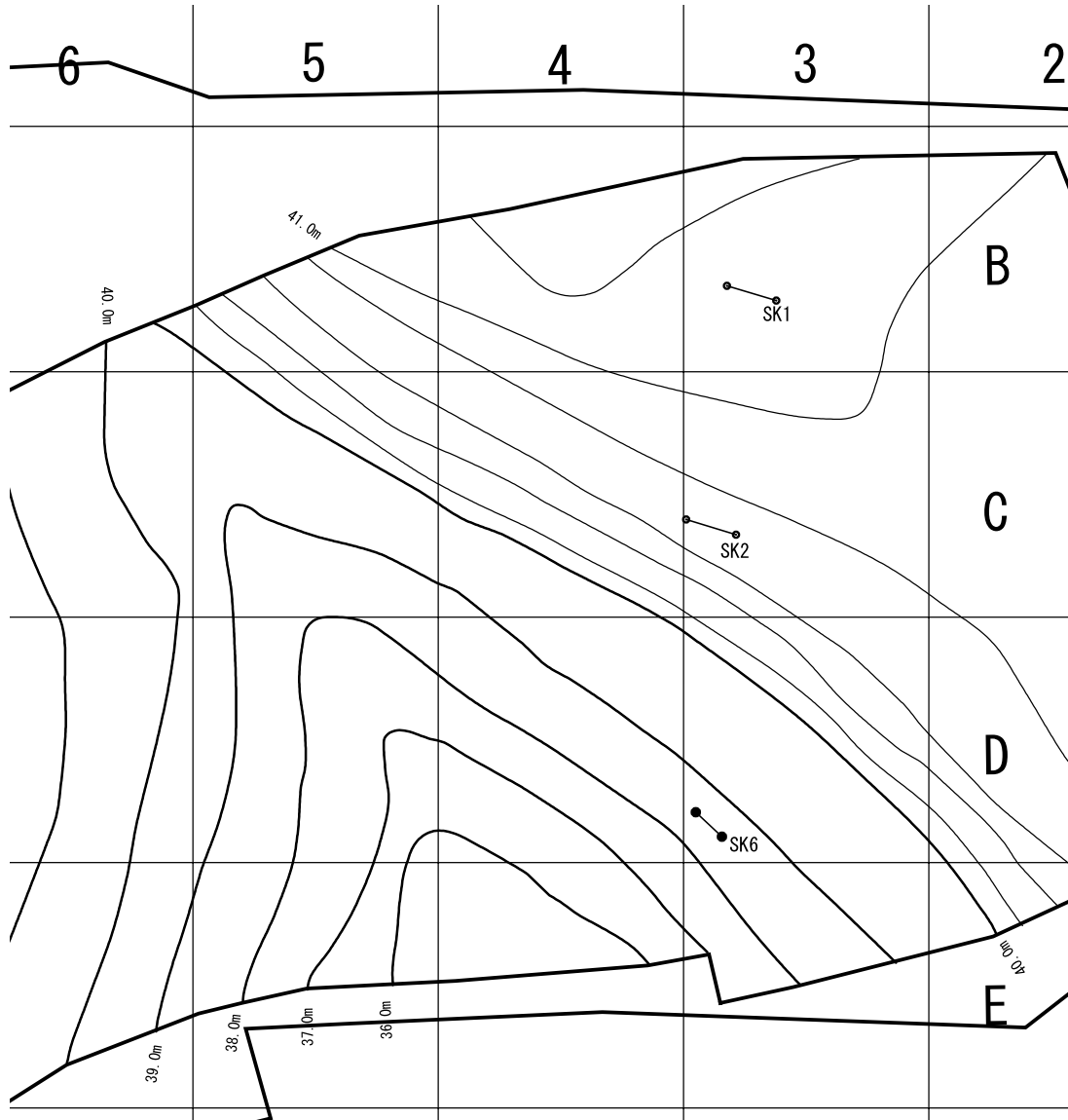


落とし穴7号 (SK6)

D-3区の7層下位で検出した。傾斜が強い場所で検出している。半裁後に断面スライス調査を行い、底面で逆茂木痕を1本確認した。逆茂木痕はやや北側に寄っている。なお、底面自体が北側に偏っているものの、傾斜地で構築したためと推測できる(地表面に対しては垂直方向に掘り込んでいる)。

埋土は単一層で、黒色(10YR1.7/1)シルト質土で、締まっているが、下部ほど締まりが弱くなる。0.5～3cm程度の黄色パミスを含む。逆茂木痕埋土は褐色(10YR4/6)シルト質土で、締まりがなく、弱い粘質である。

第125図 縄文前期以降落とし穴(2)



第126図 縄文前期以降落とし穴位置図

第22表 落とし穴観察表

遺構名	検出区	検出面	規模 (m)			底面規模 (m)		ピット数	ピット規模 (m)		
			長軸	短軸	深さ	長軸	短軸		長軸	短軸	深さ
落とし穴5 (SK1)	B-3	8層上面	1.10	0.59	0.75	0.90	0.51	0	-	-	-
落とし穴6 (SK2)	C-3	7層下位	1.10	0.62	0.70	0.84	0.54	2	0.08	0.07	0.41
									0.11	0.08	0.42
落とし穴7 (SK6)	D-7	7層下位	1.82	1.15	1.10	0.91	0.33	1	0.09	0.08	0.24

第4節 弥生時代以降の調査

1 調査の概要

表土やE-4区付近の谷部を埋めた造成土内から、弥生時代や古代の遺物が認められている。なお、本来の包含層は削平を受けていると推定できる。遺物は12点確認し、7点図示した。

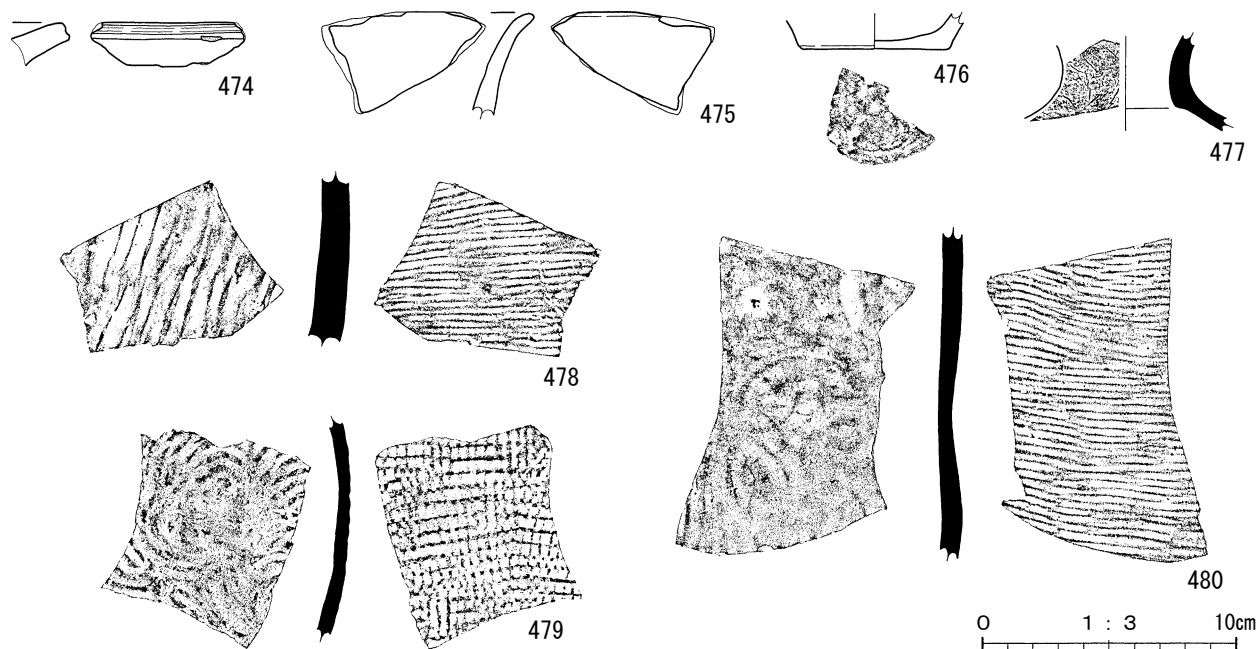
2 遺物（第127図 474～480）

474は口唇部に凹線をもつ甕形土器の口縁部である。弥生時代中期後半の山ノ口Ⅱ式に比定できる。475・476は土師器の坏である。476は底面にへら切り痕が残る。477は須恵器の甕形土器の頸部片である。478～480は須恵器の甕形土器の胴部片である。外面は平行タタキや格子状タタキ、内面は平行状または同心円状当て具痕が残る。

第23表 弥生時代以降遺物観察表

挿図	No.	取上番号	区	層	時期	型式・種別	器種	調整		色調		胎土						備考
								外面	内面	外面	内面	石/角/長	角/輝	雲母	火方	風礫	く	
127	474	一括	-	採集	弥生	山之口Ⅱ	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	-	△	-	○	-	-	-
	475	一括	E-5	1	古代	黒色土器A類	坏	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	黒(2.5Y2/1)	-	-	-	-	-	-	-
	476	一括	D-3	1	古代	土師器	坏	胴：回転ナデ 底：回転へら切りか？	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	-	-	-	-	-	-	復元底径6.0cm

挿図	No.	取上番号	区	層	時期	分類	器種	調整		色調		備考
								外面	内面	外面	内面	
127	477	一括	E-5	1	古代	須恵器	甕/壺	回転ナデ	回転ナデ	灰白(2.5Y8/1)	灰(N6/)	復元頸部径5.0cm 外面に自然釉かかる
	478	一括	E-4	1	古代	須恵器	甕/壺	平行タタキ	平行オサエ	にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい褐(7.5YR6/3)	-
	479	一括	-	排土	古代	須恵器	甕/壺	格子目タタキ	同心円オサエ	灰(N5/)	灰(N5/)	-
	480	一括	E-4	1	古代	須恵器	甕/壺	平行タタキ	同心円オサエ	褐灰(10YR6/1)	にぶい橙(7.5YR7/3)	-



第127図 弥生時代以降遺物

第5章 自然科学分析

次五遺跡における土器付着炭化物の放射性炭素年代

愛媛県久万高原町教育委員会

遠部 慎

1 はじめに

鹿児島県志布志市次五遺跡から出土した炭化物の年代測定を行ったので、その結果を報告する。試料の採取は遠部慎が採取した。試料の前処理は国立歴史民俗博物館年代調査室で行い、測定はパレオ・ラボ (PLD) によるものである。測定結果は計測値(補正)とともに、実年代の確率を示す較正年代値を示した。また、その根拠となった較正曲線を示し、あわせて安定同位体の分析を行った。これまで、鹿児島県域で測定例の少ない円筒形条痕文土器に付着した炭化物の分析例であり、重要な値が得られたと考える。

2 測定資料と観察所見

測定対象とした資料は、遠部が採取した土器付着物3点のうち、測定可能であった1点である。試料番号KGSB-16である(第80図170)。

3 炭化物の処理

炭化物試料については、註1に記した手順で試料処理を行った。本試料はバインダー処理による汚染が懸念されたため、アセトンによる処理を入念に繰り返し、溶解がなくなったことを確認したうえで試料処理を行った。ガス化率、グラファイト化率とも十分な炭素量が得られた。(1)・(2)・(3)の作業はパレオ・ラボ(PLD)で行った。

4 測定結果と暦年較正

測定結果は、補注2に示す方法で、同位体効果を補正し14C年代、較正年代を算出した。

年代測定結果は、8730±25BPであった。これを暦年較正すると、7935-7925calBC (0.8%)、7910-7900calBC (1.0%)、7865-7855calBC (0.5%)、7835-7605cal BC (92.9%)である(第1図)。加速器の $\delta^{13}C$ 値の測定は-27.29±0.17‰である。

5 測定結果について

縄文時代早期の土器付着炭化物の年代測定は近年増加しつつあるが、型式によっては少ないものもある(遠部2009、葉畑2015)。系統的に十分測定例が蓄積されていないのが、円筒形条痕文土器である。

円筒形条痕文土器については、木崎康弘などによってその型式変化は整理されているが(木崎1995・1996)、その型式名称などはプライオリティの問題も少なくない

(水ノ江1998)。

いわゆる貝殻文円筒形土器の政所式の年代測定例については、鹿児島県湯屋原遺跡で9225±45BPと宮崎県吉野第2遺跡で9150±50BPという、9200-9100BPを中心とする測定値が得ている(遠部2008a・b)。

佐賀県小ヶ倉遺跡において、年代測定が実施されている中原系土器群に先行しそうな土器資料の年代測定値は9565±30BPである。こういった土器群が北部九州に撚糸文土器以降に出現するであろうことは指摘しているが(遠部ほか2007)、木崎などによる型式学的検討とも符合する。

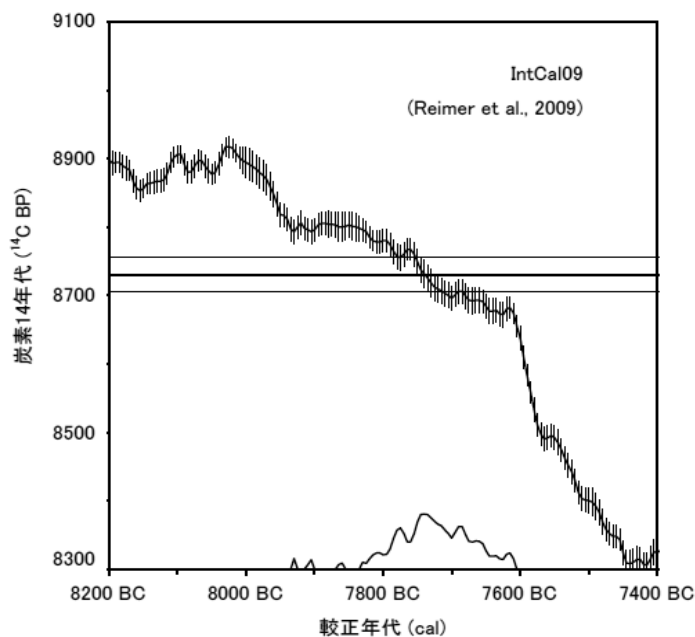
南九州で年代測定値の得られている政所式土器よりも1段階古く位置づけることが可能であり、木崎のいう中原I式とも刺突原体が異なり、型式設定する意義はある(大坪2015)と考える。今後さらに、円筒形条痕文土器の年代値を集積していく必要があるだろう。

本稿の測定結果は、「基盤研究(B)25284153炭素14年代測定による縄紋文化の枠組みの再構築-環境変動と文化変化の実年代体系化」(代表小林謙一)の成果を利用した。暦年較正については今村峯雄、坂本稔の方法に従った。本実験にあたり、志布志市教育委員会相美伊久雄氏には、サンプルの採取から各種のご協力をいただいた。また、山下大輔氏、宮田佳樹氏をはじめ、国立歴史民俗博物館・学術創成研究グループ、犬島貝塚調査保護プロジェクトチームの諸先生、諸氏には資料調査や位置づけについて、ご教示、ご協力をいただいた。記して感謝申し上げたい。

補注1 土器付着物については下記の方法で処理した。

(1) 前処理：酸・アルカリ・酸による化学洗浄

AAA処理に先立ち、土器付着物については、アセトンに浸け振とうし、油分など汚染の可能性のある不純物を溶解させ除去した(2回)。AAA処理として、80℃、各1時間で、希塩酸溶液(1N-HCl)で岩石などに含まれる炭酸カルシウム等を除去(2回)し、さらにアルカリ溶液(NaOH、1回目0.1N、3回目以降1N)でフミン酸等を除去した。アルカリ溶液による処理は、5回以上行い、ほとんど着色がなくなったことを確認した。さらに酸処理2回(1N-HCl 1時間)を行い、アルカリ分を除いた後、純水により洗浄した(4回)。



第1図 測定資料の14C炭素年代と暦年較正年代 (cal BC)

試料番号	KGSB-16		
機関番号	PLD-32324		
炭素14年代	8730 ± 25	¹⁴ C BP	
較正年代	7935 cal BC	- 7925 cal BC	0.8%
	7910 cal BC	- 7900 cal BC	1.0%
	7865 cal BC	- 7855 cal BC	0.8%
	7835 cal BC	- 7605 cal BC	92.9%
	-	-	-
	-	-	-
	-	-	-
	-	-	-
	-	-	-
	-	-	-
	-	-	-
			95.45%
中央値	7730 cal BC		
最頻値	7740 cal BC		

(2) 二酸化炭素化と精製：酸化銅により試料を燃焼（二酸化炭素化）、真空ラインを用いて不純物を除去。

AAA処理の済んだ乾燥試料を、500mgの酸化銅とともに石英ガラス管に投げ、真空に引いてガスバーナーで封じ切った。このガラス管を電気炉で、850℃で3時間加熱して試料を完全に燃焼させた。得られた二酸化炭素には水などの不純物が混在しているので、ガラス製真空ラインを用いてこれを分離・精製した。

(3) グラファイト化：鉄触媒のもとで水素還元し、二酸化炭素をグラファイト炭素に転換。アルミ製カソードに充填。

1.5mgの炭素量を目標に二酸化炭素を分取し、水素ガスとともに石英ガラス管に封じた。これを電気炉で、およそ600℃で12時間加熱してグラファイトを得た。ガラス管にはあらかじめ触媒となる鉄粉が投じてあり、グラファイトはこの鉄粉の周囲に析出する。グラファイトは鉄粉とよく混合させた後、穴径1mmのアルミニウム製カソードに600Nの圧力で充填した。

補注2 測定値について、以下の方法で較正年代を算出した。

年代データの14C BPという表示は、西暦1950年を基点にして計算した14C年代（モデル年代）であることを示す。14C年代を算出する際の半減期は、5,568年を用いて計算することになっている。誤差は測定における統計誤差（1標準偏差、68%信頼限界）である。

AMSでは、グラファイト炭素試料の14C/12C比を加速器により測定する。正確な年代を得るには、試料の同位体効果を測定し補正する必要がある。同時に加速器で測定した13C/12C比により、14C/12C比に対する同位体効果を調べ補正する。13C/12C比は、標準体（古生物belemnite化石の炭酸カルシウムの13C/12C比）に対する千分率偏差 δ 13C（パーミル、‰）で示され、この値を-25‰に規格化して得られる14C/12C比によって補正する。補正した14C/12C比から、14C年代値（モデル年代）が得られる。加

速器による測定は同位体補正効果のためであり、必ずしも14C/13C/12C比を正確に反映しないこともあるため、パレオ・ラボ測定分については、加速器による測定を参考として付す。

測定値を較正曲線IntCal04(14C年代を暦年代に修正するためのデータベース、2004年版) (Reimer et al 2004) と比較することによって暦年代（実年代）を推定できる。両者に統計誤差があるため、統計数的に扱う方がより正確に年代を表現できる。すなわち、測定値と較正曲線データベースとの一致の度合いを確率で示すことにより、暦年代の推定値確率分布として表す。暦年較正プログラムは、国立歴史民俗博物館で作成したプログラムRHC3 (OxCal Programに準じた方法) を用いている。統計誤差は2標準偏差に相当する、95%信頼限界で計算した。年代は、較正された西暦 cal BCで示す。()内は推定確率である。

(引用・参考文献)

今村峰雄2007「炭素14年代較正ソフトRHC3.2について」『国立歴史民俗博物館研究報告』第137集 pp79-88 国立歴史民俗博物館

遠部 慎・宮田佳樹2008a「宮崎県における土器付着炭化物の炭素14年代測定—縄文時代前半期を中心に—」『宮崎考古』20 pp41-54 宮崎県考古学会

遠部 慎・宮田佳樹2008b「鹿児島市湯屋原遺跡の土器付着炭化物の炭素14年代測定」『鹿児島市立ふるさと考古歴史館年報平成20年度』鹿児島市立ふるさと考古歴史館

遠部 慎2009「貝殻文円筒形土器群の炭素14年代測定」『南の縄文・地域文化論考下巻』pp141-153 南九州縄文研究会

木崎康弘1996『蒲生・上の原遺跡』熊本県文化財調査報告第158集 熊本県教育委員会

桑畑光博2015「貝殻文円筒形土器群の14C年代と較正暦年代」
『貝殻文と押型文』平成26年度宮崎考古学会研究会資料集
pp81-90 宮崎考古学会県南例会実行委員会

小林謙一編2007『AMS炭素14年代測定を利用した東日本縄文時代前半期の実年代の研究（課題番号：17520529）平成17～18年度科学研究費補助金基盤研究（C）（1）研究成果報告書』
国立歴史民俗博物館

西本豊弘編2009『弥生農耕の起源と東アジア』 国立歴史民俗博物館

水ノ江和同1998「九州における押型文土器の地域性」『九州の押型文土器－論攷編－』縄文集成シリーズ3 九州縄文研究会

山下大輔2012「宮崎の中原式土器」『九州縄文時代早期研究会』5 九州縄文時代早期研究会

山下大輔2015「南九州における押型文土器研究の現状と課題」
『貝殻文と押型文』平成26年度宮崎考古学会研究会資料集
pp1-18 宮崎考古学会県南例会実行委員会

Reimer, Paula J. et al. 2004 IntCal04 Terrestrial Radiocarbon Age Calibration, 0-26 Cal Kyr BP Radiocarbon 46(3), 1029-1058(30).

Stuiver, M., Reimer, P. J., Bard, E., Beck, J. W., Burr, G. S., Hughen, K. A., Kromer, B., McCormac, F. G., v. d. Plicht, J., and Spurk, M. (1998): INTCAL98 radiocarbon age calibration, 24,000-0 cal BP. Radiocarbon, 40(1), 1041-1083.

Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.

中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎．日本先史時代の14C年代編集委員会編「日本先史時代の14C年代」：3-20，日本第四紀学会．

Reimer, P. J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J. W., Blackwell, P. G., Bronk Ramsey, C., Buck, C. E., Cheng, H., Edwards, R. L., Friedrich, M., Grootes, P. M., Guilderson, T. P., Haflidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T. J., Hoffmann, D. L., Hogg, A. G., Hughen, K. A., Kaiser, K. F., Kromer, B., Manning, S. W., Niu, M., Reimer, R. W., Richards, D. A., Scott, E. M., Southon, J. R., Staff, R. A., Turney, C. S. M., and van der Plicht, J. (2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55(4), 1869-1887.

次五遺跡における放射性炭素年代 (AMS 測定)

(株) 加速器分析研究所

1 測定対象試料

次五遺跡は、鹿児島県志布志市有明町野井倉（北緯 31° 28' 11"、東経 131° 3' 53"）に所在し、シラス台地の縁辺部に立地する。測定対象試料は、集石から出土した炭化物 2 点である（第 1 表）。

遺構の時期は、周囲から出土する土器（石坂式、桑ノ丸式、下剥峯式）により縄文時代早期前葉から中葉頃と考えられている。

2 測定の意義

集石の年代を把握する。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸 (AAA : Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1mol/l (1M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と第 1 表に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO₂) を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- (6) グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

加速器をベースとした ¹⁴C-AMS 専用装置 (NEC 社製) を使用し、¹⁴C の計数、¹³C 濃度 (¹³C/¹²C)、¹⁴C 濃度 (¹⁴C/¹²C) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ¹³C 濃度 (¹³C/¹²C) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表した値である (表 1)。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ¹⁴C 年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中 ¹⁴C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値

の算出には、Libby の半減期 (5568 年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。¹⁴C 年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。¹⁴C 年代と誤差は、下 1 桁を丸めて 10 年単位で表示される。また、¹⁴C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ¹⁴C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2%であることを意味する。

- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ¹⁴C 濃度の割合である。pMC が小さい (¹⁴C が少ない) ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上 (¹⁴C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を第 1 表に、補正していない値を参考値として第 2 表に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ¹⁴C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ¹⁴C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、¹⁴C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは 2 標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ¹⁴C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下 1 桁を丸めない ¹⁴C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13 データベース (Reimer et al. 2013) を用い、0xCalv4.2 較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として第 2 表に示した。暦年較正年代は、¹⁴C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

6 測定結果

試料の測定結果を第 1・2 表に示す。

試料の ¹⁴C 年代は、No. 35 が 8490 ± 30yrBP、No. 263 が 8270 ± 30yrBP である。暦年較正年代 (1σ) は、2 点とも縄文時代早期中葉頃に相当し (小林編 2008)、土器か

ら推定される時期と整合する。

試料の炭素含有率はいずれも 60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

(文献)

Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360

小林達雄編 2008『総覧縄文土器』総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887

Stuiver M. and Polach H. A. 1977 Discussion: Reporting of ¹⁴C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

第1表 放射性炭素年代測定結果 (δ¹³C 補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ ¹³ C (‰) (AMS)	δ ¹³ C 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-161401	No.35	集石 24 号 掘り込み埋土	炭化物	AaA	-29.30 ± 0.24	8,490 ± 30	34.75 ± 0.14
IAAA-161402	No.263	集石 70 号 掘り込み埋土	炭化物	AAA	-29.27 ± 0.22	8,270 ± 30	35.74 ± 0.14

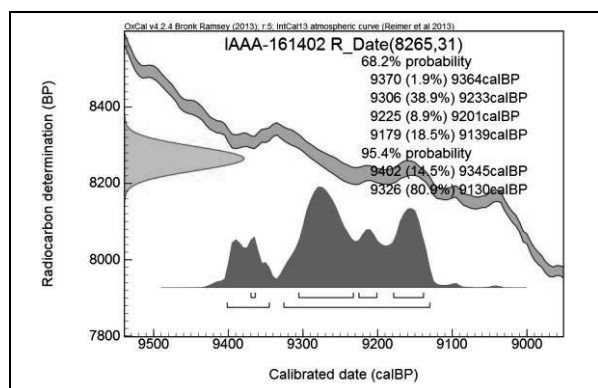
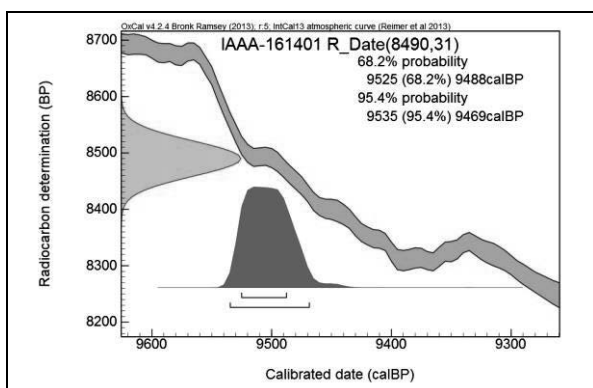
[#8243]

第2表 放射性炭素年代測定結果 (δ¹³C 未補正值、暦年較正用¹⁴C年代、較正年代)

測定番号	δ ¹³ C 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-161401	8,560 ± 30	34.44 ± 0.13	8,490 ± 31	9525calBP - 9488calBP (68.2%)	9535calBP - 9469calBP (95.4%)
IAAA-161402	8,340 ± 30	35.43 ± 0.14	8,265 ± 31	9370calBP - 9364calBP (1.9%) 9306calBP - 9233calBP (38.9%) 9225calBP - 9201calBP (8.9%) 9179calBP - 9139calBP (18.5%)	9402calBP - 9345calBP (14.5%) 9326calBP - 9130calBP (80.9%)

[参考値]

第1図 暦年較正年代グラフ (参考)



第6章 総括

第1節 旧石器時代の調査

本遺跡最東部(1～4区)の11a層において、細石刃文化期の遺物が出土した。なお縄文早期包含層の9層からも細石刃が出土している。

遺物は二つのブロックに分けられ、細石刃核の出土分布をみると、1ブロックに黒曜石1類(三船産類似)素材のもの、2ブロックに珪質頁岩素材のものが認められた。

1ブロックの細石刃核は、下縁調整や側辺調整をあまり行わずに礫面が残る野岳型と考えられるもの(1・2)や平坦面に打面を設置し、打面調整を行わない船野型(5)が認められる。2ブロックのものは全て宮崎野部に顕著に分布する畦原型である。野岳型と船野型は時期的・技術的な近似性が指摘されており、畦原型は技術的に船野型に含まれることが指摘されている(芝2011他)。したがって、本遺跡資料はあまり時期差がないものと考えたい。

第2節 縄文時代早期の調査

本遺跡の中心となる時代である。アカホヤ火山灰層下位の8・9層から土器や石器が出土し、集石や土坑、連穴土坑、落とし穴が検出されている。

1 遺物

(1) 土器

各類土器の特徴をもとに既存の土器型式に比定すると、以下のとおりである。

1類：岩本式

2類：前平式

口縁部が小波状を呈する、いわゆる「発生段階の角筒形」(黒川1998)も認められる。

3類：前平式の角筒形または志風頭式

「上角下円筒形」を呈しており、これも「発生段階の筒形」である。

4類：加栗山式

5類：小牧3A段階(前迫2000)

6類：吉田式

楔形貼付文が認められないことから、吉田式Ⅱ段階(前迫2000)、吉田Ⅱ式(上杉2003)に比定できる。

7類：岩之上段階(黒川2002)

8類：札ノ元Ⅶ類土器(黒川2004)

9類：倉園B式

10類：石坂式

口縁部が外反する10-1類は石坂Ⅰ式(前迫2003)、口縁部が直行する10-2類は石坂Ⅱ式に比定できる。10-2類の中でd類とした、横位の貝殻刺突文を器面全体に施し、綾杉状の貝殻痕文が施されない資料(141・142)は石坂Ⅱ式の範疇に含まれてはいるものの、その存在はとても少ない。前迫氏が指摘するように(前迫1993)、文様は下剥峯式に近い。後続する下剥峯式との関係を考える上で注目される資料である。

11類：倉園B式または石坂Ⅱ式

12類：東九州系の無文土器

13類：中原Ⅳ式

14類：下剥峯式

15類：桑ノ丸式

16類：辻タイプ

栗畑光博氏によると、典型的な辻タイプは浅い短沈線文を丁寧に施しているという。つまり、290は典型的な辻タイプと言える。一方、291～293は短沈線文を粗雑に施していることから、典型的な辻タイプを模倣した土器の可能性はある。

17類：押型文土器

18類：手向山式

ミミズばれ文を施す303は手向山2式(横手1998)、突帯文や沈線文を施す302・304は手向山3式に比定できる。

19類：塞ノ神A式の深鉢形土器

区画沈線文を施さないことから、塞ノ神Aa式に比定できる。

20類：塞ノ神A式の壺形土器

東九州系無文土器について 12類とした無文土器は、内外面ともにナデ調整を行い、胎土に石英・長石類と繊維状のものを含み、器壁厚が約0.5cmと薄いなどの特徴から、東九州系の無文土器に比定した。

大分県と宮崎県の東九州地域において無文土器は草創期末から押型文土器出現期以前の早期前半に位置づけられている。東九州系の無文土器は綿貫俊一氏により、主に底部形態の変化を軸にした編年が行われている(綿貫1993・2008)。

本資料は外傾する口縁部から尖底となる底部へそのまま至る器形を呈すると考える。底部形態が確定できないために型式比定は難しいが、薄手でナデ調整を行うことから、第3段階の高並垣式の可能性が高いと考える。

次に本資料に伴う在地の土器型式を考えたい。分布状況をみると、前平式または吉田式・岩之上段階・倉園B式と重なる。綿貫氏によれば、政所式は底部形態の類似性から第3段階に含まれる可能性が高いとされる。また、鹿児島市フミカキ遺跡では連穴土坑内で政所式と吉田式が相伴している(鹿児島県埋セ2004)。したがって、吉田式と高並垣式そして政所式が併行関係にあり、本資料は吉田式後半期の搬入品である可能性が高いと考える。

なお、本遺跡では小牧3A段階までは縦長の補修孔、吉田式以降は円形の補修孔となる。高並垣式に比定した本資料も円形の補修孔であり、併行関係を示唆するものであろうか。

整理作業当初、本資料の位置づけが分からずに型式不明土器としていた。しかし、栗畑光博氏から東九州地域の無文土器の可能性を指摘され、初めて認識した次第である。宮崎県内では宮崎市清武町五反畑遺跡B地点(清武町教委2010)などで出土している一方、鹿児島県内では現在のところ筆者の知る限り報告されていないようである。無文土器のために見落とされている可能性もあろう。今後大隅半島側の調

査を行う際は、東九州系の無文土器が出土する可能性も意識しておく必要がある。

札ノ元VII類土器について 札ノ元VII類は、加栗山式後半～吉田式前半期において東南九州に分布する地域性の強い土器とされる(黒川2004)。本遺跡での分布状況を見ると、札ノ元VII類は加栗山式や小牧3A段階ではなく、吉田式と重なっている。ただし、注意したいのが本遺跡の吉田式が後半期のものということである。となると、札ノ元VII類の存続期間が吉田式後半期まで下る、あるいは吉田式前半期において本遺跡では札ノ元VII類が主体的存在であったという、どちらかの見解が考えられる。

ここで注目したいのが84である。この資料は胴部に貝殻押引文ではなく、横位の貝殻条痕文を施している。胴部に横位の貝殻条痕文を施す札ノ元VII類の存在を知っていた人物が製作した模倣土器とも捉えることができる。つまり、札ノ元VII類の存続期間が吉田式後半期まで下る可能性を指摘できる。

下剥峯式・辻タイプ・桑ノ丸式について これらの土器群は山下大輔・柴畑光博氏によって、下剥峯・桑ノ丸式系土器群としてまとめられ、I期とII期に区分されている(山下・柴畑2007)。両氏は、下剥峯系列(従来の下剥峯式)はほぼI期におさまり、辻タイプはI期において下剥峯系列に併行する地域的な土器群としている。一方、桑ノ丸系列(従来の桑ノ丸式)のうち、口縁部文様帯を有し、胴部に鋸歯状モチーフを縦方向に展開するもの(267～272)をI期、羽状モチーフを横方向に展開するもの(276・280等)をII期に位置づけた。

以上から、14類と16類、15-1類は下剥峯・桑ノ丸式系土器群I期に、15-2類は同II期に位置づけられる。

ところで、193のように「く」字状に強く内湾する下剥峯式はこれまで鹿児島県内において認められていない。一方宮崎市清武町白ヶ野第2・第3遺跡では、桑ノ丸式(下剥峯・桑ノ丸式系土器群I期)ではあるが、同様の器形が認められる(宮崎県埋せ2002)。このような器形がどのように出現したのかは今後の課題となるが、志布志地域と宮崎平野部の関係を考える上で注目される資料である。

分布状況について 早期土器は15区以东にそのほとんどが出土しており、大まかに言えば4～6区に走る谷部の両側(第1エリアと第2エリア)に分布が偏る。

型式ごとの分布を見ると、前平式は両エリア、加栗山式・小牧3A段階は第1エリア、吉田式・岩之上段階・倉園B式は第2エリア、石坂I式は第2エリア、石坂II式は両エリア、下剥峯式は両エリア、桑ノ丸式は第1エリア、手向山式は第1エリア、塞ノ神A式は第1エリアに認められる。このように型式ごとに出土分布域が異なっている。つまり、本遺跡は当時の生活領域として継続的に利用されていたが、細かく見れば時期によって利用場所を漸移的に移動していたことが看取できる。

(2) 石器 (第24表参照)

まず石器組成について、石鏃と磨石・敲石類がほぼ同率で多く、次いで石錘となる。石鏃はIIIa類が多い。磨石・敲石類はI類(磨石)が多く、Vb類(敲石)が続く。石錘は短軸打欠石錘がほとんどである。

石材は、曾於市財部町大川原に原産地のあるチャート(宮田2002、黒川2014)が全体の約55%を占める。本遺跡出土のチャートも大川原

産が含まれているようである。

次いで多いのが、南九州の黒曜石原産地の中で最も地理的に近い黒曜石1類(三船産類似)と砂岩である。遠隔地石材である黒曜石4～6類の利用はかなり少なく、本遺跡では在地系の石材利用が中心となる。

器種別の石材について、剥片石器類はチャートと黒曜石1類、石斧は頁岩、磨石・敲石類と石錘は砂岩が多く利用されており、器種に応じた石材利用が看取できる。

石鏃について、IIb類やIII類ではチャートの利用が顕著である。IV類(大久保型石鏃)はギョクズイが利用されている。大久保型石鏃はギョクズイが多用されることが指摘されており(藤木2009b)、本遺跡の様相もそれに合致する。いわゆる小型正三角形鏃を含むIa類では黒曜石1類がその大半を占める。小型正三角形鏃を含む小型石鏃は桑ノ木津留・上青木産黒曜石との強い相関性が指摘されているが(馬籠2003)、本遺跡では1点のみの出土に留まる。地理的要因から桑ノ木津留・上青木産黒曜石の入手が困難であったため、石材を転用した可能性もあろう。

時期について土器分布状況から全体的な傾向を判断すると以下のとおりである。

1～4区出土石器：前平～小牧3A段階期、石坂II式～下剥峯・桑ノ丸式系土器群II期、手向山式期、塞ノ神Aa式期のいずれか。

9～15区出土石器：前平式期、吉田～下剥峯・桑ノ丸式系土器群II期、塞ノ神Aa式期のいずれか。

主に石坂式や中原式に伴うことが指摘されている大久保型石鏃は1～4区で出土しており、石坂II式期に属する可能性がある。押型文土器期前後の土器に伴うと考えられているトロトロ石器は1～4区で出土しており、下剥峯・桑ノ丸式系土器群I・II期に属する可能性がある。異形石器は塞ノ神Aa式の分布に近く、当該期に属する可能性がある。

短軸打欠石錘について 縄文早期の短軸打欠石錘は押型文土器期を中心に認められるようになり(藤木2009a)、宮崎県内では全域、鹿児島県内では志布志湾沿岸に分布している(藤木2003・東2005)。志布志湾沿岸でも、志布志市仕明遺跡(有明町教委2005a)や横堀遺跡(有明町教委2005b)、夏井土光遺跡(志布志町教委1991)、そして大崎町平良上C遺跡(鹿児島県埋せ2017)など、主に北岸域で出土しており、地域的に限定された石器の可能性もある。

用途について、藤木聡氏は漁網錘以外の可能性を指摘している(藤木2009a)。本遺跡資料の中にも、最大幅3cm前後のかなり小さなものもあり、編物用錘の可能性もあろう。なお、本遺跡資料のようにかなり小さなものがあるため、発掘調査の際に見落して、廃棄してしまう可能性も高く、今後注意したい石器である。

(3) 小結

本遺跡では、早期初頭の岩本式から早期中葉の手向山式までの早期前半の土器群がほぼ認められている。細かく見れば吉田式前半期は認められないものの、本遺跡が当時の人々にとっての生活領域として継続的に利用されていたことが分かる。そして、倉園B式、石坂II式、下剥峯・桑ノ丸式系土器群の出土量が多いことから、当該期にはより活発に利用されていたと考える。手向山式期以降は一時期生活領域としては利用されないが、早期後葉の塞ノ神A式期に再び利用される。

第24表 縄文早期石器組成表

器種	1 黒曜石 類	2 黒曜石 類	3 黒曜石 類	4 黒曜石 類	5 黒曜石 類	6 黒曜石 類	チャ ート 1 類	チャ ート 2 類	チャ ート 3 類	ギョ クズ イ	鉄石 英	頁 岩 珪 質	安 山 岩 玻 璃 質	水 晶	頁 岩	砂 岩	安 山 岩	凝 灰 岩	花 崗 岩	合 計	百 分 率	
石織	1a	4		1					2	1			1							9	107	6.9%
	1b	1				1	2		2	1	1									8		
	2a	3				1						1	1							6		
	2b								5											5		
	2c	2																		2		
	3a	3				1	1	5	4	9	1		8		1					33		
	3b							4	3	1						1				9		
	3c					1			1	2				1						5		
	3d	1						1	3	3										8		
	4										2									2		
	5														2					2		
6														2					2			
未製品								2				2	2		2				8			
欠損品	2			1	1	2		1	1										8			
トトロ石器								3												3	0.2%	
異形石器									1											1	0.1%	
スクレイパー	1		1										1		1					4	0.3%	
二次加工剥片	10	5		1			1		5						2	1				25	1.6%	
微細剥離痕剥片	5			2			3	4	12						1					27	1.7%	
石斧															12					12	0.8%	
磨製石器															1					1	0.1%	
磨石・ 敲石類	1															64	3	1	2	70	113	7.3%
	2															15				15		
	3																			2		
	4															5				5		
	5a															1				1		
5b											1				19				20			
石皿															3					3	0.2%	
石錘	短軸														1	31		1		33	40	2.6%
	長軸															7				7		
石核	10			1	2		2	9	6	3		4								37	2.4%	
原礫	4									1			1							6	0.4%	
剥片/砕片	99	69	1	82	28	11	241	34	472		7	11	69	6	34		2			1166	75.5%	
合計	145	74	3	87	34	15	259	64	521	8	10	18	84	6	60	148	5	2	2	1545		
百分率	9.4%	4.8%	0.2%	5.6%	2.2%	1.0%	16.8%	4.1%	33.7%	0.5%	0.6%	1.2%	5.4%	0.4%	3.9%	9.6%	0.3%	0.1%	0.1%			

遺物からみると、本遺跡は宮崎県中・南部との関係が深いことがわかり、南九州の中でも強い地域性がうかがえる。本遺跡を含む志布志地域は他地域からの土器型式が搬入されやすい地域でもあり、他地域との併行関係を検討する上で最適な地域とも言える。

2 遺構

(1) 落とし穴

4基検出された落とし穴は、全て調査区の最西部(20～23区)で検出された。傾斜地に認められており、台地下から登るための獣道上に造られたと考える。

1号と2号、3号と4号はそれぞれ長軸が揃っている。1・2号は形態・規模もほぼ同じであることから、同時に造られた可能性が高い。一方、3・4号は形態・規模が一致していないため、別時期に造られた可能性がある。

落とし穴が造られた時期は、人間がこの場所を生活領域として利用していなかった時期、つまり土器型式が欠落している時期と考える。具体的には、手向山式期以降から塞ノ神Aa式期以前、または塞ノ神Aa式期以降からアカホヤ火山灰降下以前であろう。

(2) 連穴土坑

3基検出された連穴土坑は、調査区において散在して検出された。全て傾斜地に立地しており、標高が高いように煙出部が位置する。

連穴土坑が認められる時期は草創期～下剥峯式期とされる(新東2005他)。本遺跡でも、出土土器からみると前平式期～下剥峯・桑ノ丸式系土器群I期のいずれかの時期に位置づけられる。連穴土坑1号の場合、検出面よりも上位で石坂Ⅱ式の口縁部片が出土している。石坂Ⅱ式の時期には、この連穴土坑は既に埋没していたと考えることが

できるため、構築時期は前平式～小牧3A段階期の可能性が高い。

用途について、南九州では一般的に燻製施設と考えられている。最近、山田猛氏は連穴土坑(煙道付炉穴)の用途を、堅果類の乾燥貯蔵が目的で、燻製目的は副次的なものとの見解を示している(山田2015)。本遺跡でも磨石・敲石類が多く出土しており、連穴土坑を堅果類の乾燥貯蔵の目的で使用した可能性もある。

(3) 土坑

74基検出された土坑のほとんどは4～6区に入る谷部を挟んだ両側で検出した。そしてその約90%が全長1.5m未満のもの(Ⅲ・Ⅳ類)である。

Ⅲ・Ⅳ類のほとんどは、土坑検出面上位から出土する被熱破砕礫と分布が重なっており、本来は集石の掘り込みであった可能性が高い。つまり、掘り込みをもつ集石であったものが、調査時に礫のまとまりがなく、集石と認定できなかったため、土坑として検出されたと考えられる。C-2区において土坑が集中しているが、一方で集石が認められないことも上記のことが要因と考える。

全長1.5m以上のもの(Ⅰ・Ⅱ類)の中で、2mを越える土坑24・43・45・50号は堅穴建物とは確定できなかった。しかし、これらは比較的標高の高い場所に立地しており、意図的な構築をうかがわせる。

土坑の構築時期は土器分布状況から判断すると、上述した石器同様の時期と考える。

(4) 集石

集石は128基検出し、集石に伴う被熱破砕礫も膨大な数出土している。調査当初はほぼ全ての礫に番号を付して取上げていたが、調査の高率化のために職員の確認後に約5cm未満のものは現場で破棄した。

したがって、被熱破砕礫の分布図は出土した礫全てを表したものではないことに注意されたい。

出土した礫を取上げながら、礫がある程度まとまっている箇所を集石として認定した。そのため、本来集石であったものを礫のまとまりがないために、被熱破砕礫として取上げたものも少なからずあると考える。また上記の認定方法を採ったため、集石範囲は恣意的になっていることも否めない。礫が調査範囲に満遍なく出土することが多く、特に1～5区では礫を取上げてもその直下から礫が出土するという状況であったため、平面的・垂直的にどこまでの範囲を一つの集石として認定するのかという問題で頭を悩ませていたことも事実である。

集石の分布は遺物や土坑同様、4～6区の谷部を挟んだ両側にそのほとんどがみられる。集石29～32号のように傾斜地でも検出している。

検出された集石のうち、掘り込みが確認できたものが85基あり、掘り込み内にも礫が認められるものと認められないものが半々である。礫と掘り込み検出面とにレベル差があるもの(Ⅱ類)は集石と掘り込みが別のも——既に埋没していた土坑の上に集石を構築した——である可能性もあろうが、そのほとんどは掘り込み埋没過程で埋土上位に礫が集中した状態であると考えたい。

構成礫は、最大長が5～7cmのものが多い一方で、集石76・116号のように非破砕の礫が密集するものも認められる。これらは分布において特に偏りはない。時期によって利用する礫が異なっている、あるいは使用回数によるもの、あるいは利用する礫を意図的に変えているなどの要因が指摘できる。

土器の分布状況からみても同じ場所を何度も利用していることがうかがえる。つまり、既にあった集石の礫や散在している礫を再び集石として利用し、最後に利用した状態の集石を調査時に検出していると考えることができる。レベル的に下位のものは古い時期の可能性もあろうが、第1～3エリアで検出した集石の多くは出土した土器群の中でも新しい時期である下剥峯・桑ノ丸式系土器群Ⅰ・Ⅱ期、または塞ノ神A式期に属する可能性が高いと考える。集石24・70号出土炭化物の¹⁴C年代測定結果を早期前半の各土器型式の較正暦年代(柴畑2015)と比較すると桑ノ丸式期に含まれていることも、上記の見解と矛盾しない。なお、第4エリアの集石は押型文土器期の可能性がある。

(5) 小結

本遺跡では集石と連穴土坑は検出されたが、堅穴建物は検出されていない。今回の調査範囲外に堅穴建物が存在する可能性もあろうが、堅穴建物が伴わずに集石と連穴土坑が検出される遺跡は市内にも下堀遺跡(有明町教委2004)や横堀遺跡、稲荷迫遺跡(鹿児島県埋セ2012)、高吉B遺跡(鹿児島県埋セ2014)などがある。

石器集中部(ブロック)が確認され、磨石・敲石類も数多く出土している状況を含めて考えても、本遺跡は「断続的な移動(回遊的な狩猟行為)の際のキャンプサイト」(岡本・堂込・東2014)として利用されていたと考える。

第3節 縄文時代前期以降の調査

調査区最東部(3・4区)のアカホヤ火山灰層下位または8層上面において落とし穴を3基検出した。谷部で検出されており、台地から登るための獣道上に造られたと考える。

全て長軸が等高線に沿った状態で揃っており、形態・規模もほぼ同

じで、約10mの等間隔で検出されたことから、これらは同時に造られたと考える。隅丸長方形を呈する平面形態から、縄文中期に位置づけられる。

縄文前期以降の遺物は出土していないことから、縄文中期に狩猟の場として利用された以外は、人間活動の痕跡は認められない。

第4節 弥生時代以降の調査

表土や造成土から弥生中期の山ノロⅡ式や古代の遺物が出土しているが、今回の調査の中心とはならない。当該期の包含層が削平されていることや当該期における遺跡の中心から外れていることが推測される。

(引用・参考文献) ※調査報告書は割愛した。

上杉彰紀 2003『南九州の縄文時代早期前半期に関する覚書』『立命館大学考古学論集』Ⅲ

岡本貢一・堂込秀人・東和幸 2014『第7章総括』『船迫遺跡・高吉B遺跡』鹿児島県埋蔵文化財センター発掘調査報告書(180)

黒川忠広 1998「角筒土器の発生に関する一予察」『南九州縄文通信』12

黒川忠広 2002a『南九州貝殻文系土器Ⅰ—鹿児島県』

黒川忠広 2004「南九州貝殻文系土器に見られる地域性について」『縄文の森から』2

黒川忠広 2014「石器石材としての大川原産珪質岩」『縄文の森から』7

柴畑光博 2015「貝殻文円筒形土器群の¹⁴C年代と較正暦年代」『貝殻文と押型文』平成26年度宮崎考古学会研究会資料集

芝康次郎 2011『九州における細石刃石器群の研究』

新東晃一 2005「九州の連穴土坑の再検討」『南九州縄文通信』16

東徹志 2005「有明町仕明遺跡・横堀遺跡 報告書未掲載遺物の報告ほか」『南九州縄文通信』16

藤木聡 2003「宮崎県の錘具の変遷と分布」『先史学・考古学論究』Ⅳ

藤木聡 2009a「打穴石錘の用途と切目石錘の来歴」『九州における縄文時代の漁撈具』第19回九州縄文研究会長崎大会発表要旨・資料集

藤木聡 2009b「玉髄を携えた縄文人と2つの矢」『南の縄文・地域文化論考』上巻

前迫亮一 1993「倉園B遺跡の再検討Ⅰ」『南九州縄文通信』7

前迫亮一 2000「大隅半島中南部域における縄文時代早期前半期土器の変遷」『大隅遺跡』根占町埋蔵文化財発掘調査報告書(9)

前迫亮一 2003「石坂式土器再考」『研究紀要 縄文の森から』創刊号

馬籠亮道 2003「桑ノ木津留産黒曜石と縄文時代早期の小型石鏃について」『Stone Sources』2

宮田栄二 2002「鹿児島県の非黒曜石原産地について」『Stone Sources』1

山下大輔・柴畑光博 2007「南九州貝殻文円筒形土器と押型文土器の関係」『縄文時代』18

山田猛 2015『どんぐり考古学』

横手浩二郎 1998「押型文土器様式最末期の様相」『古文化談義』41

綿貫俊一 1993「九州の縄文時代草創期末から早期の土器編年に関する一考察」『古文化談義』42

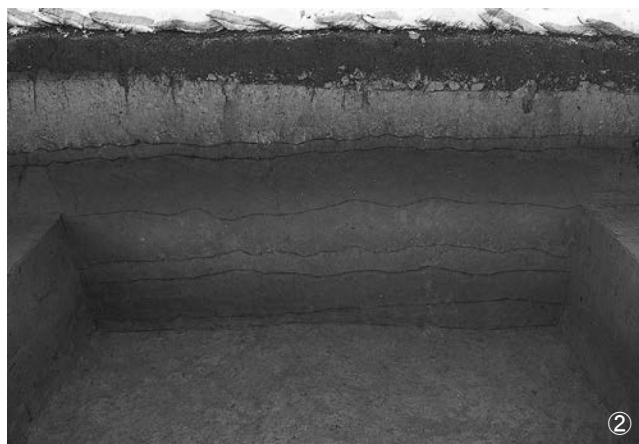
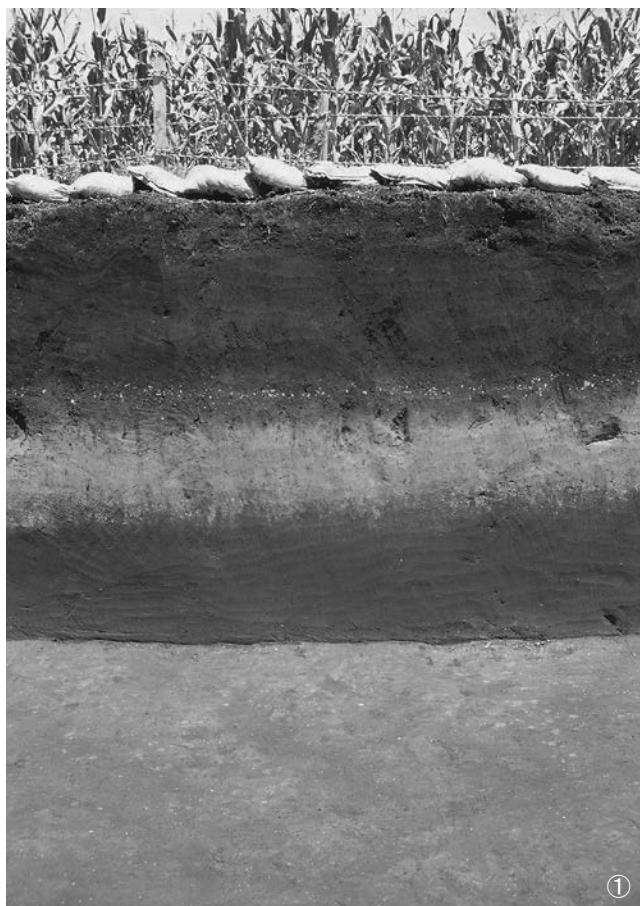
綿貫俊一 2008「西南日本の無文土器」『総覧縄文土器』

圖 版

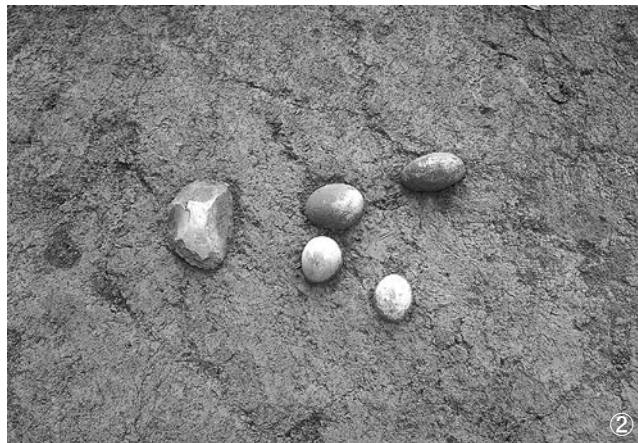


遺跡遠景（北西から）

図版 2

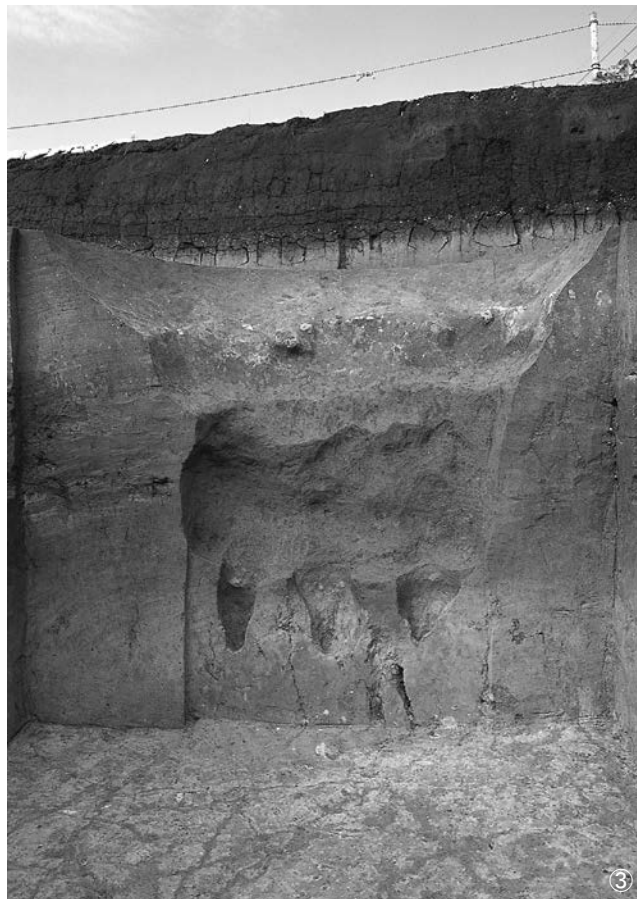


①B-12区北壁 ②C-16区西壁 ③D-3区作業風景 ④D-1・2区南壁 ⑤E-4～6区南壁 ⑥C・D-22区西壁 ⑦B・C-18・19区北壁

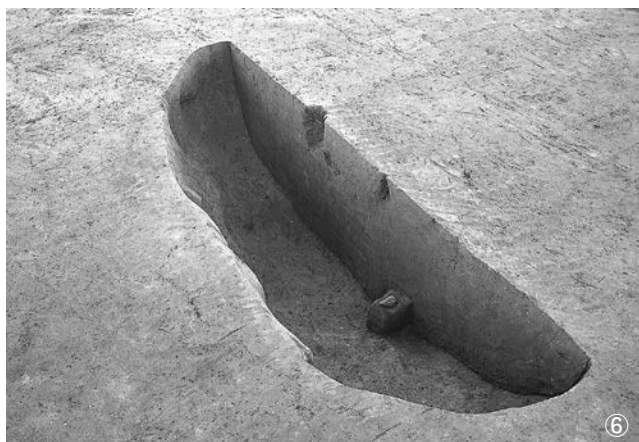
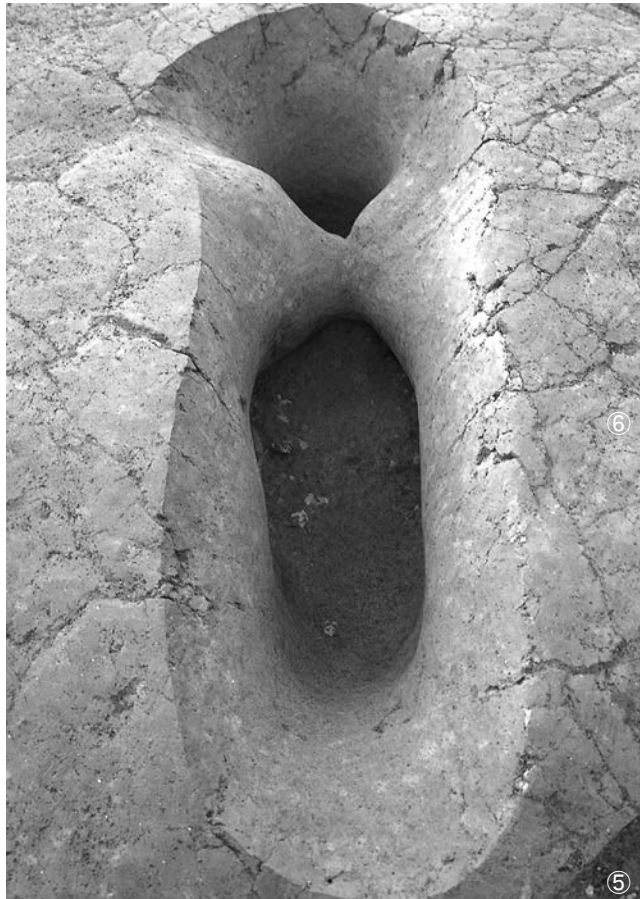
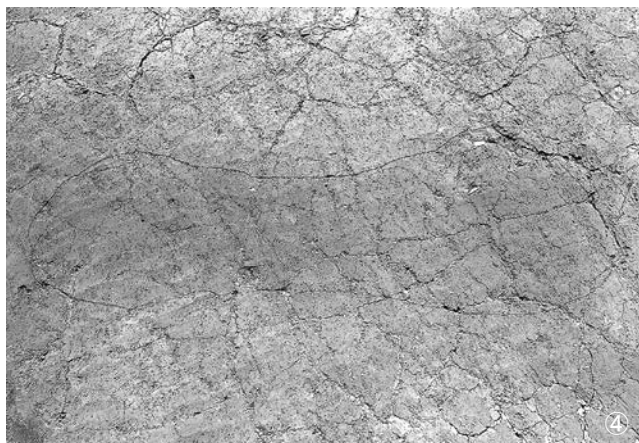


①・②B-2区11a層遺物出土 ③D-2区9層遺物・礫出土 ④D・E-7・8区9層礫出土 ⑤B・C-16・17区9層礫出土
⑥C・D-14・15区9層礫出土 ⑦E・F-13・14区9層礫出土 ⑧D~F-9・10区9層礫出土

図版 4

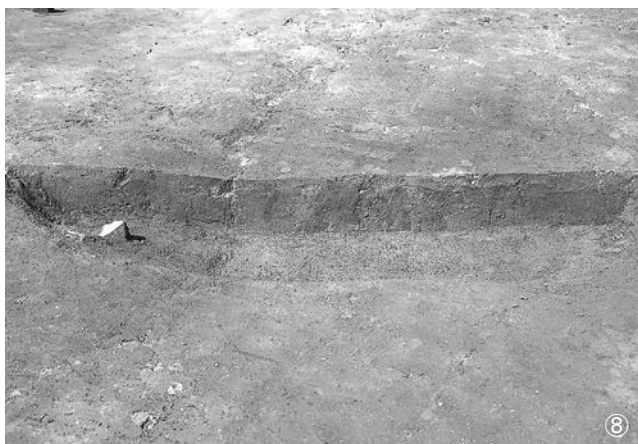
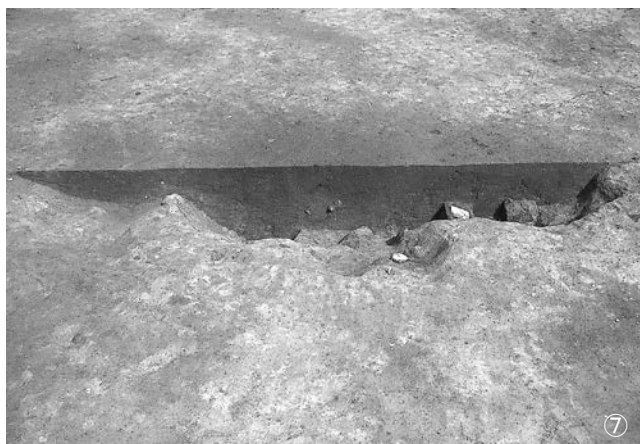
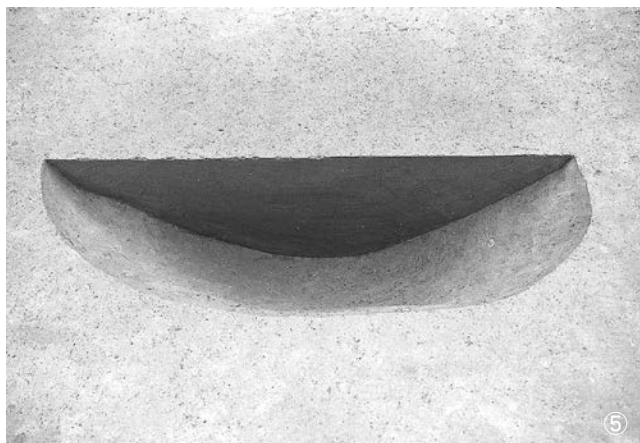
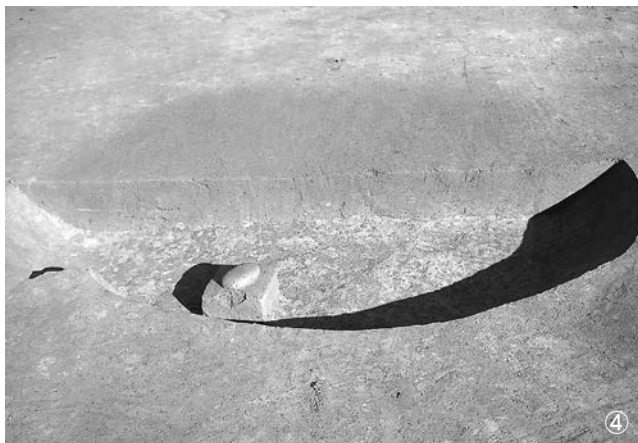


①落とし穴1号検出 ②落とし穴1号埋土 ③落とし穴1号裁ち割り ④落とし穴2号半裁 ⑤落とし穴2号裁ち割り ⑥落とし穴3号半裁 ⑦落とし穴3号裁ち割り

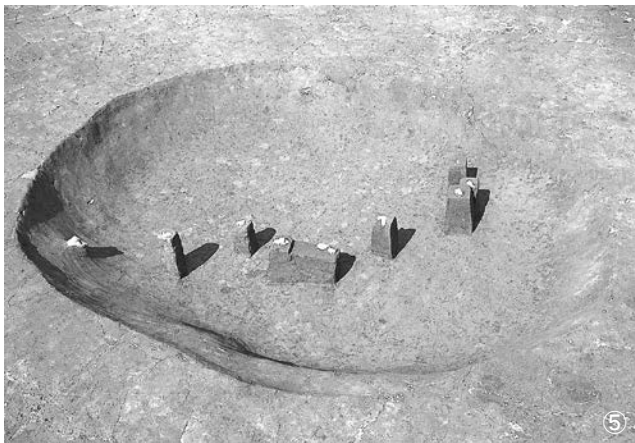
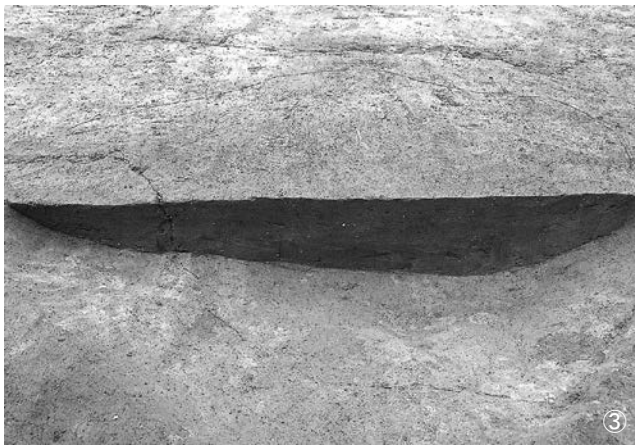
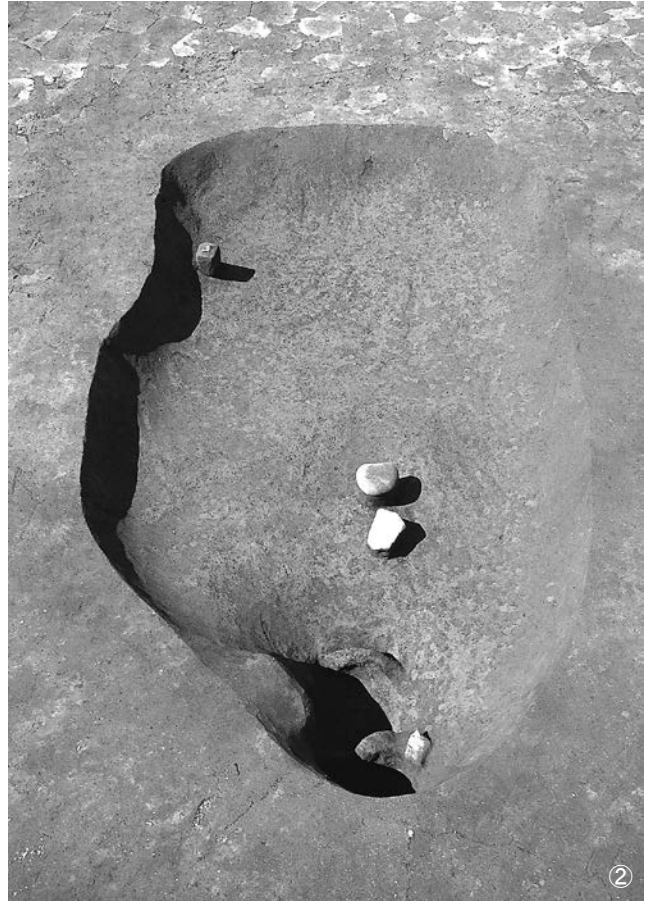
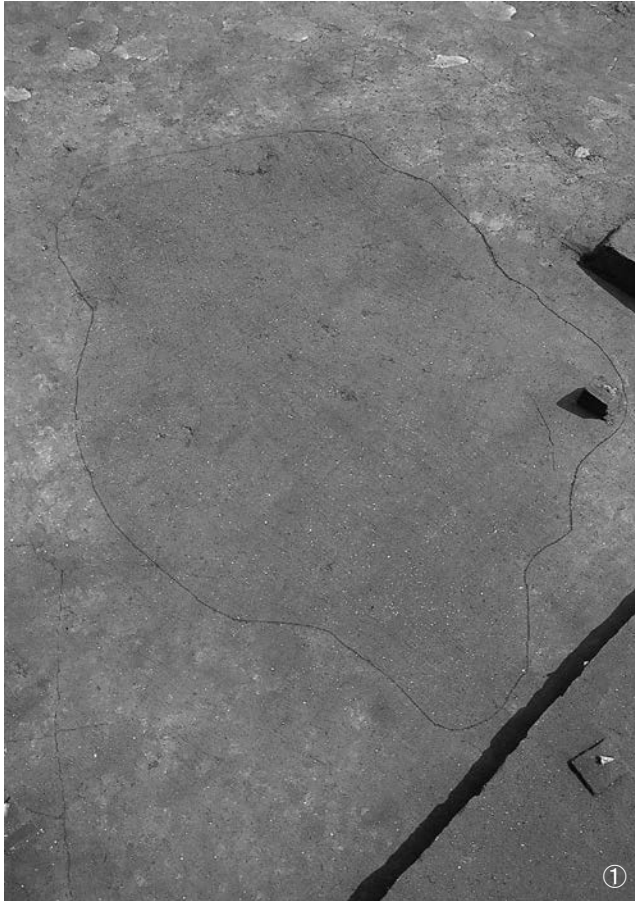


①落とし穴 4号半裁 ②落とし穴 4号完掘 ③落とし穴 4号裁ち割り ④連穴土坑 2号検出 ⑤連穴土坑 2号完掘 ⑥連穴土坑 3号半裁

图版 6

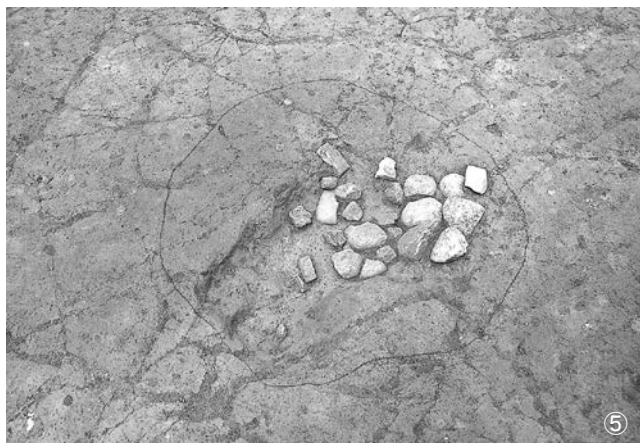


①連穴土坑 1 号完掘 ②土坑 11 号完掘 ③土坑 22 号半截 ④土坑 24 号半截 ⑤土坑 29 号半截 ⑥土坑 33 号完掘 ⑦土坑 9 号半截
⑧土坑 93 号半截

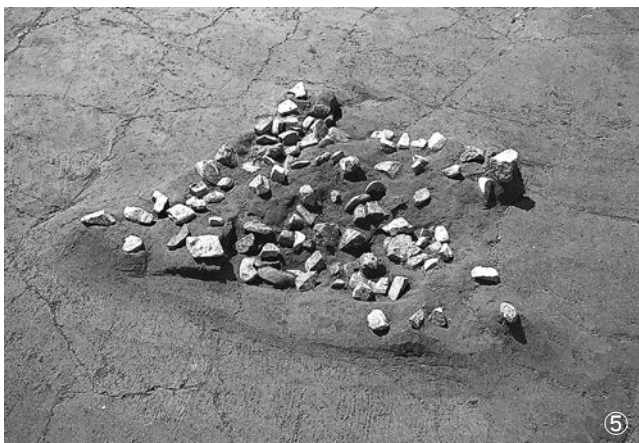
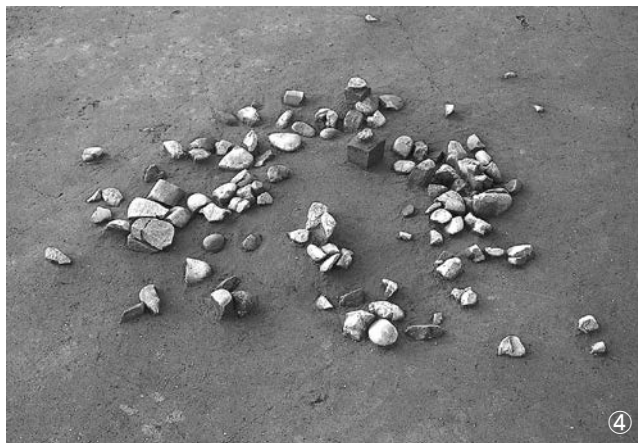


①土坑45号検出 ②土坑45号完掘 ③土坑100号半裁 ④土坑50号半裁 ⑤土坑50号完掘 ⑥C~E-2・3区10層上面

図版 8

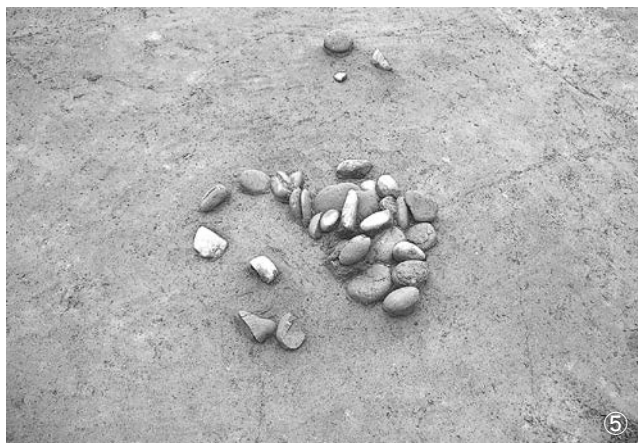
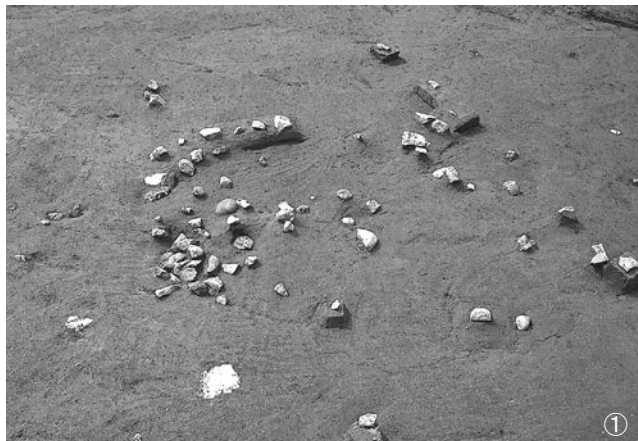


① E・F-13区石器集中部 ② E-11区石器集中部 ③ 集石 4号検出 ④ 集石 18号検出 ⑤ 集石 13号検出 ⑥ 集石 7号検出
⑦ 集石 23・24号検出

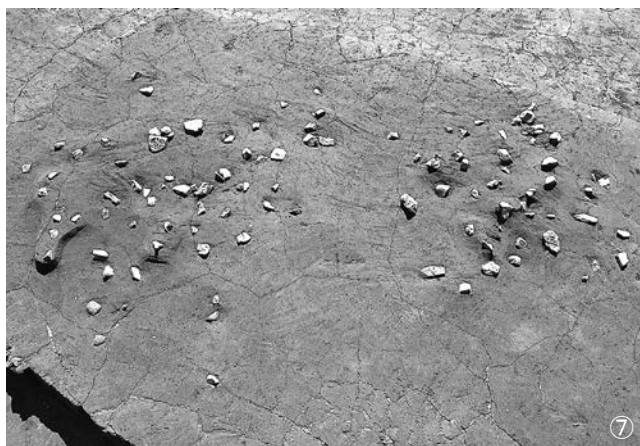
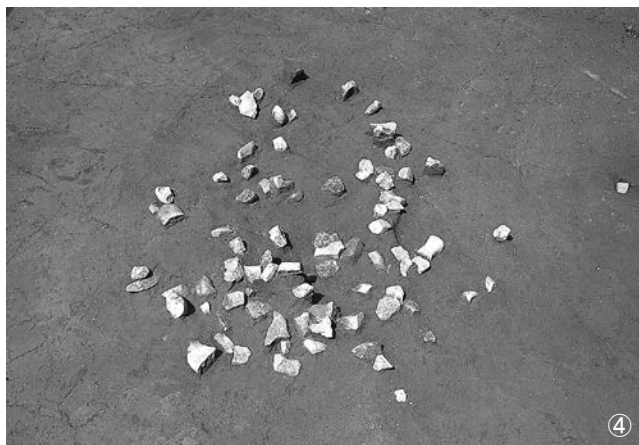


①集石35号検出 ②集石29・30号検出 ③集石31号検出 ④集石44号検出 ⑤集石45号検出 ⑥集石43号掘り込み検出 ⑦集石40号検出 ⑧集石59号検出

図版10

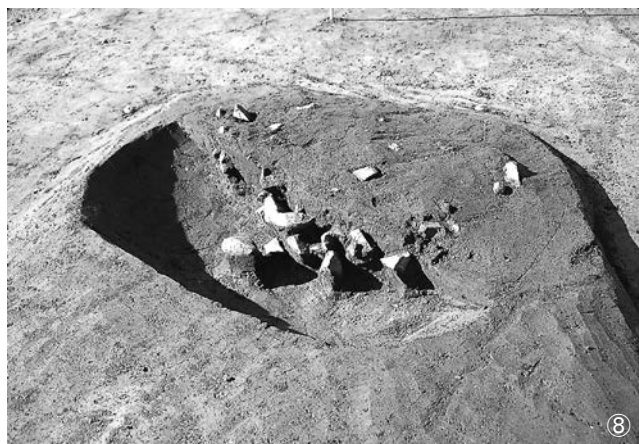
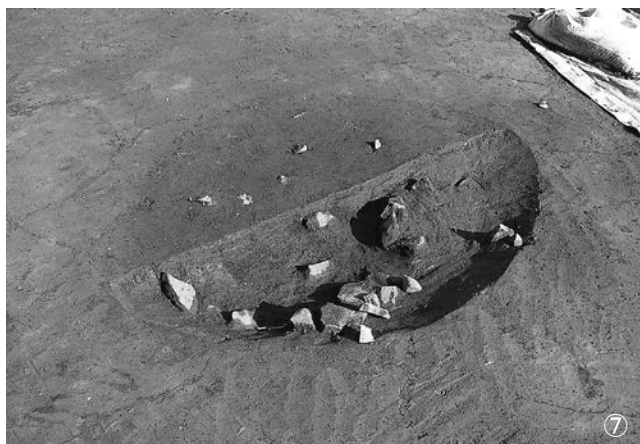
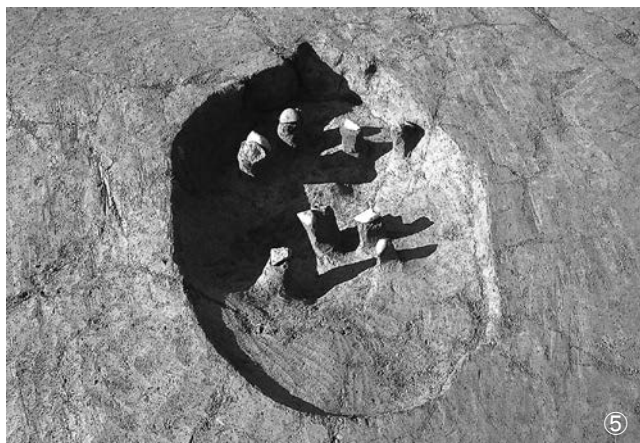
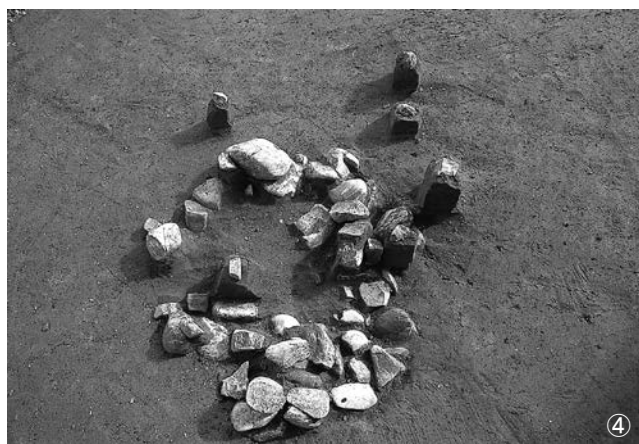
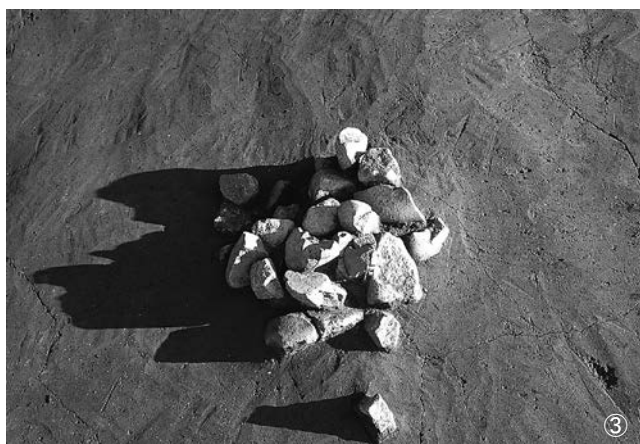
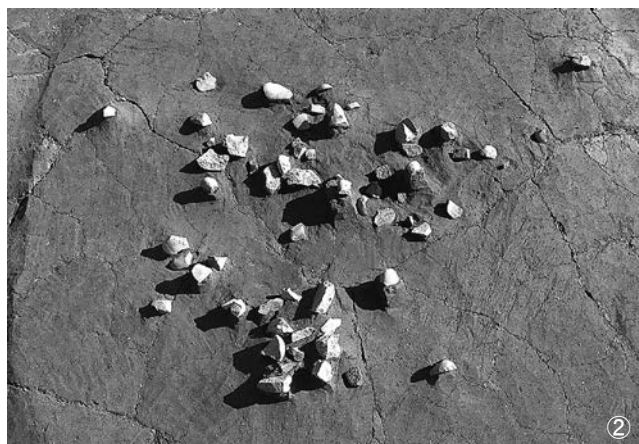


①集石66号検出 ②集石65号検出 ③集石67号検出 ④集石69・70号検出 ⑤集石74号検出 ⑥集石75・76・77号検出 ⑦集石70号掘り込み検出 ⑧集石80号検出

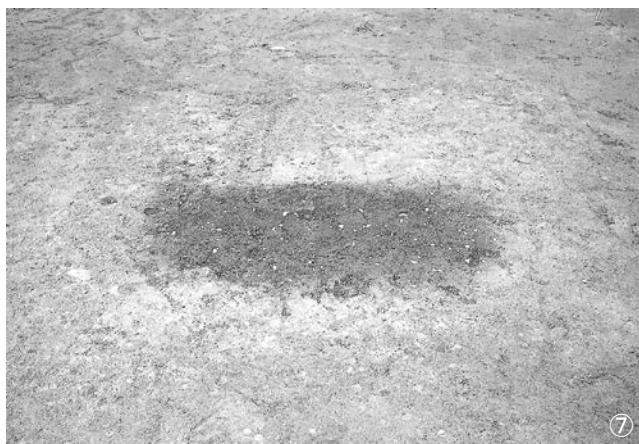
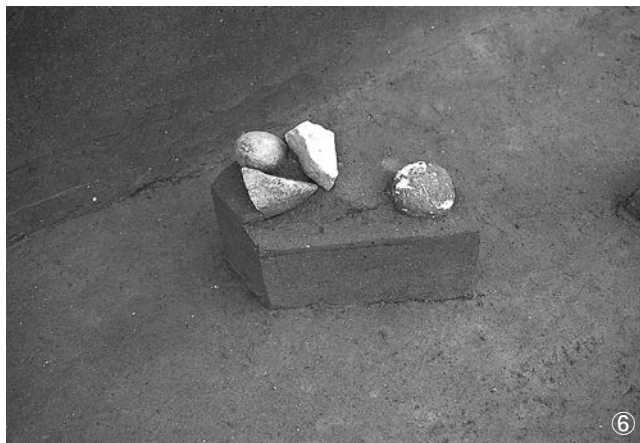
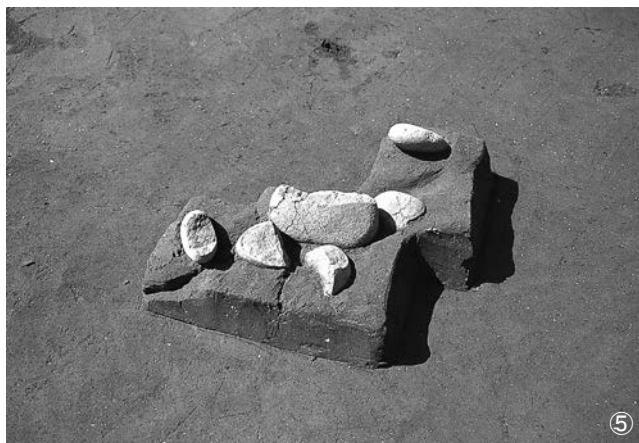


①集石78号検出 ②集石81号検出 ③集石84号検出 ④集石87号検出 ⑤集石89・90号検出 ⑥集石97号検出 ⑦集石100・101号検出

図版12

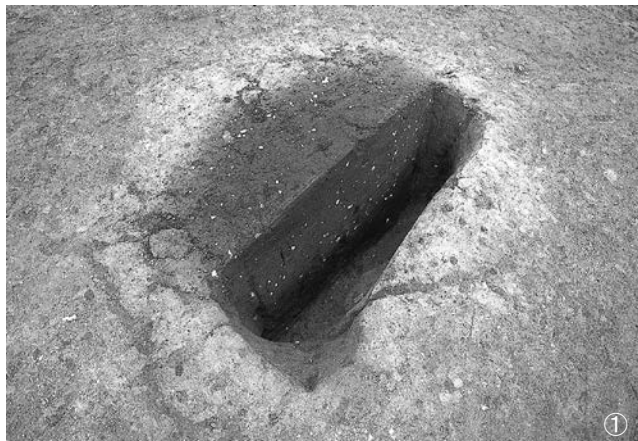


①D・E-8・9区集石群検出 ②集石112号検出 ③集石116号検出 ④集石117号検出 ⑤集石129号掘り込み完掘 ⑥集石119号検出 ⑦集石33号半裁 ⑧集石27号半裁

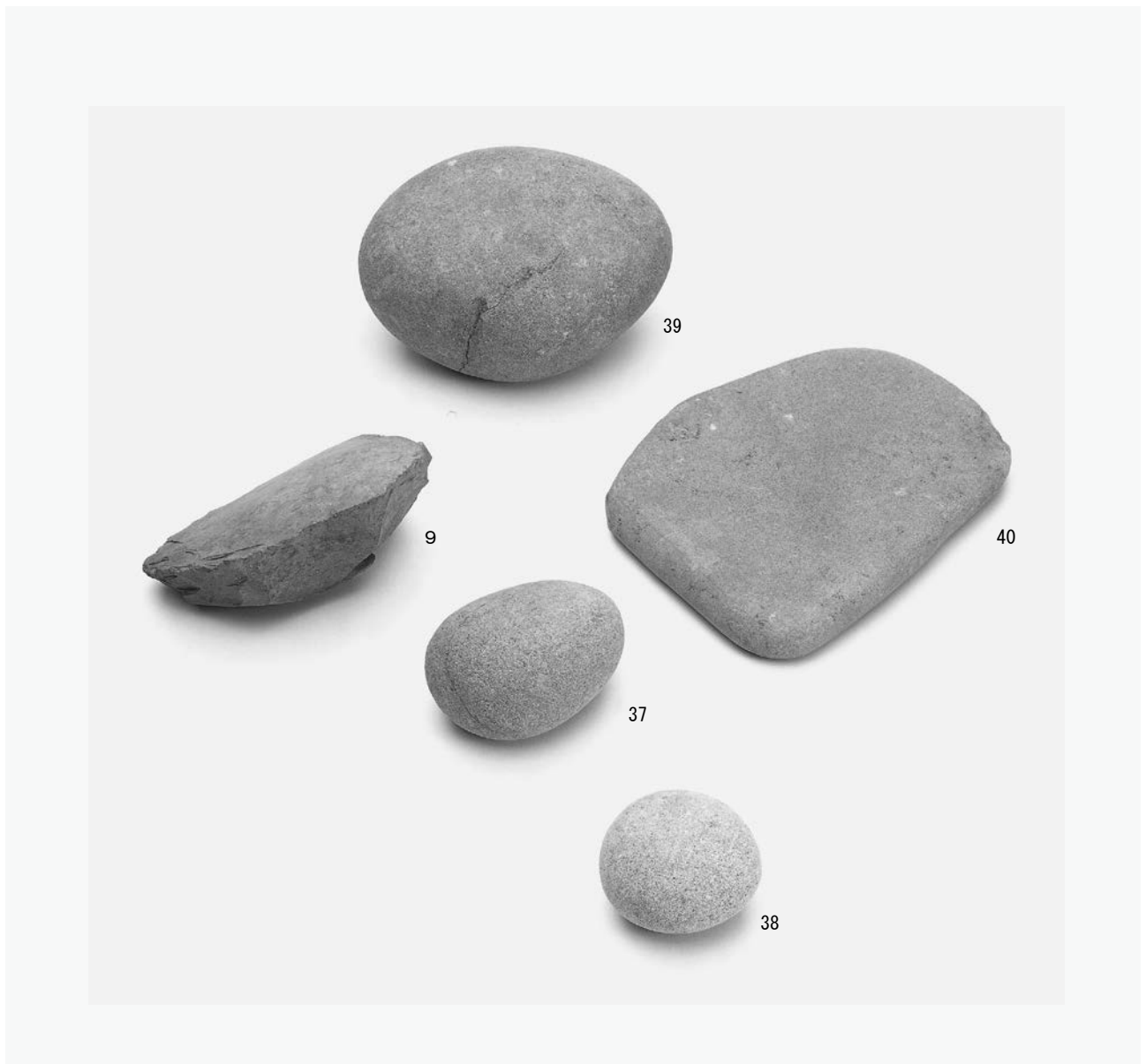
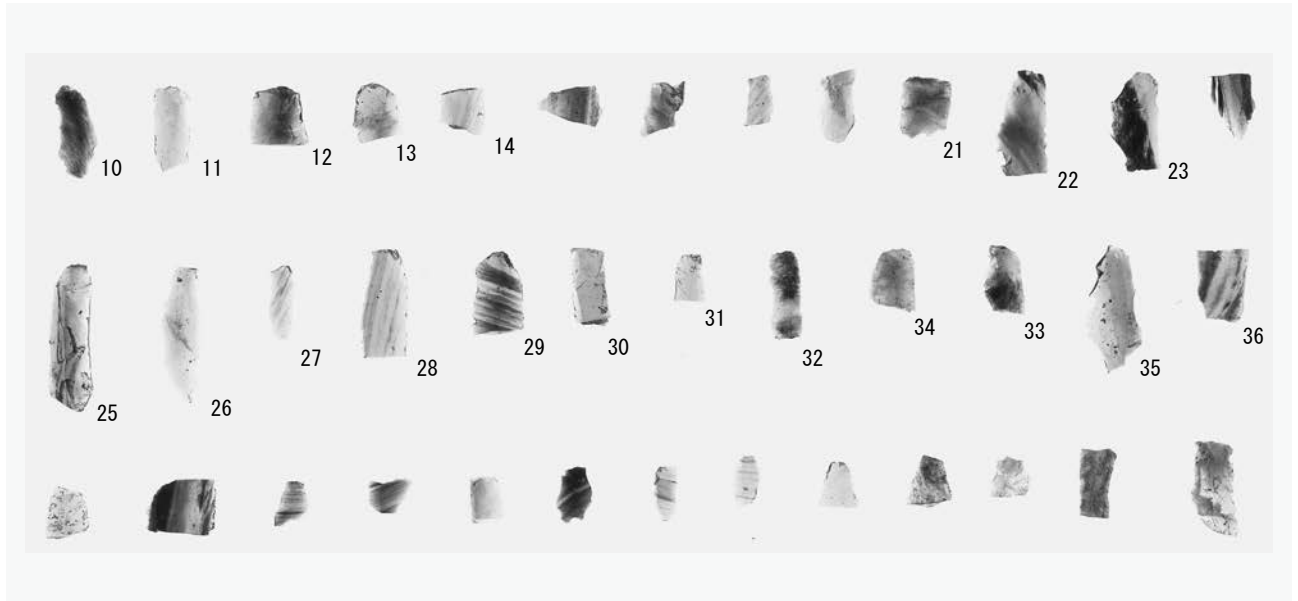


①集石122号検出 ②集石122号半裁 ③磨石集積1号検出 ④磨石集積2号検出 ⑤配石1号検出 ⑥配石3号検出 ⑦落とし穴5号検出 ⑧落とし穴5号裁ち割り

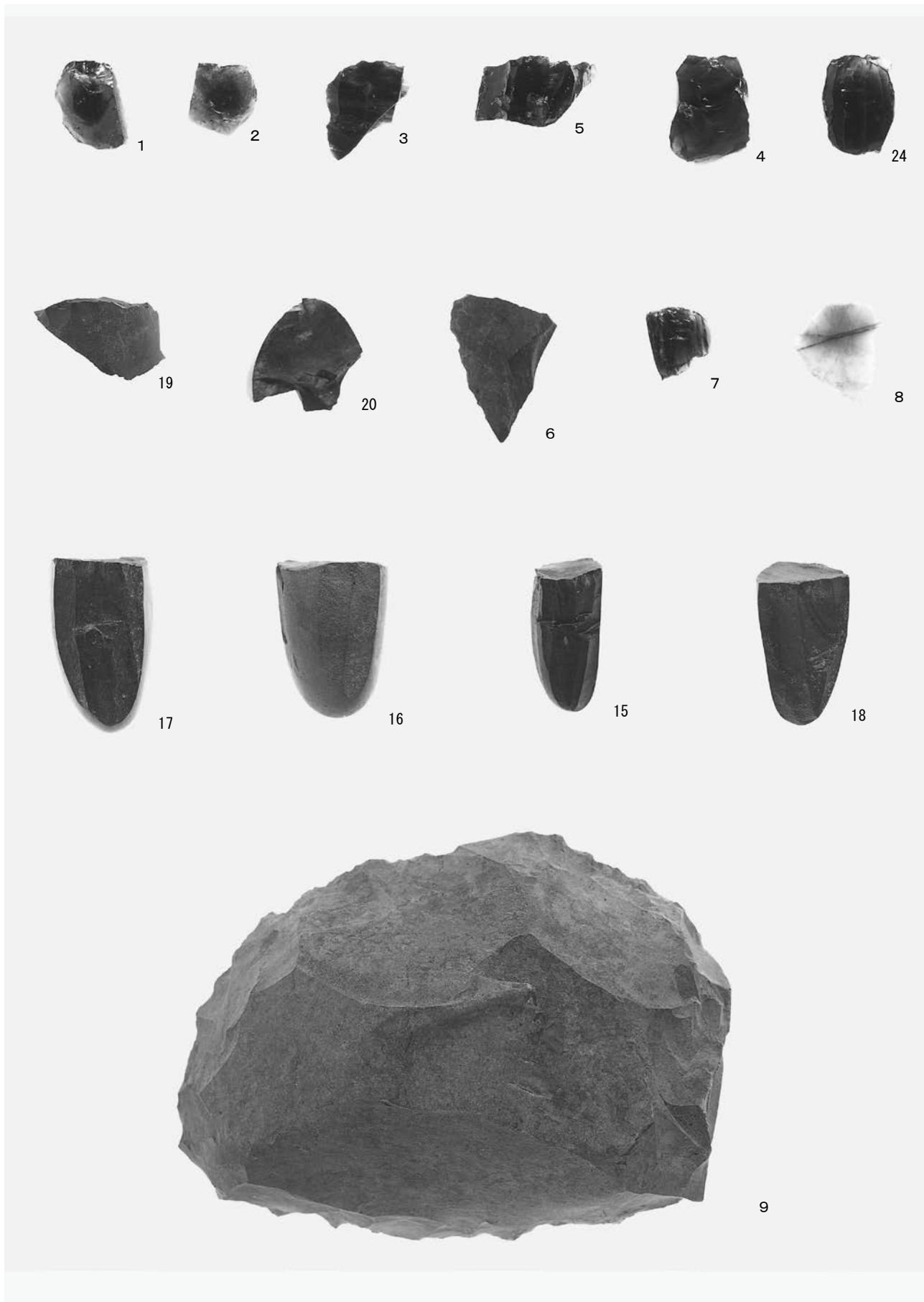
図版14



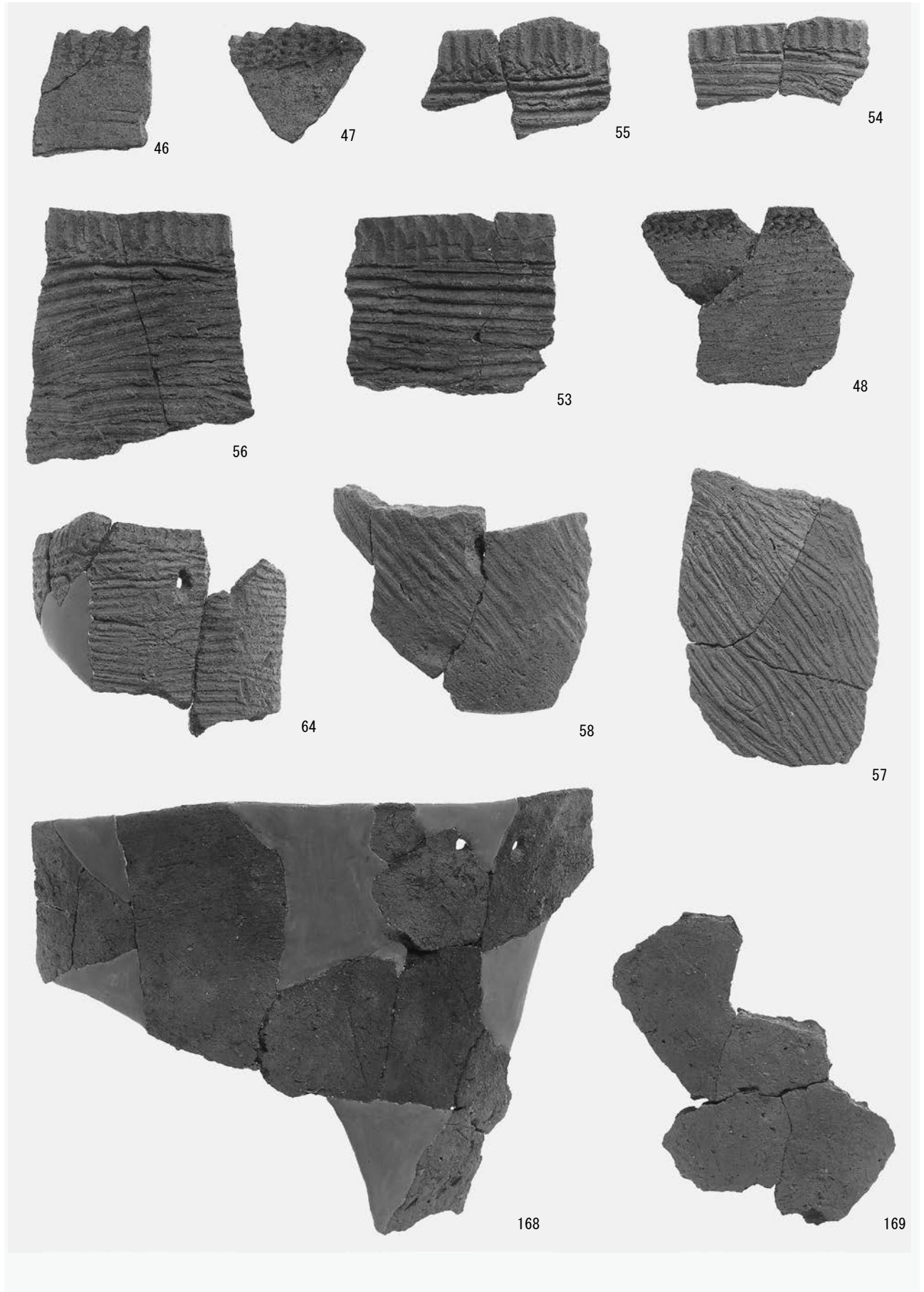
①落とし穴6号半裁 ②落とし穴6号埋土 ③落とし穴6号裁ち割り ④落とし穴6号逆茂木痕検出 ⑤落とし穴7号検出 ⑥落とし穴7号半裁 ⑦落とし穴7号裁ち割り ⑧落とし穴7号逆茂木痕検出



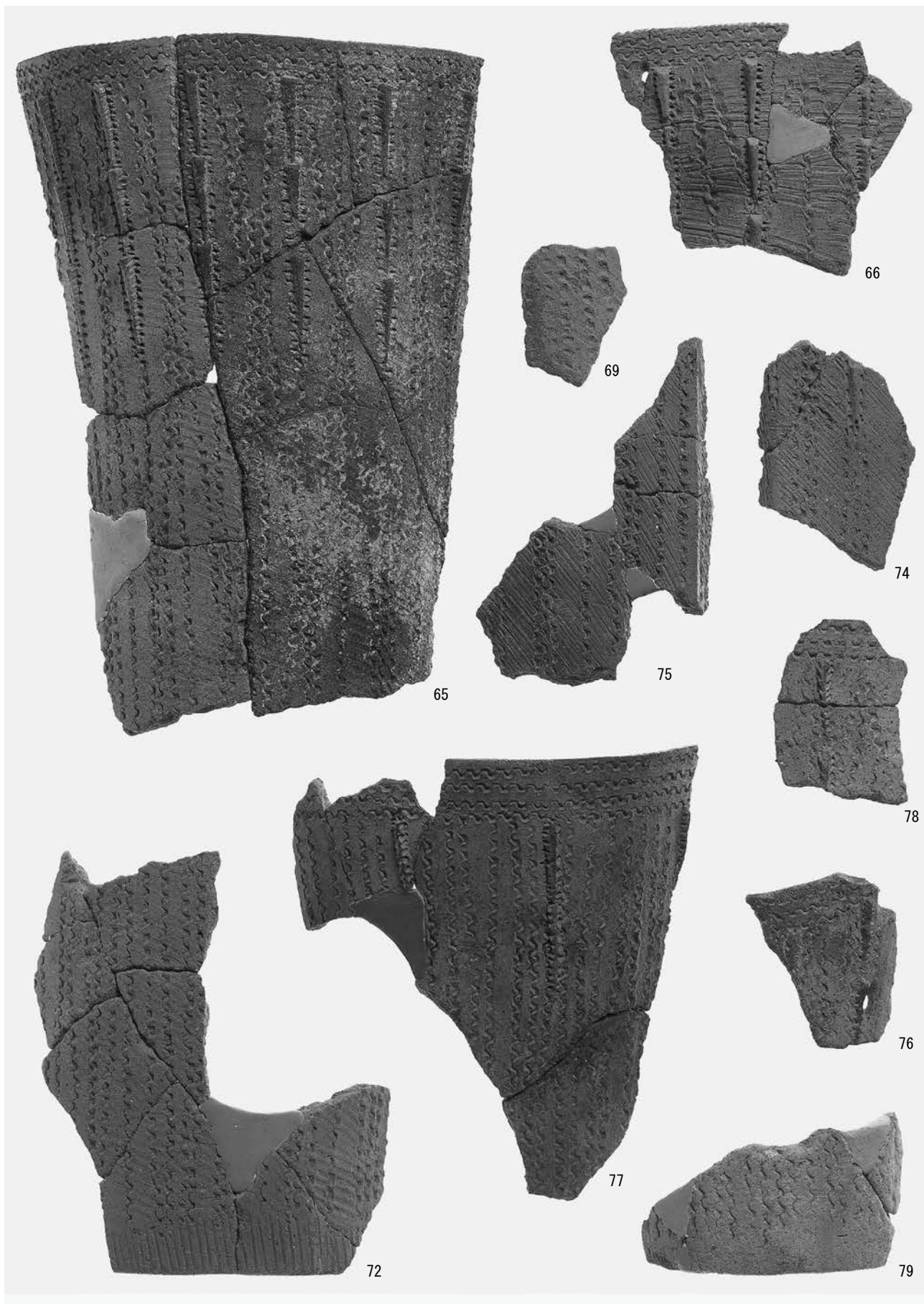
旧石器時代遺物（1）



旧石器时代遗物（2）



1類・2類・12類土器



4類・5類土器



81



84



89



90

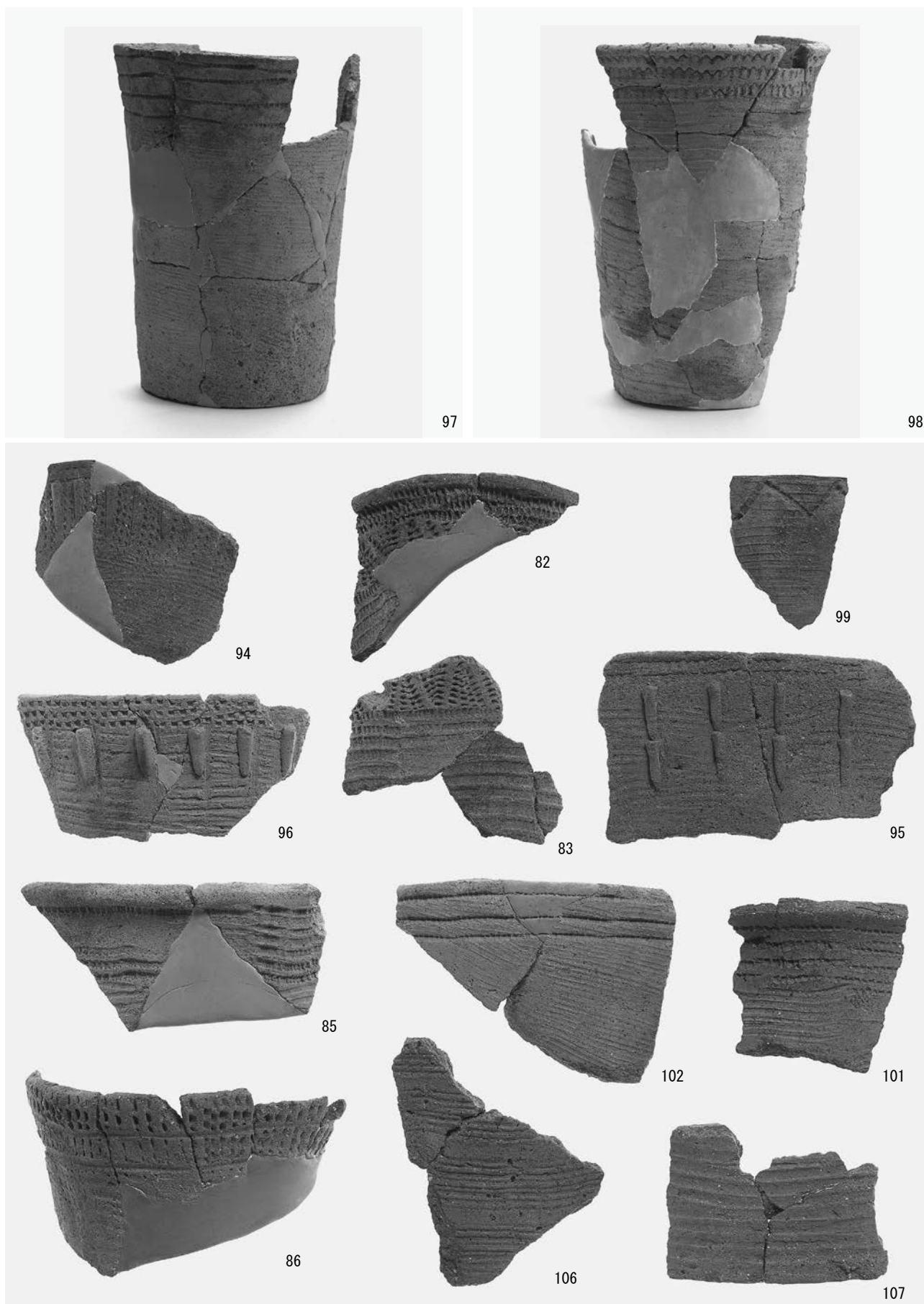


92



93

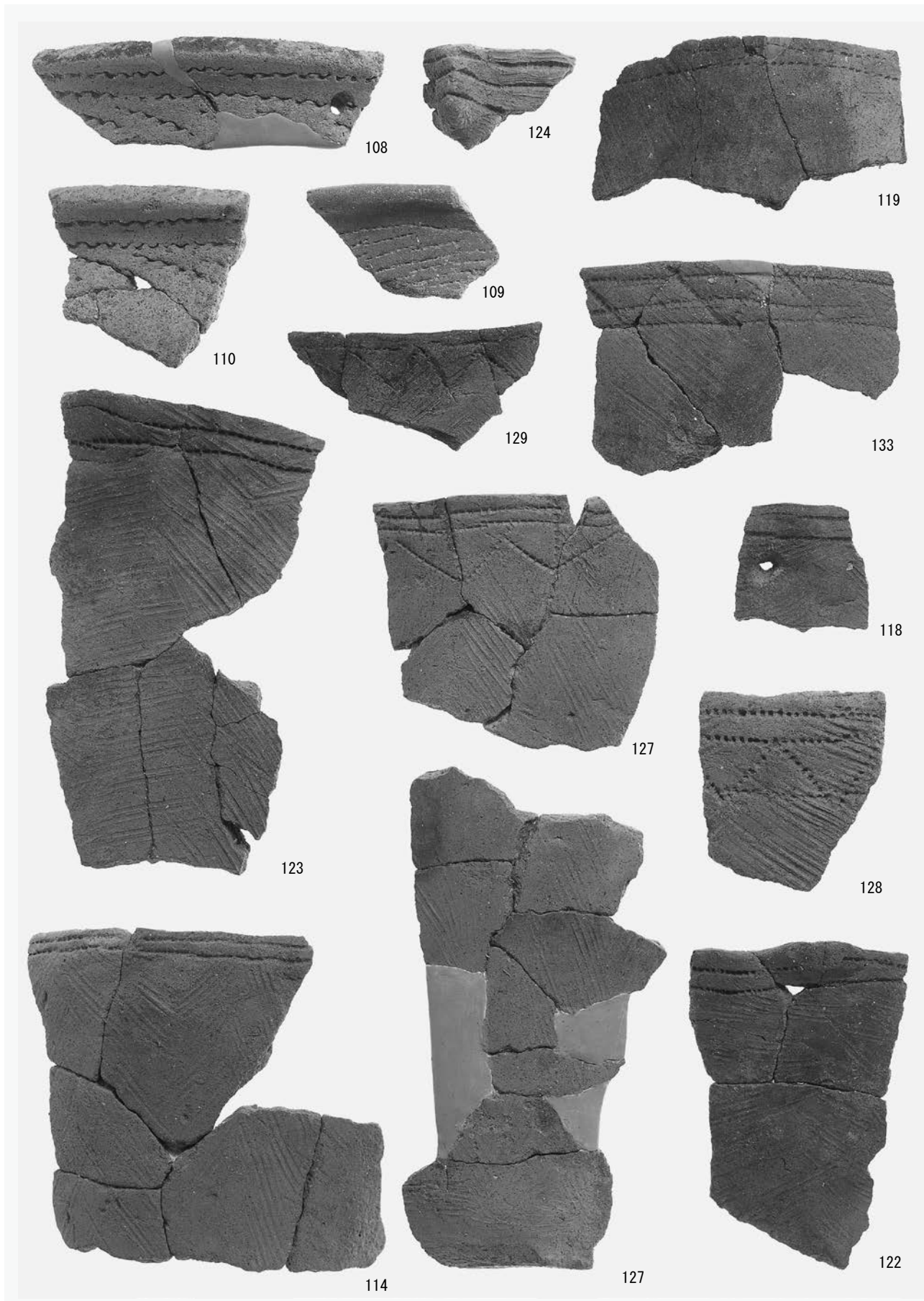
6類・7類土器



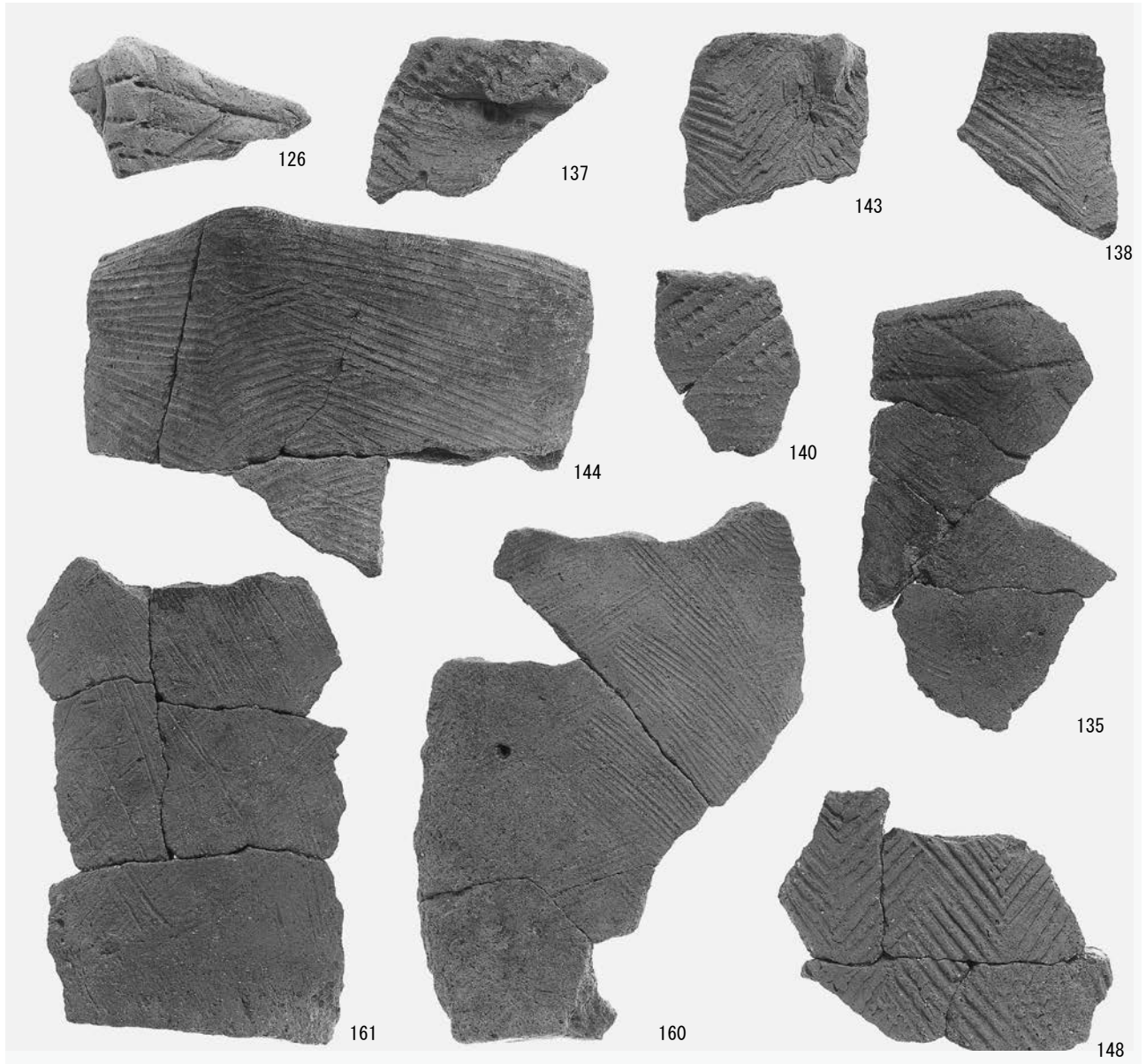
9類土器



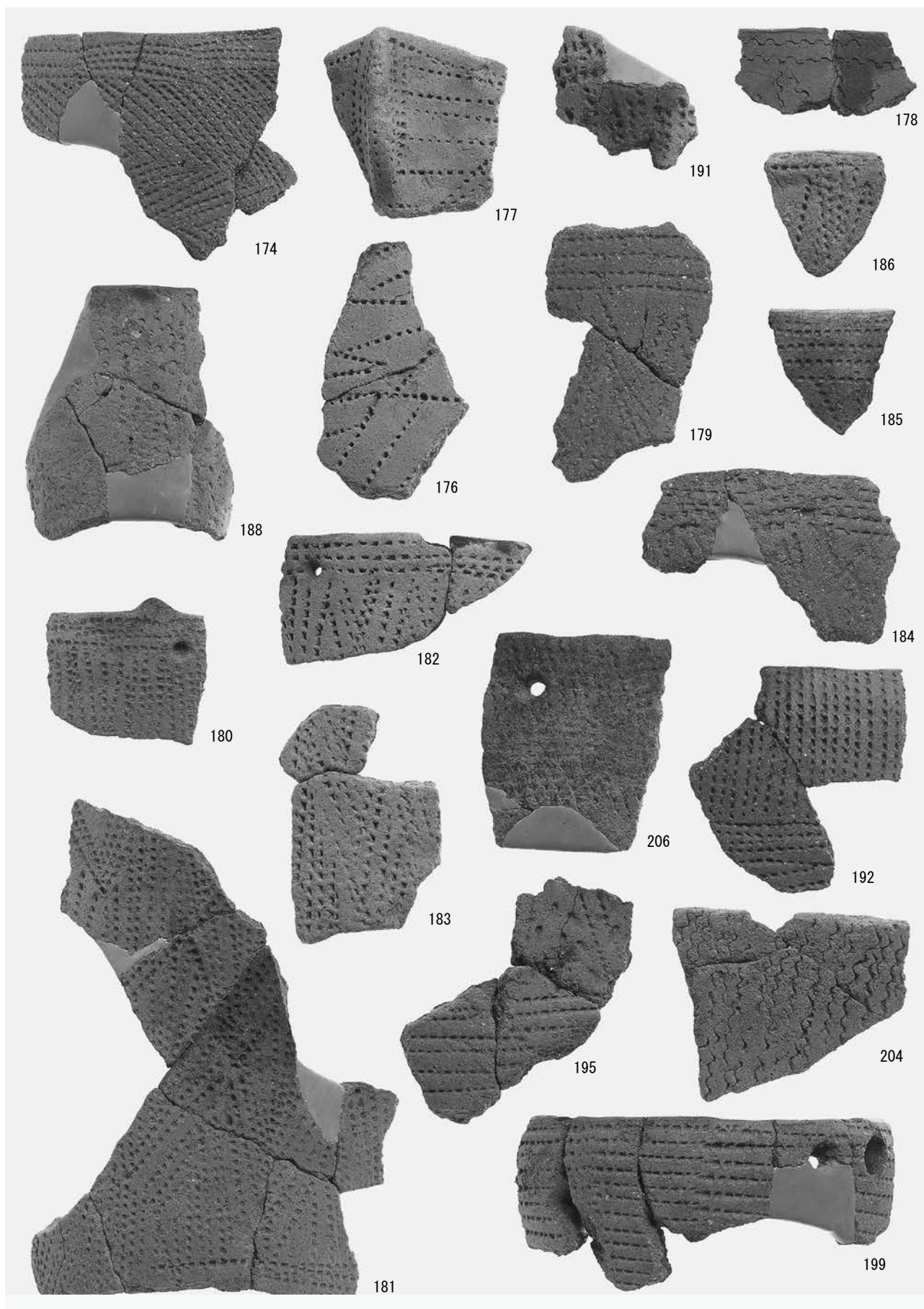
10類・13類土器



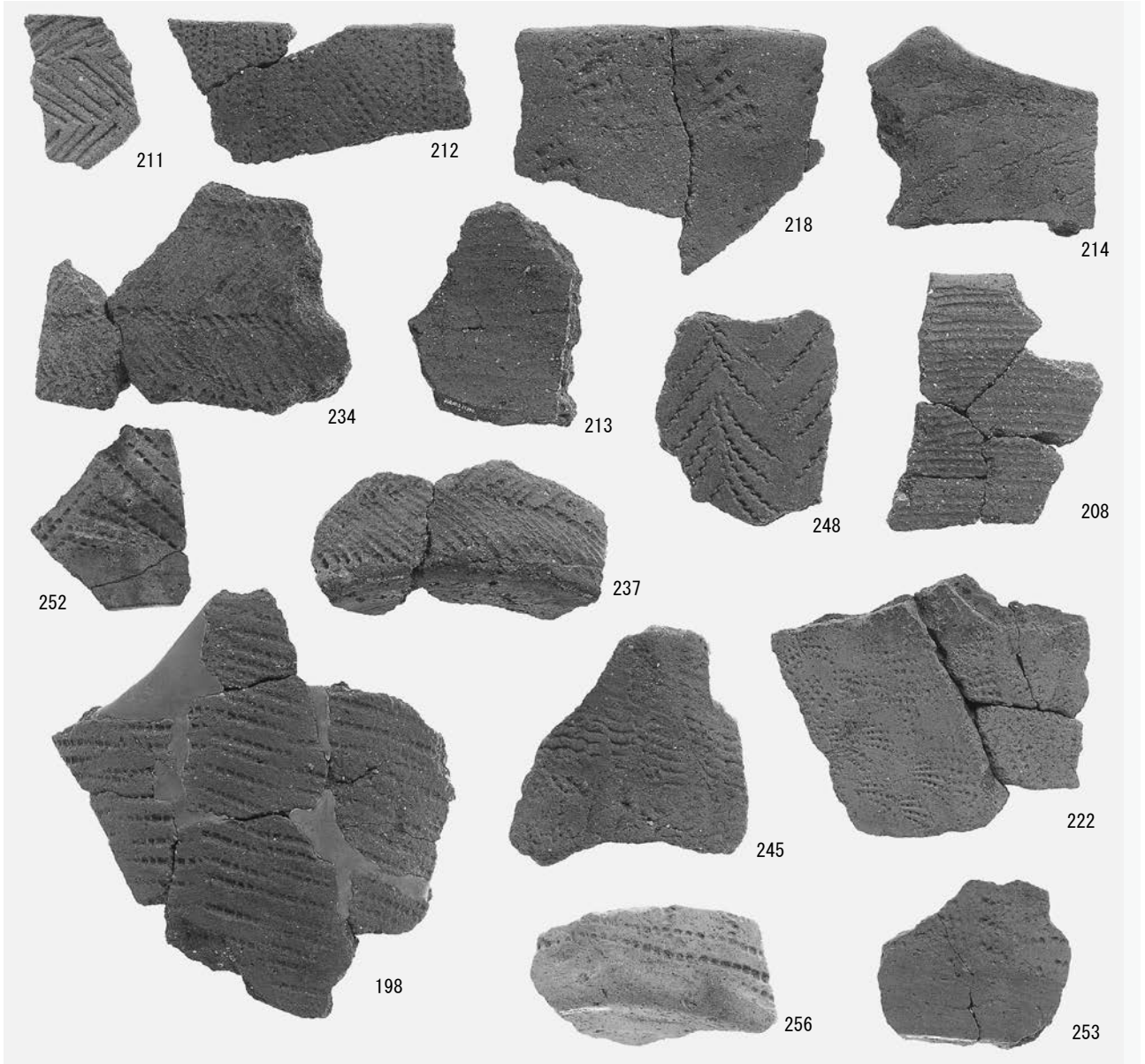
10類土器



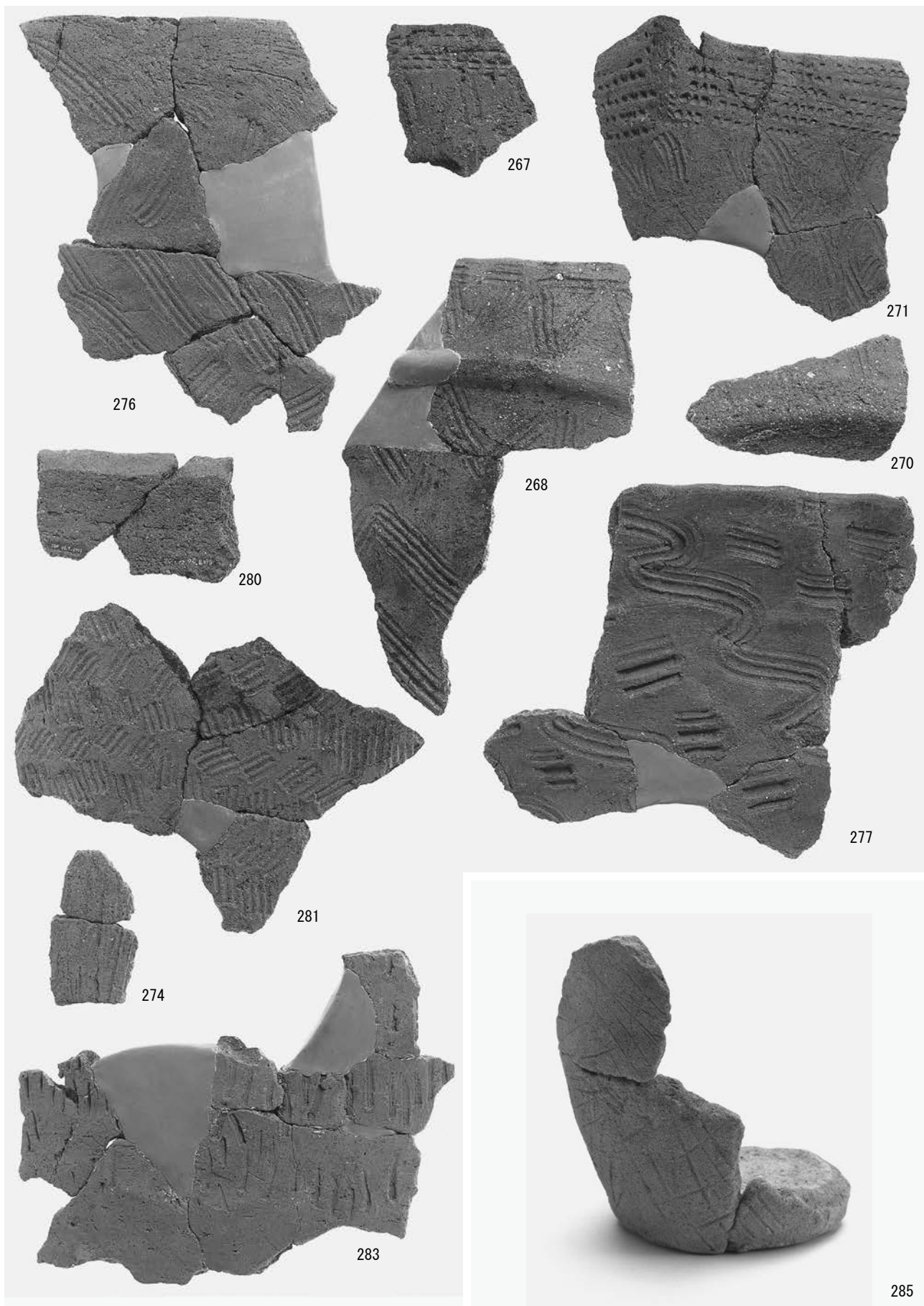
10類・14類土器



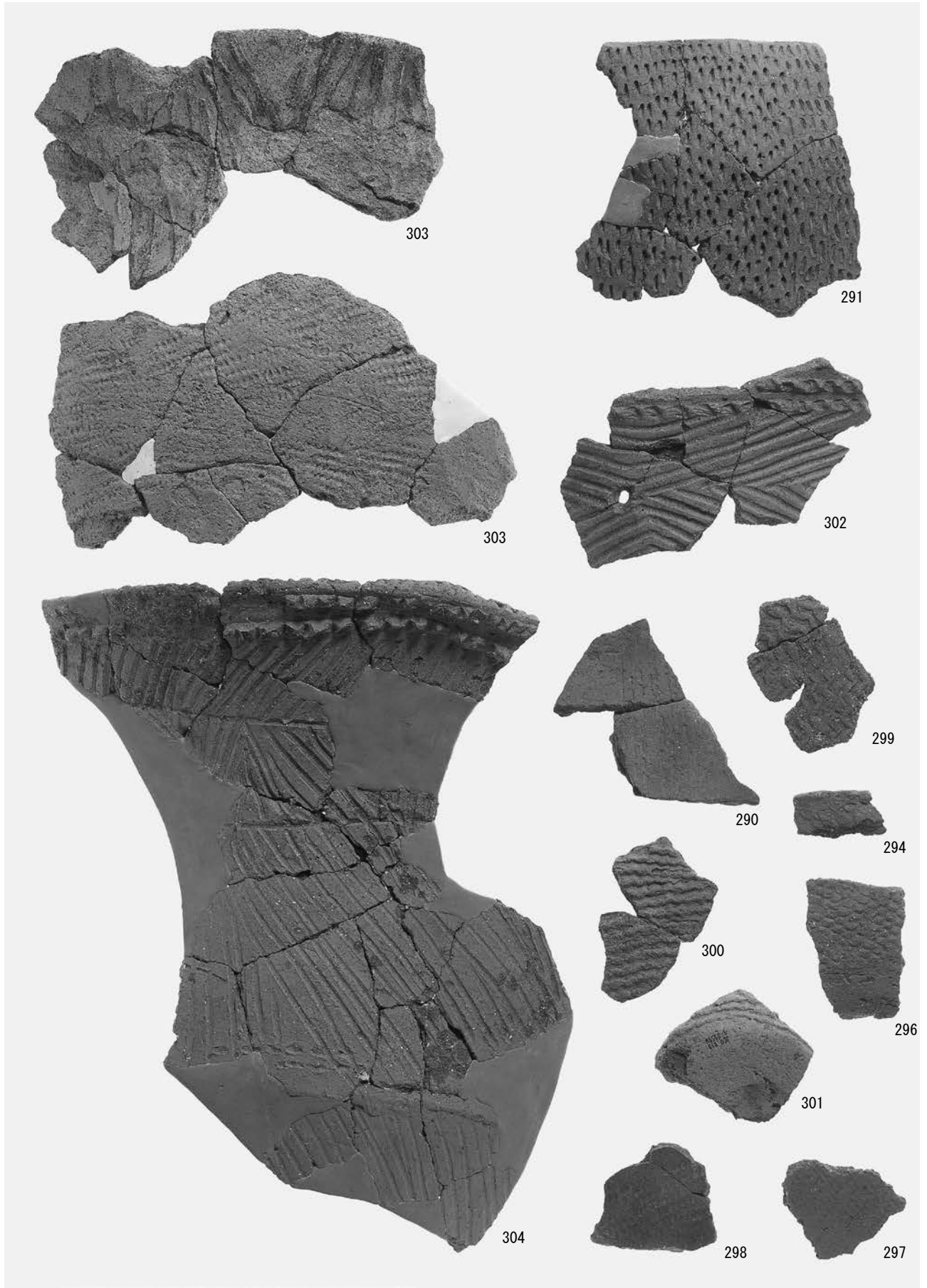
14類土器(2)



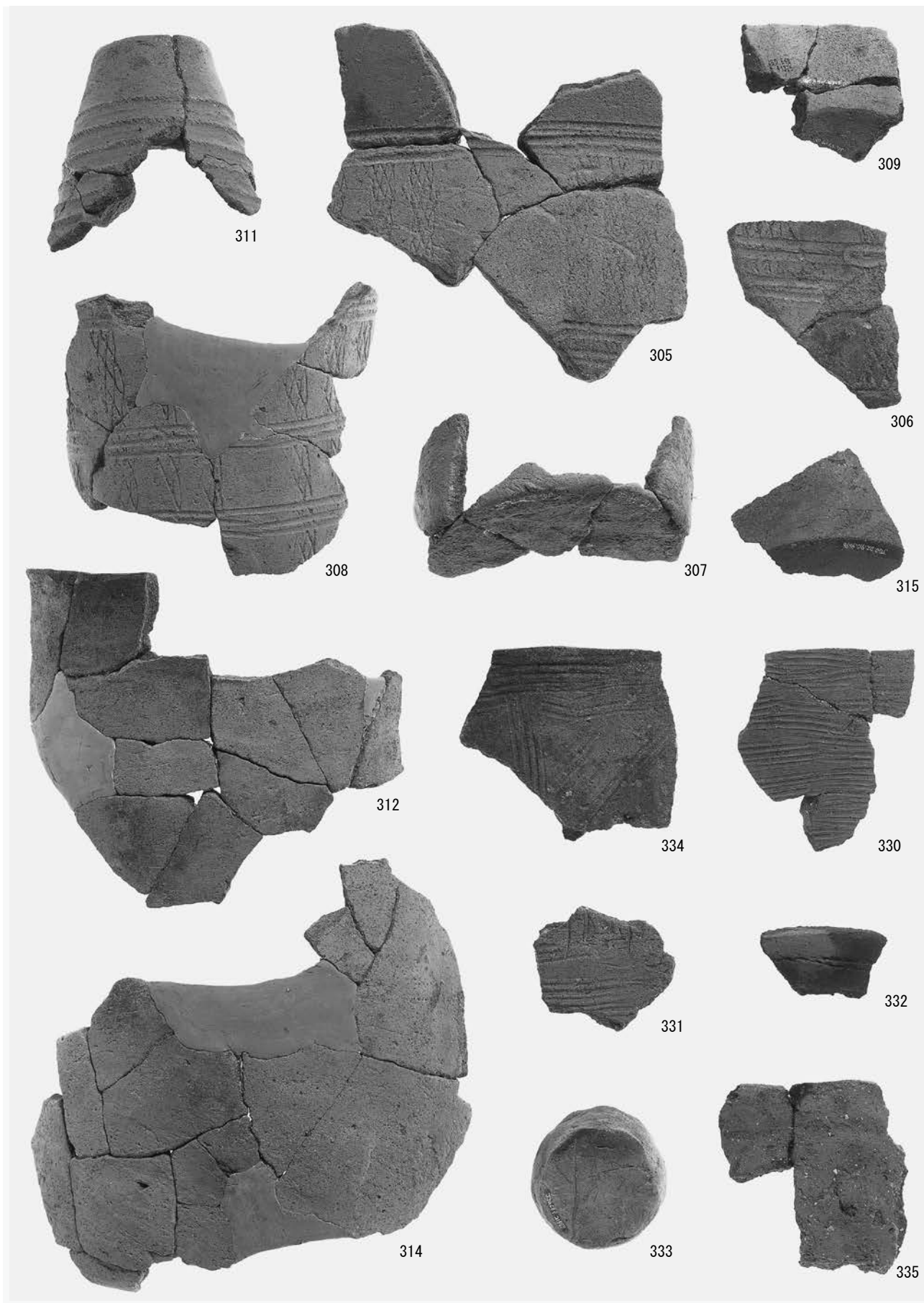
14類土器 (3)



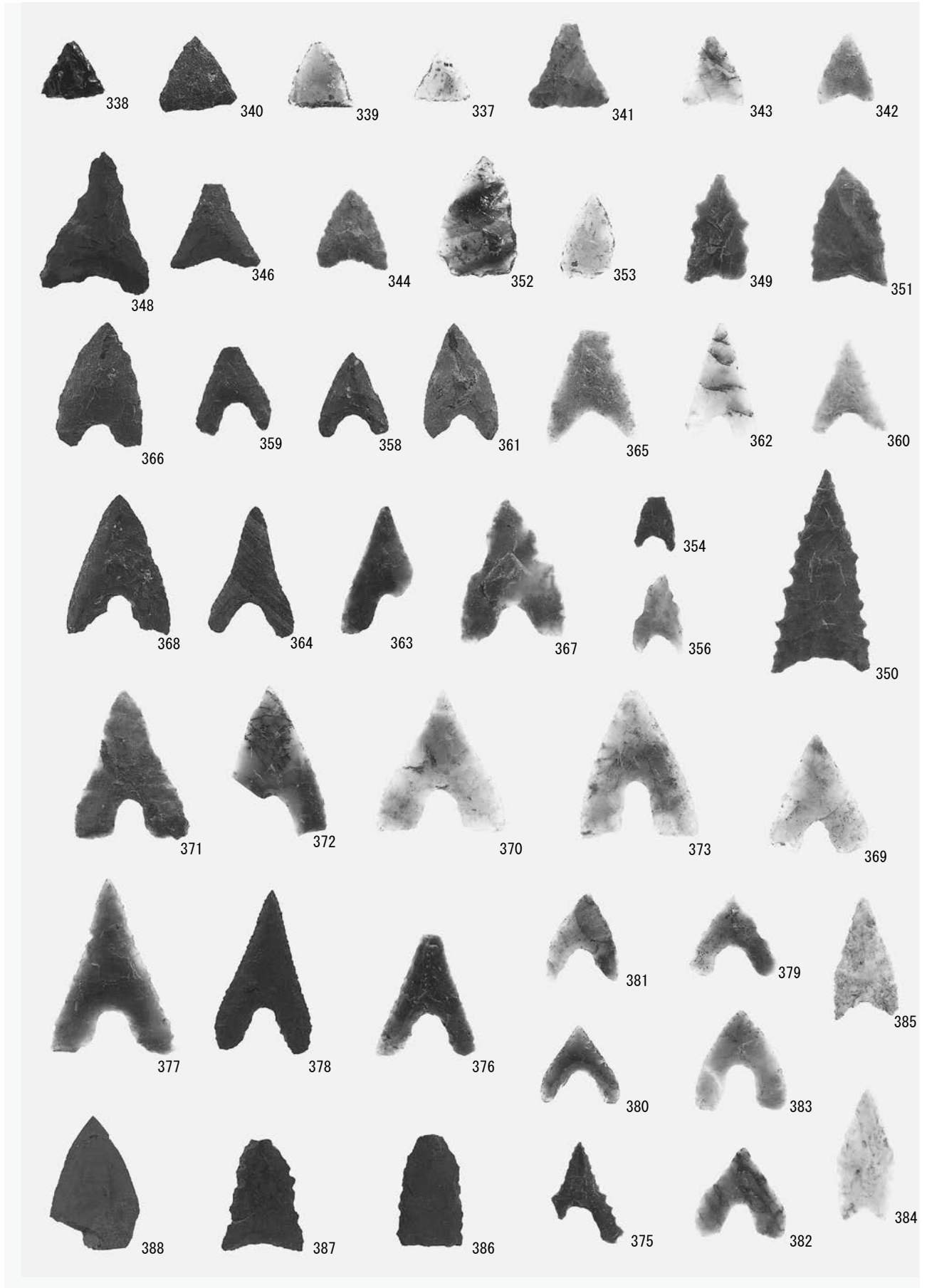
15類土器



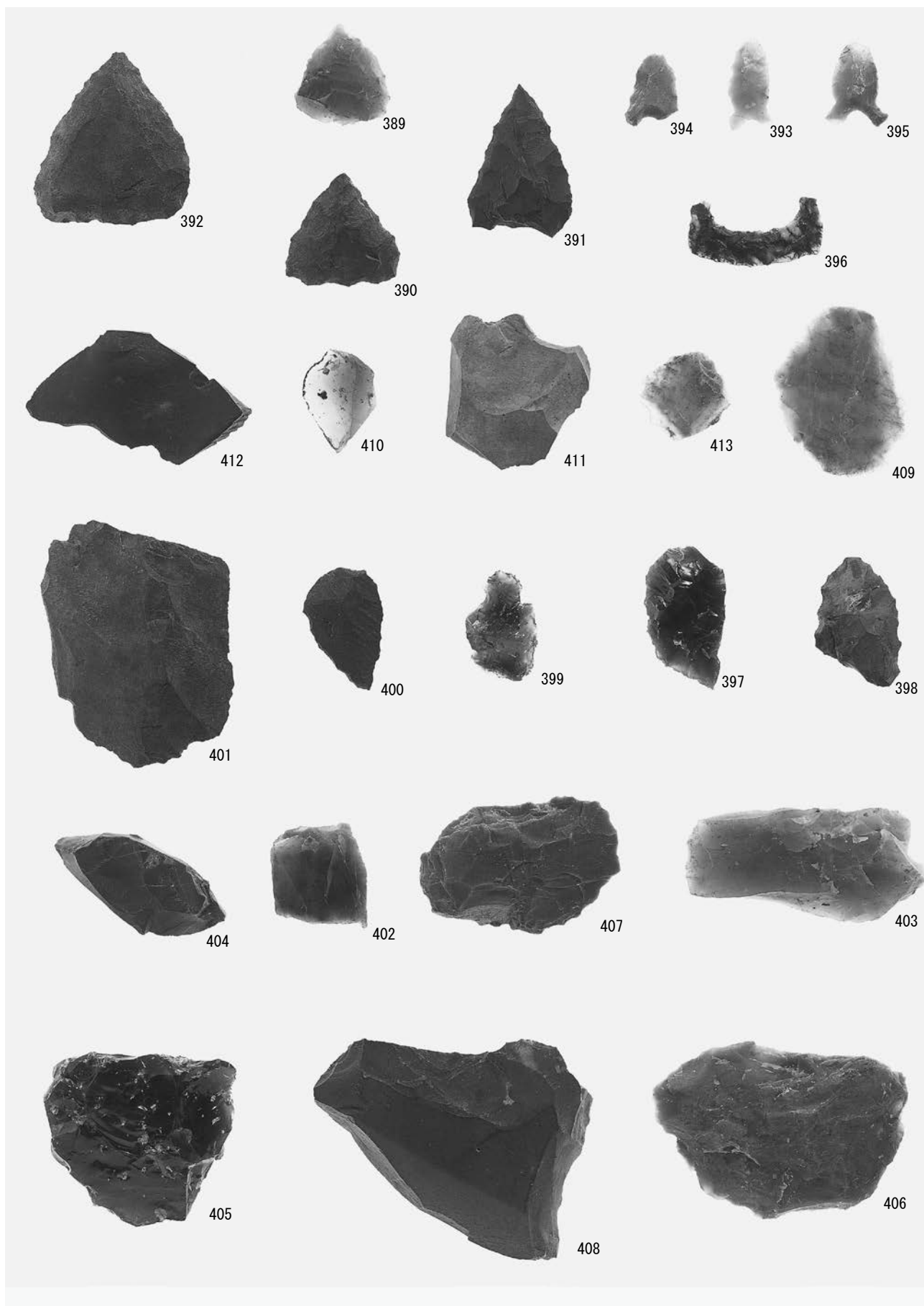
16類・17類・18類土器



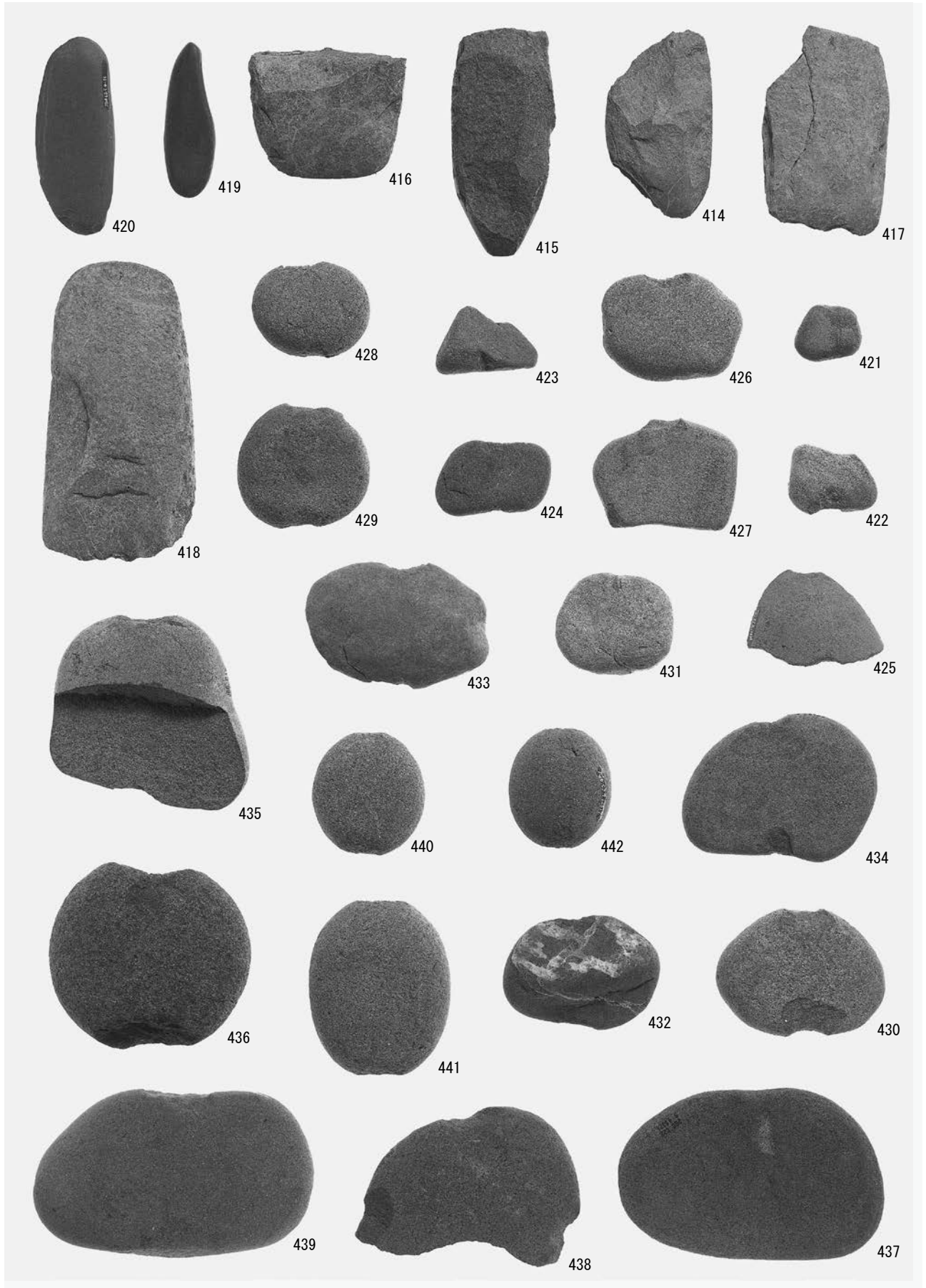
19類・20類・22類土器



縄文早期石器 (1)



縄文早期石器（2）



縄文早期石器 (3)



縄文早期石器 (4)

報告書抄録

ふりがな	じごいせき							
書名	次五遺跡							
副書名	東九州自動車道建設（志布志IC～鹿屋申良JCT間）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	志布志市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	13							
編著者名	相美 伊久雄							
編集機関	志布志市教育委員会							
所在地	〒899 - 7192 鹿児島県志布志市志布志町志布志二丁目1番1号 Tel.099-472-1111							
発行年月日	2018年3月23日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査 面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
じごいせき 次五遺跡	かごしまけん 鹿児島県 しぶしし 志布志市 ありあけちよう 有明町 のいくら 野井倉 じご 字次五	46221	221-385	31° 28' 11"	131° 03' 54"	試掘調査 20121024 本調査 ①20140507 ～20141224 ②20150507 ～20160210	10,400	東九州自動車 道建設に伴う 記録保存調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
次五遺跡	散布地	旧石器時代 縄文時代 (早期) 縄文時代 (前期以降)	ブロック2基 落とし穴4基 連穴土坑3基 土坑74基 集石遺構128基 磨石集積遺構2基 配石遺構3基 石器製作跡8基 落とし穴3基	細石刃核(畦原型ほか)、細石 刃、打面再生剥片、楔形石 器、石核、剥片 岩本式、前平式、志風頭式、 東九州系無文土器、加栗山 式、小牧3Aタイプ、吉田 式、岩之上タイプ、札ノ元Ⅶ 類、倉園B式、石坂Ⅰ・Ⅱ 式、中原Ⅳ式、下剥峰式、桑 ノ丸式、辻タイプ、押型文土 器、手向山式、塞ノ神A式 石鏃、スクレイパー、石核、 剥片、磨製石斧、石錘、磨 石・敲石類、石皿、トロトロ 石器、異形石器			縄文時代早期の集石遺構 に伴う被熱破砕礫が多数 出土した。	
要約	<p>本遺跡は主に旧石器時代と縄文時代の複合遺跡である。旧石器時代においては、細石刃文化期の遺物が出土した。黒曜石（三船産）を素材とする細石刃核と珪質頁岩を素材とする細石刃核が別々のブロックで見つかっている。珪質頁岩を素材とする細石刃核は、宮崎平野部を中心に分布する畦原型細石刃核である。石器製作技術をめぐる地域間関係を考える上で、新たな資料が追加された。</p> <p>縄文時代においては、早期前～中葉を中心とする土器や石器が出土した。連穴土坑3基や集石遺構128基、土坑74基も検出された。また、集石遺構に伴う被熱破砕礫が多数出土した。これらのことから、本遺跡が当時の人々の生活領域として継続的に利用されていたことがうかがえる。</p> <p>早期の落とし穴が4基、前期以降の落とし穴が3基検出されたことから、早期の一時期そして前期以降の一時期に本遺跡が狩猟の場としても利用されていたこともわかった。</p>							

志布志市埋蔵文化財発掘調査報告書 (13)
東九州自動車道建設 (志布志 I C～鹿屋串良 J C T間) に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

次 五 遺 跡

発行年月 2018年3月
編集・発行 鹿児島県志布志市教育委員会
〒899-7192 鹿児島県志布志市志布志町志布志二丁目1番1号
TEL 099-472-1111 FAX 099-473-1880
印刷所 有限会社 志布志新生社印刷
〒899-7103 鹿児島県志布志市志布志町志布志 3223-7
TEL 099-472-2422 FAX 099-473-3250